



HP POS (Point of Sale)  
周辺機器設定ガイド

文書バージョン3.93  
2019年4月

© Copyright 2019 HP Development Company, L.P.本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows Vista、WEPOS、POSReady、およびWindows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

# 目次

1	はじめに.....	11
2	一般情報.....	11
2.1.1	HP POS周辺機器用の最新ソフトウェアの入手先.....	11
2.1.2	OPOSおよびCCOドライバー/アプリケーション.....	11
3	コネクタ情報.....	11
4	HP POS周辺機器の初期設定のOPOS論理名.....	12
5	[HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティ.....	14
5.1	メインGUI.....	14
5.2	OPOS論理デバイス名の確認.....	18
5.2.1	手順概要.....	18
5.2.2	詳しい手順.....	18
5.3	OPOS論理デバイス名の変更.....	21
5.3.1	手順概要.....	21
5.3.2	詳しい手順.....	21
5.4	HP製デバイスの工場出荷時OPOS論理名への設定.....	25
5.4.1	手順概要.....	25
5.4.2	詳しい手順.....	25
5.4.3	初期設定のINIファイル.....	32
5.4.4	初期設定のドロップダウンへのHP製以外の周辺機器の追加.....	32
6	周辺機器の接続およびソフトウェアのインストール.....	35
6.1	HPキャッシュドロアーおよびフリップトップ式キャッシュドロアー.....	35
6.1.1	キーロックの位置.....	36
6.1.2	接続.....	37
6.1.3	キャッシュドロアー用のWindowsドライバー.....	39
6.1.4	キャッシュドロアーの10進数コマンド.....	39
6.1.5	デュアルキャッシュドロアー接続.....	40
6.1.6	キャッシュドロアー用のOPOSドライバー.....	41
6.1.7	キャッシュドロアー用のOPOSテストアプレット.....	41
6.1.7.1	キャッシュドロアーおよびプリンターのユーティリティ.....	41
6.1.8	キャッシュドロアー用のJPOSドライバー.....	44
6.2	HPキャッシュドロアーポート.....	47
6.2.1	接続.....	47
6.2.2	ピン出力.....	47
6.2.3	デュアルキャッシュドロアー.....	48
6.2.4	Windowsドライバー.....	49
6.2.5	OPOS.....	49
6.2.6	JPOS.....	49
6.2.7	キャッシュドロアーのテスト.....	49
6.2.7.1	OPOSでのテスト.....	49
6.2.7.2	JPOSでのテスト.....	53
6.3	HP内蔵キャッシュドロアーポート.....	55
6.3.1	接続.....	55
6.3.2	ピン出力.....	56

6.3.3	デュアルキャッシュドロアー.....	57
6.3.4	内蔵キャッシュドロアーポート用のドライバーおよびユーティリティ.....	58
6.3.5	内蔵キャッシュドロアーポート用のOPOSドライバー.....	58
6.3.5.1	[HP Integrated OPOS Cash Drawer Utility] (HP内蔵OPOSキャッシュドロアーユーティリティ).....	58
6.3.5.2	OPOSキャッシュドロアーおよびプリンターのユーティリティ.....	61
6.3.6	内蔵キャッシュドロアーポート用のJPOSドライバー.....	65
6.3.6.1	内蔵キャッシュドロアーポート用のJPOSテストアプレット.....	65
<b>6.4</b>	<b>HP USBキャッシュドロアー.....</b>	<b>68</b>
6.4.1	接続.....	68
6.4.2	HP USBキャッシュドロアー用のドライバーおよびユーティリティ.....	68
6.4.3	USBキャッシュドロアー用のWindowsテストユーティリティ.....	68
6.4.4	HP USBキャッシュドロアー用のOPOSドライバー.....	71
6.4.4.1	OPOSキャッシュドロアーおよびプリンターのユーティリティ.....	71
6.4.4.2	デュアルキャッシュドロアー接続.....	74
6.4.5	HP USBキャッシュドロアー用のJPOSドライバー.....	77
6.4.5.1	USBキャッシュドロアーポート用のJPOSテストアプレット.....	77
<b>6.5</b>	<b>HPレシートプリンターCシリーズ.....</b>	<b>83</b>
6.5.1	接続.....	83
6.5.2	電源供給機能付きUSBケーブル.....	86
6.5.3	ネイティブモード.....	88
6.5.4	プリンタークラスモード.....	90
6.5.5	通信クラスモード.....	91
6.5.6	[USB Mode Selector] (USBモードセレクター) ユーティリティ.....	93
6.5.6.1	プリンターをネイティブモードに設定.....	94
6.5.6.2	プリンターをプリンタークラスモードに設定 (初期設定).....	95
6.5.6.3	プリンターを通信クラスモードに設定 (仮想シリアルポート).....	96
6.5.7	シリアルプリンター.....	97
6.5.8	レシートプリンター用のWindowsドライバー.....	98
6.5.8.1	バージョン1.0.5用のWindowsプリンタードライバー (USB) (POSReady 2009向け).....	98
6.5.8.2	バージョン1.0.5用のWindowsプリンタードライバー (シリアル) (POSReady 2009向け).....	102
6.5.8.3	バージョン1.0.5用のWindowsプリンタードライバー (Ethernet) (POSReady 2009向け).....	107
6.5.8.4	バージョン1.0.0 ~ 1.0.3用のWindowsプリンタードライバー (USB).....	118
6.5.8.5	バージョン1.0.0 ~ 1.0.3用のWindowsプリンタードライバー (シリアル).....	123
6.5.8.6	Windows環境でのレシートプリンターのテスト (非OPOS).....	128
6.5.8.7	バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンタードライバー (USB) (Windows 7/8.1/10向け).....	131
6.5.8.8	バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンタードライバー (シリアル) (Windows 7/8.1/10向け).....	136
6.5.8.9	バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンタードライバー (Ethernet) (Windows 7/8.1/10向け).....	141
6.5.8.10	バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンタードライバーのオプション (Windows 7/8.1/10向け).....	150
6.5.9	ナイフカットコマンド.....	153
6.5.10	レシートプリンター用のOPOSドライバー.....	154
6.5.10.1	OPOSのインストール: USB.....	154
6.5.10.2	OPOSのインストール: シリアルポート.....	158
6.5.10.3	OPOSのインストール: Ethernet.....	163
6.5.10.4	OPOS: Ethernet IPアドレス (レジストリ).....	166
6.5.10.5	OPOS: Ethernet IPアドレス (GUI).....	169
6.5.10.6	レシートプリンター用のOPOSテストアプレット: レシートプリンターおよび キャッシュドロアーユーティリティ.....	172
6.5.10.7	左回転テスト.....	179
6.5.10.8	ビットマップおよびバーコードテスト.....	188



6.5.10.9	レシートプリンターおよびキャッシュドロアーユーティリティ： キャッシュドロアーのテスト .....	193
6.5.11	MICR用のOPOSテストアプレット .....	197
6.5.12	CheckScan用のOPOSテストアプレット .....	203
6.5.13	レシートプリンターのキャッシュドロアー信号 .....	215
6.5.13.1	キャッシュドロアー信号 .....	215
6.5.13.2	キャッシュドロアー信号の変更 .....	215
6.5.14	レシートプリンター用のJPOSドライバー：シリアルポート設定 .....	216
6.5.15	レシートプリンター用のJPOSドライバー：Ethernet .....	218
6.5.16	レシートプリンター用のJPOSドライバー .....	221
6.5.17	レシートプリンター用のJPOSドライバー：CheckScanner .....	225
6.5.18	レシートプリンター用のJPOSドライバー：MICR .....	232
6.5.19	レシートプリンター用のJPOSドライバー：スリッププリンティング .....	238
6.5.20	レシートプリンター用のJPOSドライバー：バーコードテスト .....	245
6.5.21	キャッシュドロアー用のJPOSドライバー .....	260
6.5.22	HPフォントユーティリティ（アジアフォントのダウンロード）： シングルステーション（A799、4 MB）プリンター .....	263
6.5.22.1	HPフォントユーティリティ（アジアフォントのダウンロードユーティリティ） .....	263
<b>6.6</b>	<b>HP ap5000 MSR（磁気ストライプリーダー） .....</b>	<b>268</b>
6.6.1	接続 .....	268
6.6.2	HP ap5000 MSR用のWindowsドライバー .....	268
6.6.3	HP ap5000 MSR用のOPOSドライバー .....	268
6.6.4	HP ap5000 MSRのテスト .....	268
6.6.4.1	非OPOSモードでのHP ap5000 MSRのテスト .....	268
6.6.4.2	OPOSモードでのHP ap5000 MSRのテスト .....	272
6.6.5	HP ap5000 MSR用のJPOSドライバー .....	275
<b>6.7</b>	<b>HP MSR Iシリーズ .....</b>	<b>280</b>
6.7.1	接続 .....	281
6.7.2	インターフェイス .....	281
6.7.3	設定 .....	281
6.7.4	Windowsドライバー .....	284
6.7.5	MSR用のOPOSドライバー .....	285
6.7.6	MSRのテスト .....	285
6.7.6.1	USB HIDキーボードインターフェイスでのMSRのテスト .....	285
6.7.6.2	USB HIDまたはUSB HIDキーボードインターフェイスでのMSRのテスト（OPOS） .....	285
6.7.7	MSR用JPOSドライバー .....	291
<b>6.8</b>	<b>HPバーコードスキャナー（レーザー1D） .....</b>	<b>297</b>
6.8.1	接続 .....	297
6.8.2	バーコードスキャナー用のWindowsドライバー .....	297
6.8.3	バーコードスキャナー用のOPOSドライバー .....	299
6.8.4	バーコードスキャナーのテスト .....	299
6.8.4.1	非OPOSでのバーコードスキャナーのテスト .....	299
6.8.4.2	OPOSでのバーコードスキャナーのテスト .....	299
6.8.5	バーコードスキャナー用のJPOSドライバー .....	301
<b>6.9</b>	<b>HPバーコードスキャナーHシリーズ .....</b>	<b>306</b>
6.9.1	接続 .....	307
6.9.2	インターフェイス .....	307
6.9.3	設定 .....	307
6.9.4	Windowsドライバー .....	309
6.9.5	OPOS .....	309
6.9.6	JPOS .....	309
6.9.7	バーコードスキャナーのテスト .....	310

6.9.7.1	前提条件.....	310
6.9.7.2	非OPOSまたは非JPOSでのテスト.....	311
6.9.7.3	OPOSでのテスト.....	311
6.9.7.4	JPOSでのテスト.....	317
<b>6.10</b>	<b>HPバーコードスキャナーHシリーズ.....</b>	<b>323</b>
6.10.1	接続.....	324
6.10.2	Windowsドライバー.....	324
6.10.3	OPOS.....	332
6.10.4	JPOS.....	332
6.10.5	バーコードスキャナーのテスト.....	332
6.10.5.1	非OPOSまたは非JPOSでのテスト.....	332
6.10.5.2	OPOSでのテスト.....	332
6.10.5.3	JPOSでのテスト.....	339
6.10.6	イメージキャプチャのテスト.....	344
<b>6.11</b>	<b>HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナー.....</b>	<b>348</b>
6.11.1	接続.....	348
6.11.2	動作モード.....	348
6.11.3	ドライバー.....	349
6.11.4	スキャナーのテスト.....	350
6.11.4.1	HID-POSモードでのスキャナーのテスト.....	351
6.11.4.2	USB HIDキーボードモードでのスキャナーのテスト.....	351
6.11.4.3	OPOSによるUSB COMモードでのスキャナーのテスト.....	351
6.11.4.4	JPOSによるUSB COMモードでのスキャナーのテスト.....	357
<b>6.12</b>	<b>HP POSキーボード.....</b>	<b>361</b>
6.12.1	接続.....	361
6.12.2	Windowsドライバー.....	361
6.12.3	OPOS.....	364
6.12.4	JPOS.....	364
6.12.5	POSキーボードのテスト.....	364
<b>6.13</b>	<b>磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボード.....</b>	<b>365</b>
6.13.1	接続.....	365
6.13.2	Windowsドライバー.....	365
6.13.3	MSR用のOPOS/JPOSの有効化.....	370
6.13.4	OPOS.....	375
6.13.4.1	キーボード.....	375
6.13.4.2	MSR 375.....	
6.13.5	JPOS.....	375
6.13.5.1	キーボード.....	375
6.13.5.2	MSR 375.....	
6.13.6	磁気ストライプリーダー付きPOSキーボードのテスト.....	375
6.13.6.1	キーボード.....	375
6.13.6.2	MSR OPOS.....	375
6.13.6.3	MSR JPOS.....	381
<b>6.14</b>	<b>HP ap5000 VFD（真空蛍光ディスプレイ）.....</b>	<b>383</b>
6.14.1	接続.....	383
6.14.2	HP ap5000 VFD用のWindowsドライバー.....	383
6.14.3	HP ap5000 VFD用のOPOSドライバー.....	383
6.14.4	HP ap5000 VFDのテスト.....	383
6.14.4.1	非OPOSモードでのHP ap5000 VFDのテスト.....	383
6.14.4.2	OPOSモードでのHP ap5000 VFDのテスト.....	386
6.14.5	HP ap5000 VFD用のJPOSドライバー.....	396

6.14.6	電源投入時メッセージを変更するユーティリティ.....	401
6.14.6.1	初期設定の電源投入時メッセージを変更するユーティリティ.....	401
6.14.6.2	初期設定のVFD電源投入時メッセージの有効化.....	403
6.14.7	HP ap5000 VFDのBIOS電源設定.....	405
6.14.7.1	[HP Computer Setup]による方法.....	405
6.14.7.2	Windowsグラフィカルユーティリティによる方法.....	405
<b>6.15</b>	<b>HPラインディスプレイシリーズ.....</b>	<b>408</b>
6.15.1	接続.....	408
6.15.2	Windowsドライバー.....	408
6.15.3	設定ユーティリティ.....	409
6.15.3.1	初期設定の電源投入時メッセージの変更.....	409
6.15.4	OPOS.....	412
6.15.5	JPOS.....	412
6.15.6	ラインディスプレイのテスト.....	412
6.15.6.1	非OPOSまたは非JPOSでのテスト.....	412
6.15.6.1.1	HP ポールディスプレイテスト.....	412
6.15.6.1.2	HP VFD ユーティリティ.....	414
6.15.6.2	OPOSでのテスト.....	421
6.15.6.3	JPOSでのテスト.....	426
<b>6.16</b>	<b>HP指紋リーダー.....</b>	<b>431</b>
6.16.1	接続.....	431
6.16.2	Windowsドライバー.....	431
6.16.3	OPOSドライバー/JPOSドライバー/SDKキット.....	431
<b>7</b>	<b>HPタッチスクリーン.....</b>	<b>432</b>
<b>7.1</b>	<b>HP L5006tm.....</b>	<b>432</b>
7.1.1	接続.....	432
7.1.2	Windowsドライバー.....	432
7.1.3	タッチスクリーンの補正.....	442
7.1.4	タッチスクリーン用のOPOSドライバー.....	445
7.1.5	タッチスクリーンのテスト.....	445
7.1.6	タッチスクリーン用のJPOSドライバー.....	445
<b>7.2</b>	<b>HP L5009tm/HP L5015tm.....</b>	<b>446</b>
7.2.1	接続.....	446
7.2.2	タッチスクリーン用のWindowsドライバー.....	446
7.2.3	タッチスクリーンの補正.....	452
7.2.4	タッチスクリーン用のOPOSドライバー.....	455
7.2.5	タッチスクリーンのテスト.....	455
7.2.6	タッチスクリーン用のJPOSドライバー.....	455
<b>7.3</b>	<b>HP ap5000タッチスクリーン.....</b>	<b>456</b>
7.3.1	接続.....	456
7.3.2	タッチスクリーン用のWindowsドライバー.....	456
7.3.3	ap5000タッチスクリーン用のOPOSドライバー.....	462
7.3.4	タッチスクリーンのテスト.....	462
7.3.5	ap5000タッチスクリーン用のJPOSドライバー.....	462
<b>7.4</b>	<b>HP RP7 15インチ抵抗膜式AFD (Associate Facing Display).....</b>	<b>463</b>
7.4.1	接続.....	463
7.4.2	タッチスクリーン用のWindowsドライバー.....	463
7.4.3	タッチスクリーンの調整.....	466
7.4.4	タッチスクリーン用のOPOSドライバー.....	468
7.4.5	タッチスクリーンのテスト.....	468

7.4.6	タッチスクリーン用のJPOSドライバー	468
<b>7.5</b>	<b>HP RP7 15/17インチ静電容量式AFD (Associate Facing Display)</b>	<b>469</b>
7.5.1	接続	469
7.5.2	タッチスクリーン用のWindowsドライバー	469
7.5.3	タッチスクリーンの調整	472
7.5.4	POSReady 2009またはWindows XPでのデュアルモニター設定のタッチ機能	472
7.5.5	POSReady 7またはWindows 7でのデュアルモニター設定のタッチ機能	474
7.5.6	タッチスクリーン用のOPOSドライバー	475
7.5.7	タッチスクリーンのテスト	475
7.5.8	タッチスクリーン用のJPOSドライバー	475
7.5.9	オンスクリーンディスプレイ (OSD) の無効化/有効化	476
<b>7.6</b>	<b>タッチスクリーン : HP L6015tm/L6017tm静電容量式 (PCap)</b>	<b>477</b>
7.6.1	接続	477
7.6.2	タッチスクリーン用のWindowsドライバー	477
7.6.3	タッチスクリーンの調整	479
7.6.4	POSReady 2009またはWindows XPでのデュアルモニター設定のタッチ機能	480
7.6.5	POSReady 7またはWindows 7でのデュアルモニター設定のタッチ機能	482
7.6.6	タッチスクリーン用のOPOSドライバー	482
7.6.7	タッチスクリーンのテスト	482
7.6.8	タッチスクリーン用のJPOSドライバー	483
7.6.9	オンスクリーンディスプレイ (OSD) の無効化/有効化	483
7.6.10	電源ボタンの無効化/有効化	483
<b>8</b>	<b>HP ap5000 Point of Sale System</b>	<b>484</b>
<b>8.1</b>	<b>HP ap5000 10インチディスプレイ</b>	<b>484</b>
8.1.1	接続	484
8.1.2	HP ap5000 10インチディスプレイ用のWindowsドライバー	484
8.1.3	HP ap5000 10インチディスプレイ用のOPOSドライバー	484
8.1.4	HP ap5000 10インチディスプレイのテスト	484
8.1.5	HP ap5000 10インチディスプレイ用のJPOSドライバー	484
<b>9</b>	<b>HP 7インチCFD</b>	<b>485</b>
9.1.1	接続	485
9.1.2	Windowsドライバー	485
9.1.3	OPOS	488
9.1.4	JPOS	488
9.1.5	HP 7インチCFDディスプレイのテスト	488
9.1.6	HP 7 CFDのオプション	488
<b>Q &amp; A</b>		<b>489</b>
<b>9.2</b>	<b>全般</b>	<b>489</b>
<b>9.3</b>	<b>HPキャッシュ ドロアー</b>	<b>490</b>
<b>9.4</b>	<b>HP USBキャッシュ ドロアー</b>	<b>490</b>
<b>9.5</b>	<b>HPレシート プリンター</b>	<b>491</b>
<b>9.6</b>	<b>HP USBバーコード スキャナー</b>	<b>495</b>
<b>9.7</b>	<b>HPタッチスクリーン (HP L5006tm/HP L5009tm/HP L5015tm)</b>	<b>500</b>
<b>9.8</b>	<b>HP MSR</b>	<b>503</b>
<b>9.9</b>	<b>HP Font Loader (HPフォント ローダー)</b>	<b>505</b>
<b>9.10</b>	<b>HP rp3000のオブティカル ドア</b>	<b>507</b>

9.11	HPポールディスプレイ .....	508
9.12	[HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティ .....	509
9.13	HP ap5000 VFD .....	510
9.14	HP ap5000 VFD (非OPOS) .....	510
9.15	HP ap5000 VFD (JPOS) .....	511
9.16	HP ap5000 VFD (OPOS) .....	512
9.17	HP ap5000 MSR .....	513
9.18	HP ap5000 MSR (JPOS/OPOS) .....	513
9.19	イメージング スキャナー : JPOS .....	514
9.20	HPイメージング バーコード スキャナー .....	516
9.21	複数のHPバーコード スキャナー .....	516
9.22	HP指紋リーダー .....	518
9.23	HP RP7/RP3モニター .....	519
9.24	HP ElitePadリテールジャケットバーコード スキャナー .....	520
9.25	HP 7インチCFD.....	522

# 改訂履歴

文書バージョン	変更内容
3.93	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPバーコードスキャナーHシリーズのセクション6.9.7.1「前提条件」を追加</li> <li>HPラインディスプレイTシリーズのセクションを更新</li> </ul>
3.92	<ul style="list-style-type: none"> <li>セクション6.4.4.2「デュアルキャッシュドローア接続」を更新</li> </ul>
3.91	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP Engage Go Mobile Systemおよび周辺機器を追加</li> <li>セクション6.9.6「イメージキャプチャのテスト」を更新</li> </ul>
3.90	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP RP9内蔵バーコードスキャナーに関するUSB OEMの記述を削除</li> <li>スタートメニューのリンクの参照先を初期設定のファイルシステムの場所に変更</li> </ul>
3.89	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPのバーコードスキャナーHシリーズのセクションを追加</li> </ul>
3.88	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP Engage One All-in-One Systemおよび周辺機器を追加</li> </ul>
3.87	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP 7インチCFDのセクションおよびHP 7インチCFDに関するQ&amp;Aセクションを更新</li> <li>HP RP9内蔵デュアルヘッドMSRを追加</li> </ul>
3.86	<ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵キャッシュドローアポートのセクションを更新</li> </ul>
3.85	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナーのセクションを更新</li> </ul>
3.84	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP RP9 G1 Retail Systemについての記述をセクション7.2および7.4に追加</li> </ul>
3.83	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP RP9 G1 Retail Systemに関する情報および周辺機器（画像を含む）を追加</li> <li>[HP Point of Sale System]ソフトウェアおよびドキュメンテーションCDはメンテナンスされなくなったため、ほとんどの記述を削除</li> <li>OPOS論理名の表を更新</li> </ul>
3.82	<ul style="list-style-type: none"> <li>OPOS論理名の表を更新</li> <li>HP Valueワイヤレススキャナーの画像を追加</li> <li>Ethernetに関する情報を含めるようにレシートプリンターのセクションを更新</li> <li>プリンターのQ&amp;Aセクションにドライバーのバージョンに関する質問を追加</li> <li>L5105tmに関する情報をL5009tmのセクション内のドキュメントに追加</li> <li>ドライバーバージョン5.6.0を反映するようにL5006tm/L5009tm/L5015tmのスクリーンショットを更新</li> <li>ハードウェアウィザードのセクションを削除</li> <li>HP USBキャッシュドローアに関する質問をQ&amp;Aセクションに追加</li> </ul>
3.81	<ul style="list-style-type: none"> <li>シングルヘッドMSRを含めるようにMSRのセクションを更新</li> <li>OPOS論理名の表を更新</li> <li>HP 7インチCFDのQ&amp;Aセクションを更新</li> <li>レシートプリンターのOPOSセクションのスクリーンショットを更新</li> </ul>
3.80	<ul style="list-style-type: none"> <li>A798に関する情報を追加</li> <li>セクション7.4.20での手順の番号付けを修正</li> <li>HP 7インチCFD/DisplayLinkセクションを追加</li> <li>ガイド内の複数の画面キャプチャを更新</li> <li>スタートメニューの画面キャプチャを削除</li> <li>レシートプリンターのWindowsミニドライバーバージョン1.0.5に関する情報を追加</li> <li>HP LCM220およびLCM960ディスプレイに関する情報を追加</li> <li>HP R2 Retail System Model 2000/2030に関する情報を追加</li> <li>MSR JPOS画面キャプチャを更新</li> </ul>

## 1 はじめに

---

このガイドでは、HP POS（Point of Sale）の周辺機器およびシステムのセットアップおよび簡易テストについて説明します。  
**注：** 国や地域によってはHP POSの一部の周辺機器が販売されていない場合もあります。HPの周辺機器の販売状況については、お住まいの国や地域のHP製品販売店にお問い合わせください。

## 2 一般情報

---

### 2.1.1 HP POS周辺機器用の最新ソフトウェアの入手先

HP周辺機器用の最新バージョンのソフトウェアは、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから入手できます。[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトでお使いのHP Point of Saleプラットフォームに移動し、オペレーティング システムを選択すると、「カテゴリ別のダウンロード」セクション（以下の図）が表示されます。適切なカテゴリにアクセスして、ソフトウェアパッケージを入手してください。

- Quick jump to downloads by category...
- » BIOS
  - » Diagnostic
  - » Driver - Audio
  - » Driver - Chipset
  - » Driver - Graphics
  - » Driver - Keyboard, Mouse and Input Devices
  - » Driver - Modem
  - » Driver - Network
  - » Driver - Storage
  - » Operating System - Enhancements and QFEs
  - » Software - Multimedia
  - » Software - PoS
  - » Software - PoS - Keyboard
  - » Software - PoS - MSR
  - » Software - PoS - Pole Line Display
  - » Software - PoS - Receipt Printer
  - » Software - PoS - Scanner
  - » Software - Solutions
  - » Software - System Management
  - » Utility - Tools

[Software - POS]セクションは、Webサイト上に専用のカテゴリ セクションがないHP POSドライバーに使用される一般的なセクションです。たとえば、「OPOS Common Control Objects」というSoftpaqはこのセクションにあります。

### 2.1.2 OPOSおよびCCOドライバー/アプリケーション

HPのMicrosoft Windowsオペレーティング システム イメージを搭載したHP POSシステムでは、イメージにHP製周辺機器用のOPOSドライバーがあらかじめインストールされています（サーマル レシート プリンター、スタンドアロンMSR、ハンド スキャナー、内蔵MSR搭載POSキーボード、ポール ディスプレイ）。HPのWindowsオペレーティング システム イメージには、CCO（Common Control Objects）バージョン1.9.000（以降）もインストールおよび登録されています。

## 3 コネクタ情報

---

このシステムで利用できるコネクタの種類および数を確認するには、HPの工場出荷時イメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)の[製品情報]サポートセクションからも入手できる『ハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。

#### 4 HP POS周辺機器の初期設定のOPOS論理名

デバイス	初期設定のOPOS論理名
HPバーコードスキャナー	
HP Engage One 2Dバーコードスキャナー	N3680-HP
HP Engage One W 2Dバーコードスキャナー	N3680-HP
HP Engage Go Mobile Systemバーコードスキャナー	N660X-HP
HPイメージングバーコードスキャナー	HPImagerScanner
HPリニアバーコードスキャナー	HPLinearScanner
HPリニアバーコードスキャナーII	HPLinearScanner
HPプレゼンテーションバーコードスキャナー	HPPresentationScanner
HPリテール内蔵バーコードスキャナー	HPIntegratedImagingBarcodeScanner
HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナー	HPMobileScanner
HP RP9内蔵バーコードスキャナー：ボトム	HPIntegratedSLImgScn
HP RP9内蔵バーコードスキャナー：サイド	HPIntegratedSLImgScn
HP Value 2Dワイヤレススキャナー	HPQSWirelessScanner
HP Valueバーコードスキャナー	HR2150-HP
HPワイヤレスバーコードスキャナー	HPWirelessBTScanner
HPキャッシュドロアー	
HPフリップトップ式キャッシュドロアー	接続中...
HPヘビーデューティーキャッシュドロアー	接続中...
HPスタンダードデューティーキャッシュドロアー	接続中...
HP USBキャッシュドロアー	HPUSBCashDrawer-1/ HPUSBCashDrawer-2
HP Valueキャッシュドロアー	接続中...
<b>レシートプリンター：</b>	
HPデュアルシリアル/USBサーマルレシートプリンター	A799-1/A799-2
HP Engage Goカラムプリンター	H300-1/H300-2
HP Engage Oneカラムプリンター	H300-1/H300-2
HP Engage Oneシリアル/USBサーマルプリンター	H300-1/H300-2
HP Engage One Wシリアル/USBサーマルプリンター	H300-1/H300-2
HPハイブリッドPOSプリンター (MICR II付属)	A776-1/A776-2
HPハイブリッドPOSプリンター (MICR付属)	A776-1/A776-2
HP LANサーマルレシートプリンター	A799-1/A799-2
HPサーマルレシートプリンター (PUSB用)	A799-1/A799-2
HP USBレシートプリンター	A794-1/A794-2
HP Valueレシートプリンター (PUSB用)	A798-1/A798-2
HP Valueシリアル/USBレシートプリンター	A798-1/A798-2
HP Valueシリアル/USBレシートプリンターII	A798-1/A798-2
HP Valueサーマルレシートプリンター	BTPS81-1/BTPS81-2
<b>リテールハブ：</b>	
キャッシュドロアーポート	HPCDPORT-1/HPCDPORT-2
<b>リテールシステム：</b>	
キャッシュドロアーポート	HP_CashDrawerPort-1/ HP_CashDrawerPort-2
HPラインディスプレイ	
HP Engage 2 × 20ポールディスプレイ	HPLM920Display
HP Engage One トップマウント型2 × 20 CFD	HPTD620Display
HP Engage One W トップマウント型2 × 20 CFD	HPTD620Display
HPグラフィカルPOSポールディスプレイ	HPPOSCCPoleDisplay



HP POSポールディスプレイ	HP POS Pole Display
HPリテール版一体型2x20コンプレックス	HP LCM960 Display
HPリテール版一体型2x20ディスプレイ	HP LCM220 Display
HPリテールRP7 VFDカスタマーディスプレイ	HP POSCC Pole Display
HP RP9 2x20 LCD トップマウント (アームなし)	HP L M940 Display
HP RP9 内蔵2x20ディスプレイ ボトム (アームあり)	HP L M940 Display
HP RP9 内蔵2x20ディスプレイ トップ (アームあり)	HP L M940 Display
HP MSR	
HP ap5000磁気ストライプリーダー	Hpap5000MSR
HP Engage Go Mobile System MSR	HP SinglenoSRDMSR
HP Engage One MSR	HP SinglenoSRDMSR
HPリテール内蔵デュアルヘッド磁気ストライプリーダー	HP USB Dual MSR HP USB Dual Encrypt MSR
ElitePad用HPリテール ジャケット MSR	HP USB Shec MSR
HP RP2 内蔵シングルヘッド MSR (SREDなし)	HP SinglenoSRDMSR
HP RP7 シングルヘッド磁気ストライプリーダー (SREDなし)	HP SinglenoSRDMSR
HP RP9 内蔵デュアルヘッド MSR	HP USB Dual MSR HP USB Dual Encrypt MSR
HP RP9 内蔵シングルヘッド MSR	HP SinglenoSRDMSR
HP USB ミニ磁気ストライプリーダー (ブラケット付き)	HP USB Mini MSR
HP POS キーボード	
HP POS キーボード	HP POS Keyboard
磁気ストライプリーダー付きHP USB POS キーボード	HP KB MSR
HP レシート プリンター	
HP デュアルシリアル/USB サーマル レシート プリンター	A799
HP Engage Go カラム プリンター	H300
HP Engage One カラム プリンター	H300
HP Engage One シリアル/USB サーマル プリンター	H300
HP Engage One W シリアル/USB サーマル プリンター	H300
HP ハイブリッド POS プリンター (MICR II 付属)	A776
HP ハイブリッド POS プリンター (MICR 付属)	A776
HP LAN サーマル レシート プリンター	A799
HP サーマル レシート プリンター (PUSB 用)	A799
HP USB レシート プリンター	A794
HP Value レシート プリンター (PUSB 用)	A798
HP Value シリアル/USB レシート プリンター	A798
HP Value シリアル/USB レシート プリンター II	A798
HP Value サーマル レシート プリンター	BTP581

## 5 [HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティ

[HP OPOS Logical Device Name]ユーティリティを使用すると、本体にインストールされているOPOSドライバーの論理名を確認できます。また、デバイスのOPOS論理名を変更することもできます。HP POS (Point of Sale) の周辺機器については、工場出荷時設定の論理名に戻す機能も用意されています。

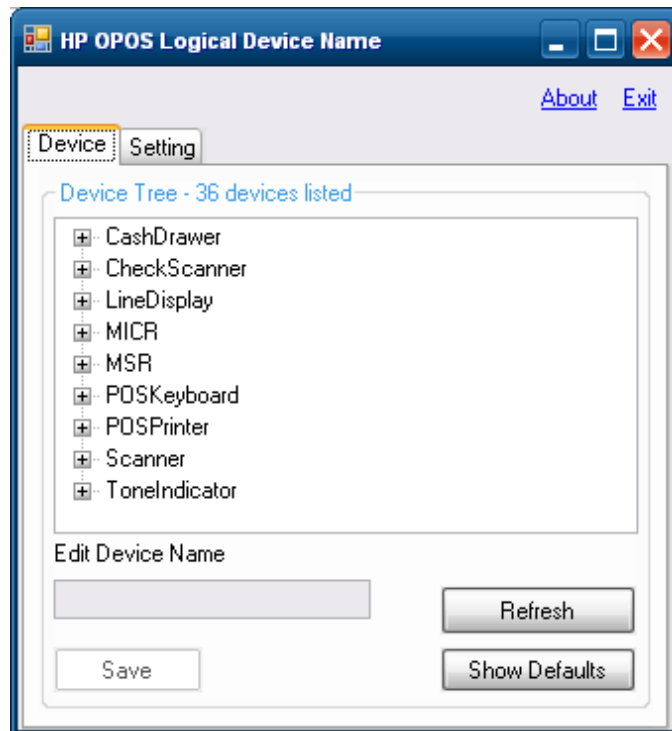
**注：** このユーティリティを使用するには、読み取り/書き込みアクセスが許可されている場所からユーティリティを実行する必要があります。また、ユーティリティの実行対象となる本体の管理者権限も必要です。

OPOSデバイス名を変更する前に、お使いのPOSアプリケーションのサポート センターまたは社内のITサポート部門に問い合わせてください。

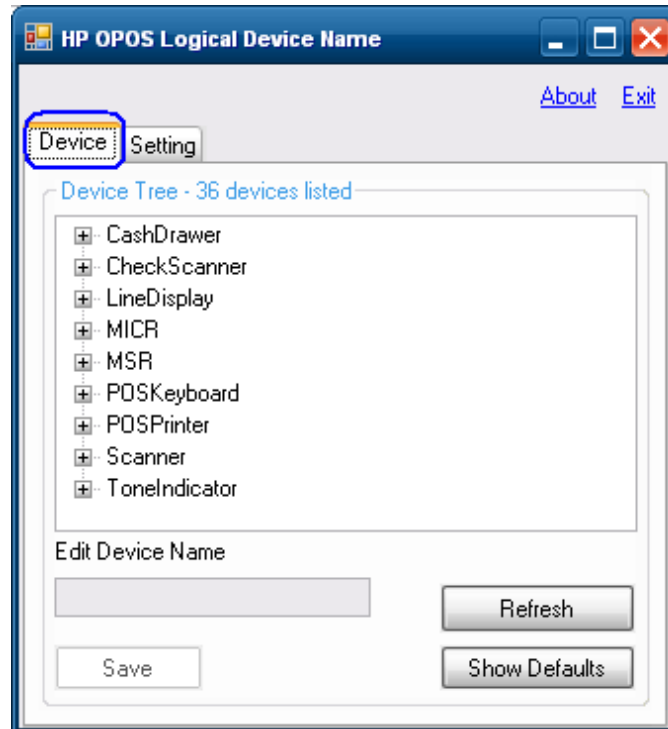
### 5.1 メインGUI

以下の図は、[HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティを開いたときのGUIです。

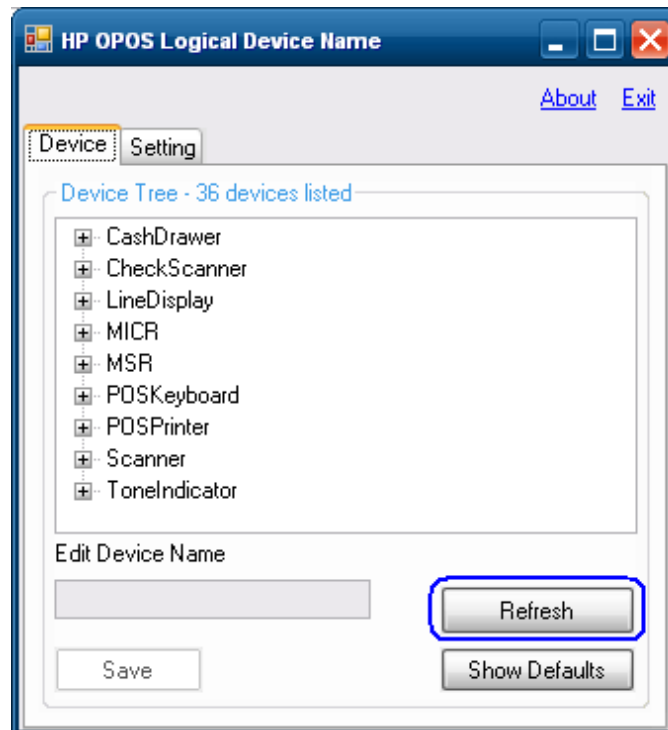
**注：** ここで紹介する画面キャプチャは一例です。本体でユーティリティを実行したときに表示されるものは、このセクションで示される画面キャプチャとは異なる場合があります。



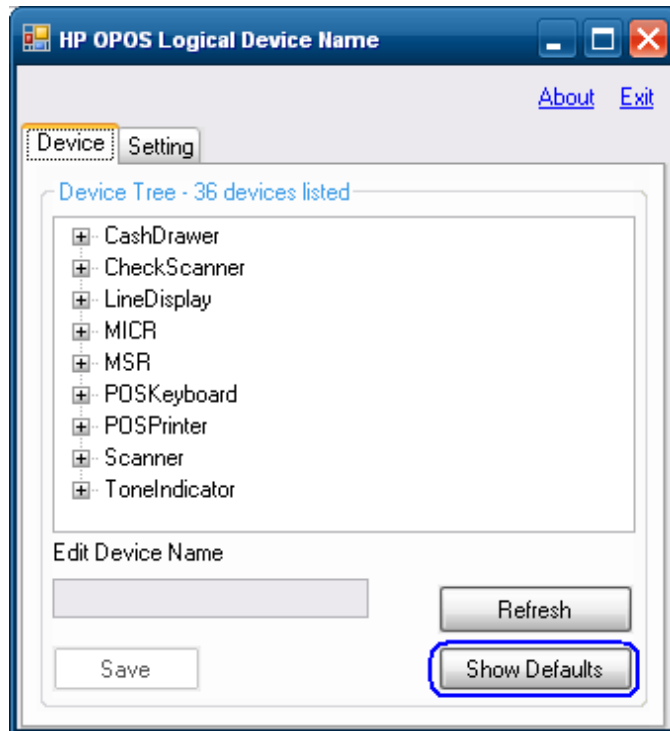
- このユーティリティの[Device] (デバイス) タブには、本体にインストールされているOPOSドライバーが表示されます。



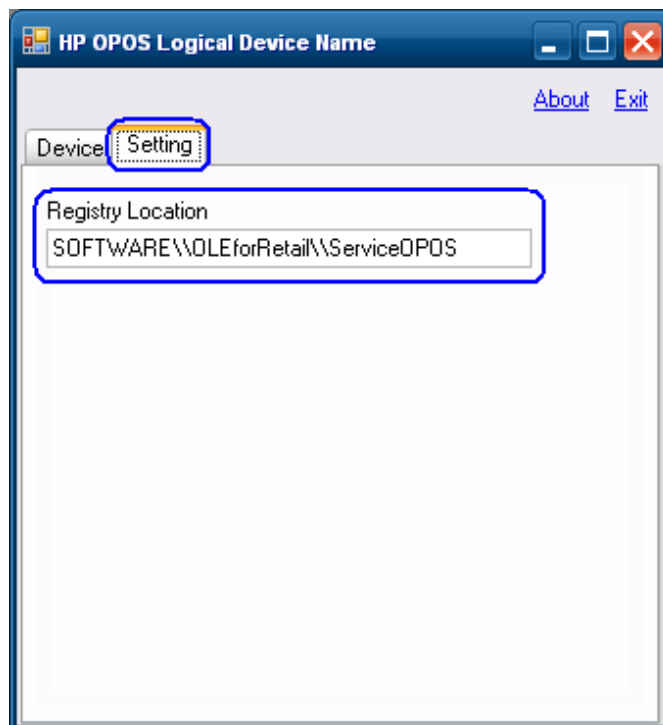
- [Refresh] (更新) ボタンをクリックすると、デバイスツリーの情報が更新されます。



- [Show Default]（初期設定の表示）ボタンをクリックすると、HPの周辺機器を工場出荷時設定の名前に戻すことができます（詳しくは、セクション5を参照してください）。



- このユーティリティの[Setting]（設定）タブには、[Device]タブに表示されるデータの取得元となるレジストリの場所が表示されます。



- [About] (バージョン情報) タブをクリックすると、ユーティリティのバージョン情報が表示されます。



- [Exit] (終了) または[X]をクリックすると、アプリケーションを終了できます。



## 5.2 OPOS論理デバイス名の確認

以下のセクションでは、本体にインストールされているOPOS論理デバイス名を確認する方法について説明します。

### 5.2.1 手順概要

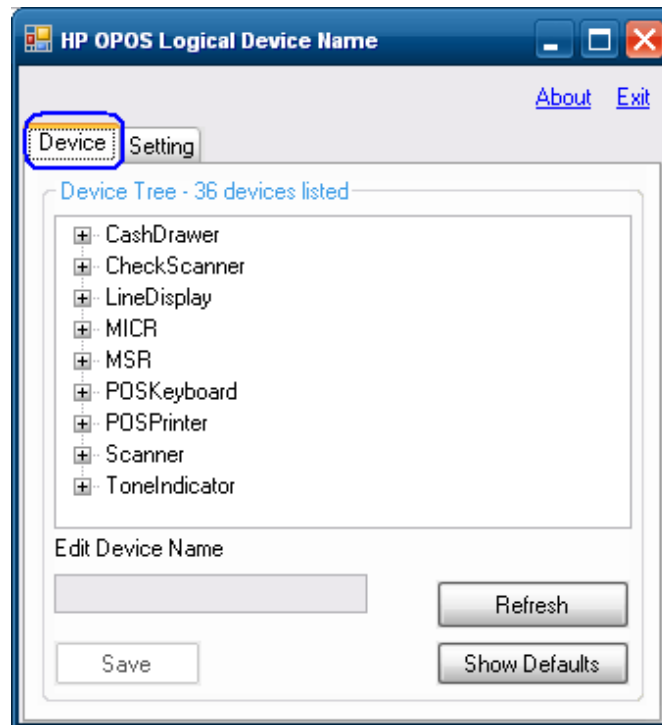
OPOSデバイス名を確認する手順の概要を以下に示します。

1. ユーティリティを開きます。
2. [Device] (デバイス) タブを選択します。
3. 確認するOPOSデバイス名が属するデバイス ツリーを展開します。

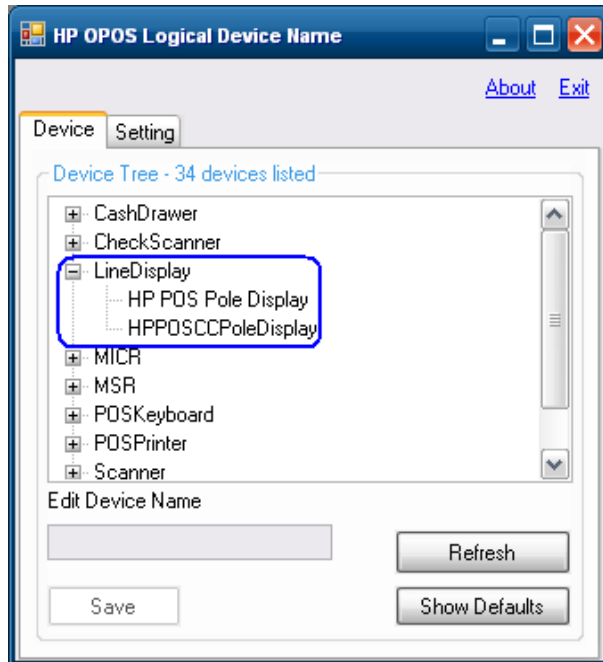
### 5.2.2 詳しい手順

OPOSデバイス名を確認する詳しい手順を以下に示します。

1. ユーティリティを開きます。
2. [Device]タブを選択します。

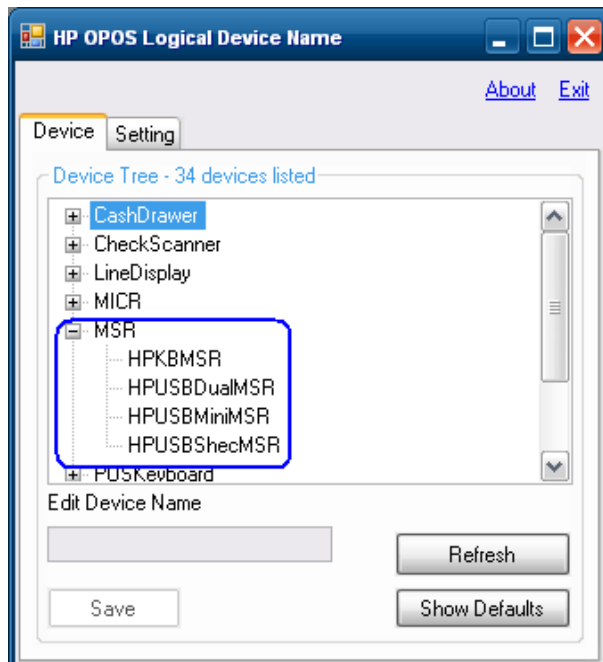


3. 確認するOPOSデバイス名が属するデバイスツリーを展開します。
- 以下の図では、[LineDisplay]ツリーが展開されています。この例では、本体にインストールされているOPOSデバイス名は「HP POS Pole Display」です。



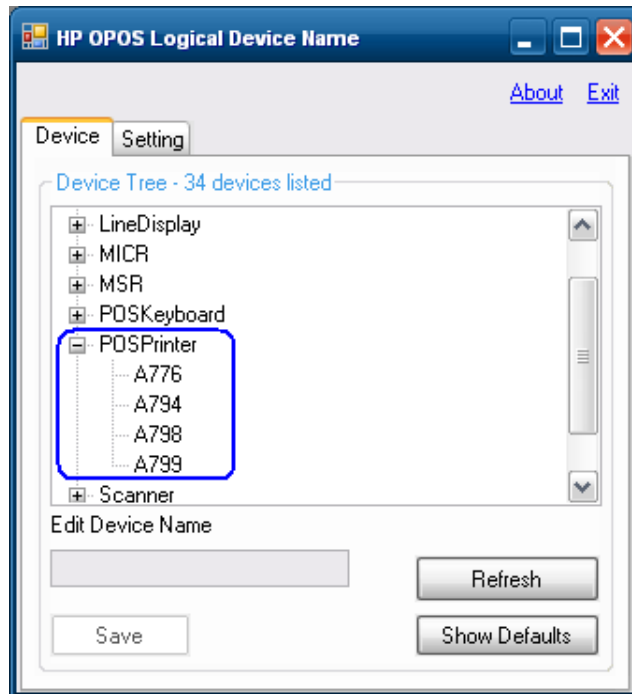
注：ここで紹介するものは一例ですので、実際にインストールされているOPOSデバイス名とは異なる場合があります。インストールされているOPOSデバイス名の数もシステムによって変わってきます。

- 以下の図では、[MSR]ツリーが展開されています。この例では、本体にインストールされているOPOSデバイス名は「HPUSBMINIMSR」です。



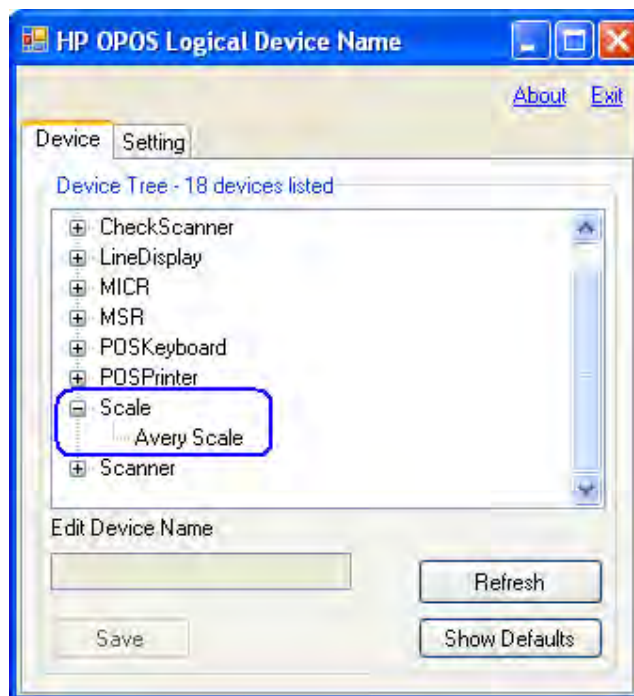
注：ここで紹介するものは一例ですので、実際にインストールされているOPOSデバイス名とは異なる場合があります。インストールされているOPOSデバイス名の数もシステムによって変わってきます。

- 以下の図では、[POSPrinter]ツリーが展開されています。この例では、本体にインストールされているOPOSデバイス名は「A776」、「A794」、および「A799」です。



注：ここで紹介するものは一例ですので、実際にインストールされているOPOSデバイス名とは異なる場合があります。インストールされているOPOSデバイス名の数もシステムによって変わってきます。

- 以下の図では、[Scale]ツリーが展開されています。このデバイスはHP製ではありません。この例では、本体にインストールされているOPOSデバイス名は「Avery Scale」です。





### 5.3 OPOS論理デバイス名の変更

以下のセクションでは、本体にインストールされているOPOS論理デバイス名を変更する方法について説明します。

#### 5.3.1 手順概要

OPOSデバイス名を変更する手順の概要を以下に示します。

1. ユーティリティが開いたら、[Device] (デバイス) タブを選択します。
2. 変更するOPOSデバイス名が属するデバイスツリーを展開します。
3. デバイス名を選択します。選択した名前が[Edit Device Name] (デバイス名の編集) ボックスにも表示されます。
4. デバイスに付けるOPOS名を入力します。
5. デバイス名の入力完了したら、[Save] (保存) ボタンをクリックします。
6. 変更するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。

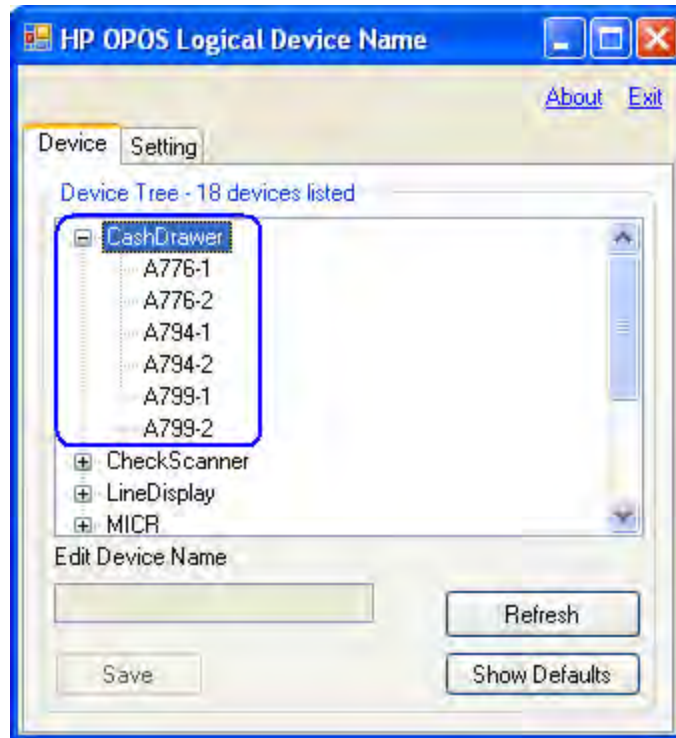
#### 5.3.2 詳しい手順

OPOSデバイス名を変更する詳しい手順を、以下に示します。

1. ユーティリティが開いたら、[Device]タブを選択します。



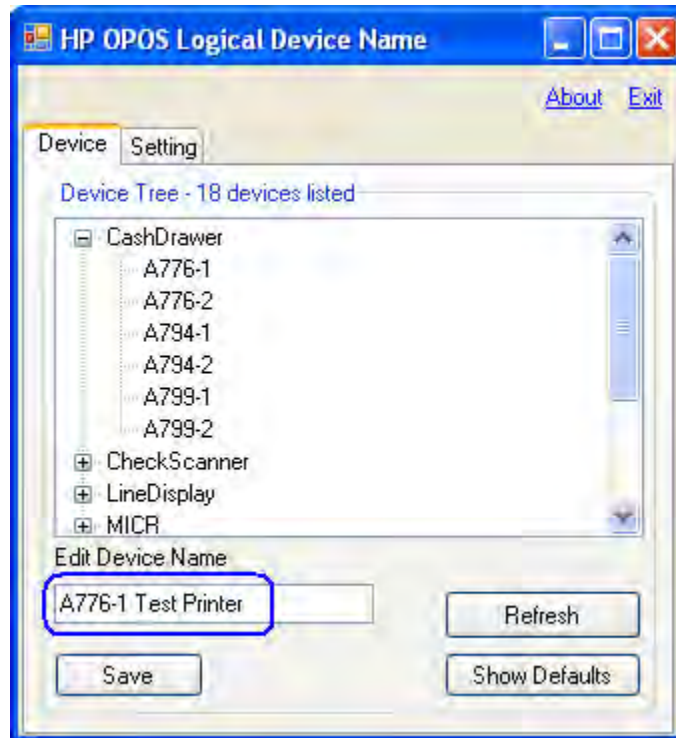
2. 変更するOPOSデバイス名が属するデバイスツリーを展開します。



3. デバイス名を選択します。デバイス名を選択すると、その名前が[Edit Device Name]ボックスにも表示されます。



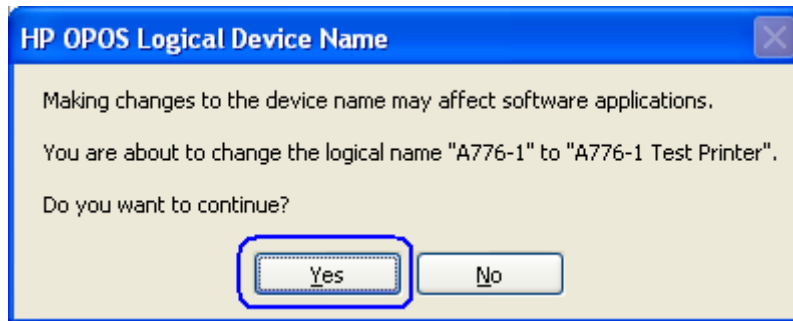
4. 選択したデバイスに付けるOPOS名を入力または編集します。



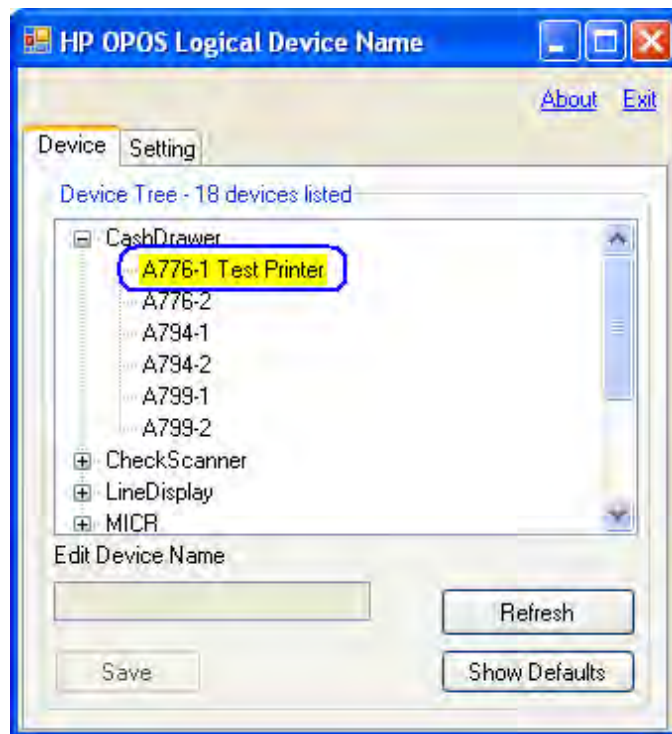
5. 編集ボックスでデバイス名の入力が完了したら、[Save]ボタンをクリックします。



[Save]ボタンをクリックすると、変更するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。変更するには、[Yes]（はい）をクリックします。



変更の確認を行うと、ユーティリティが更新され、すべてのデバイス ツリーが閉じます。変更したツリーを再度展開すると、変更したデバイス名が強調表示されます（ユーティリティを終了してから開きなおすと、強調表示されなくなります）。



## 5.4 HP製デバイスの工場出荷時OPOS論理名への設定

以下のセクションでは、HP製の周辺機器を工場出荷時設定のOPOS論理名に戻す方法について説明します。

**注：** 初期設定では、このユーティリティで工場出荷時設定の名前に戻せるのはHP製の周辺機器のみです。HP製以外の周辺機器をINIファイルに追加する方法については、セクション6を参照してください。

### 5.4.1 手順概要

OPOSデバイス名を変更する手順の概要を以下に示します。

1. ユーティリティが開いたら、[Device] (デバイス) タブを選択します。
2. 工場出荷時設定の名前に戻すデバイスを選択します。
3. [Show Defaults] (初期設定の表示) ボタンをクリックします。
4. 工場出荷時設定のOPOS名に戻すデバイスのカテゴリを選択します。
5. 工場出荷時設定のOPOS名に戻すデバイスを選択します。
6. [Set Default] (初期値に設定) ボタンをクリックします。変更するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。

### 5.4.2 詳しい手順

OPOSデバイス名を変更する詳しい手順を以下に示します。

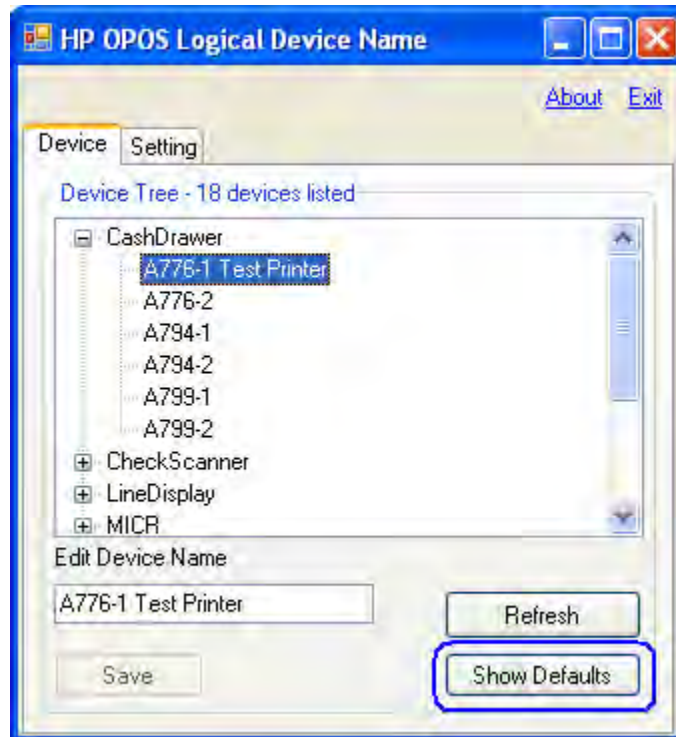
1. ユーティリティが開いたら、[Device]タブを選択します。



- 工場出荷時設定の名前に戻すデバイスを選択します。

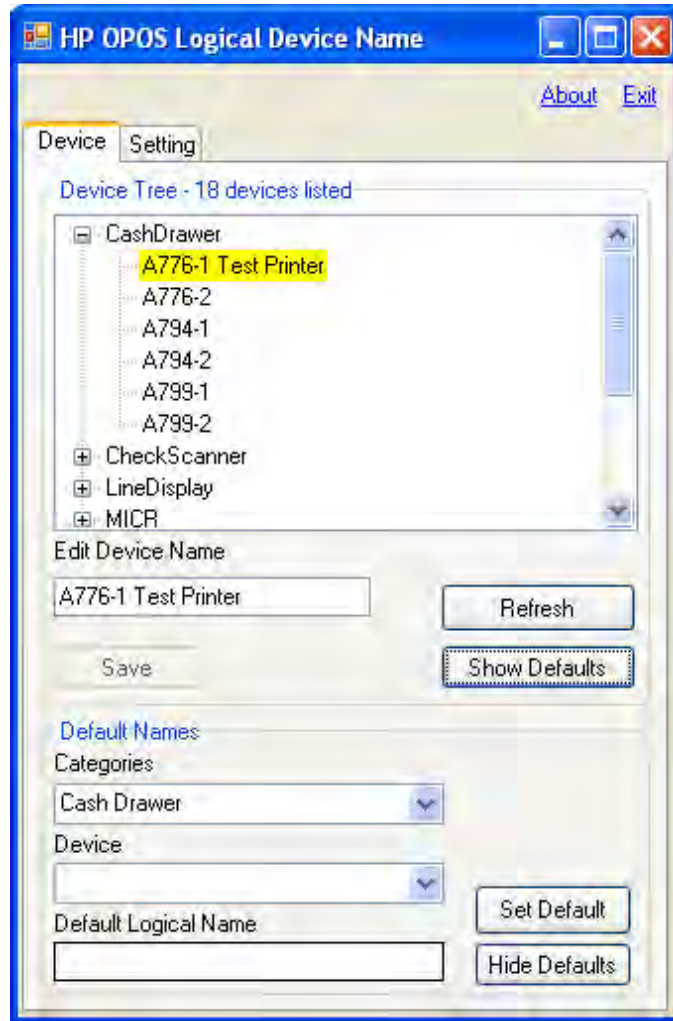


- [Show Defaults]ボタンをクリックします。

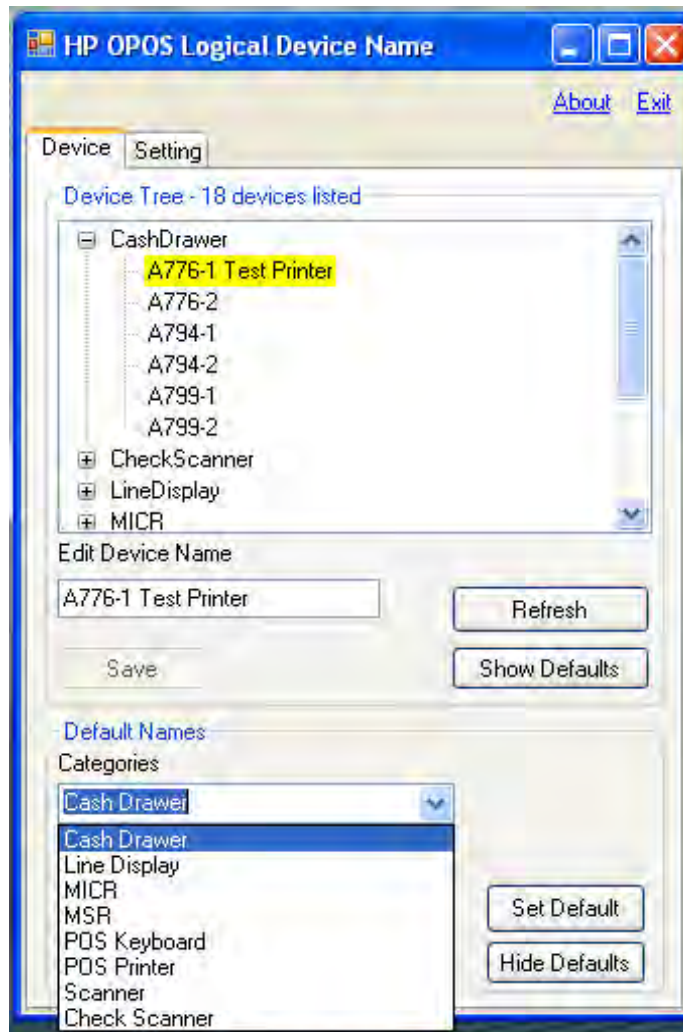




以下の図は、[Show Defaults]ボタンをクリックした後のユーティリティのGUIを示しています。

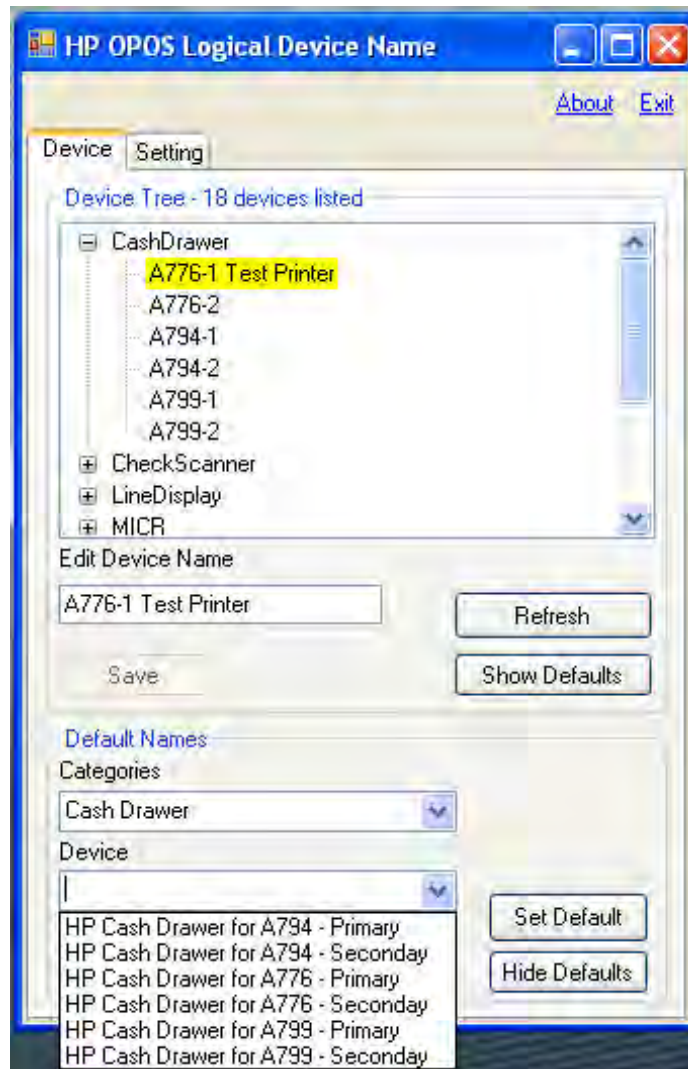


4. 工場出荷時設定のOPOS名に戻すデバイスのカテゴリを選択します。

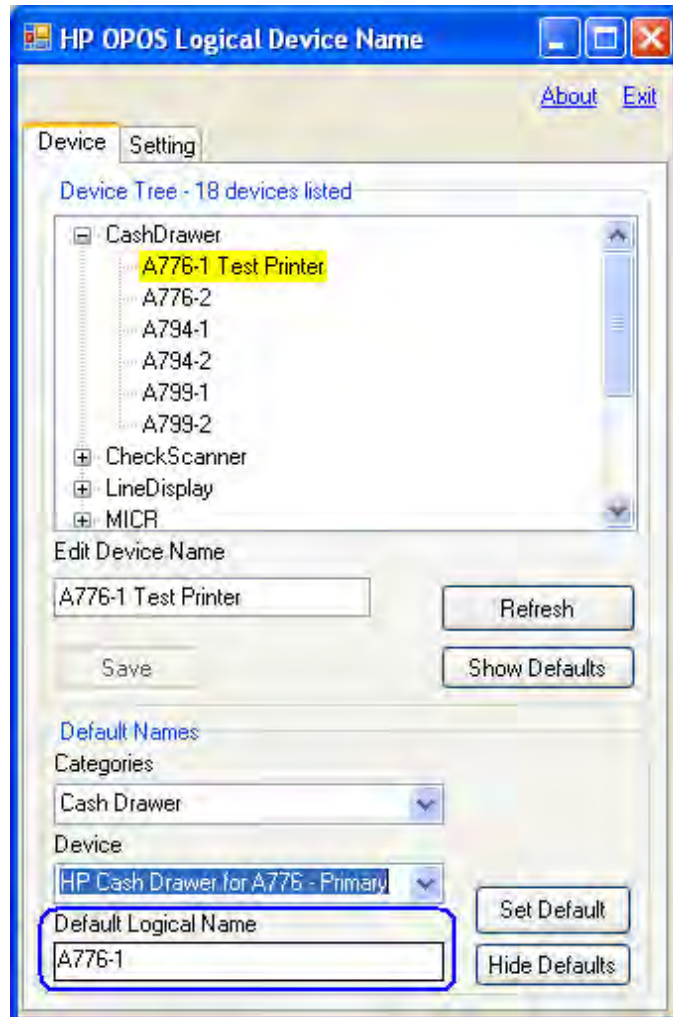




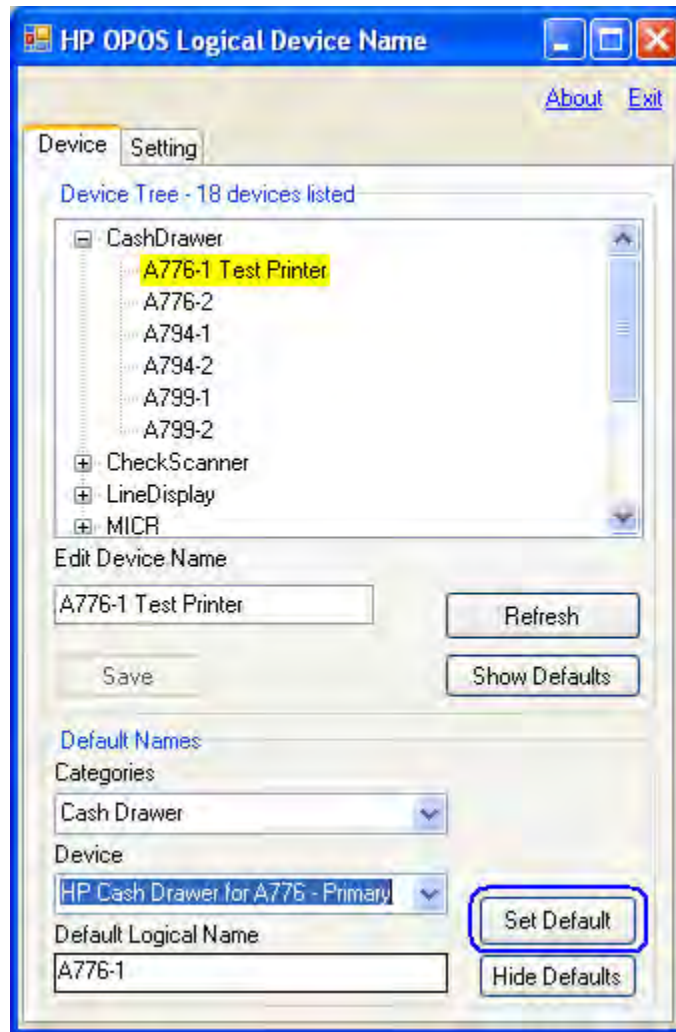
5. 工場出荷時設定のOPOS名に戻すデバイスを選択します。



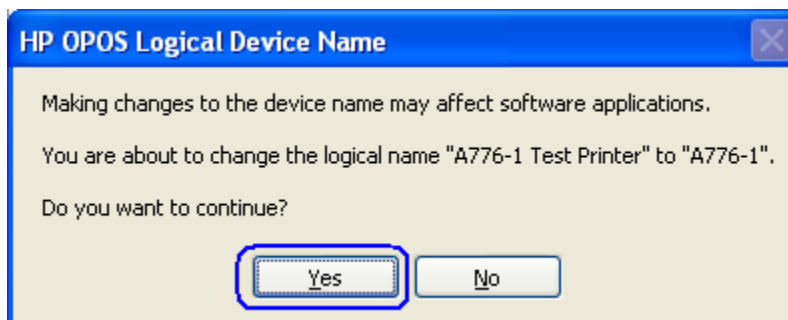
- デバイスを選択すると、[Default Logical Name]（初期論理名）ボックスに工場出荷時設定の名前が表示されます。



- 工場出荷時設定の名前を保存するには、[Set Default]ボタンをクリックします。



6. 変更するかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。



### 5.4.3 初期設定のINIファイル

[HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティを開いたときに、初期設定のINIファイルが存在しない場合は作成されます。「default.ini」ファイルは、ユーティリティの初期設定のドロップボックスセクションでHP周辺機器の初期設定の名前を表示するために使用されます。HP製以外の周辺機器を追加するように「default.ini」ファイルを変更すると、ユーティリティの初期設定のドロップボックスセクションにそれらの周辺機器が表示されるようになります。

### 5.4.4 初期設定のドロップダウンへのHP製以外の周辺機器の追加

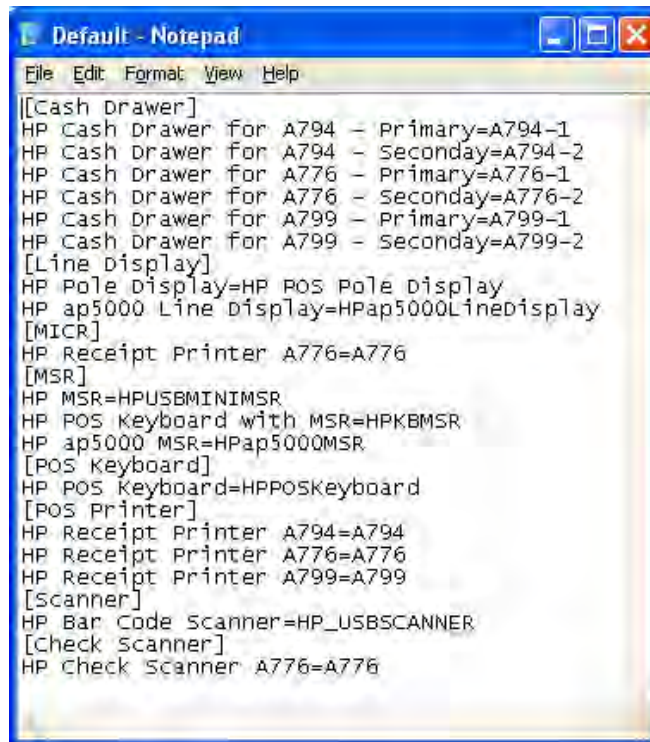
HP製以外の周辺機器を初期設定のINIファイルに追加すると、ユーティリティの初期設定の名前セクションにあるドロップダウンメニューに選択可能な項目として表示できます。

以下の例では、「default.ini」ファイルに計量器 (scale) を追加して、その名前がドロップダウンメニューに表示されるようにします。

初期状態 (INIファイルへの変更なし) のドロップダウンメニューを以下に示します。

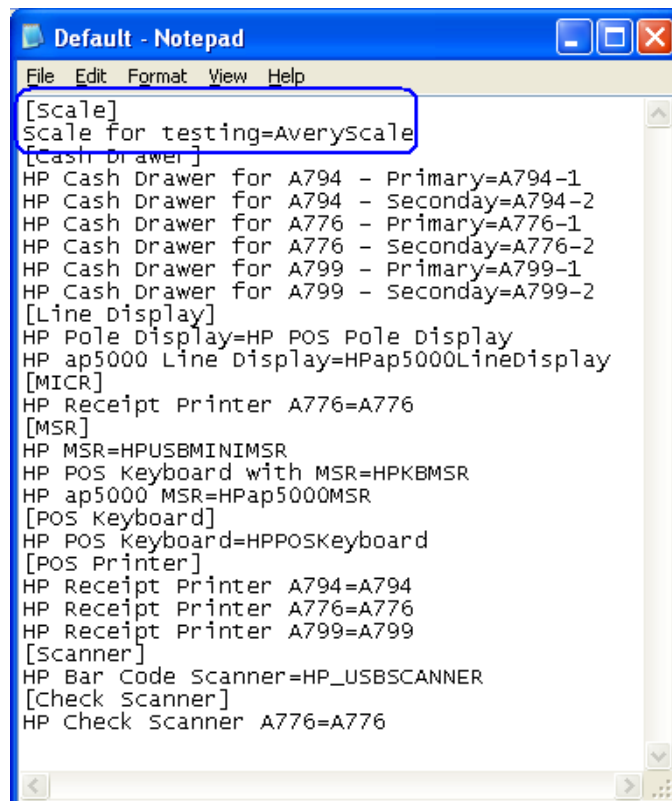


前の画面キャプチャを反映する初期設定のINIファイルを以下に示します。



```
Default - Notepad
File Edit Format View Help
[[Cash Drawer]
HP Cash Drawer for A794 - Primary=A794-1
HP Cash Drawer for A794 - Seconday=A794-2
HP Cash Drawer for A776 - Primary=A776-1
HP Cash Drawer for A776 - Seconday=A776-2
HP Cash Drawer for A799 - Primary=A799-1
HP Cash Drawer for A799 - Seconday=A799-2
[Line Display]
HP Pole Display=HP POS Pole Display
HP ap5000 Line Display=HPap5000LineDisplay
[MICR]
HP Receipt Printer A776=A776
[MSR]
HP MSR=HPUSBMINIMSR
HP POS Keyboard with MSR=HPKBMSR
HP ap5000 MSR=HPap5000MSR
[POS Keyboard]
HP POS Keyboard=HPPOSkeyboard
[POS Printer]
HP Receipt Printer A794=A794
HP Receipt Printer A776=A776
HP Receipt Printer A799=A799
[Scanner]
HP Bar Code Scanner=HP_USBSCANNER
[Check Scanner]
HP Check Scanner A776=A776
```

デバイス (scale) を追加するように「default.ini」ファイルを変更すると、初期設定のINIファイルは以下  
のようになります。



```
Default - Notepad
File Edit Format View Help
[Scale]
Scale for testing=AveryScale
[[Cash Drawer]
HP Cash Drawer for A794 - Primary=A794-1
HP Cash Drawer for A794 - Seconday=A794-2
HP Cash Drawer for A776 - Primary=A776-1
HP Cash Drawer for A776 - Seconday=A776-2
HP Cash Drawer for A799 - Primary=A799-1
HP Cash Drawer for A799 - Seconday=A799-2
[Line Display]
HP Pole Display=HP POS Pole Display
HP ap5000 Line Display=HPap5000LineDisplay
[MICR]
HP Receipt Printer A776=A776
[MSR]
HP MSR=HPUSBMINIMSR
HP POS Keyboard with MSR=HPKBMSR
HP ap5000 MSR=HPap5000MSR
[POS Keyboard]
HP POS Keyboard=HPPOSkeyboard
[POS Printer]
HP Receipt Printer A794=A794
HP Receipt Printer A776=A776
HP Receipt Printer A799=A799
[Scanner]
HP Bar Code Scanner=HP_USBSCANNER
[Check Scanner]
HP Check scanner A776=A776
```

更新された初期設定のINIファイルを使用してユーティリティを開くと、以下のようになります。



注： デバイスのOPOSドライバーを再インストールすると、デバイス名が変更される場合があります。[HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティでは、OPOSドライバーがインストールされることも、OPOSドライバーのレジストリにエントリが追加されることもありません。



## 6 周辺機器の接続およびソフトウェアのインストール

USB周辺機器は、Windowsオペレーティング システムの展開後に取り付けられるようにしてください。周辺機器を1度に1台ずつ取り付けると、周辺機器が機能しない場合にどの周辺機器に問題があるかを判断しやすくなります。また、周辺機器を1度に1台ずつ取り付けることで、Windowsのネイティブ ドライバーのインストール中に必要なユーザー操作が最小限で済みます。

HPの周辺機器用のドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

以下のセクションでHPの工場出荷時のイメージを参照するときは、「xxxxx」の部分で「Compaq」または「SWSetup」に置き換えてください。たとえば、「C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Cash Drawer」と記載されている場合、Windows XP Professionalオペレーティング システムでは「C:\Compaq\Point of Sale\Receipt Printer\Cash Drawer」になり、Windows Vista®、WEPOS、POSReady、Win7、Win8.1、またはWin 10オペレーティング システムでは「C:\SWSetup\Point of Sale\ReceiptPrinter\Cash Drawer」になります。

### 6.1 HPキャッシュドロアーおよびフリップトップ式キャッシュドロアー



ヘビーデューティー  
キャッシュドロアー



スタンダードデューティー  
キャッシュドロアーおよび  
USBキャッシュドロアー



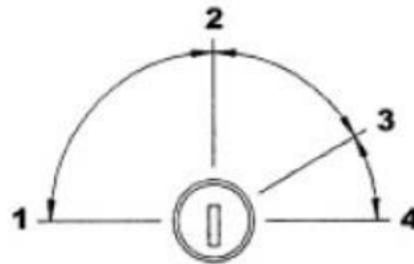
フリップトップ式キャッシュドロアー

このガイドに記載されている「キャッシュドロアー」とは、上記のすべてのキャッシュドロアーを指します。

### 6.1.1 キーロックの位置

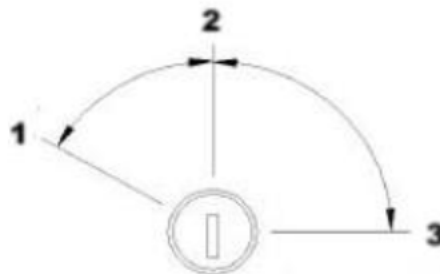
HPキャッシュドロアーのキーロックの位置を以下に示します。

ヘビーデューティーキャッシュドロアー



ロックの位置	説明
1 (ロック閉)	プリンターからの電気信号でキャッシュドロアーが開くのを防ぎます
2 (オンライン)	キャッシュドロアーの動作が、プリンターによって電子的に行われます
3 (手動開)	キャッシュドロアーの内容物への手動アクセスが可能になります
4 (ロック開)	キャッシュドロアーがラッチにより閉じられるのを防ぎます

フリップトップ式キャッシュドロアー/スタンダードデューティー/  
USBキャッシュドロアー (下図)



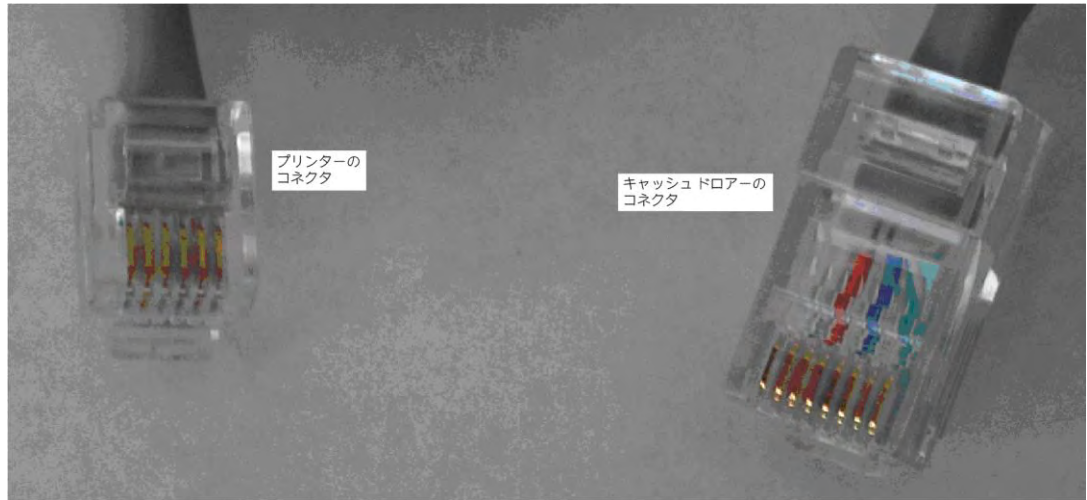
ロックの位置	説明
1 (手動開)	キャッシュドロアーの内容物への手動アクセスが可能になります
2 (オンライン)	キャッシュドロアーの動作が、プリンターによって電子的に行われます
3 (ロック済み)	キャッシュドロアーがラッチにより閉じられるのを防ぎます



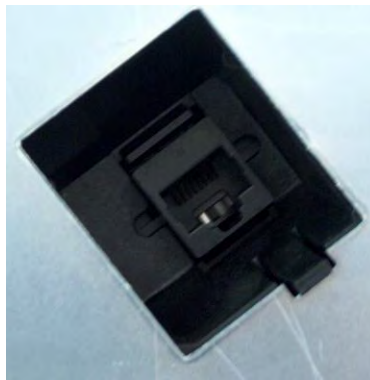
## 6.1.2 接続

キャッシュ ドロアーは、RJ12タイプのコネクタ（小さい方のコネクタ）を使用してプリンターの背面または内蔵キャッシュ ドロアー ポートに接続します。

小さい方のコネクタをプリンターの背面に接続し、大きい方のコネクタをキャッシュ ドロアーの底面に接続します。キャッシュ ドロアー ケーブルのコネクタを以下に示します。



キャッシュ ドロアーの底面は以下のようになっていて、キャッシュ ドロアー ケーブルの大きい方の端をここに接続します。



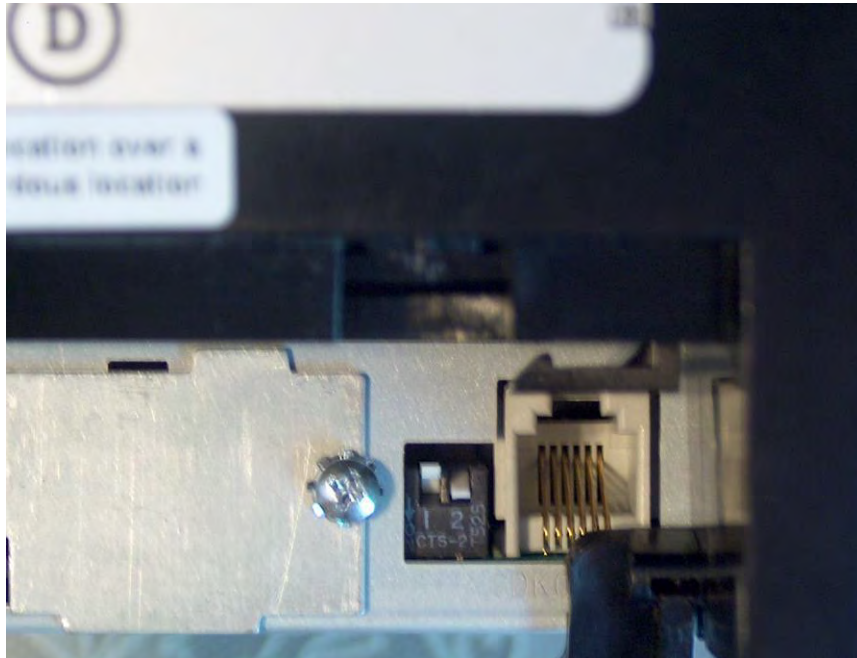
カバーを閉じた状態のプリンターの背面は、以下ようになります。



カバーを開けた状態のプリンターの背面は、以下ようになります。



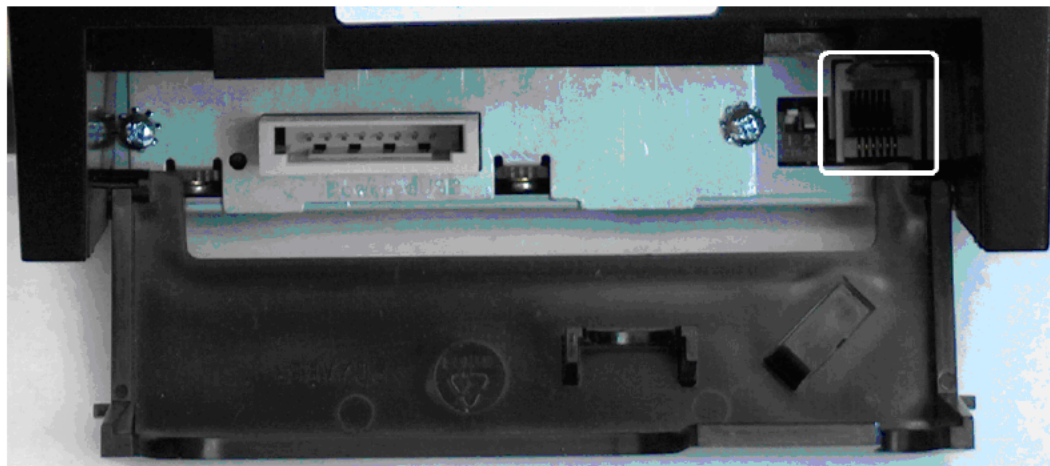
プリンターの背面にあるキャッシュドロアーポートの拡大図です。



### 6.1.3 キャッシュドロアー用のWindowsドライバー

キャッシュドロアー用のWindowsドライバーはありません。キャッシュドロアーはプリンターのWindowsミニドライバーによって制御されるため、キャッシュドロアーを電子的に開くには、プリンターのドライバーをインストールする必要があります。

キャッシュドロアーがキャッシュドロアーケーブルを介してプリンターの背面に接続されていることを確認します。



### 6.1.4 キャッシュドロアーの10進数コマンド

Windowsミニドライバーを使用する一部のPOSアプリケーションでは、(売上以外の操作で)アプリケーションからキャッシュドロアーを開けることができるようにするため、キャッシュドロアーを開けるコマンドの入力が必要です。HPレシートプリンターに接続されている場合の10進数コマンドを以下に示します。

キャッシュドロアー-1	キャッシュドロアー-2
27 112 088	27 112 188

キャッシュドロアーのコマンドに関する詳しい情報を以下に示します。

#### **Generate pulse to open cash drawer**

**ASCII**            ESC p   n p1 p2

**Hexadecimal**    1B 70   n p1 p2

**Decimal**            27 112   n p1 p2

**Value of n:**        00, 48 (Decimal) = Drawer 1;  
                          01, 49 (Decimal) = Drawer 2

**Value of p1:**        0-255

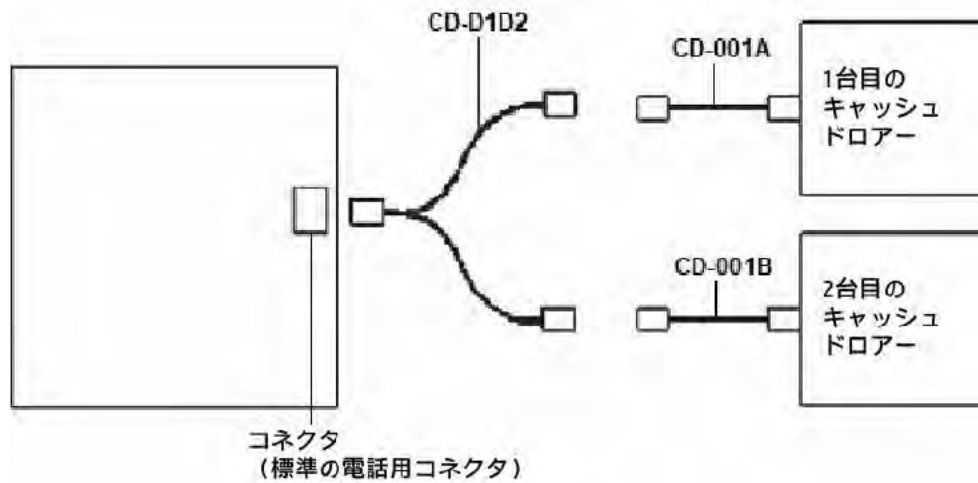
**Value of p2:**        0-255

### 6.1.5 デュアル キャッシュ ドロアー接続

デュアル キャッシュ ドロアーを使用するには、Yアダプター (PN : CD-D1D2) および2台目のドロアー用のケーブル (PN : CD-001B) が必要です。以下の図を使用して、キャッシュ ドロアーをHPキャッシュ ドロアー ポートに接続します。

1台目のドロアー**	2台目のドロアー	Yアダプター
CD-001A	CD-001B	CD-D1D2

\*\* このケーブルは、HPキャッシュドロアーに付属のものです。



## 6.1.6 キャッシュドロアー用のOPOSドライバー

キャッシュドロアー用のOPOSドライバーは、プリンターのOPOSドライバーのインストール時に一緒にインストールされます。キャッシュドロアーがキャッシュドロアーケーブルを介してプリンターの背面に接続されていることを確認します。

## 6.1.7 キャッシュドロアー用のOPOSテストアプレット

キャッシュドロアーをテストするためのユーティリティは2つあり、どちらも使用できます。1つはキャッシュドロアーのみをテストするユーティリティで、もう1つはキャッシュドロアーおよびプリンターの両方をテストできるユーティリティです。

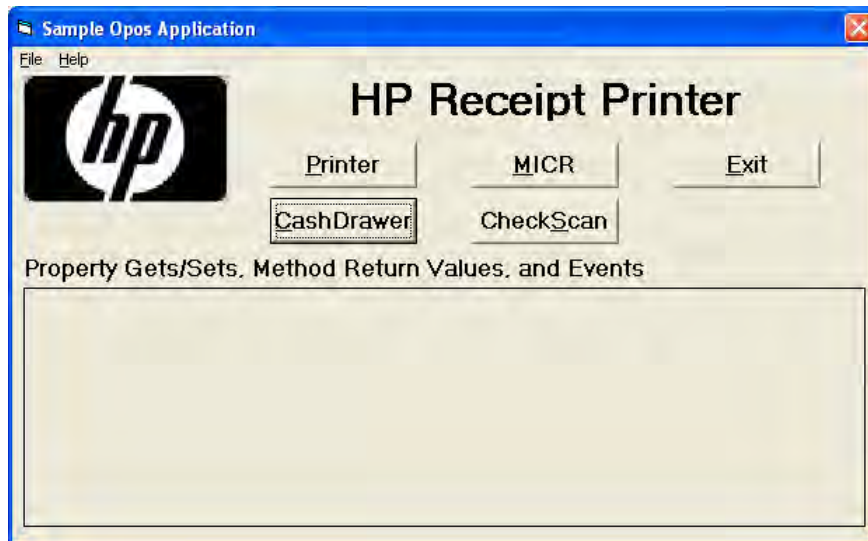
### 6.1.7.1 キャッシュドロアーおよびプリンターのユーティリティ

キャッシュドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

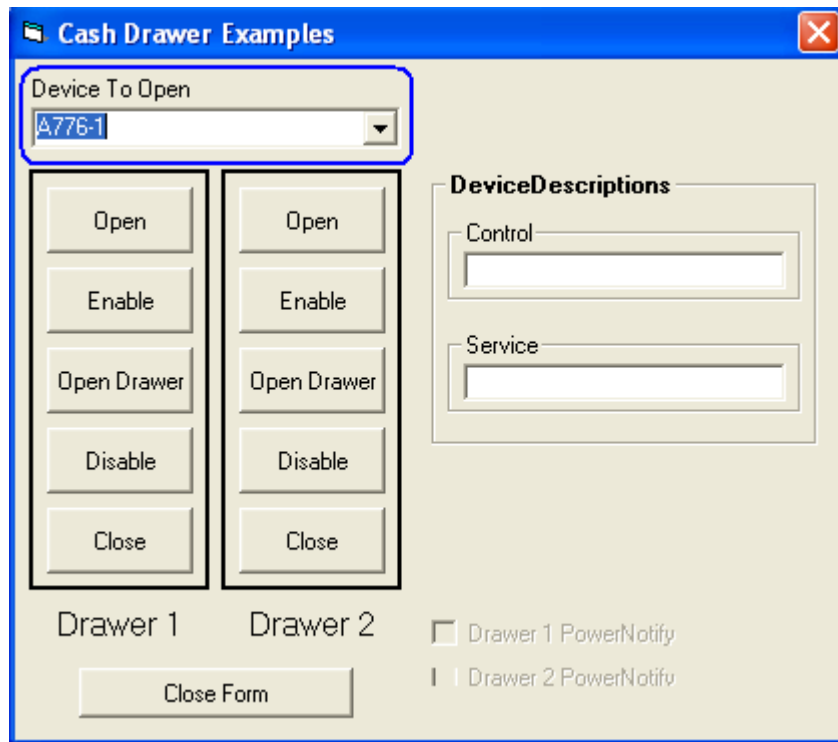
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテストアプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュドロアー) ボタンをクリックします。
3. テスト対象のキャッシュドロアーの該当するデバイス名を選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. **[Open Drawer]** (ドロアーを開ける) ボタンをクリックすると、キャッシュドロアーが開きます。GUIに、キャッシュドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。
7. キャッシュドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。
8. テストユーティリティを終了します。

#### 詳しい手順

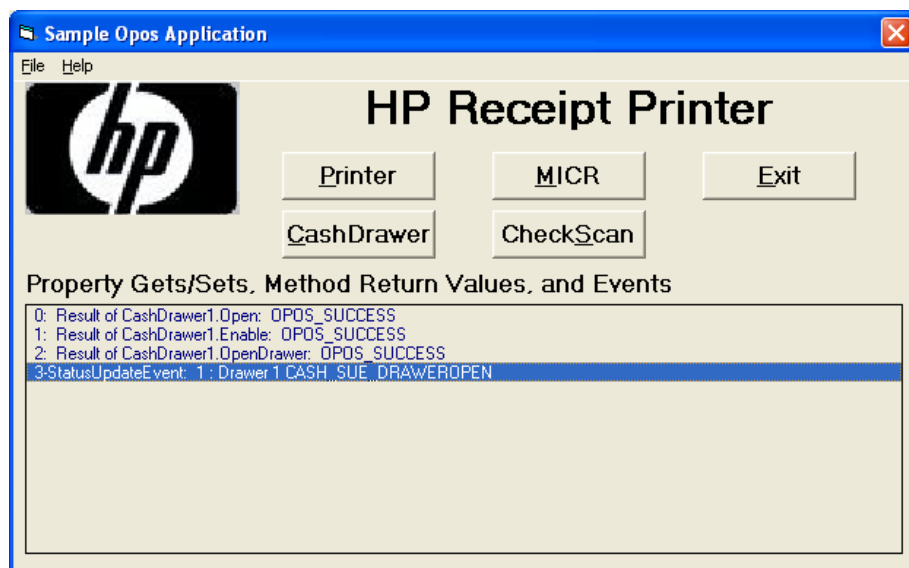
1. **[OPOS Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]**ボタンをクリックします。



3. テスト対象のキャッシュ ドロアーの該当するデバイス名を選択します。

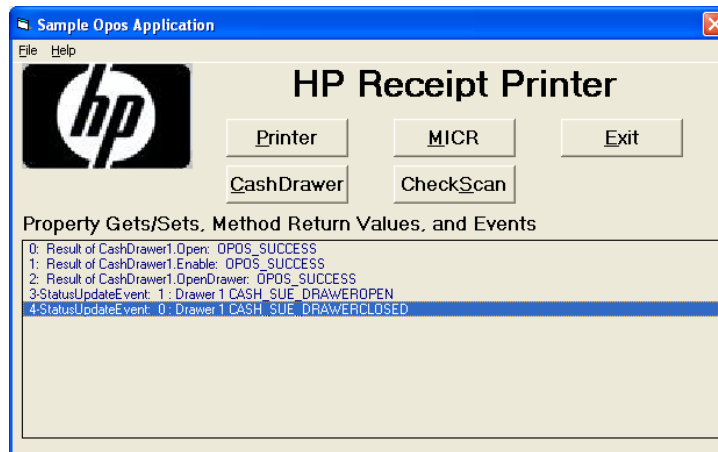


4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Enable]ボタンをクリックします。
6. [Open Drawer]ボタンをクリックすると、キャッシュ ドロアーが開きます。GUIに、キャッシュ ドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。

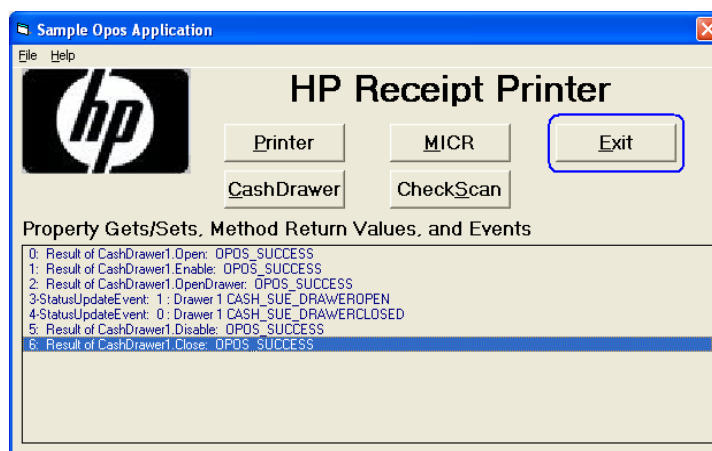
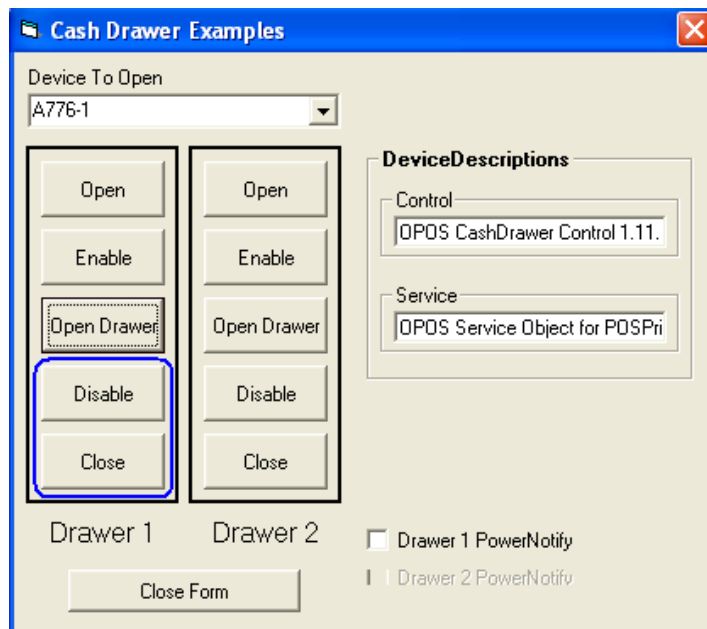




7. キャッシュ ドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュ ドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。



8. [Disable] (無効にする) → [Close] (閉じる) → [Close Form] (フォームを閉じる) → [Exit] (終了) の順にクリックして、テストユーティリティを終了します。



## 6.1.8 キャッシュドロアー用のJPOSドライバー

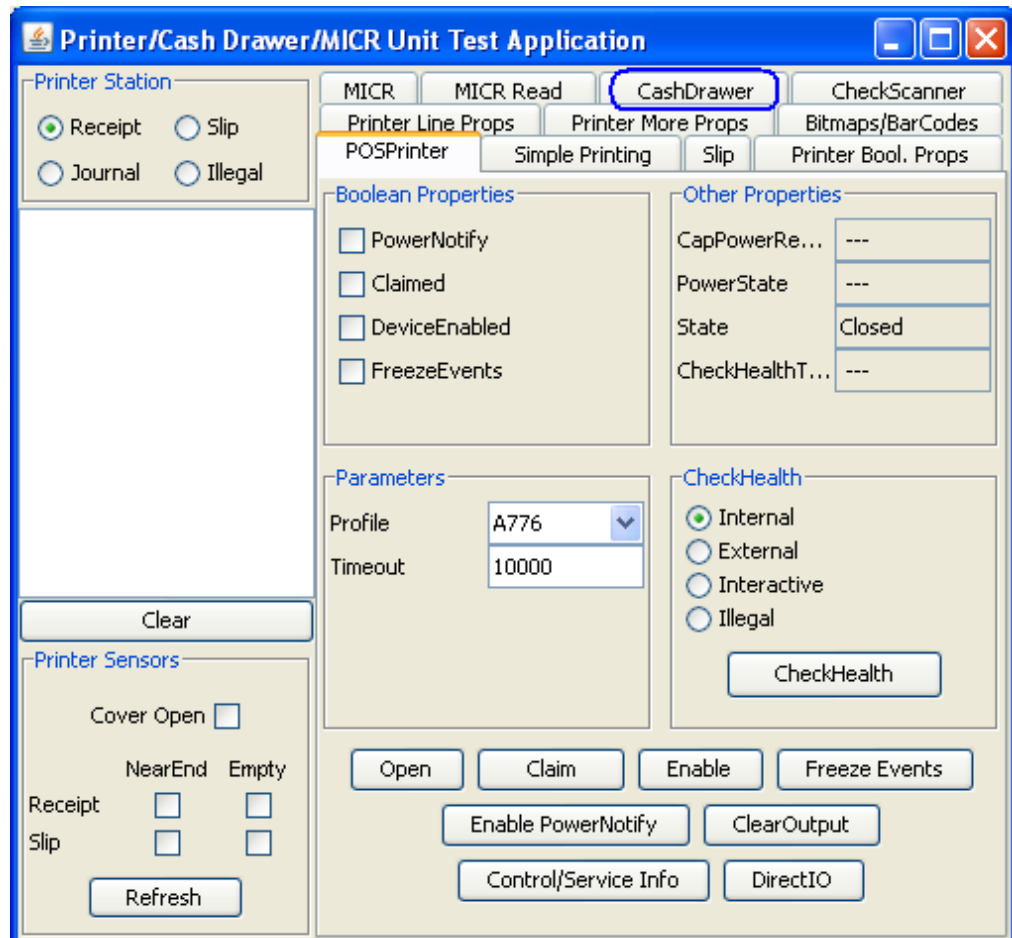
JPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

キャッシュドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]** (プリンター/キャッシュ/MICRユニットテストアプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. [CashDrawer] (キャッシュドロアー) タブをクリックします。
3. [Profile] (プロファイル) ドロップダウンボックスでキャッシュドロアーのモデルを選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. **[Disable]** (無効にする) ボタンをクリックします。
  - b. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
  - c. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
  - d. アプリケーションウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

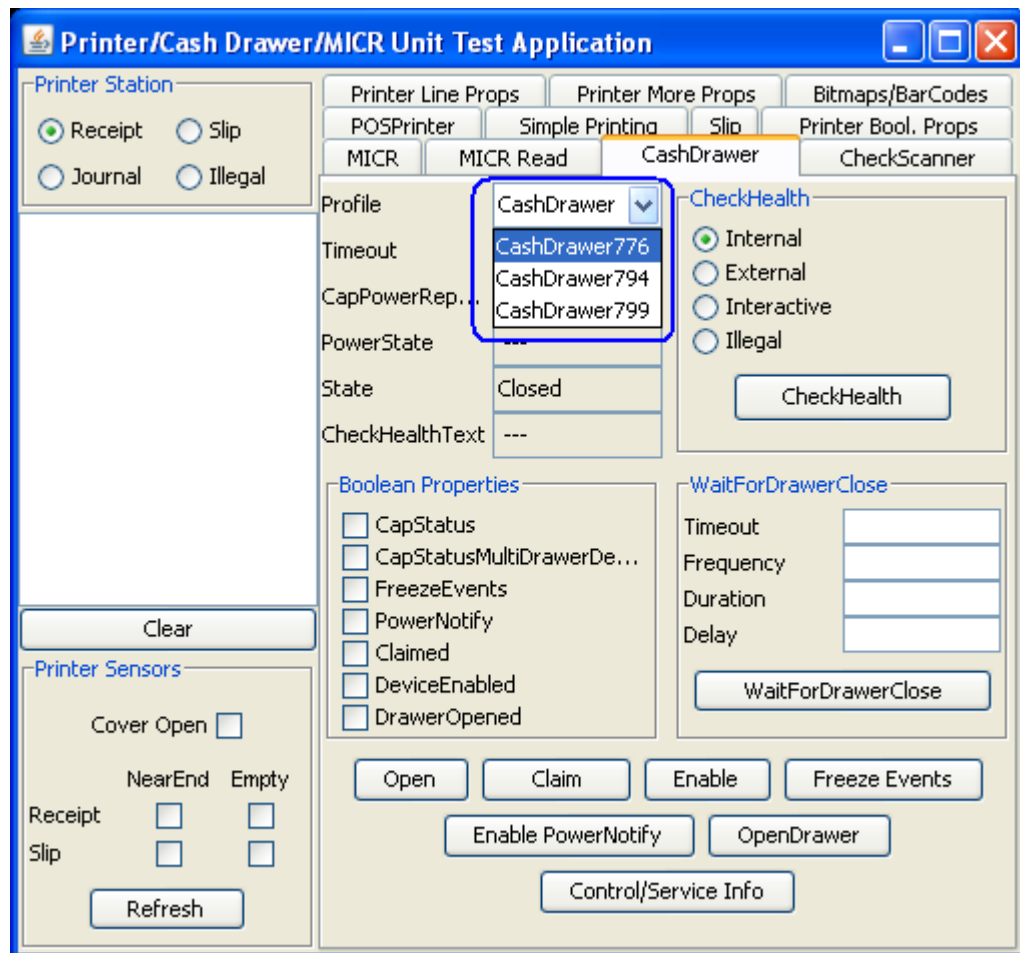
### 詳しい手順

1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. 数秒後、以下のようなJPOSテストユーティリティのGUIが表示されます。[CashDrawer]タブをクリックします。



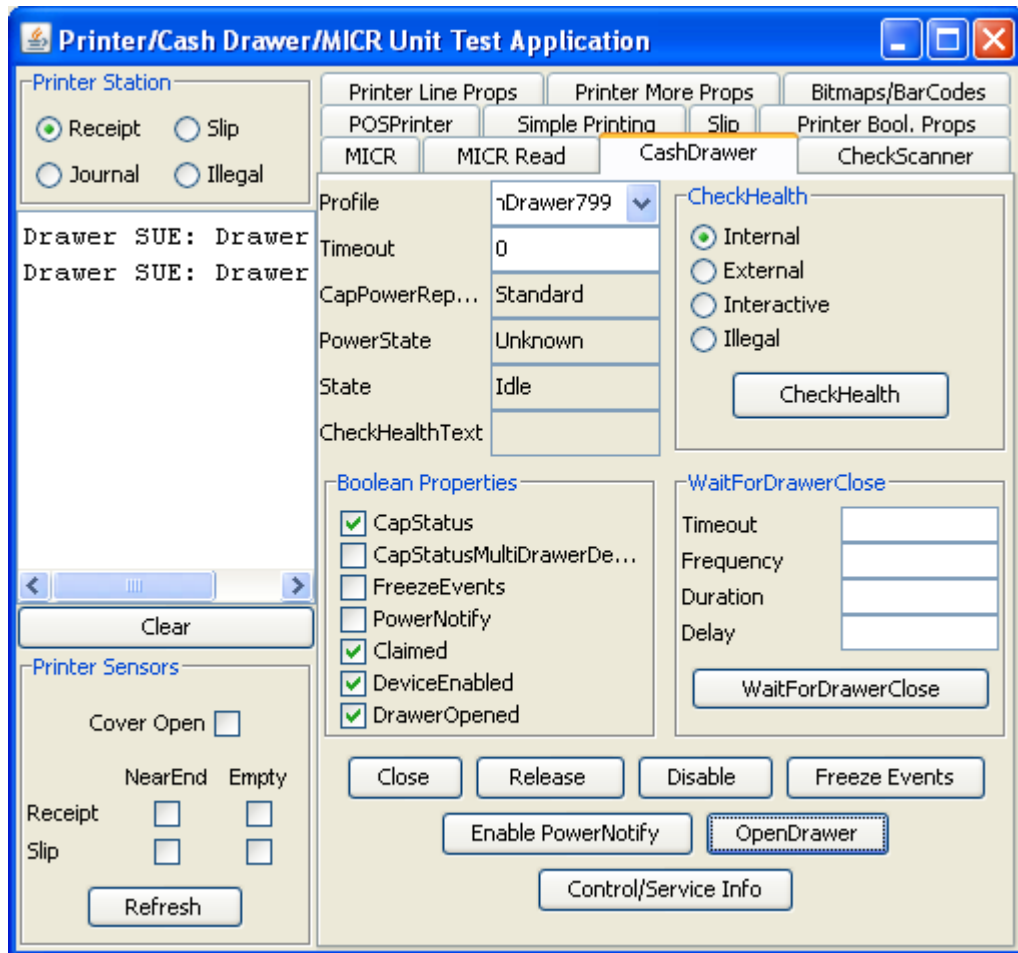


3. [Profile]ドロップダウン ボックスでキャッシュ ドロアーのモデルを選択します。



4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Claim]ボタンをクリックします。

6. [Enable]ボタンをクリックします。



注： JPOSドライバーのバージョン（2012年3月以前のリリース）によっては、[OpenDrawer]（ドロアーを開ける）ボタンをクリックすると、キャッシュ ドロアーがすぐに開きます。[Timeout]（タイムアウト）値が「0」に設定されていると、キャッシュ ドロアーを10秒以内に閉じない場合に「JPOSEXCEPTION CAUGHT」というエラー メッセージが表示されます。これはキャッシュ ドロアーが開いているためなので問題ありません。

7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
- [Disable]ボタンをクリックします。
  - [Release]ボタンをクリックします。
  - [Close]ボタンをクリックします。
  - アプリケーション ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

## 6.2 HPキャッシュドロアーポート

### 6.2.1 接続

HPキャッシュドロアーポートは、以下のデバイスに搭載されているため、取り外しはできません（無効にすることは可能）。お使いのデバイスが以下の一覧にない場合は、「**内蔵キャッシュドロアーポート**」のセクションを参照してください。キャッシュドロアーをHPキャッシュドロアーポートに接続するときは、RJ12タイプのコネクタを使用します。

**注：**HPキャッシュドロアーポートは、DC24Vソレノイド付きのキャッシュドロアーとともに使用します。

以下のデバイスについては、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできる『ハードウェアリファレンスガイド』を参照してください。

HP Engage OneベーシックI/O接続ベース

HP Engage OneリテールアドバンスI/O接続ベース

### 6.2.2 ピン出力

HPキャッシュドロアーポートは、DC24Vソレノイドキャッシュドロアーに対応しています（RJ12コネクタ）。HPキャッシュドロアーポートのピン出力を以下に示します。

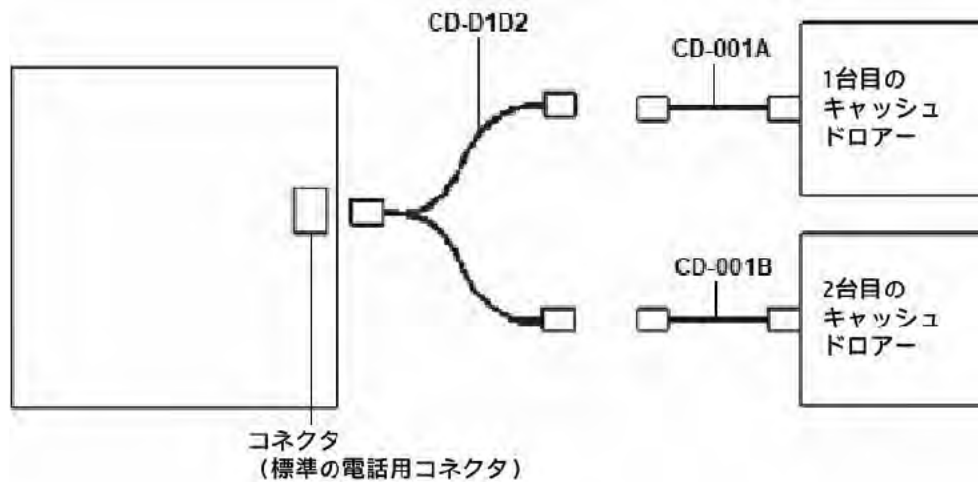
ピン番号	説明
1	シャーシグラウンド
2	ドロアー1 (24V)
3	ドロアーの状態
4	24V
5	ドロアー2 (24V)
6	グラウンド

### 6.2.3 デュアルキャッシュドロアー

デュアル キャッシュ ドロアーを使用するには、Yアダプター (PN : CD-D1D2) および2台目のドロアー用のケーブル (PN : CD-001B) が必要です。以下の図を使用して、キャッシュ ドロアーをHPキャッシュ ドロアー ポートに接続します。

1台目のドロアー**	2台目のドロアー	Yアダプター
CD-001A	CD-001B	CD-D1D2

\*\* このケーブルは、HPキャッシュドロアーに付属のものです。



## 6.2.4 Windowsドライバー

Windowsドライバーは必要ありません。HPキャッシュ ドロアー ポートは、OSによってネイティブでサポートされます。

## 6.2.5 OPOS

HPキャッシュ ドロアー ポートのOPOSはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

## 6.2.6 JPOS

HPキャッシュ ドロアー ポートのJPOSはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

## 6.2.7 キャッシュ ドロアーのテスト

### 6.2.7.1 OPOSでのテスト

**[HP CD Port Two Drawer OPOS Test Application]** (HP CDポート2ドロアーOPOSテスト アプリケーション) は、テスト プロセスの各段階で使用できるボタンおよびオプションのみを表示したり、使用可能な各オプションに関する情報を表示したりすることによって、ユーザーにテスト手順をガイドします。

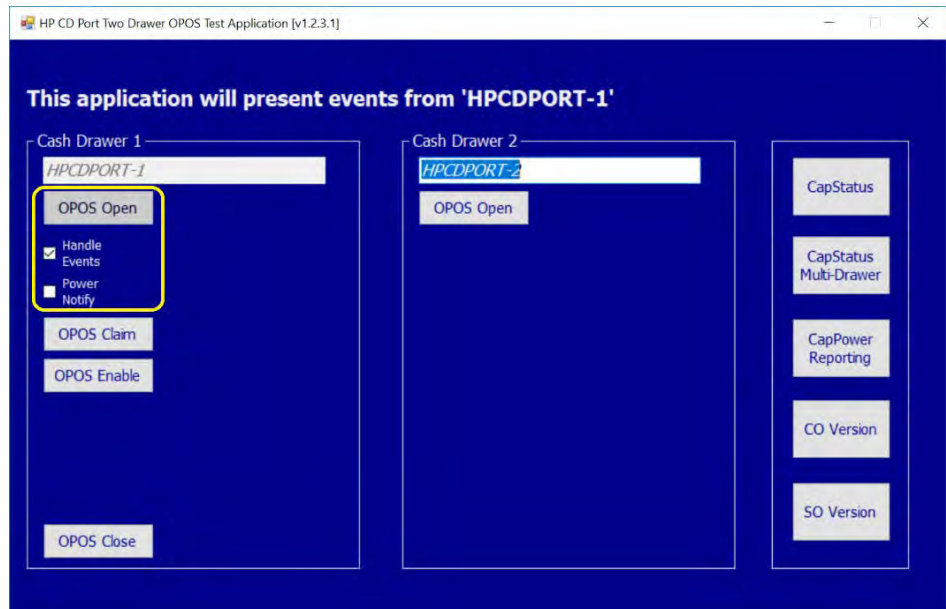
#### 手順

1. **[HP CD Port Two Drawer OPOS Test Application]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Cash Drawer Por OPOS\HPCDPORT\_OPOSTester.exe
2. **[OPOS Open]** (◆OPOS開く◆) ボタンをクリックします。
3. チェック ボックスにチェックを入れて、利用可能なオプションを選択します。
4. **[OPOS Claim]** (◆OPOS要求◆) ボタンをクリックします。
5. **[OPOS Enable]** (◆OPOS有効にする◆) ボタンをクリックします。
6. **[Get Status]** (◆ステータスの取得◆) ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。
7. **[Open Drawer]** (ドロアーを開ける) ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開きます。
8. **[Get Status]**ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。
9. キャッシュ ドロアーを閉めます。
10. **[OPOS Disable]** (◆OPOS無効にする◆) ボタンをクリックします。
11. **[OPOS Release]** (◆OPOSリリース◆) ボタンをクリックします。
12. **[OPOS Close]** (◆OPOS閉じる◆) ボタンをクリックします。
13. **[HP CD Port Two Drawer OPOS Test Application]**を終了します。

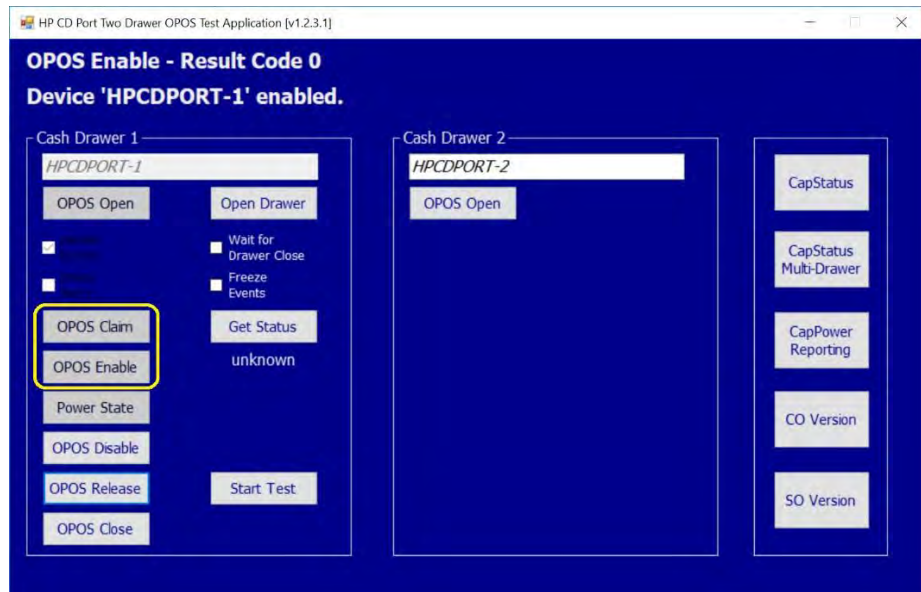
#### 詳しい手順

1. **[HP CD Port Two Drawer OPOS Test Application]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Cash Drawer Port OPOS\HPCDPORT\_OPOSTester.exe.

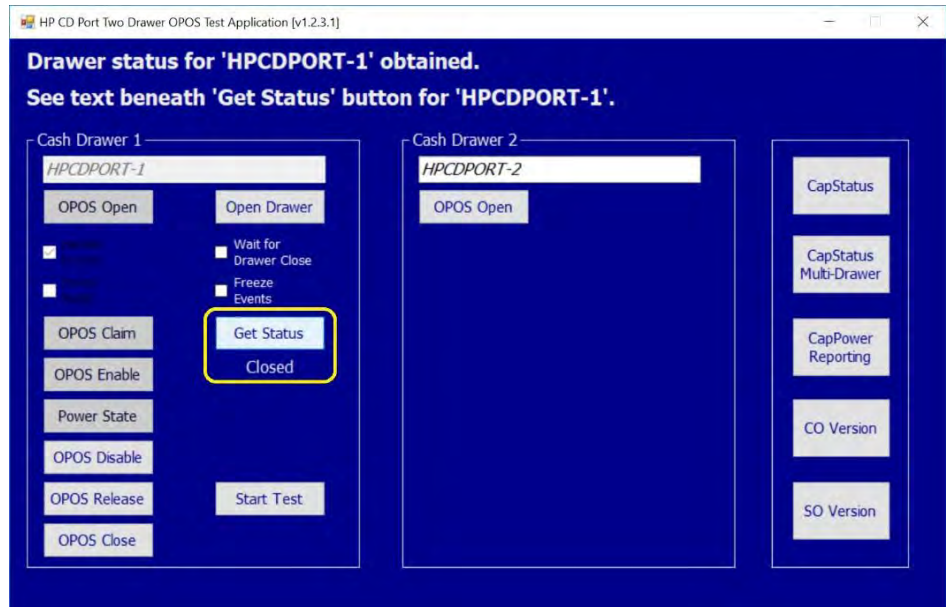
2. [OPOS Open]ボタンをクリックします。
3. チェックボックスにチェックを入れて、利用可能なオプションを選択します。



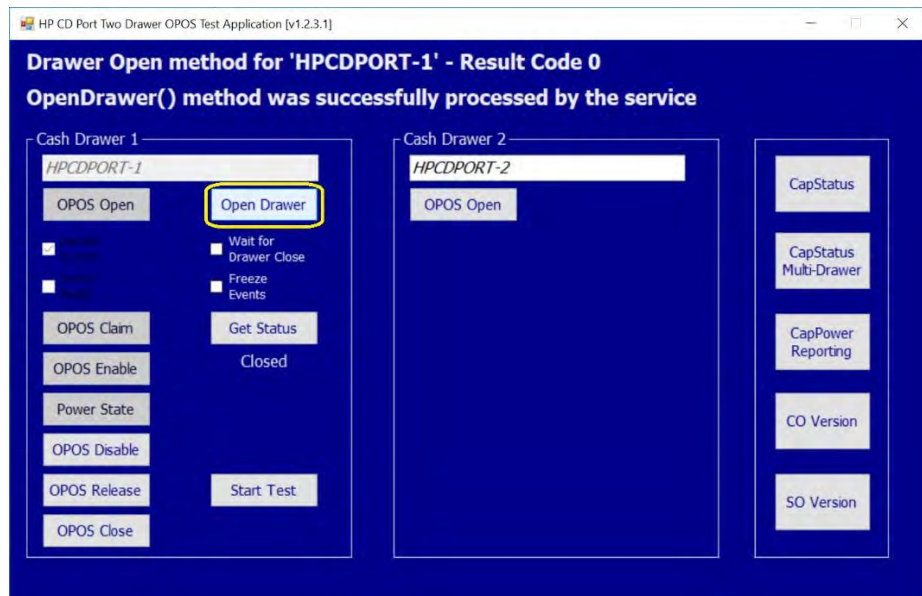
4. [OPOS Claim]ボタンをクリックします。
5. [OPOS Enable]ボタンをクリックします。



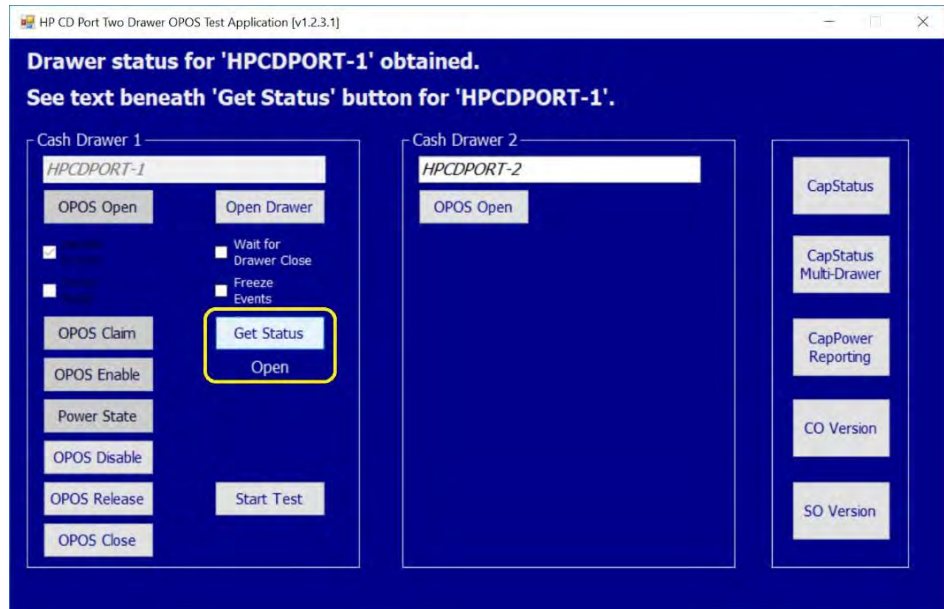
6. [Get Status]ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。



7. [Open Drawer]ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開きます。



8. **[Get Status]**ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。



9. キャッシュ ドロアーを閉めます。
10. **[OPOS Disable]**ボタンをクリックします。
11. **[OPOS Release]**ボタンをクリックします。
12. **[OPOS Close]**ボタンをクリックします。
13. **[HP CD Port Two Drawer OPOS Test Application]**を終了します。



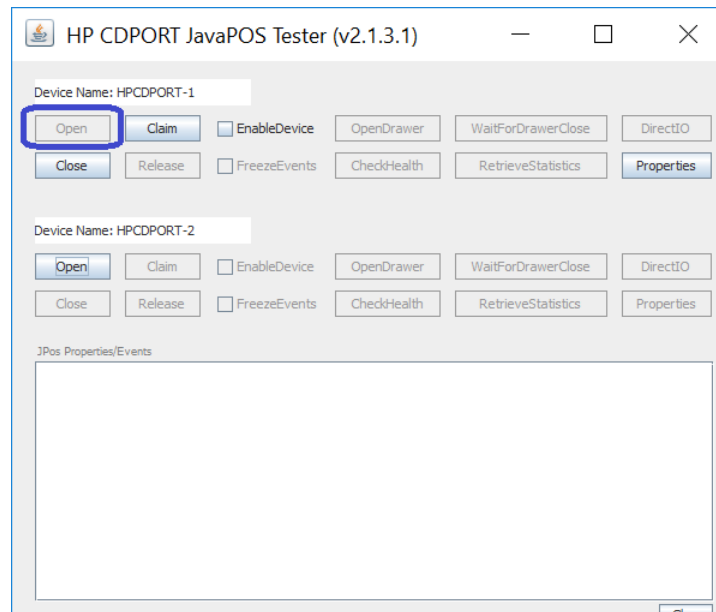
## 6.2.7.2 JPOSでのテスト

### 手順

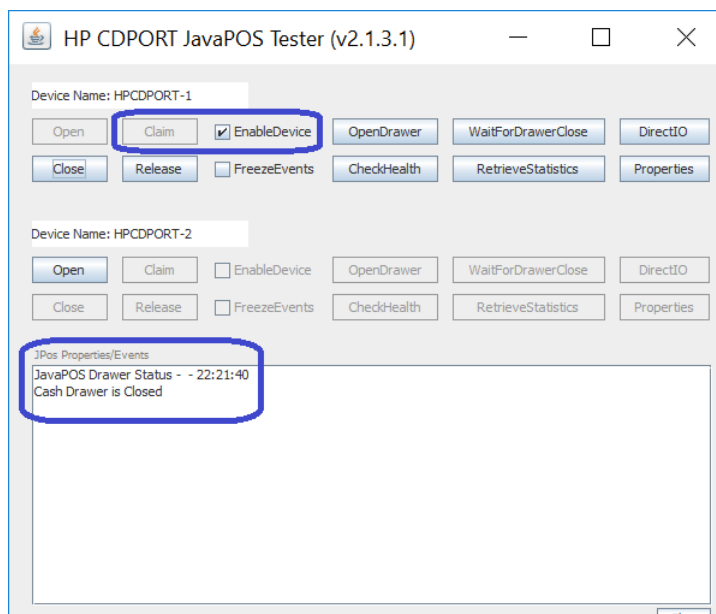
1. **[HP CDPORT JavaPOS Tester]** (HP CDPORT JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Cash Drawer Port  
JPOS\service\HPCDPORT\_JPOSTester\HPCDPORT\_JPOSTester.bat
2. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
3. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
4. **[EnableDevice]** (◆デバイスを有効にする◆) チェック ボックスにチェックを入れます。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。
5. **[OpenDrawer]** (ドロアーを開ける) ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開き、キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。
6. キャッシュ ドロアーを閉めます。
7. **[EnableDevice]** チェック ボックスのチェックを外します。
8. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
9. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
10. **[HP CDPORT JavaPOS Tester]** を終了します。

### 詳しい手順

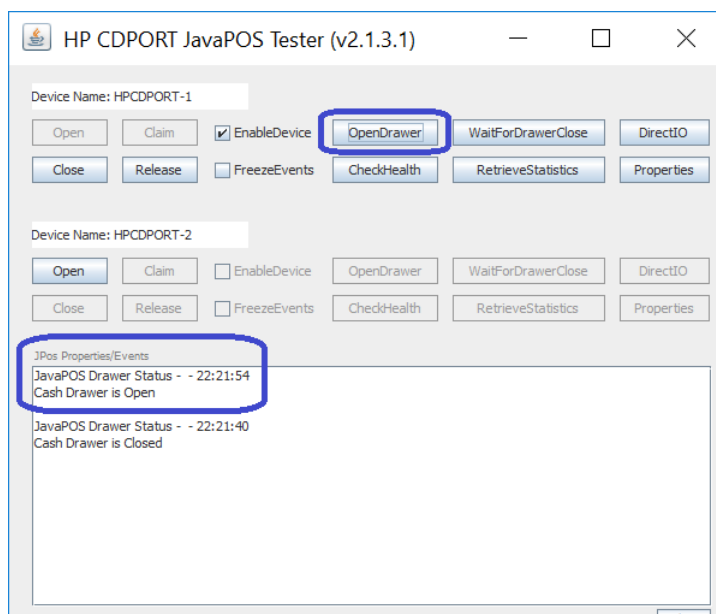
1. **[HP CDPORT JavaPOS Tester]** を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Cash Drawer Port  
JPOS\service\HPCDPORT\_JPOSTester\HPCDPORT\_JPOSTester.bat
2. **[Open]** ボタンをクリックします。



3. **[Claim]**ボタンをクリックします。
4. **[EnableDevice]**チェック ボックスにチェックを入れます。キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。



5. **[OpenDrawer]**ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開き、キャッシュ ドロアーのステータスが表示されます。



6. キャッシュ ドロアーを閉めます。
7. **[EnableDevice]**チェック ボックスのチェックを外します。
8. **[Release]**ボタンをクリックします。
9. **[Close]**ボタンをクリックします。
10. **[HP CDPORT JavaPOS Tester]**を終了します。

## 6.3 HP内蔵キャッシュドロアーポート

### 6.3.1 接続

HP内蔵キャッシュドロアーポートは、以下のデバイスに搭載されているため、取り外しはできません（無効にすることは可能）。お使いのデバイスが以下の一覧にない場合は、「[HPキャッシュドロアーポート](#)」のセクションを参照してください。キャッシュドロアーをHP内蔵キャッシュドロアーポートに接続するときは、RJ12タイプのコネクタを使用します。

**注：**内蔵キャッシュドロアーポートは、DC24Vソレノイド付きのキャッシュドロアーとともに使用しません。

以下のシステムについては、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](#)から入手することもできる『ハードウェアリファレンスガイド』を参照してください。

HP Engage Flex Pro Retail System  
HP Engage Flex Pro-C Retail System  
HP RP9 G1 Retail System

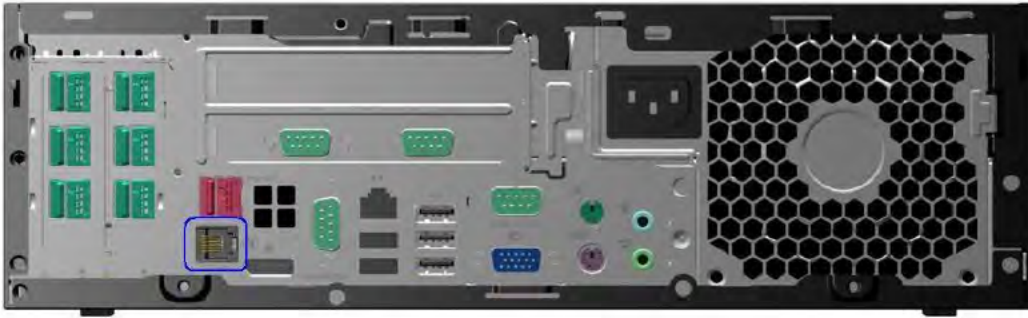
- HP RP2 Model 2000/2030 :



- HP rp3100 :



- HP rp5800およびHP rp5810 :



- HP RP7 Model 7100/7800 :



### 6.3.2 ピン出力

内蔵キャッシュ ドロアー ポートは、DC24Vソレノイド キャッシュ ドロアーに対応しています (RJ12コネクタ)。内蔵キャッシュ ドロアー ポートのピン出力を以下に示します。

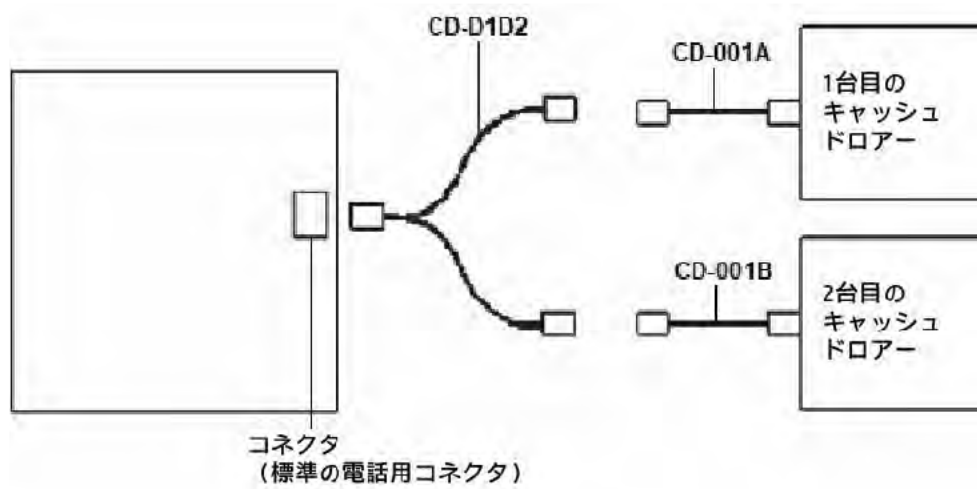
ピン番号	説明
1	シャーシグラウンド
2	ドロアー-1 (24V)
3	ドロアーの状態
4	24V
5	ドロアー-2 (24V)
6	グラウンド

### 6.3.3 デュアル キャッシュ ドロアー

デュアル キャッシュ ドロアーを使用するには、Yアダプター (PN : CD-D1D2) および2台目のドロアー用のケーブル (PN : CD-001B) が必要です。以下の図を使用して、キャッシュ ドロアーをHPキャッシュ ドロアー ポートに接続します。

1台目のドロアー**	2台目のドロアー	Yアダプター
CD-001A	CD-001B	CD-D1D2

\*\* このケーブルは、HPキャッシュ ドロアーに付属のものです。



### 6.3.4 内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のドライバーおよびユーティリティ

内蔵キャッシュ ドロアー ポートは、以下のセクションで説明するいくつかのユーティリティを使用してテストできます。

### 6.3.5 内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のOPOSドライバー

内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のOPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

#### 6.3.5.1 [HP Integrated OPOS Cash Drawer Utility] (HP内蔵OPOSキャッシュ ドロアー ユーティリティ)

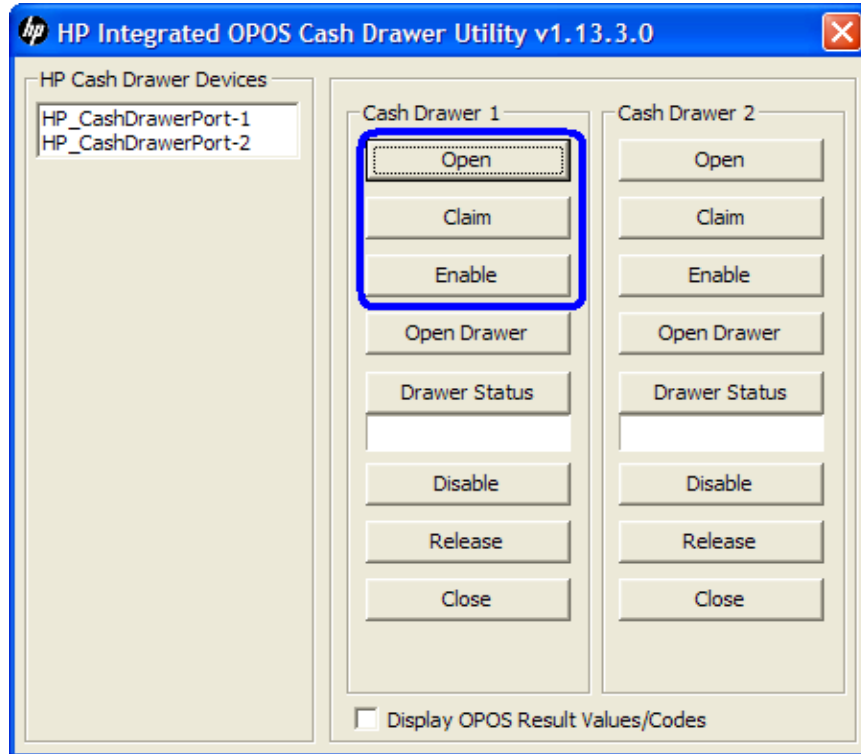
キャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[HP Integrated OPOS Cash Drawer Utility]** (HP内蔵OPOSキャッシュ ドロアー ユーティリティ)を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\Hewlett-Packard\HP Integrated Cash Drawer\OPOS\HPOPOSCDUtility.exe.
2. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
3. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。
4. [Enable] (有効にする) ボタンをクリックします。[Drawer Status] (ドロアーの状態) にキャッシュ ドロアーの現在の状態を表すステータスイベントが表示されます。
5. [Open Drawer] (ドロアーを開ける) ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが開いた状態であることが示されず。
6. キャッシュ ドロアーを閉じます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることが示されます。
7. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
  - [Disable] (無効にする) ボタンをクリックします。
  - [Release] (リリース) ボタンをクリックします。
  - [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。
  - ユーティリティ ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

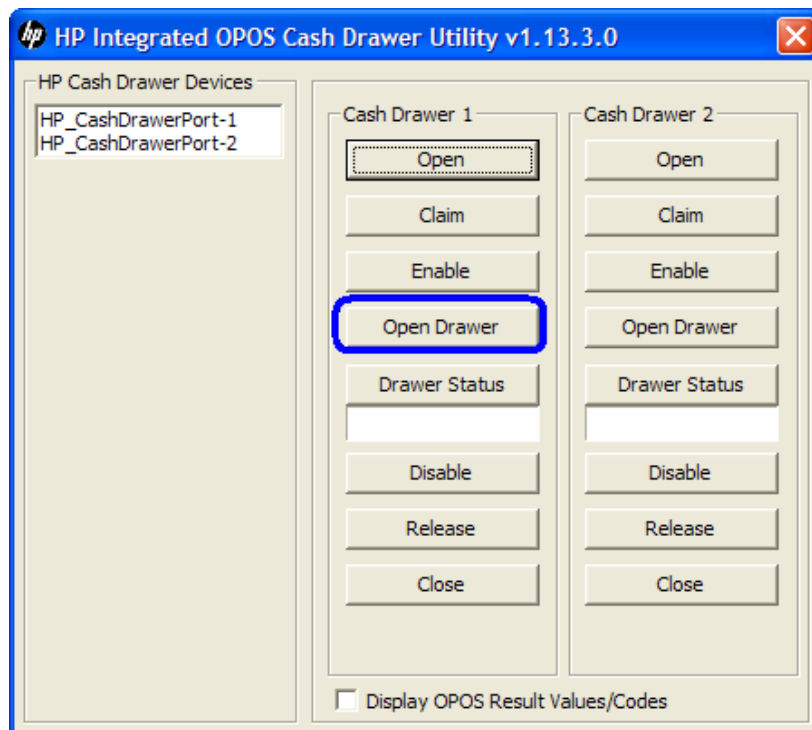
#### 詳しい手順

1. [HP Integrated OPOS Cash Drawer Utility]を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\Hewlett-Packard\HP Integrated Cash Drawer\OPOS\HPOPOSCDUtility.exe.

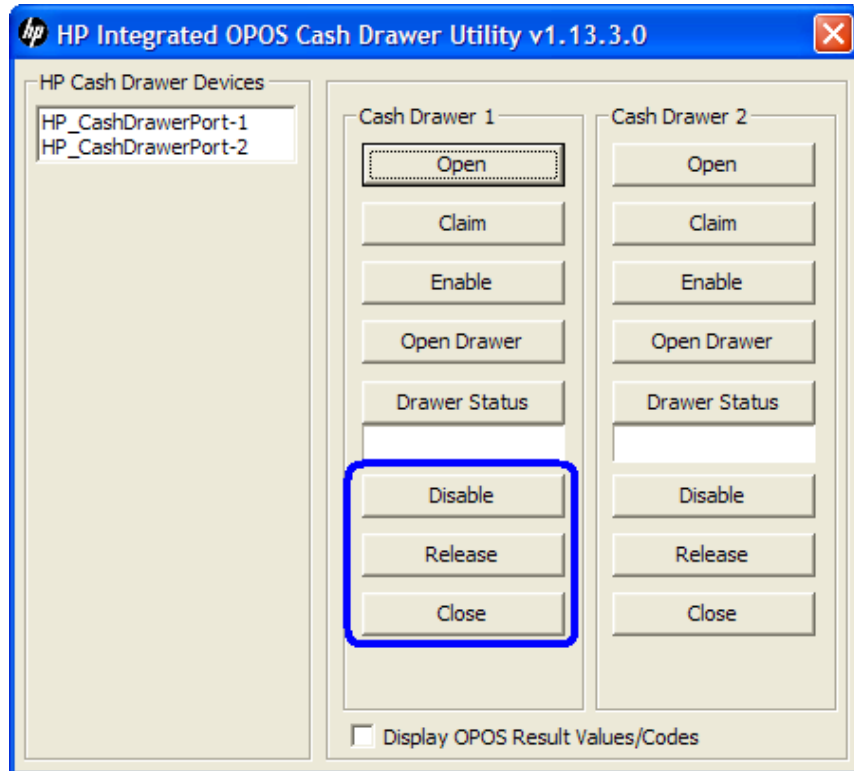
2. [Open]ボタンをクリックします。
3. [Claim]ボタンをクリックします。
4. [Enable]ボタンをクリックします。[Drawer Status]にキャッシュ ドロアーの現在の状態を表すステータス イベントが表示されます。



5. [Open Drawer]ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが開いた状態であることが示されます。



6. キャッシュ ドロアーを閉じます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることが示されます。
7. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
  - [Disable]ボタンをクリックします。
  - [Release]ボタンをクリックします。
  - [Close]ボタンをクリックします。
  - ユーティリティ ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。





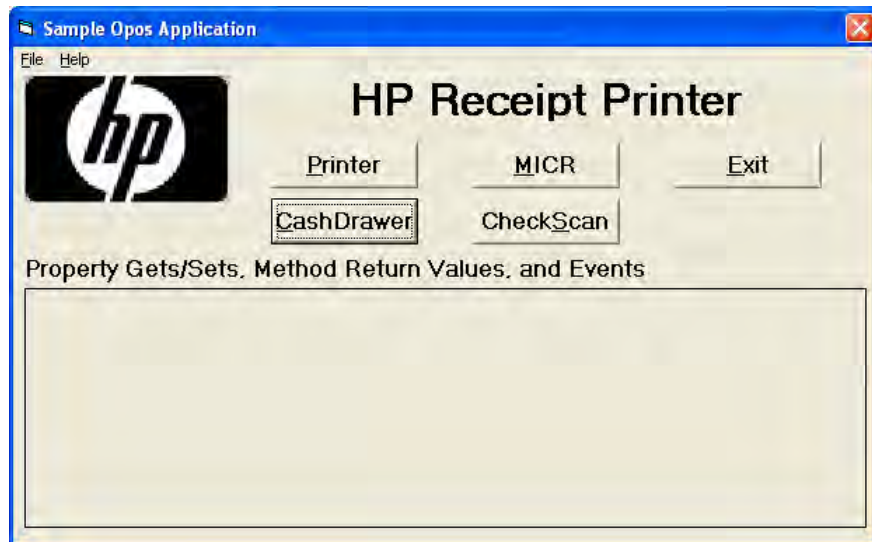
### 6.3.5.2 OPOSキャッシュ ドロアーおよびプリンターのユーティリティ

このユーティリティは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP USB Receipt Printer OPOS Test Application]のSoftpaqをダウンロードしてインストールすることも入手できます。キャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

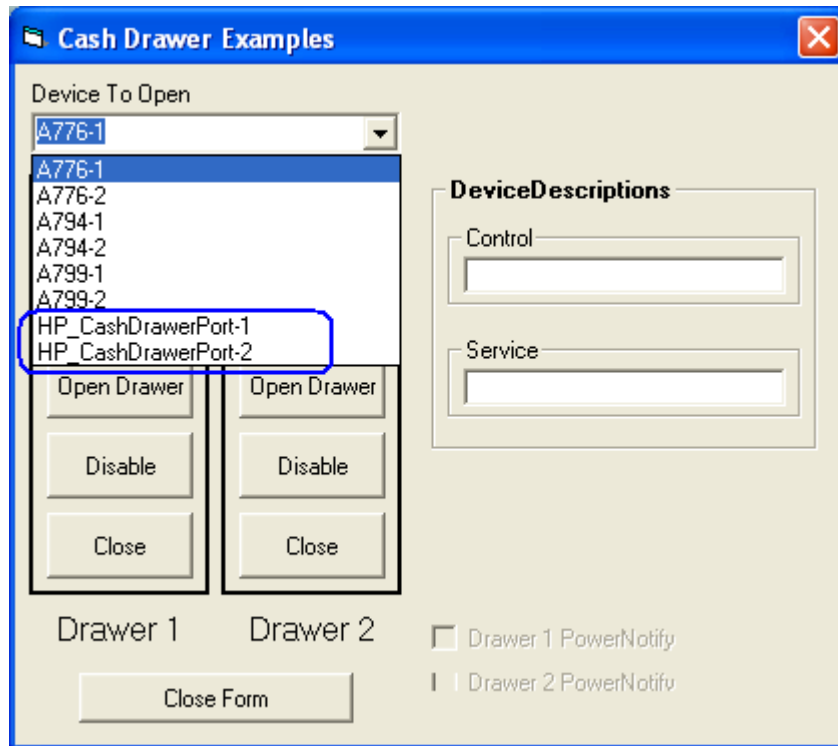
1. [OPOS Test Application] (OPOSテストアプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. [CashDrawer] (キャッシュ ドロアー) ボタンをクリックします。
3. [Device To Open] (開くデバイス) で、テスト対象のキャッシュ ドロアーのデバイス名を選択します。
4. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
5. [Enable] (有効にする) ボタンをクリックします。
6. [Open Drawer] (ドロアーを開ける) ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。キャッシュ ドロアーが開いた状態であることを示す[StatusUpdateEvent]が表示されます。
7. キャッシュ ドロアーを閉じます。キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることを示す[StatusUpdateEvent]が表示されます。
8. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
  - [Disable] (無効にする) ボタンをクリックします。
  - [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。
  - ユーティリティ ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

#### 詳しい手順

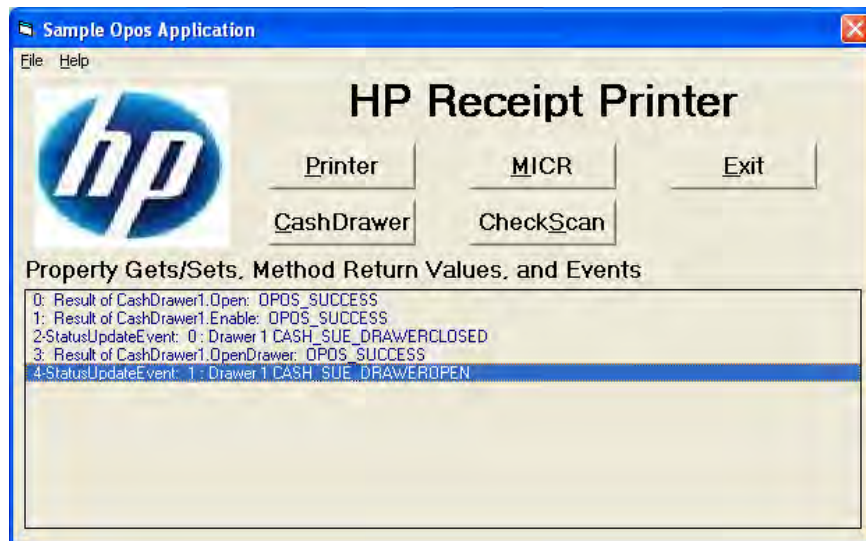
1. [OPOS Test Application]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. [CashDrawer]ボタンをクリックします。



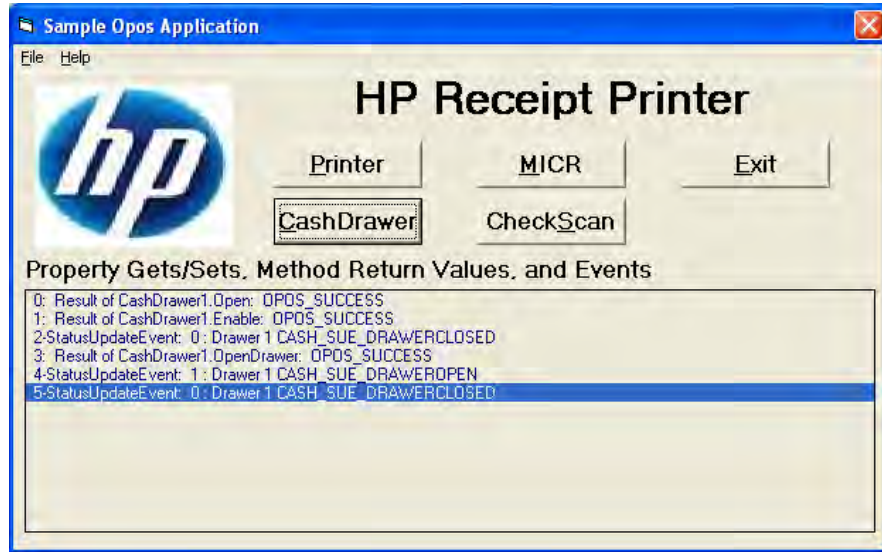
3. [Device To Open]で、テスト対象のキャッシュ ドロアーのデバイス名を選択します。



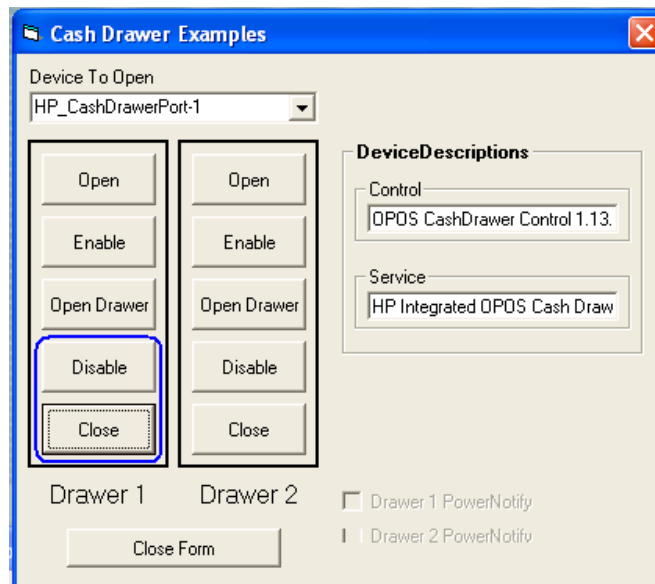
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Enable]ボタンをクリックします。
6. [Open Drawer]ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。キャッシュ ドロアーが開いた状態であることを示す[StatusUpdateEvent]が表示されます。

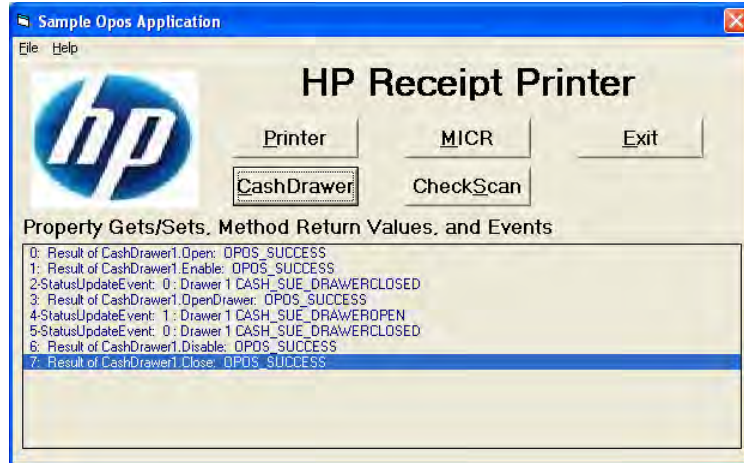


7. キャッシュ ドロアーを閉じます。キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることを示す [StatusUpdateEvent]が表示されます。



8. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
- [Disable]ボタンをクリックします。
  - [Close]ボタンをクリックします。
  - ユーティリティ ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。





## 6.3.6 内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のJPOSドライバー

内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のJPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

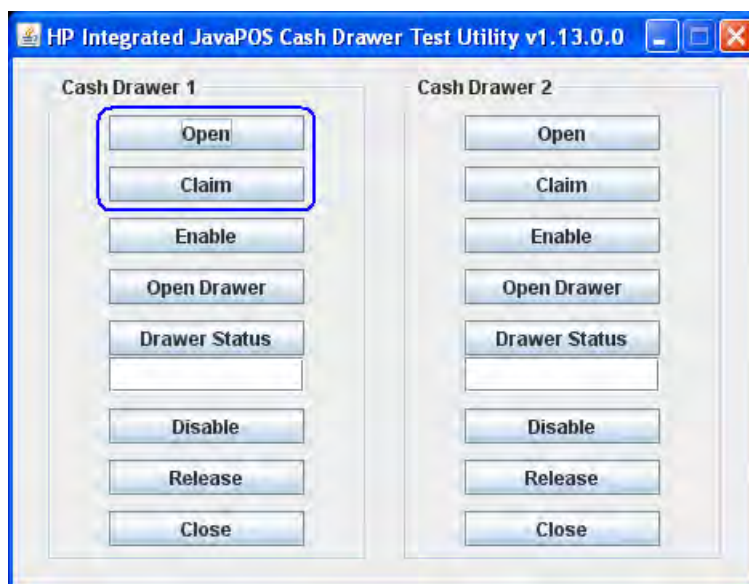
### 6.3.6.1 内蔵キャッシュ ドロアー ポート用のJPOSテストアプレット

キャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. [HP Integrated JavaPOS Cash Drawer Utility] (HP内蔵JavaPOSキャッシュ ドロアー ユーティリティ) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\Hewlett-Packard\HP Integrated Cash Drawer\JavaPOS\service\HPJPosCDUtility.exe.
2. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
3. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。
4. [Enable] (有効にする) ボタンをクリックします。[Drawer Status] (ドロアーの状態) にキャッシュ ドロアーの現在の状態を表すステータスイベントが表示されます。
5. [Open Drawer] (ドロアーを開ける) ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが開いた状態であることが示されます。
6. キャッシュ ドロアーを閉じます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることが示されます。
7. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
  - [Disable] (無効にする) ボタンをクリックします。
  - [Release] (リリース) ボタンをクリックします。
  - [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。
  - ユーティリティ ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

#### 詳しい手順

1. [HP Integrated JavaPOS Cash Drawer Utility]を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\Hewlett-Packard\HP Integrated Cash Drawer\JavaPOS\service\HPJPosCDUtility.exe.
2. [Open]ボタンをクリックします。
3. [Claim]ボタンをクリックします。



4. [Enable]ボタンをクリックします。[Drawer Status]にキャッシュ ドロアーの現在の状態を表すステータスイベントが表示されます。



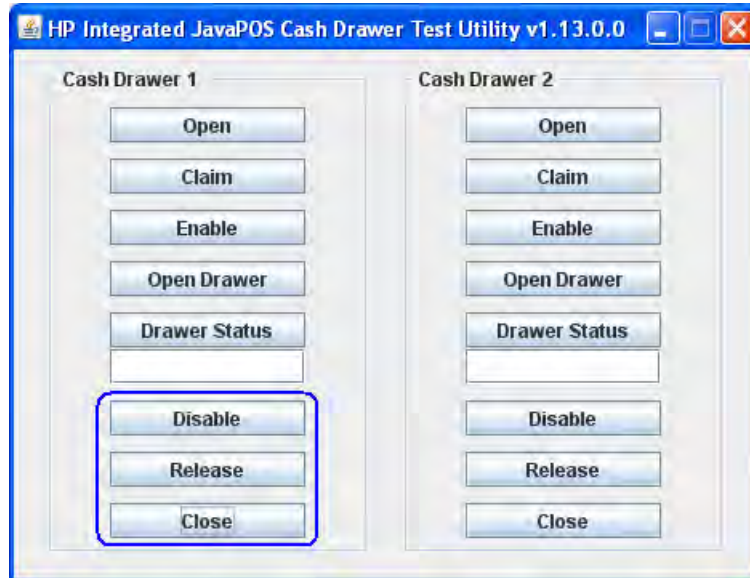
5. [Open Drawer]ボタンをクリックして、キャッシュ ドロアーを開けます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが開いた状態であることが示されます。



6. キャッシュ ドロアーを閉じます。[Drawer Status]が変わり、キャッシュ ドロアーが閉じた状態であることが示されます。



7. 以下の操作を行って、ユーティリティを終了します。
- [Disable]ボタンをクリックします。
  - [Release]ボタンをクリックします。
  - [Close]ボタンをクリックします。
  - ユーティリティウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。



## 6.4 HP USBキャッシュドロアー



### 6.4.1 接続

HP USBキャッシュ ドロアーは、空いている任意のUSBポートに接続できます。USBキャッシュ ドロアーを電源供給機能付きUSBポート（供給電圧5 V）に接続することもできますが、その場合はUSBポートの電源供給機能は使用されません。

### 6.4.2 HP USBキャッシュ ドロアー用のドライバーおよびユーティリティ

HP USBキャッシュ ドロアーは、このガイドの以下のセクションで説明するいくつかのユーティリティを使用してテストできます。

### 6.4.3 USBキャッシュ ドロアー用のWindowsテスト ユーティリティ

Windows環境でUSBキャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

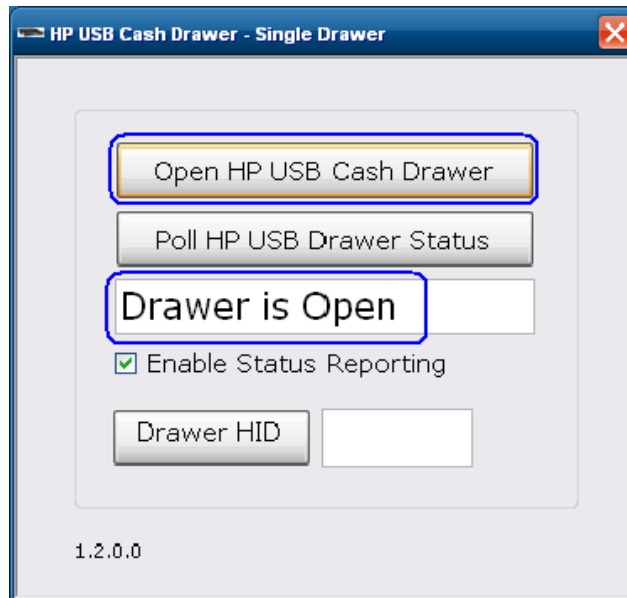
1. USBキャッシュ ドロアーが本体に接続されていることを確認します。
2. **[HP USB Cash Drawer - Single Drawer]**（HP USBキャッシュ ドロアー：シングル ドロアー）を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\USB Cash Drawer Windows\HP\_USB\_Cash\_Drawer.exe.
3. [Open Cash Drawer]（キャッシュ ドロアーを開ける）ボタンをクリックすると、ドロアーが開き、ステータスが表示されます。
4. キャッシュ ドロアーを閉じます。
5. 右上隅にある[X]ボタンをクリックしてユーティリティを終了します。

#### 詳しい手順

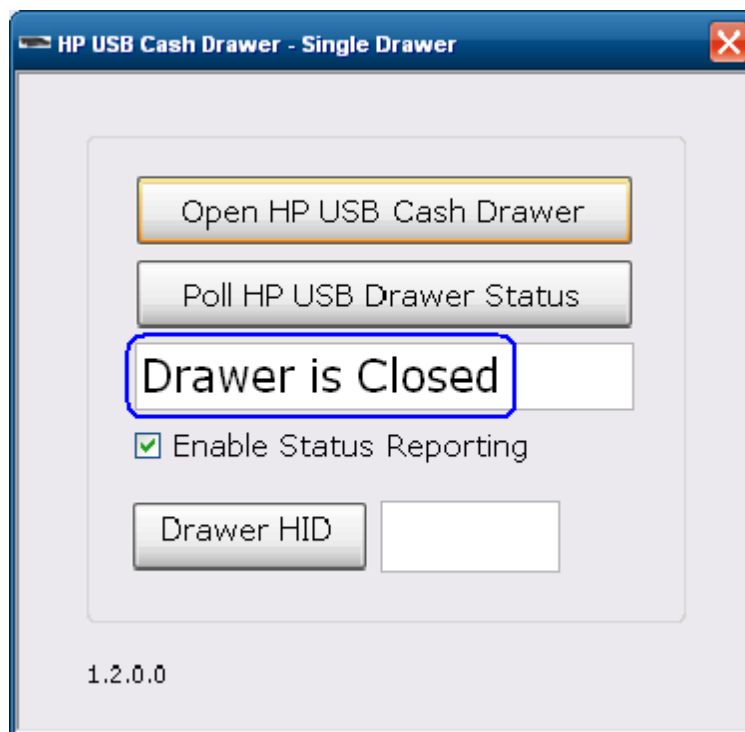
1. USBキャッシュ ドロアーが本体に接続されていることを確認します。
2. **[HP USB Cash Drawer - Single Drawer]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\USB Cash Drawer Windows\HP\_USB\_Cash\_Drawer.exe.



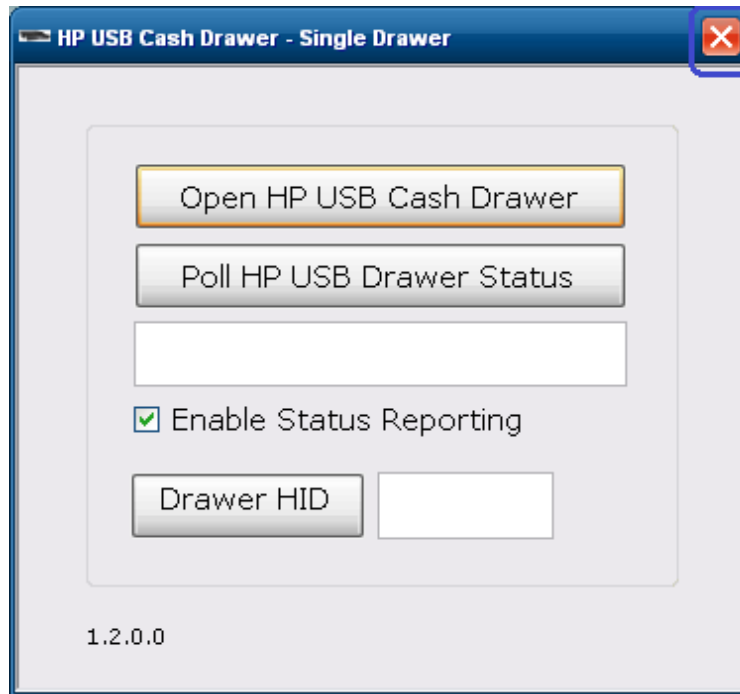
3. [Open Cash Drawer]ボタンをクリックすると、ドロアーが開き、ステータスが表示されます。



4. キャッシュドロアーを閉じます。



5. 右上隅にある[X]ボタンをクリックしてユーティリティを終了します。



## 6.4.4 HP USBキャッシュ ドロアー用のOPOSドライバー

HP USBキャッシュ ドロアー ポート用のドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

### 6.4.4.1 OPOSキャッシュ ドロアーおよびプリンターのユーティリティ

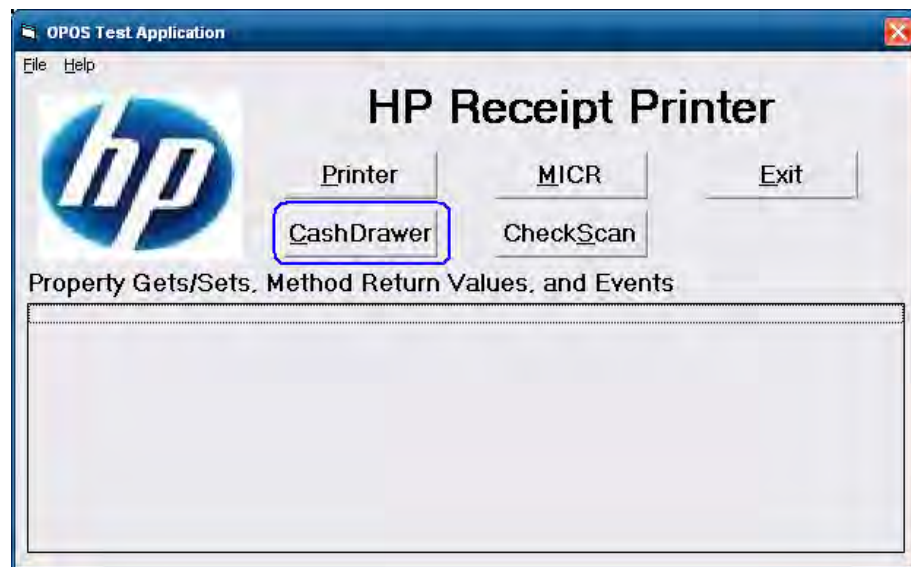
キャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

#### 手順

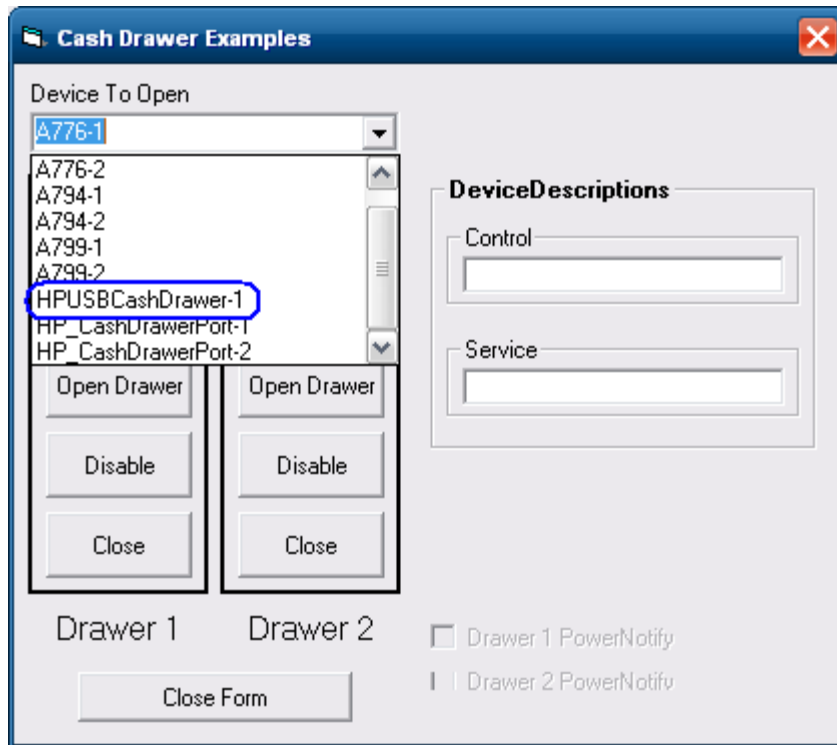
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\Cash Drawer OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュ ドロアー) ボタンをクリックします。
3. テスト対象のキャッシュ ドロアーの該当するデバイス名を選択します。HP USBキャッシュ ドロアーのOPOS名は、**HPUSBCashDrawer-1**です。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. **[Open Drawer]** (ドロアーを開ける) ボタンをクリックすると、キャッシュ ドロアーが開きます。GUIに、キャッシュ ドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。
7. キャッシュ ドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュ ドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。
8. **[Disable]** (無効にする) ボタン→**[Close]** (閉じる) ボタン→**[Close Form]** (フォームを閉じる) の順にクリックしてから、右上にある[X]ボタンをクリックして終了します。

#### 詳しい手順

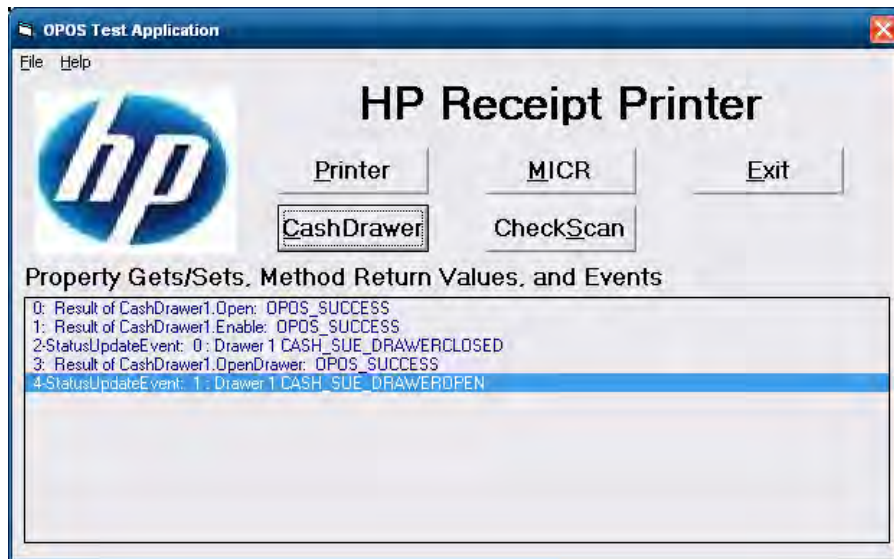
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\Cash Drawer OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュ ドロアー) ボタンをクリックします。



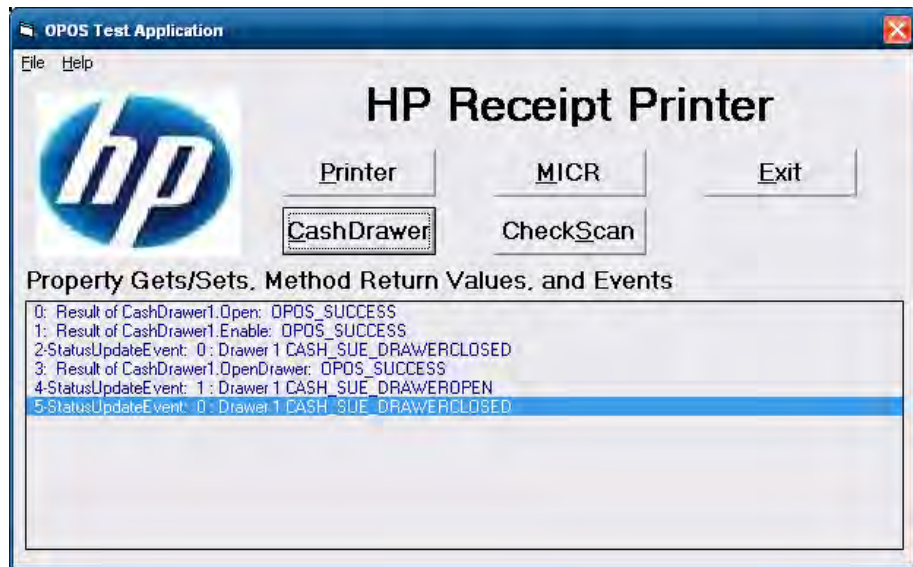
3. テスト対象のキャッシュ ドロアーの該当するデバイス名を選択します。HP USBキャッシュドロアーのOPOS名は、**HPUSBCashDrawer-1**です。



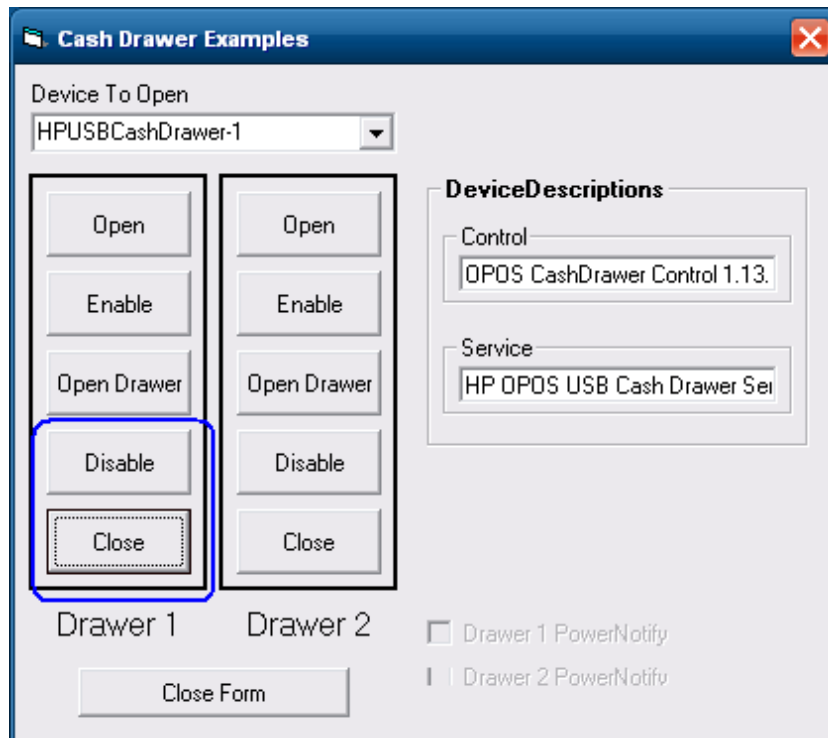
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Enable]ボタンをクリックします。
6. [Open Drawer]ボタンをクリックすると、キャッシュ ドロアーが開きます。GUIに、キャッシュドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。



7. キャッシュ ドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュ ドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。



8. [Disable]ボタン→[Close]ボタン→[Close Form]の順にクリックしてから、右上にある[X]ボタンをクリックして終了します。



#### 6.4.4.2 デュアルキャッシュ ドロアー接続

デュアル構成のUSBキャッシュ ドロアーの場合、2台目のHP USBキャッシュ ドロアーをUSB接続で取り付けます。

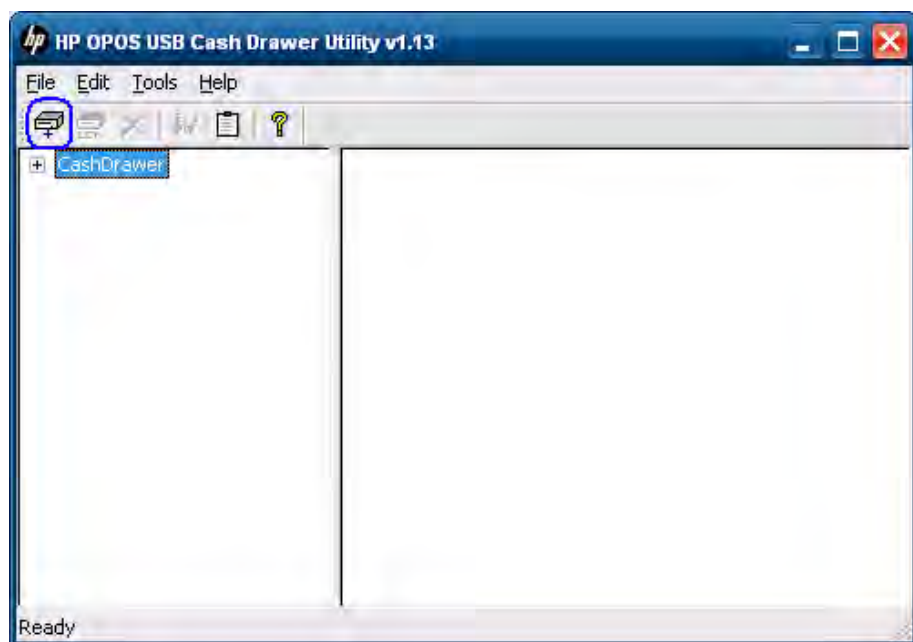
OPOSに両方のキャッシュ ドロアーを認識させるため、2台目のUSBキャッシュ ドロアーを追加する手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

##### 手順

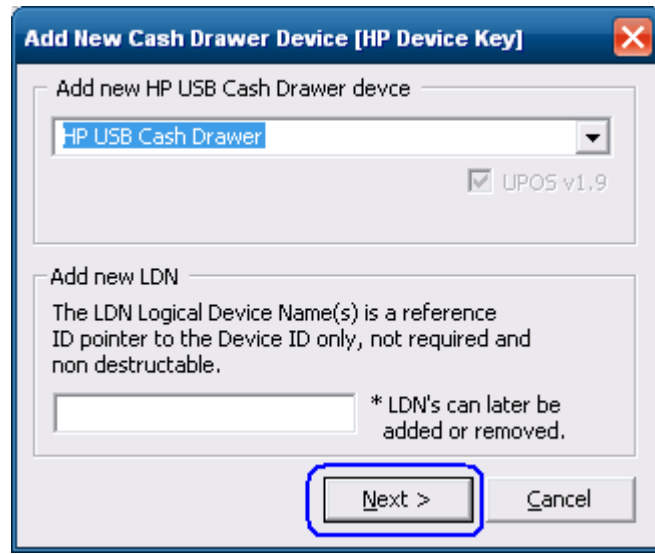
1. **[HP OPOS USB Cash Drawer Utility]** (HP OPOS USBキャッシュ ドロアー ユーティリティ) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP USB Cash Drawer- OPOS\HPCDUtility.exe
2. **[Add New HP USB Cash Drawer Device]** (◆新しいHP USBキャッシュ ドロアー デバイスの追加 ◆) アイコンをクリックするか、**[Edit]** (編集) メニューの**[Add Device]** (デバイスの追加) を選択します。
3. **[Next]** (次へ) ボタンをクリックします。
4. **[Health Check (Interactive)]** (ヘルスチェック (対話型)) ボタンをクリックします。
5. **[OK]** ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開き、キャッシュ ドロアーが正常に開いたことを示すGUIが表示されます。
6. **[OK]** ボタンをクリックします。
7. **[Cancel]** (キャンセル) ボタンをクリックして、ヘルスチェックを中止します。
8. **[Finish]** (終了) ボタンをクリックします。
9. HP OPOS USB Cash Drawer Utilityを終了します。

##### 詳しい手順

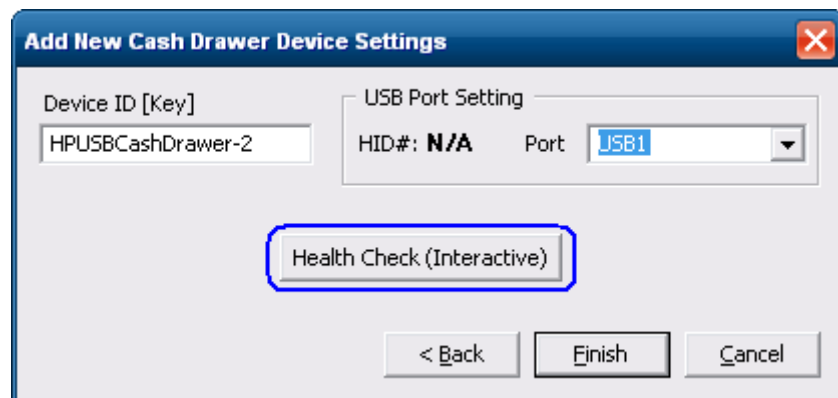
1. HP OPOS USB Cash Drawer Utilityを開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP USB Cash Drawer- OPOS\HPCDUtility.exe
2. [Add New HP USB Cash Drawer Device]アイコンをクリックするか、[Edit]メニューの[Add Device]を選択します。



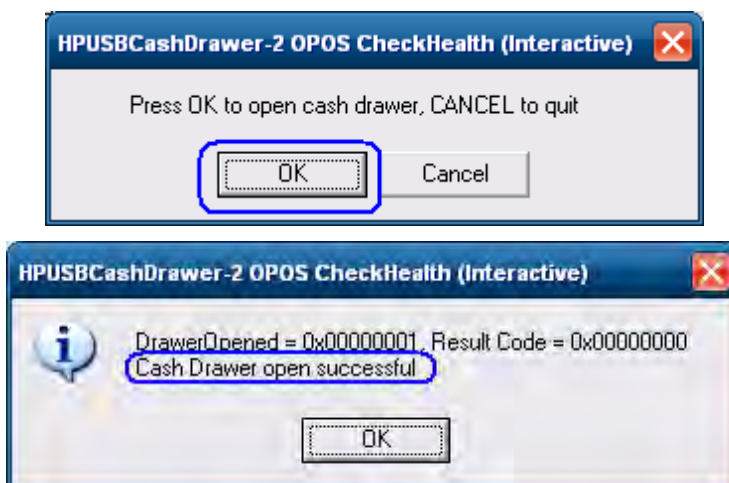
3. [Next]ボタンをクリックします。



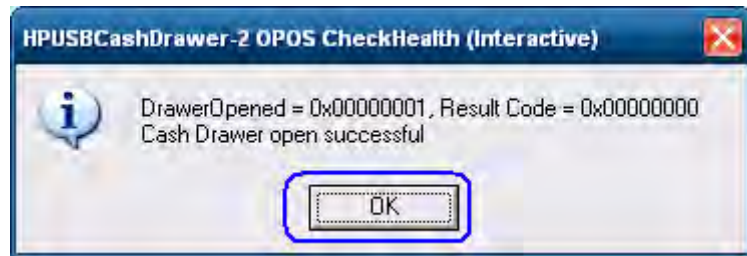
4. [Health Check (Interactive)]ボタンをクリックします。



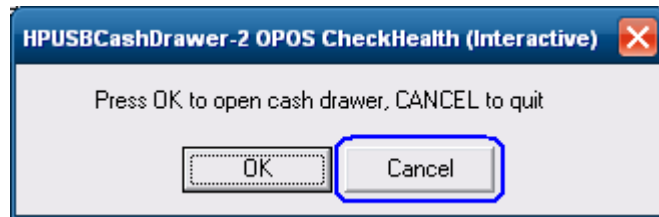
5. [OK]ボタンをクリックします。キャッシュ ドロアーが開き、キャッシュ ドロアーが正常に開いたことを示すGUIが表示されます。



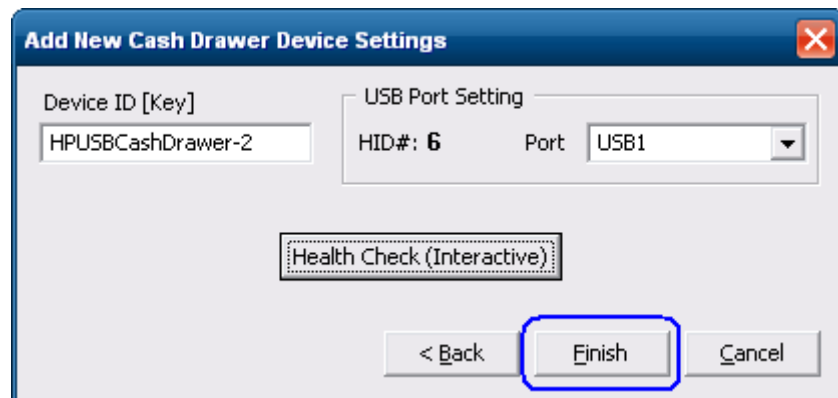
6. [OK]ボタンをクリックします。



7. [Cancel]ボタンをクリックして、ヘルスチェックを中止します。



8. [Finish]ボタンをクリックします。



9. [HP OPOS USB Cash Drawer Utility]を終了します。



## 6.4.5 HP USBキャッシュ ドロアー用のJPOSドライバー

HP USBキャッシュ ドロアー ポート用のドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

### 6.4.5.1 USBキャッシュ ドロアー ポート用のJPOSテスト アプレット

1. **[JavaPOSStester]** (JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\USB Cash Drawer JPOS\HPJPOSUSBCashDrawer\POSTest.bat.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュ ドロアー) タブをクリックします。
3. ドロップダウン メニューから適切なデバイスを選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Device enabled]** (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。ドロアーの状態がGUIに表示されます。
7. **[Open Cash Drawer]** (キャッシュ ドロアーを開ける) ボタンをクリックして、選択したキャッシュ ドロアーを開けます。
8. ドロアーが正常に開いたら、ドロアーを閉じて、**[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
9. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
10. **[Exit]** (終了) ボタンをクリックしてテスト アプリケーションを閉じます。

#### 詳しい手順

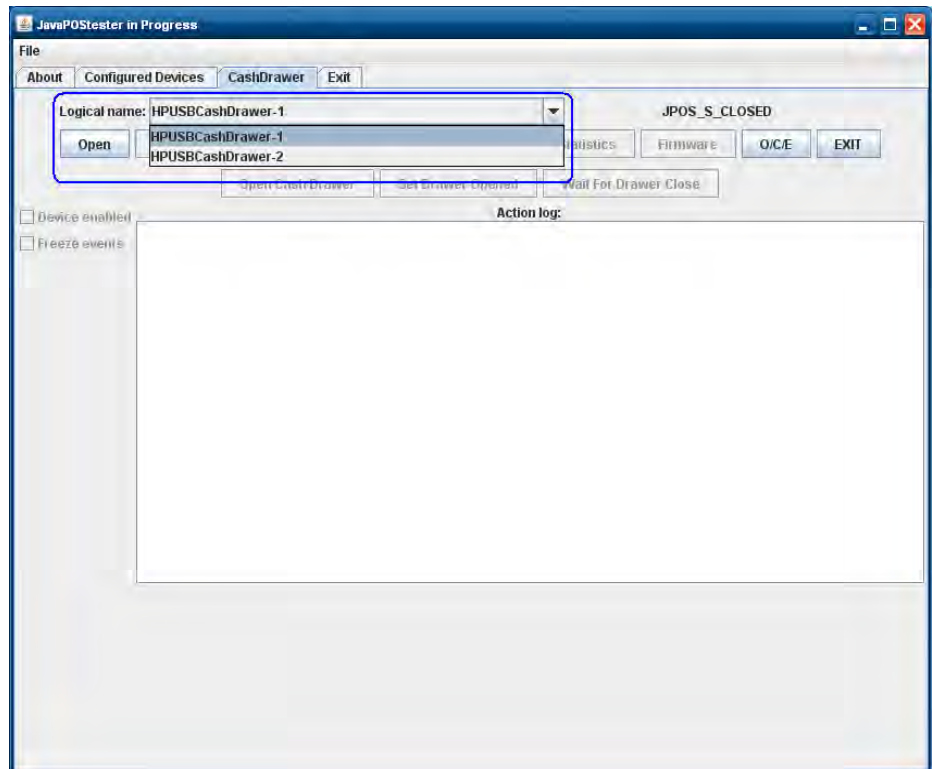
1. [JavaPOSStester]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Cash Drawer\USB Cash Drawer\USB Cash Drawer JPOS\HPJPOSUSBCashDrawer\POSTest.bat



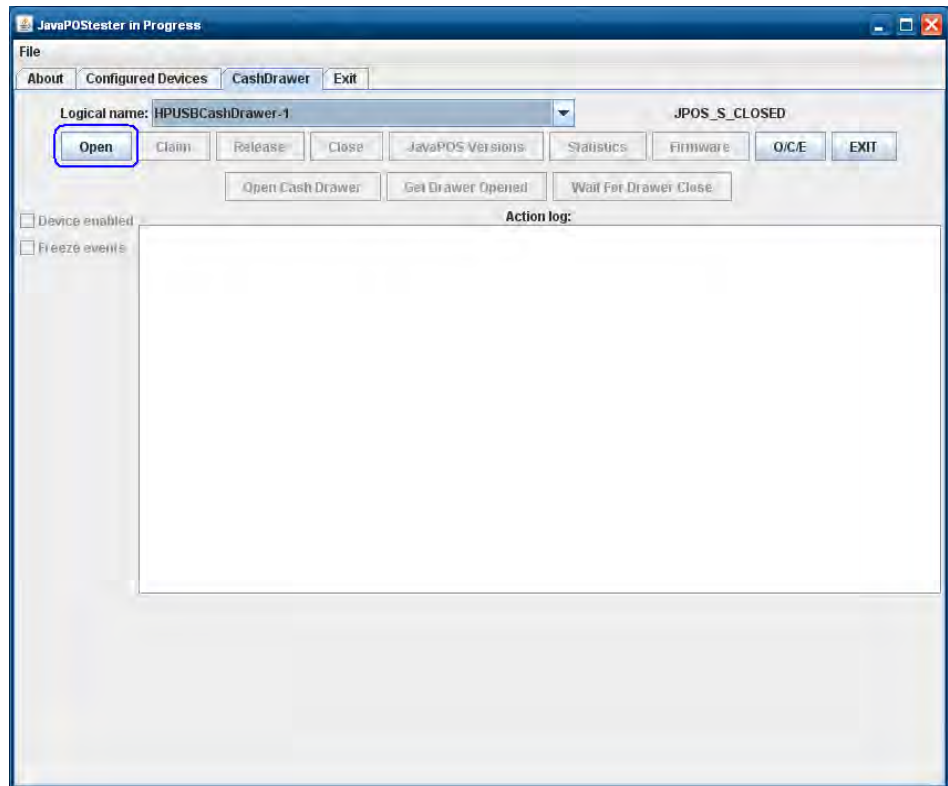
2. [CashDrawer]タブをクリックします。



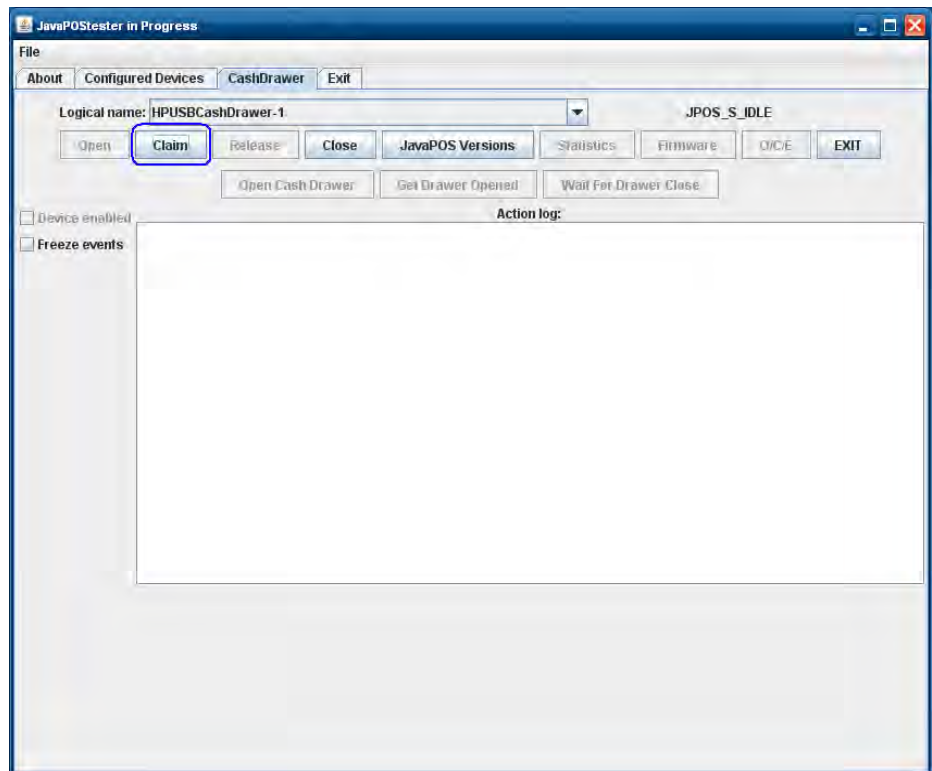
3. ドロップダウンメニューから適切なデバイスを選択します。



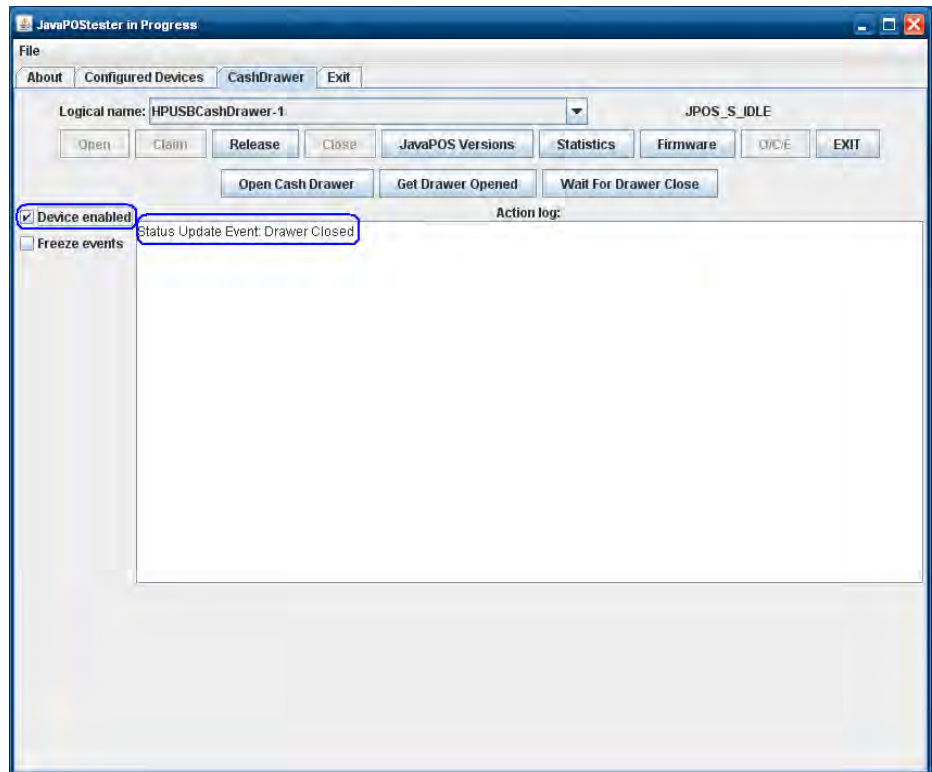
4. [Open]ボタンをクリックします。



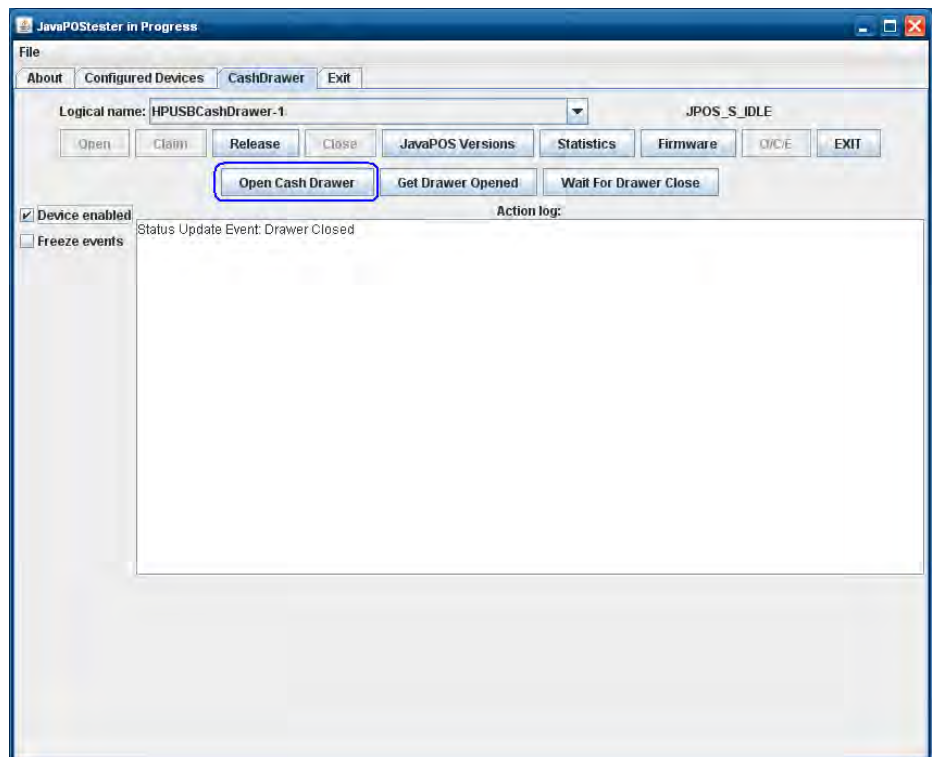
5. [Claim]ボタンをクリックします。

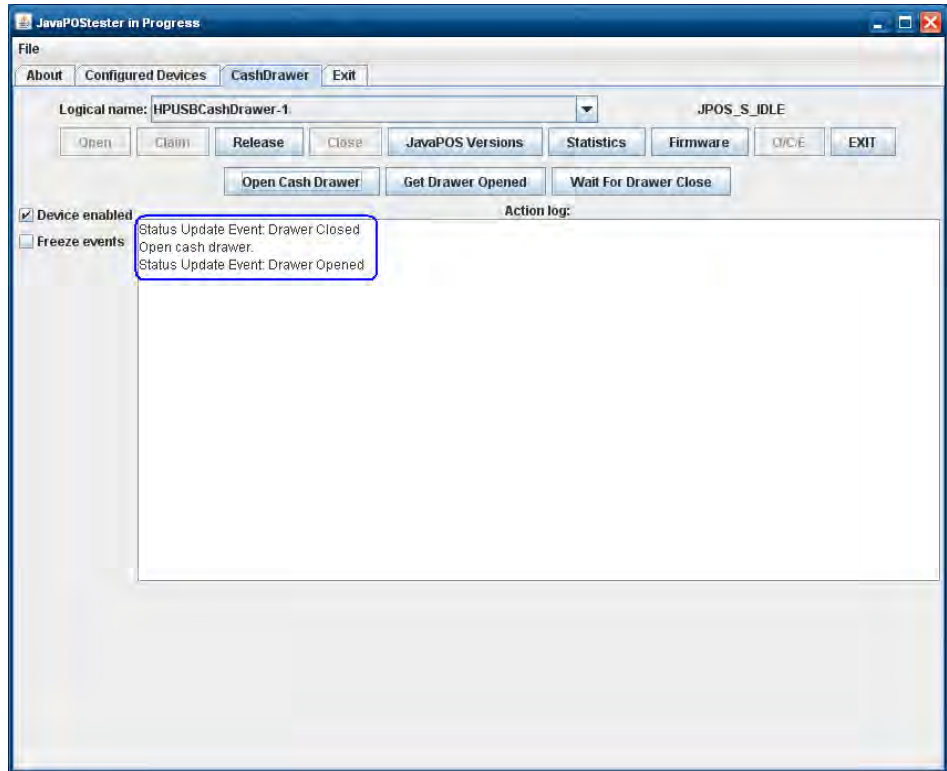


6. [Device enabled]チェック ボックスにチェックを入れます。ドロアーの状態がGUIに表示されます。

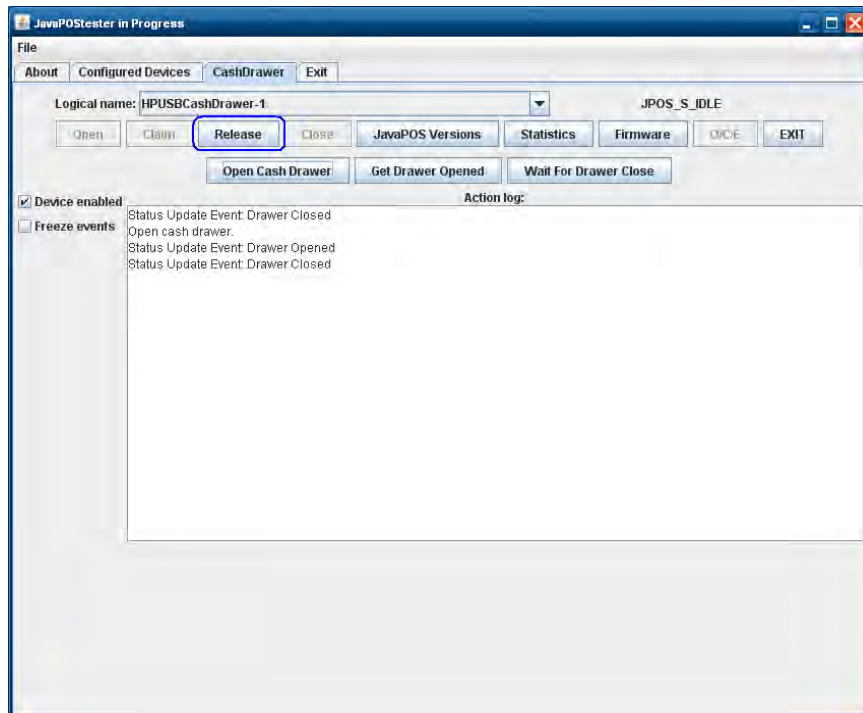


7. [Open Cash Drawer]ボタンをクリックして、選択したキャッシュドロアーを開けます。



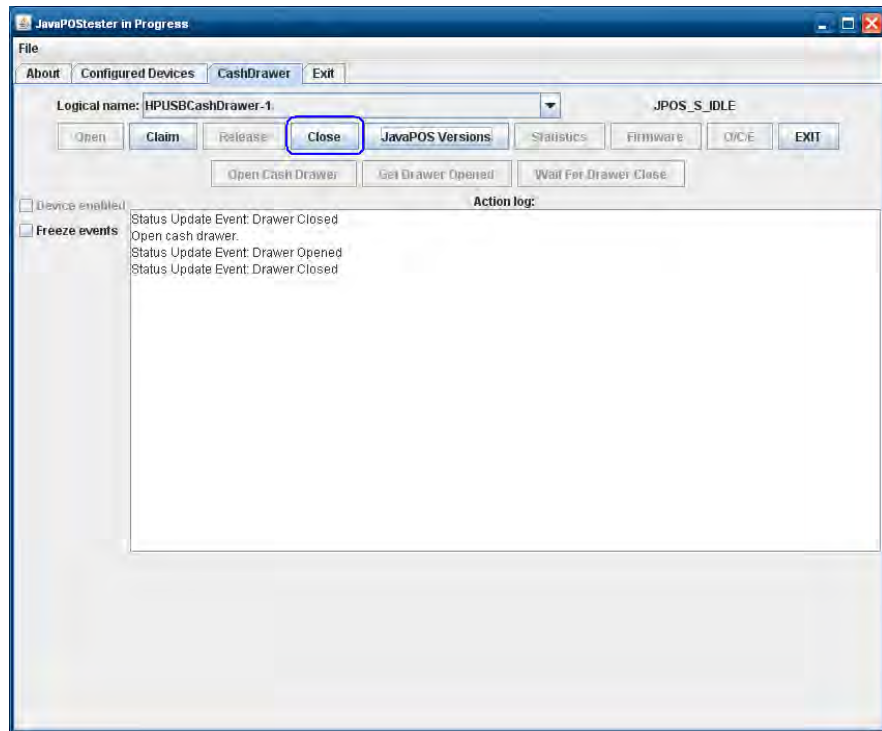


8. ドロアーが正常に開いたら、ドロアーを閉じて、リリースボタンをクリックします。



注： 同じ状態を示す複数の[Status Update Event]（ステータス更新イベント）がGUIに表示されることがあります。

9. [Close]ボタンをクリックします。



10. [Exit]ボタンをクリックしてテスト アプリケーションを閉じます。

## 6.5 HPレシート プリンターCシリーズ



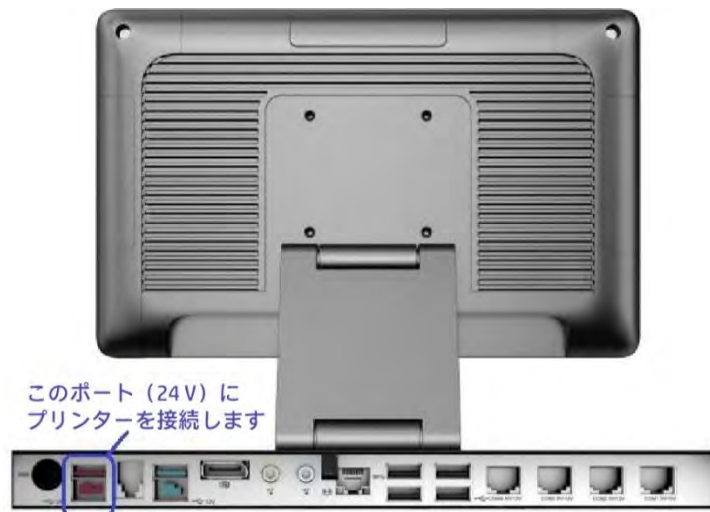
### 6.5.1 接続

HPのレシート プリンターは、HP POSシステムの24 Vの電源供給機能付きUSBポートに接続します。以下の図に、各種HP POS本体の背面にある24 Vの電源供給機能付きUSBポートの位置を示します。

以下のシステムおよびデバイスについては、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできる『ハードウェア リファレンス ガイド』を参照してください。

HP Engage Flex Pro Retail System  
HP Engage Flex Pro-C Retail System  
HP Engage One リテール アドバンス I/O 接続 ベース  
HP RP9 G1 Retail System

HP RP2 Model 2000/2030 :





HP RP7 Model 7100およびHP RP7 Model 7800 :



HP ap5000 :

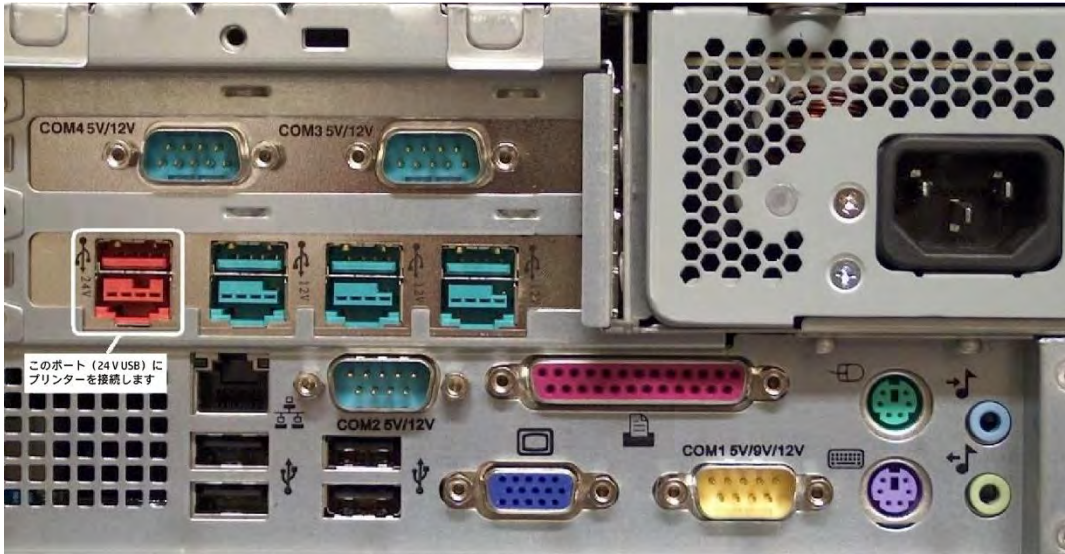


HP rp3000 :





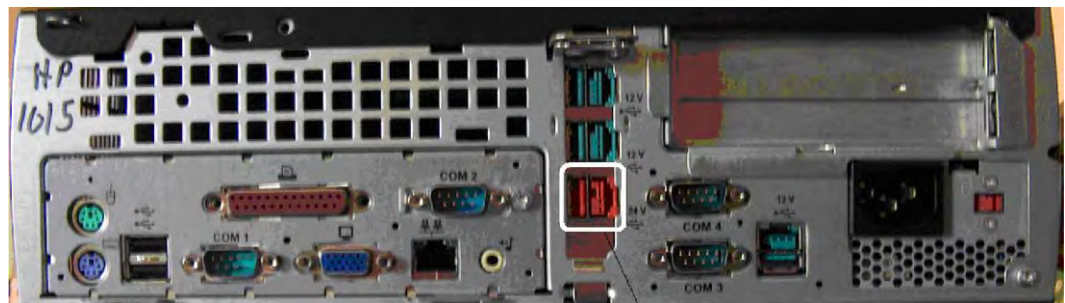
HP rp5700 :



HP rp5800およびHP rp5810 :



HP rp5000 :

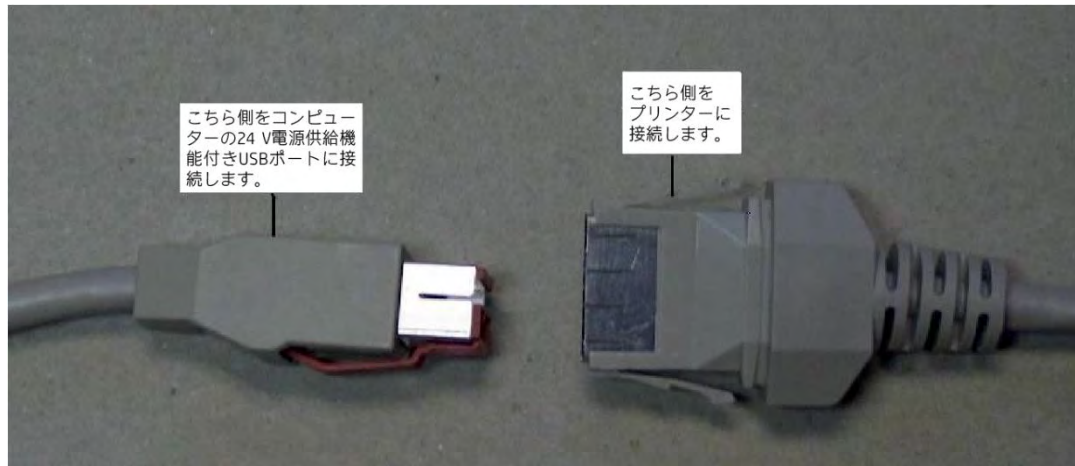


このポート (24 V USB) に  
プリンターを接続します

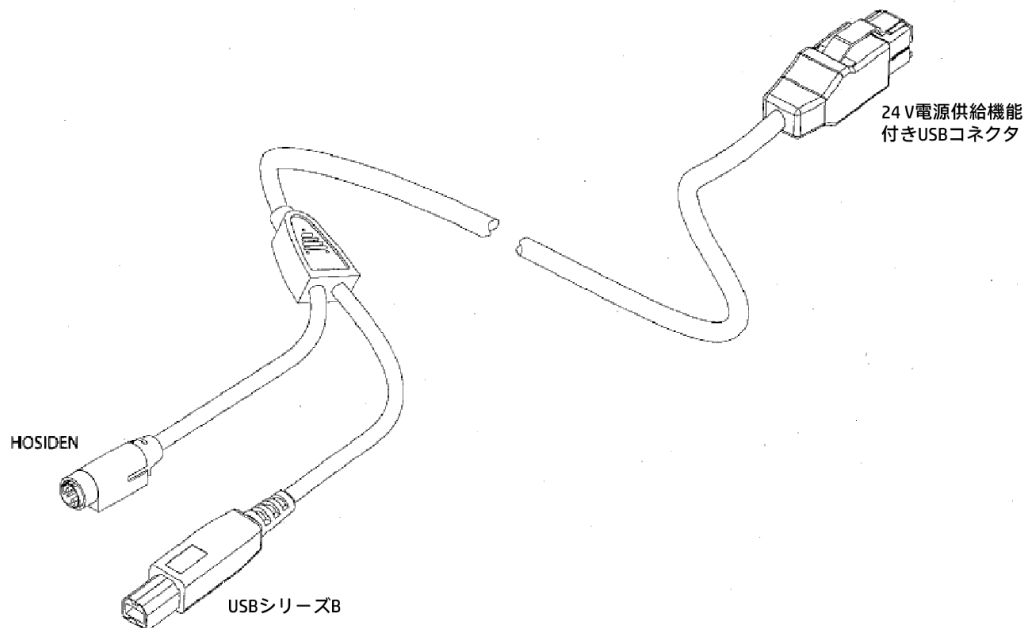
注： 24 Vの電源供給機能付きUSBポートおよびケーブルの表示は、12 Vの電源供給機能付きUSBポートとは異なっており、色も異なります。

## 6.5.2 電源供給機能付きUSBケーブル

以下の図に、シングルステーションプリンター用およびハイブリッドプリンター用の電源供給機能付きUSBケーブルを示します（実際のケーブルの色は図とは異なる場合があります）。



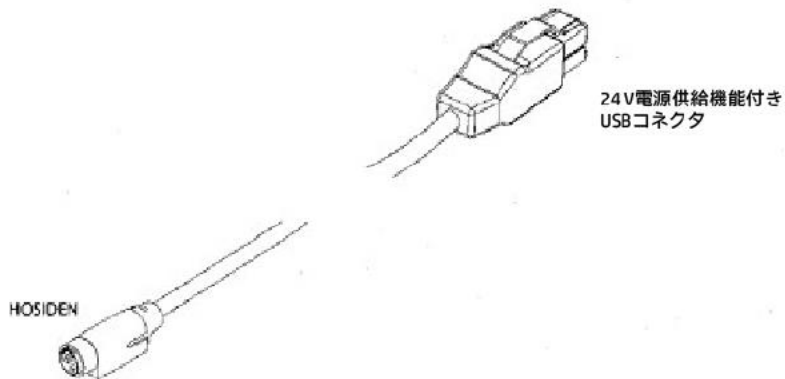
以下の図に、イメージャー搭載ハイブリッドプリンター用の電源供給機能付きUSBケーブルを示します。



シリアル インターフェイス接続のシングル ステーション プリンターには、電源（HOSIDEN）ケーブルおよびシリアルデータケーブルの2本のケーブルが必要です。



以下の図に、シリアル インターフェイス接続のシングル ステーション プリンター用の電源供給機能付き（HOSIDEN）ケーブルを示します。



シリアルデータケーブルは、標準的なヌルモデムケーブルです。このケーブルのピン出力を以下に示します。

ピン番号	ピン番号
1	NC (接続なし)
2	3
3	2
4	6
5	5
6	4
7	8
8	7
9	NC (接続なし)
シールド	フレーム グラウンド

### 6.5.3 ネイティブモード

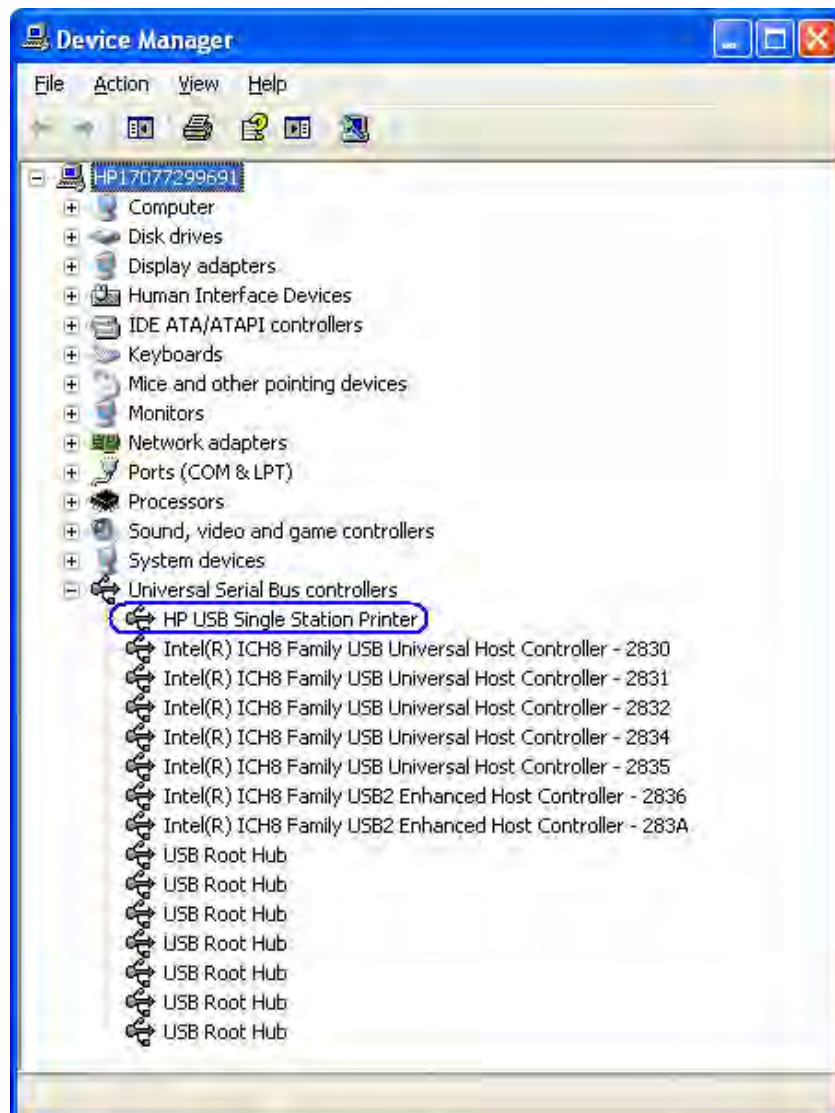
プリンターの初期設定のモードはプリンター クラスです。プリンター クラスについて詳しくは、このセクションの次のセクションを参照してください。

Windowsオペレーティング システムを搭載したHP POS本体では、Windowsの[デバイス マネージャー]向けのドライバーがHPの工場出荷時のイメージに含まれています。電源供給機能付きUSB接続でプリンターを本体に接続すると、WindowsによってHP POSプリンター用にそれらのドライバーが読み込まれます。

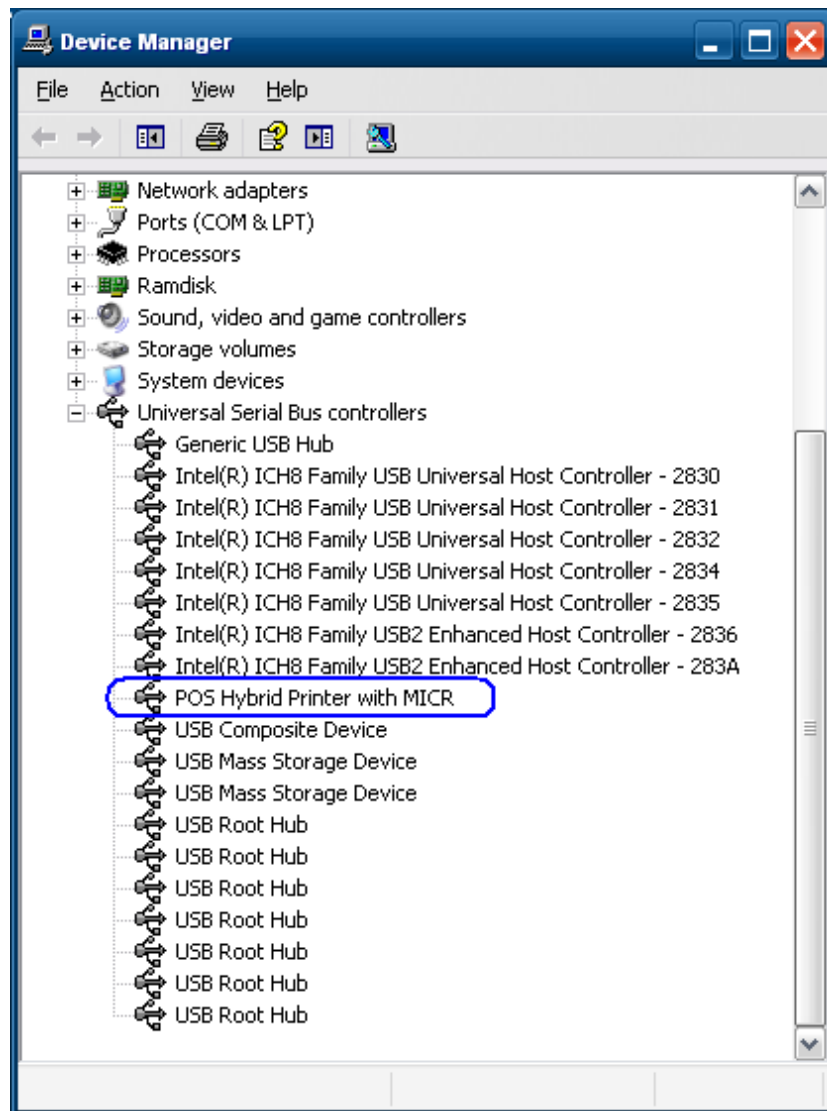
プリンターがネイティブ モードのときに、[デバイス マネージャー]向けのWindows USBドライバーが必要な場合は、[HP.COM](http://HP.COM)から入手できます。

以下の画面は、ネイティブ モードでプリンター用のドライバーが読み込まれた後の、Windowsの[デバイス マネージャー]の項目を示しています（ネイティブ モードは、WePOS、POSReady 2009、Windows XP ProfessionalなどのWindows XPベースのオペレーティング システムにのみ対応しています）。

ネイティブモードでのシングルステーションプリンター



ネイティブモードでのHPハイブリッドプリンター

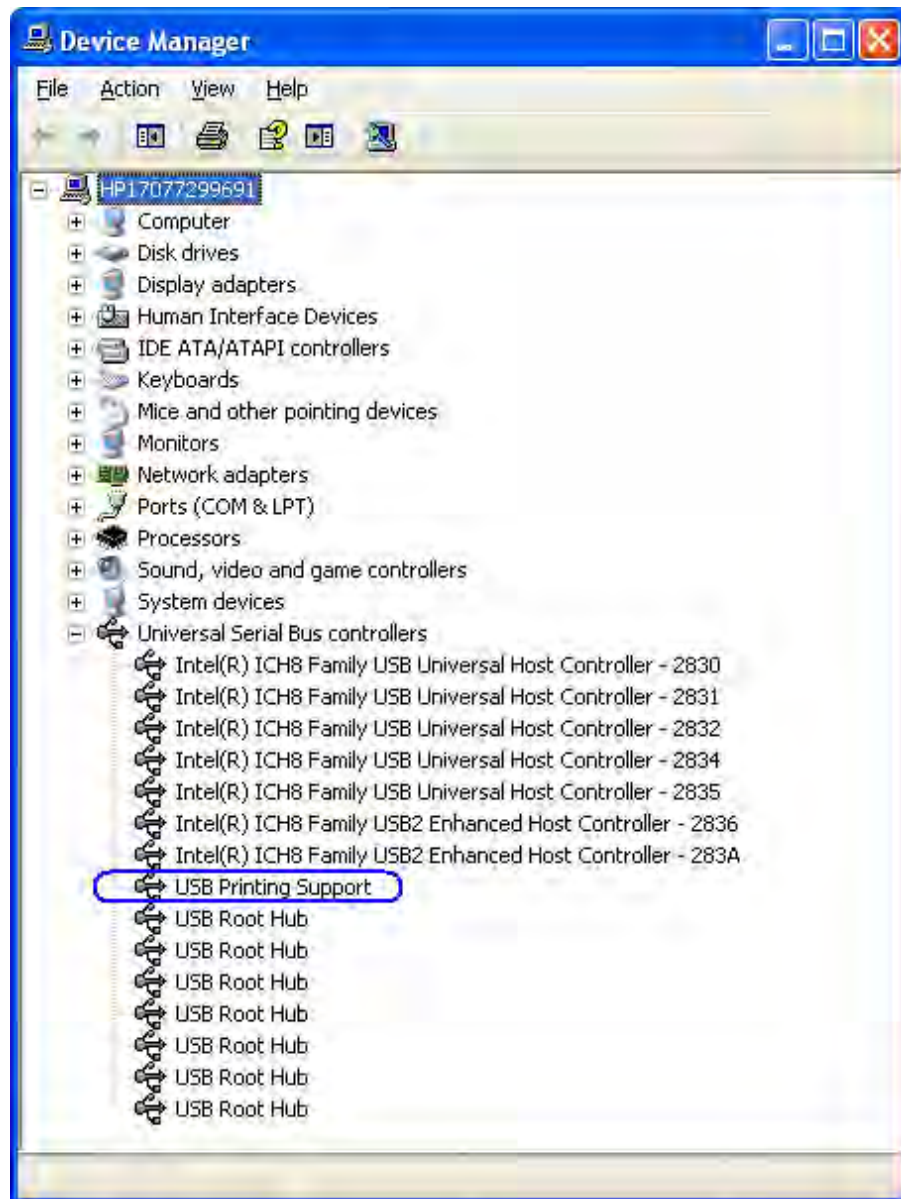




#### 6.5.4 プリンタークラスモード

プリンターがプリンター クラス モードのときは、オペレーティング システムによって[デバイス マネージャー]向けのMicrosoft Windowsネイティブ ドライバーが読み込まれます。 POSアプリケーションでレシート プリンターとの通信にOPOSドライバーを使用しない場合は、プリンター クラス モードを使用する必要があります。

以下の画面は、プリンター クラス モードでプリンター用のドライバーが読み込まれた後の、Windowsの[デバイス マネージャー]の項目を示しています。



## 6.5.5 通信クラスモード

プリンターに正しいレベルのブート ファームウェアおよびフラッシュ ファームウェアがインストールされている場合（以下の表を参照してください）は、プリンターを通信クラス モードで使用できます。プリンターが通信クラス モードのときは、シリアル ポート経由でのみプリンターと通信するアプリケーション向けに、仮想COMコネクタがプリンターのUSBインターフェイスに割り当てられます。Windowsの[デバイス マネージャー]→[ポート]を参照して、Windowsによって仮想プリンターCOMコネクタに割り当てられた仮想COMコネクタを確認できます。

→通信クラスを変更する手順については、このガイドの[\[USB Mode Selector\]](#)（USBモードセクター）のセクションで説明しています。

**注：** 通信クラス オプションは、A799電源供給機能付きUSBモデルおよびA776プリンターでのみ使用できます。通信クラス オプションをサポートしている最小バージョンのファームウェアを以下に示します。

ファームウェアのバージョン	A776	A799
ブートファームウェアのバージョン	1.25	1.06
フラッシュファームウェアのバージョン	2.00	1.08

**注：** プリンターのバージョンが上記の表よりも新しい場合は、プリンターのファームウェアを表に記載されたバージョンに下げる必要はありません。

プリンターにインストールされているファームウェアを確認するには、プリンターの前面で以下の手順を実行します。

1. サーマルレシート紙がセットされているプリンターカバーを開けます。
2. プリンターの給紙ボタンを押したまま、プリンターカバーを閉じます。
3. プリンターの給紙ボタンを放すと、診断結果が印刷されます。

診断結果の出力例を以下に示します。

### HPシングルステーションプリンター (A799)

```

*** A799 - Diagnostics Form ***
ReceiptWare Enabled

Model number       : A799-C40D-HN00
Serial number      : K102100925

Boot Firmware
Revision           : V3.02
CRC                : 7E22
P/N                : 189-7940489B
Flash Firmware
Revision           : V3.01
CRC                : 4448
P/N                : 189-7940490A

H/W parameters
Flash Memory Size : 8 Mbytes
Flash Logos/Fonts : 4800 kbytes
Flash User Storage : 64 kbytes
Flash Perm't Fonts: 2240 kbytes
Flash Journal Size : 64 kbytes
SDAM Size         : 512 kbytes
  
```

### HPハイブリッドサーマルプリンター (A776)

```

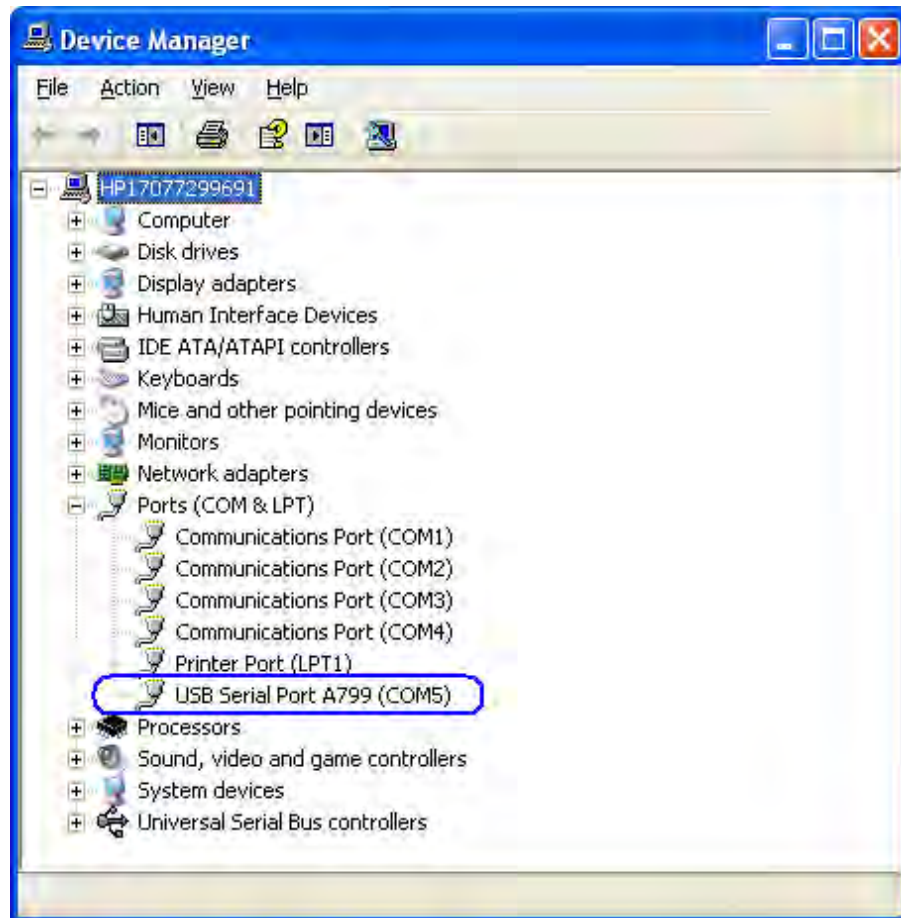
*** A776 / B780 - Diagnostics Form ***
ReceiptWare Enabled

Model number       : A776-C21W-H000
Serial number      : K084905284

Boot Firmware
Revision           : V1.25
CRC                : FC97
P/N                : 189-7760899A
Flash Firmware
Revision           : V2.00
CRC                : 8910
P/N                : 189-7760897A

H/W parameters
Flash Memory Size : 2 Mbytes
Flash Logos/Fonts : 896 kbytes
Flash User Storage : 64 kbytes
  
```

以下の画面は、通信クラス モードでプリンター用のドライバーが読み込まれた後の、Windowsの[デバイスマネージャー]の項目を示しています。





## 6.5.6 [USB Mode Selector] (USBモードセレクター) ユーティリティ

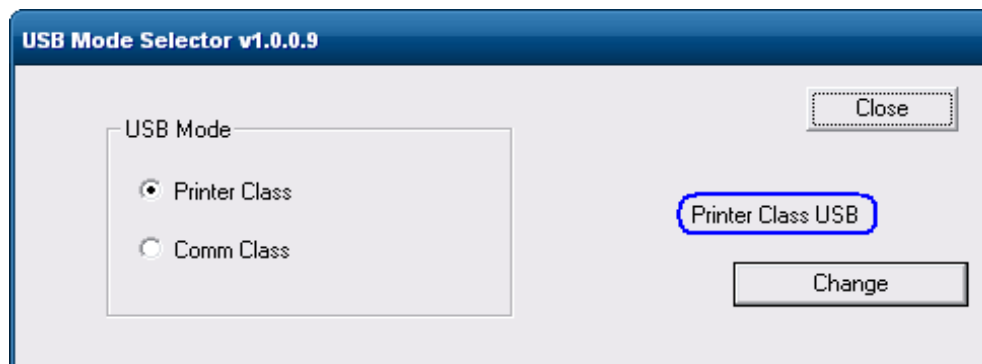
レシート プリンターに正しいレベルのファームウェアがインストールされている場合は、[USB Mode Selector] (USBモードセレクター) ユーティリティを使用して、プリンターのネイティブ、プリンタークラス、通信クラスの各モードを切り替えることができます。このユーティリティを正しく機能させるには、HP USBレシート プリンターをデスクトップ コンピューターに接続し、Microsoft Windowsのデバイスドライバーをすべて読み込む ([デバイス マネージャー]に黄色の感嘆符 (!) が表示されていない) 必要があります。

[USB Mode Selector]ユーティリティを使用するための手順の概要を以下に示します。

1. **[USB Mode Selector]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\HP Receipt USB Mode Selector Utility\UsbModeSelector.exe.
2. プリンターで現在設定されているモードを示すダイアログが表示されます。
  - a. 目的のプリンター モードを選択します。プリンターが通信クラス モードの場合は、GUIに、このユーティリティが実行されている本体のプリンターに割り当てられた仮想COMコネクタが表示されます。
  - b. [Change] (変更) ボタンをクリックします。
  - c. ユーティリティを終了します。

**注：**プリンターをはじめて別のモードに切り替えた場合は、選択したモード用のWindowsドライバーが完全に読み込まれ、有効になるまで数分間かかることがあります。

以下の例は、プリンタークラスモードのプリンターを示しています (項目が青で囲まれています)。

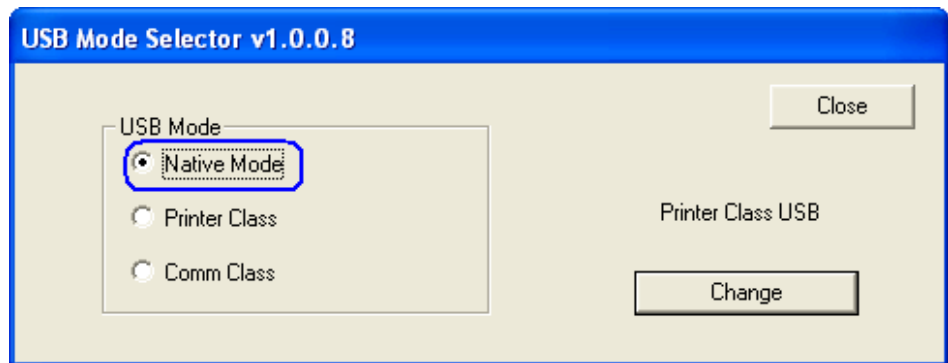


### 6.5.6.1 プリンターをネイティブモードに設定

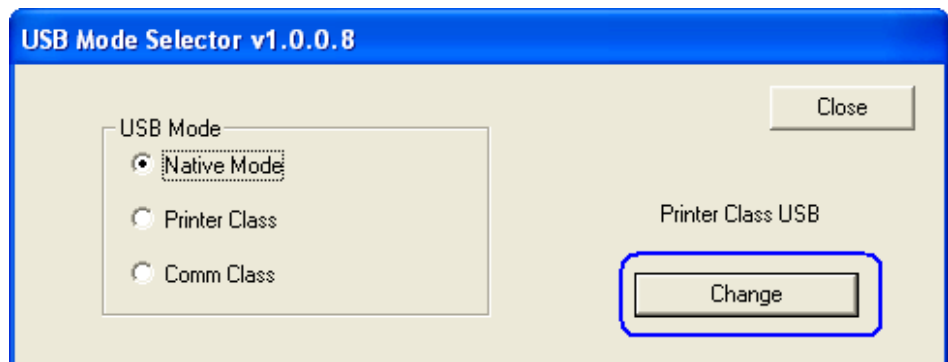
プリンターをネイティブモードに切り替える手順を以下に示します（ネイティブモードは、WePOS、POSReady 2009、Windows XP ProfessionalなどのXPベースのオペレーティングシステムにのみ対応しています）。

注： ネイティブモードオプションは、バージョン1.0.0.9以降のユーティリティでは利用できなくなりました。

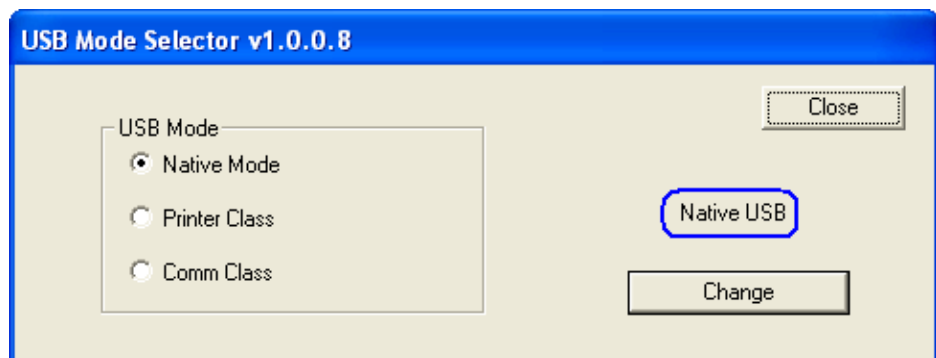
1. GUIの[Native Mode]（ネイティブモード）を選択します。



2. [Change]（変更）ボタンをクリックします。



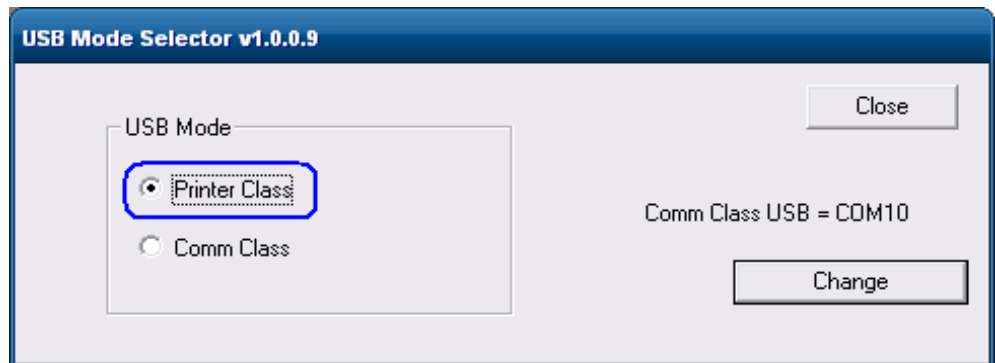
3. プリンターでドライバーが読み込まれ、モードが変更されると、GUIのプリンターモードの状態が[Native USB]（ネイティブUSB）に変わります。



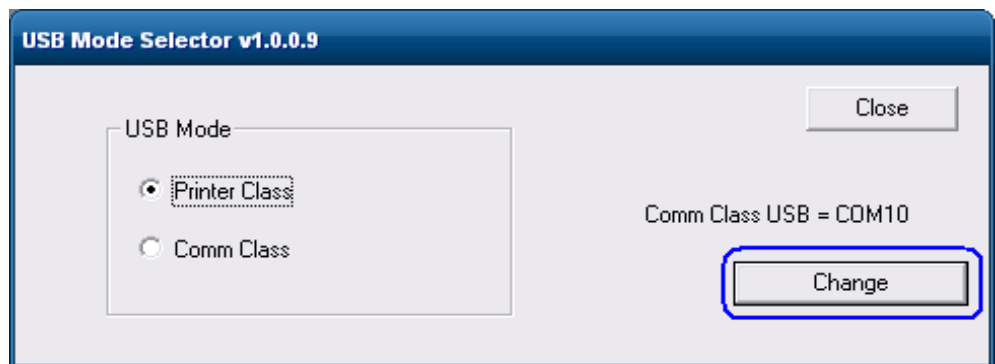
### 6.5.6.2 プリンターをプリンタークラスモードに設定（初期設定）

プリンターをプリンタークラスモード（初期設定）に切り替える手順を以下に示します。

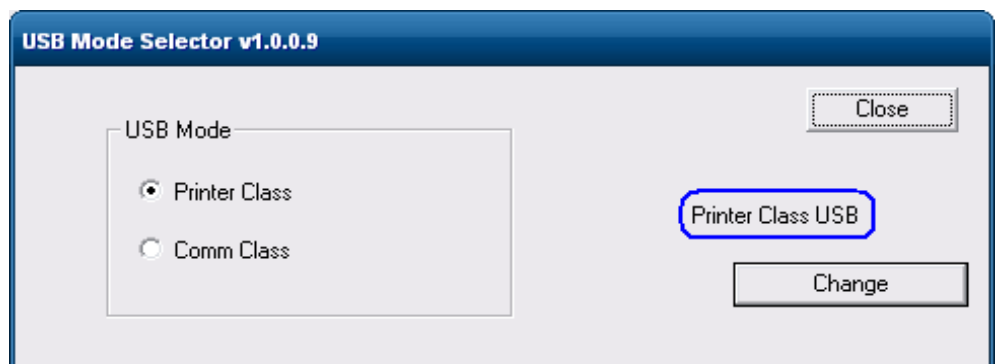
1. GUIの[Printer Class]（プリンタークラス）を選択します。



2. [Change]（変更）ボタンをクリックします。



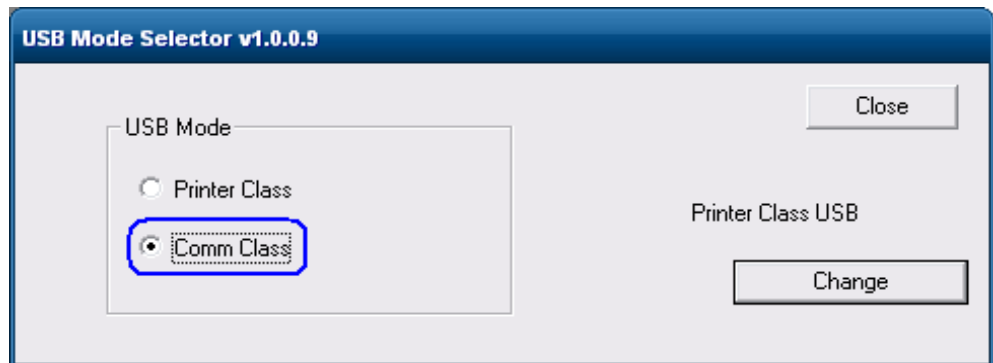
3. プリンターでドライバーが読み込まれ、モードが変更されると、GUIのプリンターモードの状態が[Printer Class USB]（プリンタークラスUSB）に変わります。



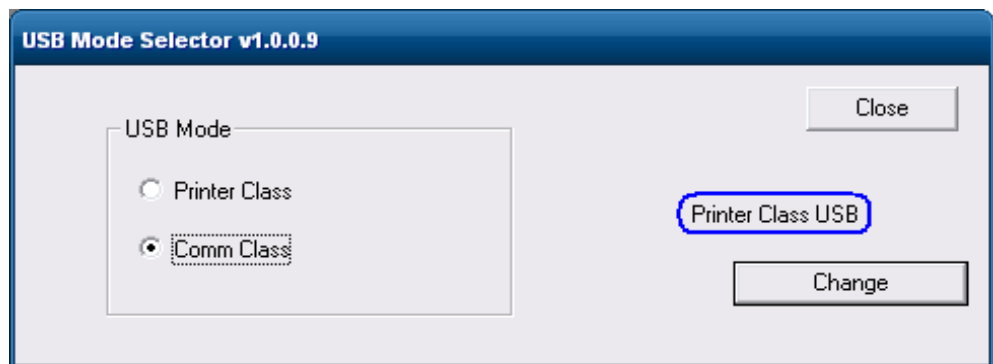
### 6.5.6.3 プリンターを通信クラスモードに設定（仮想シリアルポート）

プリンターを通信クラスモードに切り替える手順を以下に示します。

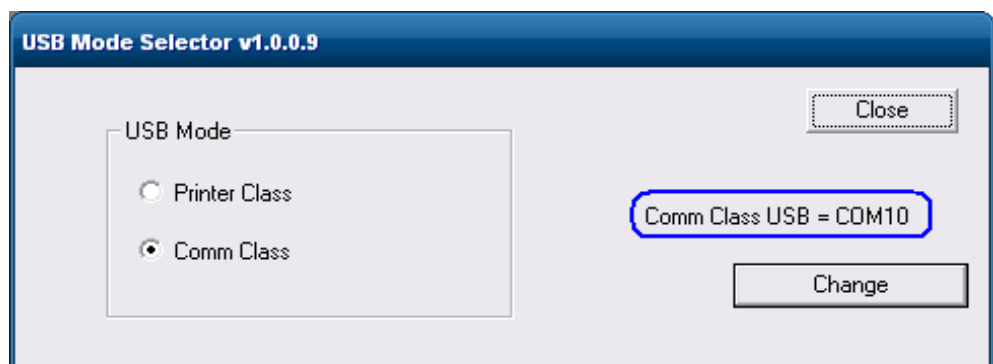
1. GUIの[Comm Class]（通信クラス）を選択します。



2. [Change]（変更）ボタンをクリックします。



3. プリンターでドライバーが読み込まれたら、ユーティリティを閉じてから開きなおします。Windowsによって割り当てられた仮想COMコネクタが表示されます。



Windowsの[デバイス マネージャー]→[ポート]を参照して、仮想COMコネクタの割り当てを確認することもできます。



### 6.5.7 シリアルプリンター

シリアル接続のプリンターは、Windowsの[デバイス マネージャー]で一意的デバイスとして表示されません。[デバイス マネージャー]にシリアル ポートが表示されていて、黄色の感嘆符 (!) が付いていないことを確認します。

## 6.5.8 レシートプリンター用のWindowsドライバー

プリンターには、ネイティブ モードとプリンター クラス モードの2つのモードがあります。プリンターの初期設定のモードはプリンタークラスです。

Windowsのプリンター ドライバーを使用して印刷を行うPOSアプリケーションでは、プリンター クラスモードが使用されます。これらのアプリケーションでは、プリンターとの通信にOPOSは使用されません。

**注：** WindowsミニドライバーとOPOSドライバーを同じCOMコネクタに設定することはできません。

### 6.5.8.1 バージョン1.0.5用のWindowsプリンター ドライバー (USB) (POSReady 2009向け)

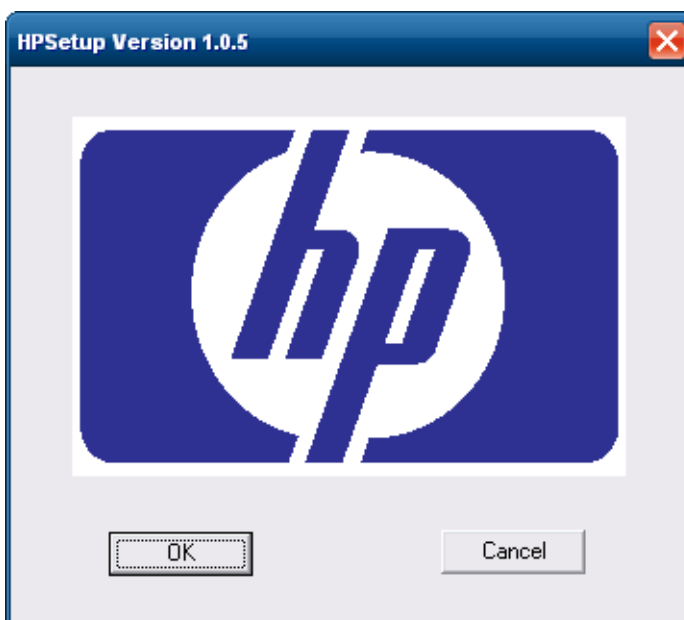
レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[HPSetup]** (HPセットアップ) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\HP\_Mini\_Drivers.bat.
2. 画面に表示されているプリンター モデルから該当するモデルを選択します。
3. ドロップダウン メニューから[USBxxx]プリンター ポート (USBの仮想プリンター ポート) を選択します (ドロップダウン メニューの下の方にあります)。
  - このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer] (初期設定のプリンターに設定する) オプションにチェックを入れます。
  - テスト ページを印刷する場合は、GUIで[Print test page] (テスト ページをプリントする) オプションにチェックを入れます。
4. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。テスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

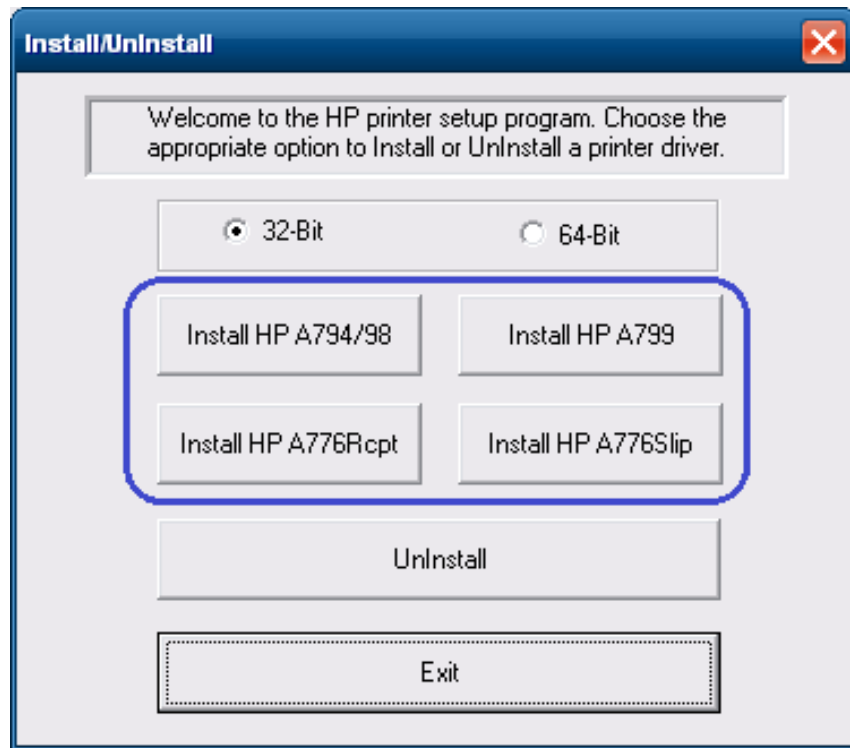
#### 詳しい手順

1. [HPSetup]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\HP\_Mini\_Drivers.bat.

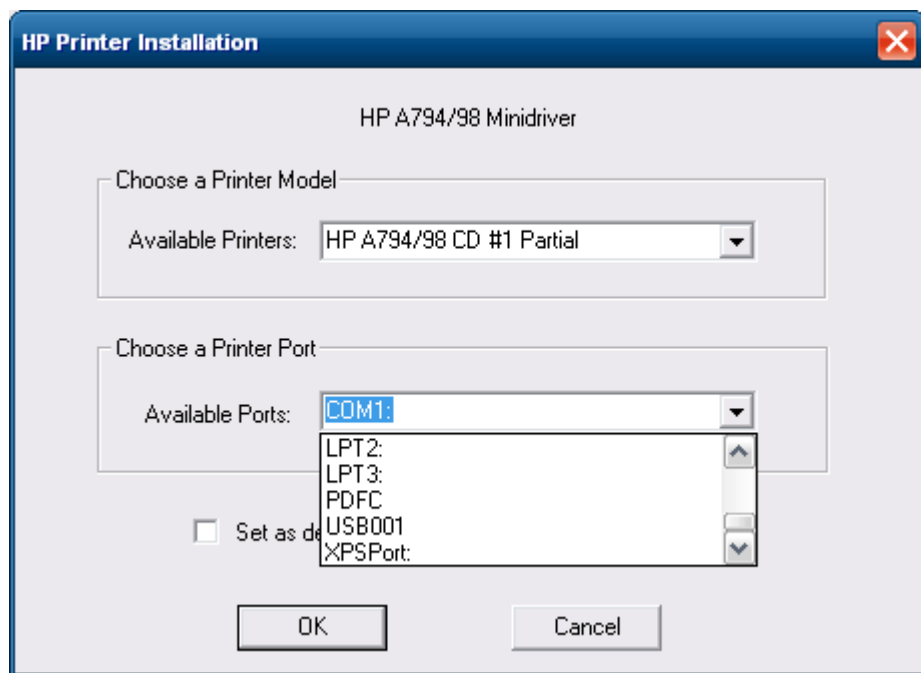
[HPSETUP.EXE]が開くと、以下のGUIが表示されます。



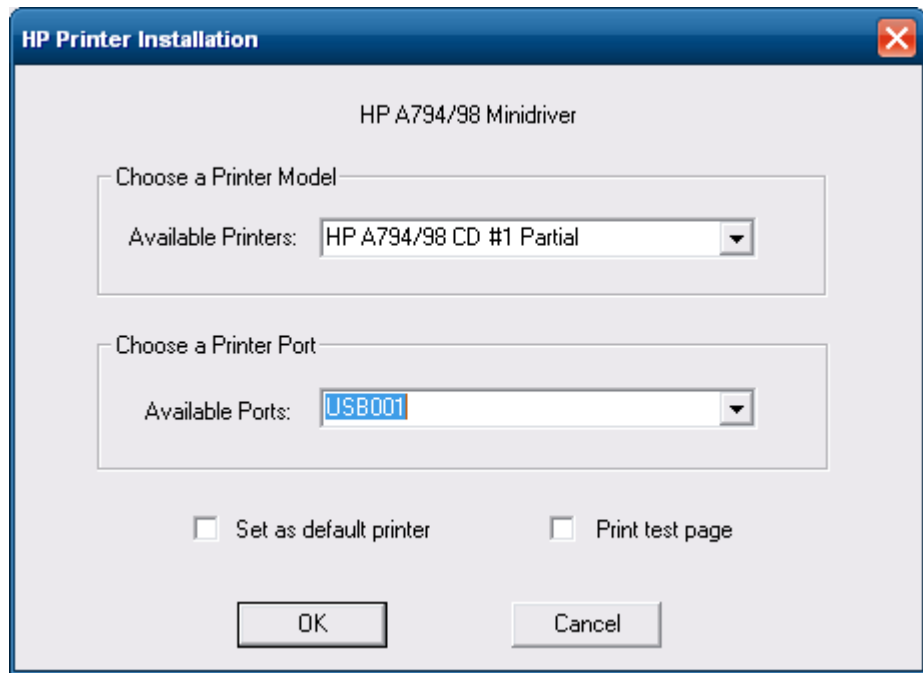
- 画面に表示されているプリンター モデルから該当するモデルを選択します。



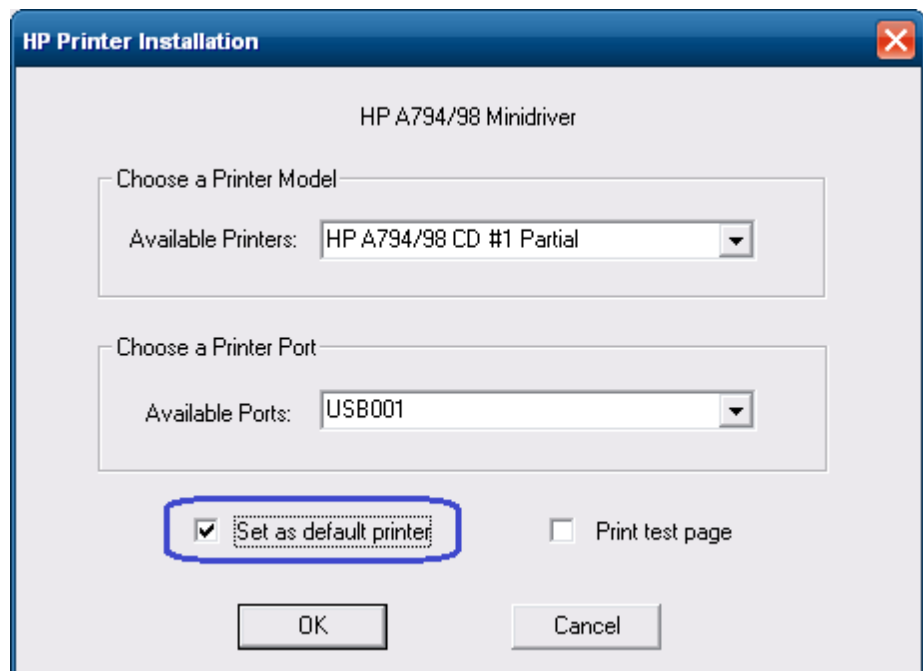
- ドロップダウン メニューから[USBxxx]プリンター ポート (USBの仮想プリンター ポート) を選択します (ドロップダウン メニューの下の方にあります)。



選択すると、選択項目が以下の画面のようになります。

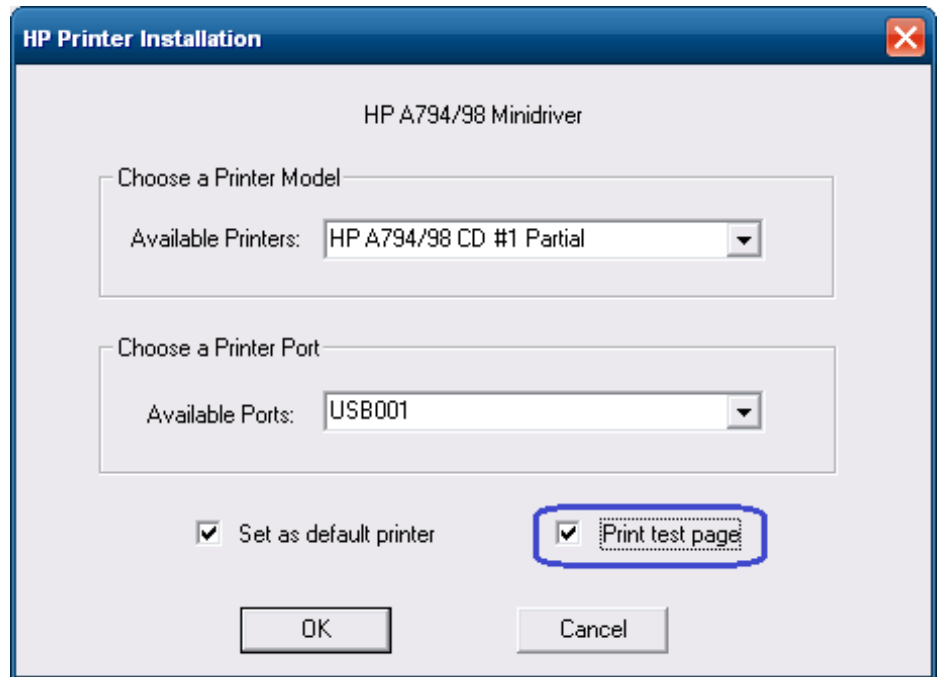


このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer]オプションにチェックを入れます。





テスト ページを印刷する場合は、GUIで[Print test page]オプションにチェックを入れます。



4. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。テスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

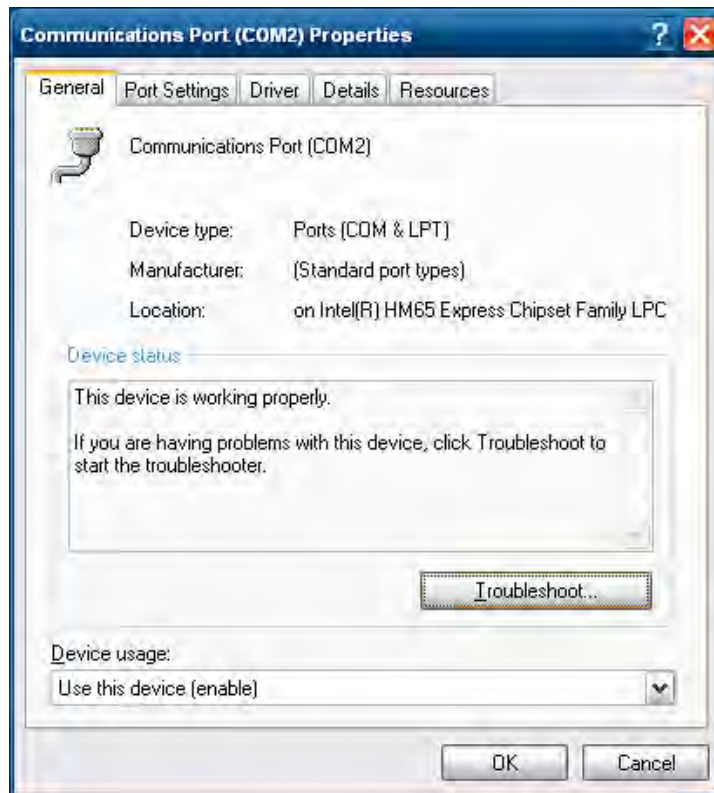
### 6.5.8.2 バージョン1.0.5用のWindowsプリンター ドライバー (シリアル) (POSReady 2009向け)

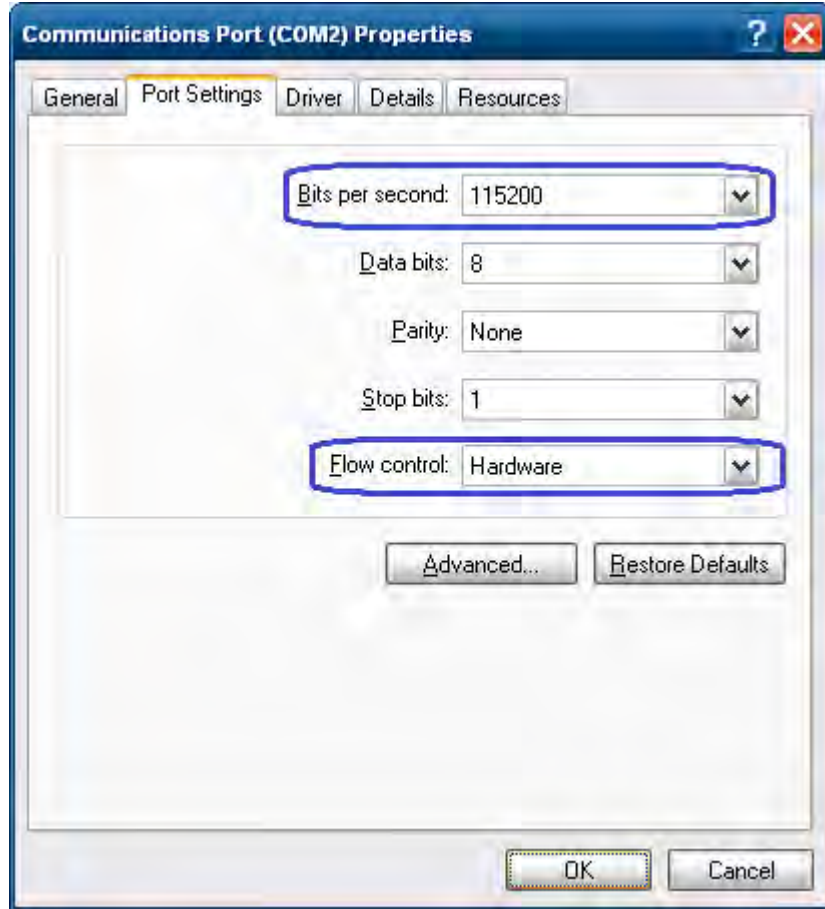
レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]に変更します。
3. [HP\_Mini\_Drivers.BAT]ファイルをダブルクリックし、[OK]をクリックして、Windowsミニドライバーのセットアッププログラムを開始します。
4. 画面に表示されているプリンター モデルから該当するモデルを選択します。
5. プリンターが接続されているCOM (シリアル) ポートを選択します。
  - このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer]（初期設定のプリンターに設定する）オプションにチェックを入れます。
  - 非常に小さいテスト ページを印刷する場合は、GUIで[Print test page]（テスト ページをプリントする）オプションにチェックを入れます。
6. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。テスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

#### 詳しい手順

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]に変更します。



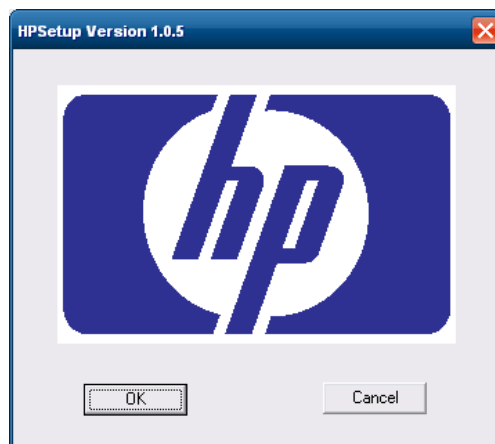


注：実際のボーレートは、上記の画面ショットとは異なる場合があります。

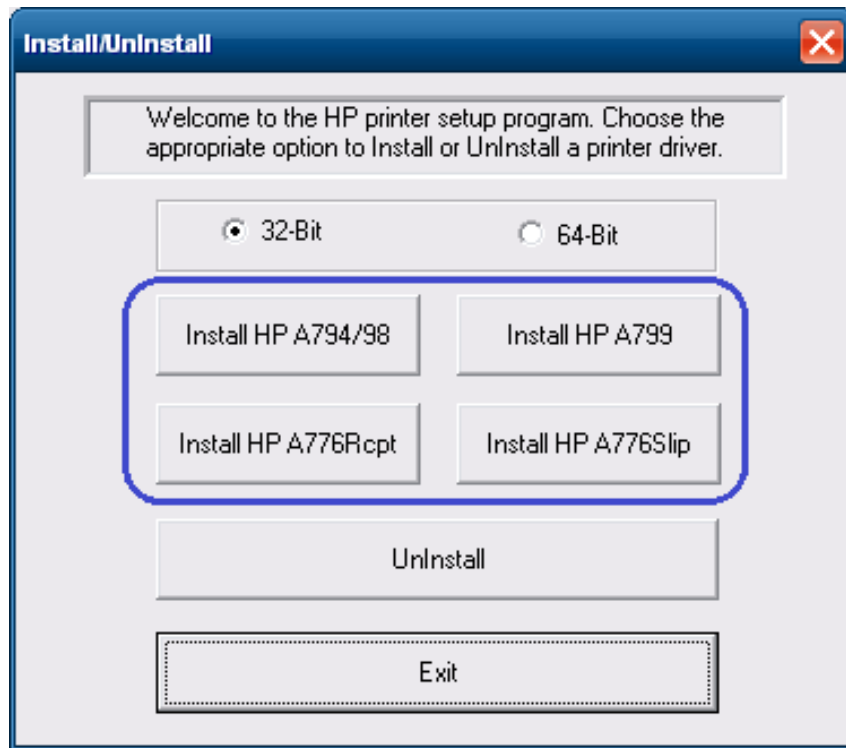
3. [HP\_Mini\_Drivers.BAT]ファイルをダブルクリックし、[OK]をクリックして、Windowsミニドライバのセットアッププログラムを開始します。

[HP\_Mini\_Drivers.BAT]ファイルは、「C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers」フォルダーにアクセスし、[HP\_Mini\_Drivers.BAT]ファイルをダブルクリックして開くこともできます。

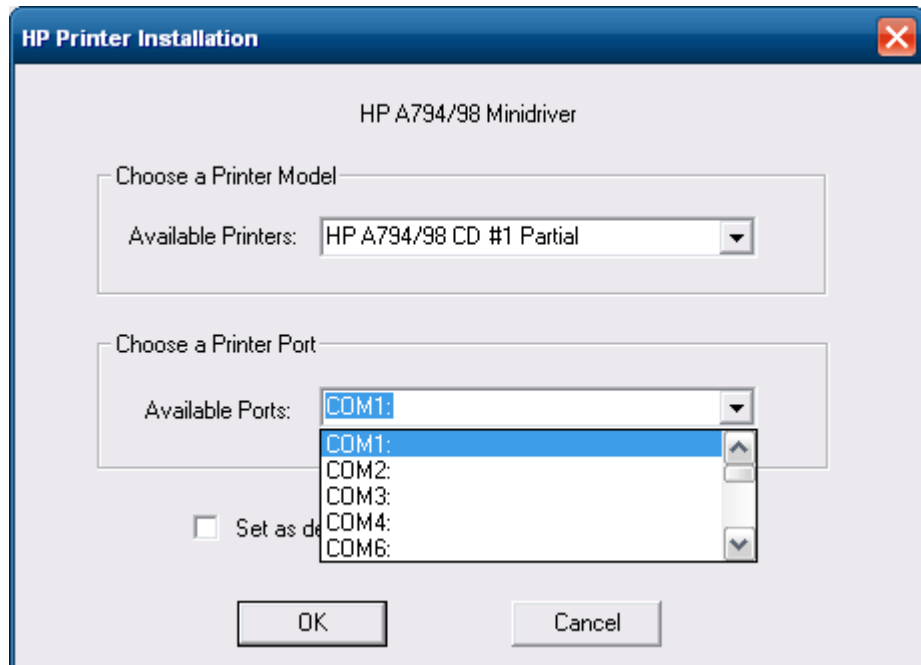
[HPSETUP.EXE]が開くと、以下のGUIが表示されます。



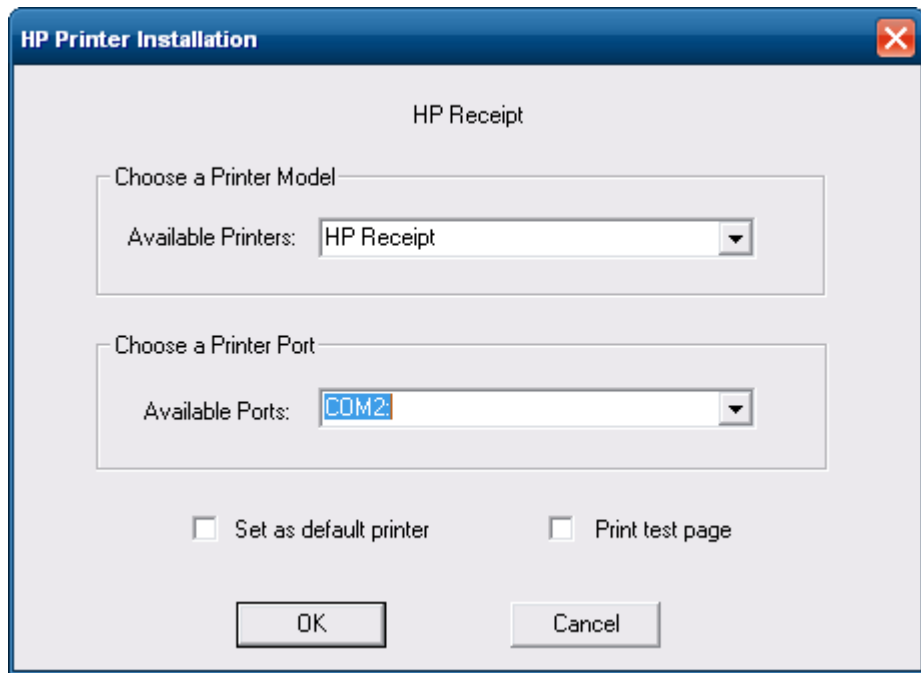
4. 画面に表示されているプリンター モデルから該当するモデルを選択します。



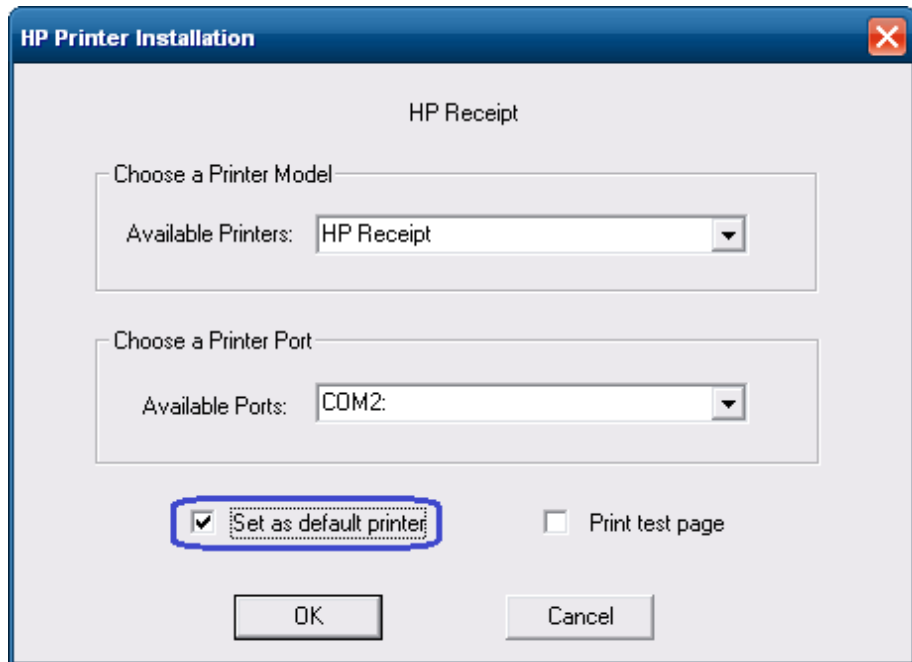
5. プリンターが接続されているCOM (シリアル) ポートを選択します。



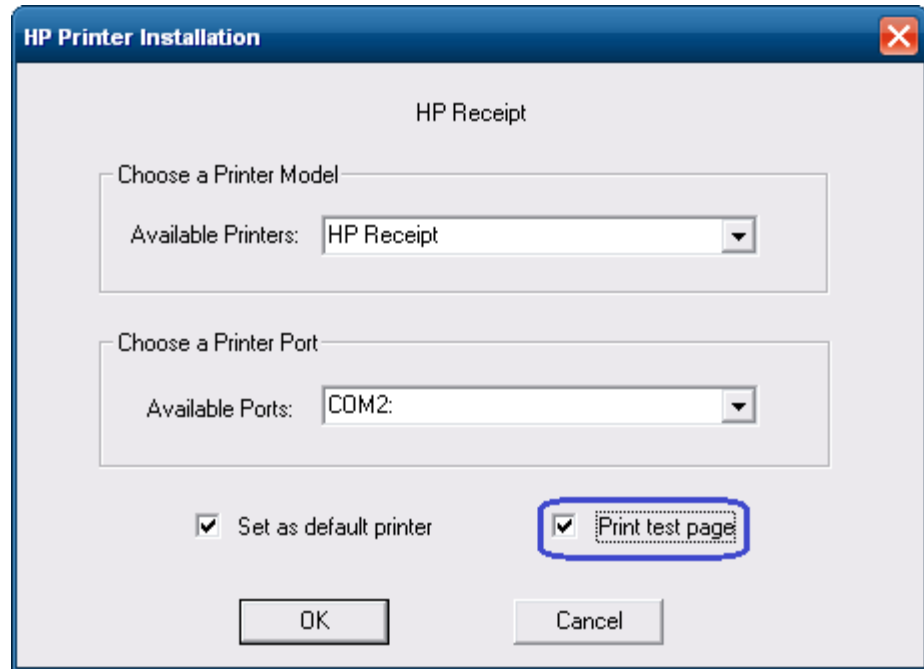
選択すると、選択項目が以下の画面のようになります。



このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer]オプションにチェックを入れます。



非常に小さいテスト ページを印刷するには、[Print test page]オプションにチェックを入れます。



6. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。テスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

### 6.5.8.3 バージョン1.0.5用のWindowsプリンター ドライバー (Ethernet) (POSReady 2009向け)

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

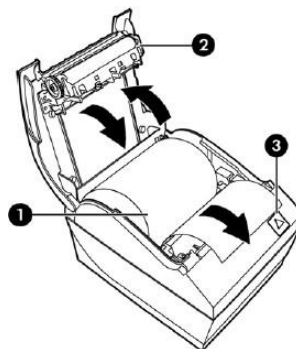
1. IPアドレスおよびRaw TCP/IPポートの情報を取得するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。
3. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。**ネットワーク オプションを選択しないでください。**
4. [新しいポートの作成]オプションを選択します。
5. [Standard TCP/IP Port]オプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
6. 診断フォームに印刷されているIPアドレスを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。
7. [ポート情報がさらに必要です]のGUIで、[標準]→[Generic Network Card]の順に選択して[次へ]→[完了]ボタンの順にクリックします。
8. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択します。
9. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[OEMPRINT.INF]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
10. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
11. [プリンター共有]のGUIで、[このプリンターを共有しない]オプションを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
12. [テスト ページの印刷]のGUIで、[いいえ]オプションを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。ここで[いいえ]を選択する理由は、設定がまだ完了していないからです。
13. [完了]ボタンをクリックします。
14. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
15. [ポート]タブを選択します。
16. インストールしたプリンターのポートを強調表示して、[ポートの構成]を選択します。
17. [標準TCP/IPポート モニターの構成]のGUIの[Raw設定]セクションにアクセスします。[ポート番号]セクションで「9001」（診断フォームを再チェックして「Raw TCP/IPポート」欄に「9001」と記載されていることを確認してください）と入力して、[OK]をクリックします。
18. プリンターのプロパティのGUIを閉じます。
19. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
20. [テスト ページの印刷]をクリックすると、印刷が実行されます。

#### 詳しい手順

1. IPアドレスおよびRaw TCP/IPポートの情報を取得するために、プリンターの診断フォームを印刷します。

#### 診断フォームを取得するための手順

- A. プリンターをネットワークに接続して、プリンターの電源を入れます。
- B. 診断フォームの印刷を実行し、印刷した診断フォームでプリンターのIPアドレスを確認します。
- C. 用紙がプリンターにセットされていることを確認します (1)。
- D. レシートカバーを開きます (2)。
- E. 給紙ボタンを押し続けます (3)。
- F. レシートカバーを閉じます (2)。



印刷したA799IIの診断フォームの一部を以下に示します。診断フォームにはIPアドレスおよびポートの情報が示されています。

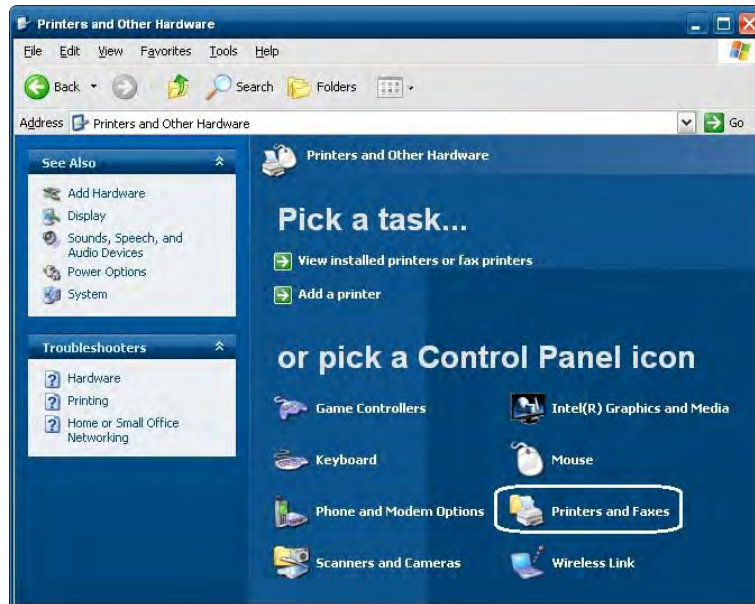
```

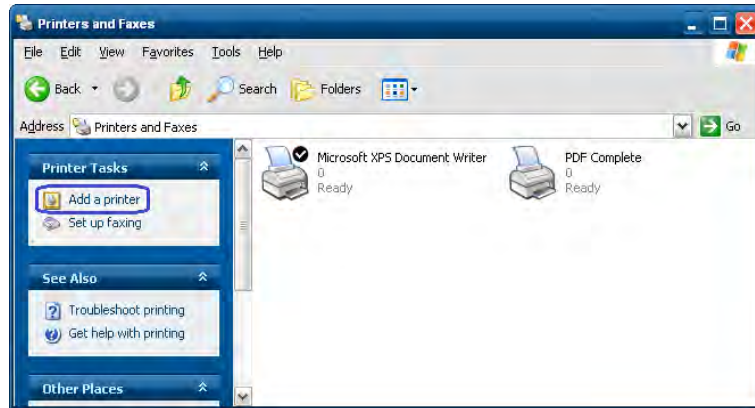
Comm. Interfaces
Port Idle Timeout : disabled
Interface - USB
RX Buffer Size : 4096
USB Driver Type : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
Interface - RS232
RX Buffer Size : 4096
Parameters
Baud Rate : 115200
Data Bits : 8
Stop Bit : 1
Parity : NONE
Flow Control : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
Interface - Bluetooth
Status : not available
Interface - Ethernet
Ethernet Type : Wired
Parameters
MAC Address : 00:E0:70:F0:21:7C
IP Address : 10.1.3.18
Net Mask : 255.255.252.0
Gateway : 10.1.0.1
Raw TCPIP Port : 9001
Loop Back Port : Disabled
Http Server Port : 80
DHCP : Enabled
Client ID : 00E070F0217C
Idle Timeout : Disabled
Keep Alive Pings : Disabled
  
```

注：初期設定のIPアドレスは192.0.0.192です。印刷した診断フォームにこのアドレスが記載されている場合、プリンターのIPアドレスは取得されていません。

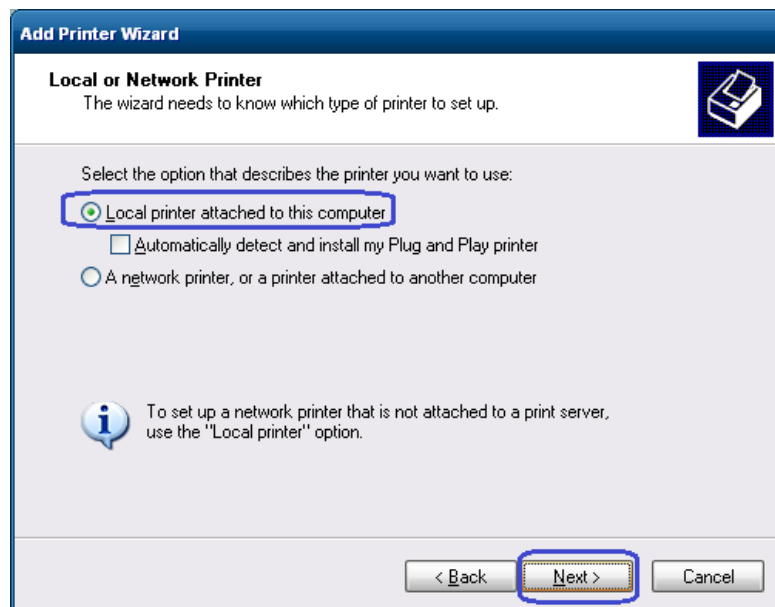


2. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。



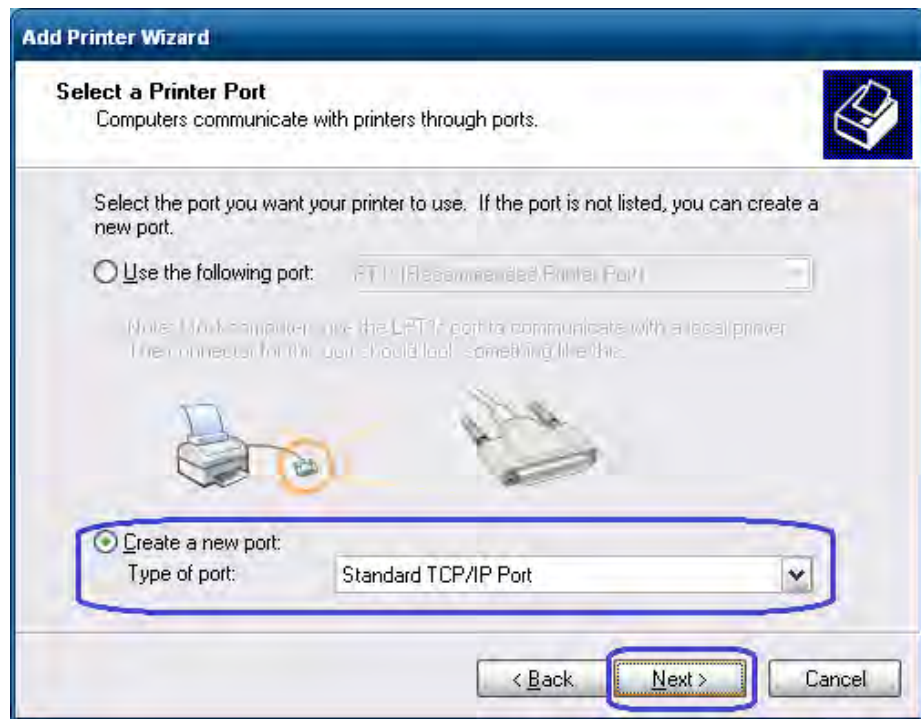


3. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。ネットワーク オプションを選択しないでください。

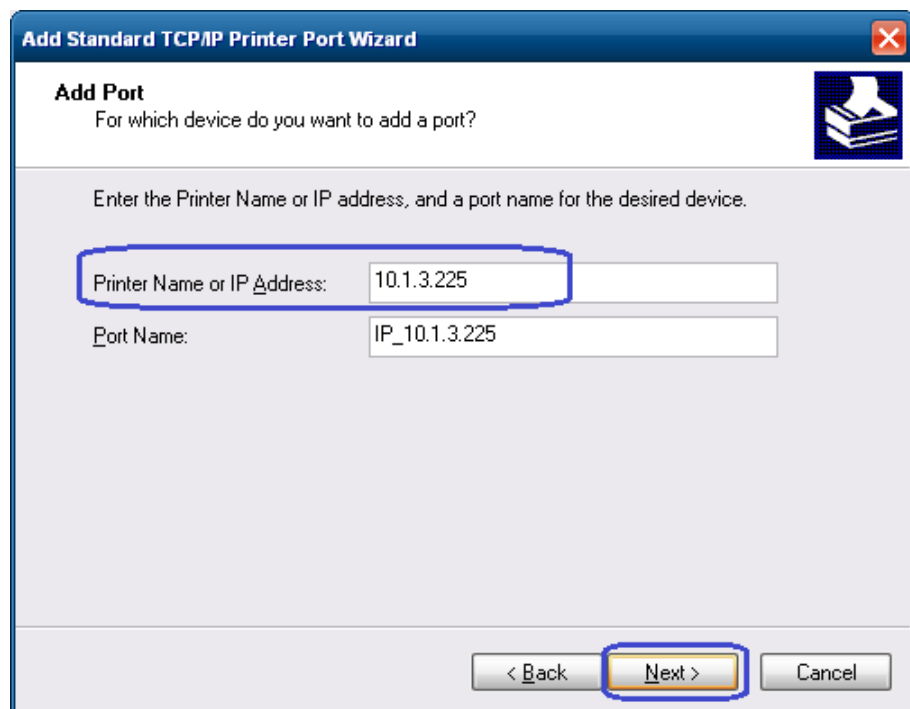


4. [新しいポートの作成]オプションを選択します。

5. [Standard TCP/IP Port]オプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

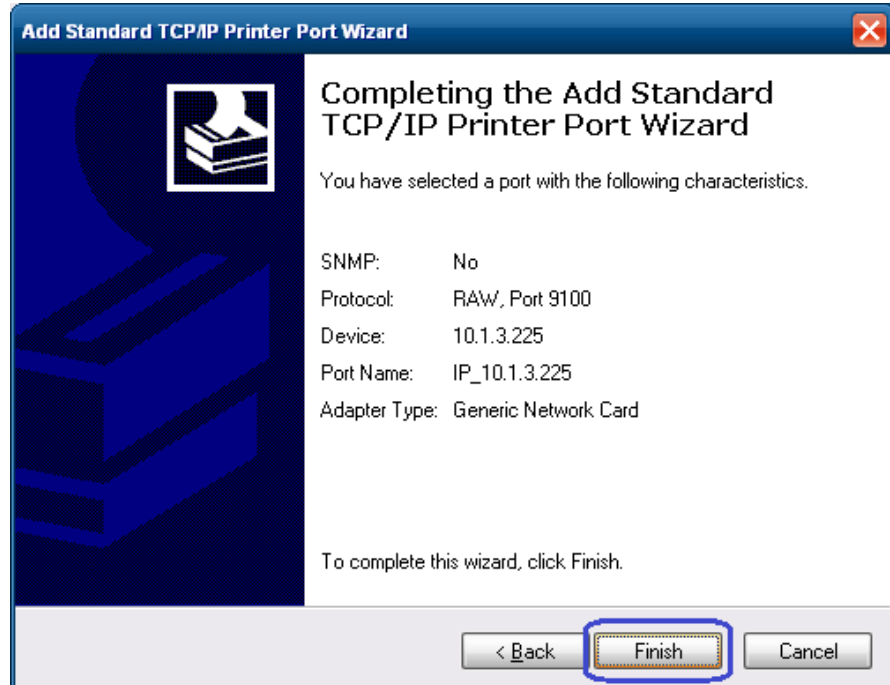
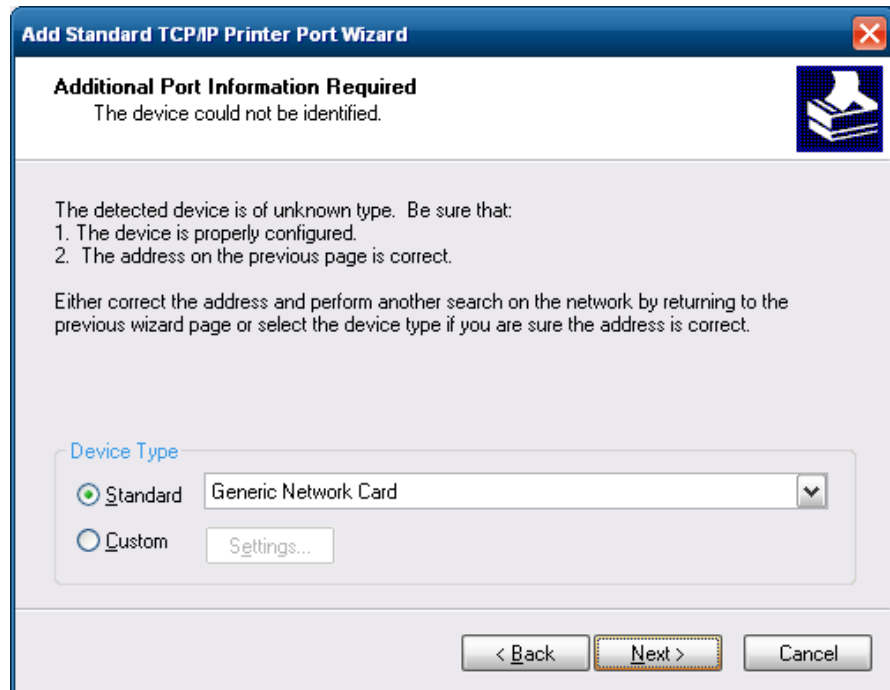


6. 診断フォームに印刷されているIPアドレスを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

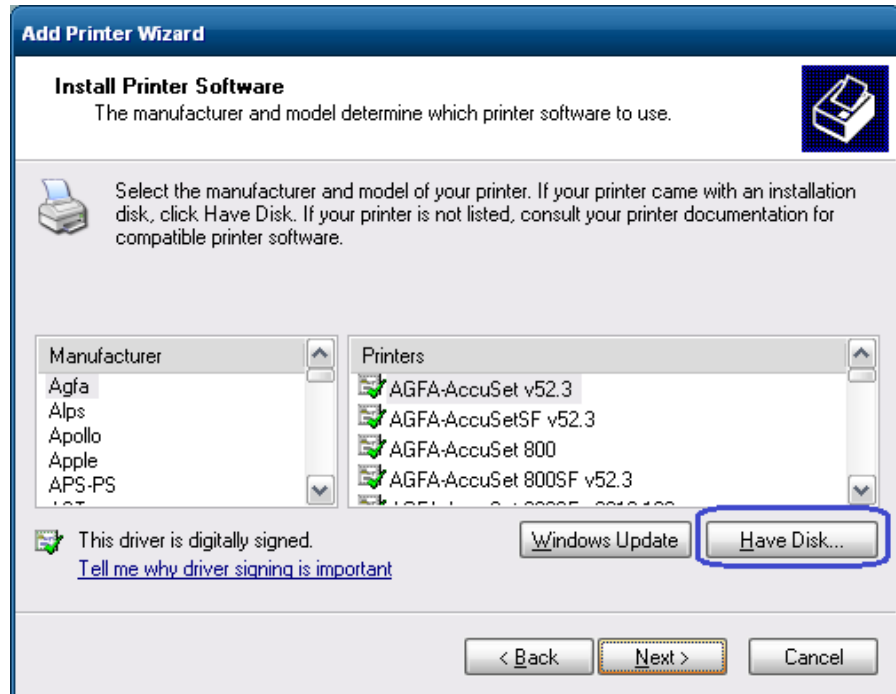


注： 画面上のIPアドレスは一例であり、実際のIPアドレスとは異なります。

7. [ポート情報がさらに必要です]のGUIで、[標準]→[Generic Network Card]の順に選択して[次へ]→[完了]ボタンの順にクリックします。



8. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択します。



9. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[OEMPRINT.INF]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

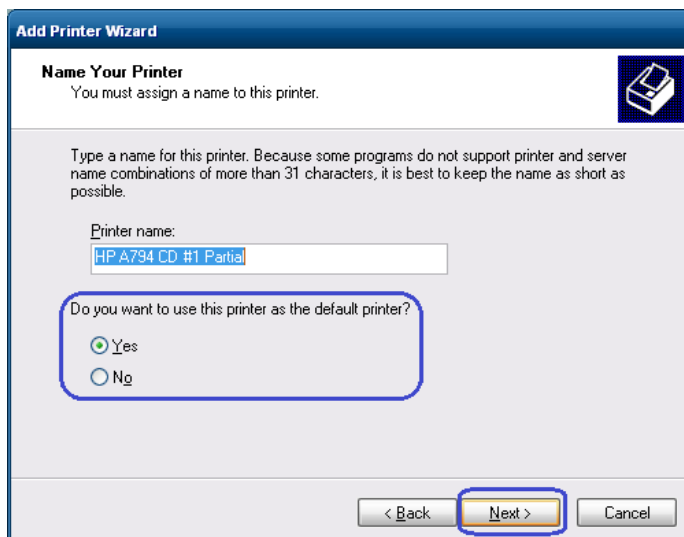
HPの工場出荷時のイメージの場所は以下のとおりです。

### 32ビットのイメージ

C:\xxxxx\Point of Sale¥Receipt Printer¥Windows Receipt Printer Drivers¥32Bit¥ <お使いのプリンターのモデルと一致するフォルダーにアクセスします>

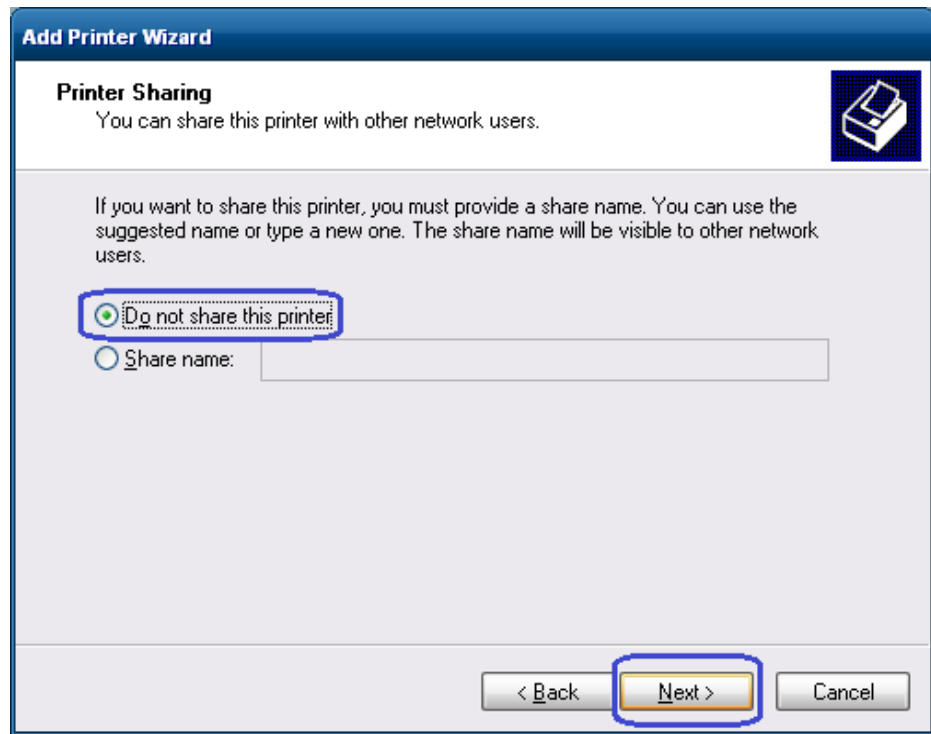
A798プリンターを使用している場合は、A794フォルダーにアクセスします。

10. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

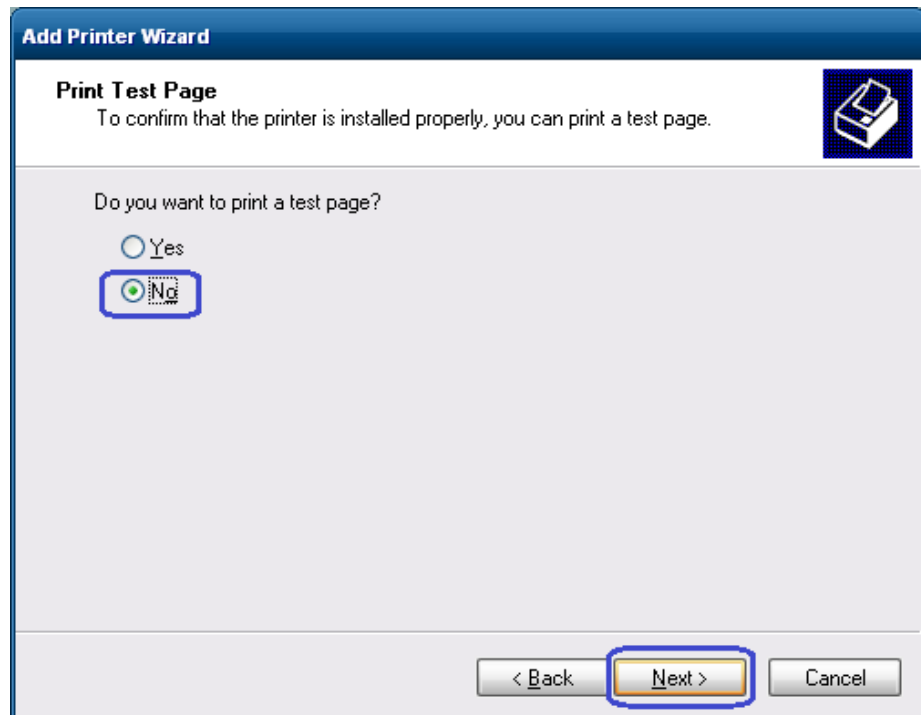


注： 実際のモデル名は上記のGUIに表示されているものと異なる場合があります。

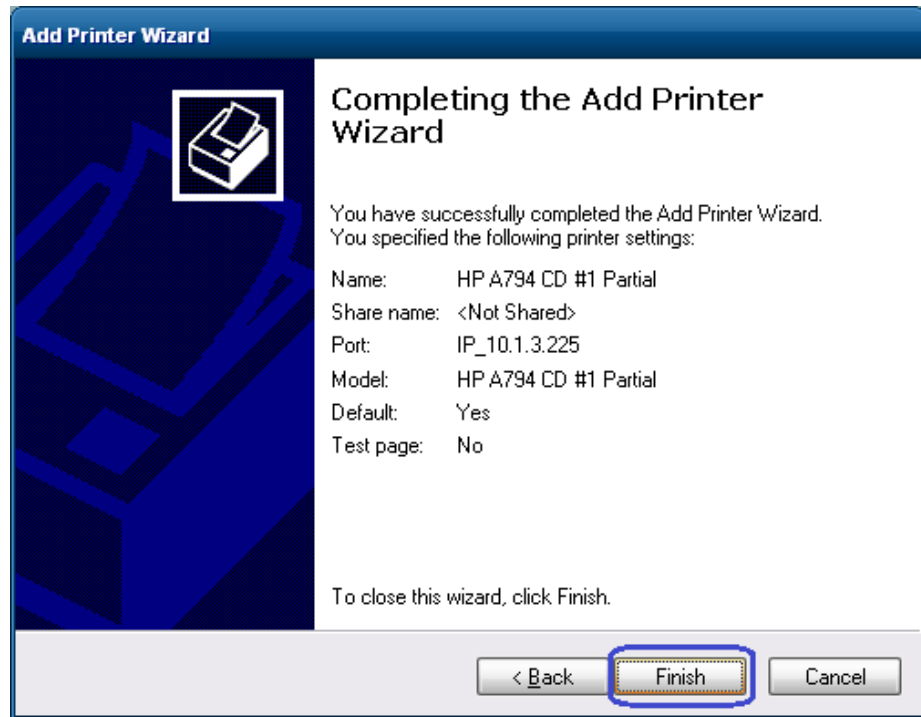
11. [プリンター共有]のGUIで、[このプリンターを共有しない]オプションを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



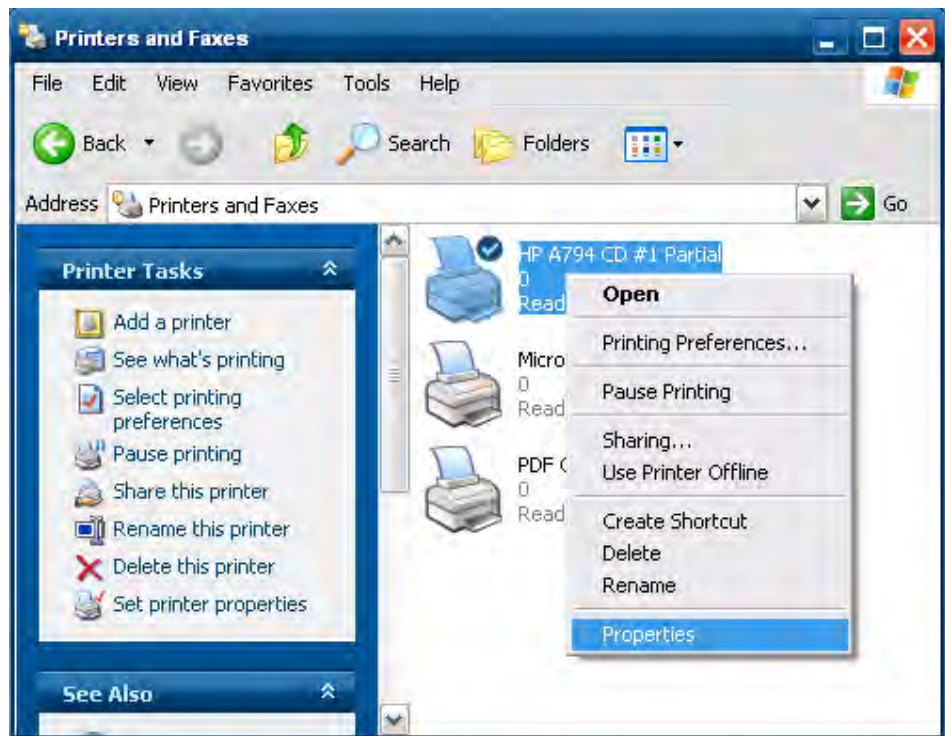
12. [テスト ページの印刷]のGUIで、[いいえ]オプションを選択して、[次へ]ボタンをクリックします。ここで[いいえ]を選択する理由は、設定がまだ完了していないからです。



13. [完了]ボタンをクリックします。

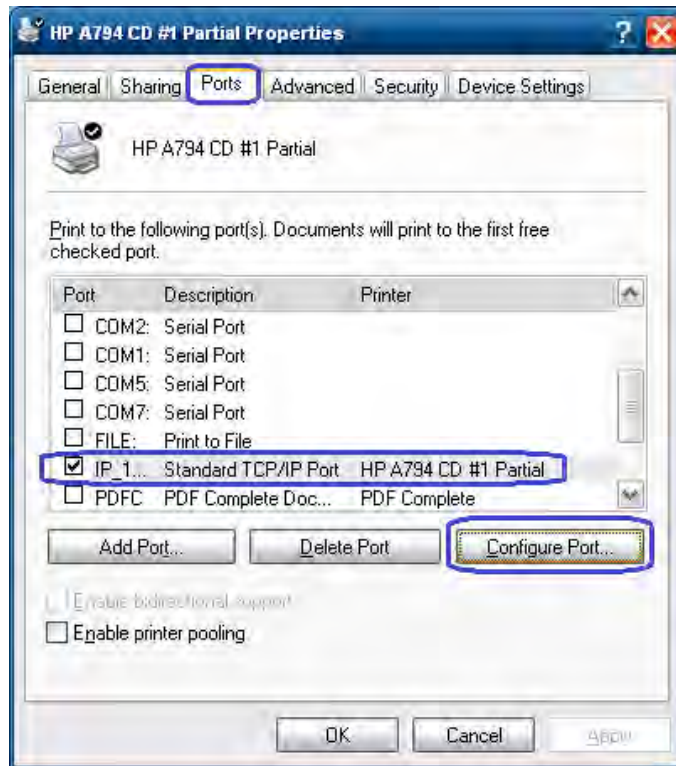


14. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プロパティ]を選択します。



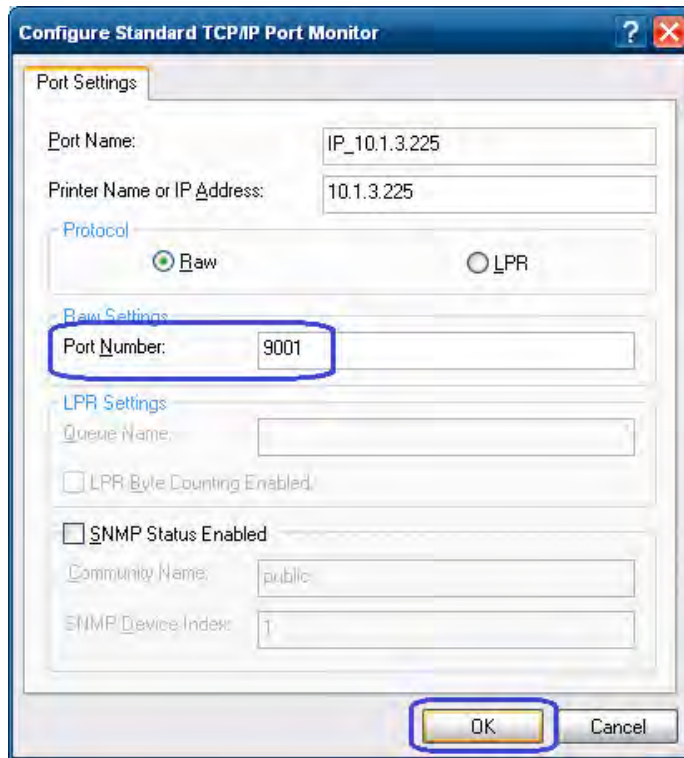


15. [ポート]タブを選択します。
16. インストールしたプリンターのポートを強調表示して、[ポートの構成]を選択します。

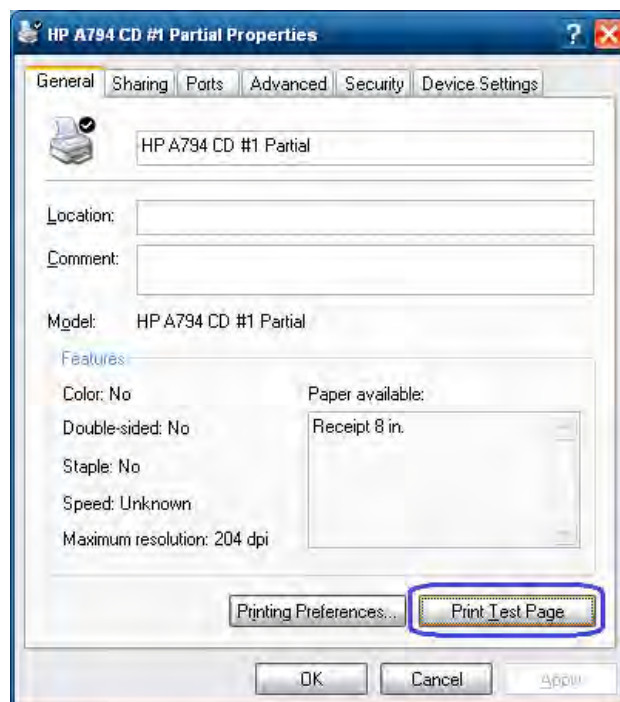




17. [標準TCP/IPポート モニターの構成]のGUIの[Raw設定]セクションにアクセスします。[ポート番号]セクションで「9001」（診断フォームを再チェックして「Raw TCP/IPポート」欄に「9001」と記載されていることを確認してください）と入力して、[OK]をクリックします。



18. プリンターのプロパティのGUIを閉じます。  
19. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プロパティ]を選択します。  
20. [テストページの印刷]をクリックすると、印刷が実行されます。



#### 6.5.8.4 バージョン1.0.0～1.0.3用のWindowsプリンター ドライバー (USB)

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

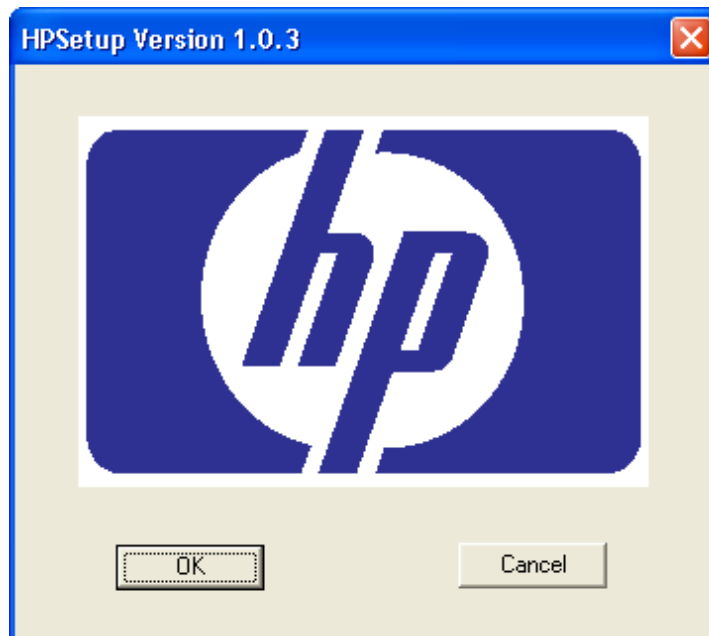
1. [HPSETUP.EXE]プログラムを開き、メインGUI (グラフィカル ユーザー インターフェイス) で[OK]をクリックして、Windowsミニドライバーのセットアップ プログラムを開始します。
2. 実行されているオペレーティング システムに応じて、32ビットまたは64ビットを選択します。
3. インストールするプリンターのモデルを選択します。
4. ドロップダウン メニューから、インストールするプリンター ドライバーのオプションを選択します。
5. ドロップダウン メニューから[USBxxx]プリンター ポート (USBの仮想プリンター ポート) を選択します (メニューの下の方にあります)。
6. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。小さいテスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

#### 詳しい手順

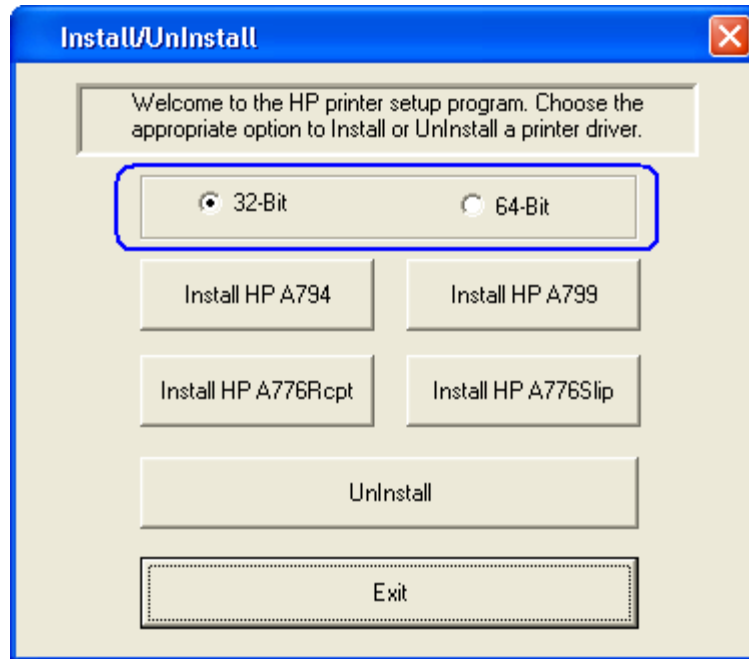
1. [HPSETUP.EXE]ファイルをダブルクリックし、[OK]をクリックして、Windowsミニドライバーのセットアッププログラムを開始します。

[HPSETUP.EXE]ファイルは、スタート メニューから開くことも、「C:\¥xxxxx¥Point of Sale¥Receipt Printer¥Windows Receipt Printer Drivers」フォルダーにアクセスし、[HPSETUP.EXE]ファイルをダブルクリックして開くこともできます。

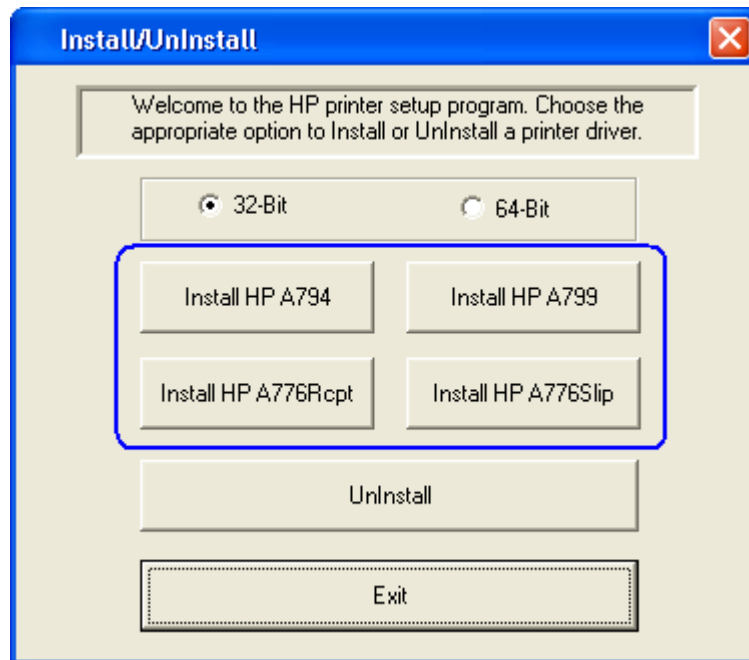
[HPSETUP.EXE]が開くと、以下のGUIが表示されます。



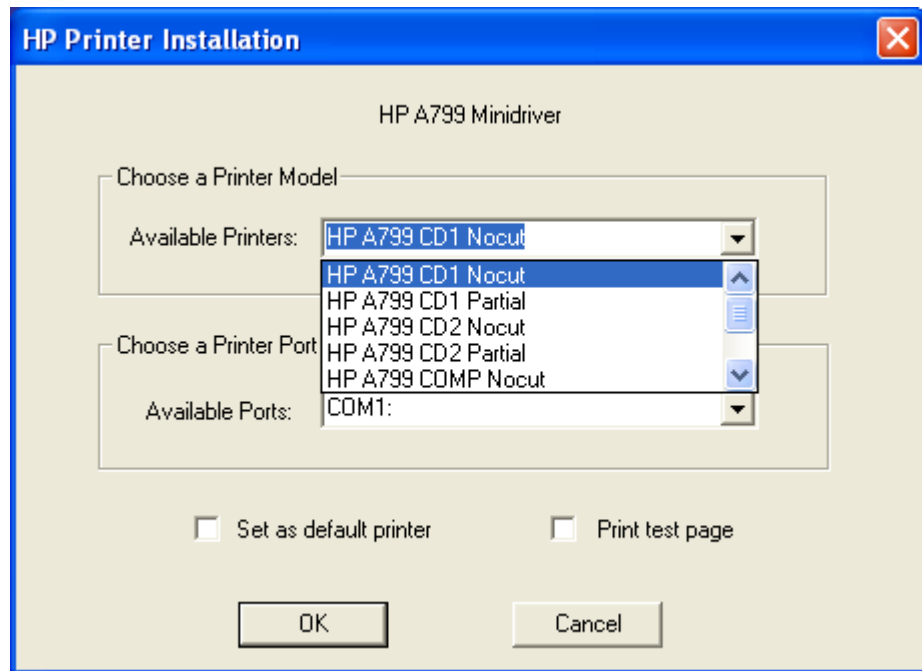
2. 実行されているオペレーティング システムに応じて、32ビットまたは64ビットを選択します。



3. インストールするプリンターのモデルを選択します。



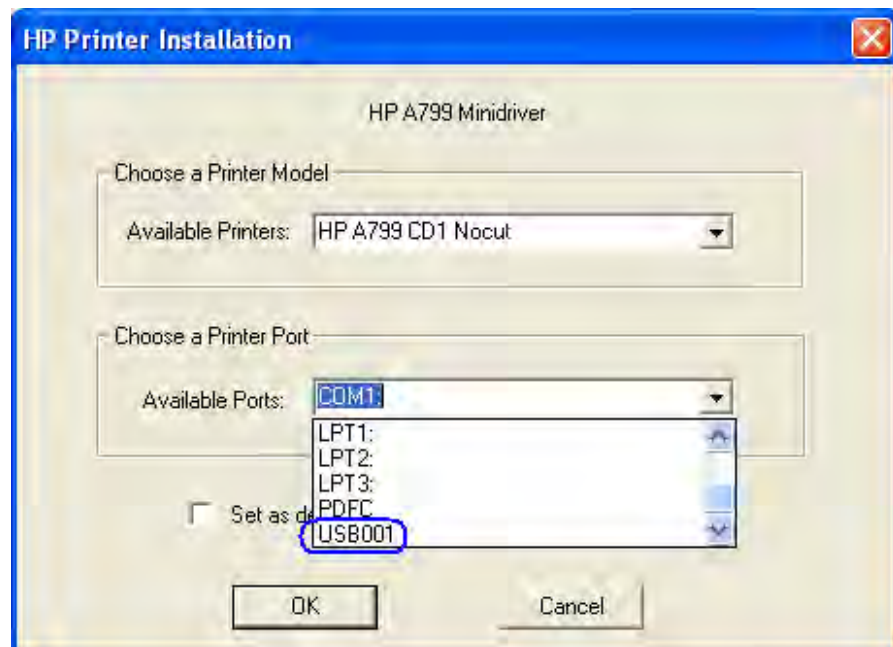
4. ドロップダウン メニューから、インストールするプリンター ドライバーのオプションを選択します。



- HP A7xx CD 1およびHP A7x CD 2の各バージョンでは、それぞれキャッシュ ドロアー1またはキャッシュ ドロアー2を開けるためのパルスが各検証後に生成されます。HP A7xx COMPバージョンでは、検証の開始時にリセット コマンドが送信されません。

注： 「xx」 はプリンターのモデル番号を示します (A794、A799、またはA776)。

5. ドロップダウン メニューから[USBxxx]プリンター ポート (USBの仮想プリンター ポート)を選択します (ドロップダウン メニューの下の方にあります)。



選択すると、選択項目が以下の画面のようになります。

HP Printer Installation

HP A799 Minidriver

Choose a Printer Model

Available Printers: HP A799 CD1 Nocut

Choose a Printer Port

Available Ports: USB001

Set as default printer       Print test page

OK      Cancel

このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer]オプションにチェックを入れます。

HP Printer Installation

HP A799 Minidriver

Choose a Printer Model

Available Printers: HP A799 CD1 Nocut

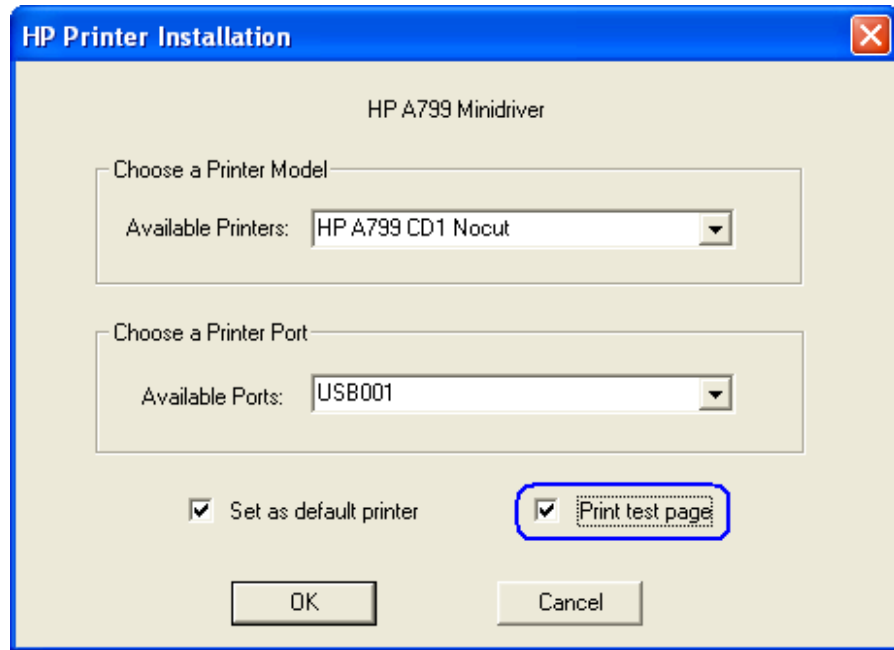
Choose a Printer Port

Available Ports: USB001

Set as default printer       Print test page

OK      Cancel

非常に小さいテスト ページを印刷する場合は、GUIで[Print test page] (テスト ページをプリントする) オプションにチェックを入れます。



6. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。小さいテスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

**注：**「NoCut (カットなし)」機能を備えたプリンター ドライバーのインストールを選択した場合、ドライバーのインストール処理中に[Print test page]を選択すると、テスト ページが印刷された後にレシート用紙がカットされます。

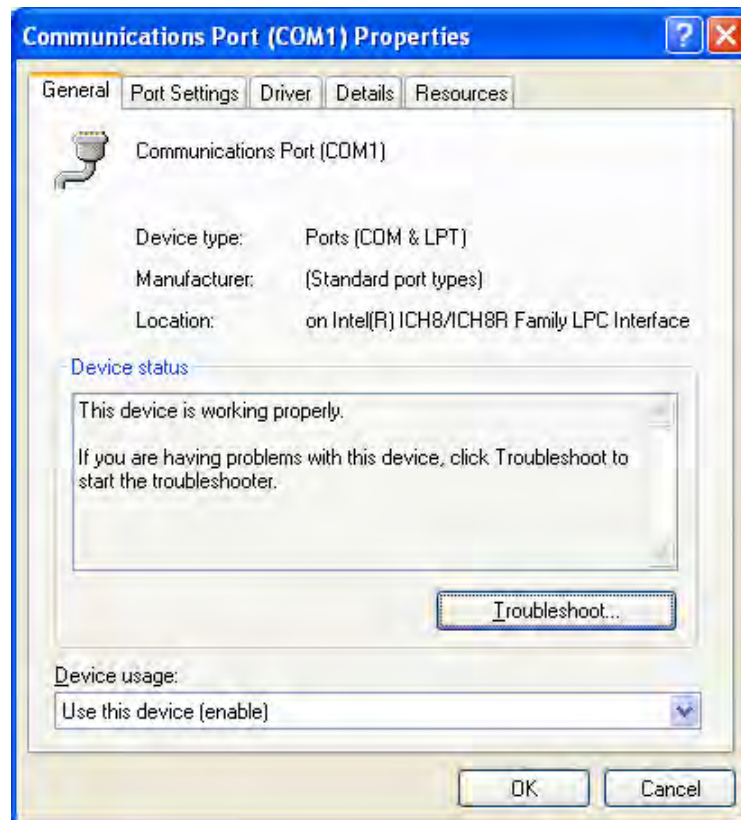
#### 6.5.8.5 バージョン1.0.0～1.0.3用のWindowsプリンター ドライバー（シリアル）

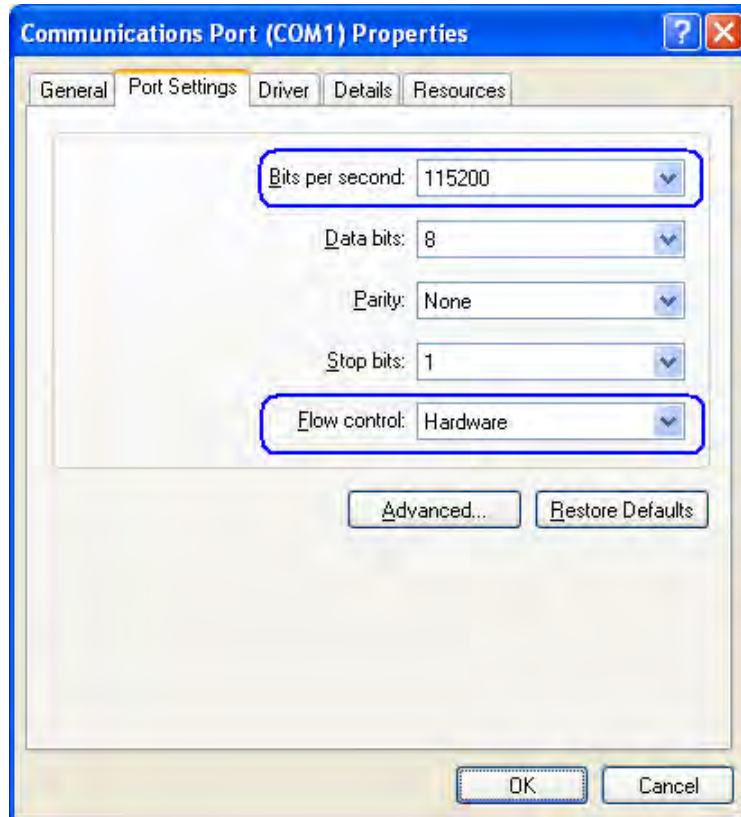
レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]（ハードウェア）に変更します。
3. [HPSETUP.EXE]プログラムを開き、メインGUI（グラフィカル ユーザー インターフェイス）で[OK]をクリックして、Windowsミニドライバのセットアップ プログラムを開始します。
4. インストールするプリンターのモデルを選択します。
5. ドロップダウン メニューから、インストールするプリンター ドライバのオプションを選択します。
6. プリンターが接続されているCOM（シリアル）ポートを選択します。
7. [OK]をクリックしてプリンター ドライバをインストールします。小さいテスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

#### 詳しい手順

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]に変更します。



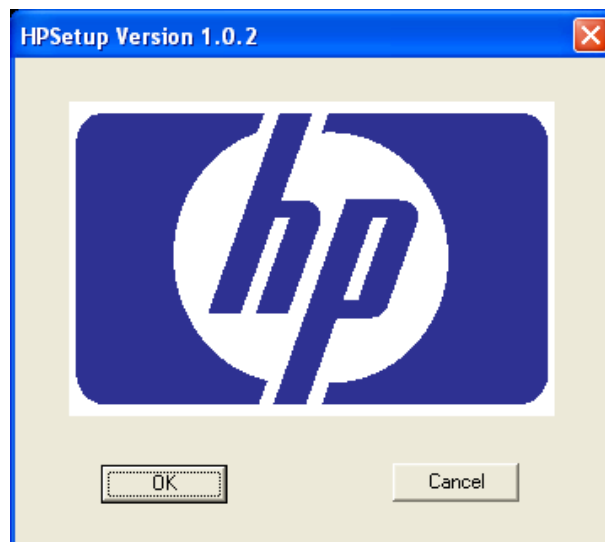


注： 実際のボーレートは、上記の画面ショットとは異なる場合があります。

3. [HPSETUP.EXE]ファイルをダブルクリックし、[OK]をクリックして、Windowsミニドライバーのセットアッププログラムを開始します。

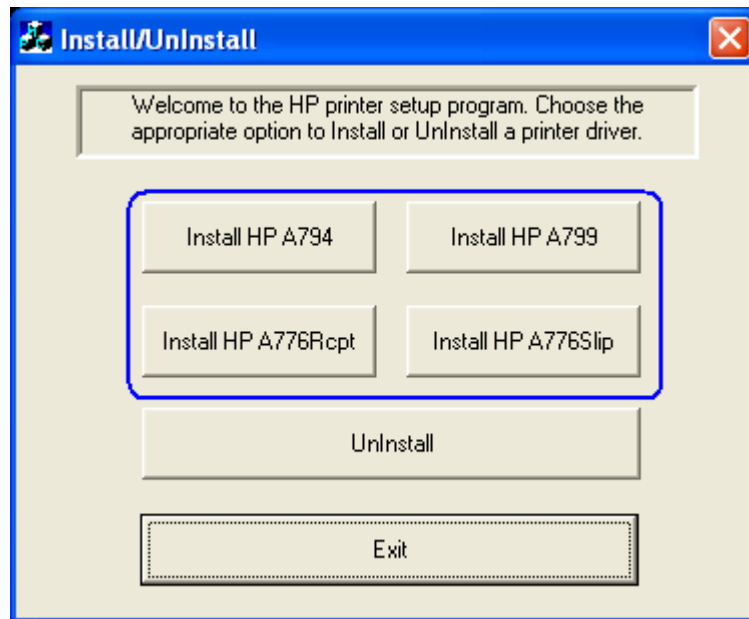
[HPSETUP.EXE]ファイルは、スタートメニューから開くことも、「C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers」フォルダーにアクセスして開くこともできます。

[HPSETUP.EXE]が開くと、以下のGUIが表示されます。

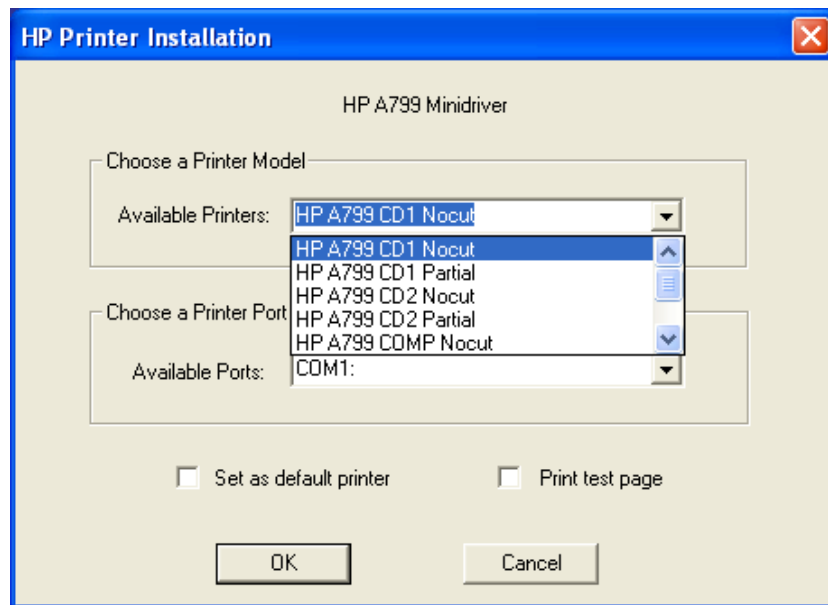




4. インストールするプリンターのモデルを選択します。



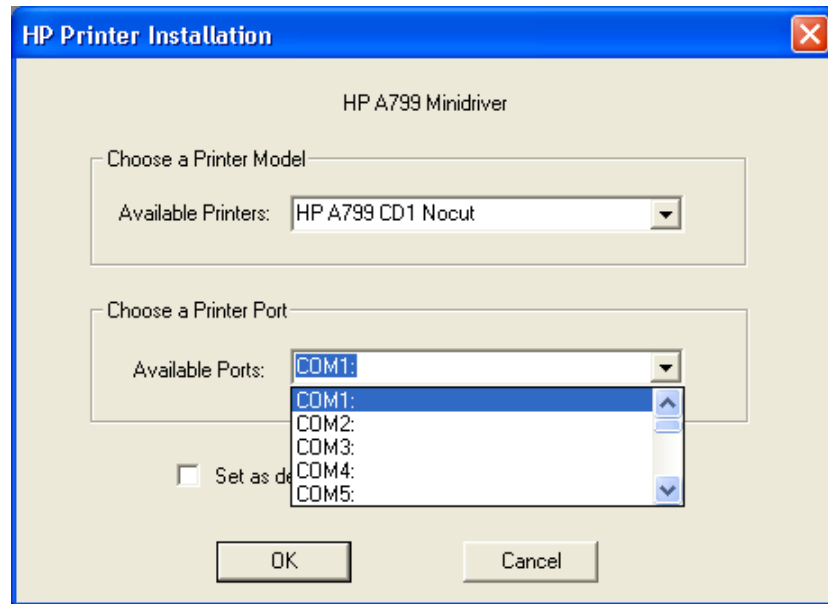
5. ドロップダウン メニューから、インストールするプリンター ドライバーのオプションを選択します。



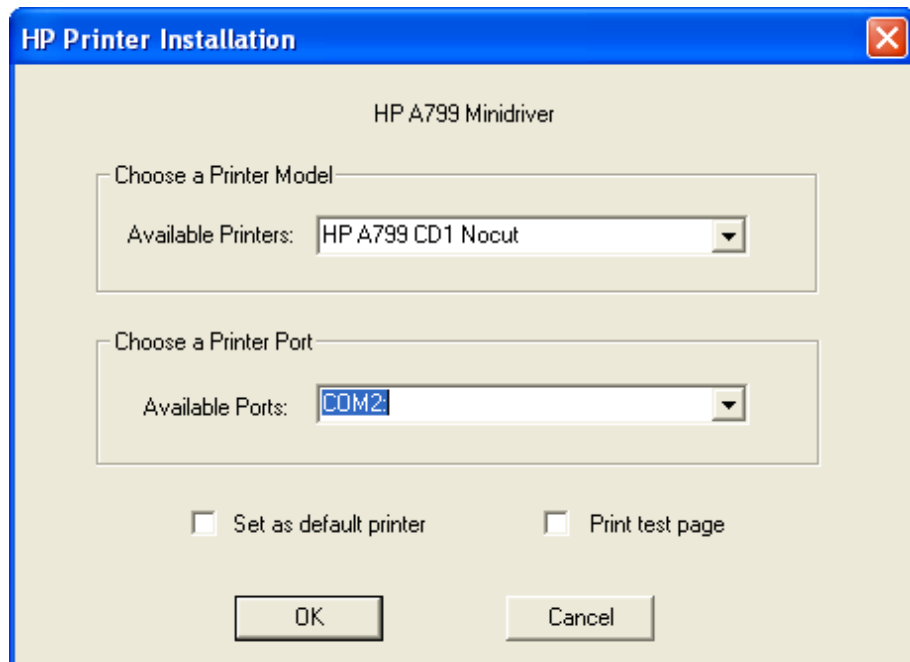
- HP A7xx CD 1およびHP A7x CD 2の各バージョンでは、それぞれキャッシュ ドロアー1またはキャッシュ ドロアー2を開けるためのパルスが各検証後に生成されます。HP A7xx COMPバージョンでは、検証の開始時にリセット コマンドが送信されません。

注： 「xx」 はプリンターのモデル番号を示します（A794、A799、またはA776）。

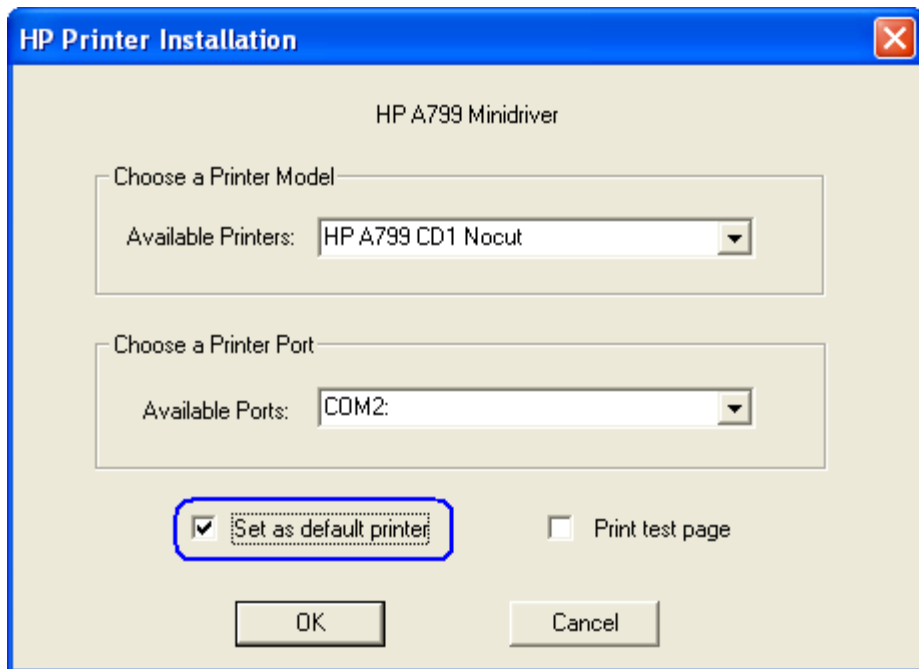
6. プリンターが接続されているCOM（シリアル）ポートを選択します。



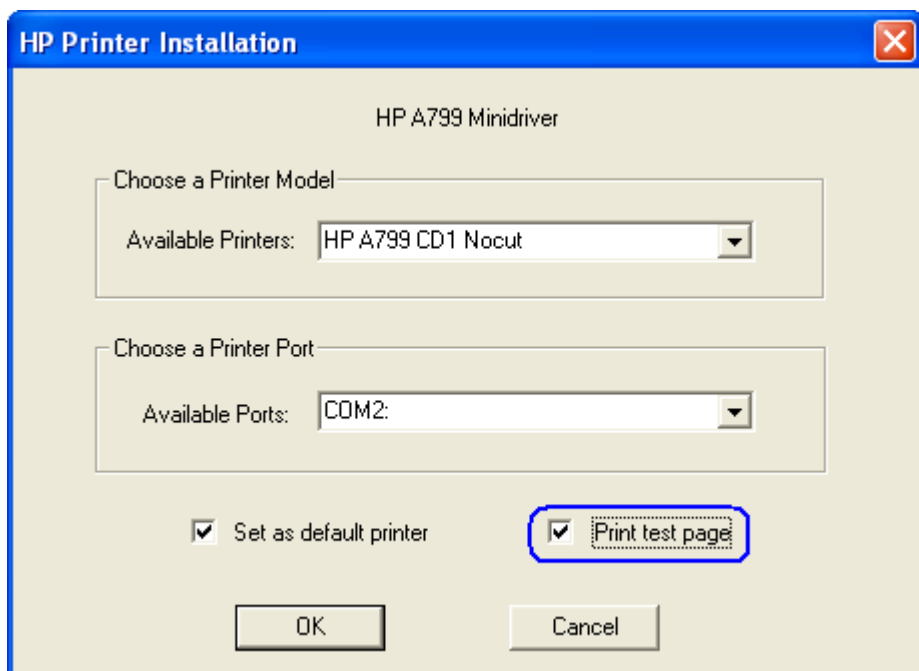
選択すると、選択項目が以下の画面のようになります。



このプリンターを初期設定のプリンターにするには、[Set as default printer]（初期設定のプリンターに設定する）オプションにチェックを入れます。



非常に小さいテスト ページを印刷する場合は、GUIで[Print test page]（テスト ページをプリントする）オプションにチェックを入れます。



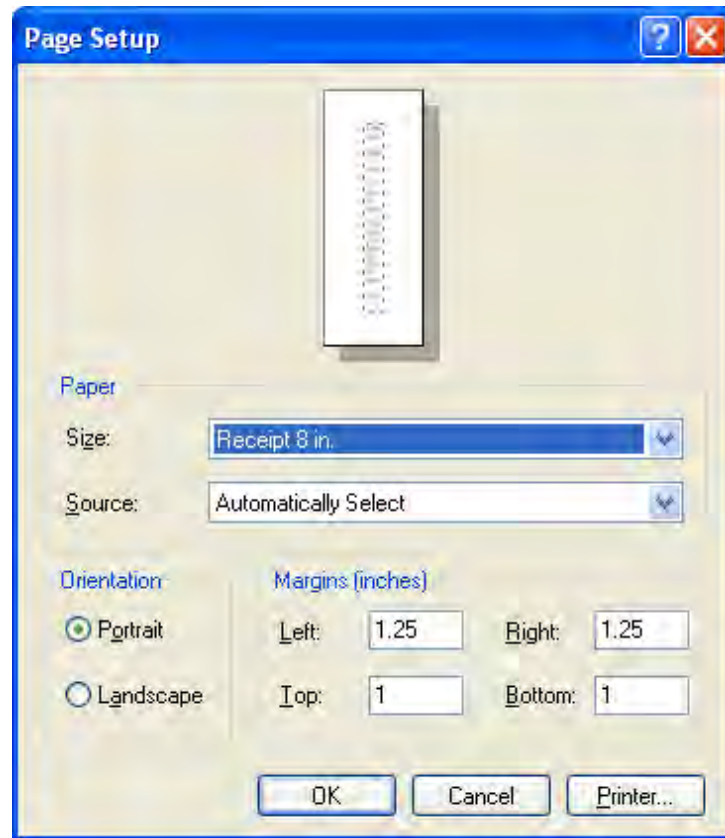
7. [OK]をクリックしてプリンター ドライバーをインストールします。小さいテスト ページを印刷するオプションにチェックを入れた場合は、テスト ページの印刷が行われます。

**注：**「NoCut（カットなし）」機能を備えたプリンター ドライバーのインストールを選択した場合、ドライバーのインストール処理中に[Print test page]を選択すると、テスト ページが印刷された後にレシート用紙がカットされます。

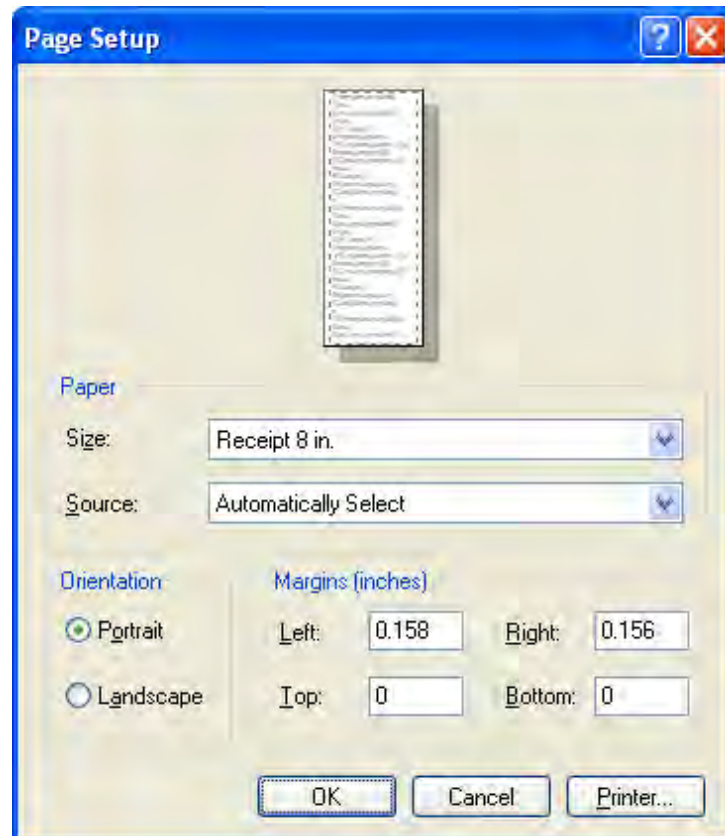
#### 6.5.8.6 Windows環境でのレシートプリンターのテスト（非OPoS）

Windowsミニドライバーのインストール時のテスト オプションに加え、プリンター ドライバーの読み込み後にも、[メモ帳]または[ワードパッド]を使用して、ドライバーが読み込まれてプリンターと通信していることを確認できます。[メモ帳]または[ワードパッド]に1~2行の文を入力し、印刷オプションを選択します。入力した内容が出力として印字されることを確認します。[CD 1]の付いたWindowsミニドライバーを選択した場合は、キャッシュ ドロアーが開くことも確認します。

ミニドライバーには、[ワードパッド]でのテストに使用できるファイルが付属しています。このテストファイルを使用すると、バーコードの印字出力を確認できます。このファイルは「C:\xxxxx¥Point of Sale¥Receipt Printer¥Windows Receipt Printer Driver」にあります。ページ設定で、すべての余白を最小の値に設定するようにします。



または、すべての余白を0（ゼロ）に設定することもできます。[ワードパッド]では、余白を0に設定すると、余白が最小の値に自動的に設定されます。



以下の図は、ミニドライバーに付属するファイルを使用して印刷したときの印字出力の一部を例として示したものです。

HP A799 Minidriver  
Fonts & Barcodes

123456789.....12345	tab	tab
23456789	tab	tab
3456789	tab	tab
456789	tab	change!
56789	tab	height
change		
6789	12345	ITF HRI
789	12345	pitch change!
89	12345	
9	12345	

ITF Plain & HRI:



54810548673912

Jan8 Plain & HRI:



12121212

Codabar Plain &  
HRI:

E0D57+9\$32:A



D57+9\$32:A

Code 39 Plain &  
HRI:



\*0123456789\*

Jan13 Plain & HRI:



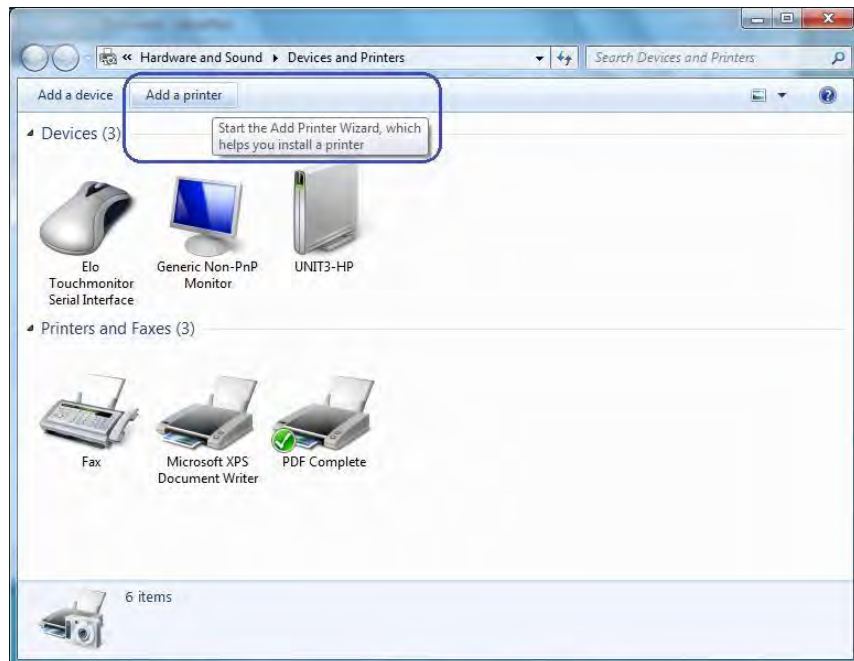
#### 6.5.8.7 バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンター ドライバー (USB) (Windows 7/8.1/10向け)

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

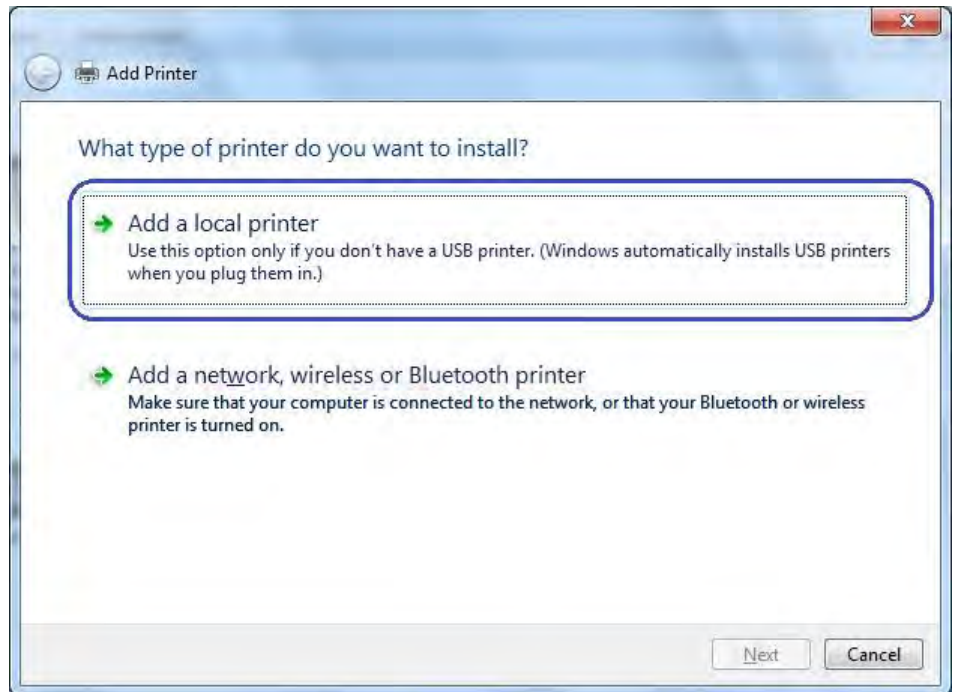
1. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。
2. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。
3. [既存のポートを使用]オプションおよび[USB00x (Virtual printer port for USB)]を選択します。
4. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]をクリックします。
5. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
6. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
7. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。
8. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。[完了]ボタンをクリックする前に、[テスト ページの印刷]をクリックすることもできます。

#### 詳しい手順

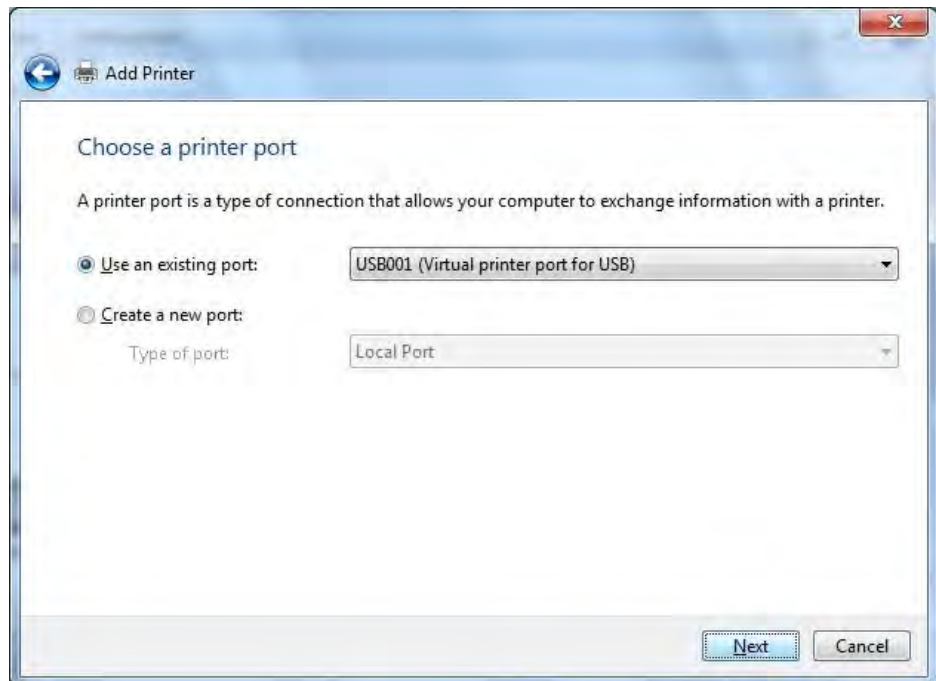
1. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。



2. [ローカルプリンターを追加します]を選択します。

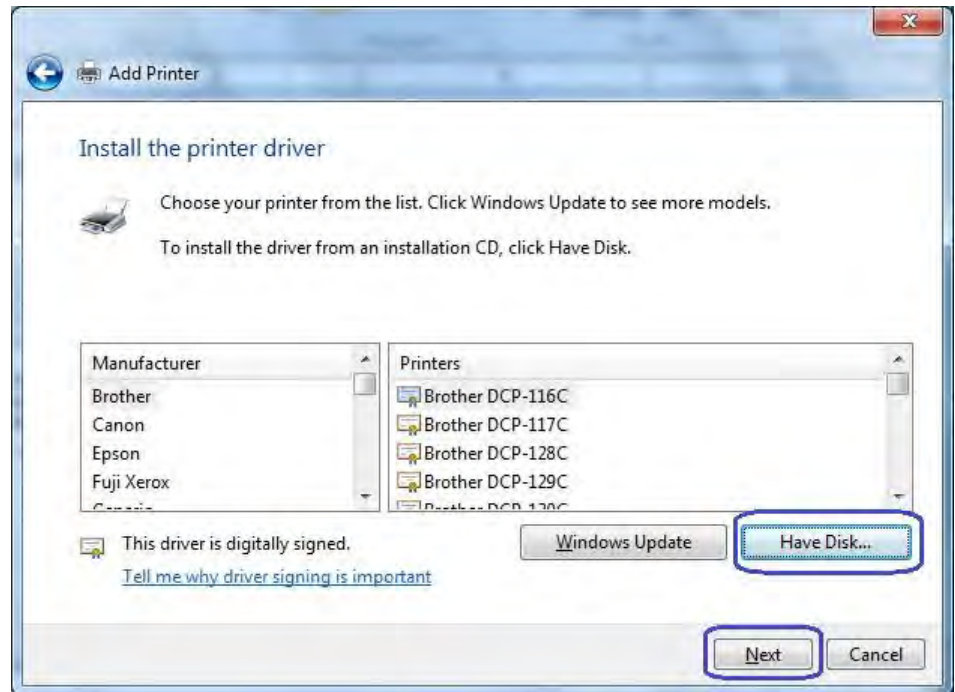


3. [既存のポートを使用]オプションおよび[USB00x (Virtual printer port for USB)]を選択します。





4. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。



5. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

HPの工場出荷時のイメージの場所は以下のとおりです。

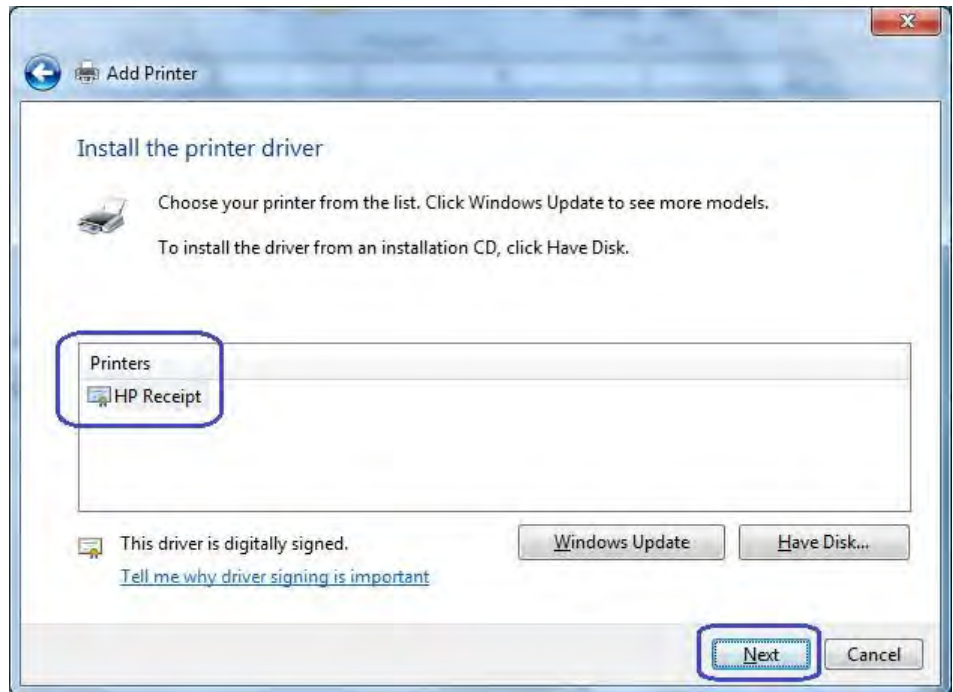
**32ビットのイメージ**

C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\32Bit\_MiniDrivers\Receipt

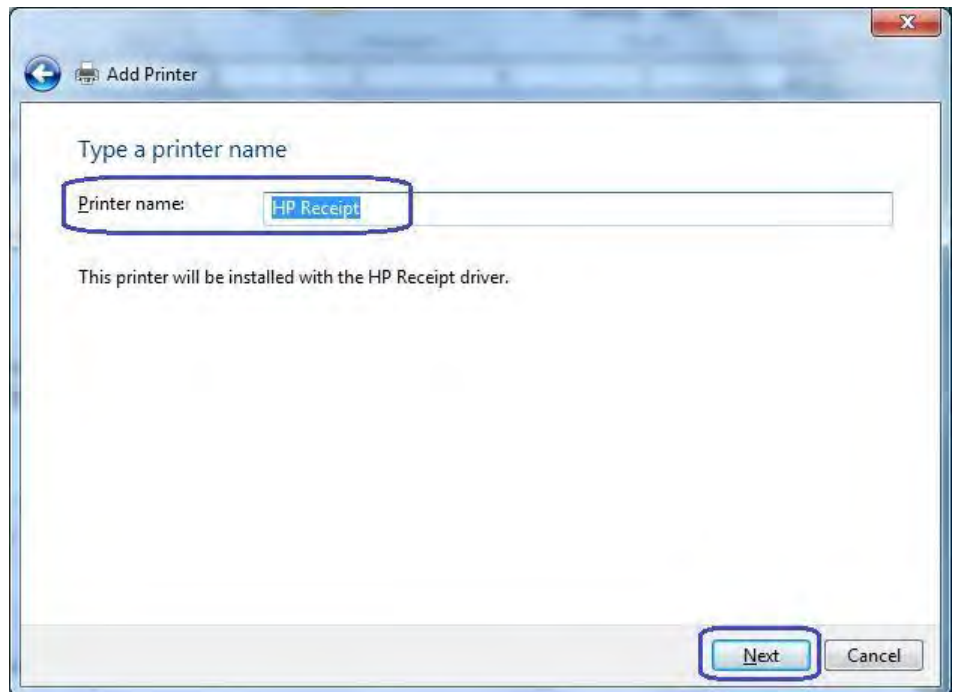
**64ビットのイメージ**

C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\64Bit\_MiniDrivers\Receipt

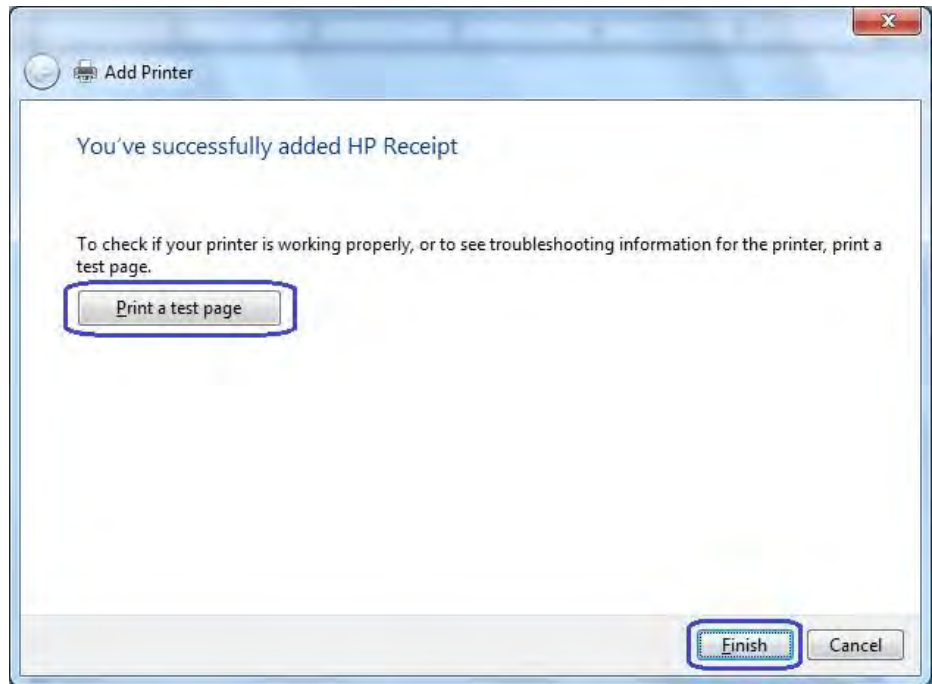
6. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



7. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。



8. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。[完了]ボタンをクリックする前に、[テストページの印刷]をクリックすることもできます。



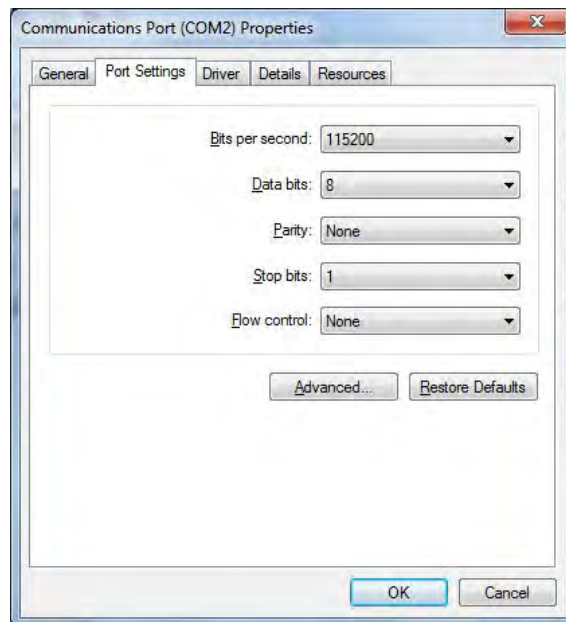
#### 6.5.8.8 バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンター ドライバー (シリアル) (Windows 7/8.1/10向け)

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]に変更します。
3. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。
4. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。
5. [既存のポートを使用]オプションを選択し、プリンターが接続されているCOMコネクタを選択します。
6. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。
7. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。
8. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
9. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
10. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。
11. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。[完了]ボタンをクリックする前に、[テスト ページの印刷]をクリックすることもできます。

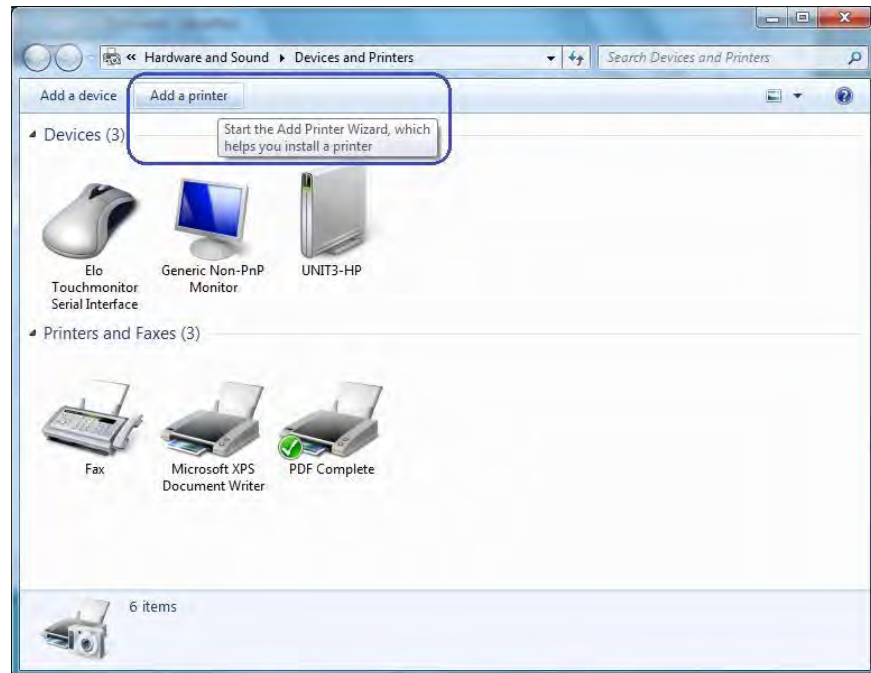
#### 詳しい手順

1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. 通信ポートのプロパティを開き、プリンターが接続されているポートのWindowsボーレートを、診断フォーム（前の手順で印刷したもの）上でプリンターに設定されているボーレートに変更し、フロー制御を[Hardware]に変更します。

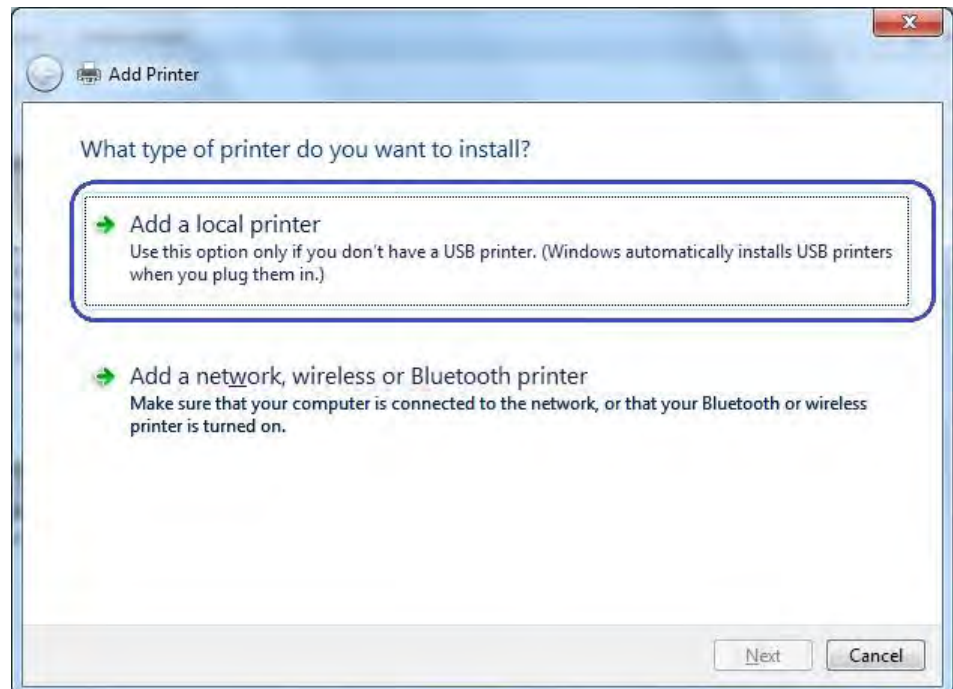


注： 実際のボーレートは、上記の画面ショットとは異なる場合があります。

3. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。

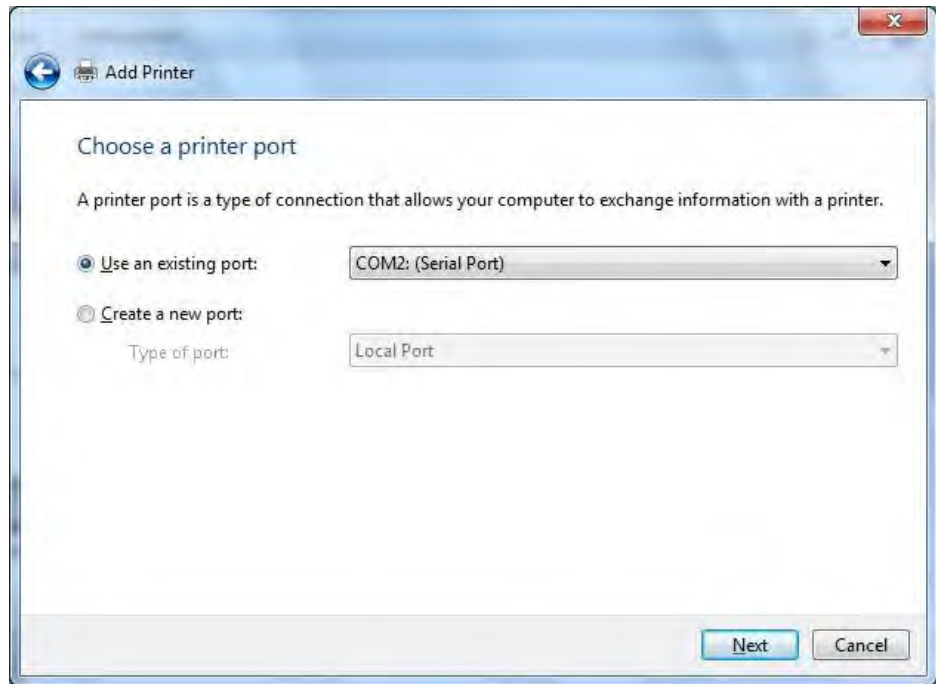


4. [ローカルプリンターを追加します]を選択します。



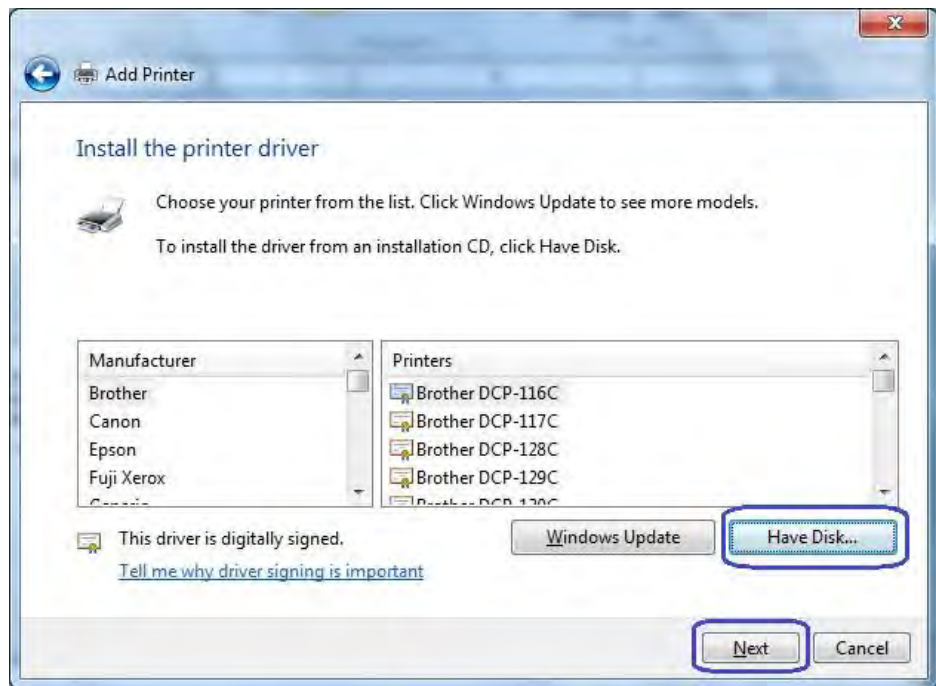
5. [既存のポートを使用]オプションを選択し、プリンターが接続されているCOMコネクタを選択します。

6. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。



注：上記のCOMコネクタは実際の設定と異なる場合があります。

7. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。



8. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

HPの工場出荷時のイメージの場所は以下のとおりです。

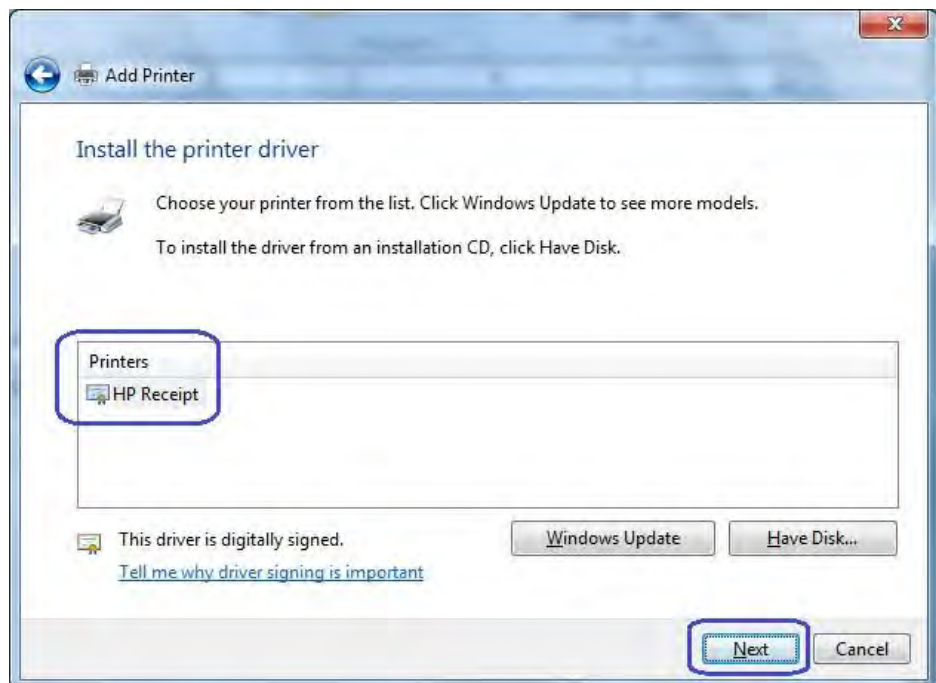
**32ビットのイメージ**

C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\32Bit\_MiniDrivers\Receipt

**64ビットのイメージ**

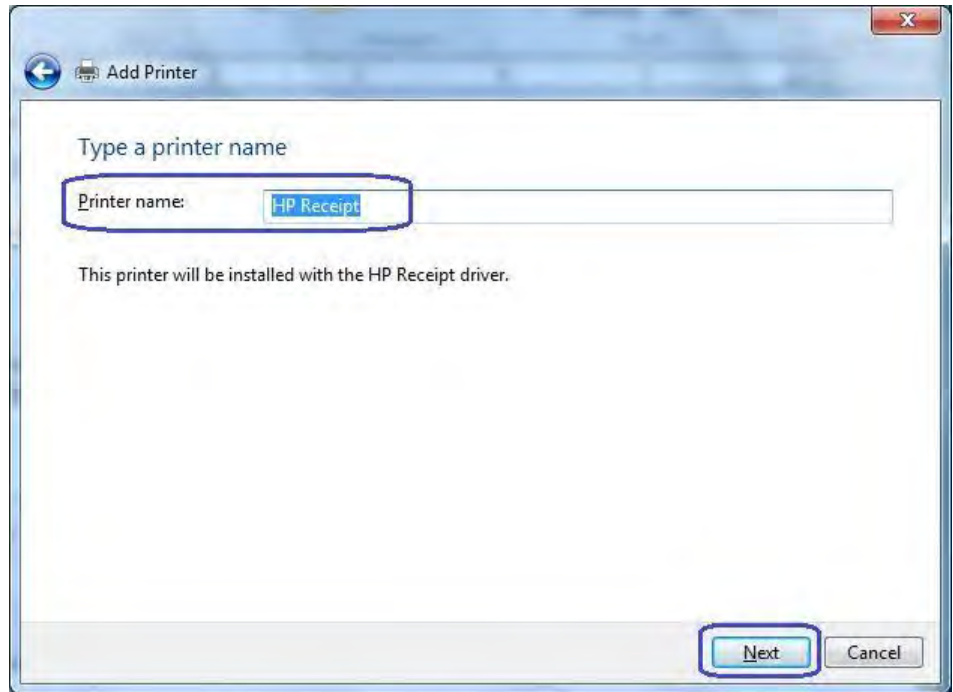
C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\64Bit\_MiniDrivers\Receipt

9. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

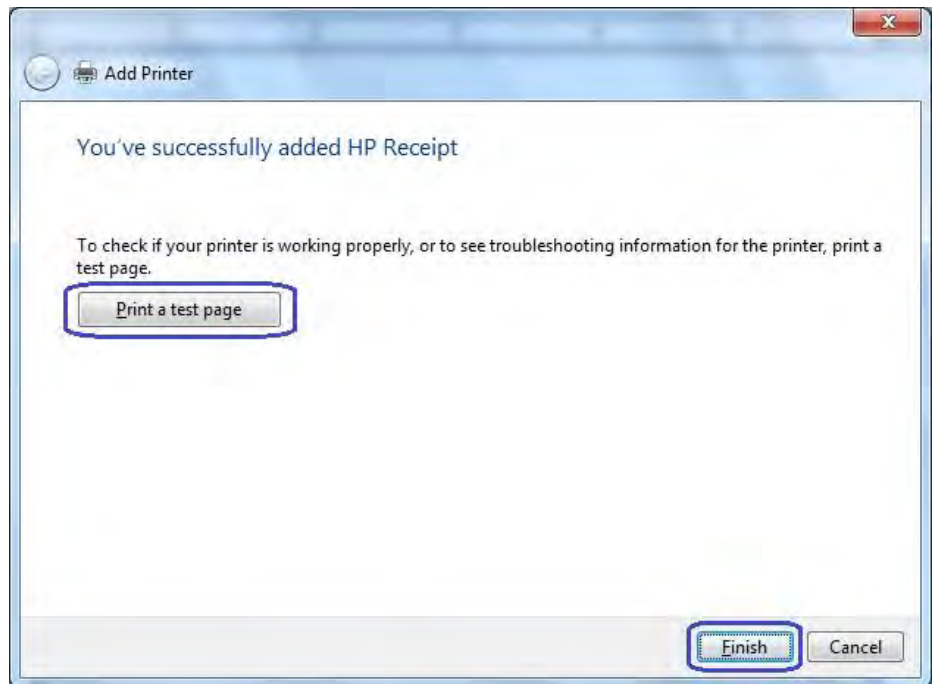




10. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。



11. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。[完了]ボタンをクリックする前に、[テストページの印刷]をクリックすることもできます。





#### 6.5.8.9 バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンター ドライバー (Ethernet) (Windows 7/8.1/10向け)

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

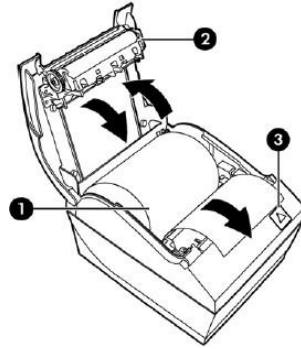
1. IPアドレスおよびRaw TCP/IPポートの情報を取得するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。
3. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。**ネットワーク オプションを選択しないでください。**
4. [新しいポートの作成]オプションを選択します。
5. [Standard TCP/IP Port]オプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
6. [プリンターを照会して、使用するプリンター ドライバーを自動的に選択する]のチェックを外します。
7. 診断フォームに印刷されているIPアドレスを入力して、[次へ]をクリックします。
8. [ポート情報がさらに必要です]のGUIで、[標準]→[Generic Network Card]の順に選択して、[次へ]をクリックします。
9. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。
10. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。
11. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
12. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。
13. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。設定がまだ完了していないため、[テスト ページの印刷]ボタンは**クリックしないでください。**
14. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プリンターのプロパティ]を選択します。
15. [ポート]タブを選択します。
16. インストールしたプリンターのポートを強調表示して、[ポートの構成]を選択します。
17. [標準TCP/IPポート モニターの構成]のGUIの[Raw設定]セクションにアクセスします。[ポート番号]セクションで「9001」（診断フォームを再チェックして「Raw TCP/IPポート」欄に「9001」と記載されていることを確認してください）と入力して、[OK]をクリックします。
18. プリンターのプロパティのGUIを閉じます。
19. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プリンターのプロパティ]を選択します。
20. [テスト ページの印刷]をクリックすると、印刷が実行されます。

#### 詳しい手順

1. IPアドレスおよびRaw TCP/IPポートの情報を取得するために、プリンターの診断フォームを印刷します。

#### 診断フォームを取得するための手順

- A. プリンターをネットワークに接続して、プリンターの電源を入れます。
- B. 診断フォームの印刷を実行し、印刷した診断フォームでプリンターのIPアドレスを確認します。
- C. 用紙がプリンターにセットされていることを確認します (1)。
- D. レシート カバーを開きます (2)。
- E. 給紙ボタンを押し続けます (3)。
- F. レシート カバーを閉じます (2)。



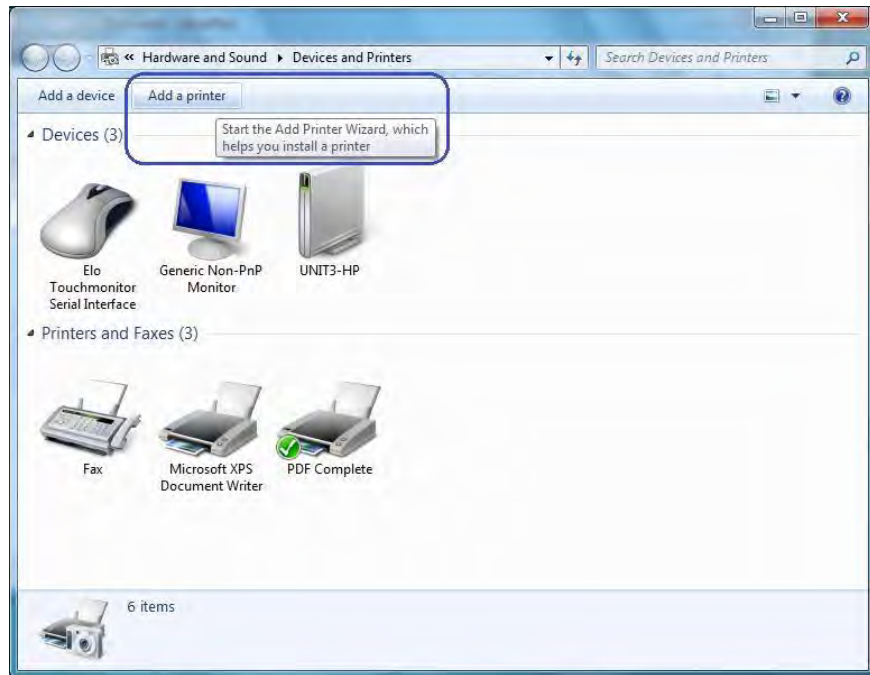
印刷したA799IIの診断フォームの一部を以下に示します。診断フォームにはIPアドレスおよびポートの情報が示されています。

```

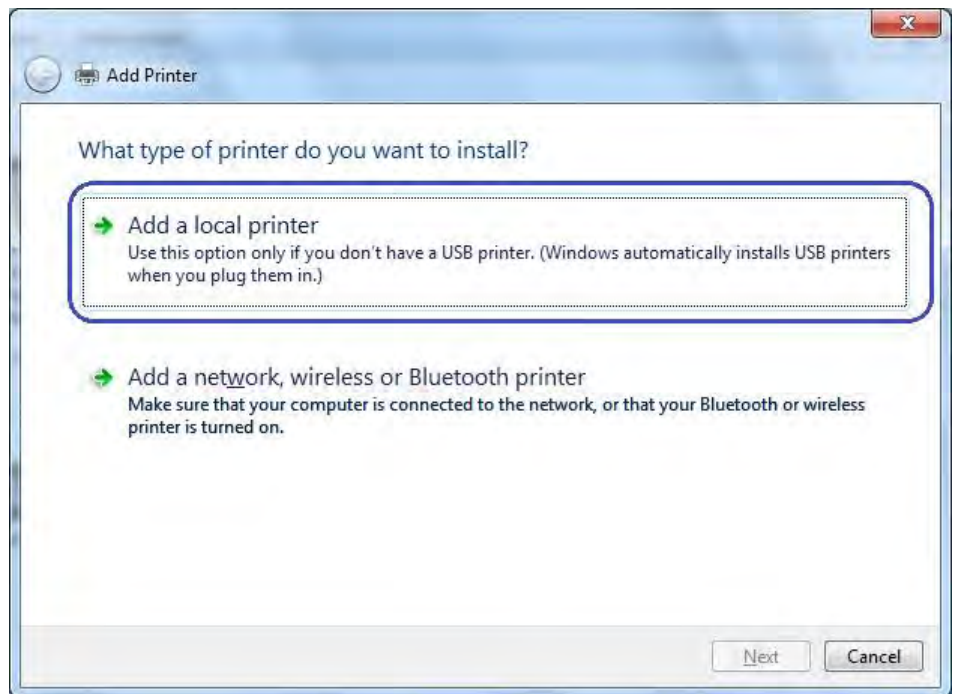
Comm. Interfaces
Port Idle Timeout : disabled
Interface - USB
RX Buffer Size : 4096
USB Driver Type : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
Interface - RS232
RX Buffer Size : 4096
Parameters
Baud Rate : 115200
Data Bits : 8
Stop Bit : 1
Parity : NONE
Flow Control : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
Interface - Bluetooth
Status : not available
Interface - Ethernet
Ethernet Type : Wired
Parameters
MAC Address : 00:E0:70:F0:21:7C
IP Address : 10.1.3.18
Net Mask : 255.255.252.0
Gateway : 10.1.0.1
Raw TCPIP Port : 9001
Loop Back Port : Disabled
Http Server Port : 80
DHCP : Enabled
Client ID : 00E070F0217C
Idle Timeout : Disabled
Keep Alive Pings : Disabled
  
```

注： 初期設定のIPアドレスは192.0.0.192です。印刷した診断フォームにこのアドレスが記載されている場合、プリンターのIPアドレスは取得されていません。

2. [コントロール パネル]→[デバイスとプリンター]にアクセスして、[プリンターの追加]を選択します。

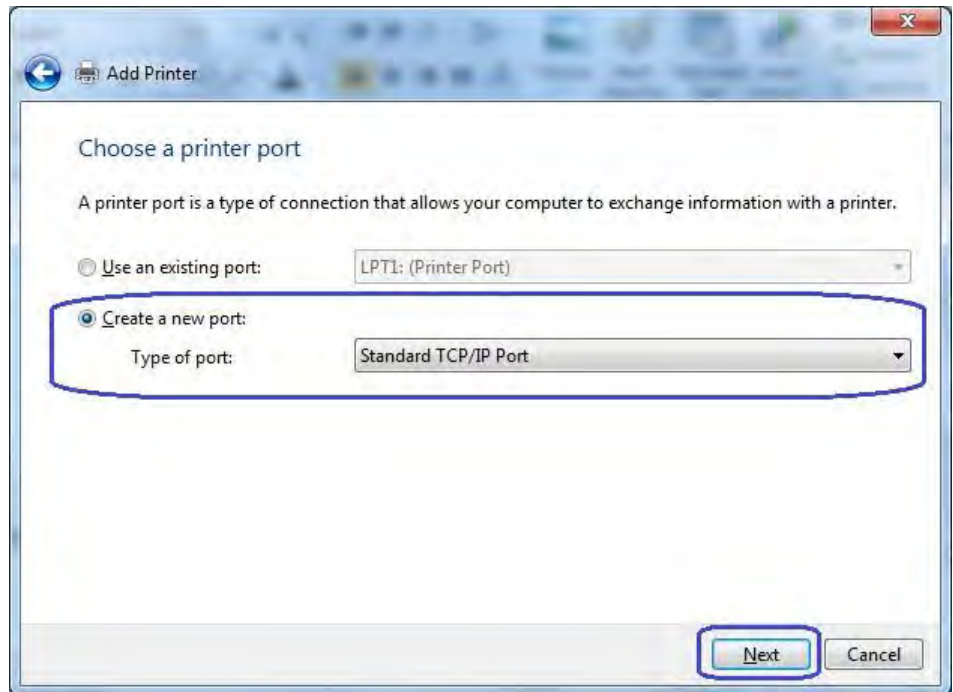


3. [ローカル プリンターを追加します]を選択します。ネットワーク オプションを選択しないでください。

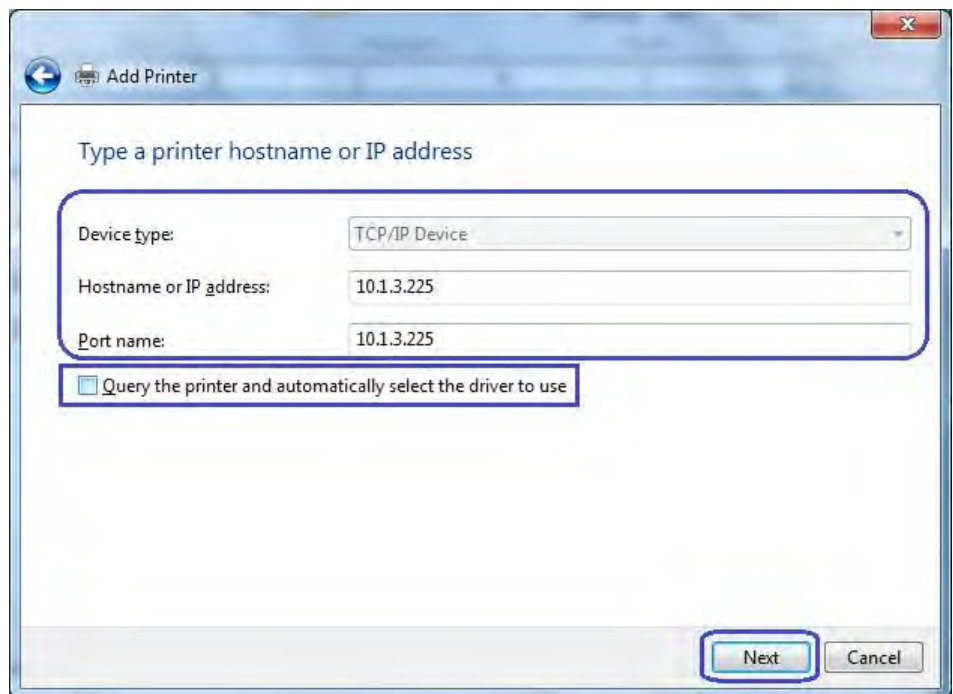


4. [新しいポートの作成]オプションを選択します。

5. [Standard TCP/IP Port]オプションを選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

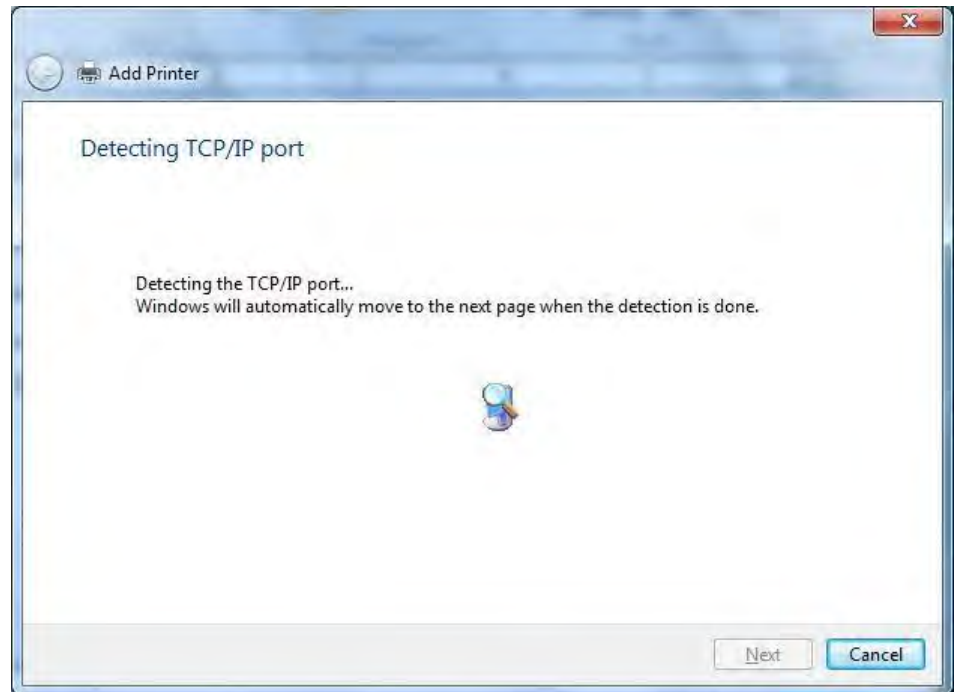


6. [プリンターを照会して、使用するプリンター ドライバーを自動的に選択する]のチェックを外します。
7. 診断フォームに印刷されているIPアドレスを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

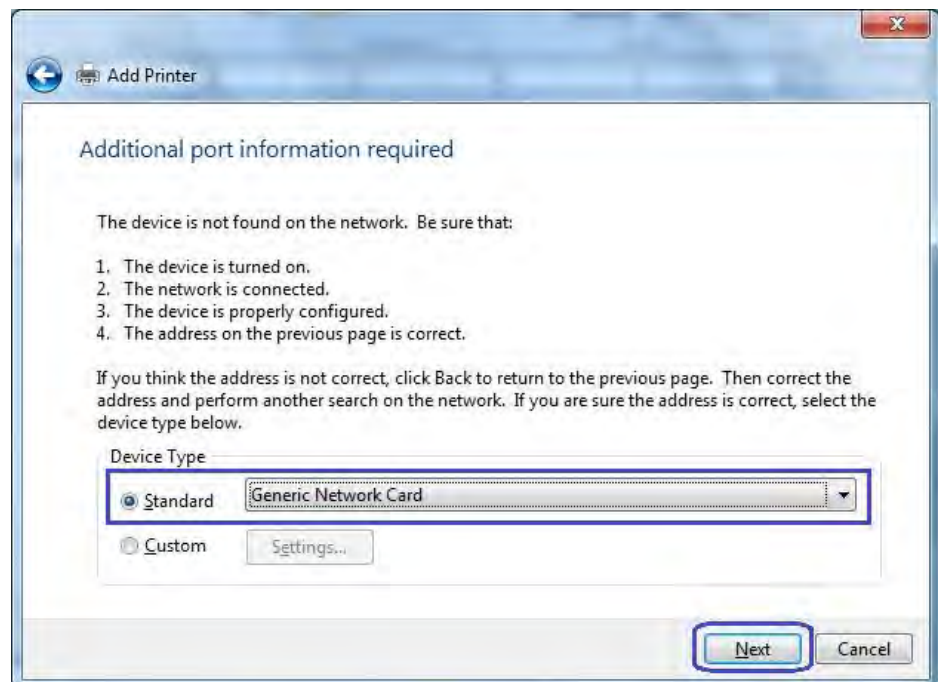


注：上記のIPアドレスは一例です。

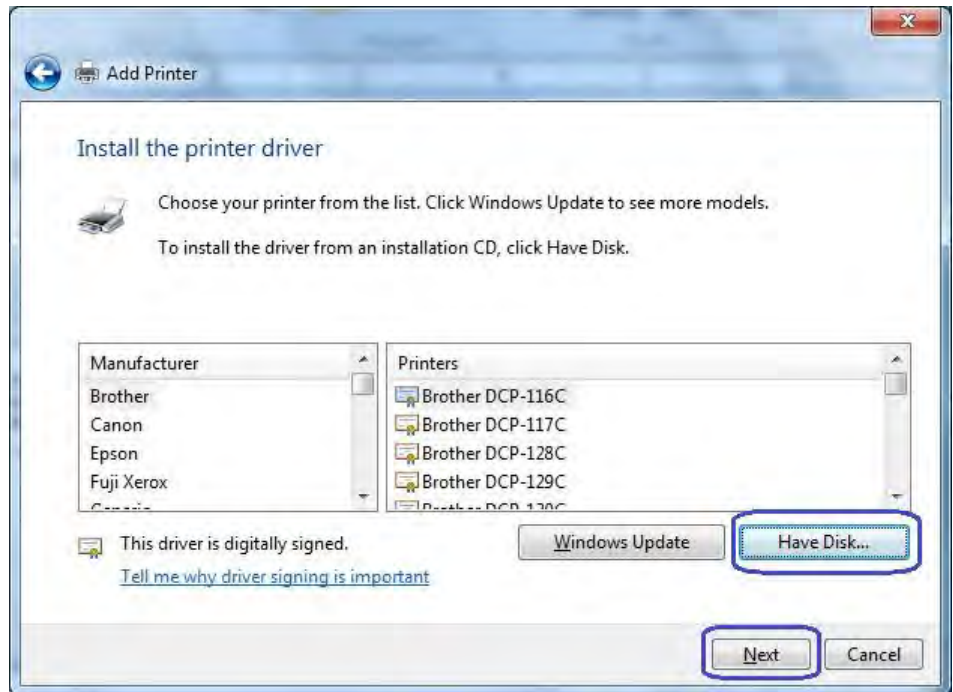
[次へ]ボタンをクリックすると、[TCP/IPポートの検出]ボックスが表示されます。



8. [ポート情報がさらに必要です]のGUIで、[標準]→[Generic Network Card]の順に選択して、[次へ]をクリックします。



9. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIが表示されたら、[ディスク使用]オプションを選択して、[次へ]を選択します。



10. [フロッピー ディスクからインストール]オプションが表示されたら、ドライバーの置かれている場所を参照して、[HP\_Receipt\_OEM]または[HP\_Receipt\_OEM64]ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

HPの工場出荷時のイメージの場所は以下のとおりです。

**32ビットのイメージ**

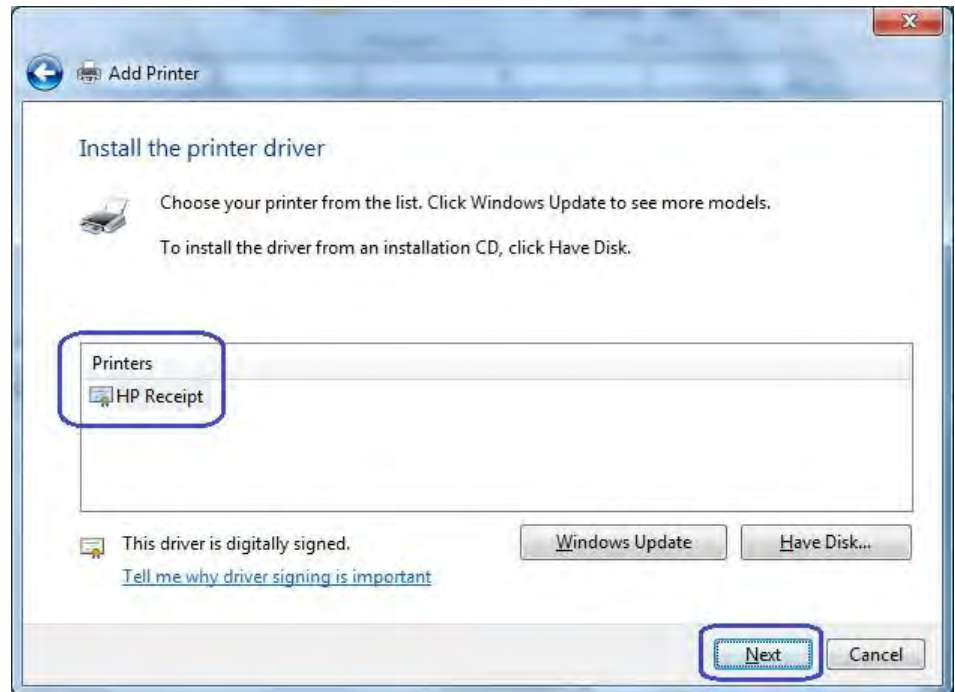
C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\32Bit\_MiniDrivers\Receipt

**64ビットのイメージ**

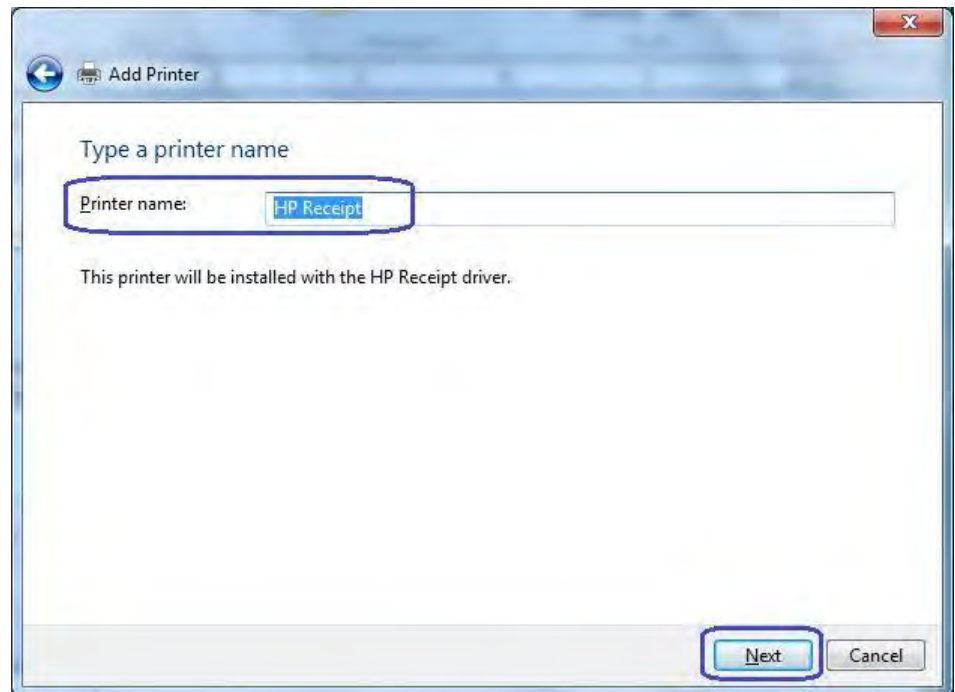
C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Windows Receipt Printer Drivers\64Bit\_MiniDrivers\Receipt



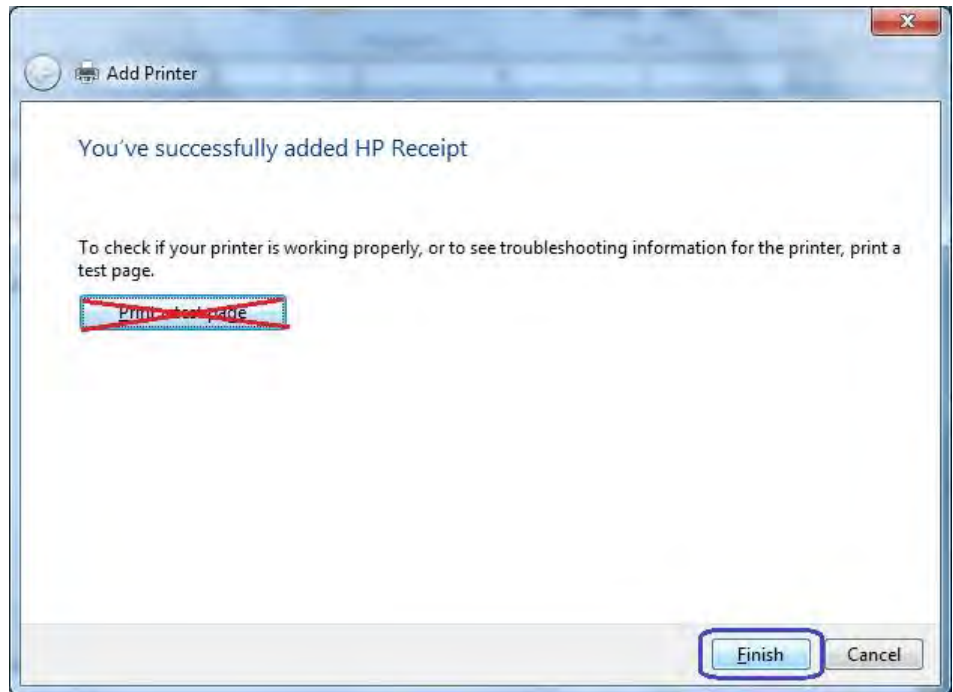
11. [プリンター ドライバーのインストール]のGUIに戻ったら、[HP Receipt]プリンターが表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



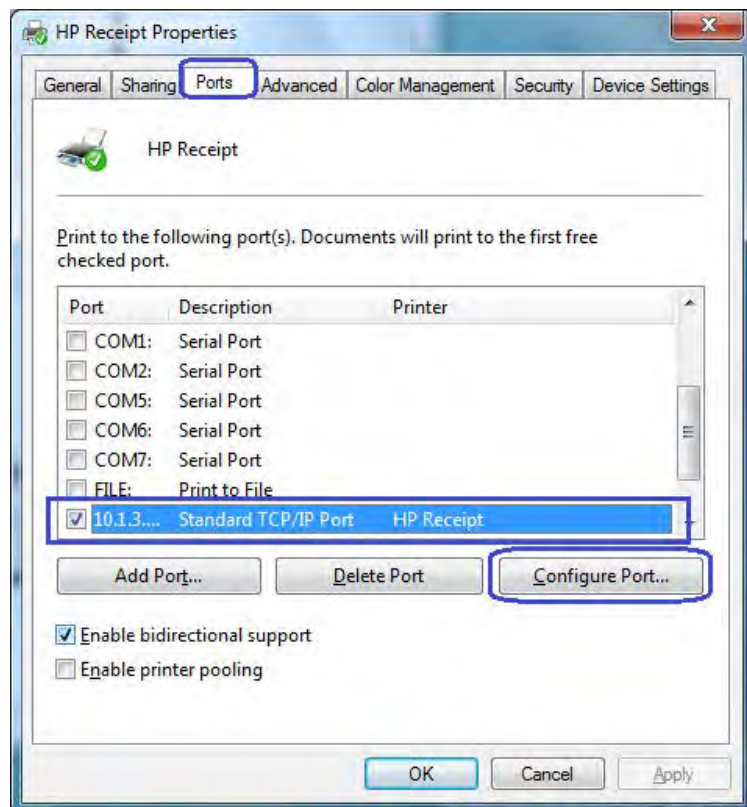
12. プリンター名を入力するか、初期設定の[HP Receipt]をそのまま使用して、[次へ]ボタンをクリックします。



13. プリンター ドライバーがインストールされたら、[完了]ボタンをクリックします。設定がまだ完了していないため、[テスト ページの印刷]ボタンはクリックしないでください。

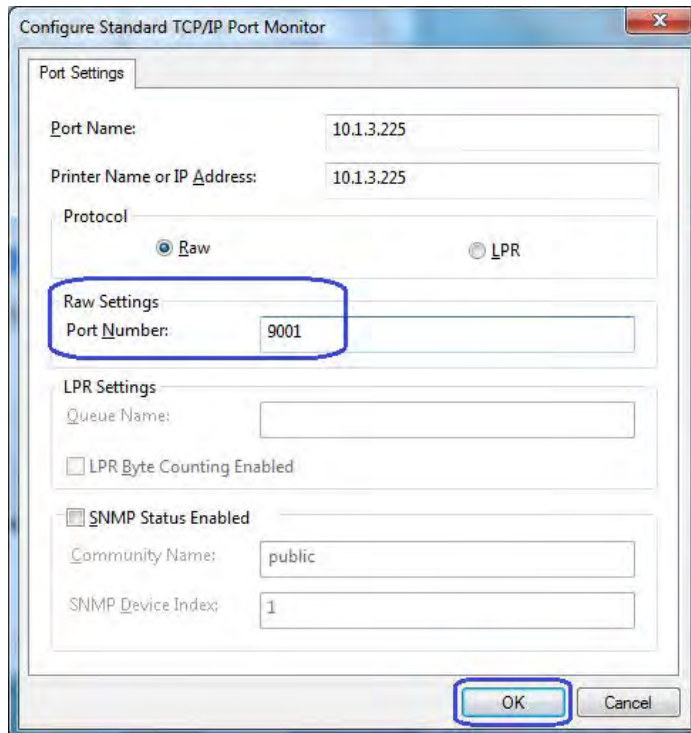


14. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プリンターのプロパティ]を選択します。
15. [ポート]タブを選択します。
16. インストールしたプリンターのポートを強調表示して、[ポートの構成]を選択します。

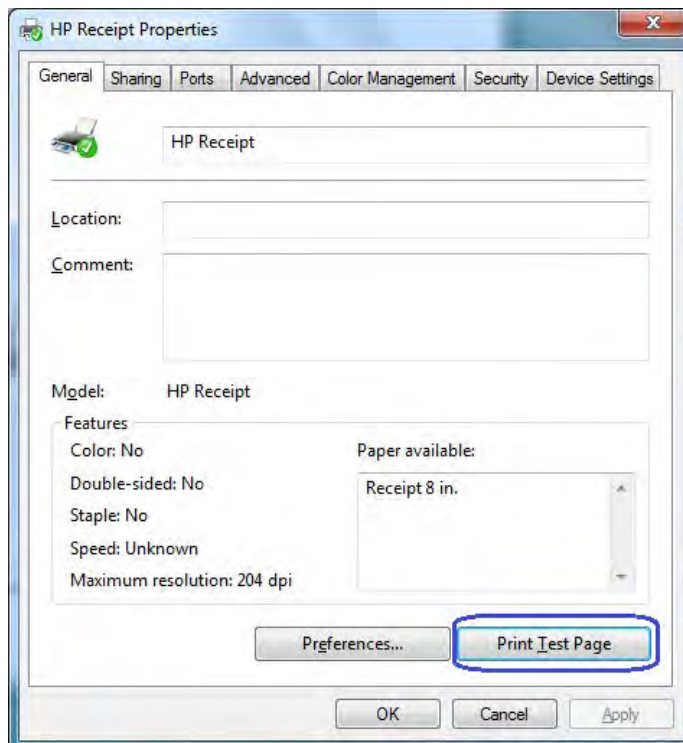




17. [標準TCP/IPポート モニターの構成]のGUIの[Raw設定]セクションにアクセスします。[ポート番号]セクションで「9001」（診断フォームを再チェックして「Raw TCP/IPポート」欄に「9001」と記載されていることを確認してください）と入力して、[OK]をクリックします。



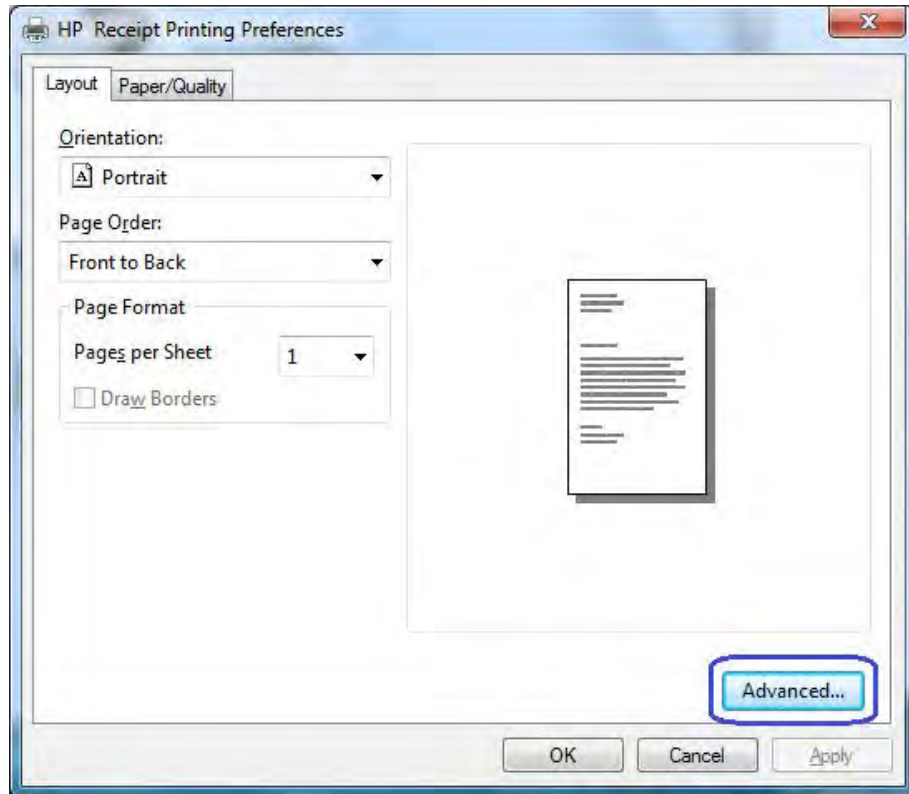
18. プリンターのプロパティのGUIを閉じます。
19. [デバイスとプリンター]にアクセスし、新しくインストールしたプリンターを右クリックして、[プリンターのプロパティ]を選択します。
20. [テストページの印刷]をクリックすると、印刷が実行されます。



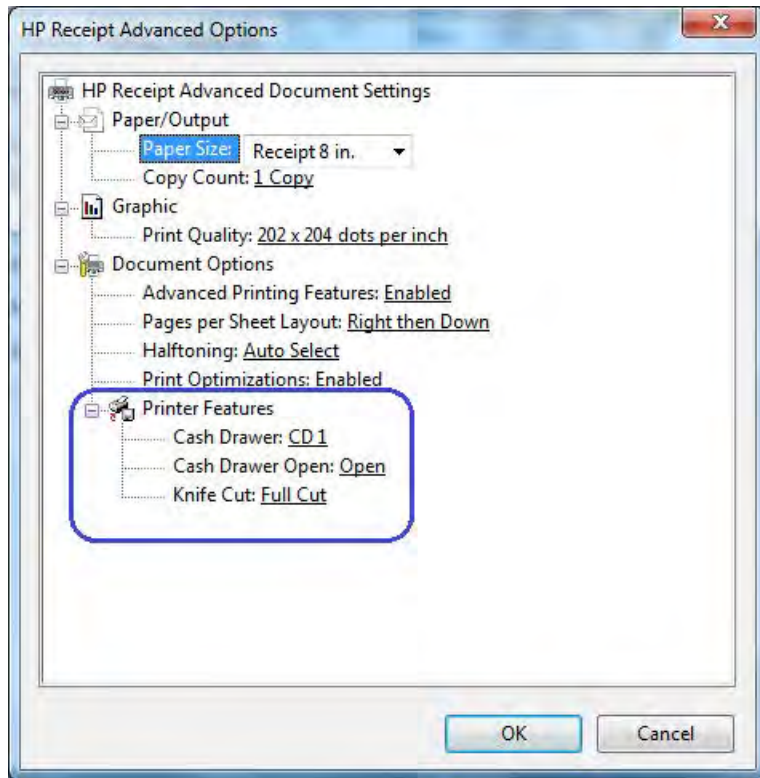
#### 6.5.8.10 バージョン1.0.3以降用のWindowsプリンター ドライバーのオプション (Windows 7/8.1/10向け)

フルカット/部分カット/キャッシュ ドロアー/キャッシュ ドロアー選択用のオプションは、レシートプリンターの詳細設定オプションにはありません。

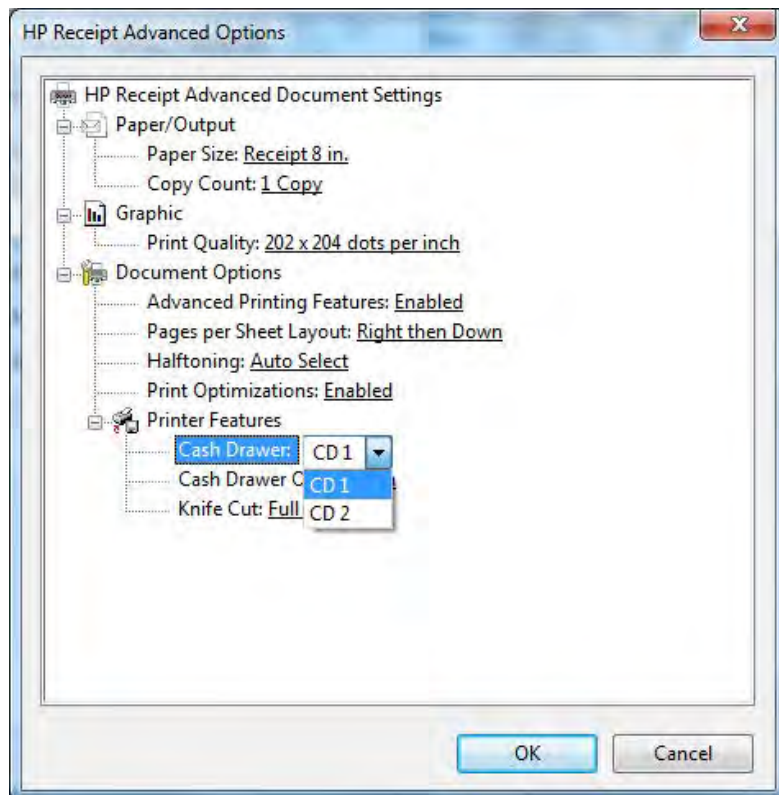
1. Windowsの[プリンターとFAX]セクションにアクセスします。
2. HPレシート プリンターを選択し、右クリックして[Printing Preferences] (印刷設定) を選択します。
3. [Printing Preferences] (印刷の基本設定) ボタンをクリックします。
4. [Advance] (詳細設定) ボタンをクリックします。

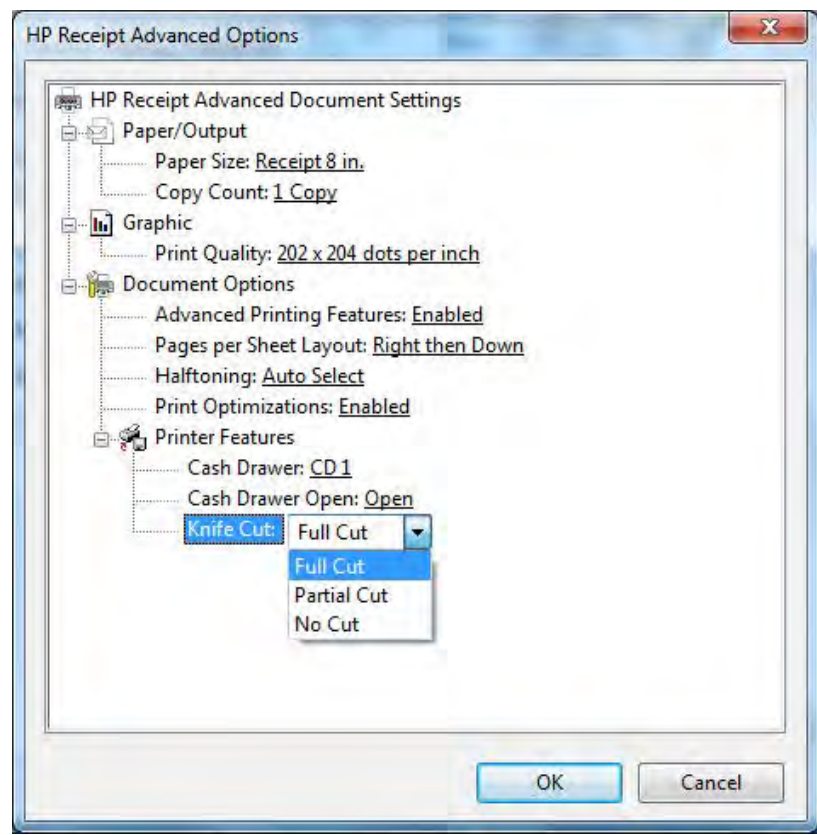
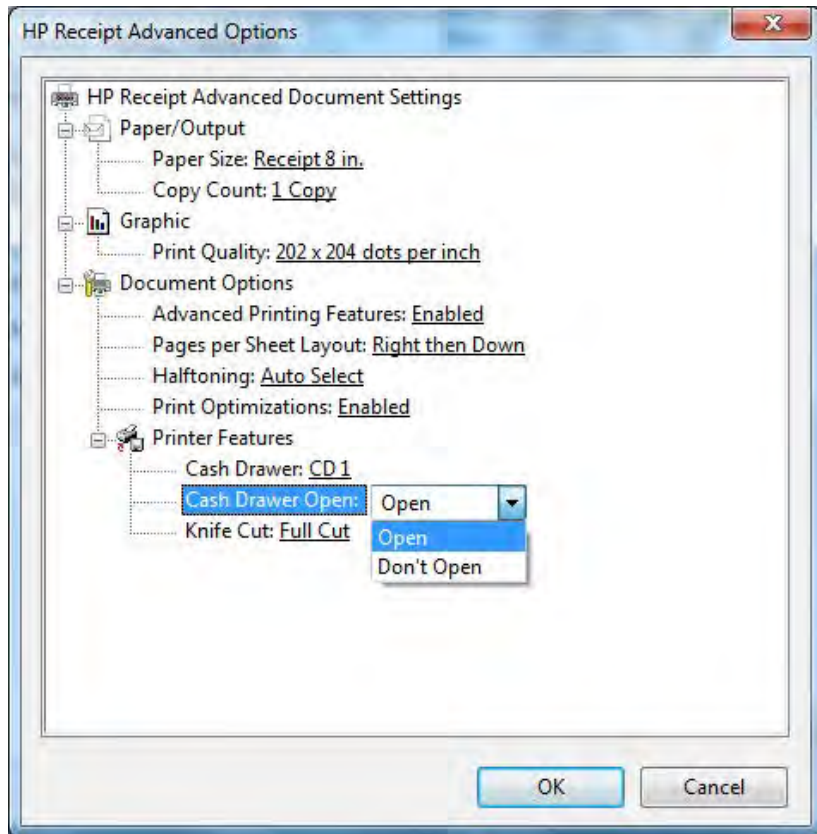


5. [Printer Features] (プリンターの機能) セクションで目的のオプションを選択します。



以下の各画面は、3つのプリンター機能のそれぞれで利用できる選択項目を示しています。





### 6.5.9 ナイフカットコマンド

Windowsミニドライバを使用する一部のPOSアプリケーションでは、(売上以外の操作で)印刷後に用紙をカットできるようにするために、ナイフ カット コマンドのリクエストが行われます。以下の10進数コマンドが使用されます。

#### **Perform full knife cut**

<b>ASCII</b>	EM	ESC i
<b>Hexadecimal</b>	19	1B 69
<b>Decimal</b>	25	27 105

#### **Perform partial knife cut**

<b>ASCII</b>	SUB	ESC m
<b>Hexadecimal</b>	1A	1B 6D
<b>Decimal</b>	26	27 109

部分ナイフカットでは、用紙の左端が5 mm (0.20インチ) 残ります。

## 6.5.10 レシートプリンター用のOPOSドライバー

レシートプリンター用のOPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

**注：** シリアルプリンターを使用する場合は、OPOSドライバーをアンインストールしてから再インストールする必要があります（後述のインストールの説明を参照してください）。バージョン1.0.1.34以降のHP OPOSドライバーは、シリアルレシートプリンターに対応しています。

バージョン1.0.1.21以降のレシートプリンター用OPOSドライバーは、ネイティブモードまたはプリンタークラスモードのどちらかのプリンターで動作します。OPOSドライバーのインストールプロセス中に、プリンターモードの選択を求められます（初期設定ではプリンタークラスが選択されています）。

WindowsミニドライバーとOPOSドライバーを同じCOMコネクタに設定することはできません。

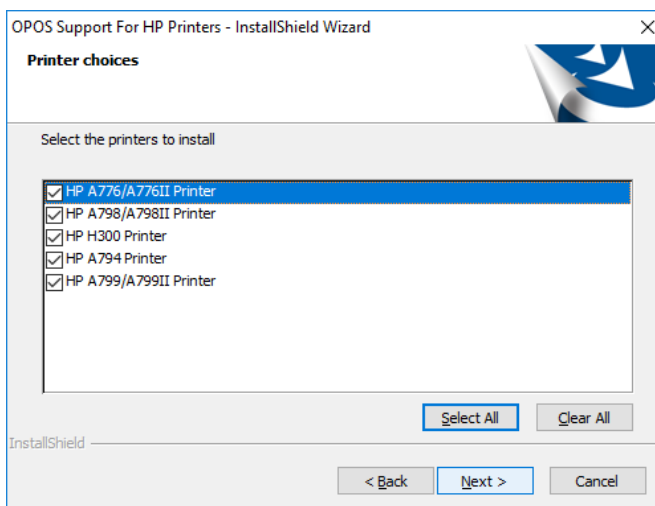
### 6.5.10.1 OPOSのインストール：USB

レシートプリンターをインストールする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

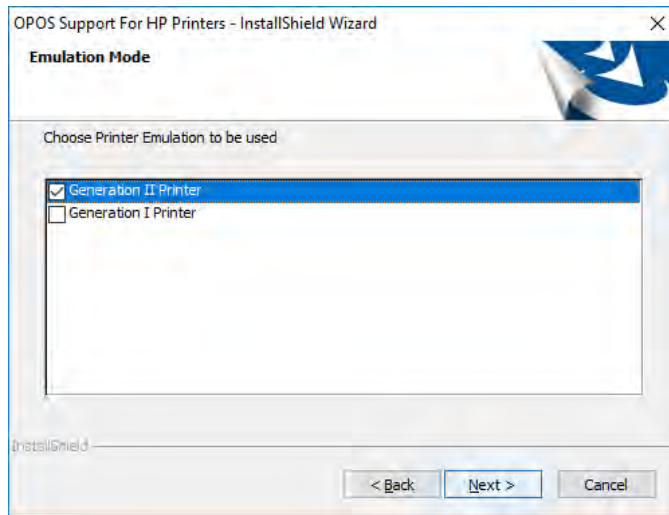
1. [OPOS Support For HP Printers] (HP製プリンター用のOPOSサポート) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
2. インストール対象のプリンターのみ（複数可）を選択します。
3. インストール対象のプリンターのエミュレーションモードを選択します（HP H300プリンターは[Generation II]です）。
4. OPOSコントロールオブジェクトのインストールについて、[YES]（はい）または[NO]（いいえ）を選択します。
5. 接続方法として[USB Communications]（USBによる通信）を選択します。
6. USBの接続方法を選択します（初期設定はプリンタークラスです）。
7. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できます。

#### 詳しい手順

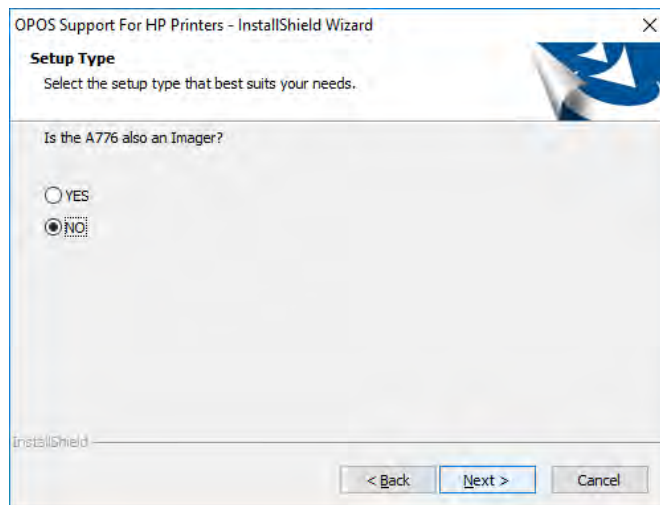
1. [OPOS Support For HP Printers]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
2. HPレシートプリンターのOPOS実行可能ファイルを開きます。
3. インストール対象のプリンターのみ（複数可）を選択します。



4. インストール対象のプリンターのエミュレーション モードを選択します（HP H300プリンターは[Generation II]です）。

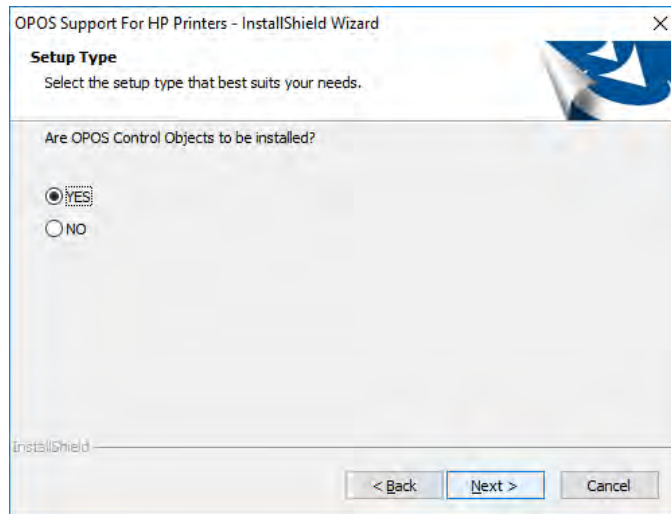


A776/A776IIプリンターを選択した場合は、適切なイメージャー オプションを選択します。



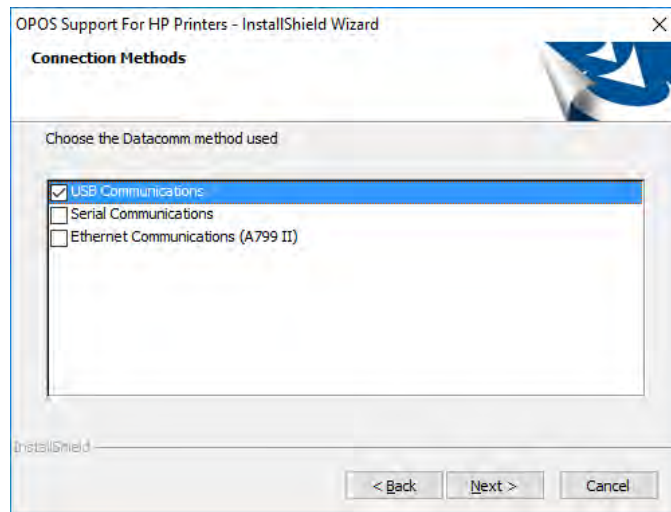


5. OPOSコントロール オブジェクトのインストールについて、[YES]または[NO]を選択します。



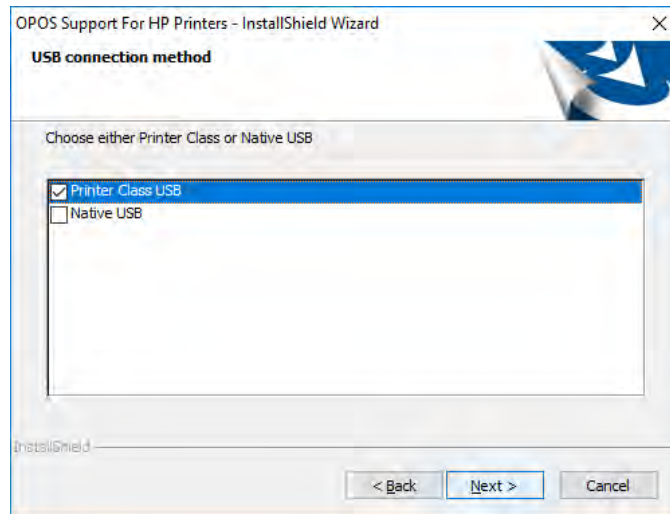
[NO]を選択した場合、OPOSテスト プログラムまたはPOSアプリケーションを使用する前に、スタンドアロンのCCOパッケージがインストールされていることを確認します。CCOのインストール パッケージは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

6. 接続方法として[USB Communications]を選択します。

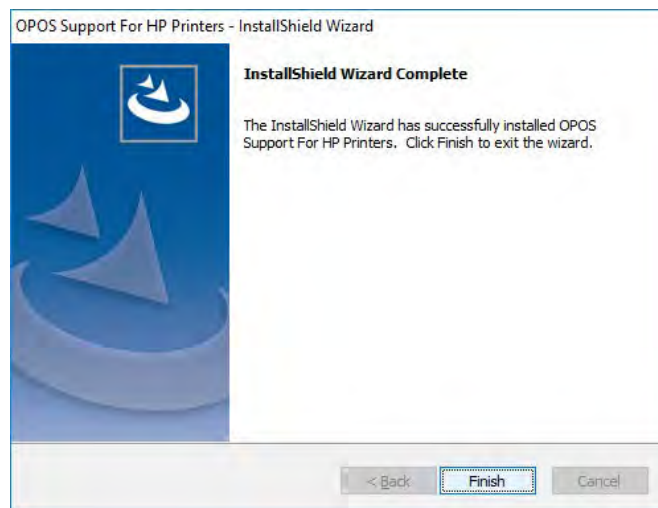




7. USBの接続方法を選択します（初期設定はプリンタークラスです）。



8. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できます。



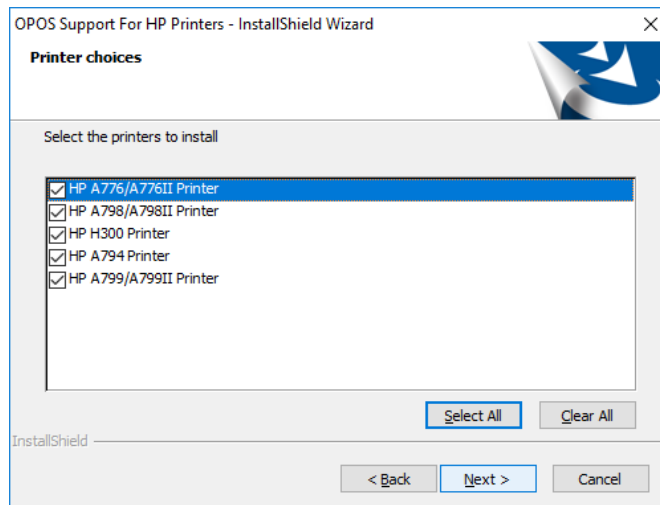
### 6.5.10.2 OPOSのインストール：シリアルポート

レシート プリンターをインストールする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

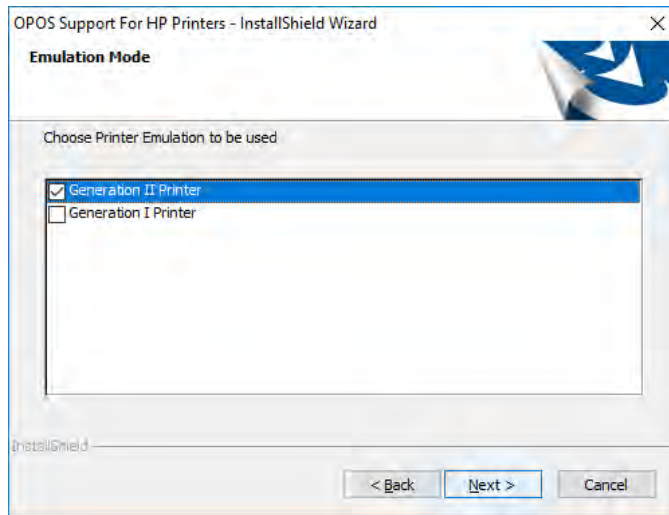
1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. **[OPOS Support For HP Printers]** (HP製プリンター用のOPOSのサポート) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
3. インストール対象のプリンターのみ (複数可) を選択します。
4. インストール対象のプリンターのエミュレーション モードを選択します (HP H300プリンターは[Generation II]です)。
5. OPOSコントロール オブジェクトのインストールについて、[YES] (はい) または[NO] (いいえ) を選択します。
6. 接続方法として[Serial Communications] (シリアル通信) を選択します。
7. プリンターが接続されているCOM (シリアル) ポートを選択します。
8. 手順1で印刷した診断フォームを参照してプリンターのボーレートを確認し、シリアル通信用のボーレートを選択します。
9. シリアル通信のパリティを選択します。
10. シリアル通信のフロー制御を選択します。
11. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できます。

#### 詳しい手順

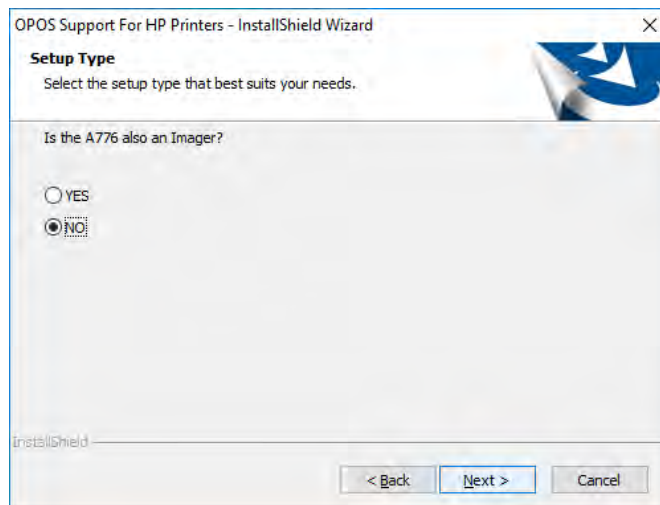
1. プリンターに設定されたボーレートを確認するために、プリンターの診断フォームを印刷します。
2. **[OPOS Support For HP Printers]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
3. インストール対象のプリンターのみ (複数可) を選択します。



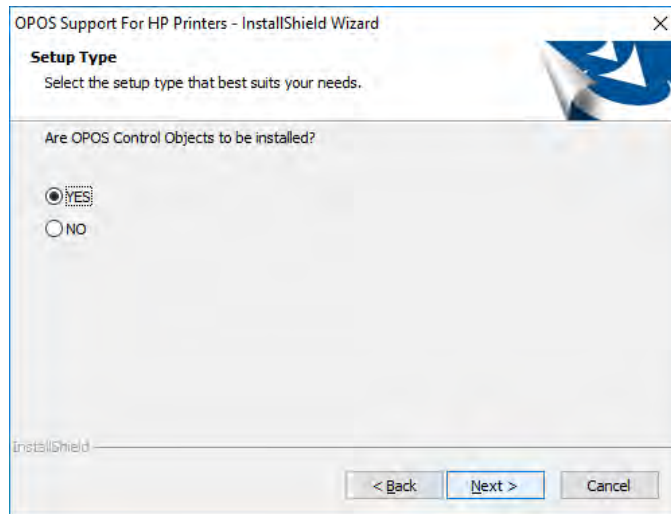
4. インストール対象のプリンターのエミュレーション モードを選択します（HP H300プリンターは[Generation II]です）。



A776/A776IIプリンターを選択した場合は、適切なイメージャー オプションを選択します。

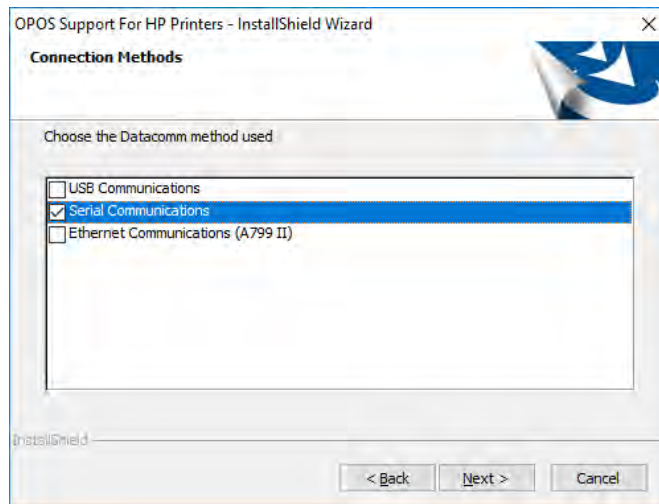


5. OPOSコントロール オブジェクトのインストールについて、[YES]または[NO]を選択します。

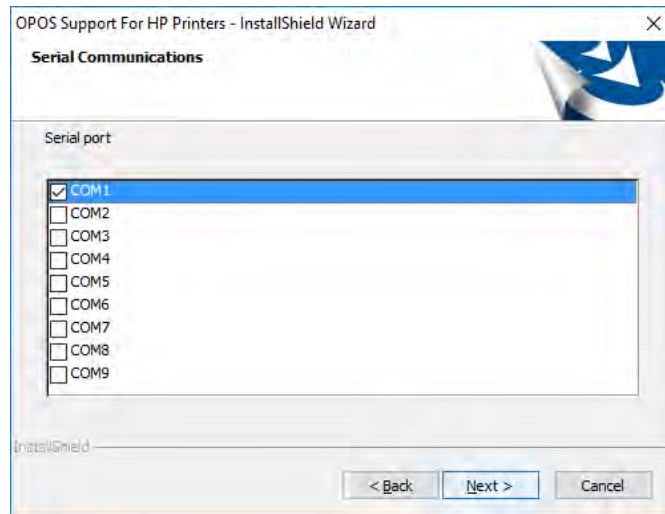


[NO]を選択した場合、OPOSテスト プログラムまたはPOSアプリケーションを使用する前に、スタンドアロンのCCOパッケージがインストールされていることを確認します。CCOのインストール パッケージは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

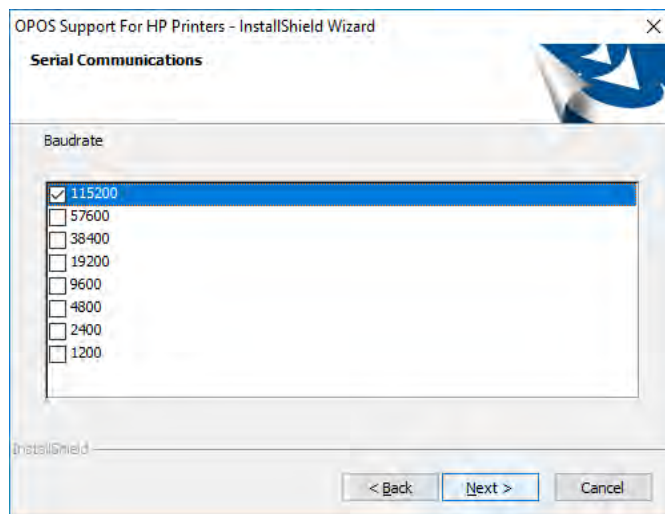
6. 接続方法として[Serial Communications]を選択します。



7. プリンターが接続されているCOM（シリアル）ポートを選択します。

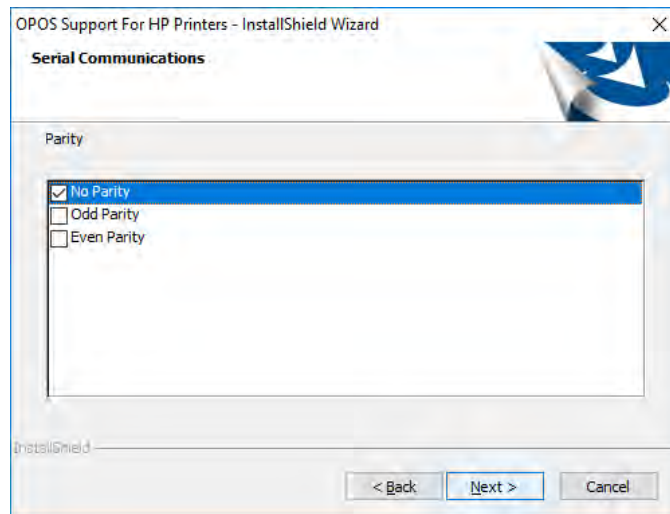


8. 手順1で印刷した診断フォームを参照してプリンターのボーレートを確認し、シリアル通信のボーレートを選択します。

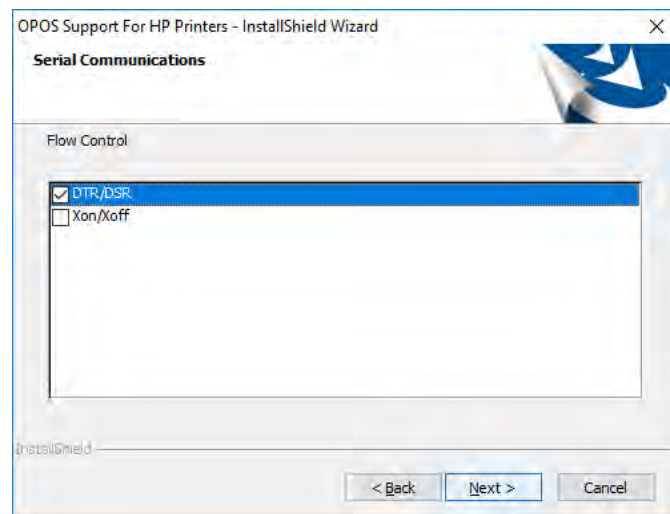


**注：**実際のボーレートは、上記のものとは異なる場合があります。

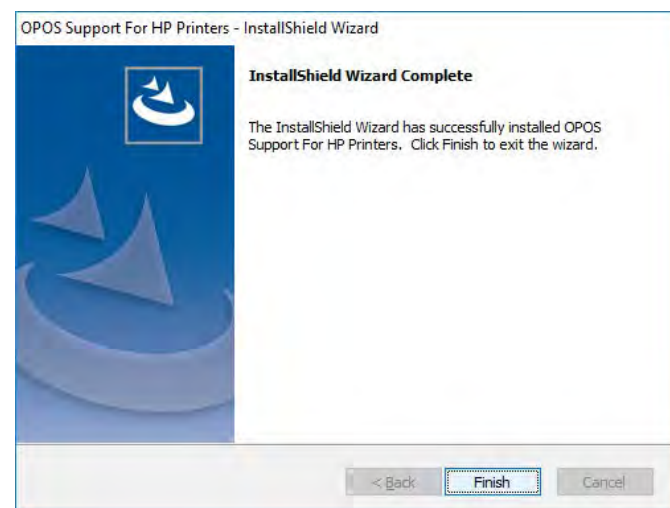
9. シリアル通信のパリティを選択します。



10. シリアル通信のフロー制御を選択します。



11. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できます。



### 6.5.10.3 OPOSのインストール : Ethernet

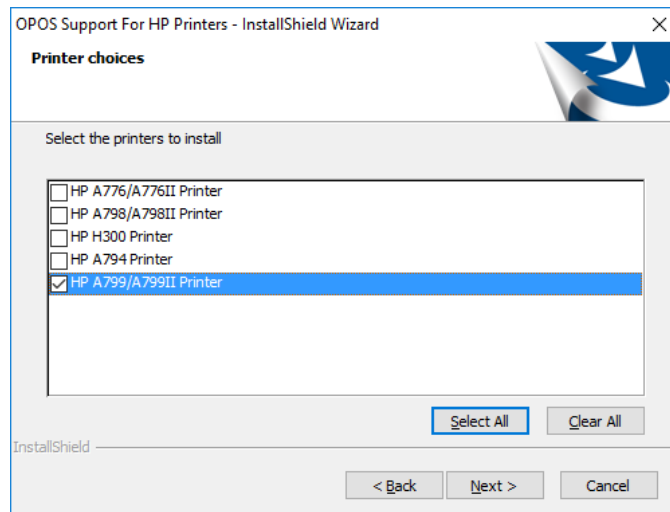
HPの工場出荷時のイメージでは、OPOSドライバーはUSBモードでインストールされます。このセクションの後半では、OPOSドライバーをUSBモードからEthernetモードに変更する手順について説明します（「OPOS : Ethernet IPアドレス (レジストリ)」を参照してください)。この手順は、インストール中にプリンター ドライバーのEthernetオプションを選択した場合にも使用する必要があります (正しいIPアドレスをレジストリに取り込むため)。

レシート プリンターをインストールする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

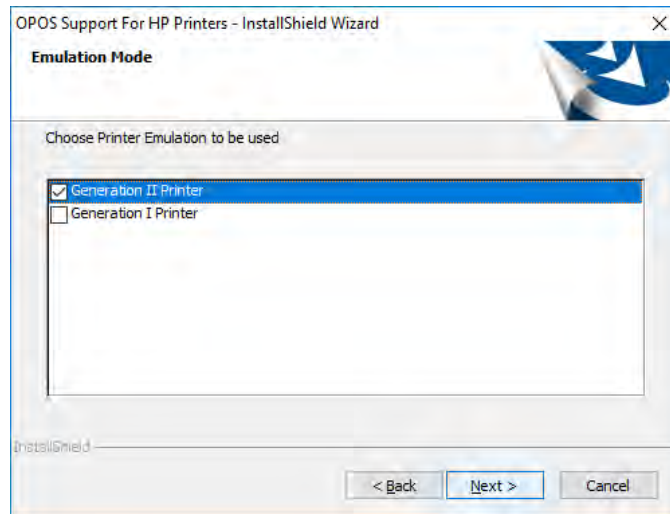
1. **[OPOS Support For HP Printers]** (HP製プリンター用のOPOSサポート) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
2. [Printer choices] (プリンターの選択) で[HP A799/A799II Printer]を選択します。現在、HPが提供するEthernet対応モデルはこのプリンターのみです。
3. エミュレーション モードとして[Generation II Printer]を選択します。
4. OPOSコントロール オブジェクトのインストールについて、[YES] (はい) または [NO] (いいえ) を選択します。
5. 接続方法として[Ethernet Communications (A799 II)] (Ethernet通信 (A799 II)) を選択します。
6. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できません。

#### 詳しい手順

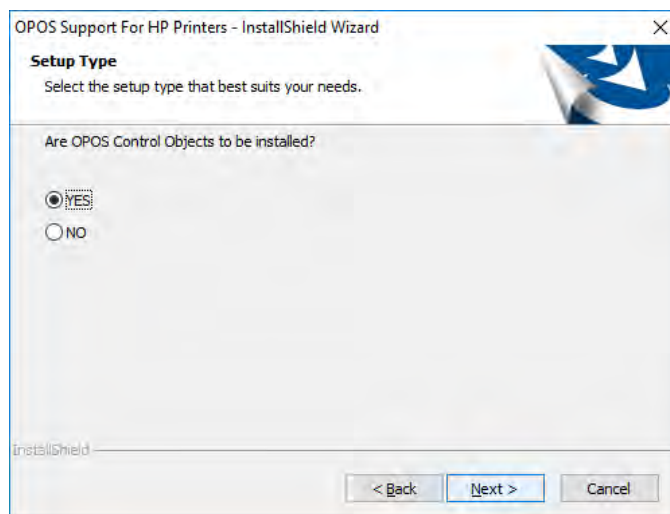
1. [OPOS Support For HP Printers]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\POS Printer OPOS\setup.exe.
2. [Printer choices]で[HP A799/A799II Printer]を選択します。現在、HPが提供するEthernet対応モデルはこのプリンターのみです。



3. エミュレーションモードとして[Generation II Printer]を選択します。



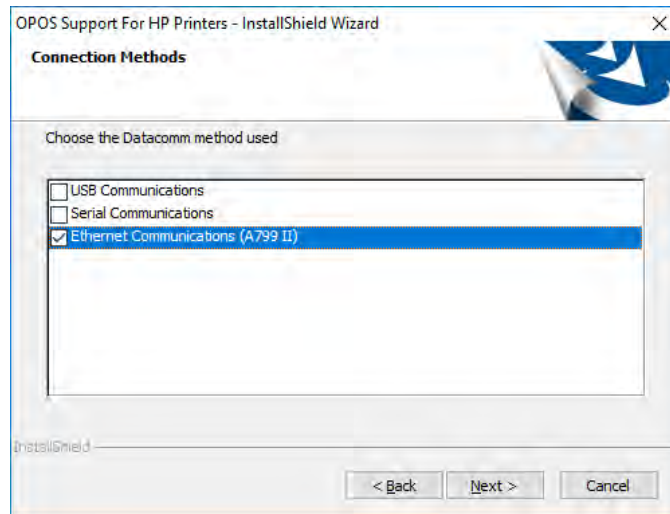
4. OPOSコントロール オブジェクトのインストールについて、[YES]または[NO]を選択します。



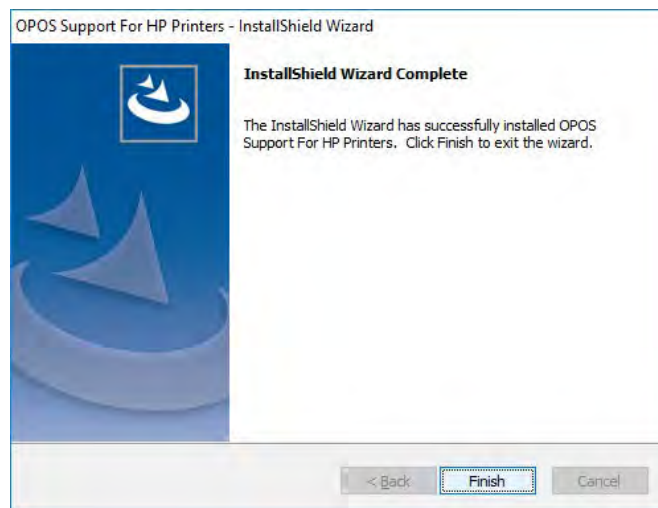
[NO]を選択した場合、OPOSテスト プログラムまたはPOSアプリケーションを使用する前に、スタンドアロンのCCOパッケージがインストールされていることを確認します。CCOのインストール パッケージは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。



5. 接続方法として[Ethernet Communications (A799 II)]を選択します。



6. インストールが完了するまで、残りのオプションには初期設定を使用できます。

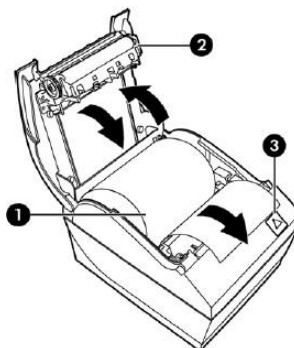


#### 6.5.10.4 OPOS : Ethernet IPアドレス (レジストリ)

1. プリンターをネットワークに接続して、プリンターの電源を入れます。
2. 診断フォームの印刷を実行し、印刷した診断フォームでプリンターのIPアドレスを確認します。

診断フォームを取得するための手順

- a) 用紙がプリンターにセットされていることを確認します (1)。
- b) レシートカバーを開きます (2)。
- c) 給紙ボタンを押し続けます (3)。
- d) レシートカバーを閉じます (2)。

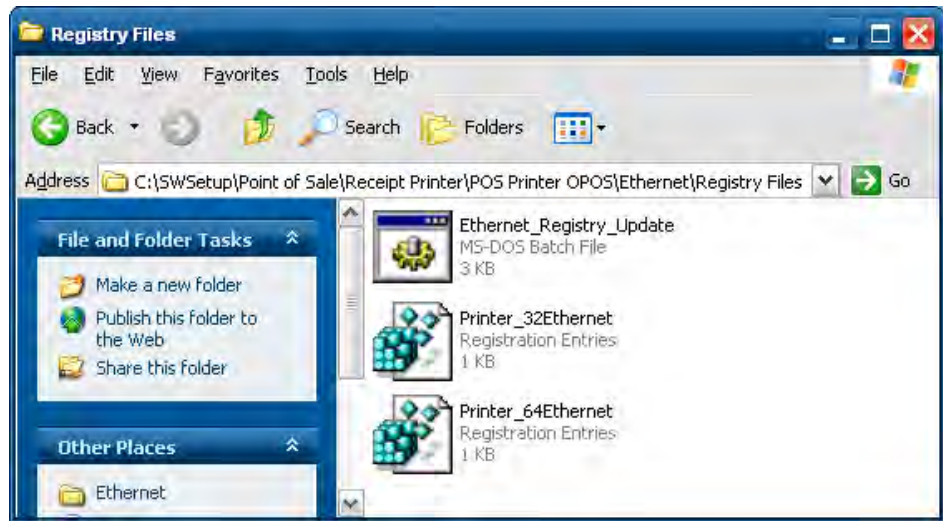


印刷したA799IIの診断フォームの一部を以下に示します。診断フォームにはIPアドレスおよびポートの情報が示されています。

```
Comm. Interfaces
Port Idle Timeout : disabled
Interface - USB
RX Buffer Size : 4096
USB Driver Type : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
Interface - RS232
RX Buffer Size : 4096
Parameters
Baud Rate : 115200
Data Bits : 8
Stop Bit : 1
Parity : NONE
Flow Control : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
Interface - Bluetooth
Status : not available
Interface - Ethernet
Ethernet Type : Wired
Parameters
MAC Address : 00:E0:70:F0:21:7C
IP Address : 10.1.3.18
Net Mask : 255.255.252.0
Gateway : 10.1.0.1
Raw TCPIP Port : 9001
Loop Back Port : Disabled
Http Server Port : 80
DHCP : Enabled
Client ID : 00E070F0217C
Idle Timeout : Disabled
Keep Alive Pings : Disabled
```

注：初期設定のIPアドレスは192.0.0.192です。印刷した診断フォームにこのアドレスが記載されている場合、プリンターのIPアドレスは取得されていません。

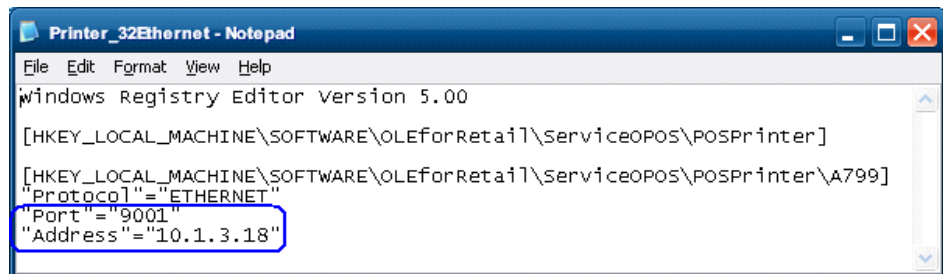
3. OPOSのパッケージ フォルダにある「Ethernet」フォルダにアクセスします。次に、パッケージ内の「Registry Files」フォルダにアクセスします。



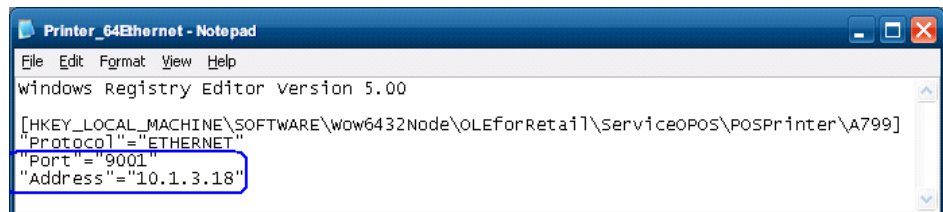
4. 32ビットのオペレーティング システムでは、メモ帳（またはテキスト エディター）を使用して、「Printer\_32Ethernet.REG」ファイルを、前に取得した診断フォームに記載されているポートおよびアドレス（IPアドレス）で変更します。

64ビットのオペレーティング システムでは、メモ帳（またはテキスト エディター）を使用して、「Printer\_64Ethernet.REG」ファイルを、前に取得した診断フォームに記載されているポートおよびアドレス（IPアドレス）で変更します。

変更した32ビットのレジストリ ファイルを以下に示します。

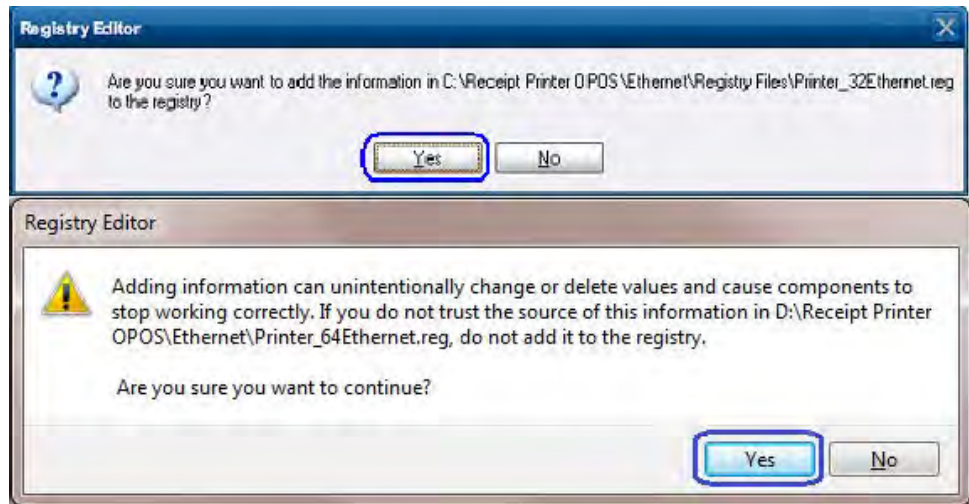


変更した64ビットのレジストリ ファイルを以下に示します。

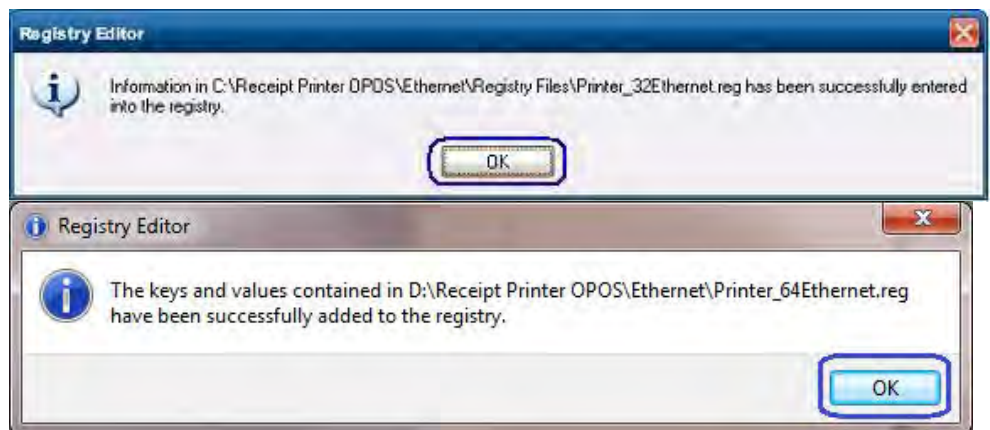


5. ファイルの変更および保存が完了したら、メモ帳（またはテキスト エディター）を閉じます。

6. レジストリ ファイルをダブルクリックして、レジストリを更新します。確認を求める以下のメッセージのどちらかが表示されます。レジストリの更新を許可するには、[はい]ボタンをクリックします。



[はい]ボタンをクリックした後、以下の確認画面のどれかが表示されて、更新が正常に行われたことが通知されます。[OK]をクリックして更新プロセスを完了します。



オペレーティング システムが32ビット版か64ビット版かがわからない場合は、以下の操作を行います。

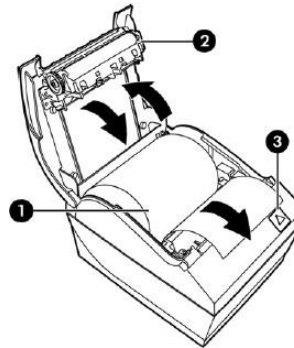
- 「Printer\_32Ethernet.REG」 ファイルを、前に取得した診断フォームに記載されているポートおよびアドレス（IPアドレス）で変更します。
- 「Printer\_64Ethernet.REG」 ファイルを、前に取得した診断フォームに記載されているポートおよびアドレス（IPアドレス）で変更します。
- 「Ethernet\_Registry\_Update.BAT」 ファイルを管理者権限で実行します。
- レジストリ更新の確認を求める画面で[はい]ボタンをクリックして、レジストリを更新しても問題ないことを確認します。
- 確認画面で[OK]をクリックして、レジストリの更新プロセスを完了します。

### 6.5.10.5 OPOS : Ethernet IPアドレス (GUI)

1. プリンターをネットワークに接続して、プリンターの電源を入れます。
2. 診断フォームの印刷を実行し、印刷した診断フォームでプリンターのIPアドレスを確認します。

診断フォームを取得するための手順

- e) 用紙がプリンターにセットされていることを確認します (1)。
- f) レシートカバーを開きます (2)。
- g) 給紙ボタンを押し続けます (3)。
- h) レシートカバーを閉じます (2)。



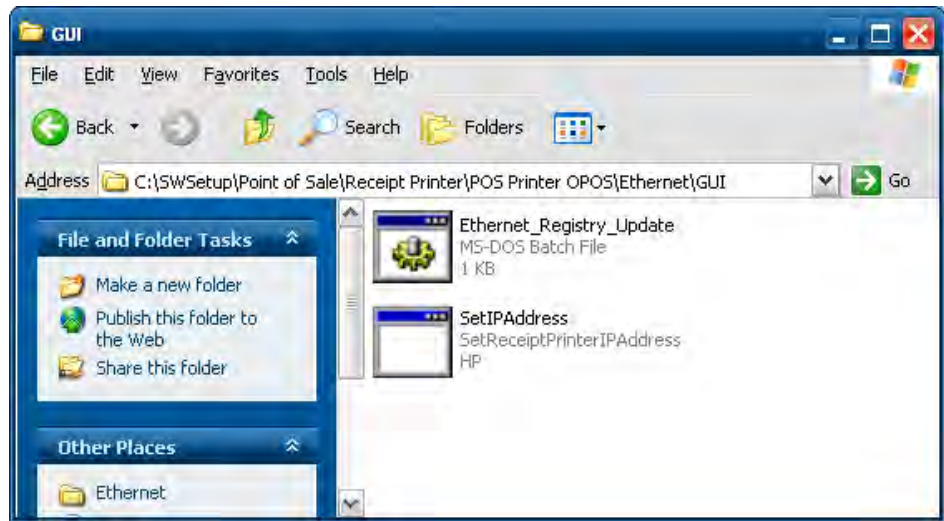
印刷したA799IIの診断フォームの一部を以下に示します。診断フォームにはIPアドレスおよびポートの情報が示されています。

```
Comm. Interfaces
Port Idle Timeout : disabled
Interface - USB
RX Buffer Size : 4096
USB Driver Type : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
Interface - RS232
RX Buffer Size : 4096
Parameters
Baud Rate : 115200
Data Bits : 8
Stop Bit : 1
Parity : NONE
Flow Control : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
Interface - Bluetooth
Status : not available
Interface - Ethernet
Ethernet Type : Wired
Parameters
MAC Address : 00:E0:70:F0:21:7C
IP Address : 10.1.3.18
Net Mask : 255.255.252.0
Gateway : 10.1.0.1
Raw TCPIP Port : 9001
Loop Back Port : Disabled
Http Server Port : 80
DHCP : Enabled
Client ID : 00E070F0217C
Idle Timeout : Disabled
Keep Alive Pings : Disabled
```

注：初期設定のIPアドレスは192.0.0.192です。印刷した診断フォームにこのアドレスが記載されている場合、プリンターのIPアドレスは取得されていません。



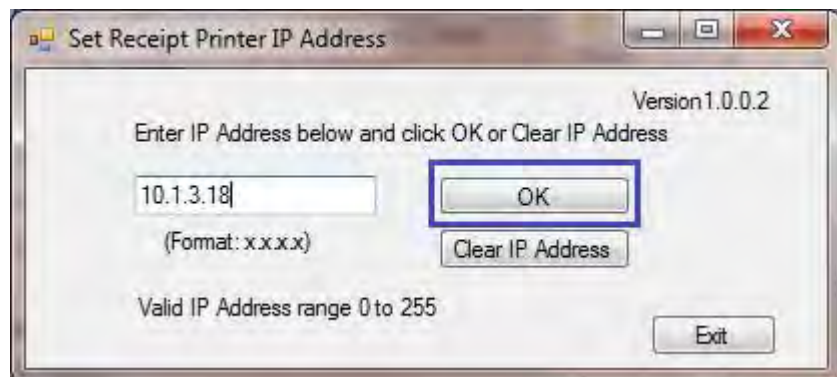
3. OPOSのパッケージ フォルダにある「Ethernet」フォルダにアクセスします。次に、パッケージ内の「GUI」フォルダにアクセスします。



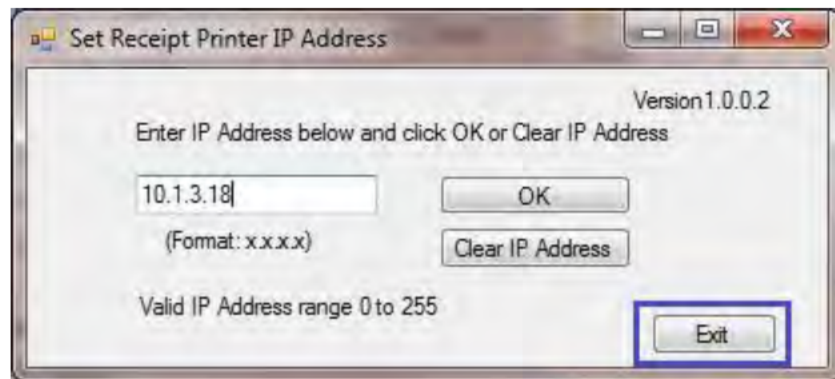
4. バッチ ファイルを介して[Receipt Printer IP Address] (レシート プリンターのIPアドレス) ユーティリティを開きます (GUIを直接開く場合は、管理者権限で実行するようにしてください)。GUIでレシートプリンターのIPアドレスを入力します。



5. 入力したIPアドレスが表示されているダイアログ ボックスで[OK]を押します。



6. [Receipt Printer IP Address]ユーティリティを閉じます。



ボタン	説明
空のボックス	レシート プリンターのIPアドレスを入力する場所です
OK	ボックスに入力した情報でWindowsレジストリを更新します
Clear IP Address (IPアドレスの消去)	<b>注:</b> プリンターのIPアドレスが不明な場合、またはIPアドレス自体について知識がない場合は、IT管理者に問い合わせてください ボックス内のエントリを消去します
Exit (終了)	ユーティリティを閉じて終了します

#### 6.5.10.6 レシート プリンター用のOPOSテスト アプレット：レシート プリンターおよびキャッシュ ドロアーユーティリティ

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[Printer]** (プリンター) ボタンをクリックします。
3. ドロップダウン メニューからプリンターを選択します。
4. [Open Printer] (プリンターを開く) をクリックします。
5. [Claim Printer] (プリンターの要求) をクリックします。
6. [Enable Printer] (プリンターを有効にする) をクリックします。
7. [Print] (印刷) をクリックすると、サンプル印刷テキストのボックスに入力されている内容が送信され、レシートプリンターで印刷されます。
8. [Feed] (給紙) をクリックして、レシートプリンターの用紙を送ります。
9. [Cut] (カット) をクリックして、レシートをカットします。
10. テストアプリケーションを終了します。

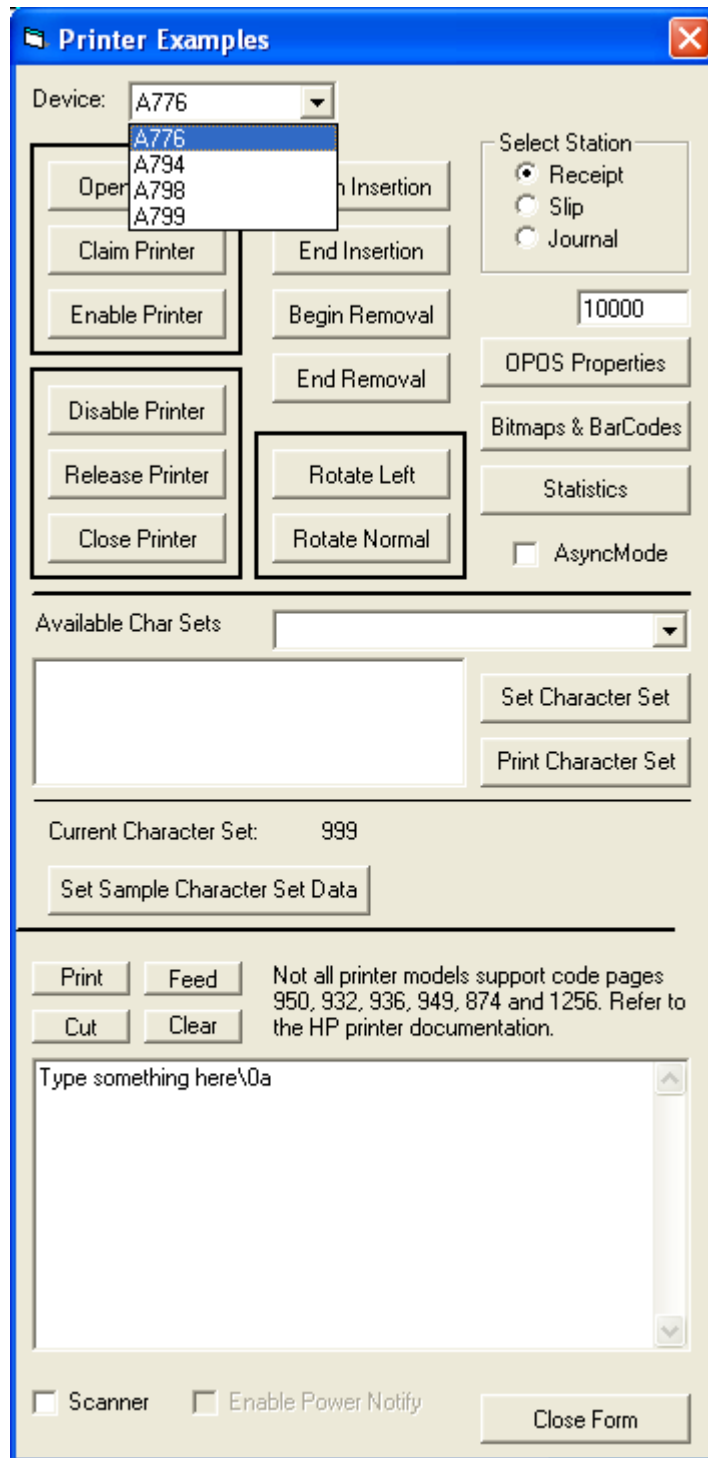
#### 詳しい手順

1. **[OPOS Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[Printer]**ボタンをクリックします。





3. ドロップダウンメニューからプリンターを選択します。



4. [Open Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。成功した場合は、[SUCCESS]のステータスが表示されます。

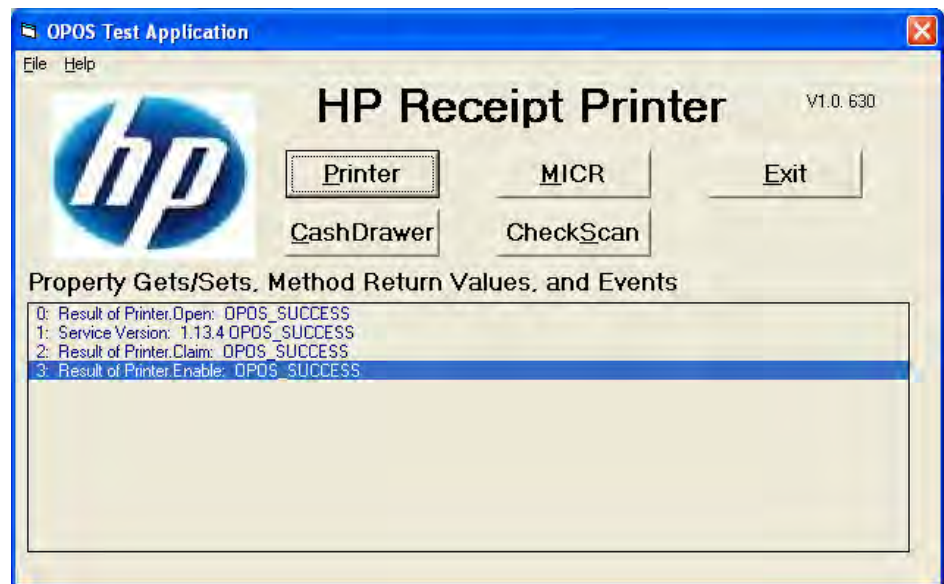
この時点で失敗した場合は、プリンターが正しく接続されていてランプが点灯していること、およびコンピュータにOPOSドライバーがインストールされていることを確認してください。

5. [Claim Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。成功した場合は、[SUCCESS]のステータスが表示されます。

この時点で失敗した場合は、本体にCCO 1.9以降のファイルがインストールされていることを確認してください。CCOファイルをインストールする必要がある場合、このファイルはHPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Common Control Object (CCO)）に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

6. [Enable Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。

成功した場合は、下の図のように[Open Printer]、[Claim Printer]、[Enable Printer]のそれぞれについて[SUCCESS]のステータスが表示されます。



7. [Print]ボタンをクリックすると、サンプル印刷テキストのボックスに入力されている内容がプリンターに送信され、レシートプリンターで印刷されます。

Printer Examples

Device: A799

Open Printer  
Claim Printer  
Enable Printer  
Disable Printer  
Release Printer  
Close Printer

Begin Insertion  
End Insertion  
Begin Removal  
End Removal  
Rotate Left  
Rotate Normal

Select Station  
 Receipt  
 Slip  
 Journal

10000

OPOS Properties  
Bitmaps & BarCodes  
Statistics  
 AsyncMode

Available Char Sets: 999-ANSI

437, 850, 852, 857, 858, 860, 862, 863, 865, 866, 737, 1048, 1251, 1255, 998, 999, 101, 1252, 1256, 950, 936, 932, 949, 874

Set Character Set  
Print Character Set

Current Character Set: 999-ANSI

Set Sample Character Set Data

Print Feed  
Cut Clear

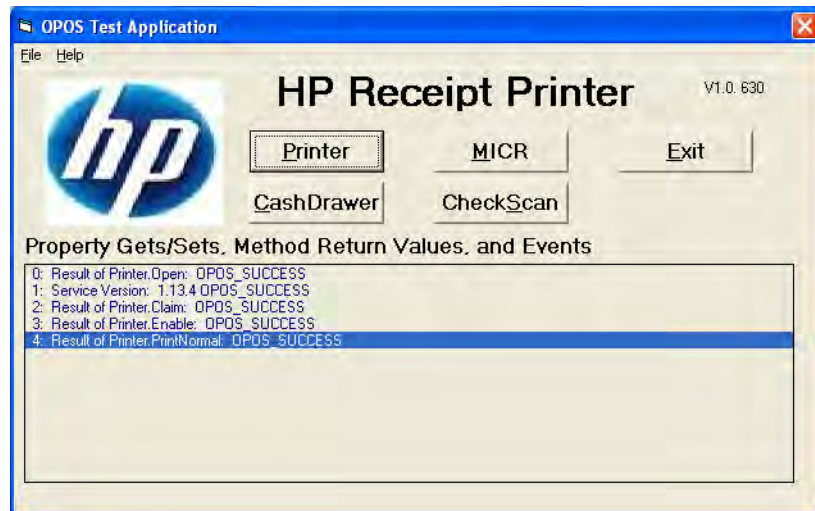
Not all printer models support code pages 950, 932, 936, 949, 874 and 1256. Refer to the HP printer documentation.

Type something here\0a

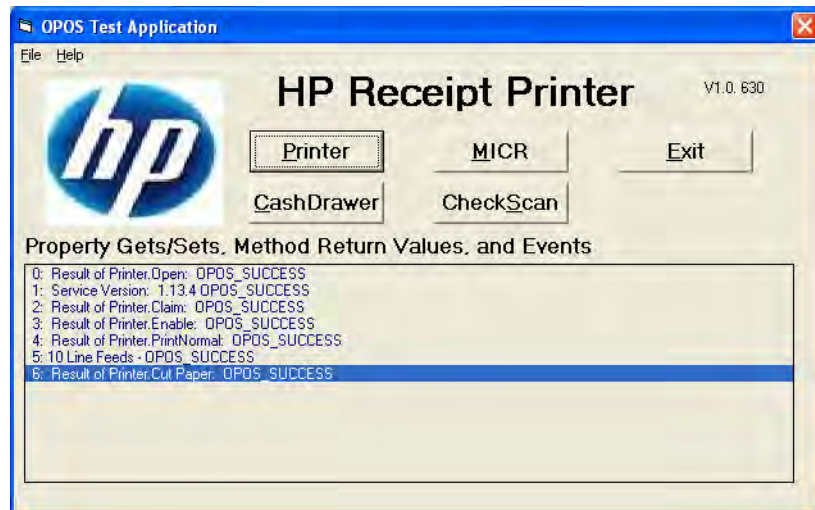
Scanner  Enable Power Notify

Close Form

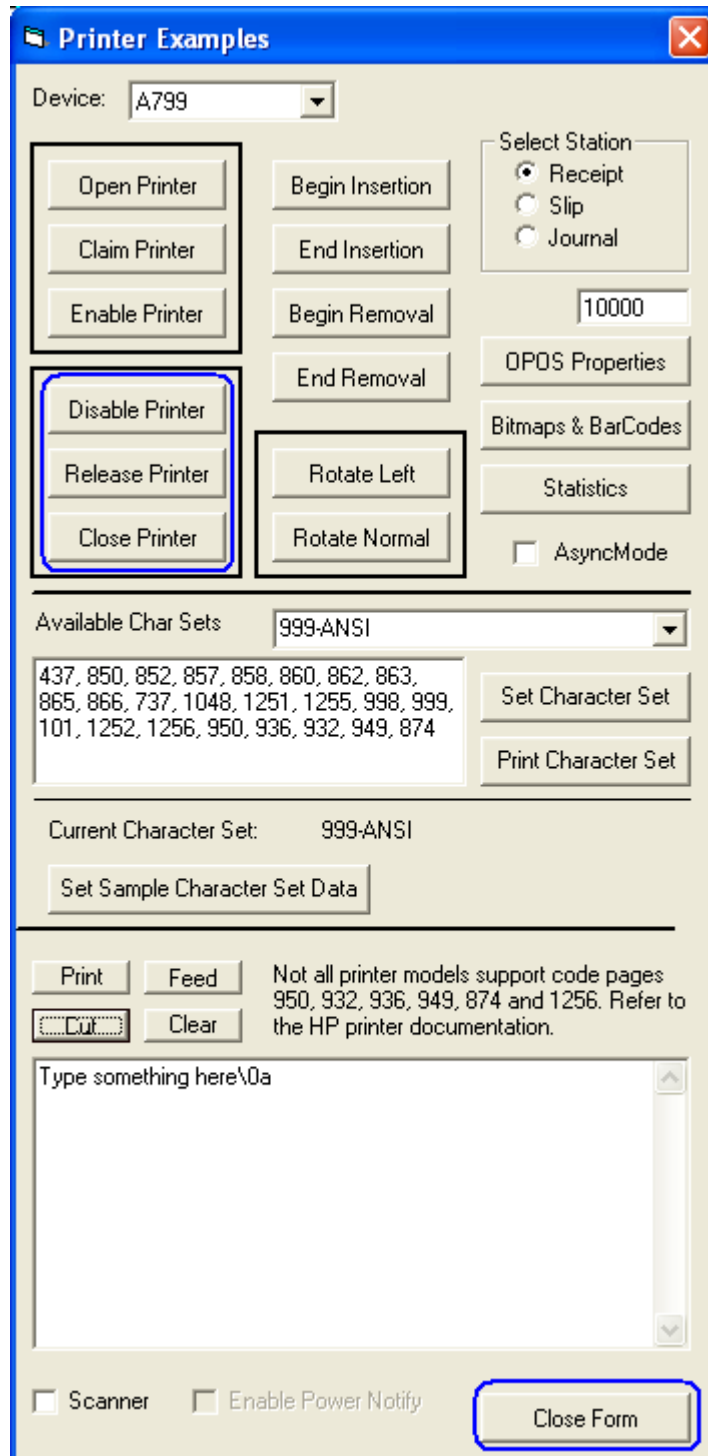
8. [Feed]をクリックして、レシート プリンターの用紙を10行分送ります。[Feed]ボタンをクリックした後、処理に成功すると、GUIに成功のステータスが表示されます。



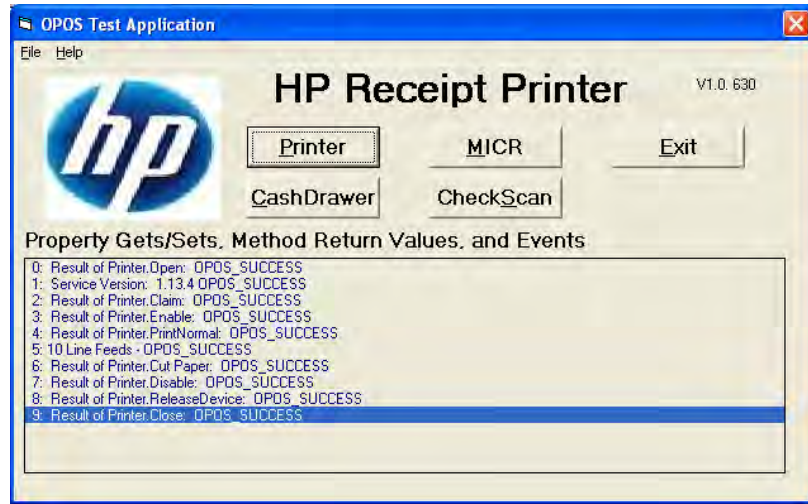
9. [Cut]をクリックして、レシートをカットします。[Cut]ボタンをクリックした後、処理に成功すると、GUIに成功のステータスが表示されます。



10. アプリケーションを終了するには、[Disable Printer]（プリンターを無効にする）→ [Release Printer]（プリンターをリリースする）→ [Close Printer]（プリンターを閉じる）→ [Close Form]（フォームを閉じる）の順にクリックします。



11. アプリケーションのメインGUIを閉じるには、[Exit]（終了）をクリックします。



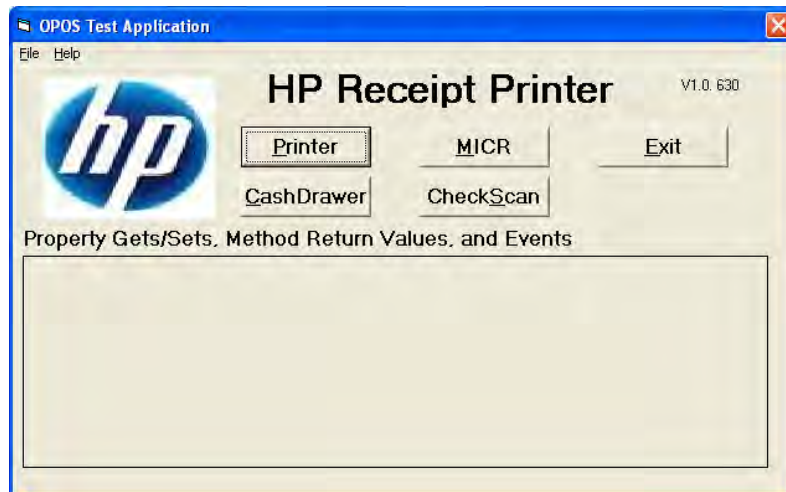
### 6.5.10.7 左回転テスト

レシート プリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

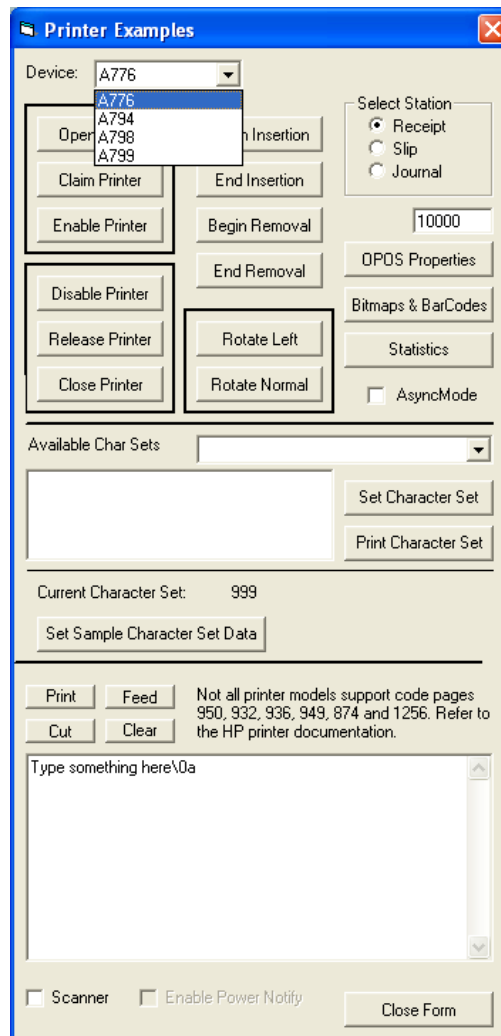
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[Printer]** (プリンター) ボタンをクリックします。
3. ドロップダウン メニューから、お使いのプリンターを選択します。
4. [Open Printer] (プリンターを開く) をクリックします。
5. [Claim Printer] (プリンターの要求) をクリックします。
6. [Enable Printer] (プリンターを有効にする) をクリックします。
7. [Print] (印刷) ボタンをクリックして、プリンターの印刷を確定します。
8. [Rotate Left] (左回転) ボタンをクリックします。
9. [Print]ボタンをクリックします。
10. [Rotate Normal] (通常回転) ボタンをクリックします。
11. テスト アプリケーションを終了します。

#### 詳しい手順

1. **[OPOS Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[Printer]**ボタンをクリックします。



3. ドロップダウンメニューから、お使いのプリンターを選択します。



4. [Open Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。成功した場合は、[SUCCESS]のステータスが表示されます。

この時点で失敗した場合は、プリンターが正しく接続されていてランプが点灯していること、およびコンピューターにOPOSドライバーがインストールされていることを確認してください。

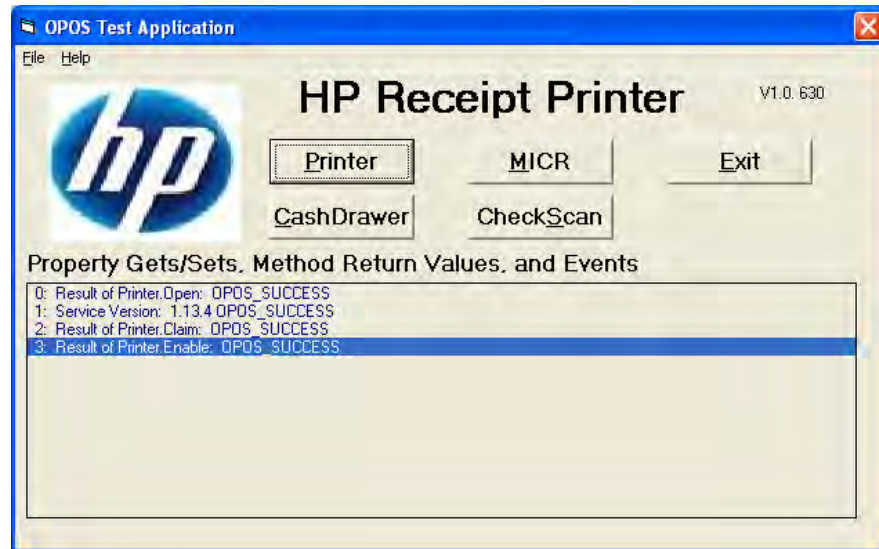
5. [Claim Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。成功した場合は、[SUCCESS]のステータスが表示されます。

この時点で失敗した場合は、CCO 1.9以降のファイルがインストールされていることを確認してください。



6. [Enable Printer]をクリックすると、メインGUIにステータスが表示されます。

成功した場合は、下の図のように[Open Printer]、[Claim Printer]、[Enable Printer]のそれぞれについて[SUCCESS]のステータスが表示されます。



7. [Print]ボタンをクリックして、プリンターの印刷を確定します。

Printer Examples

Device: A799

Open Printer  
Claim Printer  
Enable Printer  
Disable Printer  
Release Printer  
Close Printer

Begin Insertion  
End Insertion  
Begin Removal  
End Removal  
Rotate Left  
Rotate Normal

Select Station  
 Receipt  
 Slip  
 Journal

10000

OPOS Properties  
Bitmaps & BarCodes  
Statistics  
 AsyncMode

Available Char Sets: 999-ANSI

437, 850, 852, 857, 858, 860, 862, 863, 865, 866, 737, 1048, 1251, 1255, 998, 999, 101, 1252, 1256, 950, 936, 932, 949, 874

Set Character Set  
Print Character Set

Current Character Set: 999-ANSI

Set Sample Character Set Data

Print Feed  
Cut Clear

Not all printer models support code pages 950, 932, 936, 949, 874 and 1256. Refer to the HP printer documentation.

Type something here\0a

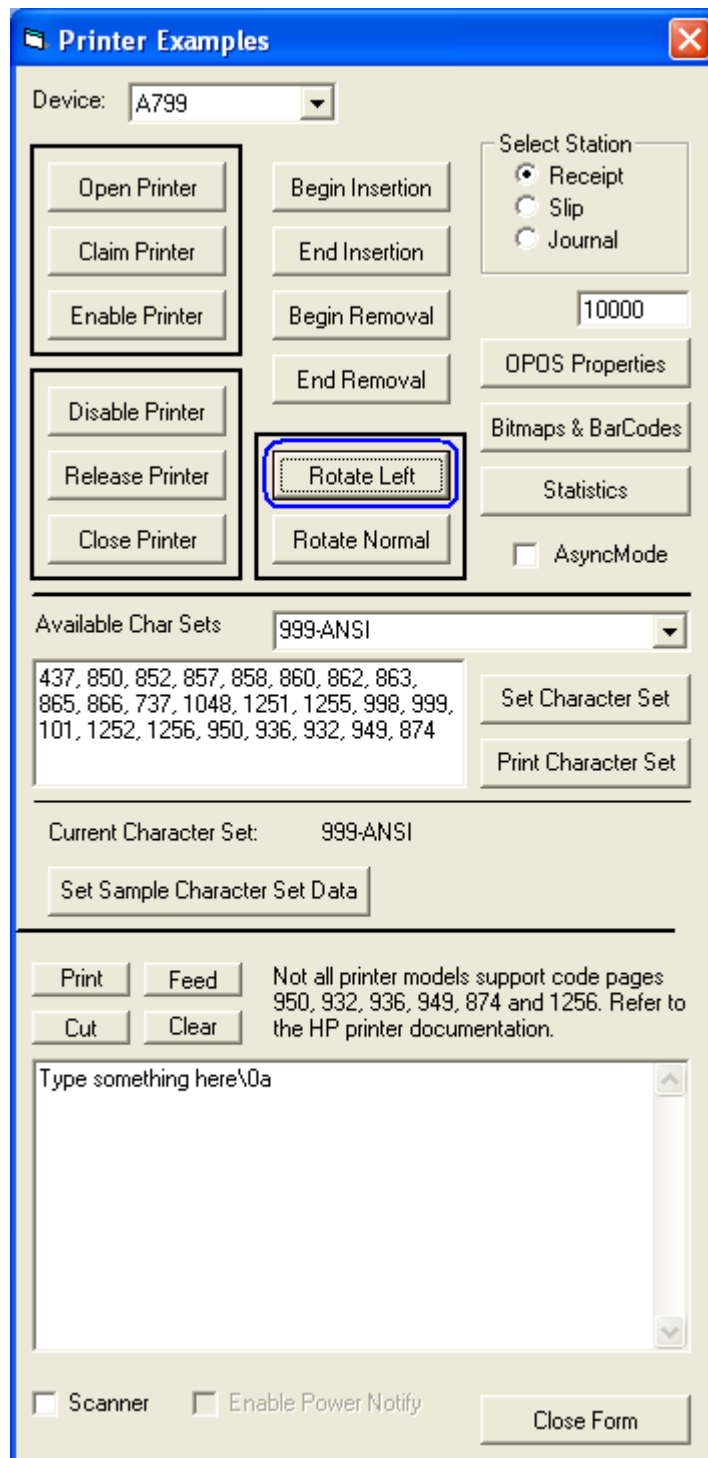
Scanner  Enable Power Notify

Close Form

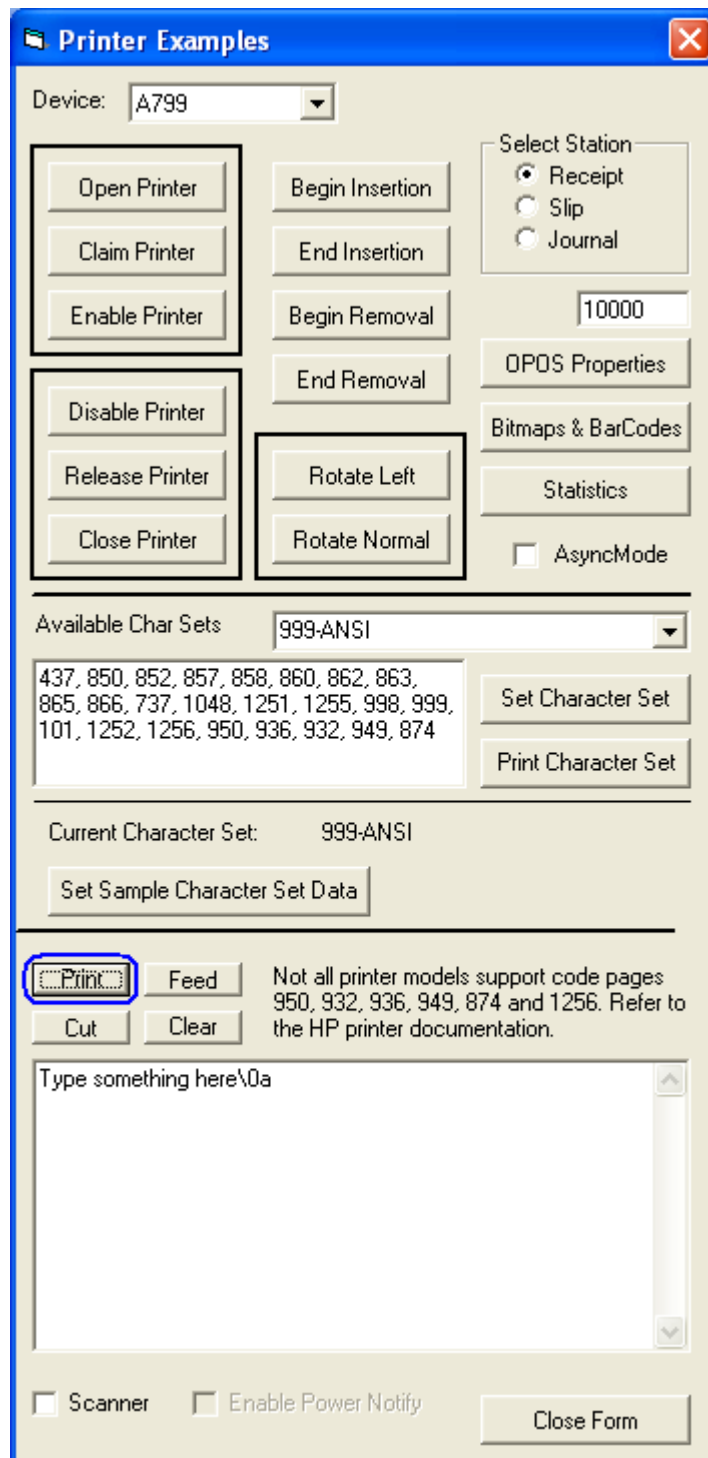
以下は、レシート上の印刷例です。

Type something here

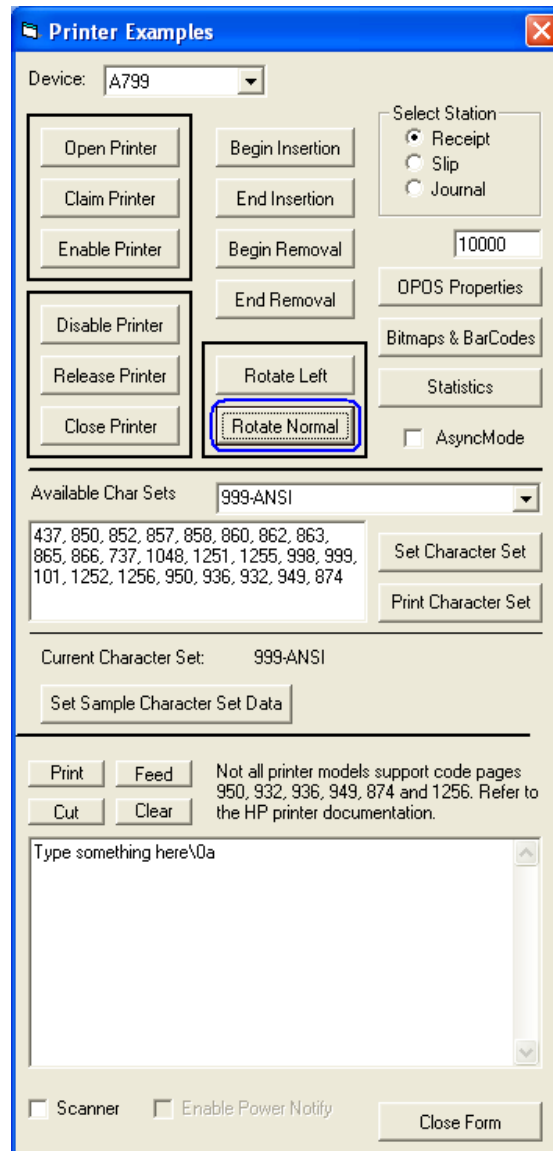
8. [Rotate Left]ボタンをクリックします。



9. [Print]ボタンをクリックします。



10. [Rotate Normal]ボタンをクリックします。

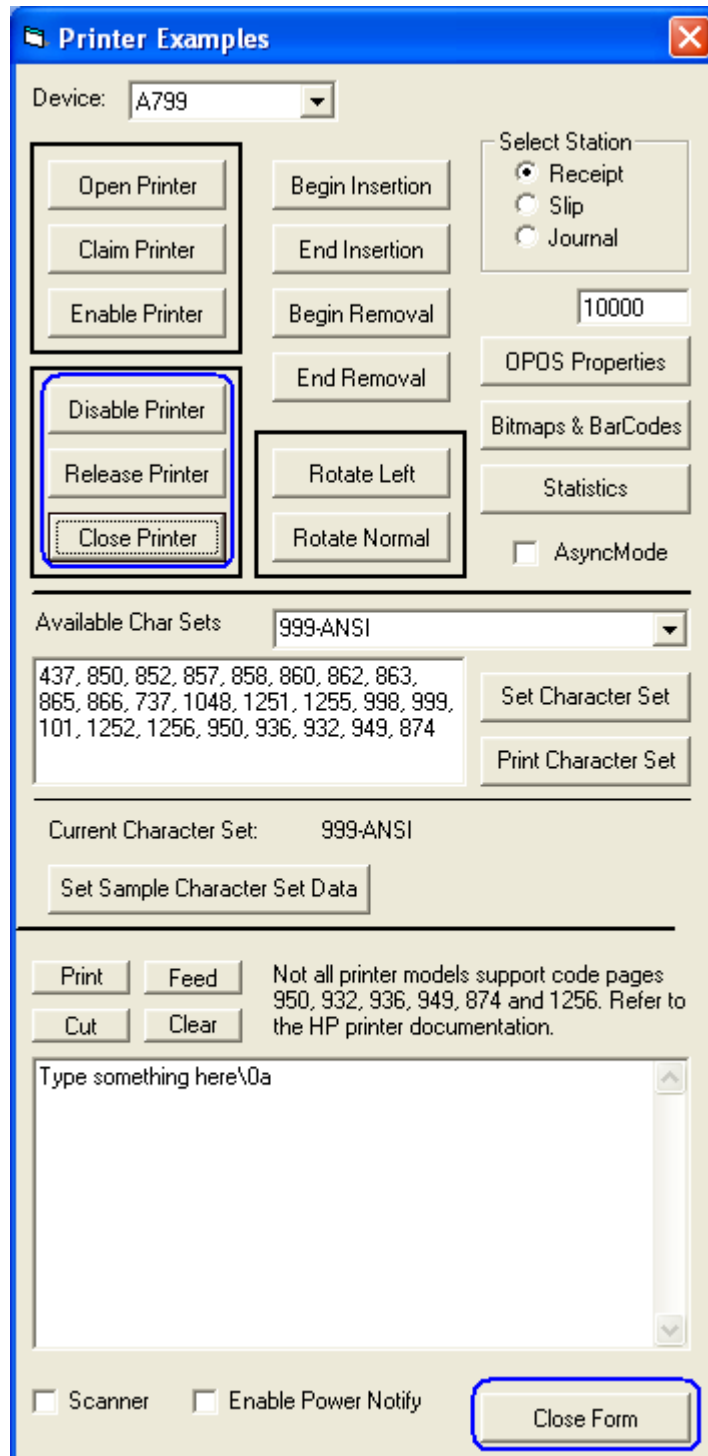


以下は、レシート上の印刷例です。

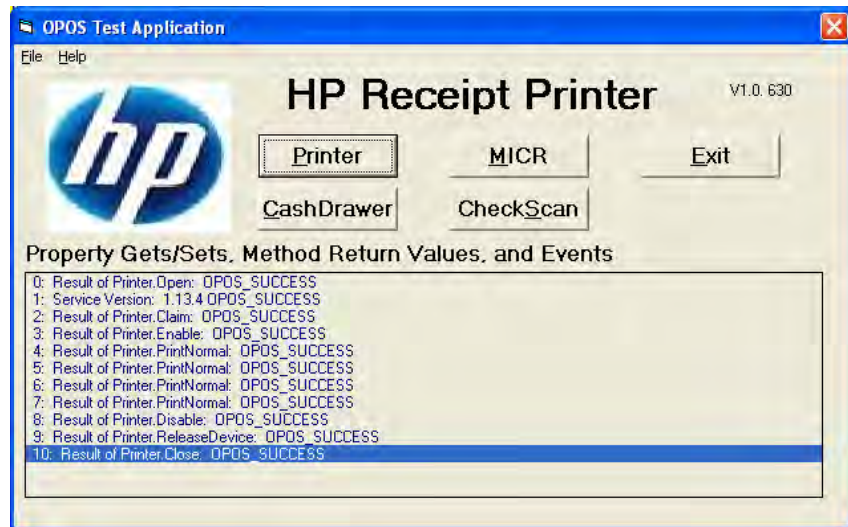
Type something here

Type something here

11. アプリケーションを終了するには、[Disable Printer]（プリンターを無効にする）→ [Release Printer]（プリンターをリリースする）→ [Close Printer]（プリンターを閉じる）→ [Close Form]（フォームを閉じる）の順にクリックします。

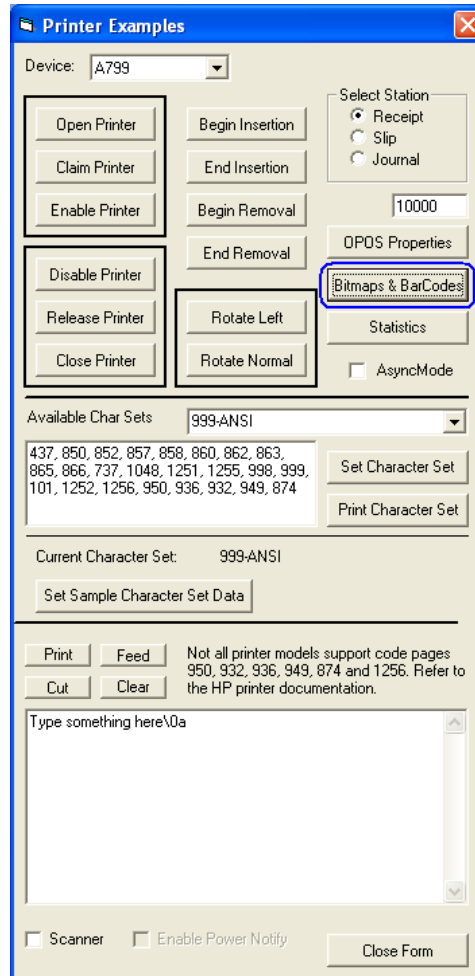


12. アプリケーションのメインGUIを閉じるには、[Exit] (終了) をクリックします。



### 6.5.10.8 ビットマップおよびバーコードテスト

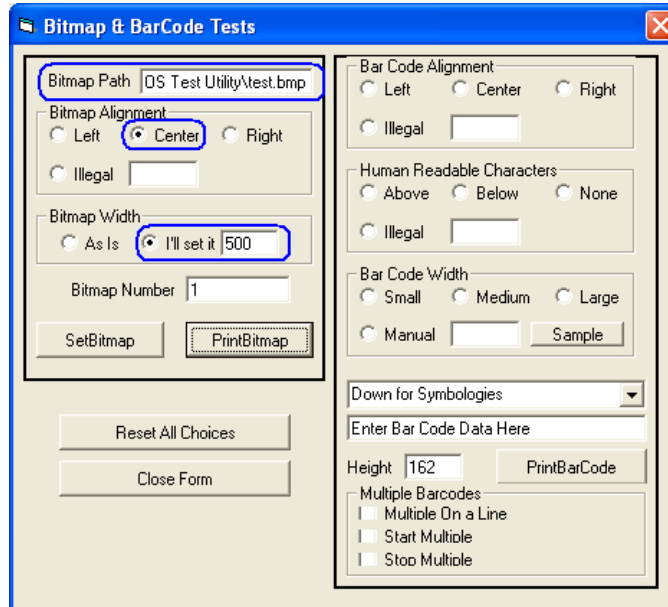
1. レシート プリンターでビットマップまたはバーコードをテストする手順を以下で説明します。
  - a. プリンターを有効にしていない場合は、前のセクションに記載されている手順を完了してください。
  - b. [Bitmaps & Barcodes] (ビットマップおよびバーコード) ボタンをクリックします。



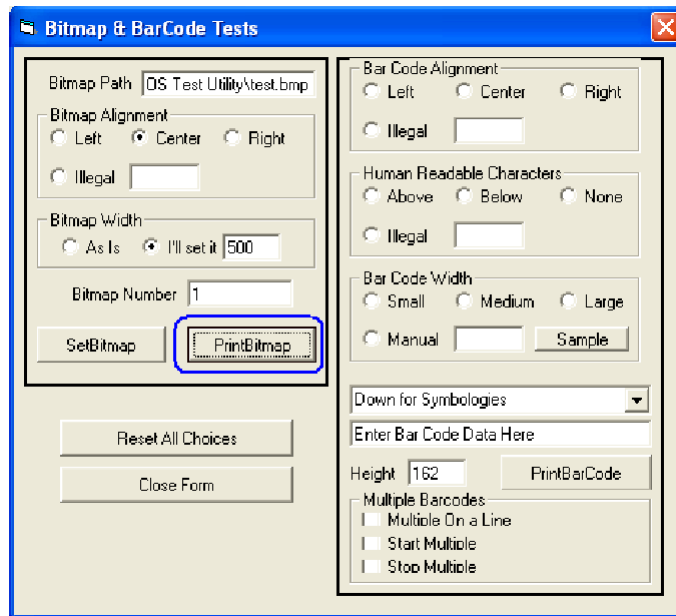


## ビットマップ

- i. 3種類のテスト用ビットマップ (GRID.BMP、HP.BMP、TEST.BMP) を使用できます。これらのビットマップは、「C:\xxxxx¥Point of Sale¥Receipt Printer¥OPOS Test Utility」にあります。
- ii. ビットマップの位置揃えを選択します (左、中央、右)。
- iii. [I'll set it] (ユーザー設定) オプションを選択します。ビットマップの幅を「500」に設定します。



- iv. [PrintBitmap] (ビットマップの印刷) ボタンをクリックします。選択したビットマップがプリンターによって印刷されたことを確認します。



- v. [Close Form] (フォームを閉じる) ボタンをクリックします。

- vi. [Disable Printer] (プリンターを無効にする) → [Release Printer] (プリンターをリリースする) → [Close Printer] (プリンターを閉じる) → [Close Form] (フォームを閉じる) ボタンの順にクリックします。

Printer Examples

Device: A799

Open Printer  
Claim Printer  
Enable Printer  
Disable Printer  
Release Printer  
Close Printer

Begin Insertion  
End Insertion  
Begin Removal  
End Removal  
Rotate Left  
Rotate Normal

Select Station  
 Receipt  
 Slip  
 Journal  
10000  
OPOS Properties  
Bitmaps & BarCodes  
Statistics  
 AsyncMode

Available Char Sets: 999-ANSI  
437, 850, 852, 857, 858, 860, 862, 863, 865, 866, 737, 1048, 1251, 1255, 998, 999, 101, 1252, 1256, 950, 936, 932, 949, 874  
Set Character Set  
Print Character Set

Current Character Set: 999-ANSI  
Set Sample Character Set Data

Print Feed  
Cut Clear  
Not all printer models support code pages 950, 932, 936, 949, 874 and 1256. Refer to the HP printer documentation.

Type something here\0a

Scanner  Enable Power Notify  
Close Form

## バーコード

- i. バーコードの位置揃えを選択します（左、中央、右）。
- ii. [Human Readable Characters]（人間可読文字）を選択します（上、下、なし）。
- iii. バーコードの幅を選択します（小、中、大）。
- iv. ドロップダウン ボックスで[Interleaved 2 of 5]（インタリーブ2/5）を選択します。
- v. バーコードの数値を入力します。
- vi. [PrintBarcode]（バーコードのプリント）をクリックします。バーコードがプリンターによって印刷されたことを確認します。

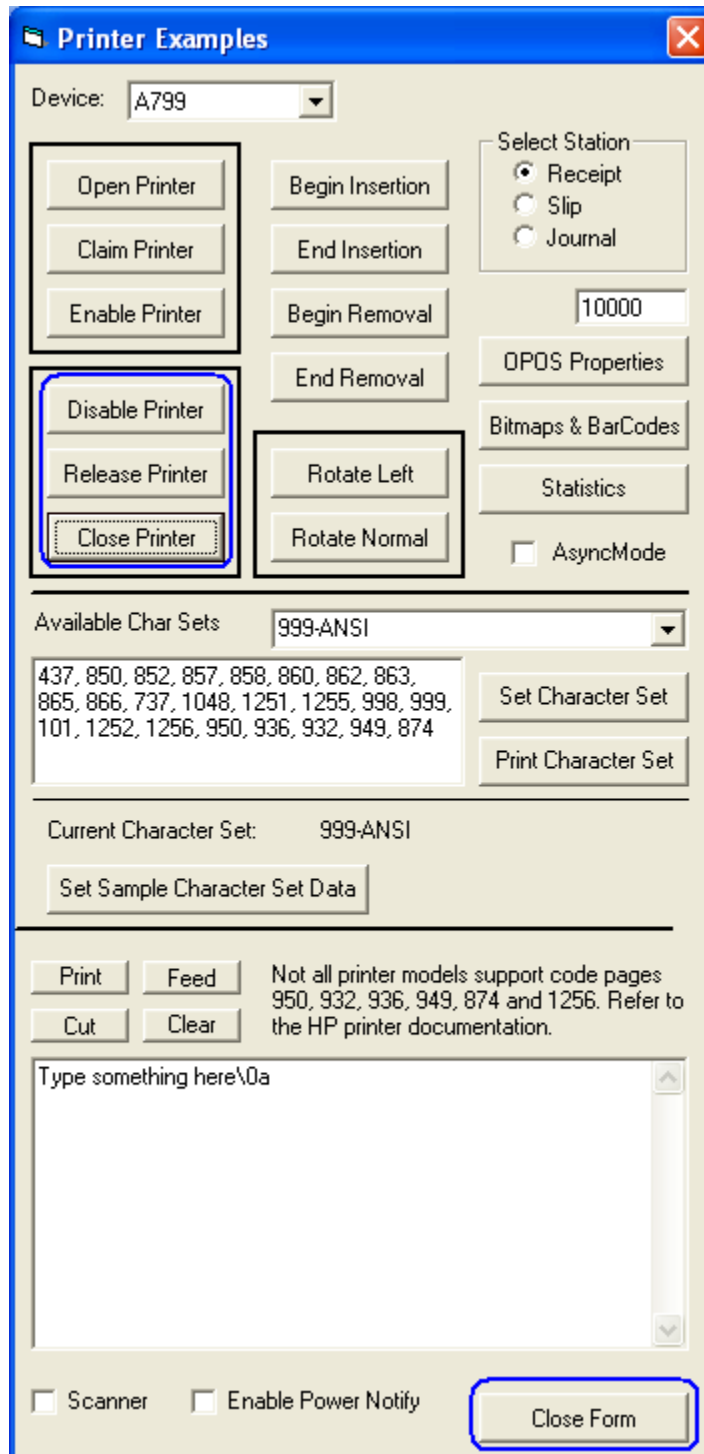
The screenshot shows the 'Bitmap & BarCode Tests' dialog box. The 'Bar Code Alignment' section has 'Center' selected. The 'Human Readable Characters' section has 'Below' selected. The 'Bar Code Width' section has 'Medium' selected. The 'Interleaved 2 of 5' dropdown is open, showing '1038316' entered in the text field below it. The 'PrintBarcode' button is visible.

- vii. [Close Form]（フォームを閉じる）ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Bitmap & BarCode Tests' dialog box. The 'Close Form' button is highlighted with a red rectangle.

- viii. [Disable Printer]（プリンターを無効にする）ボタンをクリックします。
- ix. [Release Printer]（プリンターをリリースする）ボタンをクリックします。

- x. [Close Printer] (プリンターを閉じる) ボタンをクリックします。
- xi. [Close Form] (フォームを閉じる) ボタンをクリックします。



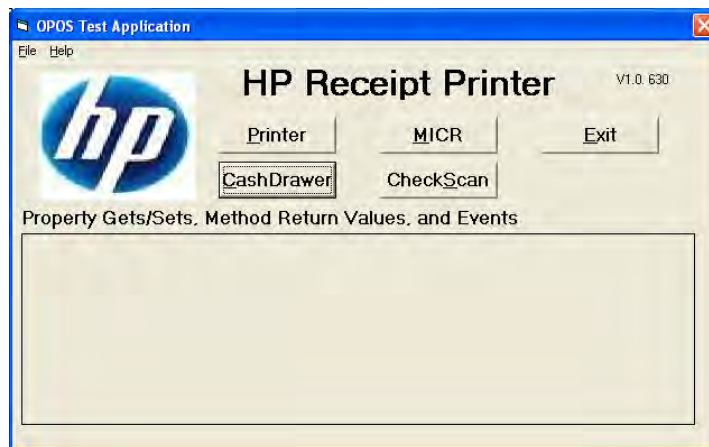
#### 6.5.10.9 レシートプリンターおよびキャッシュドロアーユーティリティ：キャッシュドロアーのテスト

キャッシュ ドロアーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

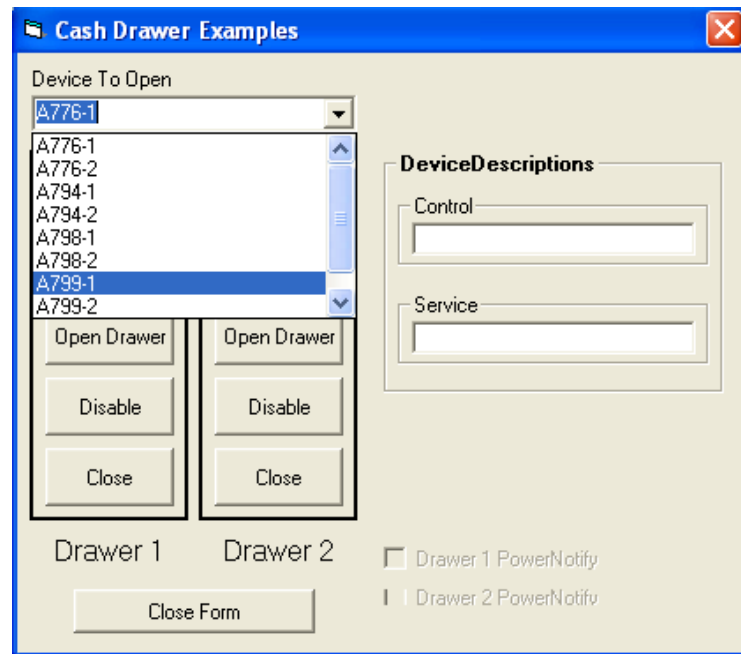
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュドロアー) ボタンをクリックします。
3. テスト対象のキャッシュドロアーの該当するデバイス名を選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. **[Open Drawer]** (ドロアーを開ける) をクリックすると、キャッシュ ドロアーが開きます。GUIに、キャッシュドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。
7. キャッシュドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。
8. テストアプリケーションを終了します。

#### 詳しい手順

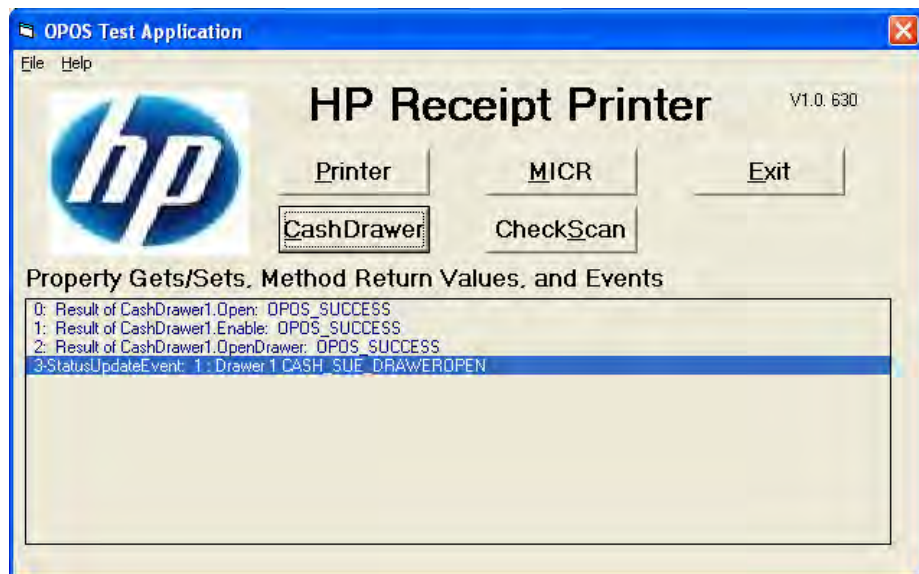
1. [OPOS Test Application]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CashDrawer]**ボタンをクリックします。



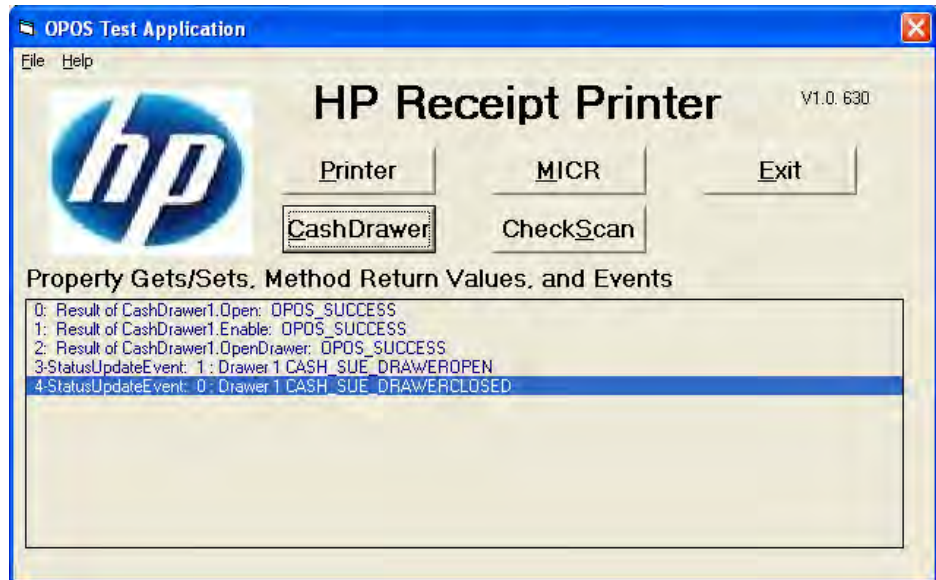
3. テスト対象のキャッシュドロアーの該当するデバイス名を選択します。



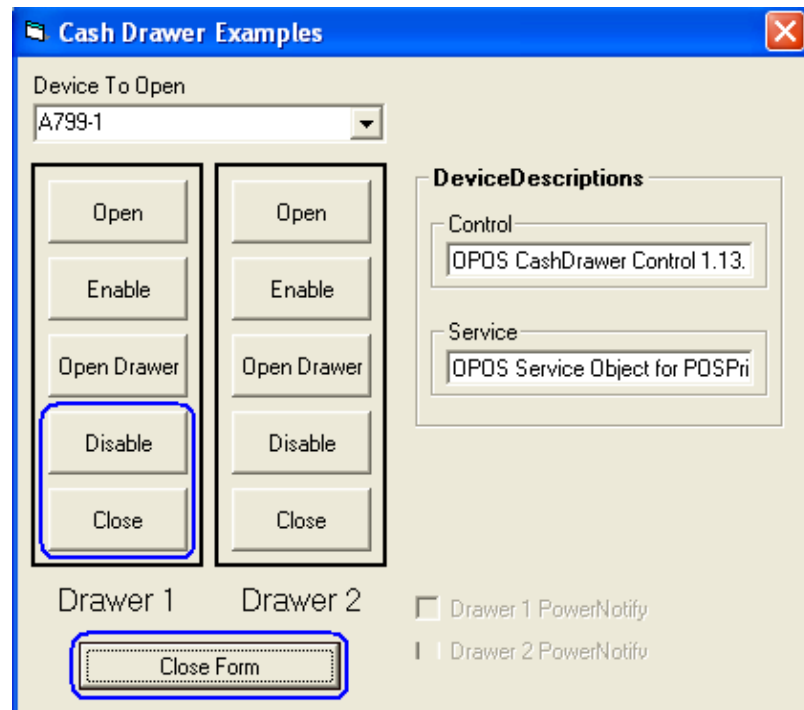
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Enable]ボタンをクリックします。
6. [Open Drawer]をクリックすると、キャッシュドロアーが開きます。GUIに、キャッシュドロアーが開いていることを示すステータスも表示されます。



7. キャッシュ ドロアーを閉めると、GUIに、キャッシュ ドロアーが閉まっていることを示すステータスが表示されます。




8. [Disable] (無効にする) → [Close] (閉じる) → [Close Form] (フォームを閉じる) → [Exit] (終了) の順にクリックして、テストユーティリティを終了します。



OPOS Test Application

File Help



# HP Receipt Printer

V1.0.630

Printer MICR Exit

CashDrawer CheckScan

Property Gets/Sets, Method Return Values, and Events

```
0: Result of CashDrawer1.Open: OPOS_SUCCESS
1: Result of CashDrawer1.Enable: OPOS_SUCCESS
2: Result of CashDrawer1.OpenDrawer: OPOS_SUCCESS
3-StatusUpdateEvent: 1 : Drawer 1 CASH_SUE_DRAWEROPEN
4-StatusUpdateEvent: 0 : Drawer 1 CASH_SUE_DRAWERCLOSED
5: Result of CashDrawer1.Disable: OPOS_SUCCESS
6: Result of CashDrawer1.Close: OPOS_SUCCESS
```



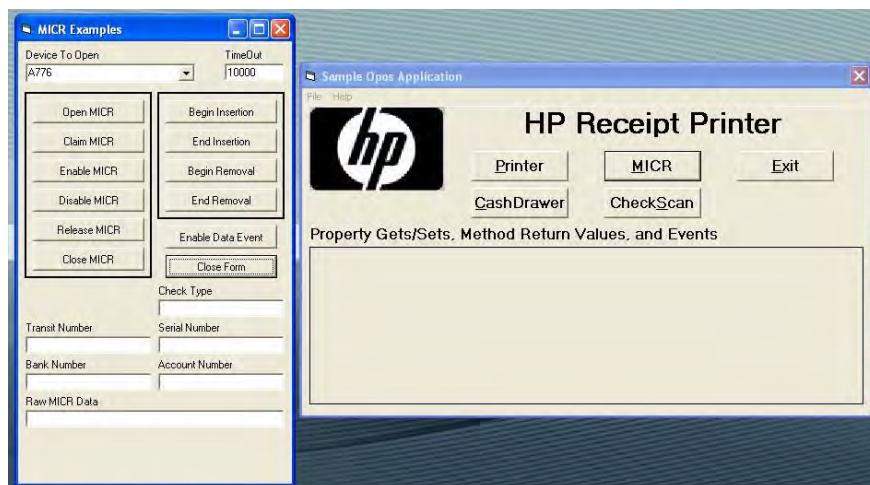
## 6.5.11 MICR用のOPOSテストアプレット

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

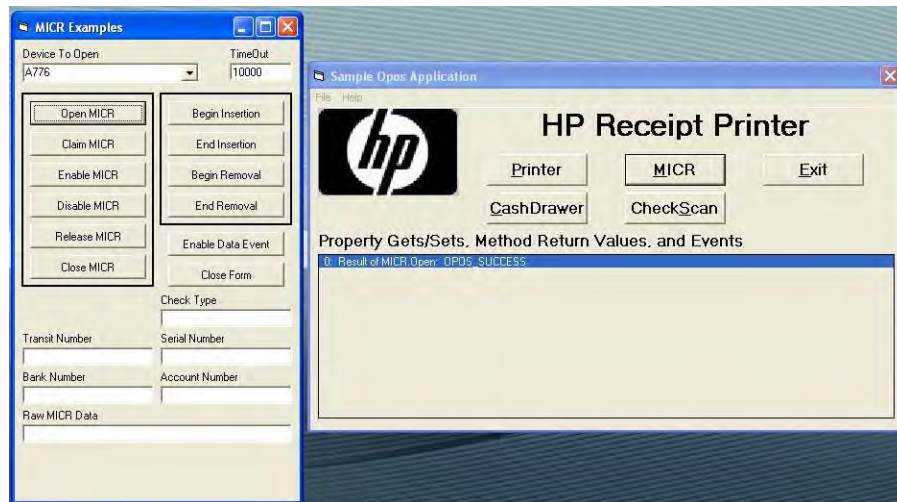
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテストアプリケーション)を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[MICR]**ボタンをクリックします。
3. **[Open MICR]** (MICRを開く) ボタンをクリックします。
4. **[Claim MICR]** (MICRの要求) ボタンをクリックします。
5. **[Enable MICR]** (MICRを有効にする) ボタンをクリックします。
6. プリンターの前面に小切手を挿入し、前面のランプが点灯したことを確認します。
7. **[Begin Insertion]** (挿入開始) ボタンをクリックします。
8. **[End Insertion]** (挿入終了) ボタンをクリックします。この時点で、プリンターでMICR処理が実行されます。小切手が前面から出てきた後、プリンターの下部に返されます。
9. **[Enable Data Event]** (データ イベントを有効にする) ボタンをクリックします。GUIの下部に、小切手スキャン機能によるデータが表示されることを確認します。
10. **[Begin Removal]** (除去開始) ボタンをクリックし、小切手が排出されたらプリンターから取り除きます。
11. **[End Removal]** (除去終了) ボタンをクリックします。
12. MICRを閉じます。
13. フォームを閉じます。

### 詳しい手順

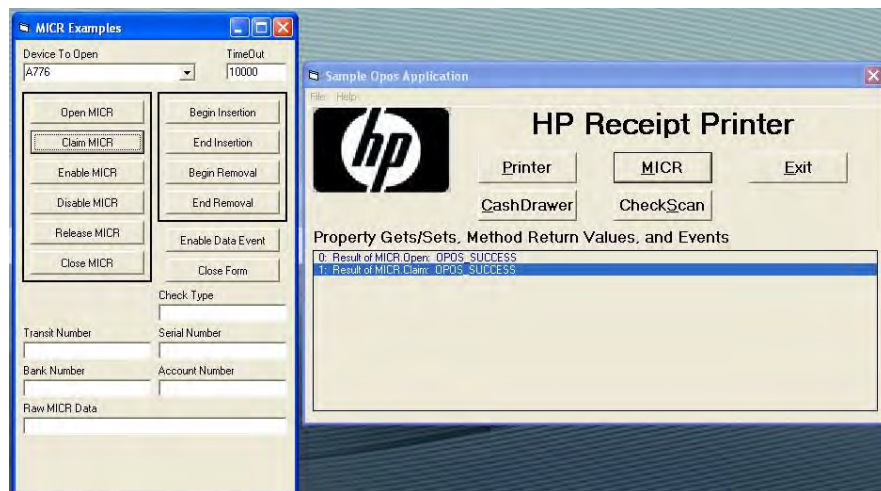
1. [OPOS Test Application]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[MICR]**ボタンをクリックします。以下の図のようにGUIがもう1つ表示されます。



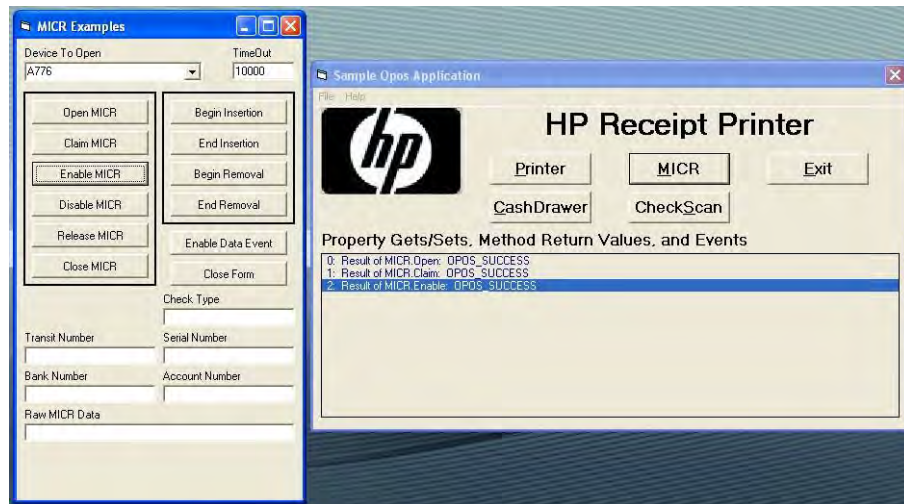
3. [Open MICR]ボタンをクリックします。メインGUIに[SUCCESS]と表示されます。



4. [Claim MICR]ボタンをクリックします。メインGUIに[SUCCESS]と表示されます。

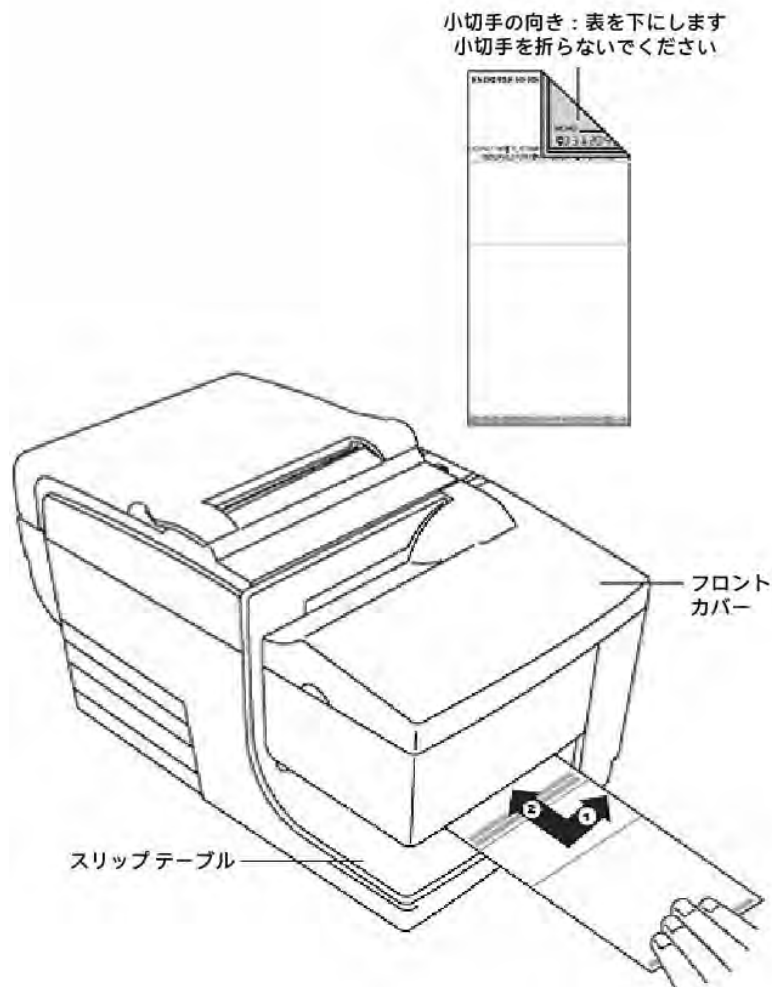


5. [Enable MICR]ボタンをクリックします。メインGUIに[SUCCESS]と表示されます。



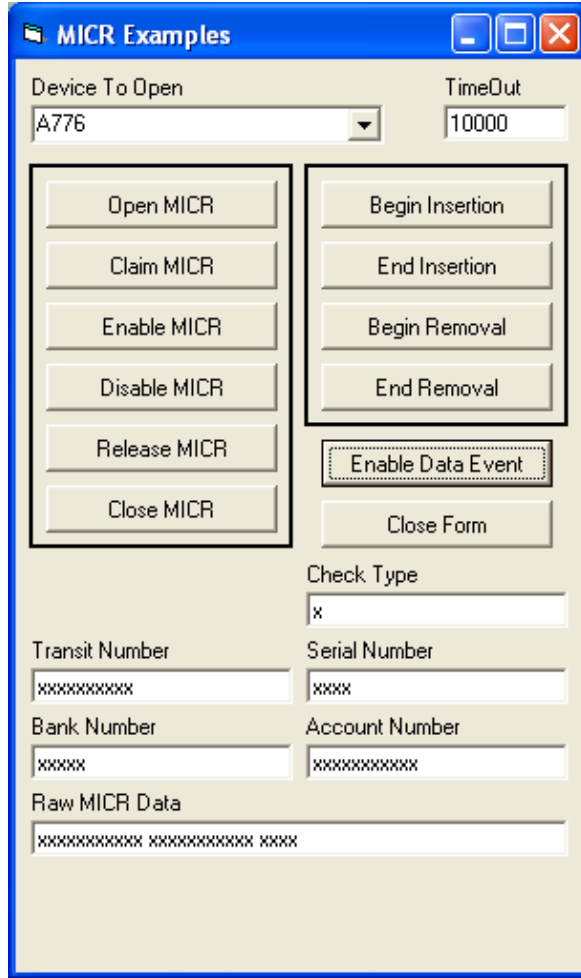
「NO Hardware (ハードウェアなし)」というメッセージが表示されてプリンターのランプが点滅している場合は、紙詰まりが起きていないことを確認してください。

6. プリンターの前面に小切手を挿入し、前面のランプが点灯したことを確認します。



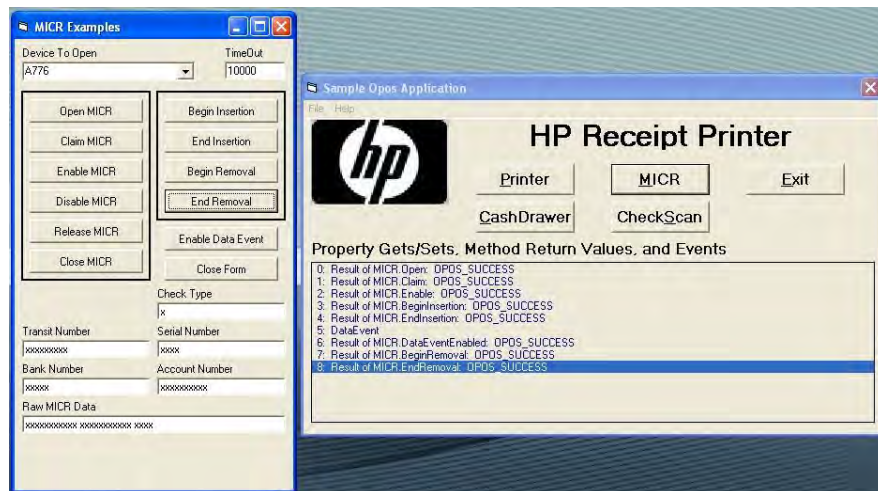




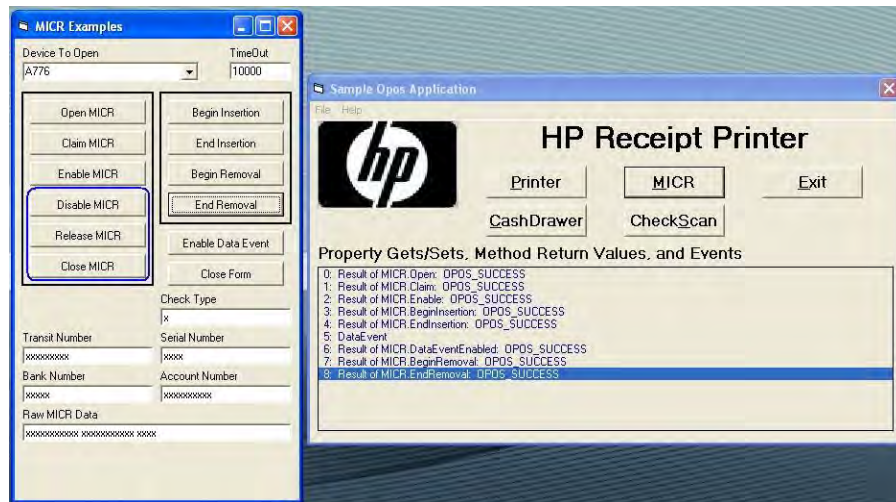


上記の例では、「x」の部分に実際の番号が表示されます。

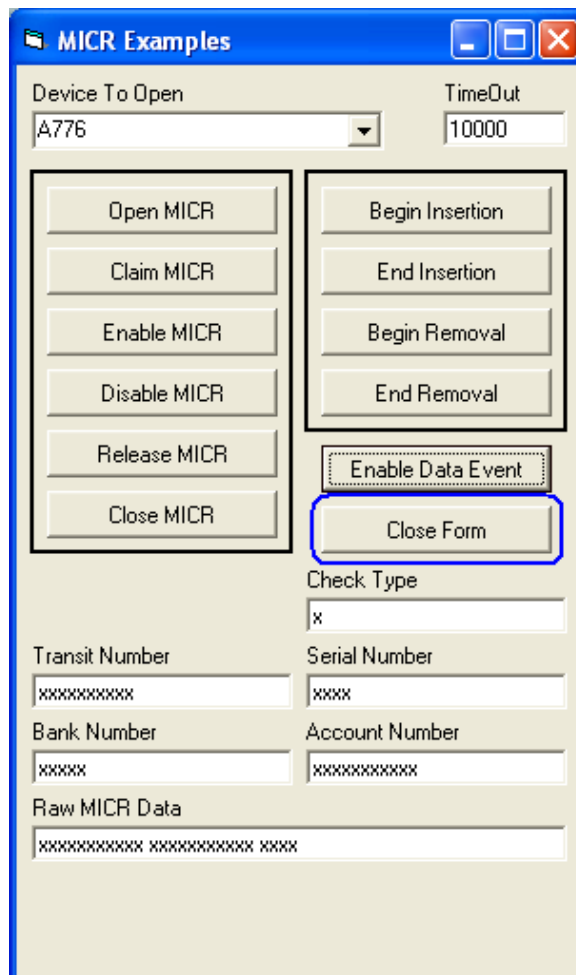
10. [Begin Removal]ボタンをクリックし、小切手が排出されたらプリンターから取り除きます。
11. [End Removal]ボタンをクリックします。



12. アプリケーションを終了するには、[Disable MICR] (MICRを無効にする) ボタン→[Release MICR] (MICRをリリースする) ボタン→[Close MICR] (MICRを閉じる) ボタンの順にクリックします。



13. [Close Form] (フォームを閉じる) ボタンをクリックします。



## 6.5.12 CheckScan用のOPOSテスト アプレット

注：小切手スキャナー機能は、イメージング機能を搭載したHPハイブリッドプリンターでのみ使用できます。イメージング機能を搭載したHPハイブリッドプリンターモデルの画像を以下に示します。

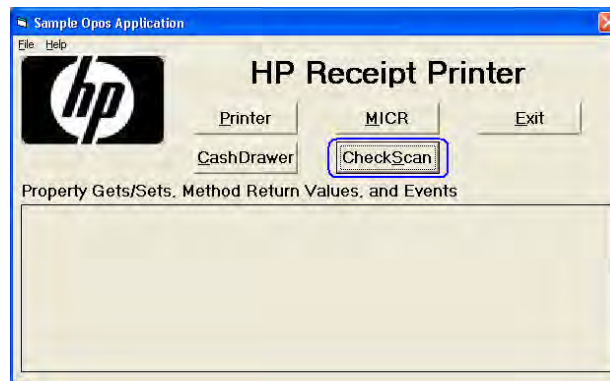


レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

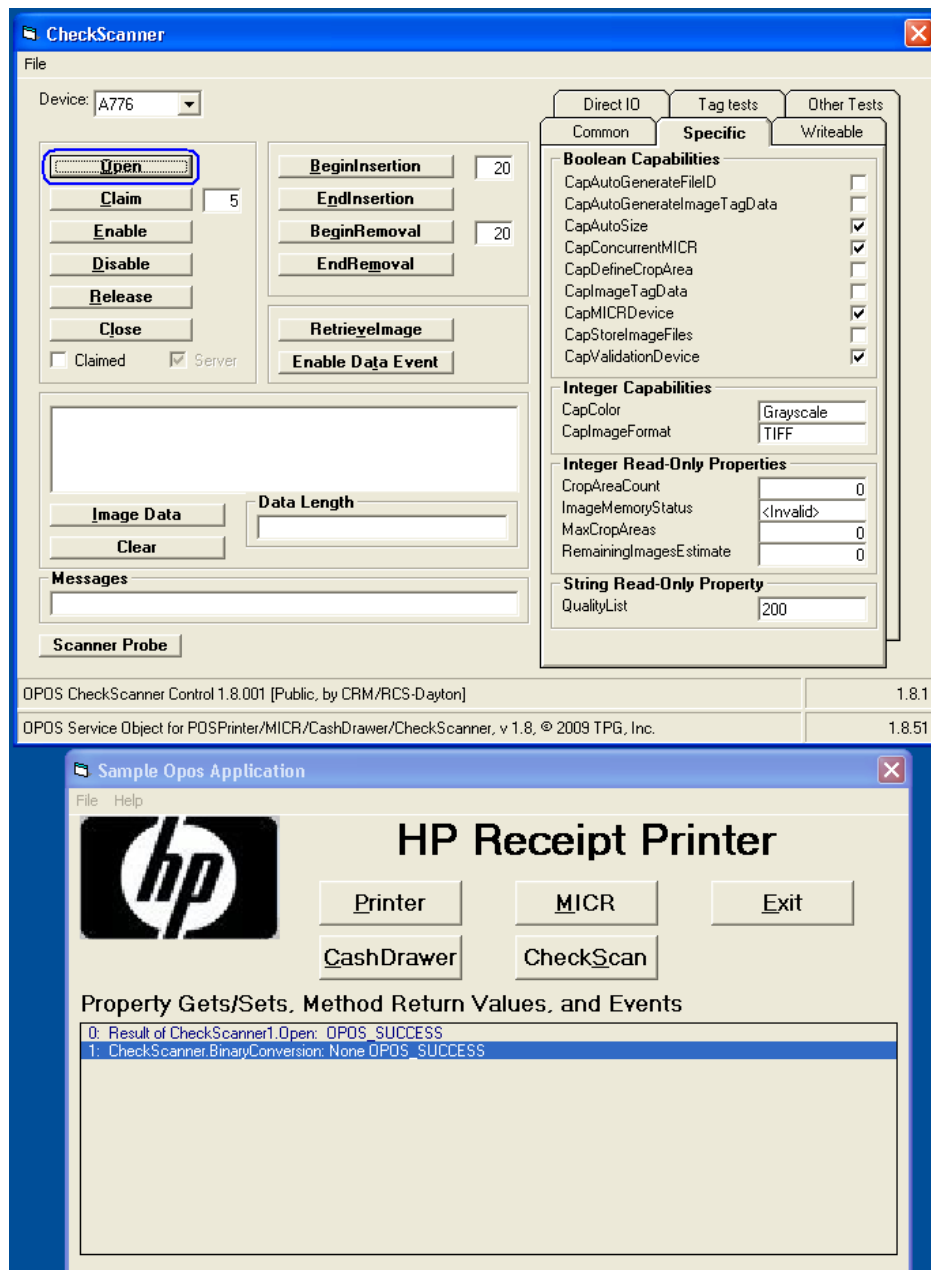
1. **[OPOS Test Application]** (OPOSテスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CheckScan]** ボタンをクリックします。
3. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
4. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. **[BeginInsertion]** (挿入開始) ボタンをクリックします。プリンターからカチッという音がします。
7. プリンターの前面に表を上にして小切手を挿入し、前面のランプが点灯したことを確認します。
8. **[EndInsertion]** (挿入終了) ボタンをクリックします。プリンターで「CheckScan」処理が実行されます。小切手が前面から出てきた後、プリンターの下部に返されます。
9. **[Enable Data Event]** (データ イベントを有効にする) ボタンをクリックします。
10. **[RetrievalImage]** (画像の取得) ボタンをクリックします。
11. [File] (ファイル) → [Save As] (名前を付けて保存) の順にクリックして、取得した画像を保存します。  
「TIF」拡張子を付けてファイルを保存します。
12. **[BeginRemoval]** (除去開始) ボタンをクリックします。
13. **[EndRemoval]** (除去終了) ボタンをクリックします。
14. [CheckScan] を閉じます。
15. フォームを閉じます。

### 詳しい手順

1. [OPOS Test Application] を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\OPOS Test Utility\OPOS\_Test\_Application.exe.
2. **[CheckScan]** ボタンをクリックします。

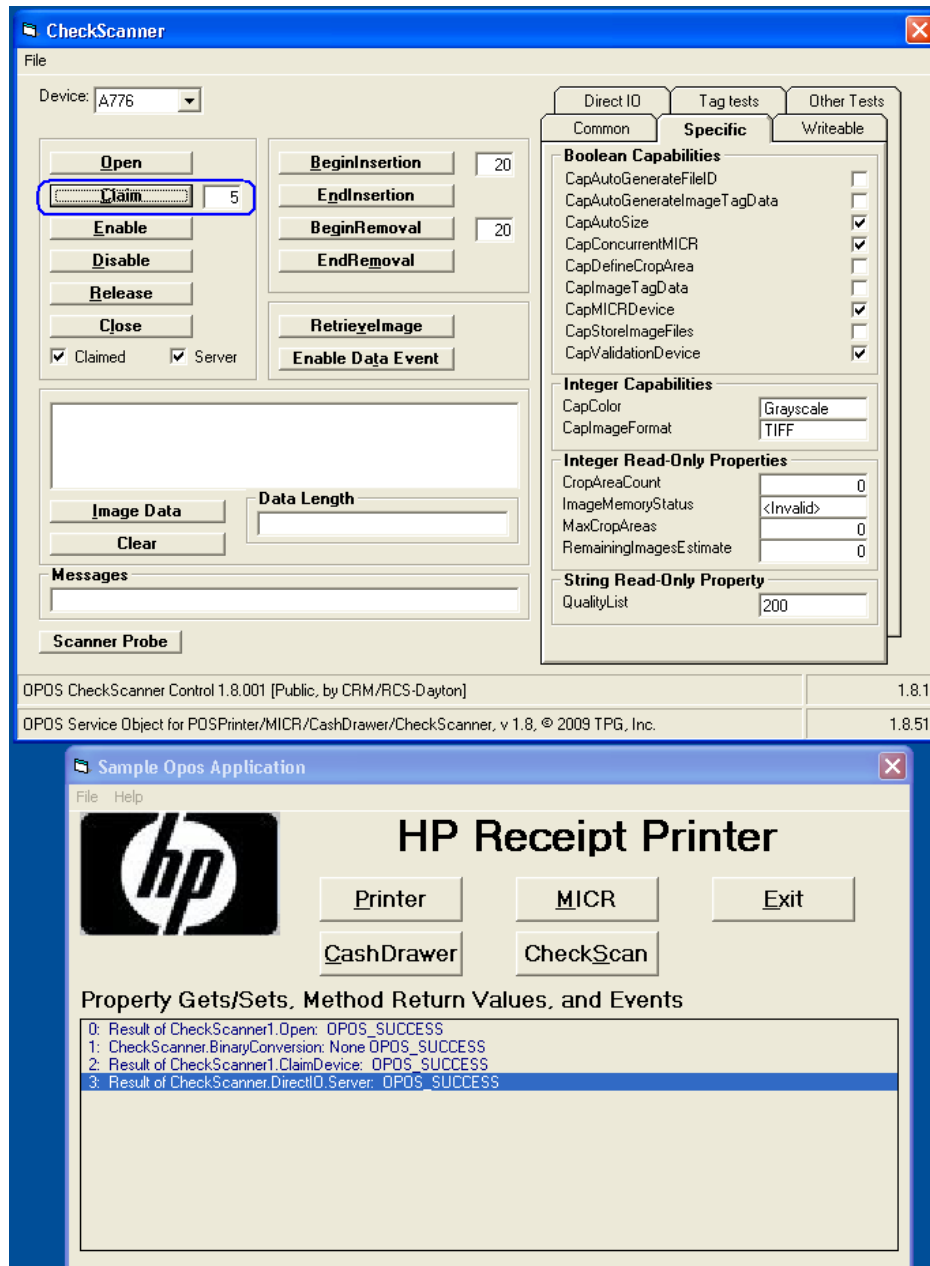


3. [Open]ボタンをクリックします。

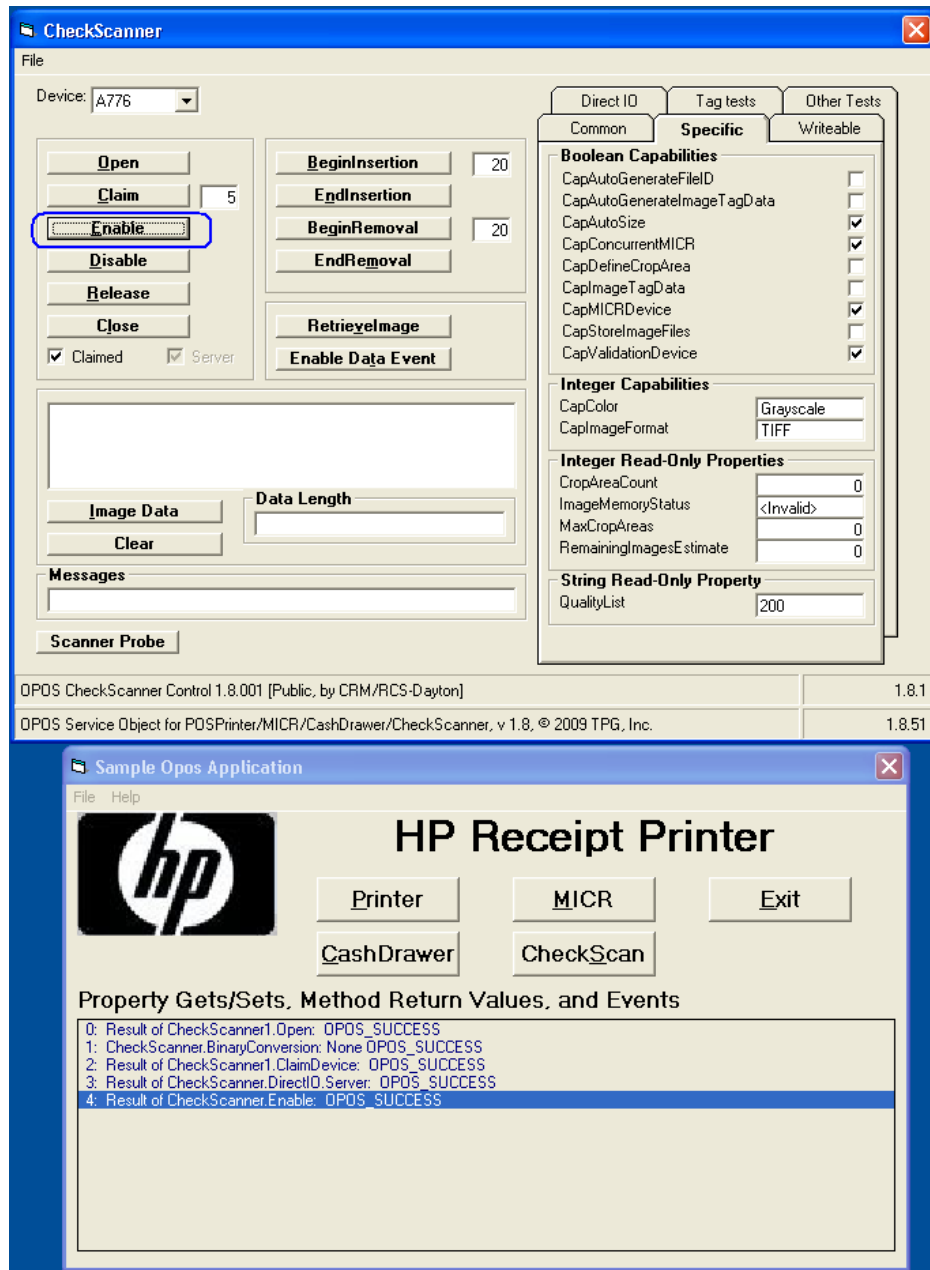




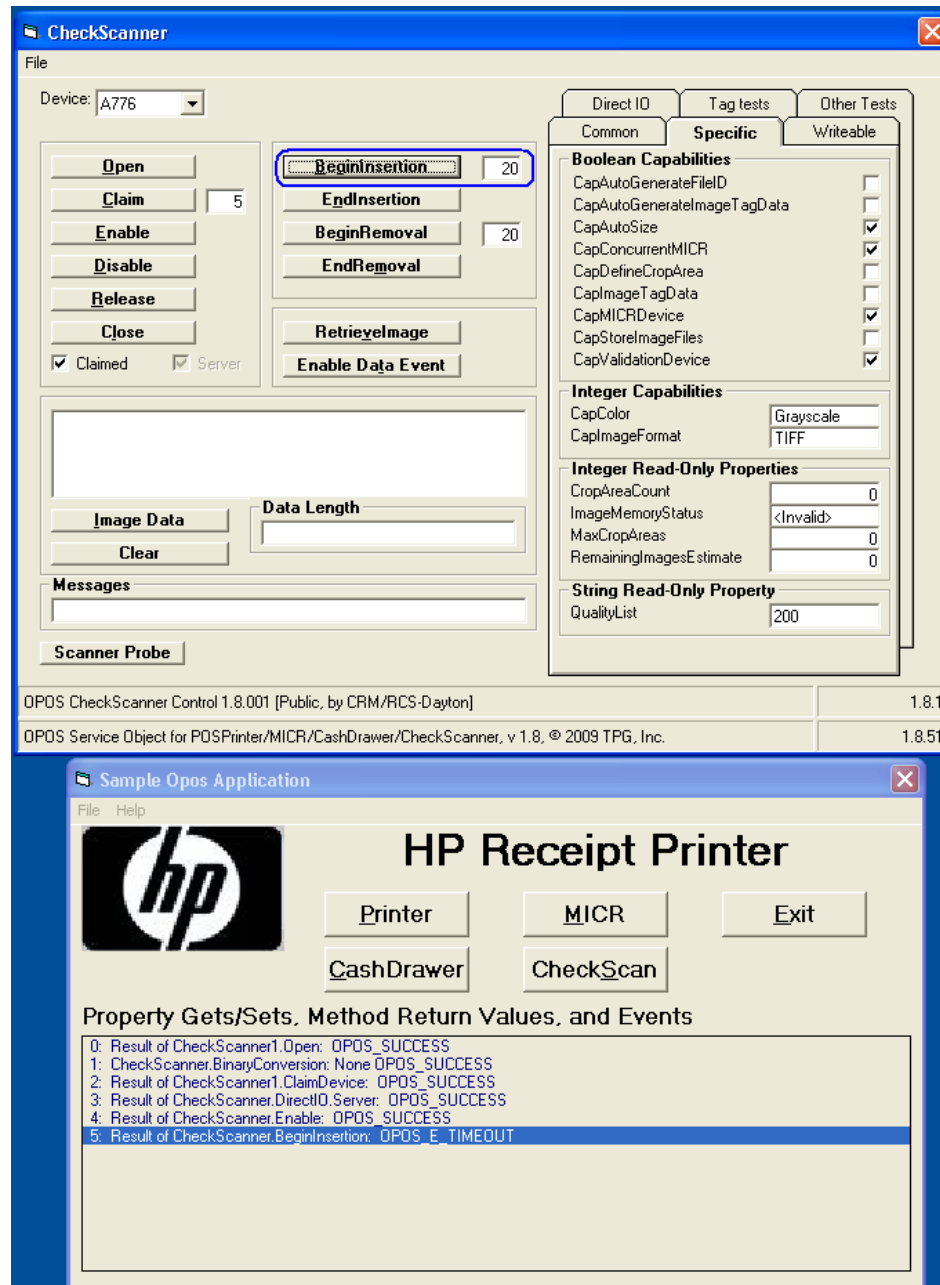
4. [Claim]ボタンをクリックします。



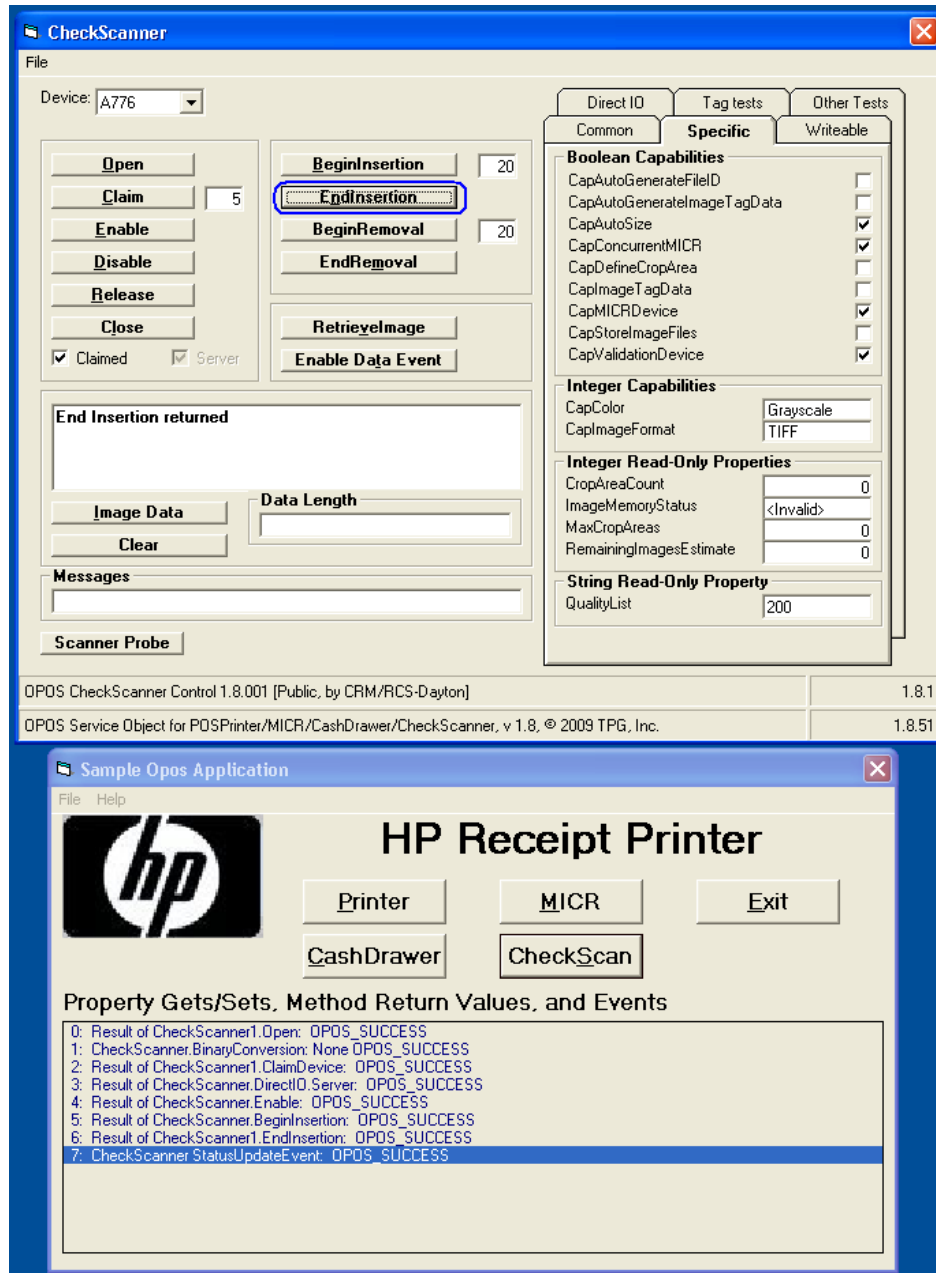
5. [Enable]ボタンをクリックします。



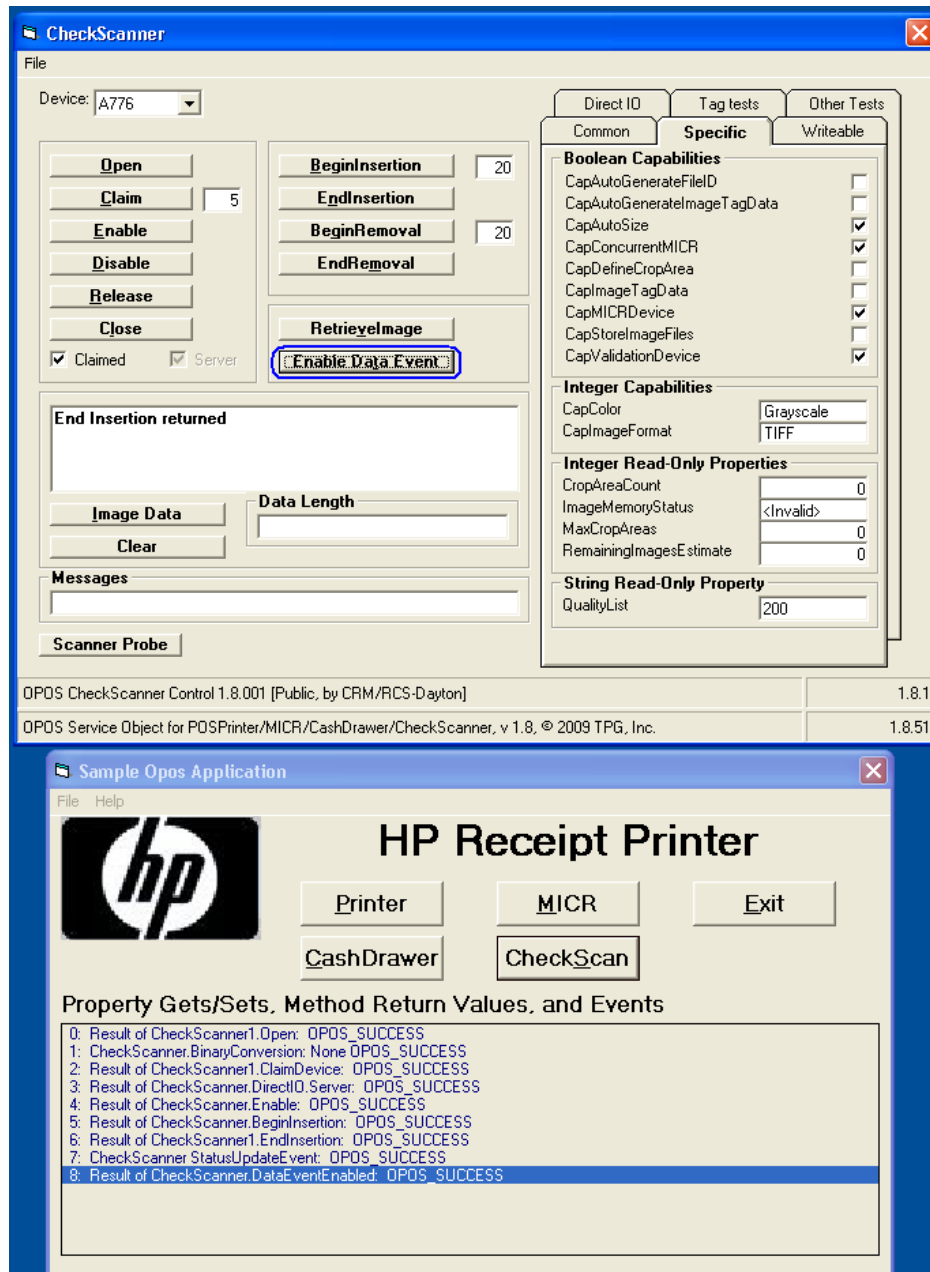
6. [BeginInsertion]ボタンをクリックします。プリンターからカチッという音がします。



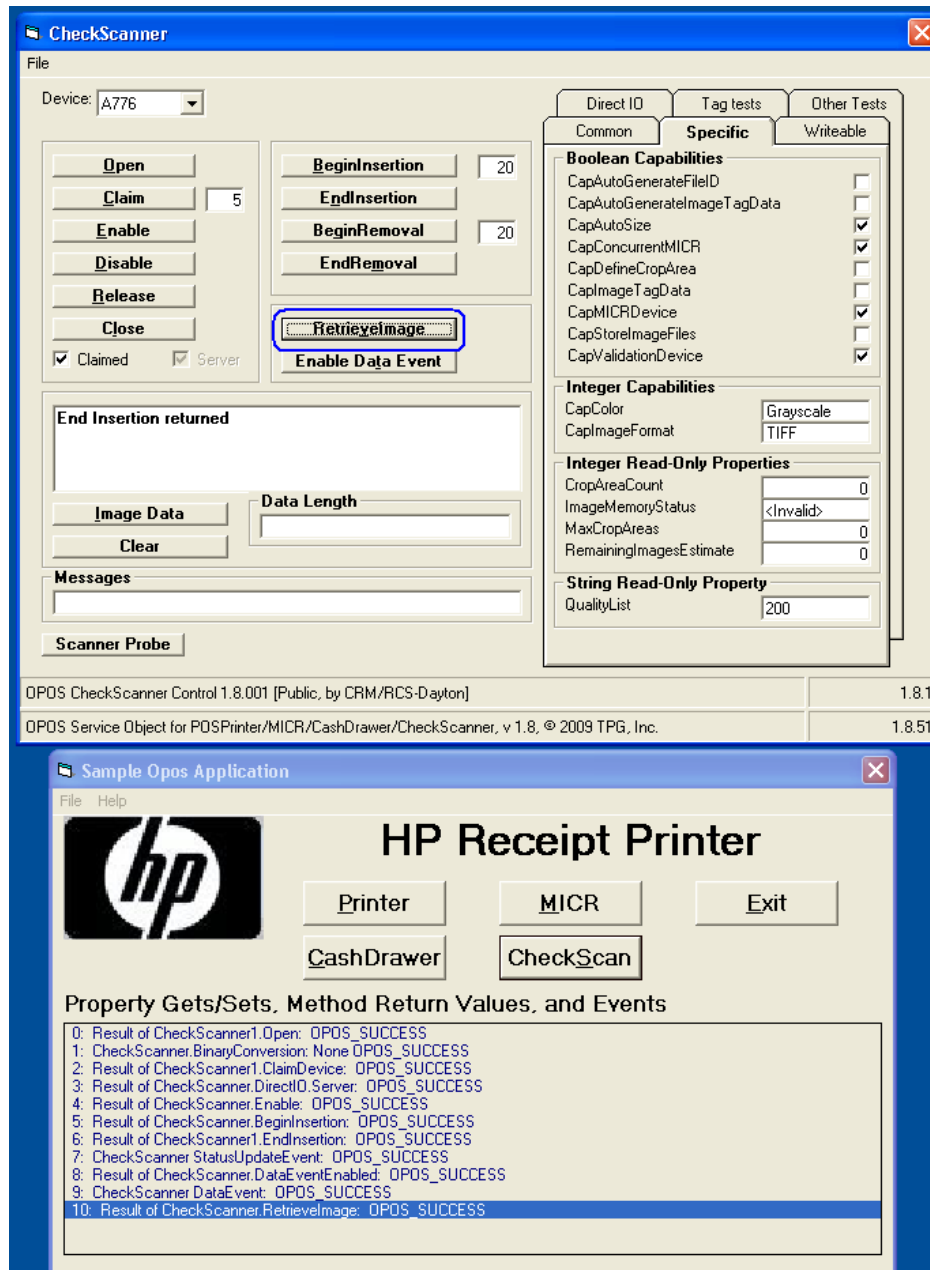
7. プリンターの前面に表を上にして小切手を挿入し、前面のランプが点灯したことを確認します。
8. [EndInsertion]ボタンをクリックします。この時点で、プリンターで「CheckScan」処理が実行されます。小切手が前面から出てきた後、プリンターの下部に返されます。



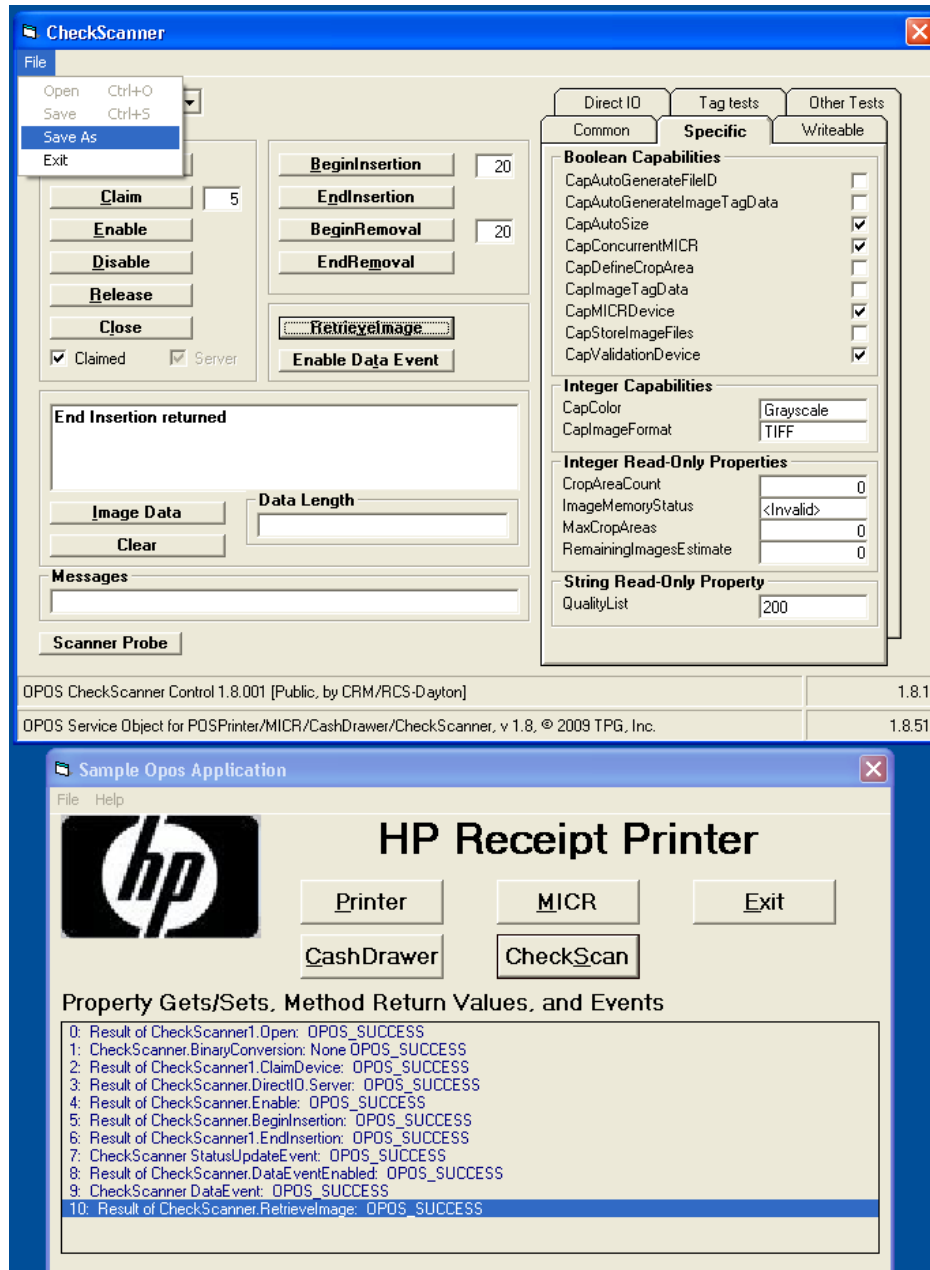
9. [Enable Data Event]ボタンをクリックします。

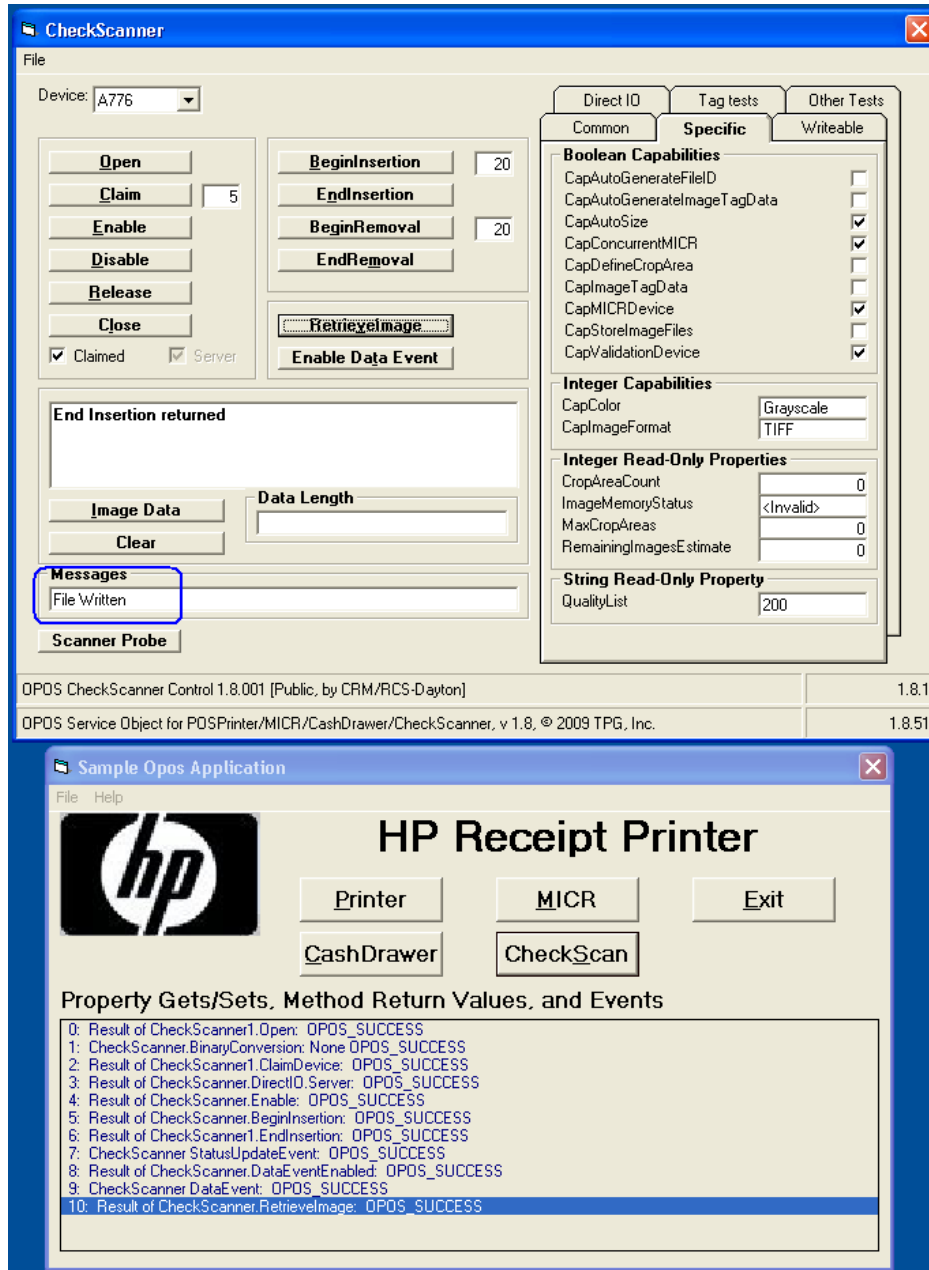


10. [RetrievalImage]ボタンをクリックします。



11. [File]→[Save As]の順にクリックして、取得した画像を保存します。「TIF」拡張子を付けてファイルを保存します。ファイルが保存されると、メッセージボックスに「File Written (ファイルが書き込まれました)」というメッセージが表示されます。

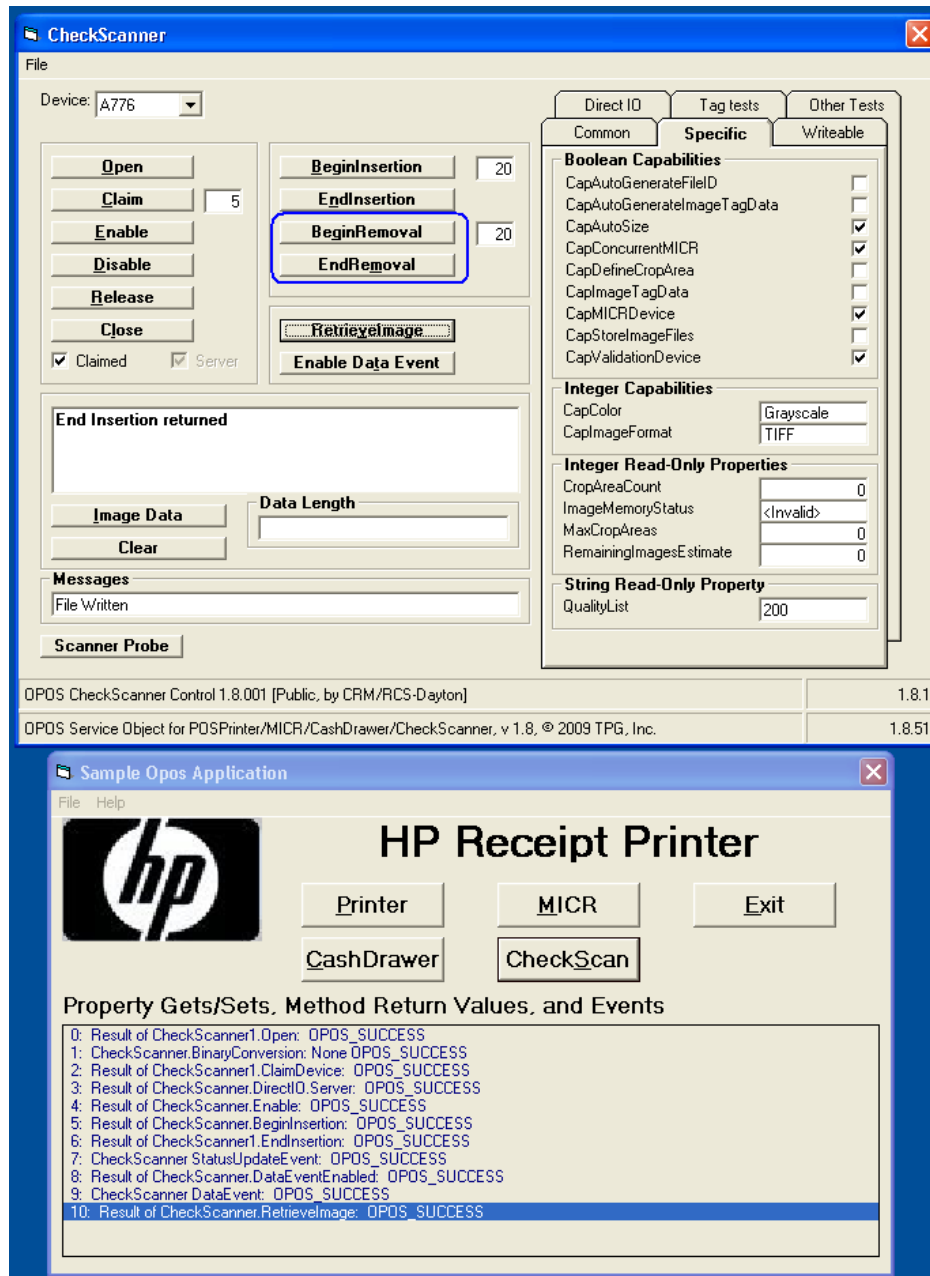




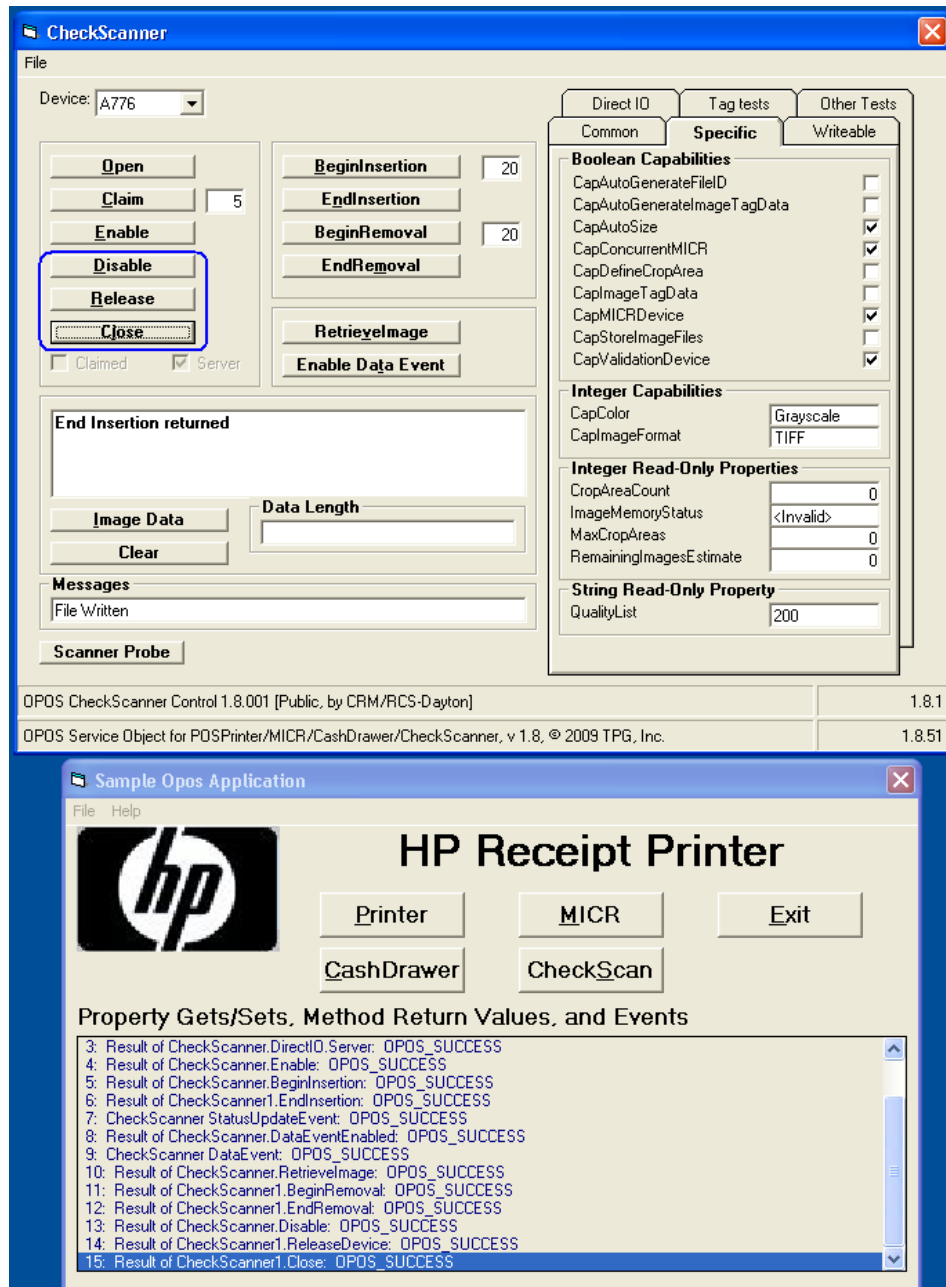


12. [BeginRemoval]ボタンをクリックします。

13. [EndRemoval]ボタンをクリックします。



14. [Disable]（無効にする）→[Release]（リリース）→[Close]（閉じる）の順にボタンをクリックして、[CheckScan]を閉じます。



15. フォームを閉じます。

## 6.5.13 レシートプリンターのキャッシュドロアー信号

### 6.5.13.1 キャッシュドロアー信号

キャッシュ ドロアーをプリンターの背面に接続するときは、RJ12または同様のコネクタ（小さい方のコネクタ）を使用します。HPキャッシュ ドロアーでは、このコネクタを通じてプリンターから「HIGH」（高）信号が送られ、キャッシュ ドロアーが開きます。高信号は、HP OPOSレシートプリンター ドライバーのインストール時の初期設定です。

ただし、反対の「LOW」（低）信号を使用して開けられるキャッシュ ドロアーもあります。その場合、ユーザーは、キャッシュ ドロアーが正しく開くために、低信号も送れるようにドライバーを設定する必要があります（手順については後述します）。ユーザーが両方の設定を試みてもキャッシュ ドロアーが開かない場合は、別のキャッシュ ドロアー ケーブルが必要になることがあります。低信号および高信号の設定については、キャッシュ ドロアー ベンダーに問い合わせるか、キャッシュ ドロアー ベンダーの説明書を参照してください。

### 6.5.13.2 キャッシュドロアー信号の変更

キャッシュ ドロアー信号オプションの変更に必要な以下のレジストリ ファイルは、HPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\Cash Drawer Signal）に含まれています。

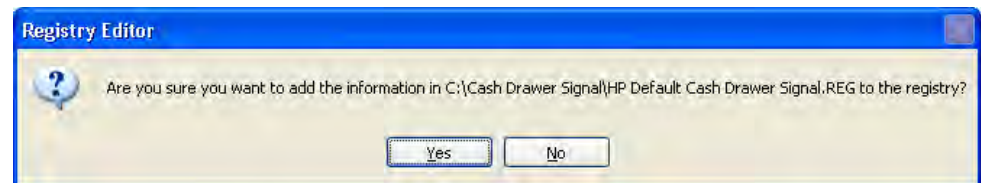
- 「HP Default Cash Drawer Signal.REG」

キャッシュ ドロアー レジストリ値を、OPOSドライバーのインストール時の初期設定値であり、HPのキャッシュ ドロアーをHPレシート プリンターに接続するときに必要な値である「HIGH」（高）に変更します。

- 「HP Non-Default Cash Drawer Signal.REG」

HP製以外のキャッシュ ドロアーが初期設定の「HIGH」オプションで開かない場合に、キャッシュ ドロアー レジストリ値を「LOW」（低）に変更します。

これらの変更を行うには、管理者権限が必要です。ファイルをダブルクリックすると、変更を行うかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。



[Yes]（はい）をクリックすると、変更が行われたことを示す確認画面が表示されます。

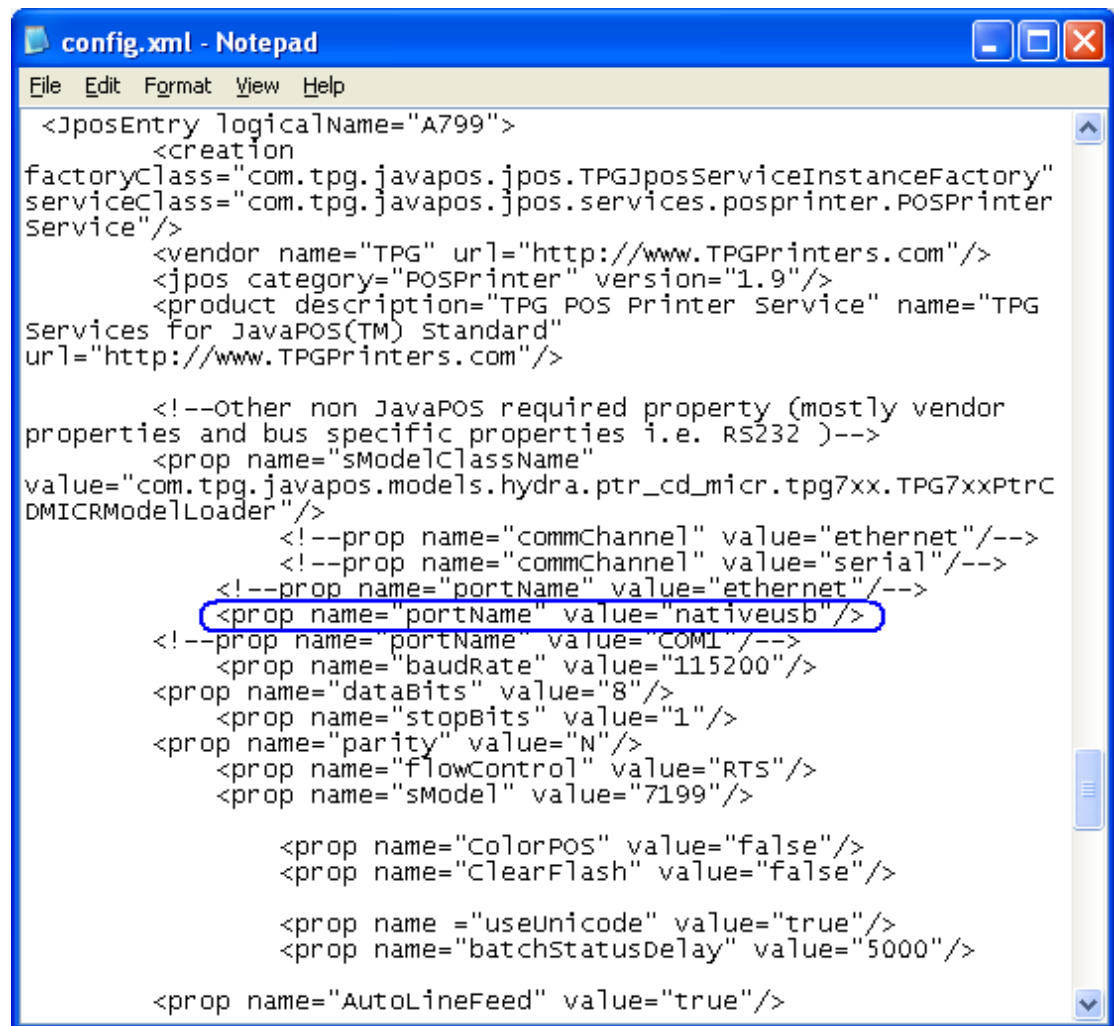


信号キャッシュをテストする方法については、このガイドのキャッシュ ドロアーのテストに関するセクション（[キャッシュドロアー用のOPOSテストアプレット](#)）を参照してください。

## 6.5.14 レシートプリンター用のJPOSドライバー：シリアルポート設定

シリアル接続のレシートプリンターを使用する場合は、プリンターが接続されているCOM（シリアル）ポートが反映されるようにCONFIG.XMLのエントリを編集する必要があります。HPが提供するCONFIG.XMLは、「.¥Receipt Printer JPOS¥JPOS¥jpos¥res」フォルダーにあり、この場所はPOSアプリケーションによって異なることがほとんどです。構成設定の変更については、管理者またはPOSアプリケーションの提供元に問い合わせてください。

HPが提供する初期設定のCONFIG.XMLファイルを以下に示します。



```
<JposEntry logicalName="A799">
  <creation
factoryClass="com.tpg.javapos.jpos.TPGJposserviceInstanceFactory"
serviceClass="com.tpg.javapos.jpos.services.posprinter.POSPrinter
Service"/>
  <vendor name="TPG" url="http://www.TPGPrinters.com"/>
  <jpos category="POSPrinter" version="1.9"/>
  <product description="TPG POS Printer Service" name="TPG
Services for JavaPOS(TM) standard"
url="http://www.TPGPrinters.com"/>

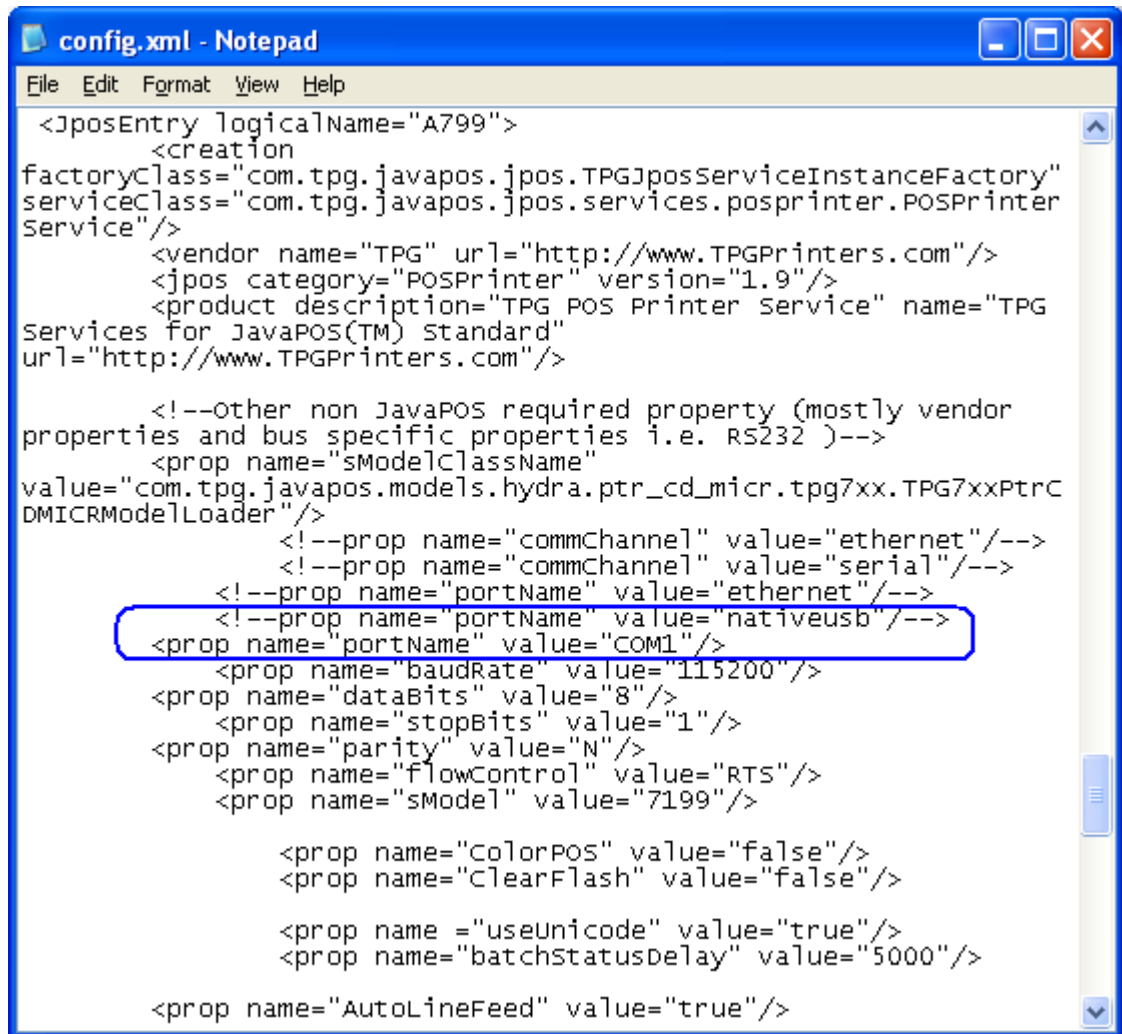
  <!--other non JavaPOS required property (mostly vendor
properties and bus specific properties i.e. RS232 )-->
  <prop name="sModelClassName"
value="com.tpg.javapos.models.hydra.ptr_cd_micr.tpg7xx.TPG7xxPtrC
DMICRModelLoader"/>
  <!--prop name="commChannel" value="ethernet"/-->
  <!--prop name="commChannel" value="serial"/-->
  <!--prop name="portName" value="ethernet"/-->
  <prop name="portName" value="nativeusb"/>
  <!--prop name="portName" value="COM1"/-->
  <prop name="baudRate" value="115200"/>
  <prop name="dataBits" value="8"/>
  <prop name="stopBits" value="1"/>
  <prop name="parity" value="N"/>
  <prop name="flowControl" value="RTS"/>
  <prop name="sModel" value="7199"/>

  <prop name="ColorPOS" value="false"/>
  <prop name="ClearFlash" value="false"/>

  <prop name="useUnicode" value="true"/>
  <prop name="batchStatusDelay" value="5000"/>

  <prop name="AutoLineFeed" value="true"/>
</JposEntry>
```

プリンターがCOM1に接続されている場合は、USBのエントリをコメント扱いにし、COMコネクタのエントリを有効にして、正しいCOMコネクタを入力します。以下に変更例を示します。



```
<jposEntry logicalName="A799">
  <creation
factoryClass="com.tpg.javapos.jpos.TPGJposServiceInstanceFactory"
serviceClass="com.tpg.javapos.jpos.services.posprinter.POSPrinter
Service"/>
  <vendor name="TPG" url="http://www.TPGPrinters.com"/>
  <jpos category="POSPrinter" version="1.9"/>
  <product description="TPG POS Printer Service" name="TPG
Services for JavaPOS(TM) Standard"
url="http://www.TPGPrinters.com"/>

  <!--Other non JavaPOS required property (mostly vendor
properties and bus specific properties i.e. RS232 )-->
  <prop name="sModelClassName"
value="com.tpg.javapos.models.hydra.ptr_cd_micr.tpg7xx.TPG7xxPtrc
DMICRModelLoader"/>
  <!--prop name="commChannel" value="ethernet"/-->
  <!--prop name="commChannel" value="serial"/-->
  <!--prop name="portName" value="ethernet"/-->
  <prop name="portName" value="COM1"/>
  <prop name="baudRate" value="115200"/>
  <prop name="dataBits" value="8"/>
  <prop name="stopBits" value="1"/>
  <prop name="parity" value="N"/>
  <prop name="flowControl" value="RTS"/>
  <prop name="sModel" value="7199"/>

  <prop name="ColorPOS" value="false"/>
  <prop name="ClearFlash" value="false"/>

  <prop name="useUnicode" value="true"/>
  <prop name="batchStatusDelay" value="5000"/>

  <prop name="AutoLineFeed" value="true"/>
```

注： その他の通信パラメーター（ボーレート、データ ビットなど）がすべてWindowsの設定およびプリンターと一致していることを確認してください。

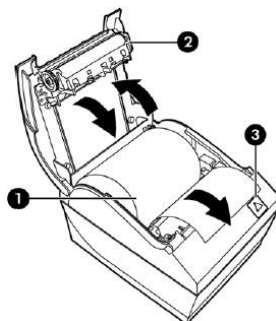
## 6.5.15 レシートプリンター用のJPOSドライバー：Ethernet

Ethernet接続のレシートプリンターを使用する場合は、プリンターが接続されているEthernetコネクタおよびIPアドレスが反映されるようにCONFIG.XMLのエントリを編集する必要があります。HPが提供するCONFIG.XMLは、「.¥Receipt Printer JPOS¥JPOS¥jpos¥res」フォルダーにあり、この場所はPOSアプリケーションによって異なることがほとんどです。構成設定の変更については、管理者またはPOSアプリケーションの提供元に問い合わせてください。

1. プリンターをネットワークに接続して、プリンターの電源を入れます。
2. 診断フォームの印刷を実行し、印刷した診断フォームでプリンターのIPアドレスを確認します。

診断フォームを取得するための手順

- a) 用紙がプリンターにセットされていることを確認します (1)。
- b) レシートカバーを開きます (2)。
- c) 給紙ボタンを押し続けます (3)。
- d) レシートカバーを閉じます (2)。



```
Comm. Interfaces
Port Idle Timeout : disabled
Interface - USB
RX Buffer Size : 4096
USB Driver Type : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
Interface - RS232
RX Buffer Size : 4096
Parameters
Baud Rate : 115200
Data Bits : 8
Stop Bit : 1
Parity : NONE
Flow Control : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
Interface - Bluetooth
Status : not available
Interface - Ethernet
Ethernet Type : Wired
Parameters
MAC Address : 00:E0:70:F0:21:7C
IP Address : 10.1.3.18
Net Mask : 255.255.252.0
Gateway : 10.1.0.1
Raw TCPIP Port : 9001
Loop Back Port : Disabled
Http Server Port : 80
DHCP : Enabled
Client ID : 00E070F0217C
Idle Timeout : Disabled
Keep Alive Pings : Disabled
```

注：初期設定のIPアドレスは192.0.0.192です。印刷した診断フォームにこのアドレスが記載されている場合、プリンターのIPアドレスは取得されていません。

3. 「Receipt Printer JPOS\JPOS\jpos\res」フォルダーにアクセスします。
4. メモ帳(またはテキスト エディター)を使用して、「CONFIG.XML」ファイルのA799セクションを変更します。以下の項目を変更する必要があります。
  - EthernetのPortNameの行のコメントを解除する必要があります。
    - 行頭にある「!--」(2本のダッシュ) および行末の方にある「--」(2本のダッシュ)を削除します。
  - 印刷した診断フォームに記載されているIPアドレスをCONFIG.XMLファイルに入力する必要があります。
    - 該当する行のコメントを外す必要もあります。行頭にある「!--」(2本のダッシュ) および行末の方にある「--」(2本のダッシュ)を削除します。
  - 印刷した診断フォームに記載されているポート番号をCONFIG.XMLファイルに入力する必要があります。
    - 該当する行のコメントを外す必要もあります。行頭にある「!--」(2本のダッシュ) および行末の方にある「--」(2本のダッシュ)を削除します。
  - ネイティブUSBのPortNameの行をコメント扱いにする必要があります。
    - CONFIG.XMLファイル内のこの行をコメント扱いにするには、行頭の「<」の後に「!--」(2本のダッシュ)を追加し、行末に「!--」(2本のダッシュ)を追加します。

Ethernetオプションが有効になっていることを示す、変更済みのCONFIG.XMLファイルを以下に示します。

```

config.xml - Notepad
File Edit Format View Help
<prop name="cdPolarity" value="normal"/>
</jposEntry>
<jposEntry logicalName="A799">
  <creation factoryClass="com.tpg.javapos.jpos.TPGJposServiceInstanceFactory"
  serviceClass="com.tpg.javapos.jpos.services.posprinter.POSPrinterService"/>
  <vendor name="TPG" url="http://www.TPGPrinters.com"/>
  <jpos category="POSPrinter" version="1.13"/>
  <product description="TPG POS Printer Service" name="TPG Services for JavaPOS(TM) Standard"
  url="http://www.TPGPrinters.com"/>
  <!--other non JavaPOS required property (mostly vendor properties and bus specific properties i.e. RS232 )-->
  <!--prop name="commChannel" value="ethernet"/-->
  <!--prop name="commChannel" value="serial"/-->
  <prop name="portName" value="ethernet"/>
  <prop name="IPAddress" value="10.1.3.18"/>
  <prop name="portNumber" value="9001"/>
  <!--prop name="portName" value="nativeusb"/-->
  <!--prop name="portName" value="COM1"/-->
  <prop name="baudRate" value="115200"/>
  <prop name="dataBits" value="8"/>
  <prop name="stopBits" value="1"/>
  <prop name="parity" value="N"/>
  <prop name="flowControl" value="RTS"/>
  <prop name="sModel" value="7199"/>
  <prop name="ColorPos" value="false"/>
  <prop name="ClearFlash" value="false"/>
  <prop name="useUnicode" value="false"/>
  <prop name="batchStatusDelay" value="5000"/>
  <prop name="AutoLineFeed" value="true"/>
  <prop name="asciBarCode" value="true"/>
  <!--prop name="LineFeedsB4Cut" value="[int desired number of lines] If value = 0 then normal operation." /-->
  <prop name="LineFeedsB4Cut" value="0"/>
  <prop name="IfAfterCut" value="false"/>
  <!--prop name="Code93Supress" value=" If value = 0 [Default value] will turn off this option." /-->
  <prop name="Code93ssSupress" value="0"/>
  <prop name="USBPortID" value="HP USB Receipt printer"/>
  <prop name="vendorID" value="1497"/>
  <prop name="productID" value="42901"/>
  <!-- Following lists the 2-byte Asian characters resident in the printer-->
  <!--prop name="tbCodePages" value="950"/-->
  <!--prop name="tbCodePages" value="949, 950"/-->
  <!--prop name="tbCodePages" value="932, 949, 950"/-->
  <prop name="tbCodePages" value="874, 932, 936, 949, 950"/>
  <prop name="tblargeSize" value="true"/>
</jposEntry>
<jposEntry logicalName="CashDrawer799-1">

```



```
config.xml - Notepad
File Edit Format View Help

<JposEntry logicalName="A799">
  <creationFactoryClass="com.tpg.javapos.jpos.TPGJposServiceInstanceFactory"
  serviceClass="com.tpg.javapos.models.hydra.ptr_cd_micr.tpg7xx.TPG7xxPtrCDMICRModelLoader"/>
  <vendor name="TPG" url="http://www.TPGPrinters.com"/>
  <jpos category="PosPrinter" version="1.13"/>
  <product description="TPG POS Printer Service" name="TPG Services for JavaPOS(TM) Standard"
  url="http://www.TPGPrinters.com"/>

  <!--other non JavaPOS required property (mostly vendor properties and bus specific properties i.e. RS232)-->
  <prop name="sModelClassName"
  value="com.tpg.javapos.models.hydra.ptr_cd_micr.tpg7xx.TPG7xxPtrCDMICRModelLoader"/>
  <!--prop name="commChannel" value="ethernet"/-->
  <!--prop name="commChannel" value="serial"/-->
  <prop name="portName" value="ethernet"/>
  <prop name="IPAddress" value="10.1.3.1"/>
  <prop name="portNumber" value="9001"/>
  <!--prop name="portName" value="nativeusb"/-->
  <!--prop name="portName" value="COM1"/-->
  <prop name="baudRate" value="115200"/>
  <prop name="dataBits" value="8"/>
  <prop name="stopBits" value="1"/>
  <prop name="parity" value="N"/>
  <prop name="flowControl" value="RTS"/>
  <prop name="sModel" value="7199"/>

  <prop name="ColorPOS" value="false"/>
  <prop name="ClearFlash" value="false"/>

  <prop name="useUnicode" value="false"/>
  <prop name="batchStatusDelay" value="5000"/>

  <prop name="AutoLineFeed" value="true"/>
  <prop name="asciiBarcode" value="true"/>

  <!--prop name="LineFeedsB4cut" value="[int desired number of lines] If value = 0 then normal operation."/-->
  <prop name="LineFeedsB4cut" value="0"/>
  <prop name="IfAftercut" value="false"/>

  <!--prop name="Code93Supress" value=" If value = 0 [Default value] will turn off this option."/-->
  <prop name="Code93ssSupress" value="0"/>

```



## 6.5.16 レシートプリンター用のJPOSドライバー

JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer）に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

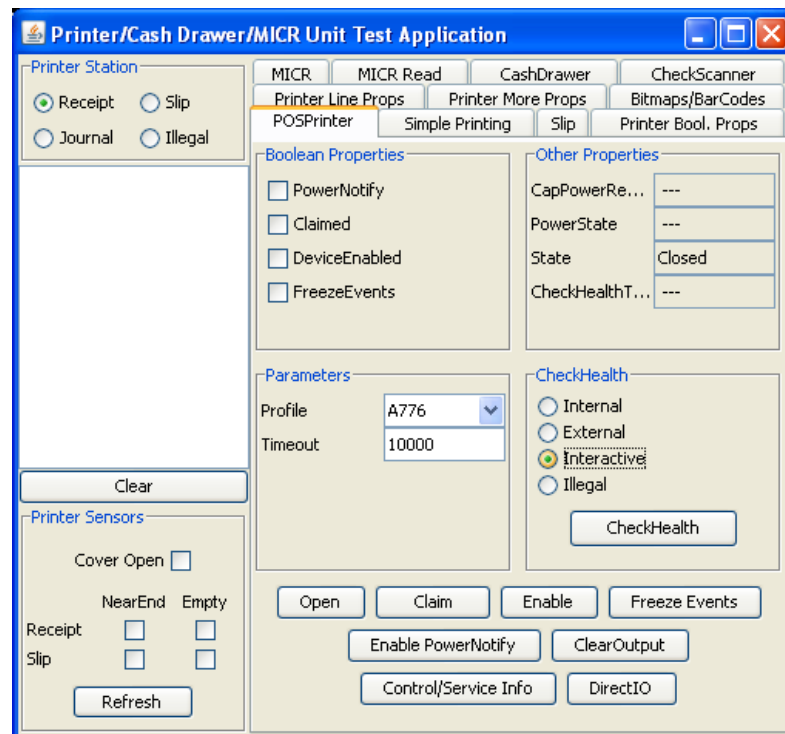
1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**（プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション）を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. **[Profile]**（プロファイル）ドロップダウン ボックスでプリンターのモデルを選択します。
3. **[Open]**（開く） ボタンをクリックします。
4. **[Claim]**（要求） ボタンをクリックします。
5. **[Enable]**（有効にする） ボタンをクリックします。
6. **[Simple Printing]**（簡易印刷） タブをクリックします。
7. 印刷するテキストを[Print Data]（印刷データ） 領域に入力します。
8. **[PrintNormal]**（通常印刷） ボタンをクリックします。レシート プリンターでテキストが印刷されます。

注： テキストにキャリッジ リターン（CR）を追加しなかった場合は、テキストを確認するため、プリンターのラインフィード ボタンを押す必要があります。

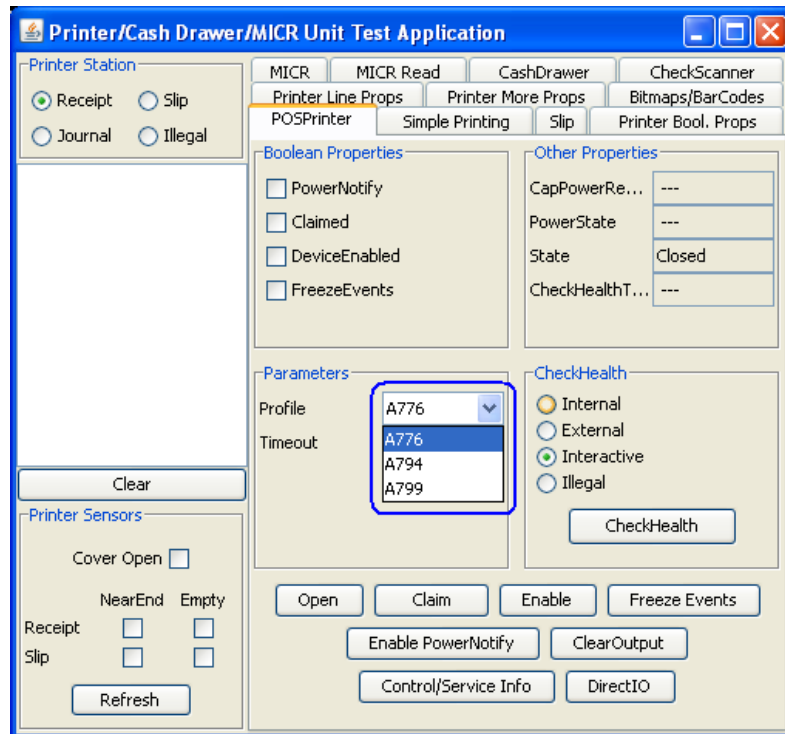
### 詳しい手順

1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.

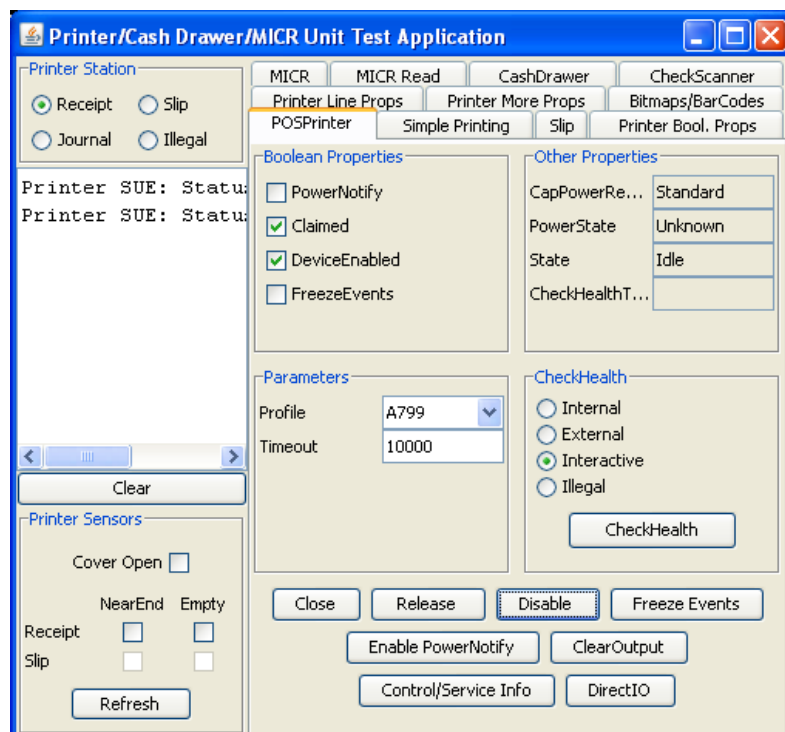
数秒後、JPOSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



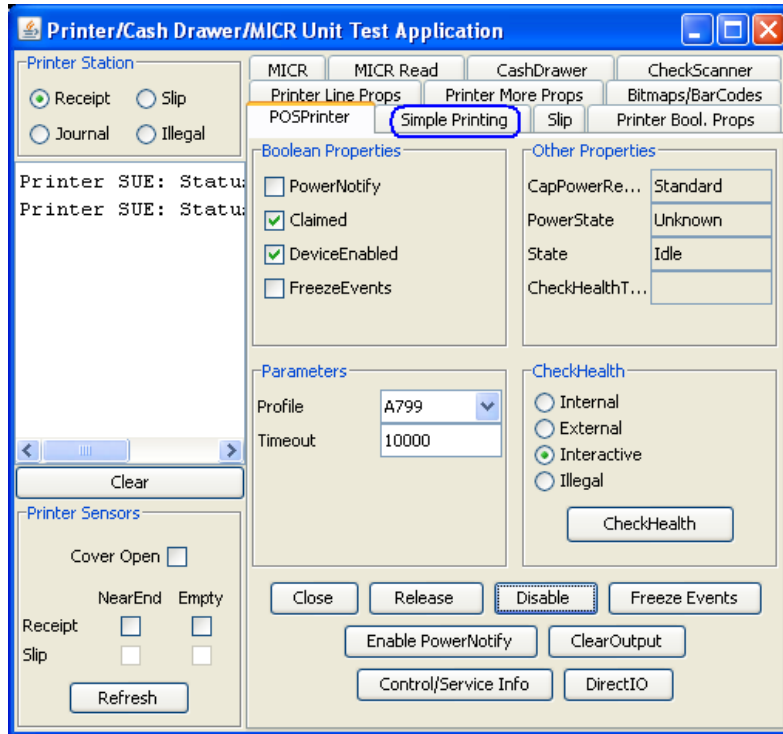
- [Profile]ドロップダウン ボックスでプリンターのモデルを選択します。



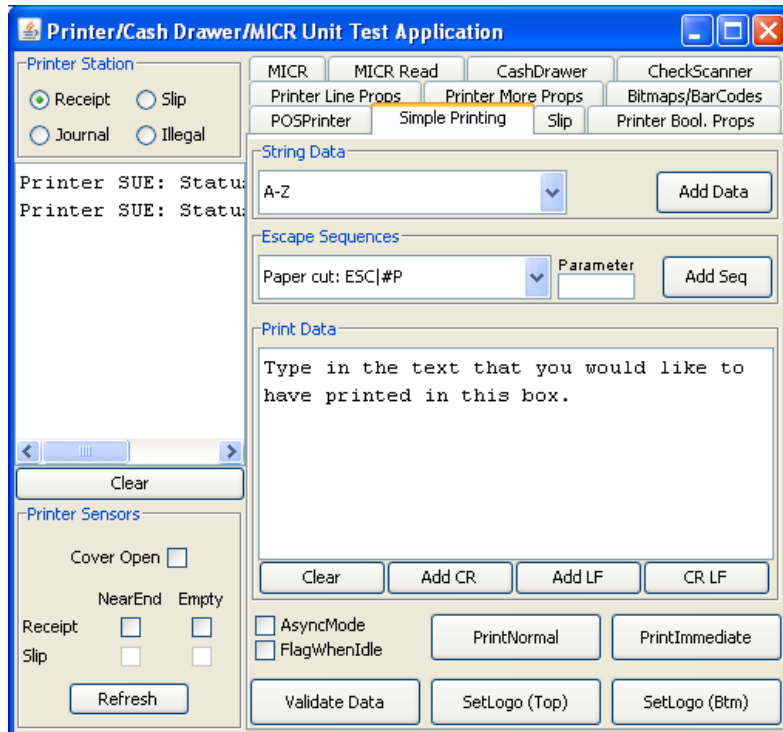
- [Open]ボタンをクリックします。
- [Claim]ボタンをクリックします。
- [Enable]ボタンをクリックします。3つのボタンをすべてクリックすると、画面は以下のようになります。



6. [Simple Printing]タブをクリックします。

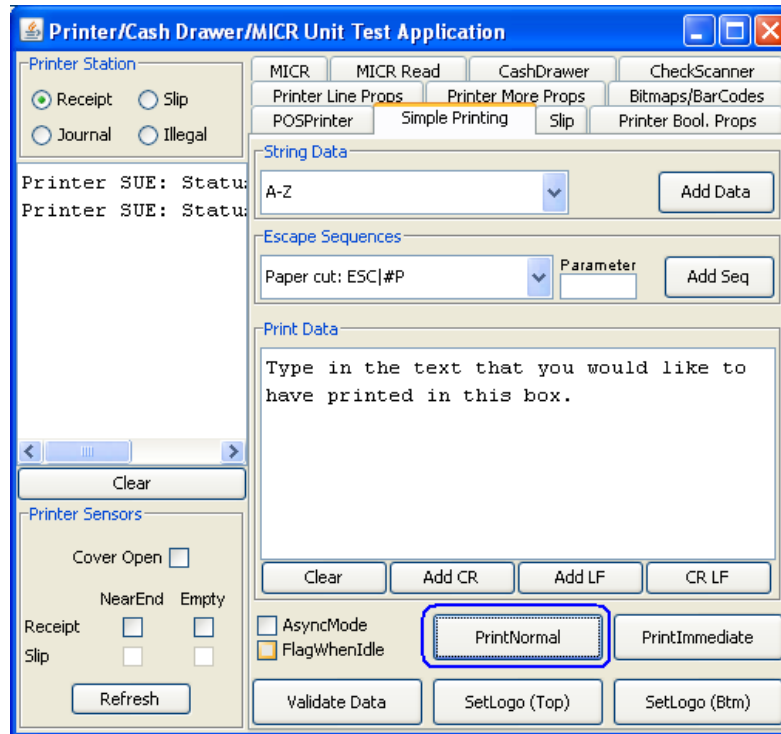


7. 印刷するテキストを[Print Data]領域に入力します。



8. [PrintNormal]ボタンをクリックします。レシートプリンターでテキストが印刷されます。

注： テキストにキャリッジ リターン (CR) を追加しなかった場合は、テキストを確認するため、プリンターのラインフィード ボタンを押す必要があります。



## 6.5.17 レシートプリンター用のJPOSドライバー：CheckScanner

注：小切手スキャナー機能は、イメージング機能を搭載したHPハイブリッドプリンターでのみ使用できます。イメージング機能を搭載したHPハイブリッドプリンターモデルの画像を以下に示します。



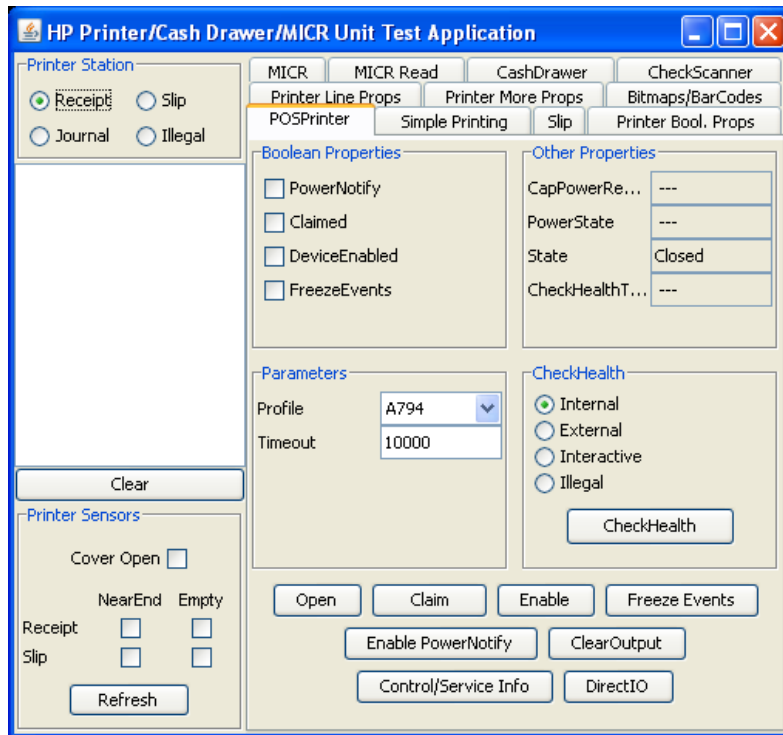
JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer）に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

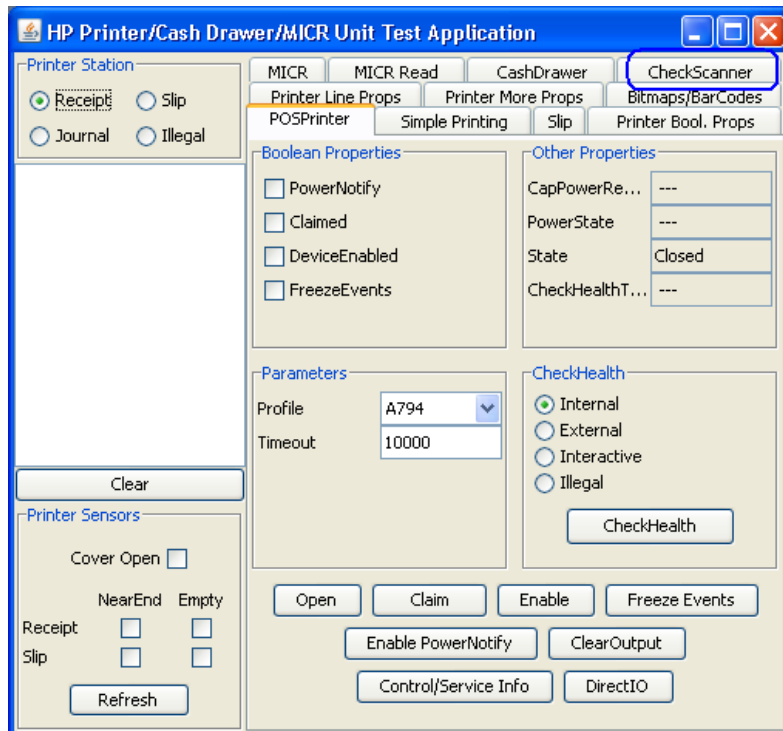
1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**（プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション）を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. **[CheckScanner]**タブをクリックします。
3. **[Open]**（開く）ボタンをクリックします。
4. **[Claim]**（要求）ボタンをクリックします。
5. **[Enable]**（有効にする）ボタンをクリックします。
6. このテストで取得する画像が印刷された用紙をプリンターの前面に挿入し、ランプが点灯したことを確認します。用紙は表を上にしてプリンターの差し込み口に挿入してください。
7. 左側の**[TransactionPrint]**（トランザクション印刷）ボックスにある**[Begin]**（開始）ボタンをクリックします。
8. 左側の**[TransactionPrint]**ボックスにある**[End]**（終了）ボタンをクリックします。プリンターから音がして、用紙がイメージャーに通されます。
9. **[Data Events Enabled]**（データ イベント有効）チェックボックスにチェックを入れます。
10. **[RetrievalImage]**（画像の取得）ボタンをクリックします。ボタンをクリックすると、ステータスが更新され、画像に関するいくつかの情報が表示されます。
11. スキャンされた画像を表示するには、**[DisplayImage]**（画像の表示）ボタンをクリックします。
12. アプリケーションを終了するには、**[Disable]**（無効にする）→**[Release]**（リリース）→**[Close]**（閉じる）の順にクリックしてプリンターを閉じ、**[X]**をクリックしてアプリケーションを閉じます。
13. 手順7で挿入した用紙は、プリンターのイメージャー部から引き抜いて取り除くことができます。用紙を引き抜くときに、少し力を加える必要があります。

## 詳しい手順

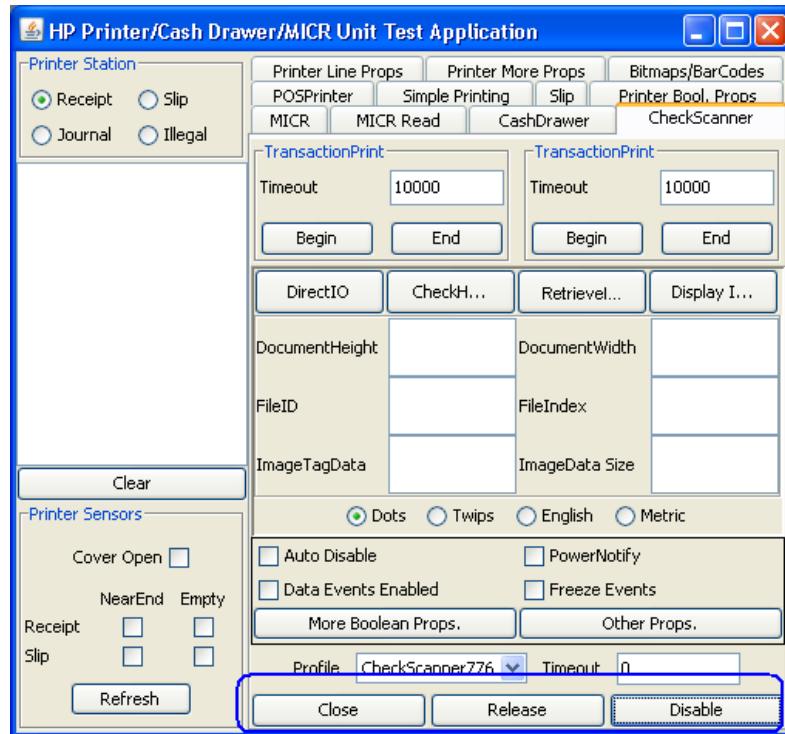
1. [Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPoS POS Printer\HPJPoSPrinter.bat.
2. 数秒後、JPoSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



3. [CheckScanner]タブをクリックします。

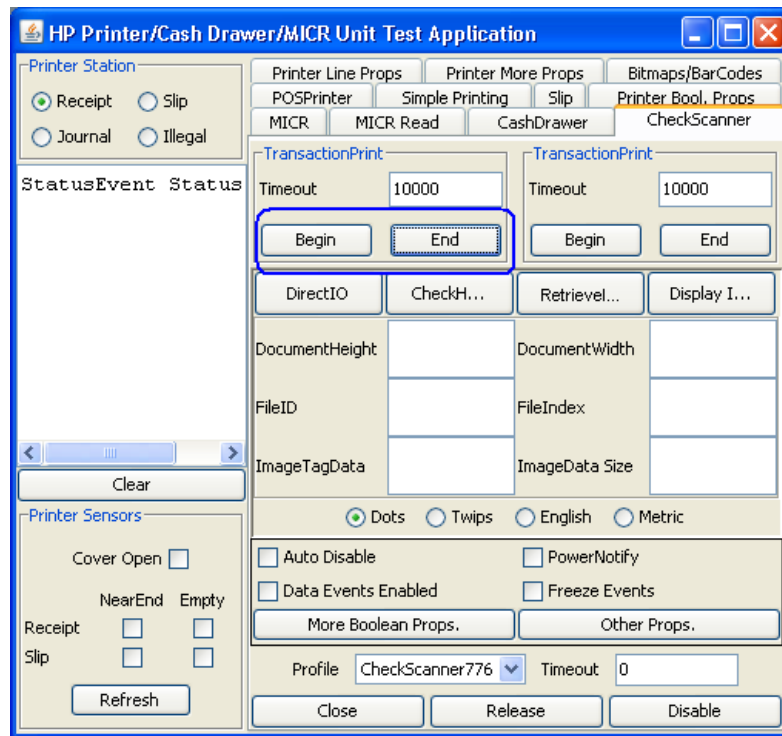


4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Claim]ボタンをクリックします。
6. [Enable]ボタンをクリックします。3つのボタンをすべてクリックすると、画面は以下のようになります。

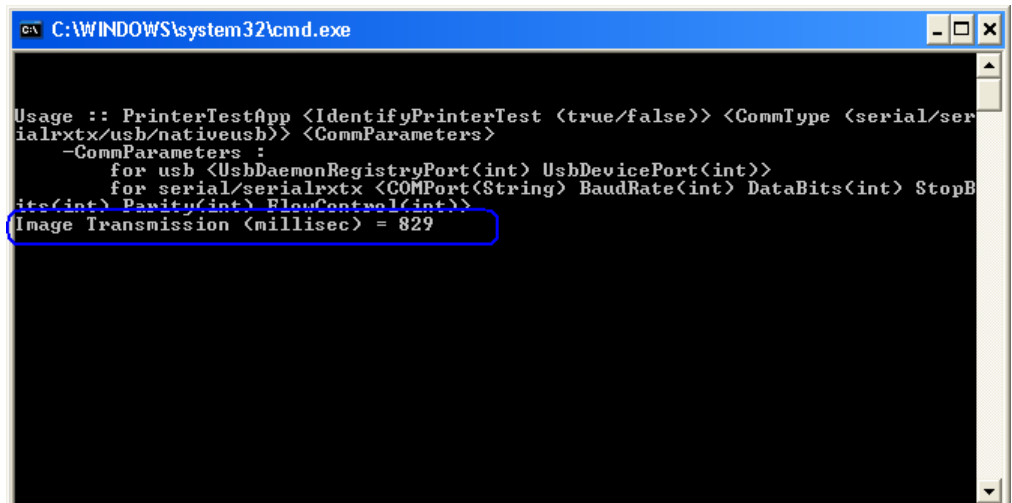


7. このテストで取得する画像が印刷された用紙をプリンターの前面に挿入し、ランプが点灯したことを確認します。用紙は表を上にしてプリンターの差し込み口に挿入してください。左側の [TransactionPrint]ボックスにある[Begin]ボタンをクリックします。

8. 左側の[TransactionPrint]ボックスにある[End]ボタンをクリックします。プリンターから音がして、用紙がイメージャーに通されます。数秒後に、ステータスボックスにステータスが表示されます。



表示されるコマンド プロンプトのウィンドウでは、画像の転送にかかった時間が表示されます。表示例を次に示します（時間は状況によって異なります）。

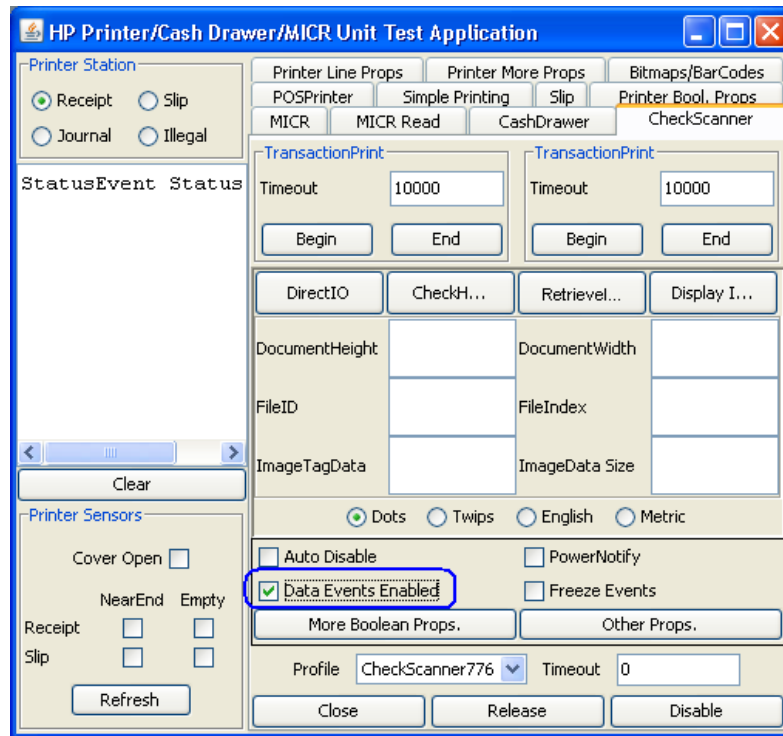
The image shows a Windows Command Prompt window titled "C:\WINDOWS\system32\cmd.exe". The window contains the following text:

```
Usage :: PrinterTestApp <IdentifyPrinterTest <true/false>> <CommType <serial/serialrxtx/usb/nativeusb>> <CommParameters>
-CommParameters :
  for usb <UsbDaemonRegistryPort(int) UsbDevicePort(int)>
  for serial/serialrxtx <COMPort(String) BaudRate(int) DataBits(int) StopBits(int) Parity(int) FlowControl(int)>
Image Transmission (millisec) = 829
```

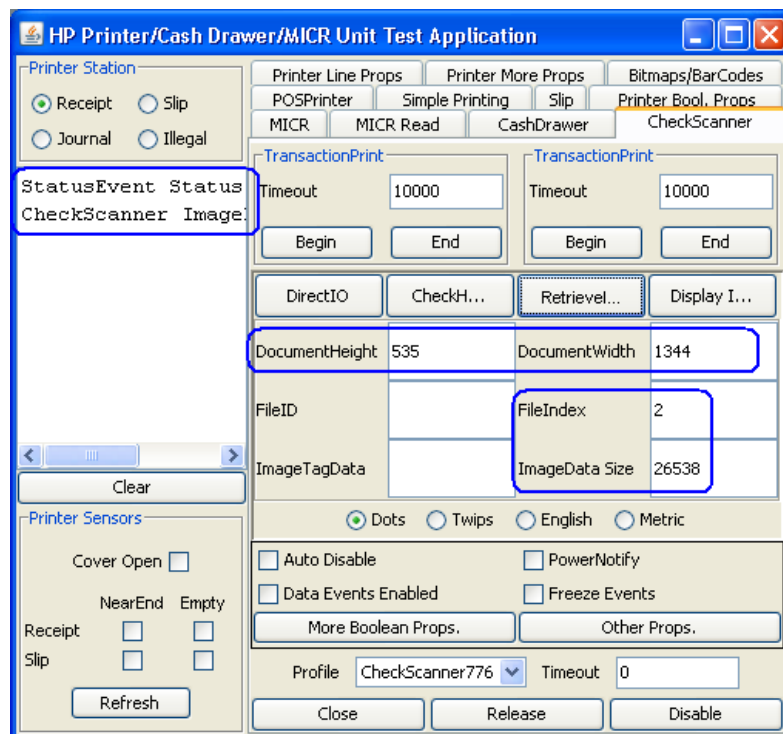
The line "Image Transmission (millisec) = 829" is highlighted with a red rectangular box.



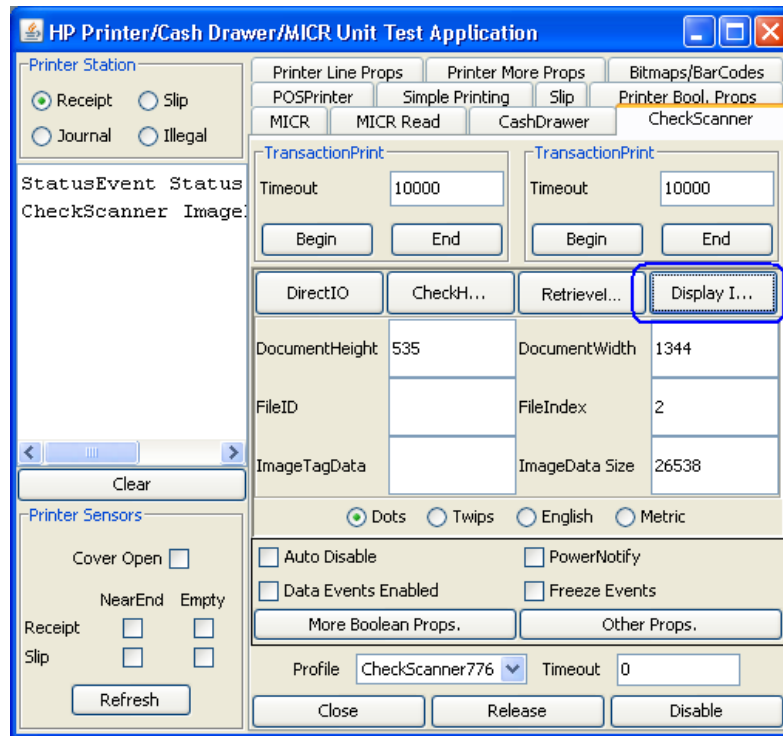
9. [Data Events Enabled]チェックボックスにチェックを入れます。



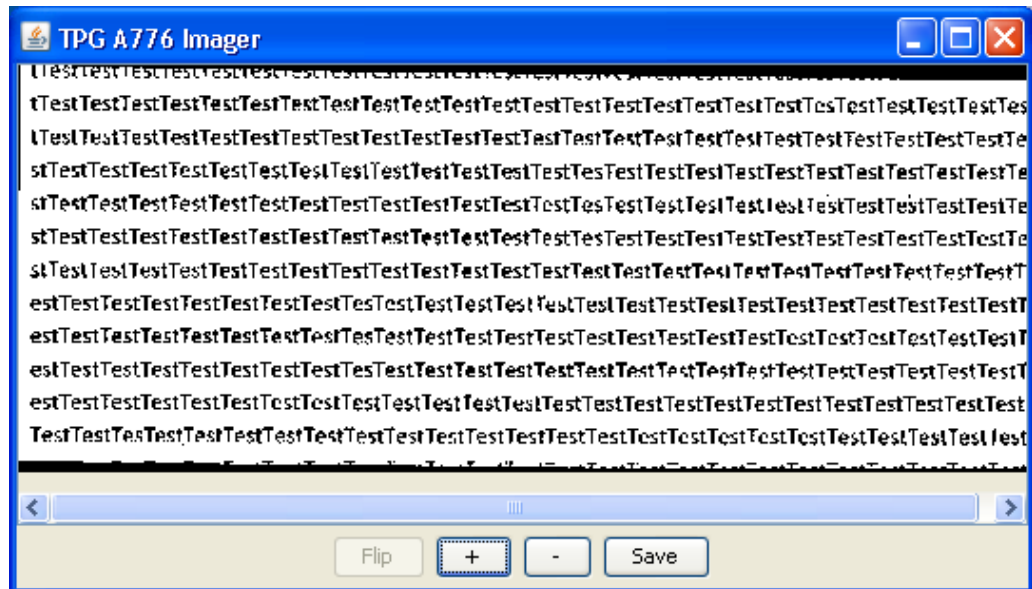
10. [RetrievalImage]ボタンをクリックします。ボタンをクリックすると、ステータスが更新され、画像に関するいくつかの情報が表示されます。



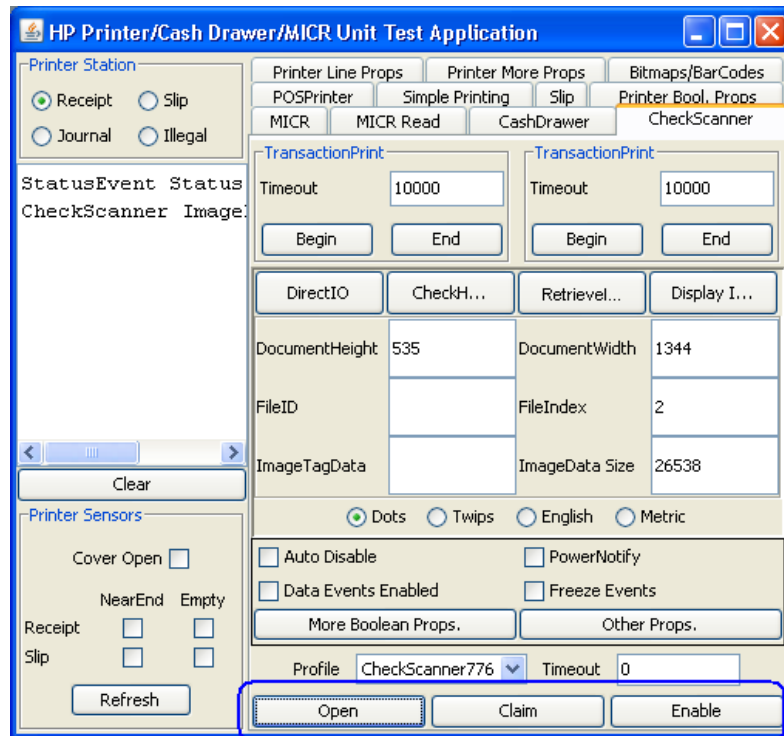
11. スキャンされた画像を表示するには、[DisplayImage]ボタンをクリックします。



[DisplayImage]ボタンをクリックすると、別のボックスに画像が表示されます。必要に応じて、この画像を保存できます。



12. アプリケーションを終了するには、[Disable]→[Release]→[Close]の順にクリックしてプリンターを閉じ、[X]をクリックしてアプリケーションを閉じます。



13. 手順7で挿入した用紙は、プリンターのイメージャー部から引き抜いて取り除くことができます。用紙を引き抜くときに、少し力を加える必要があります。

## 6.5.18 レシートプリンター用のJPOSドライバー：MICR

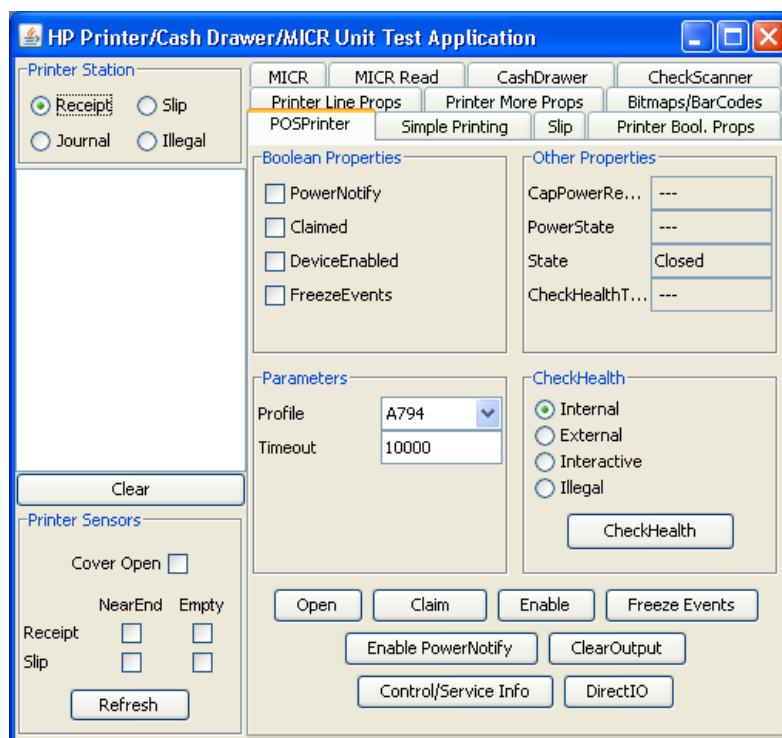
JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer）に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

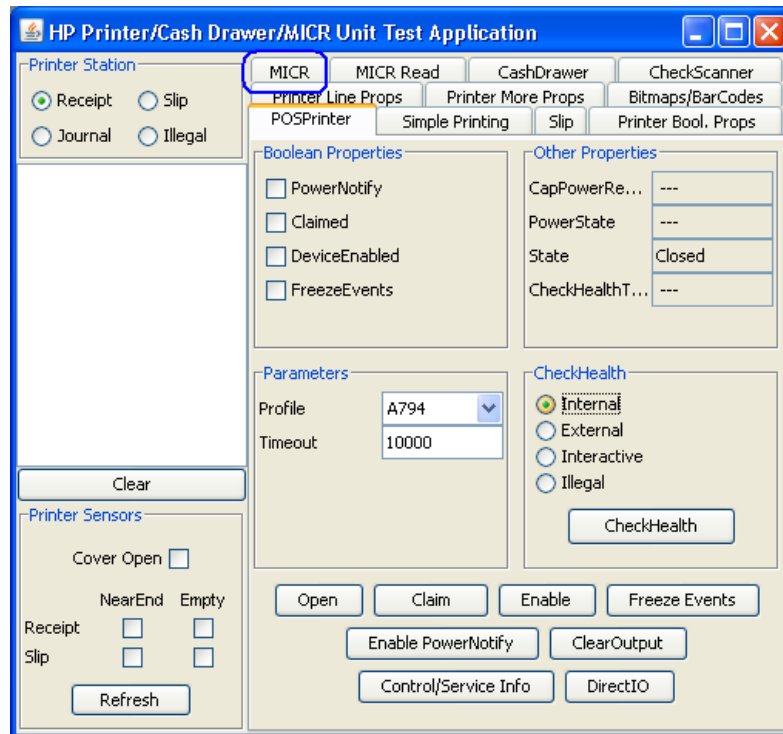
1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**（プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション）を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. **[MICR]**タブをクリックします。
3. **[Open]**（開く）ボタンをクリックします。
4. **[Claim]**（要求）ボタンをクリックします。
5. **[Enable]**（有効にする）ボタンをクリックします。
6. **[MICR Read]**（MICRの読み取り）タブをクリックします。
7. MICRに表を下にして小切手を挿入し、ランプが点灯したことを確認します。
8. **[Enable Data Event]**（データ イベントを有効にする）ボタンをクリックします。
9. **[Insertion]**（挿入）ボックスにある**[Begin]**（開始）ボタンをクリックします。
10. **[Insertion]**ボックスにある**[End]**（終了）ボタンをクリックします。
11. アプリケーションを終了します（デバイスを閉じて解放してください）。
12. 手順7で挿入した用紙は、プリンターのイメージャー部から引き抜いて取り除くことができます。用紙を引き抜くときに、少し力を加える必要があります。

### 詳しい手順

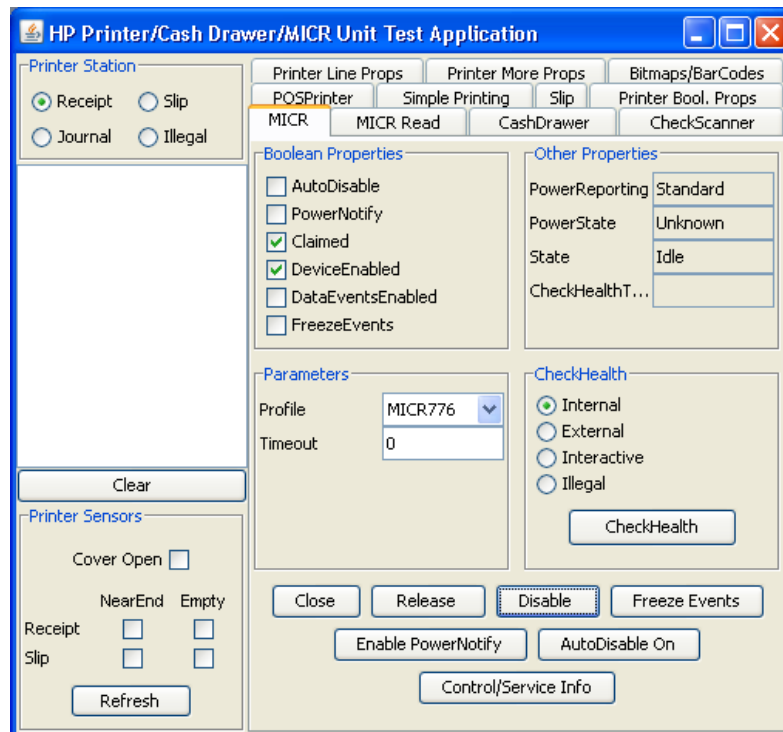
1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. 数秒後、JPOSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



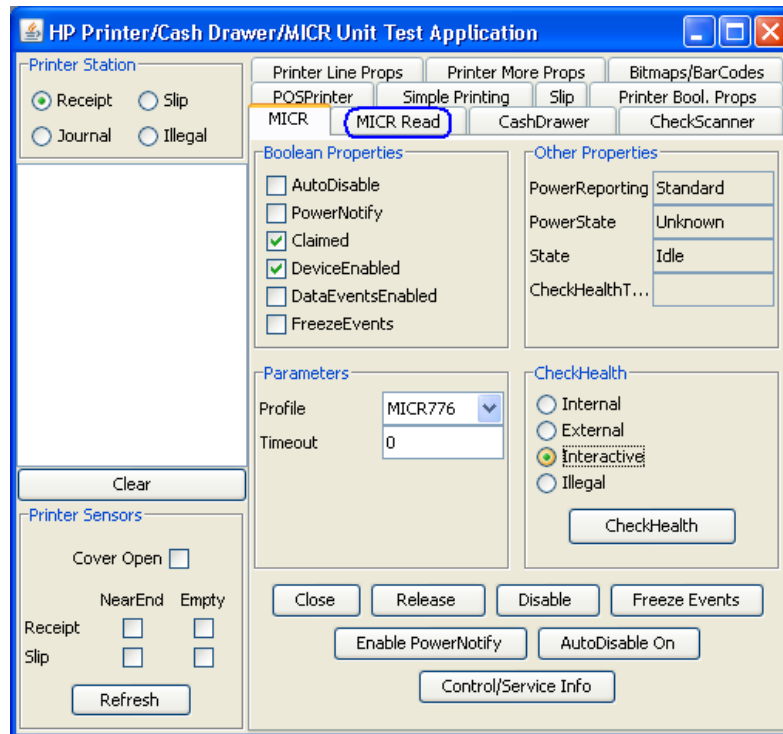
3. [MICR]タブをクリックします。



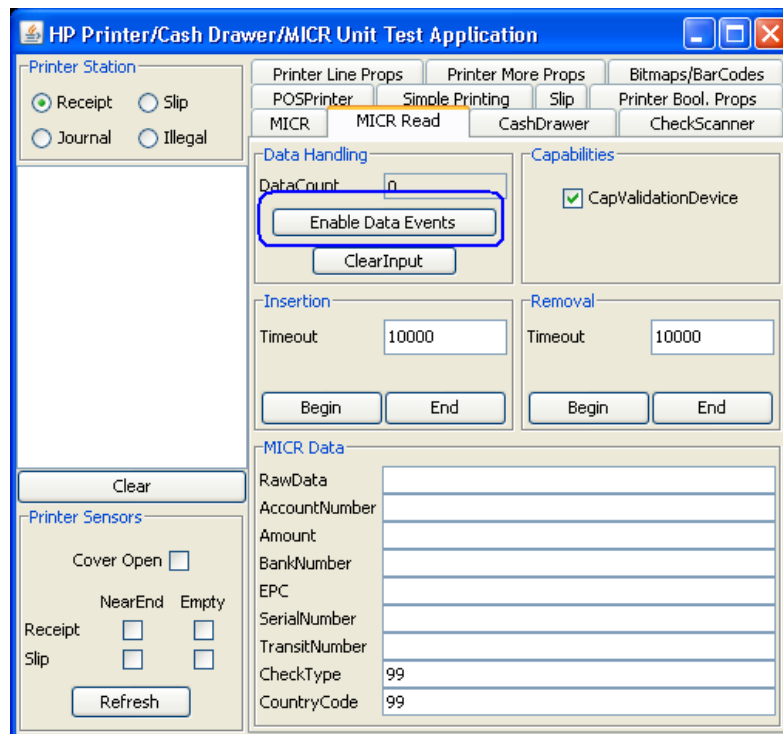
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Claim]ボタンをクリックします。
6. [Enable]ボタンをクリックします。3つのボタンをすべてクリックすると、画面は以下ようになります。



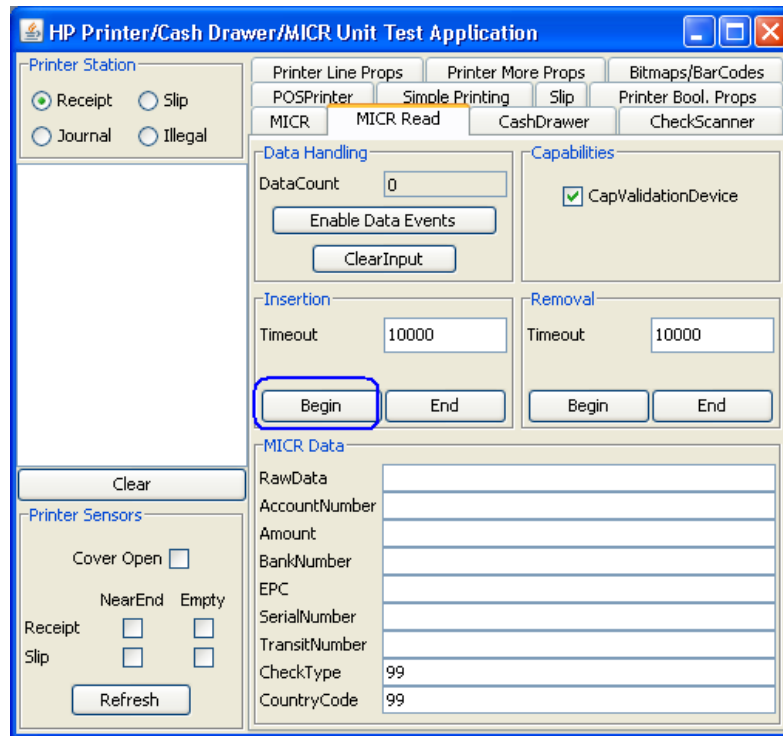
7. [MICR Read]タブをクリックします。



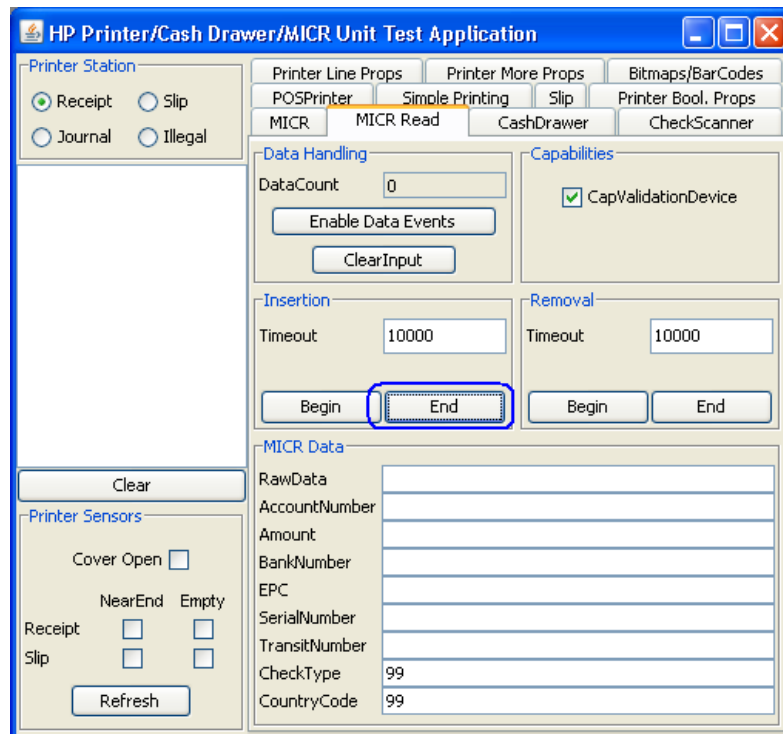
8. MICRに表を下にして小切手を挿入し、ランプが点灯したことを確認します。
9. [Enable Data Event]ボタンをクリックします。



10. [Insertion]ボックスにある[Begin]ボタンをクリックします。

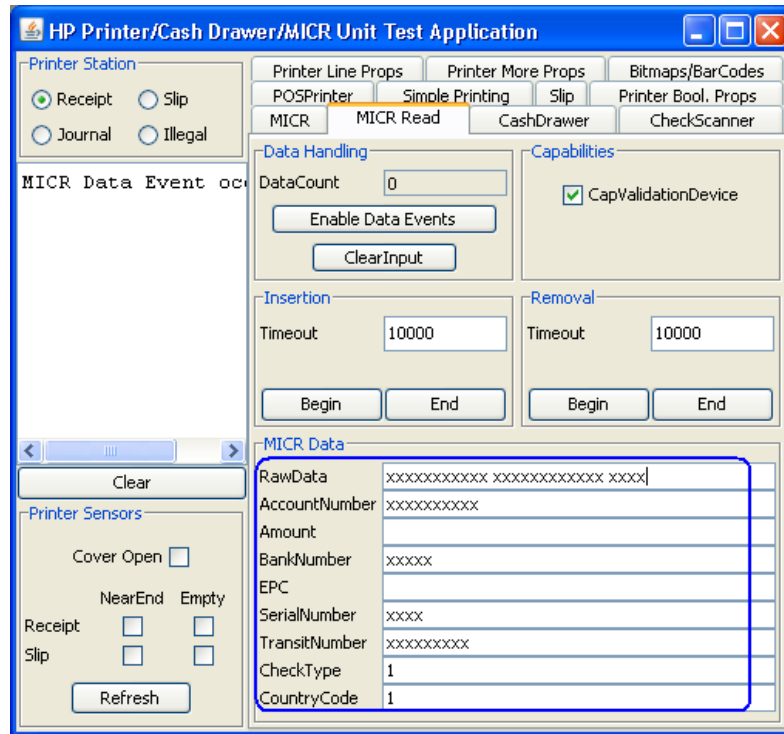


11. [Insertion]ボックスにある[End]ボタンをクリックします。

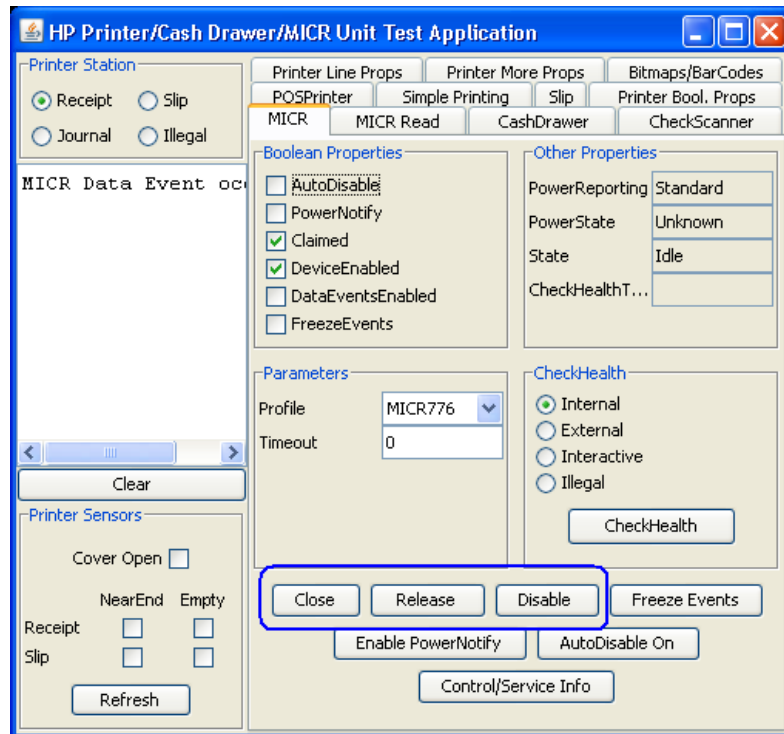


[End]をクリックすると、プリンターが動作を開始し、小切手のMICR情報が読み取られます。

読み取られたデータが[MICR Data] (MICRデータ) ボックスに表示されます (「x」の部分は読み取られたデータがどのように表示されるかを示しています)。

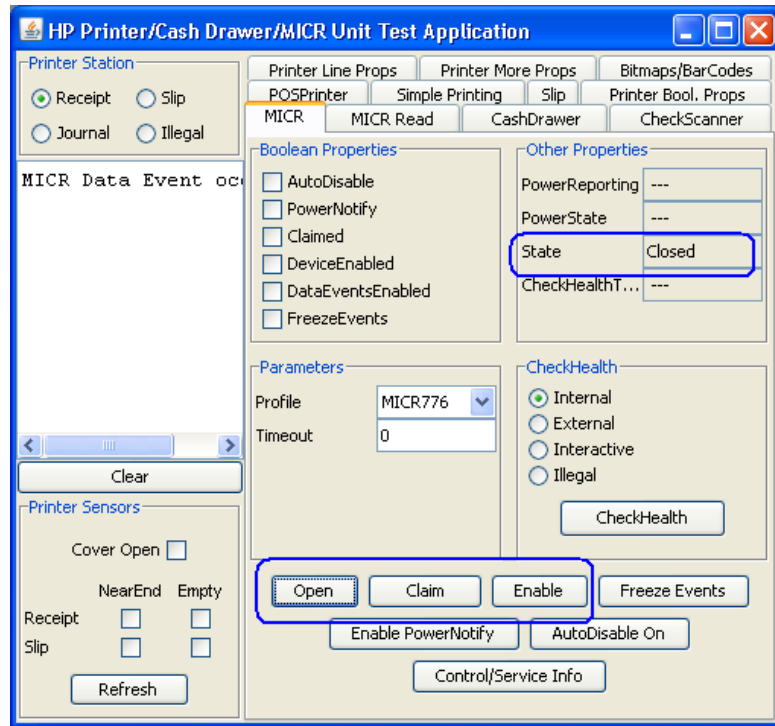


- アプリケーションを終了するには、[MICR]タブでMICRを無効にし、解放して閉じます。以下の画面では、MICRがまだテストユーティリティに要求された状態になっています。





[Disable]（無効にする）→[Release]（リリース）→[Close]（閉じる）の順にボタンをクリックすると、デバイスが解放されて他のアプリケーションで利用できるようになり、以下の画面のようになります。



- 手順8で挿入した用紙は、プリンターのイメージャー部から引き抜いて取り除くことができます。用紙を引き抜くときに、少し力を加える必要があります。

## 6.5.19 レシートプリンター用のJPOSドライバー：スリッププリンティング

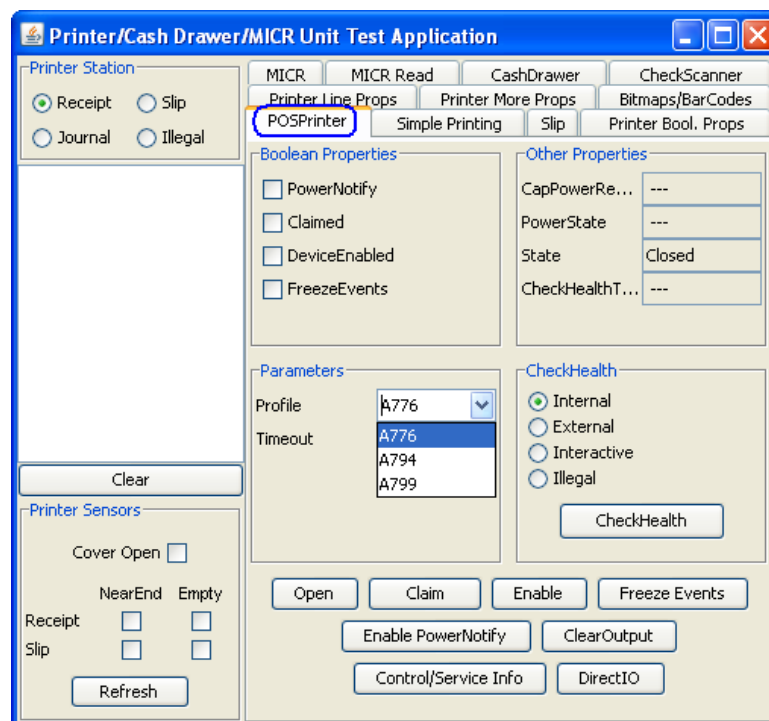
JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ（C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer）に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

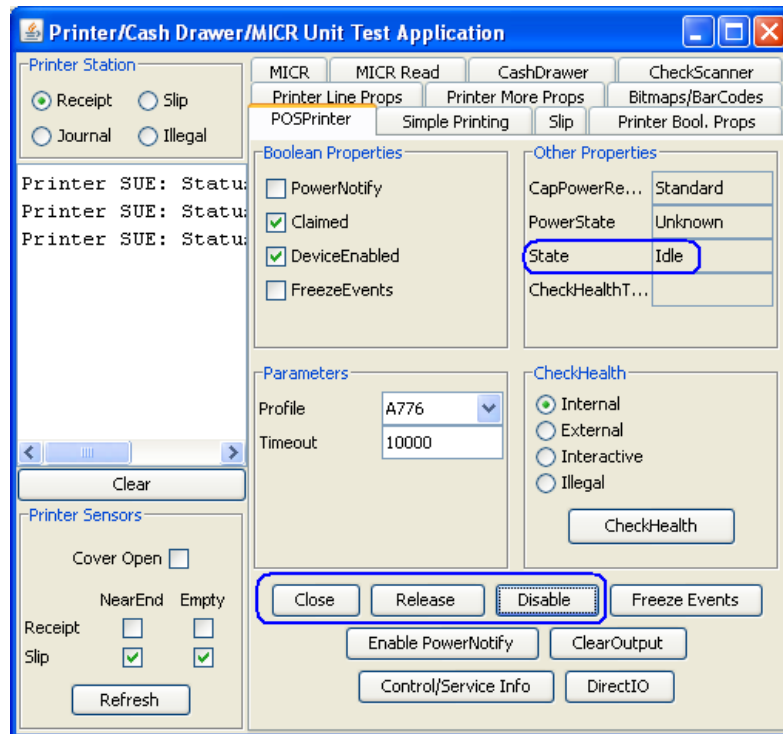
1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**（プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション）を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. [POSPrinter]（POSプリンター）タブのドロップダウン メニューから、[A776]プリンターを選択します。
3. **[Open]**（開く）ボタンをクリックします。
4. **[Claim]**（要求）ボタンをクリックします。
5. **[Enable]**（有効にする）ボタンをクリックします。
6. [Printer Station]（プリンター ステーション）ボックスにある[Slip]（スリップ）オプションを選択します。
7. **[Slip]**（スリップ）タブをクリックします。
8. [Insertion]（挿入）ボックスにある**[Begin]**（開始）ボタンをクリックします。
9. プリンターの前面で、用紙が上部から出てくるまで用紙をスライドさせます。
10. [Insertion]ボックスにある**[End]**（終了）ボタンをクリックします。用紙が下降し、ランプが点灯して用紙がスリップ内にあることが示されます。
11. **[Simple Printing]**（簡易印刷）タブをクリックします。
12. [Print Data]（印刷データ）領域に適切なテキストを入力すると、そのテキストがレシート プリンターで印刷されます。[PrintNormal]（通常印刷）ボタンをクリックします。
13. **[Slip]**タブをクリックします。
14. [Removal]（排出）ボックスにある**[Begin]**（開始）ボタンをクリックします。用紙が上部から出てきたら、プリンターから用紙を取り出します。
15. [Removal]ボックスにある**[End]**（終了）ボタンをクリックします。
16. アプリケーションを終了するには、[POSPrinter]タブでプリンターを無効にし、解放して閉じます。

### 詳しい手順

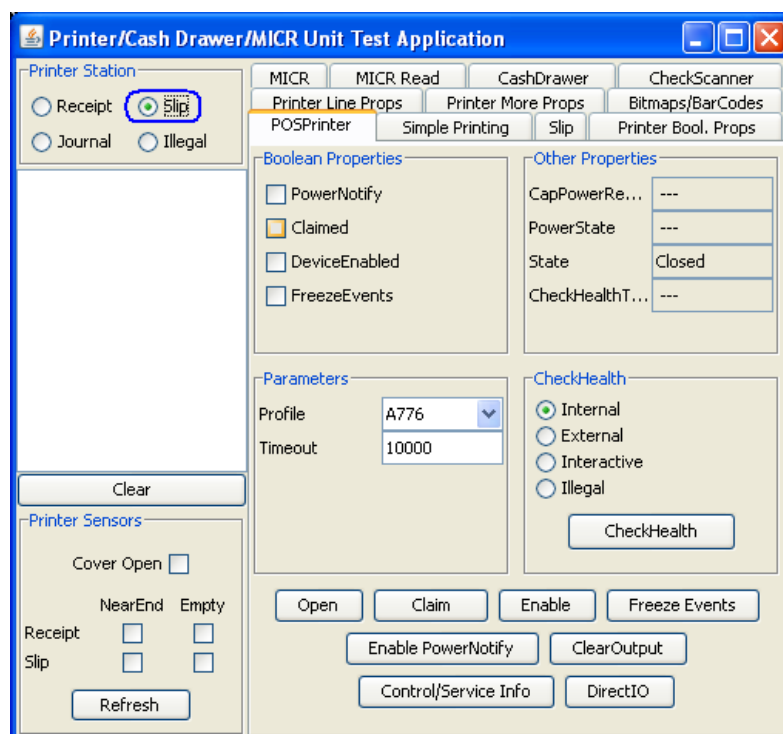
1. [Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. [POSPrinter]タブのドロップダウン メニューから、[A776]プリンターを選択します。



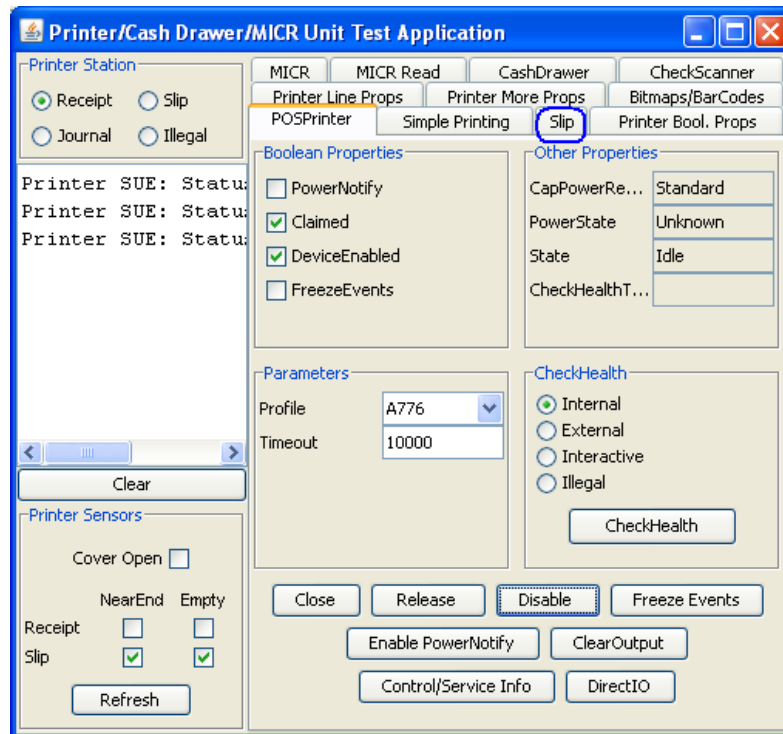
3. [Open]ボタンをクリックします。
4. [Claim]ボタンをクリックします。
5. [Enable]ボタンをクリックします。3つのボタンをすべてクリックすると、画面は以下のようになります。



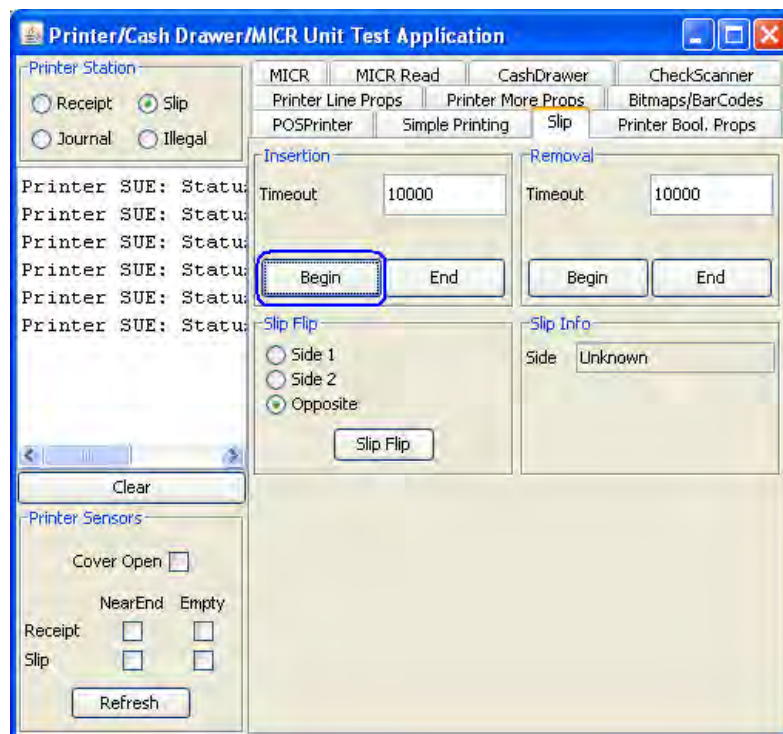
6. [Printer Station]ボックスにある[Slip]オプションを選択します。



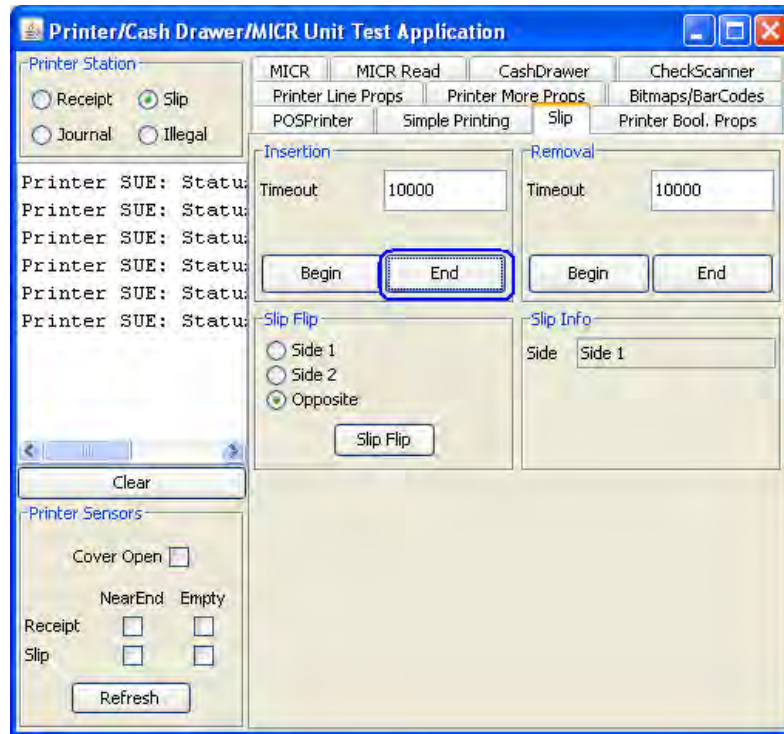
7. [Slip]タブをクリックします。



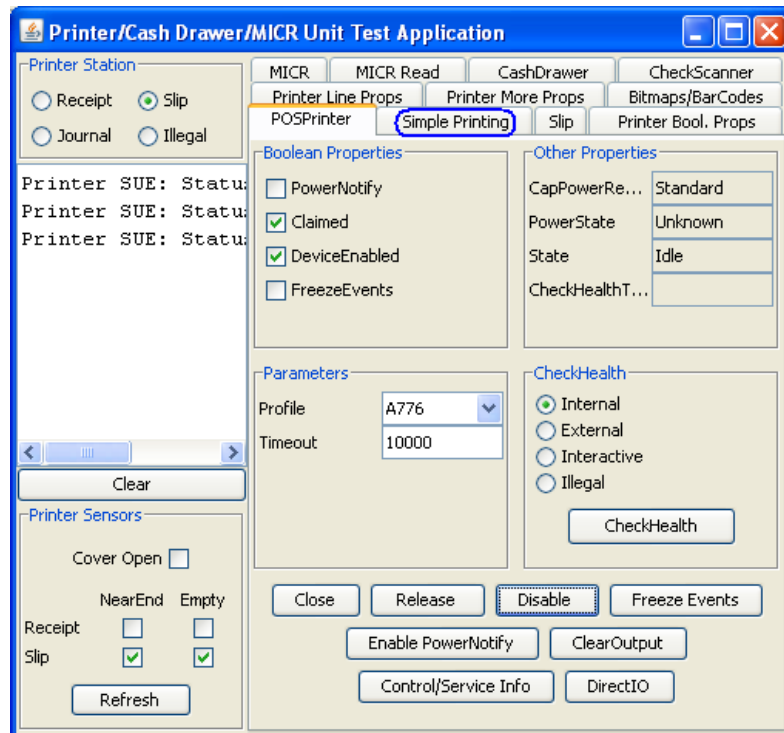
8. [Insertion]ボックスにある[Begin]ボタンをクリックします。プリンターの前面で、用紙が上部から出てくるまで用紙をスライドさせます。



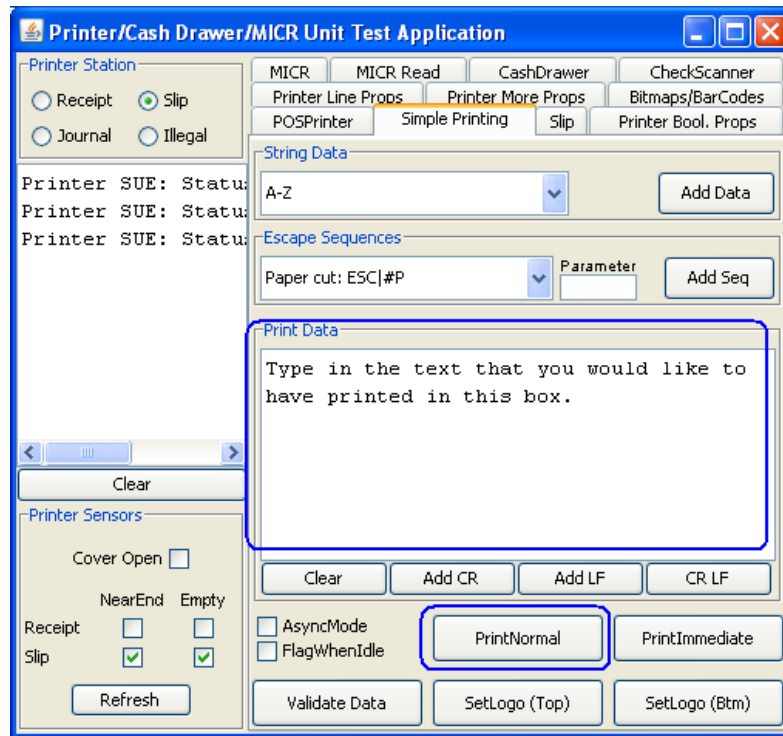
9. [Insertion]ボックスにある[End]ボタンをクリックします。用紙が下降し、ランプが点灯して用紙がスリップ内にあることが示されます。



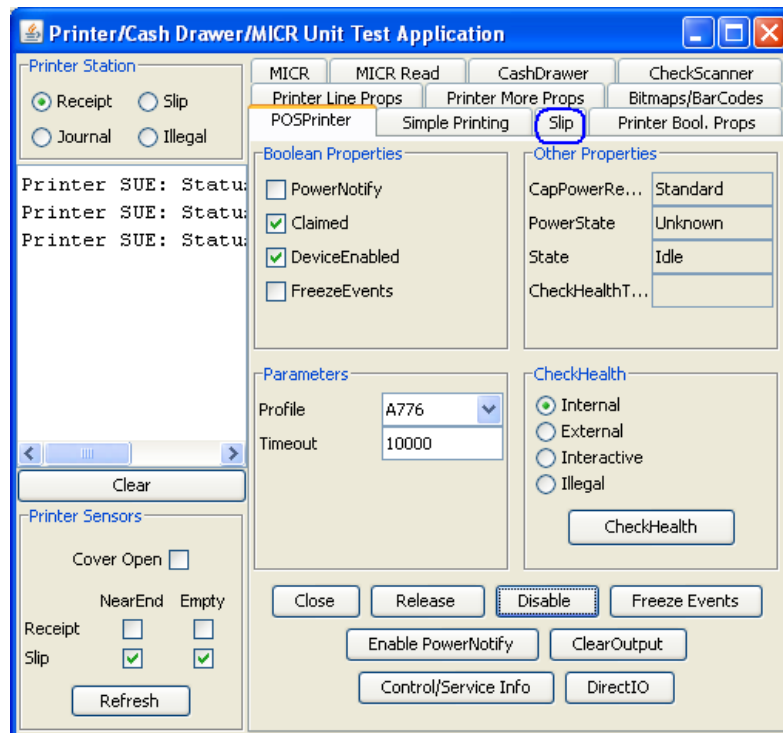
10. [Simple Printing]タブをクリックします。



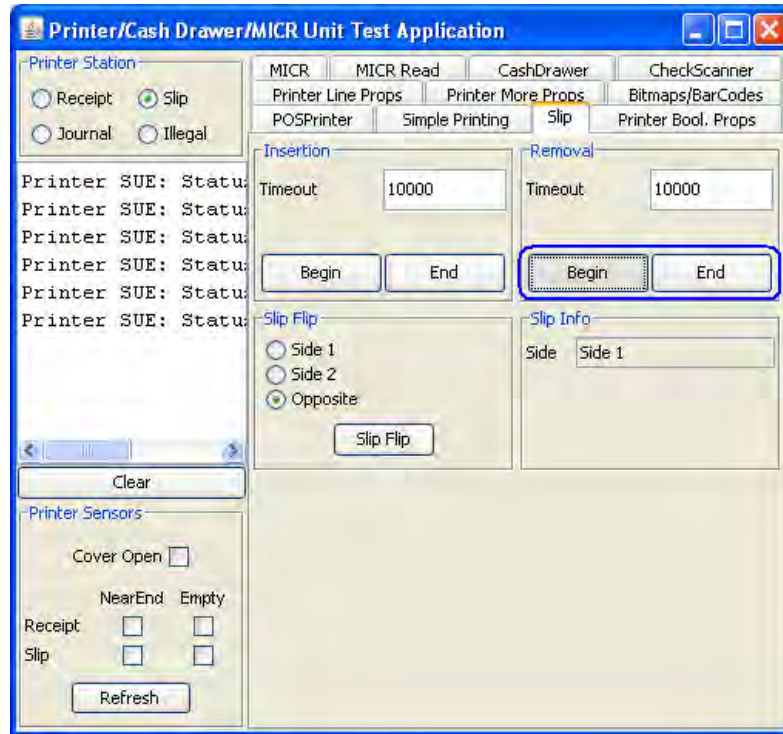
11. [Print Data]領域に適切なテキストを入力すると、そのテキストがレシート プリンターで印刷されます。  
[PrintNormal]ボタンをクリックします。



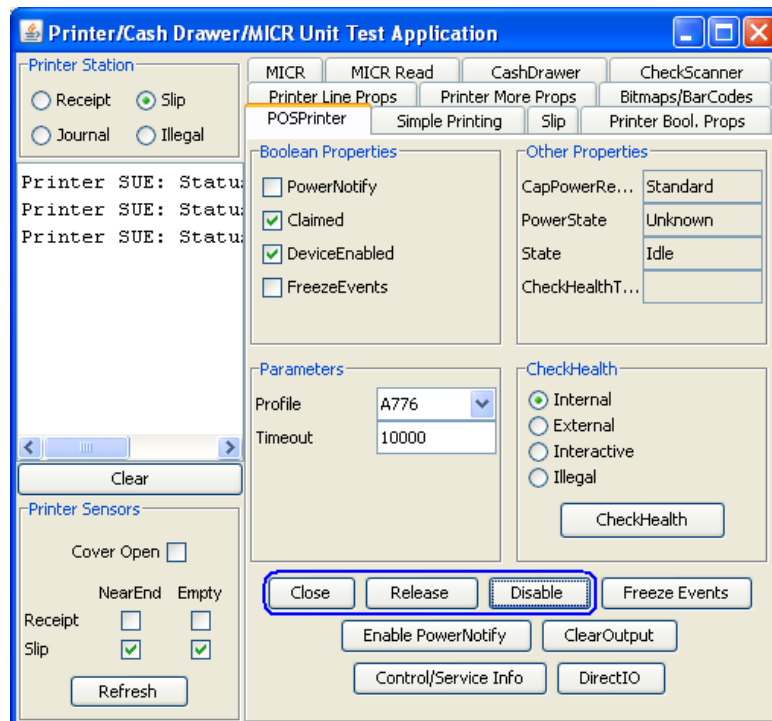
12. [Slip]タブをクリックします。



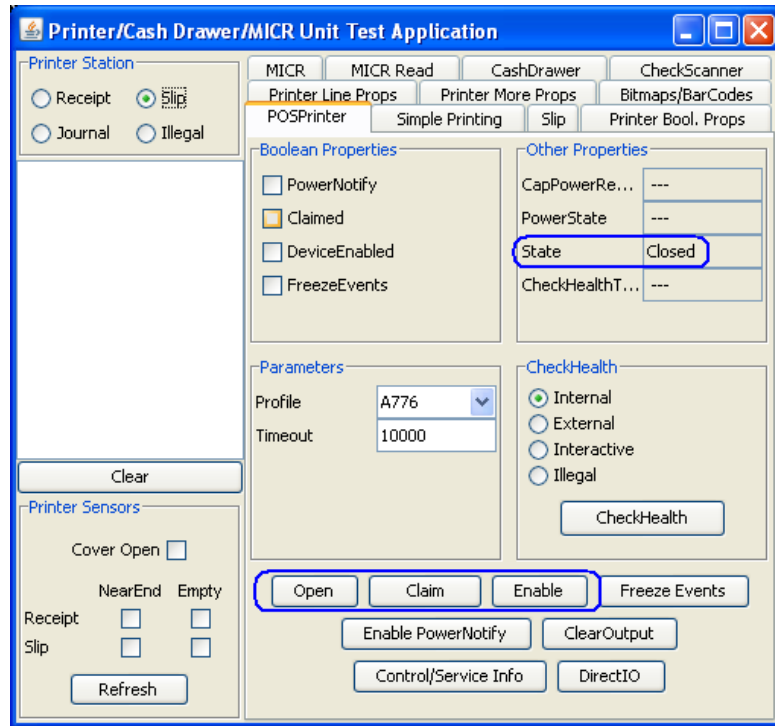
13. [Removal]ボックスにある[Begin]ボタンをクリックします。用紙が上部から出てきたら、プリンターから用紙を取り出します。
14. [Removal]ボックスにある[End]ボタンをクリックします。



15. アプリケーションを終了するには、[POSPrinter]タブでプリンターを無効にし、解放して閉じます。以下の画面では、プリンターがまだテストユーティリティに要求された状態になっています。



[Disable] (無効にする) → [Release] (リリース) → [Close] (閉じる) の順にボタンをクリックすると、プリンターが解放されて他のアプリケーションで利用できるようになり、以下の画面のようになります。

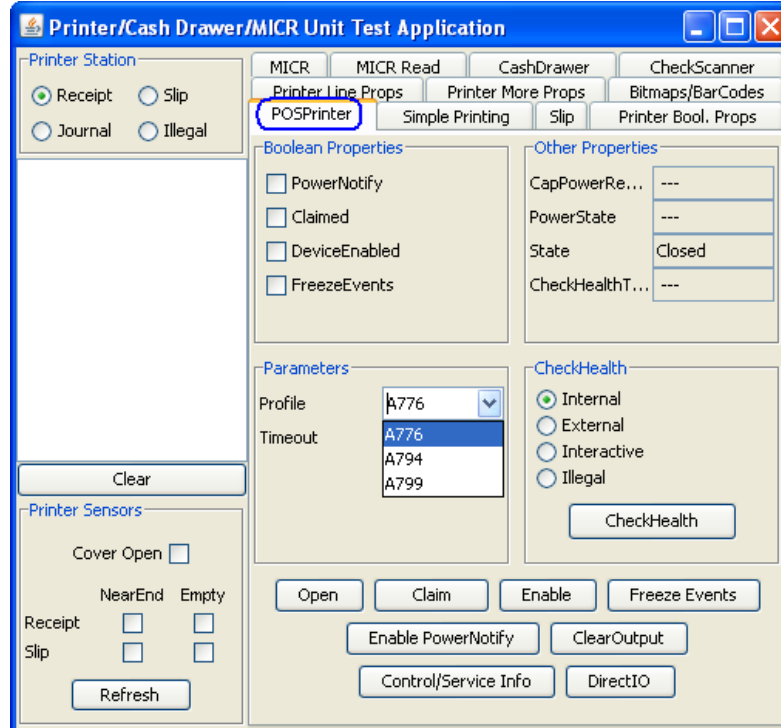




## 6.5.20 レシートプリンター用のJPOSドライバー：バーコードテスト

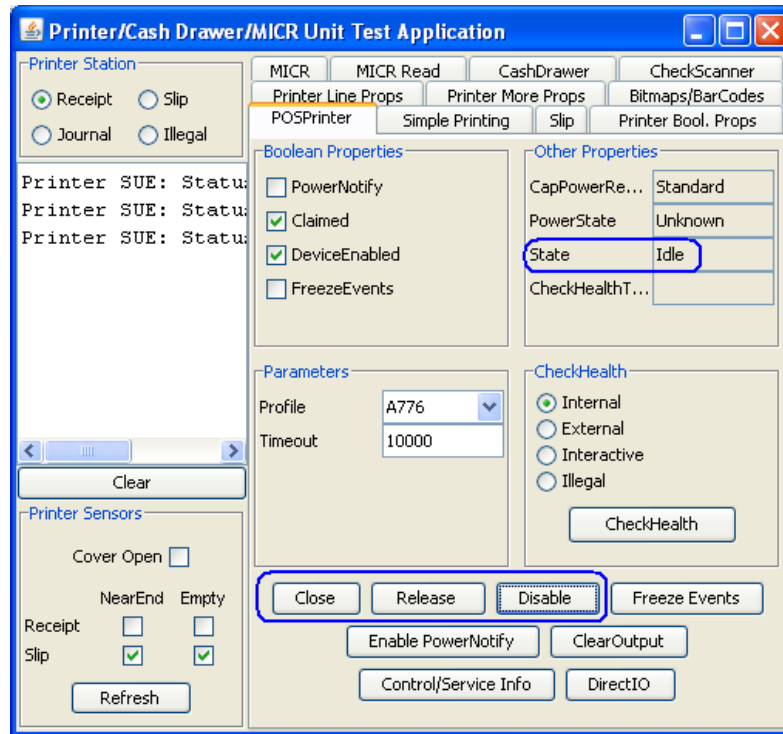
### 詳しい手順

1. [Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application] (プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. [POSPrinter] (POSプリンター) タブのドロップダウン メニューから、プリンターを選択します。



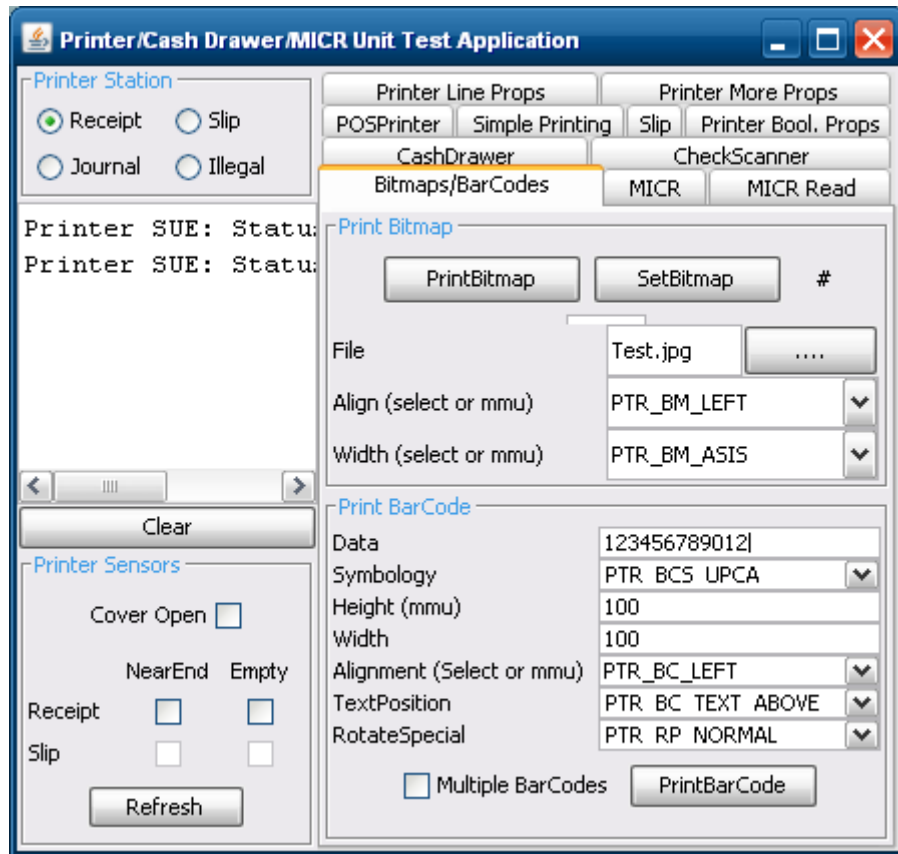
3. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
4. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。

5. [Enable] (有効にする) ボタンをクリックします。3つのボタンをすべてクリックすると、画面は以下のようにになります。

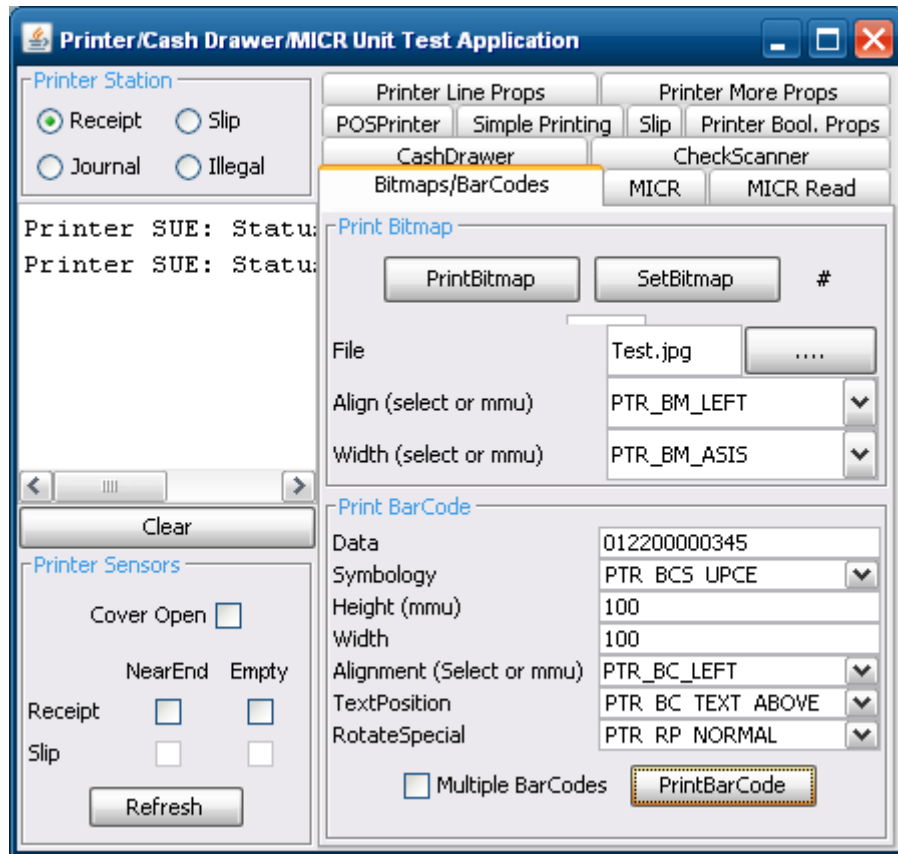


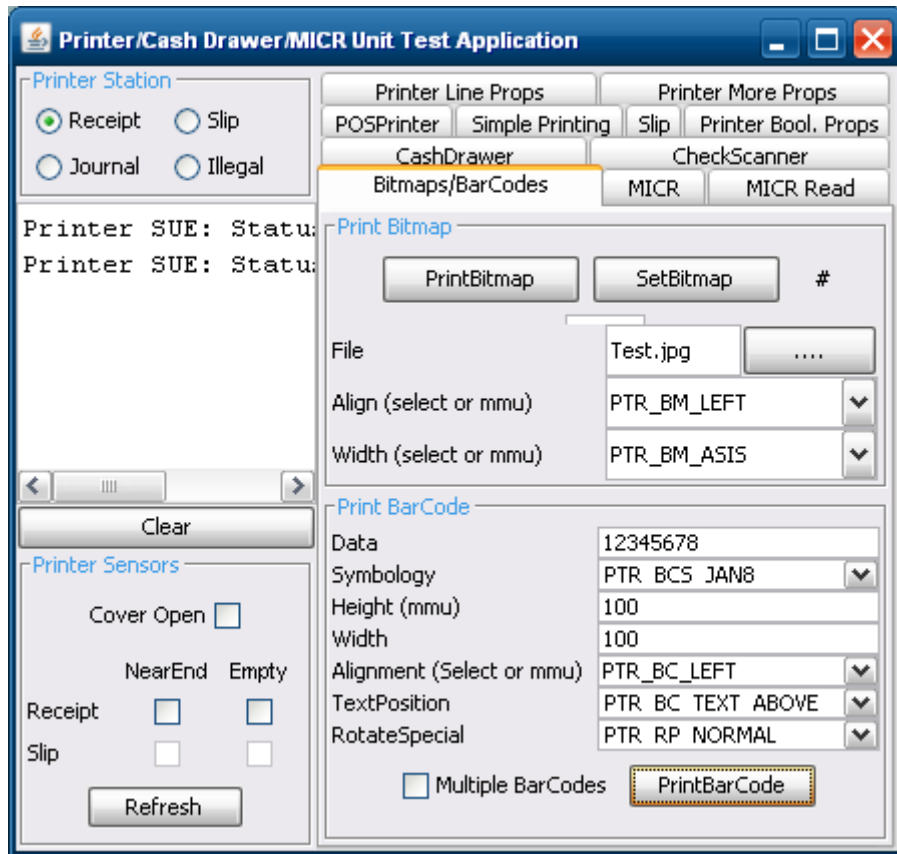
6. [Bitmaps/BarCodes] (ビットマップおよびバーコード) タブをクリックします。[Print BarCode] (バーコードを印刷) セクションで、バーコードの適切な値を入力します。適切な値を入力した各種バーコードの例を以下に示します。

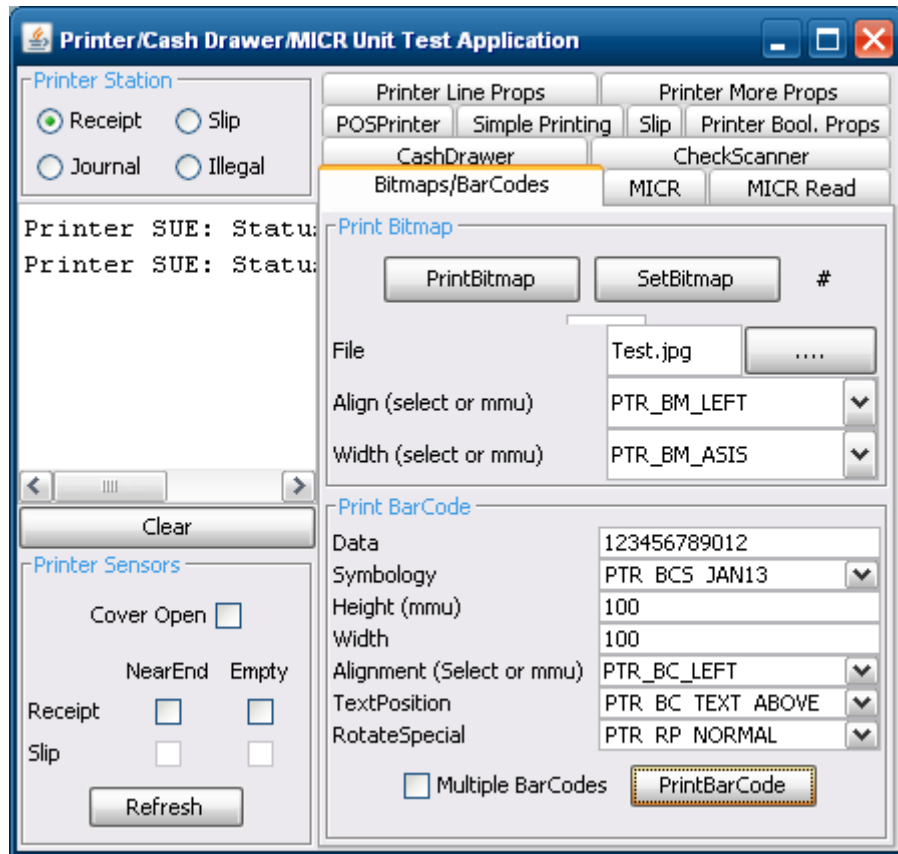
UPCA

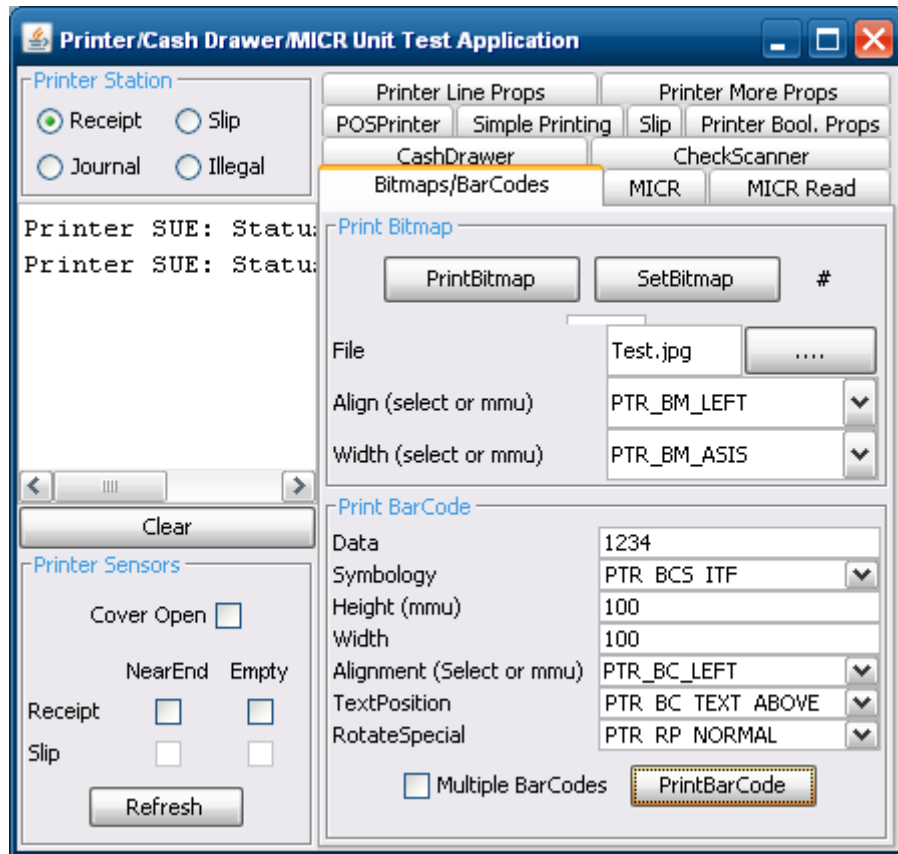


UPCE

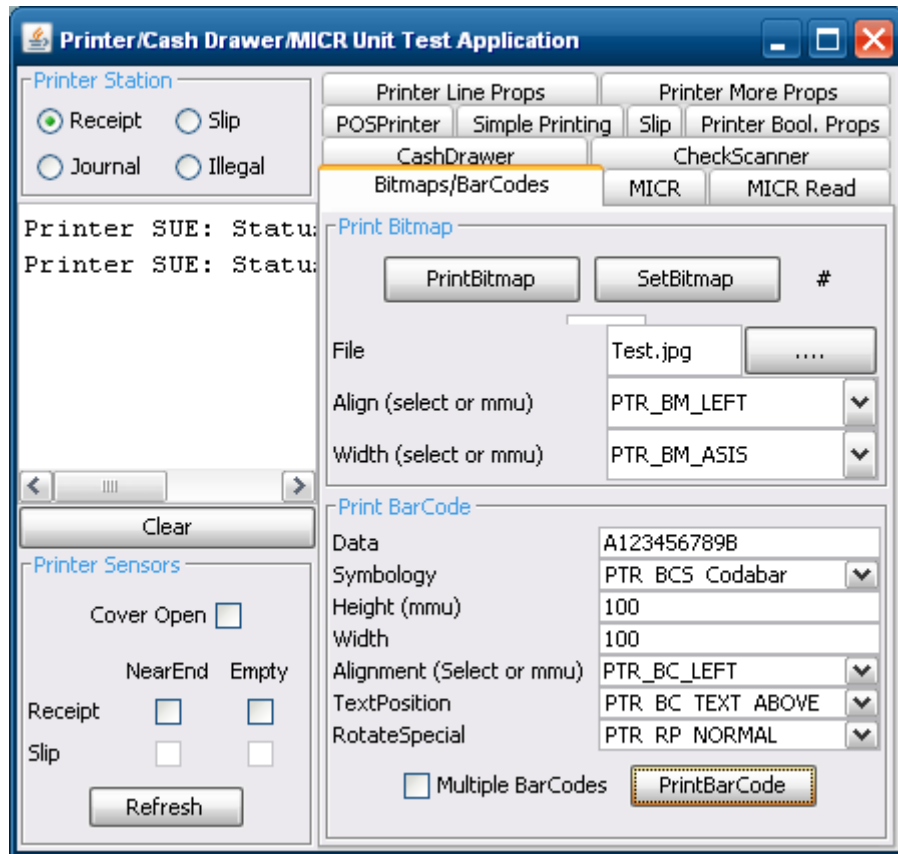




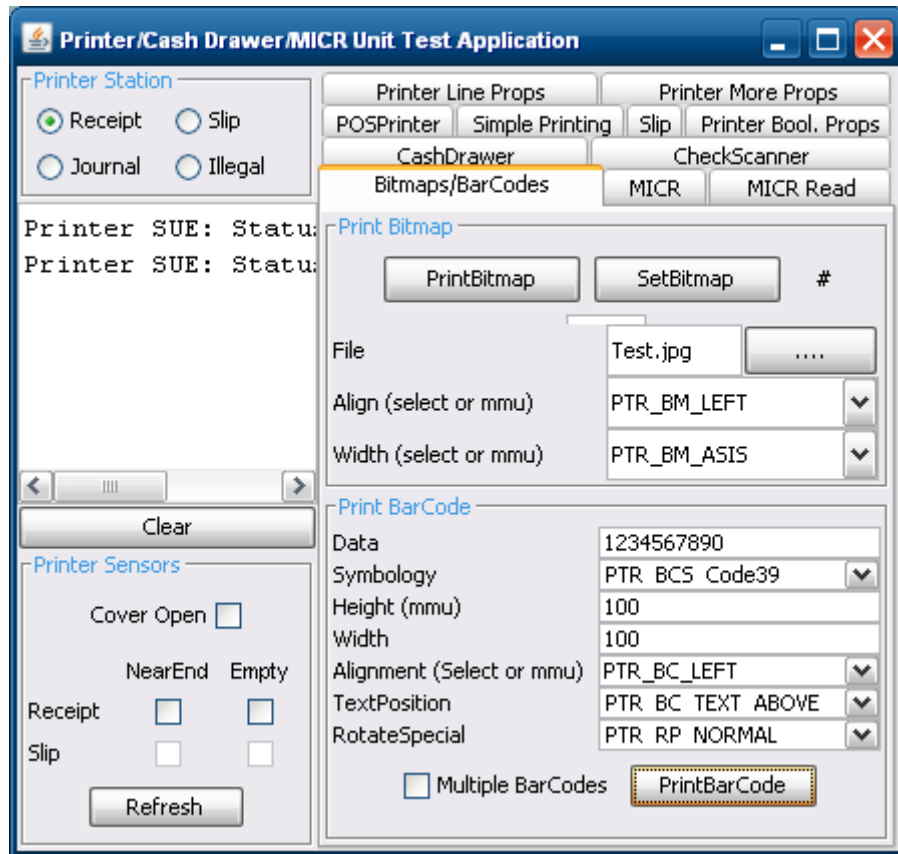


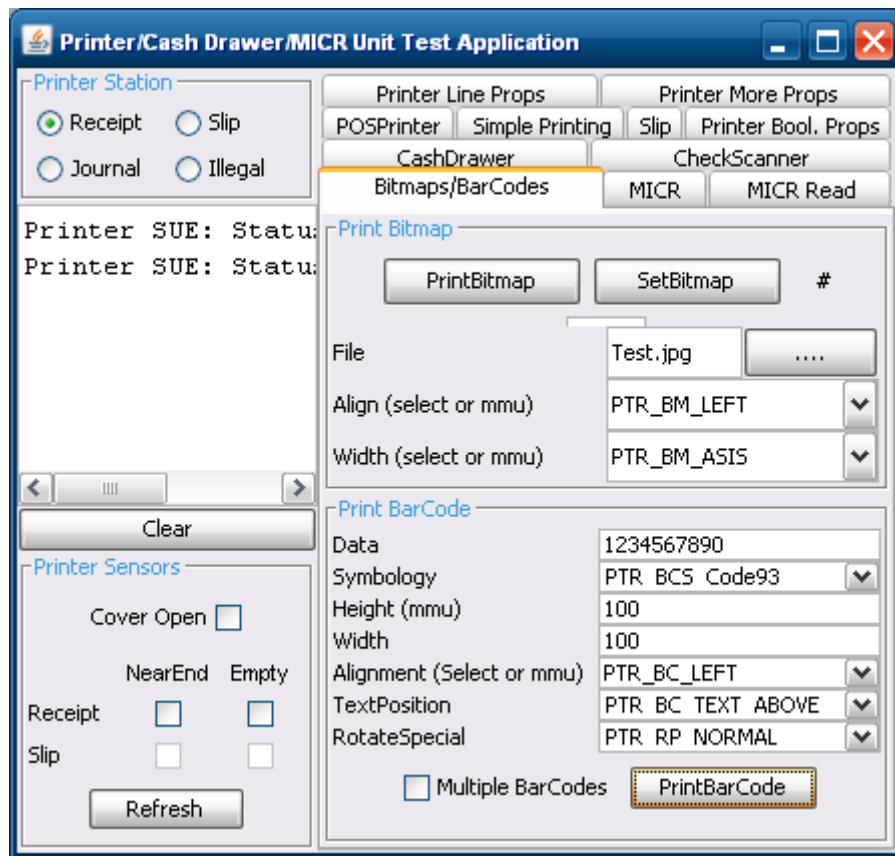


Codabar

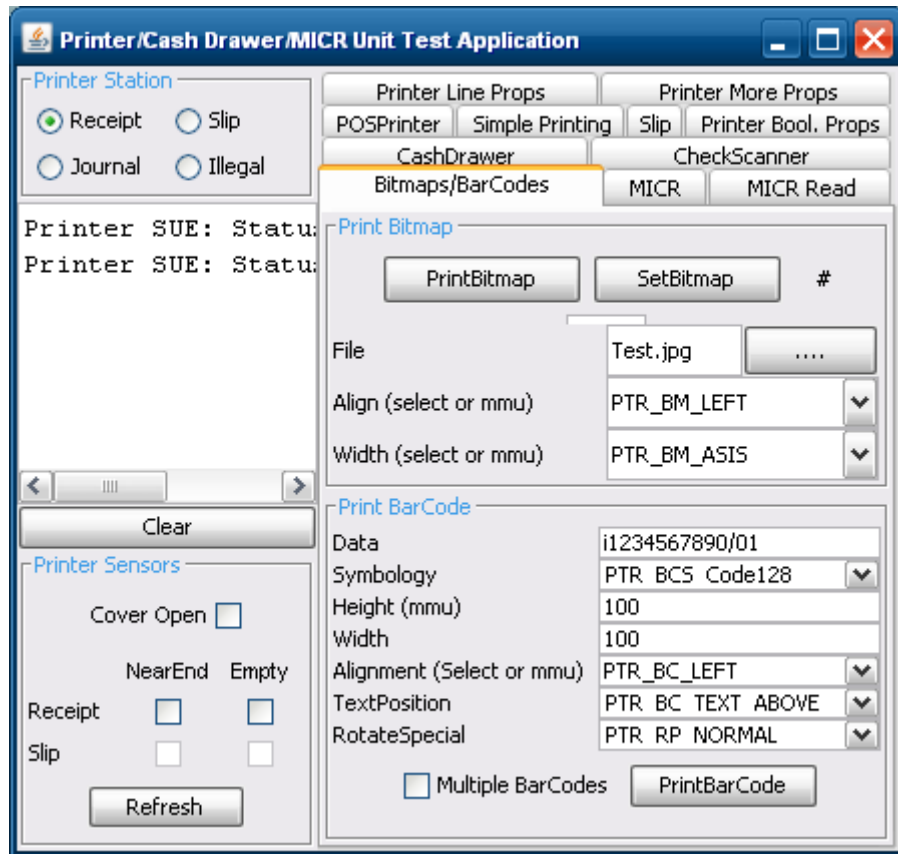




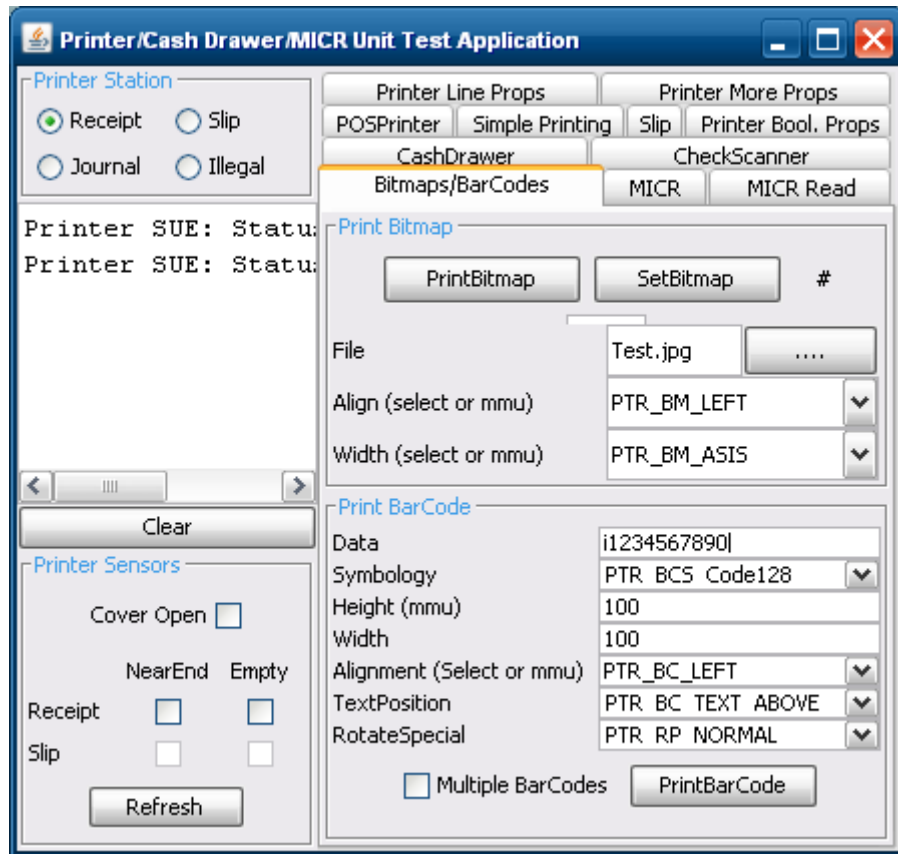




Code 128



Code 128



Code 128 Parsed

**Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application**

Printer Station

Receipt  Slip  
 Journal  Illegal

Printer SUE: Statu:  
Printer SUE: Statu:

Clear

Printer Sensors

Cover Open

NearEnd Empty  
Receipt    
Slip

Refresh

POSPrinter Simple Printing Slip Printer Bool. Props  
MICR MICR Read CashDrawer CheckScanner  
Printer Line Props Printer More Props Bitmaps/BarCodes

Print Bitmap

PrintBitmap SetBitmap # 1

File Test.jpg ...

Align (select or mmu) PTR\_BM\_LEFT

Width (select or mmu) PTR\_BM\_ASIS

Print BarCode

Data {A123456789

Symbology PTR\_BCS\_Code128\_Parsed

Height (mmu) 100

Width 100

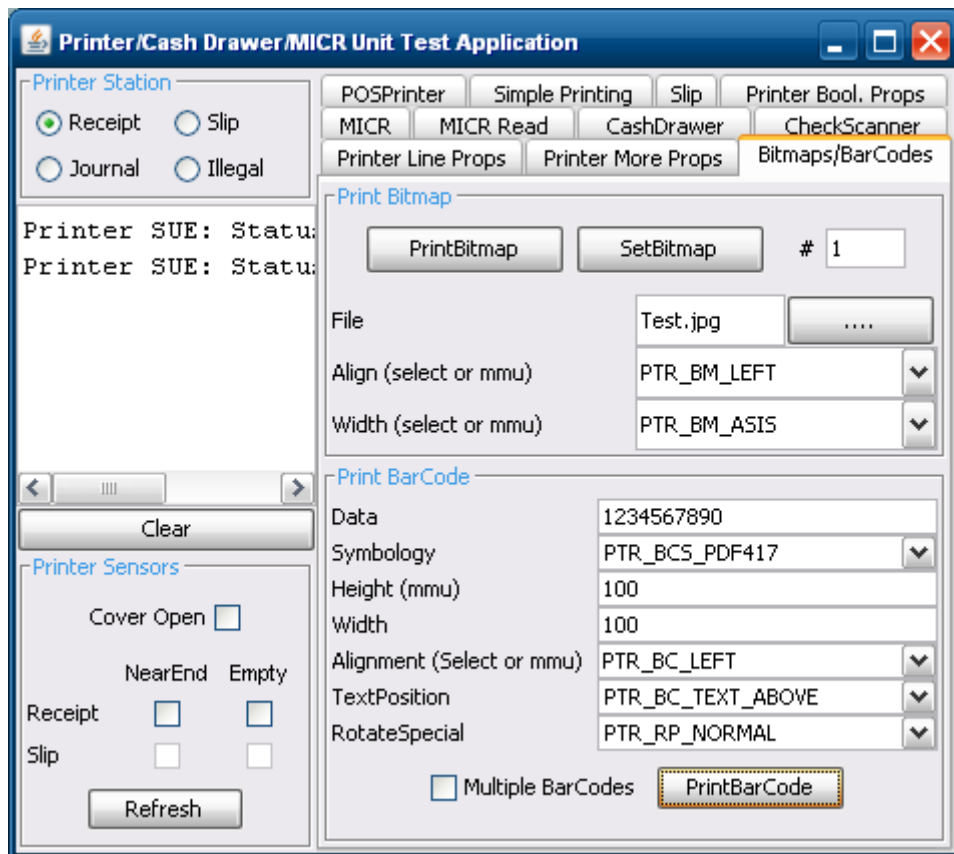
Alignment (Select or mmu) PTR\_BC\_LEFT

TextPosition PTR\_BC\_TEXT\_ABOVE

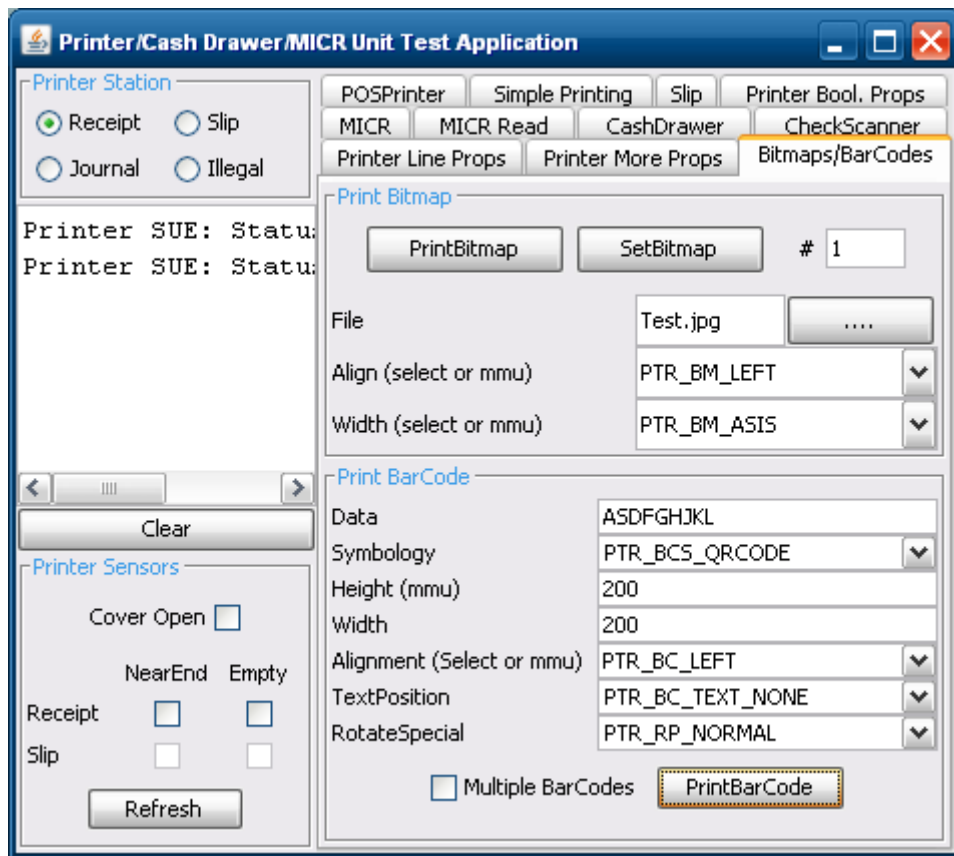
RotateSpecial PTR\_RP\_NORMAL

Multiple BarCodes PrintBarcode





QR Code



## 6.5.21 キャッシュドロアー用のJPOSドライバー

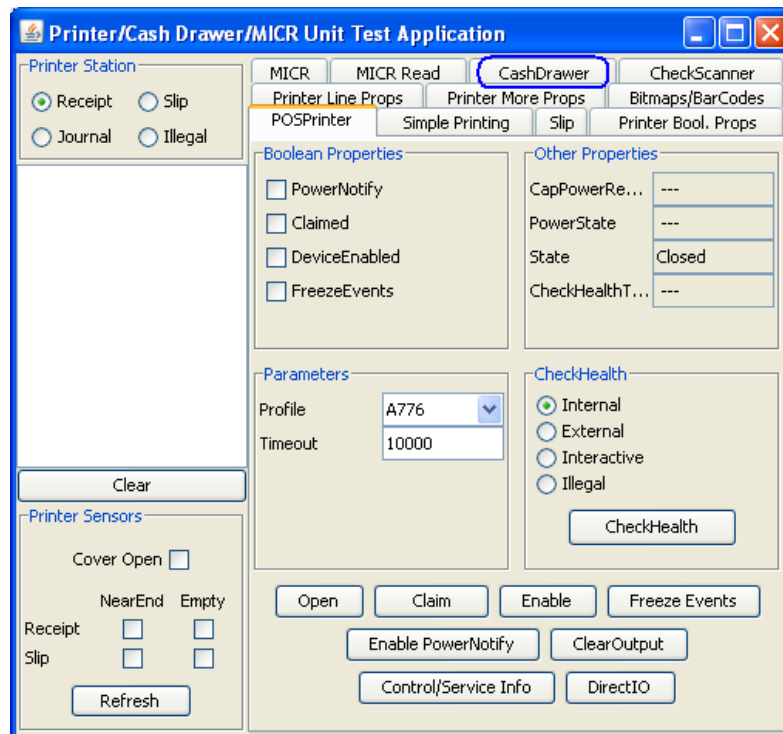
JPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]** (プリンター/キャッシュ/MICRユニット テスト アプリケーション) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. **[CashDrawer]** (キャッシュ ドロアー) タブをクリックします。
3. **[Profile]** (プロファイル) ドロップダウン ボックスでキャッシュ ドロアーのモデルを選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. **[Disable]** (無効にする) ボタンをクリックします。
  - b. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
  - c. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
  - d. アプリケーションウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

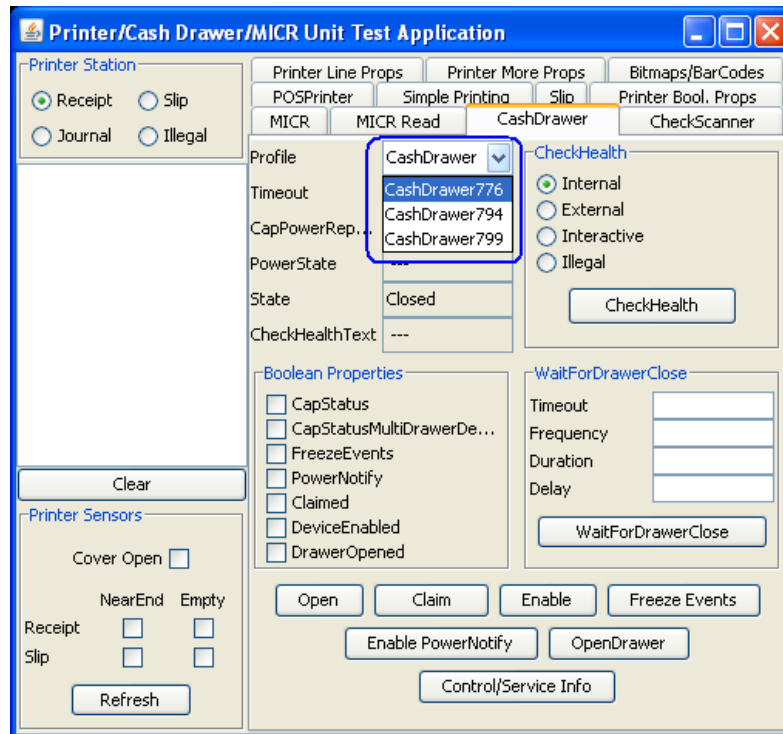
### 詳しい手順

1. **[Printer/Cash Drawer/MICR Unit Test Application]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Receipt Printer\JPOS POS Printer\HPJPOSPrinter.bat.
2. **[CashDrawer]**タブをクリックします。

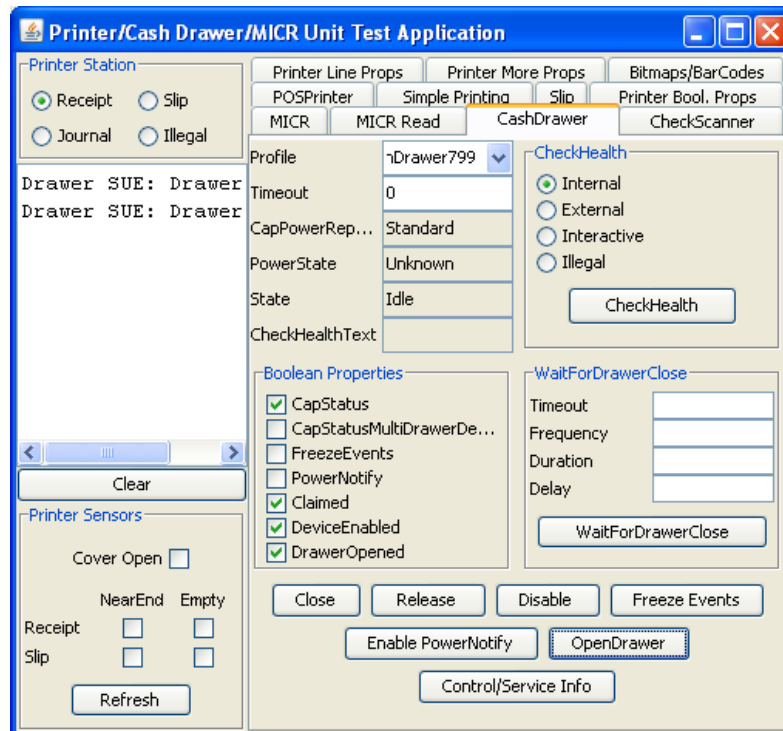




- [Profile]ドロップダウン ボックスでキャッシュ ドロアーのモデルを選択します。



- [Open]ボタンをクリックします。
- [Claim]ボタンをクリックします。
- [Enable]ボタンをクリックします。



**注：** JPOSドライバーのバージョン（2012年3月以前のリリース）によっては、[OpenDrawer]（ドロアーを開ける）ボタンをクリックすると、キャッシュ ドロアーがすぐに開きます。[Timeout]（タイムアウト）値が「0」に設定されていると、キャッシュ ドロアーを10秒以内に閉じない場合に「JPOSEXCEPTION CAUGHT」というエラー メッセージが表示されます。これはキャッシュ ドロアーが開いているためなので問題ありません。

7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - **[Disable]**ボタンをクリックします。
  - **[Release]**ボタンをクリックします。
  - **[Close]**ボタンをクリックします。
  - アプリケーション ウィンドウの右上隅にある[X]をクリックします。

## 6.5.22 HPフォントユーティリティ (アジアフォントのダウンロード) : シングルステーション (A799、4 MB) プリンター

[HP Font Download] (HPフォントダウンロード) ユーティリティを使用すると、シングルステーションプリンターに追加のフォントをダウンロードできます。追加のフォントをダウンロードしても、英語フォントはプリンターで常に利用できます。プリンターにダウンロードできるフォントは中国語、日本語、韓国語です。

**注：** このユーティリティを実行する必要があるのは、メモリが4 MBのシングルステーションプリンターのみです。メモリが8 MBのプリンターにはアジアフォントがあらかじめインストールされているため、このユーティリティは不要です。

### 6.5.22.1 HPフォントユーティリティ (アジアフォントのダウンロードユーティリティ)

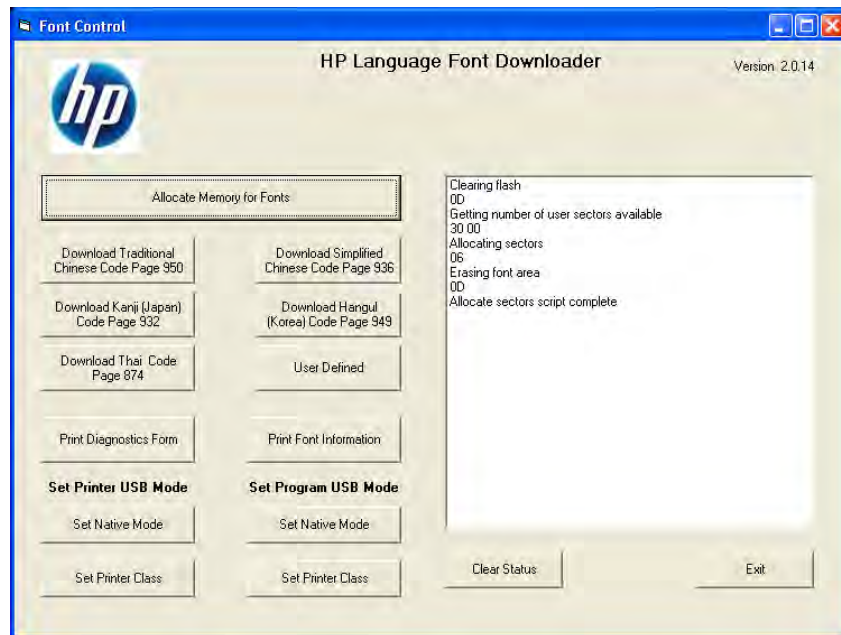
レシートプリンターをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. HPのアジアフォントのダウンロードユーティリティをインストールします。SETUP.EXEは、「HP POS Drivers and Documentation CD」(HP POSドライバーおよびドキュメンテーションCD)に収録されており、[HP.COM](http://HP.COM) Webサイトから入手することもできます。インストールが完了したら、Windowsのスタートメニューから、[HP Font Loader] (HPフォントローダー)を開始します。
2. [Allocate Memory for Fonts] (フォント用のメモリ割り当て) ボタンをクリックします。ステータスボックスに、割り当て処理が完了したことが示されます。
3. プリンターにダウンロードする言語をクリックします。この処理には10分程度かかる場合があります。ダウンロード処理中は、プリンターのランプが点滅します。フォントのダウンロードが完了すると、処理が完了したことがステータスボックスに示されます。
4. [Print Sample/Diagnostics] (サンプル/診断の印刷) をクリックして、フォントのダウンロード後に印刷ができることを確認します。この印刷は英語で行われます。
5. [Exit] (終了) をクリックし、アプリケーションを終了して閉じます。

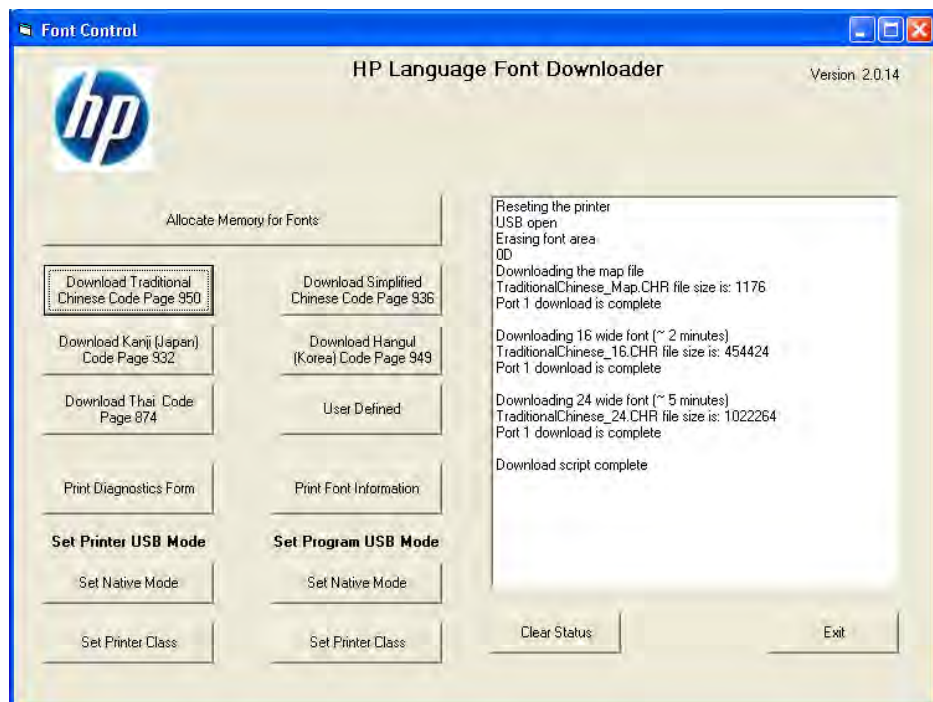
#### 詳しい手順

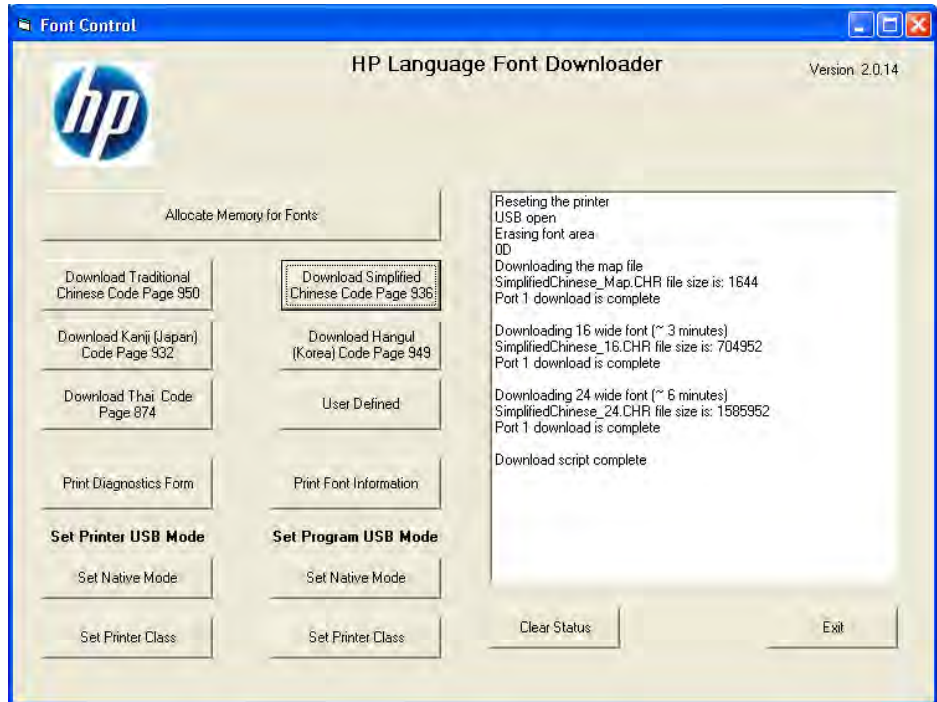
1. HPのアジアフォントのダウンロードユーティリティをインストールします。SETUP.EXEは、「HP POS Drivers and Documentation CD」(HP POSドライバーおよびドキュメンテーションCD)に収録されており、[HP.COM](http://HP.COM) Webサイトから入手することもできます。インストールが完了したら、Windowsのスタートメニューから、[HP Font Loader]を開始します。

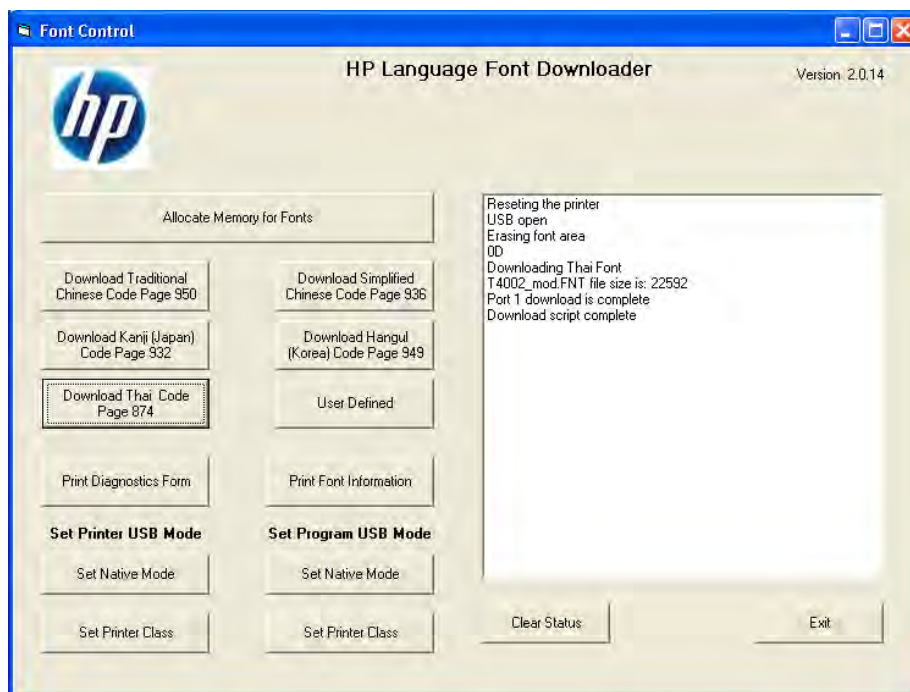
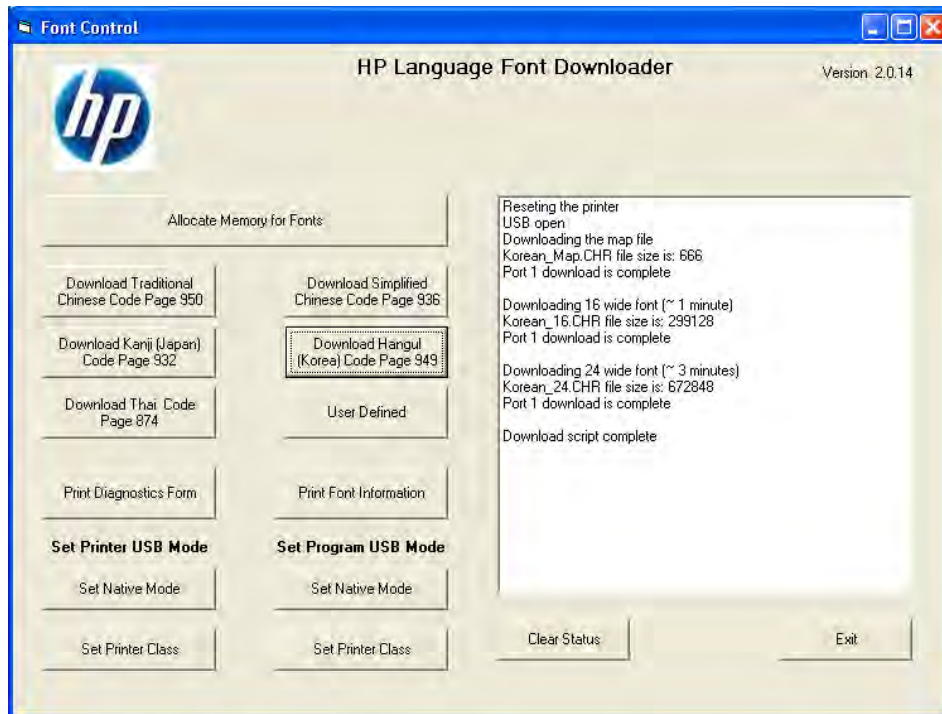
2. [Allocate Memory for Fonts]ボタンをクリックします。ステータス ボックスに、割り当て処理が完了したことが示されます。



3. プリンターにダウンロードする言語をクリックします。この処理には10分程度かかる場合があります。ダウンロード処理中は、プリンターのランプが点滅します。フォントのダウンロードが完了すると、処理が完了したことがステータス ボックスに示されます。

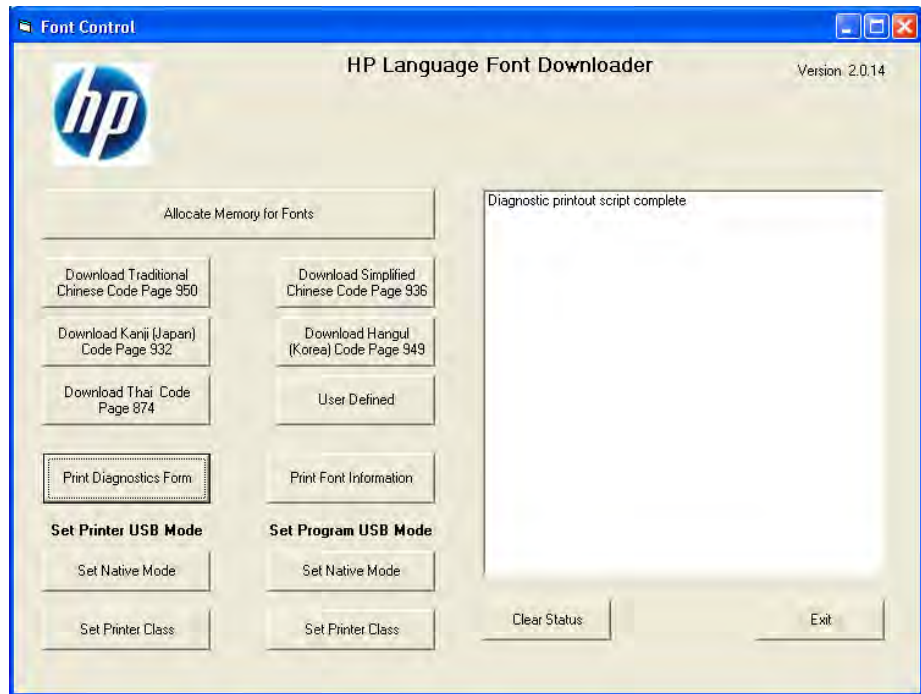








4. [Print Sample/Diagnostics]をクリックして、フォントのダウンロード後に印刷ができることを確認します。この印刷は英語で行われます。



5. [Exit]をクリックし、アプリケーションを終了して閉じます。

## 6.6 HP ap5000 MSR (磁気ストライプリーダー)



### 6.6.1 接続

HP ap5000 Systemに搭載されたMSRは、シリアル インターフェイス (初期設定はCOM4) を通じてシステム内部で接続されます。このデバイスについてユーザーが接続を行う必要はありません。

	ap5000 MSR
コネクタ	COM4
ボーレート	19200
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

### 6.6.2 HP ap5000 MSR用のWindowsドライバー

Windowsオペレーティング システムではシリアル ポートCOM4がサポートされているため、追加のドライバーをインストールする必要はありません。

### 6.6.3 HP ap5000 MSR用のOPOSドライバー

HP ap5000 OPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx\Point of Sale\MSR HP ap5000\ap5000 MSR OPOS) に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

### 6.6.4 HP ap5000 MSRのテスト

#### 6.6.4.1 非OPOSモードでのHP ap5000 MSRのテスト

ap5000 MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

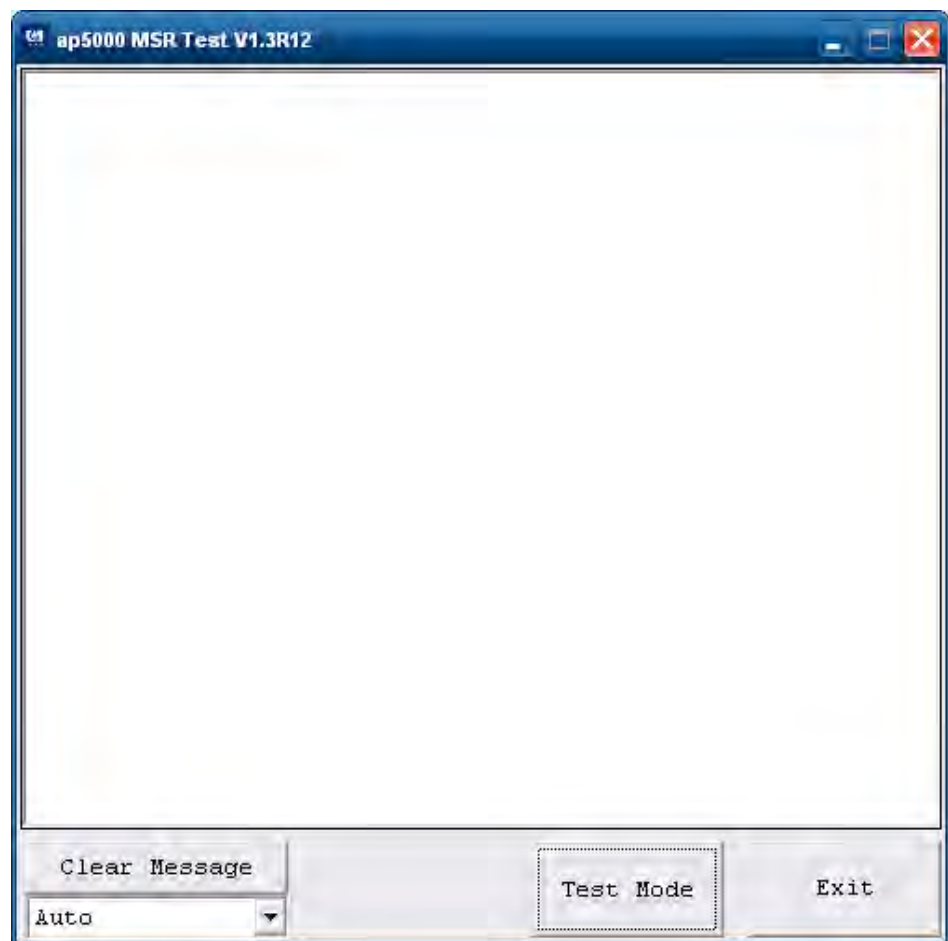
1. Windowsのスタートメニューから、非OPOSテストユーティリティを起動します。
2. ドロップダウン ボックスからCOMコネクタを選択するか、初期設定の[Auto] (自動) オプションのままにします。このオプションでは、ap5000 MSRデバイスが検索されます。[Test Mode] (テストモード) ボタンをクリックしてテストを開始します。



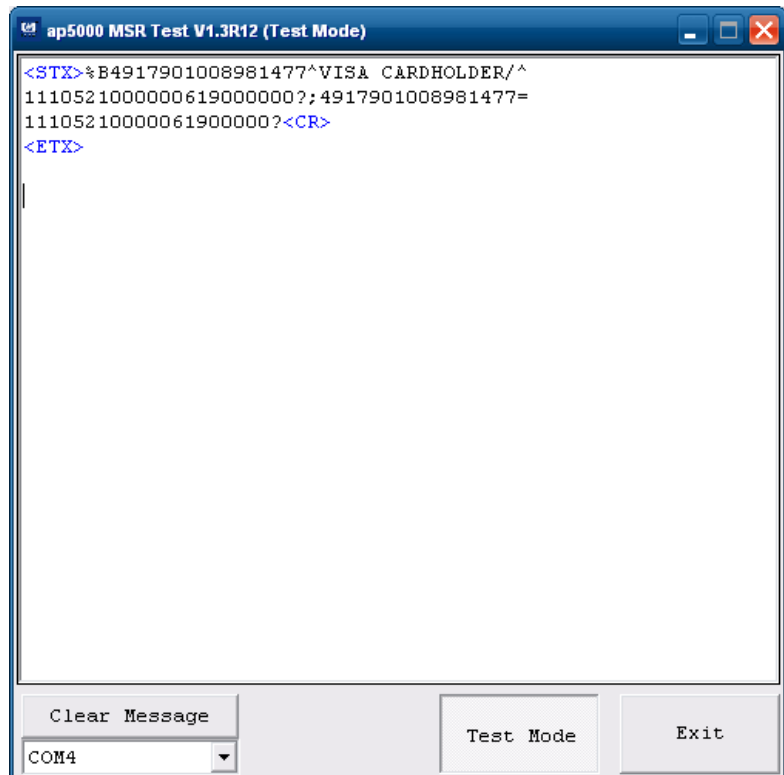
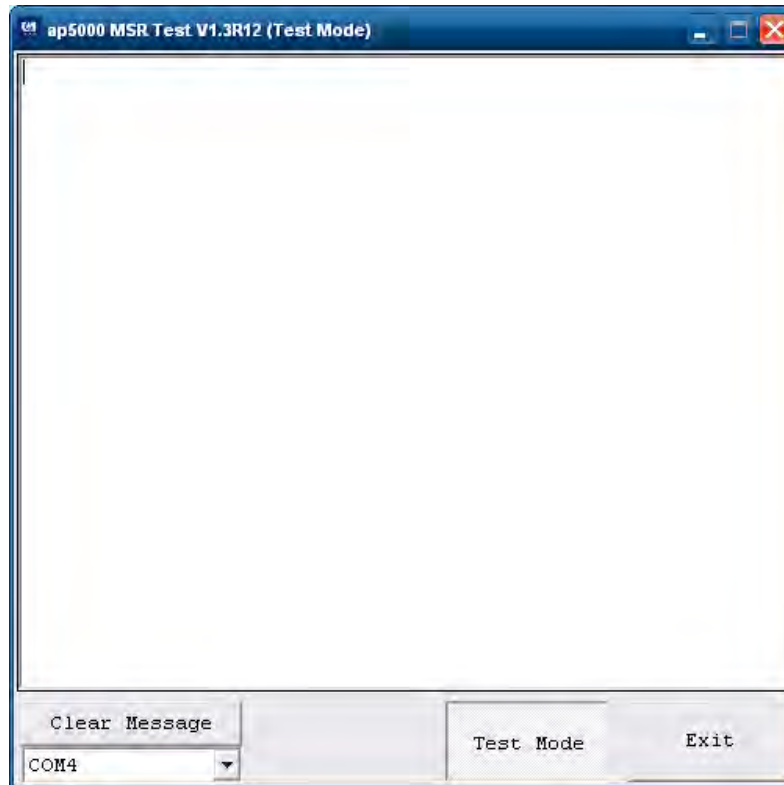
3. [Test Mode]が選択されているときはCOMコネクタが表示され、GUIのタイトルバーに[(Test Mode)]と表示されます。この時点でap5000 MSRにカードをスワイプすると、テストユーティリティにデータが表示されます。
4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Test Mode]をクリックします。GUIのタイトルバーから[(Test Mode)]の表示が消えます。
  - b. [Exit] (終了) をクリックして、テストアプレットを閉じます。

#### 詳しい手順

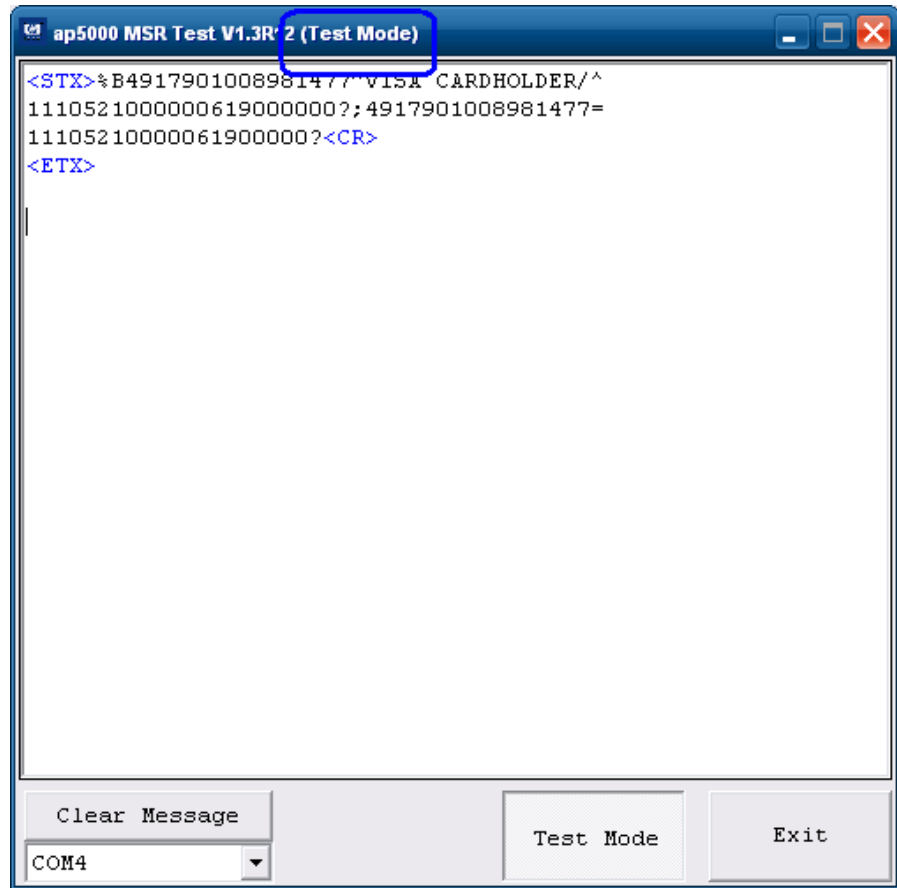
1. Windowsのスタートメニューから、非OPOSテストユーティリティを起動します。
2. ドロップダウン ボックスからCOMコネクタを選択するか、初期設定の[Auto]オプションのままにします。このオプションでは、ap5000 MSRデバイスが検索されます。[Test Mode]ボタンをクリックしてテストを開始します。



3. [Test Mode]が選択されているときはCOMコネクタが表示され、GUIのタイトルバーに[(Test Mode)]と表示されます。この時点でap5000 MSRにカードをスワイプすると、テストユーティリティにデータが表示されます。



4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Test Mode]をクリックします。GUIのタイトルバーから[(Test Mode)]の表示が消えます。



- b. [Exit]をクリックして、テストアプレットを閉じます。

#### 6.6.4.2 OPOSモードでのHP ap5000 MSRのテスト

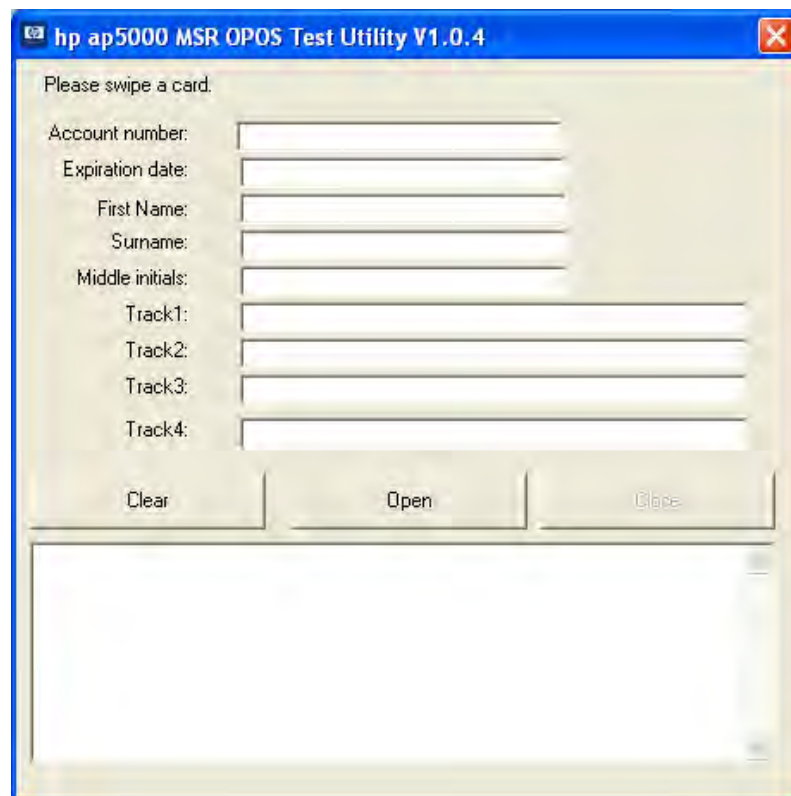
ap5000 MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. Windowsのスタートメニューから、OPOSテストユーティリティを起動します。
2. [Open] (開く) ボタンをクリックしてテストを開始します。[Open: Success] (開く : 成功) というステータスメッセージが表示されていることを確認します。
3. ap5000 MSRに有効なカードをスワイプして、テストユーティリティにデータが表示されていることを確認します。[x]の部分には、カードから読み取られた実際のデータが表示されます。
4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。
  - b. 右上隅にある[X]をクリックして、テストアプレットを閉じます。

#### 詳しい手順

1. Windowsのスタートメニューから、OPOSテストユーティリティを起動します。

ユーティリティが開くと、以下のGUIが表示されます。

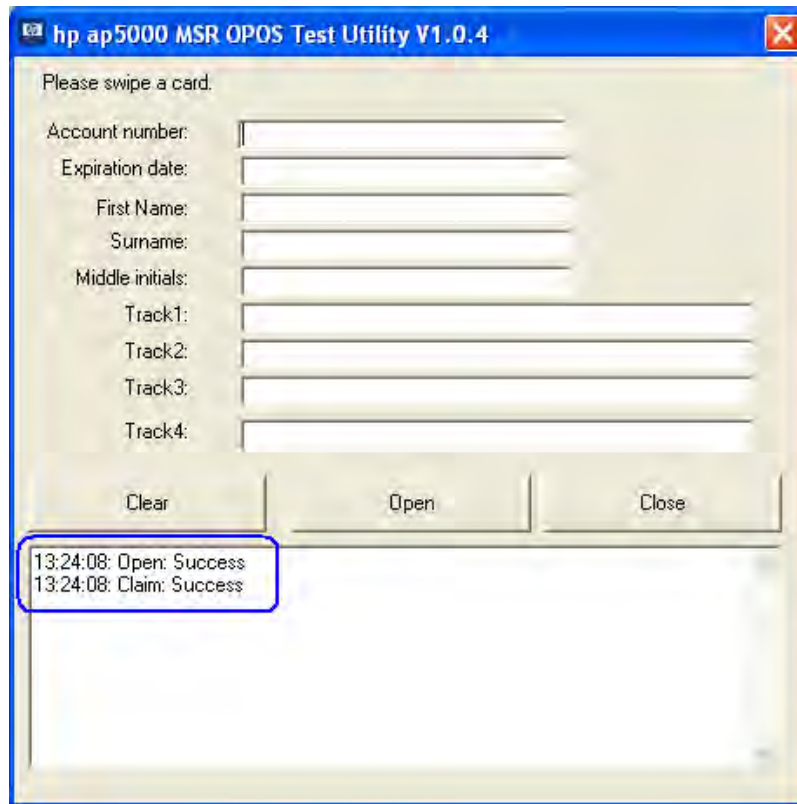


The screenshot shows a Windows application window titled "hp ap5000 MSR OPOS Test Utility V1.0.4". The window contains a form with the following fields and labels:

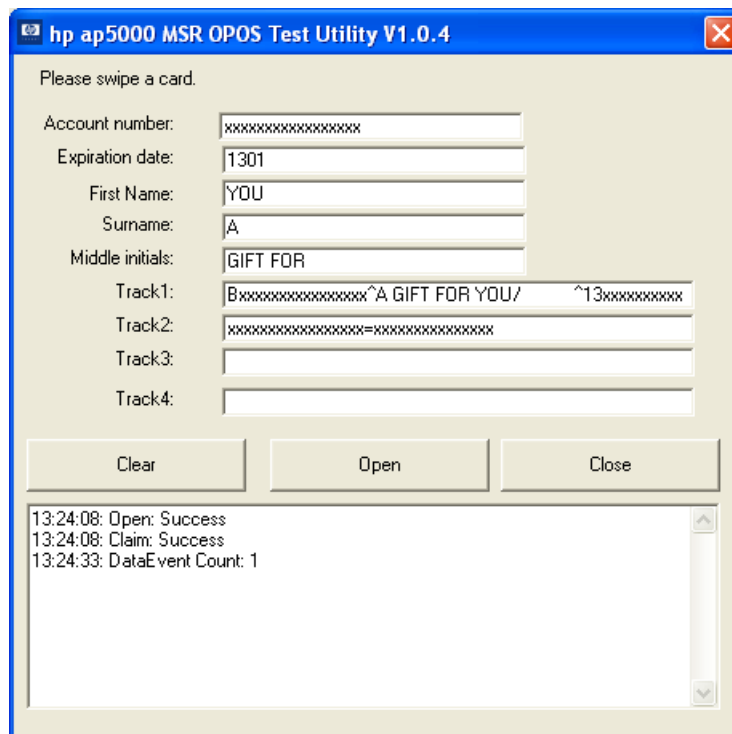
- Please swipe a card.
- Account number:
- Expiration date:
- First Name:
- Surname:
- Middle initials:
- Track1:
- Track2:
- Track3:
- Track4:

At the bottom of the form, there are three buttons: "Clear", "Open", and "Close". The "Open" button is highlighted.

2. [Open]ボタンをクリックしてテストを開始します。[Open: Success]というステータス メッセージが表示されていることを確認します。



3. ap5000 MSRに有効なカードをスワイプして、テスト ユーティリティにデータが表示されていることを確認します。[x]の部分には、カードから読み取られた実際のデータが表示されます。



4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Close]ボタンをクリックします。
  - b. 右上隅にある[X]をクリックして、テストアプレットを閉じます。

hp ap5000 MSR OPOS Test Utility V1.0.4

Please swipe a card.

Account number:

Expiration date:

First Name:

Surname:

Middle initials:

Track1:

Track2:

Track3:

Track4:

Clear Open Close

13:24:08: Open: Success  
13:24:08: Claim: Success

## 6.6.5 HP ap5000 MSR用のJPOSドライバー

HP ap5000 JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx\Point of Sale\MSR HP ap5000\ap5000 MSR JPOS) に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

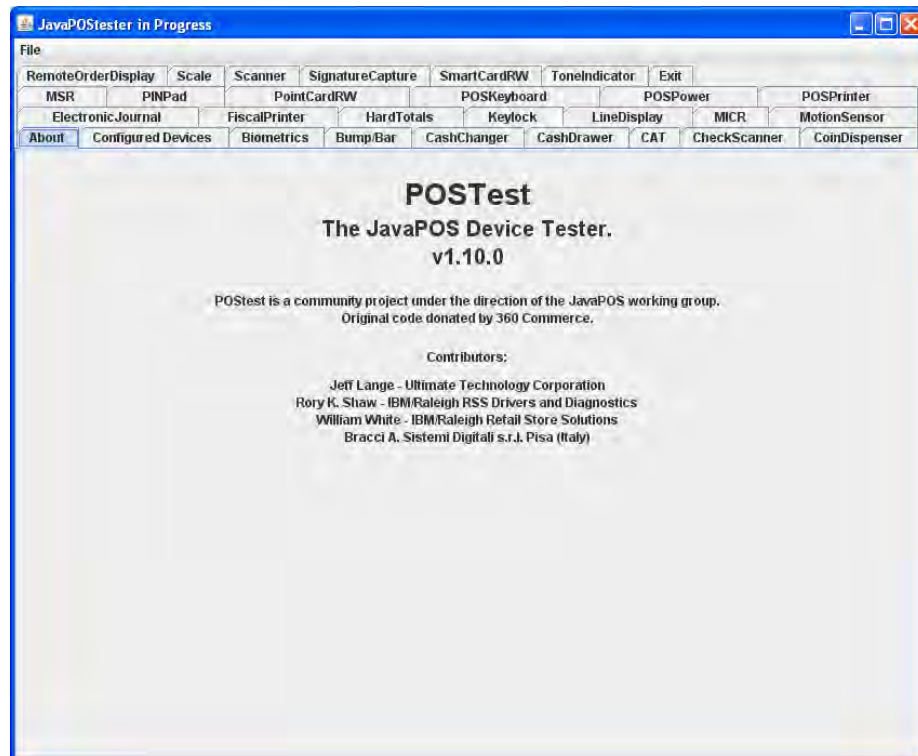
ap5000 MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. スタート メニューのリンクを使用するか、ap5000 MSRフォルダー内のJPOSフォルダーにあるPOSTEST.BATファイルを開いて、JPOSテストユーティリティを起動します。
2. [MSR]タブをクリックします。
3. [MSR]タブをクリックします。
4. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
5. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。
6. [Data event enabled] (データ イベント有効) チェック ボックスにチェックを入れます。
7. [Device enabled] (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. クレジットカードをスワイプし、フィールドにテキストが表示されていることを確認します。
9. [Release] (リリース) →[Close] (閉じる) →[Exit] (終了) の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。

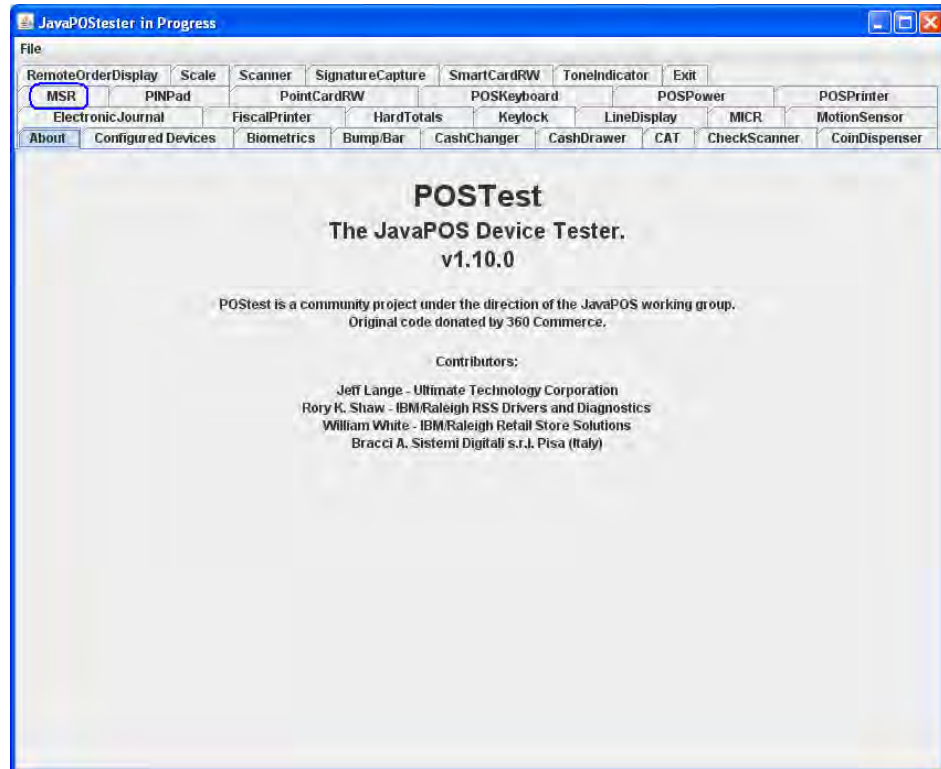
### 詳しい手順

1. スタート メニューのリンクを使用するか、ap5000 MSRフォルダー内のJPOSフォルダーにあるPOSTEST.BATファイルを開いて、JPOSテストユーティリティを起動します。

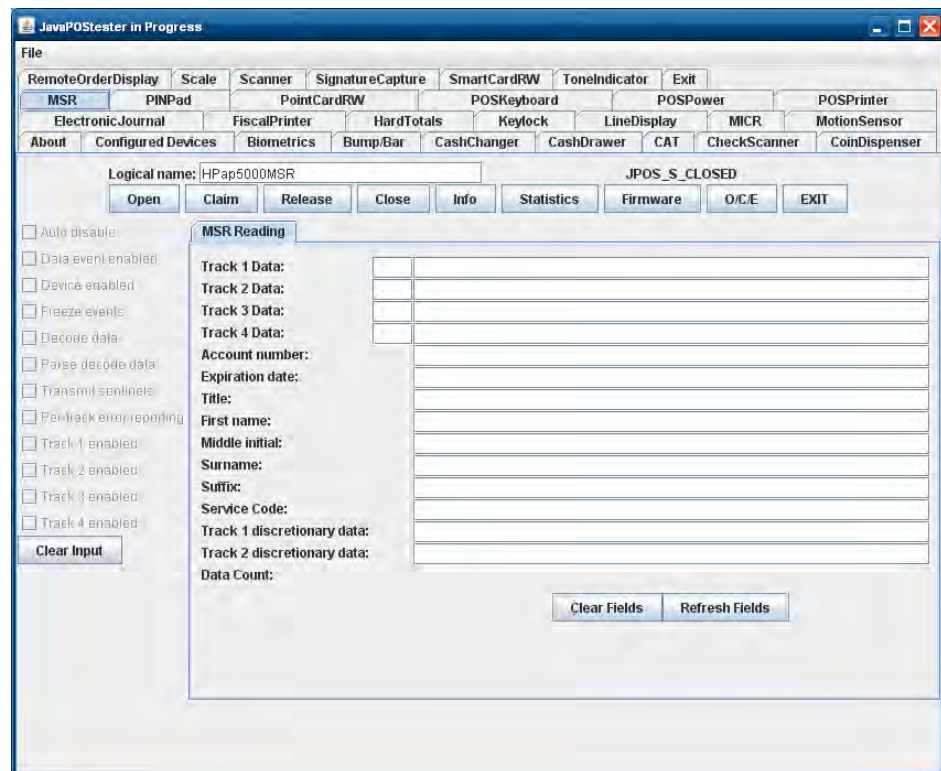
数秒後、JPOSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



2. [MSR]タブをクリックします。



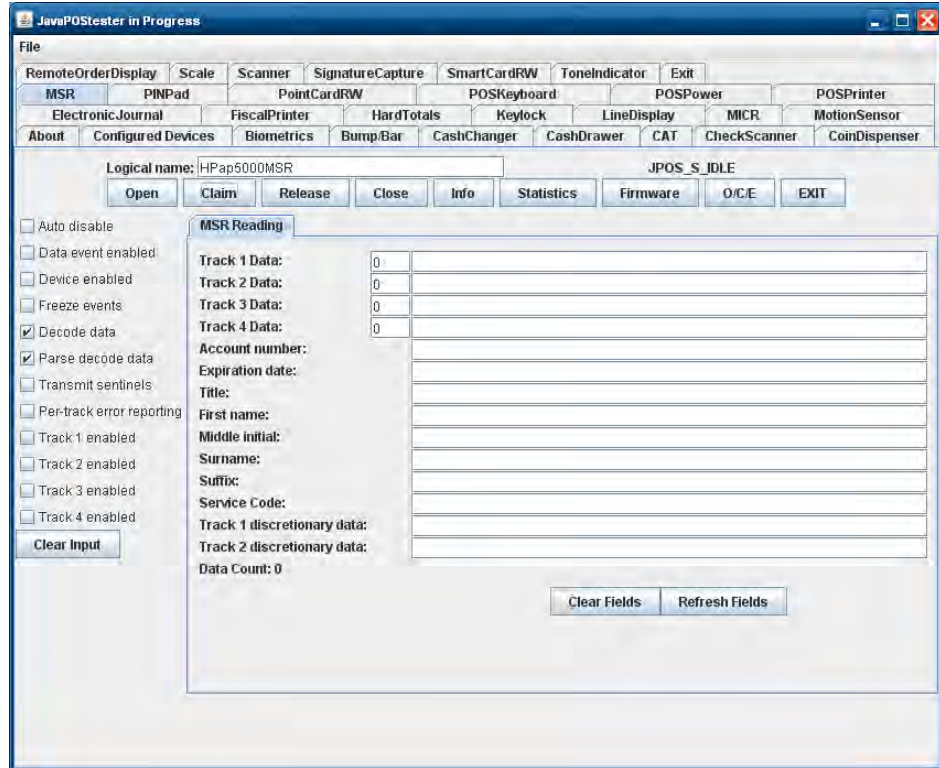
3. [MSR]タブをクリックした後、画面は以下のようになります。



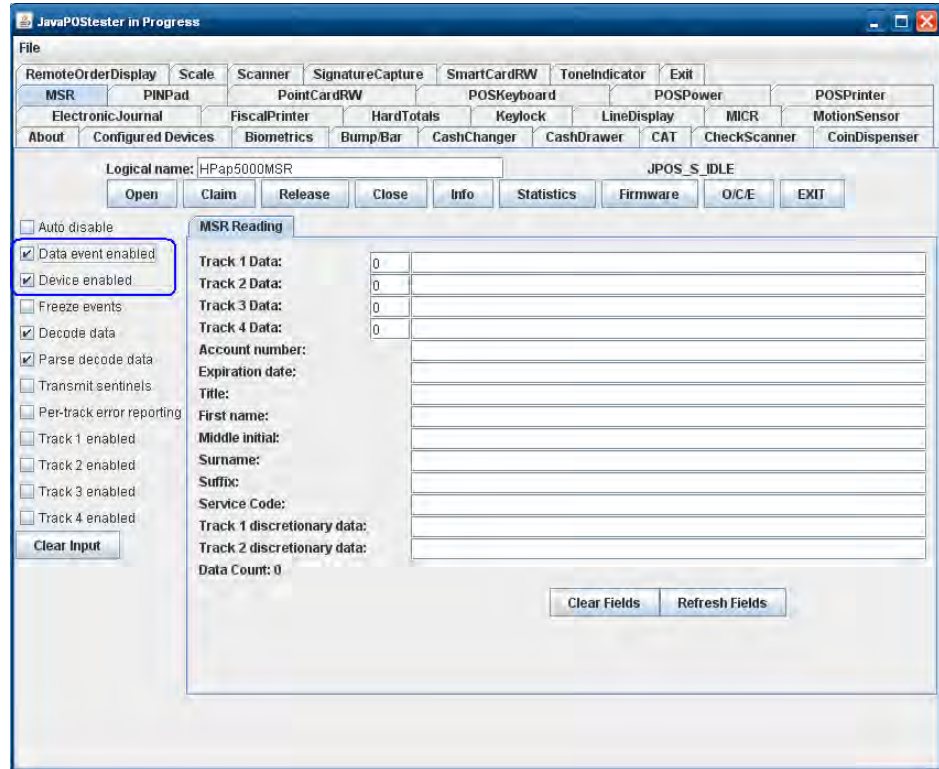


デバイスの論理名は「HPap5000MSR」です。[Logical name]（論理名）フィールドにこの名前が表示されていることを確認します。別の名前が表示されている場合は、論理名を「HPap5000MSR」に変更します。[Configured Device]（設定済みデバイス）タブをクリックすると、テスト ユーティリティで使用されるデバイスの名前が表示されます。

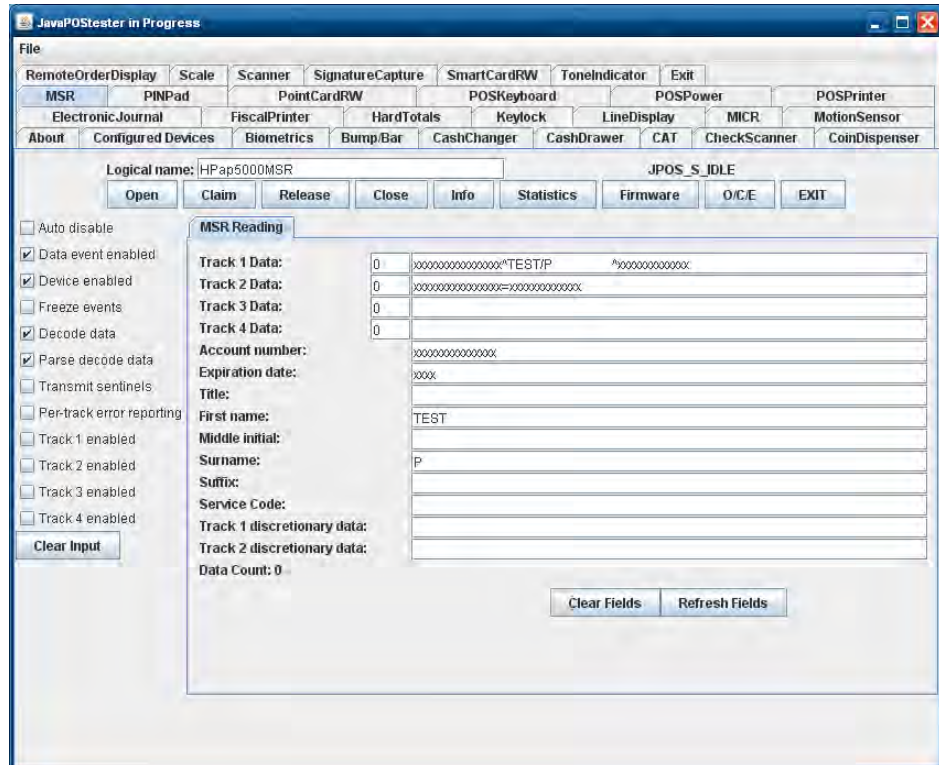
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Claim]ボタンをクリックします。



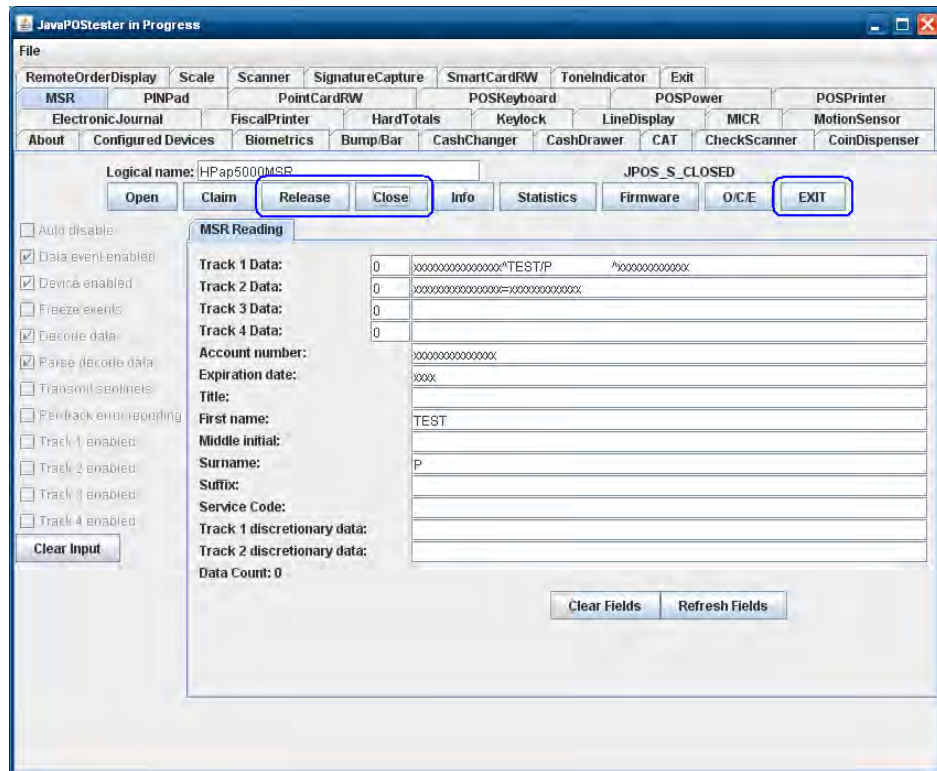
6. [Data event enabled]チェックボックスにチェックを入れます。
7. [Device enabled]チェックボックスにチェックを入れます。



8. クレジットカードをスワイプし、フィールドにテキストが表示されていることを確認します。カードの種類によっては、一部のトラックフィールドに情報が表示されないこともあります。



9. [Release]→[Close]→[Exit]の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。



## 6.7 HP MSR Iシリーズ

ここでは、次のMSRについて説明します。

- HP Engage Go Mobile System MSR
- HP Engage One MSR
- HPリテール内蔵デュアルヘッド磁気ストライプリーダー
- ElitePad用HPリテール ジャケットMSR
- HP RP2内蔵シングルヘッドMSR (SREDなし)
- HP RP7シングルヘッド磁気ストライプリーダー (SREDなし)
- HP RP9内蔵デュアルヘッドMSR
- HP RP9内蔵シングルヘッドMSR
- HP USBミニ磁気ストライプリーダー (ブラケット付き)



HP Engage One MSR



HP RP9内蔵 デュアルヘッドMSR



HP RP9内蔵 シングルヘッドMSR



HP USBミニ磁気ストライプリーダー (ブラケット付き)



HPリテール内蔵デュアルヘッド  
磁気ストライプリーダー



ElitePad用HPリテール ジャケットMSR (前面および後面)



HP RP2内蔵 シングルヘッドMSR  
(SREDなし)



HP RP7シングルヘッド  
磁気ストライプリーダー (SREDなし)



HP Engage Go  
Mobile System MSR

### 6.7.1 接続

MSRは、電源供給機能付きUSBポートを含む、空いているどのUSBポートにも接続できます。電源供給機能付きUSBポートを使用する場合、電源供給機能は使用されません。オールインワン システムの場合、MSRはディスプレイの指定された空いているどのUSBポートにも接続できます。

### 6.7.2 インターフェイス

MSRでは以下のインターフェイスがサポートされています。

- USB HID
- USB HIDキーボード（初期設定）

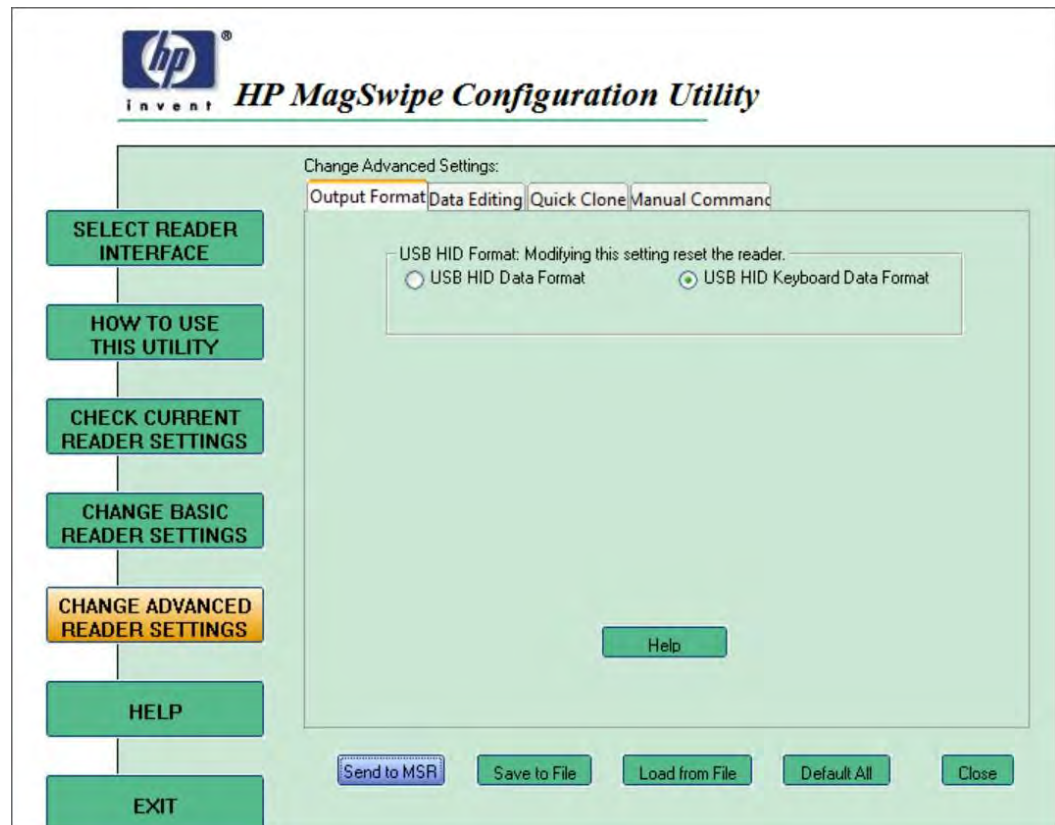
どちらのインターフェイスもOPOSでサポートされます。

### 6.7.3 設定

インターフェイスなどのMSR設定を変更するには、HP MagSwipe設定ユーティリティを使用する必要があります、このユーティリティは[HP.COM](http://HP.COM)からダウンロードされるSoftpaqを通じてのみ使用できます。

インターフェイスの変更：

[CHANGE ADVANCED READER SETTINGS]（拡張リーダー設定の変更）ボタンをクリックし、選択してから[Send to MSR]（MSRに送信）ボタンをクリックします。

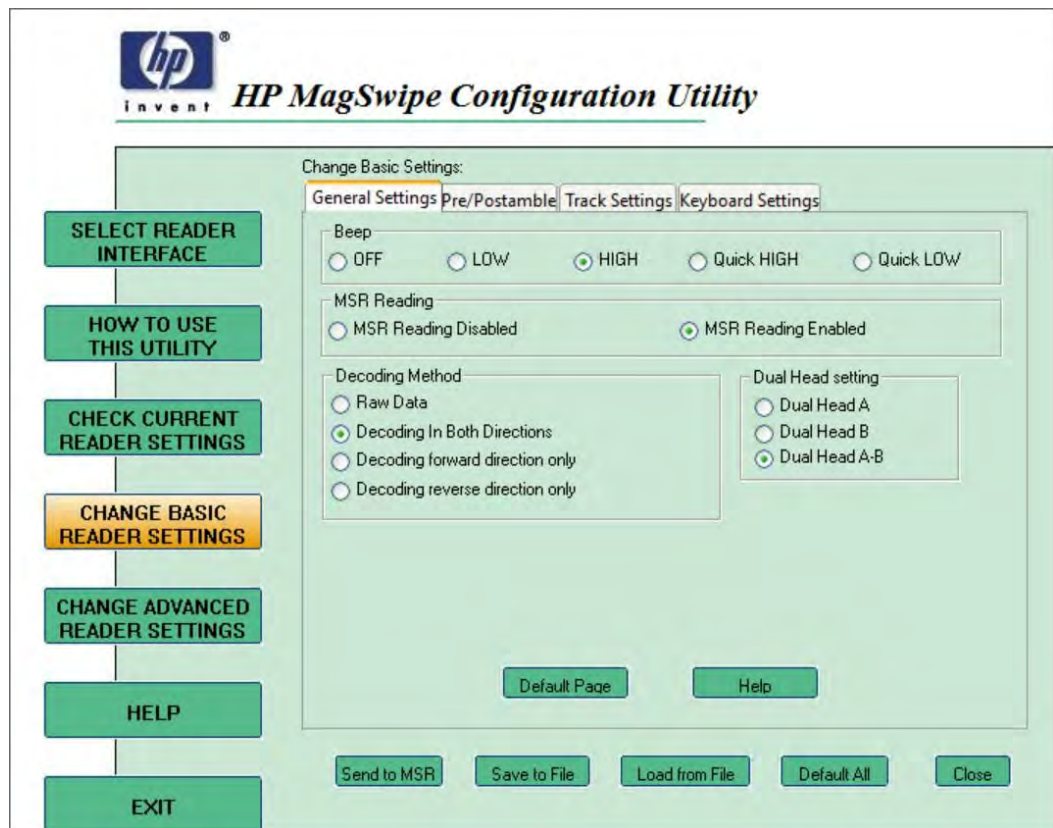




デュアルヘッド設定の変更：

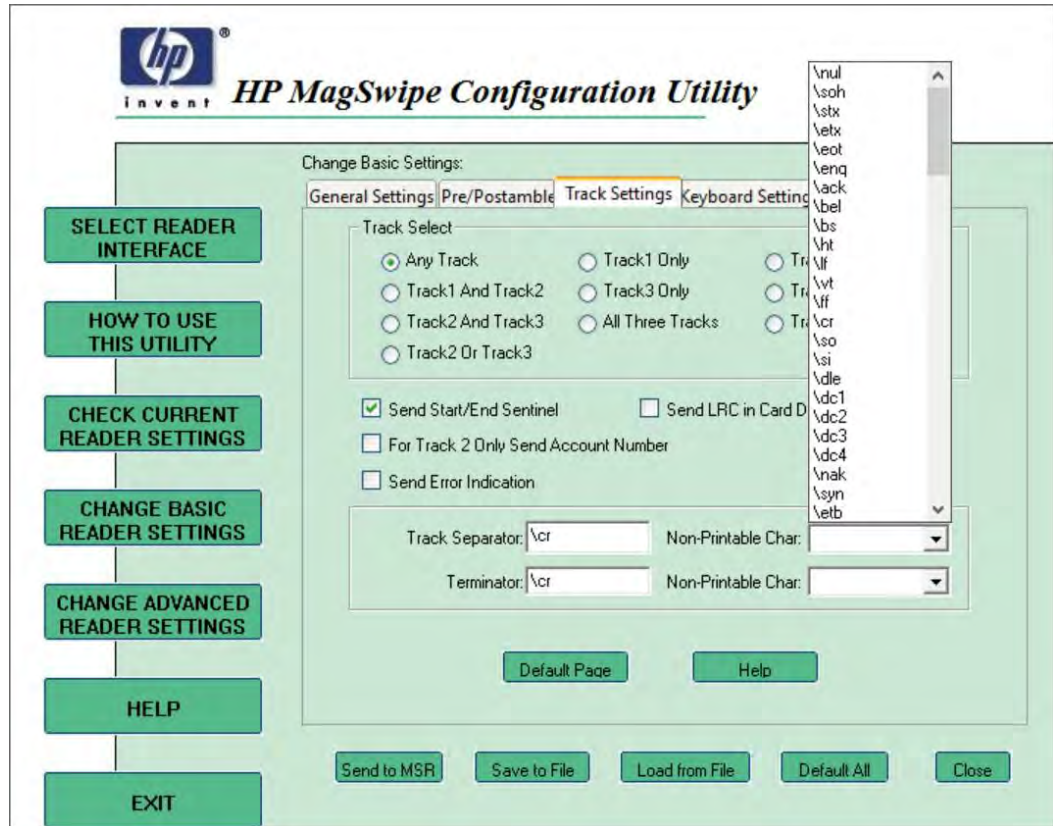


[CHANGE BASIC READER SETTINGS] (基本リーダー設定の変更) ボタンをクリックし、選択してから [Send to MSR] ボタンをクリックします。



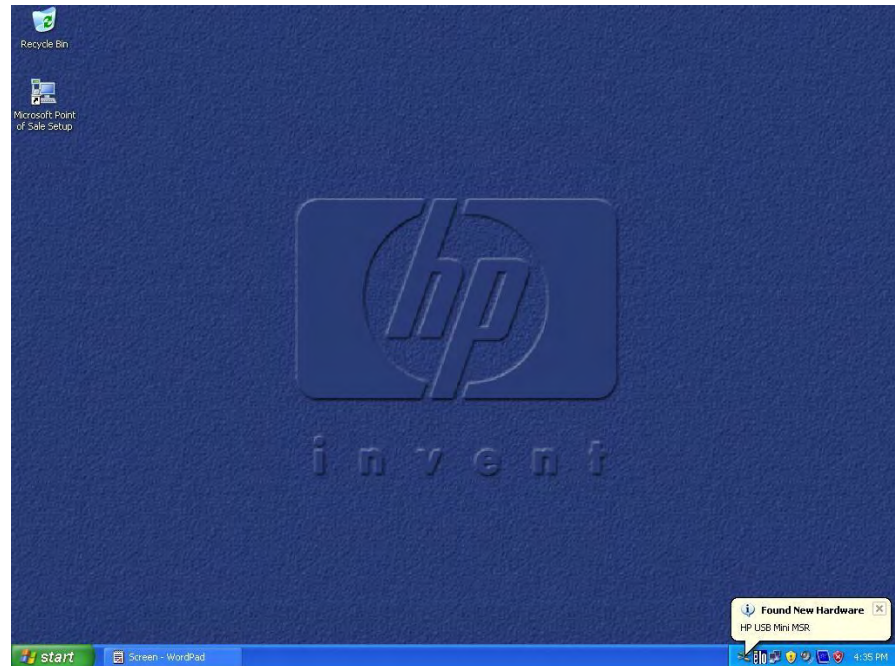
トラックセパレーターおよびターミネータの変更：

[CHANGE BASIC READER SETTINGS]ボタンをクリックして[Track Settings]（トラック設定）タブをクリックし、[Non-Printable Char]（印刷不能文字）ドロップダウンから選択するか、使用する区切り文字を入力し、[Send to MSR]ボタンをクリックします。



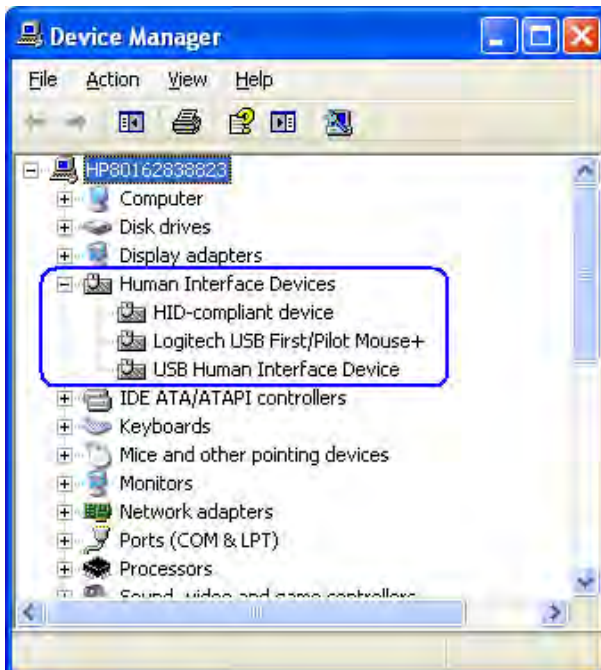
## 6.7.4 Windowsドライバー

MSRはWindowsオペレーティング システムでヒューマン インターフェイス デバイス (HID) としてネイティブでサポートされます。ドライバーのインストール時にWindowsの新しいハードウェア ウィザードが表示された場合は、ユーザーはハードウェア ウィザードのGUIで表示される初期設定を受け入れる必要があります (最初の画面で[いいえ]のオプションを選択することもできます)。これによって、ネイティブドライバーが読み込まれます。詳しくは、「[ネイティブドライバーの場所を確認するメッセージが表示された場合 \(新しいハードウェア ウィザード\)](#)」のセクションを参照してください。

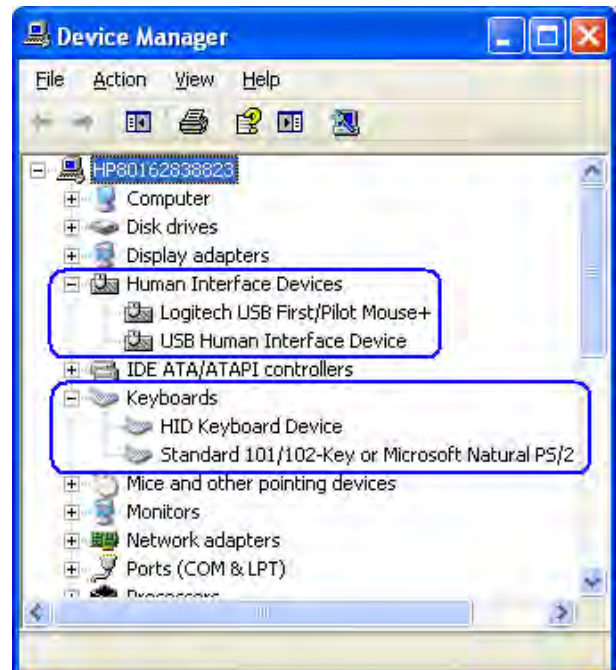


以下の図に、MSR用にすべてのドライバーが読み込まれた後のWindowsの[デバイス マネージャー]の画面を示します。

USB HIDインターフェイス



USB HIDキーボードインターフェイス





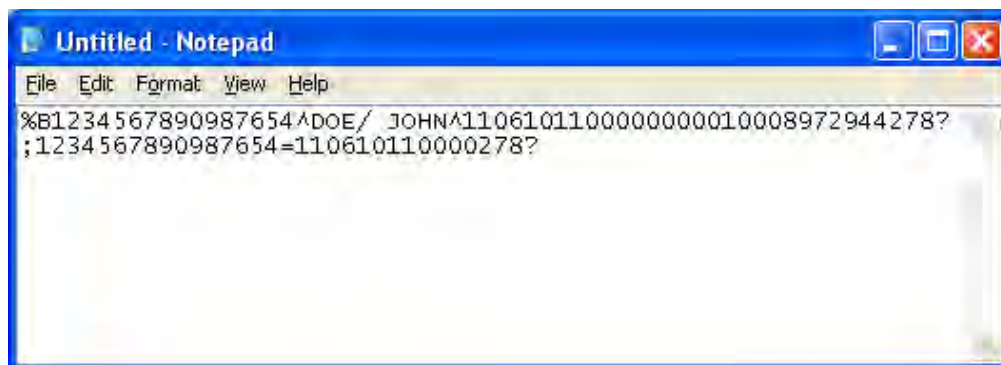
## 6.7.5 MSR用のOPOSドライバー

MSR OPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

## 6.7.6 MSRのテスト

### 6.7.6.1 USB HIDキーボードインターフェイスでのMSRのテスト

Microsoftの[メモ帳]を開き、カードをスワイプします。以下の例に示すようなデータが表示された場合、MSRインターフェイスはUSB HIDキーボードであることが確認できます。



[メモ帳]に何も表示されない場合、MSRインターフェイスはおそらくUSB HIDに設定されています。必要な場合はHP MagSwipe設定ユーティリティを使用してMSRインターフェイスを確認し、USB HIDキーボードとして再設定してください。

### 6.7.6.2 USB HIDまたはUSB HIDキーボードインターフェイスでのMSRのテスト (OPOS)

MSR用のOPOSドライバーは、USB HIDとUSB HIDキーボード インターフェイスのどちらのMSRにも対応しています。USB HIDインターフェイスのときにMSRをテストする場合、MSRがカードからデータを読み取れることを確認するには、MSRのOPOSドライバーとインターフェイスするOPOS対応アプリケーションが必要です。

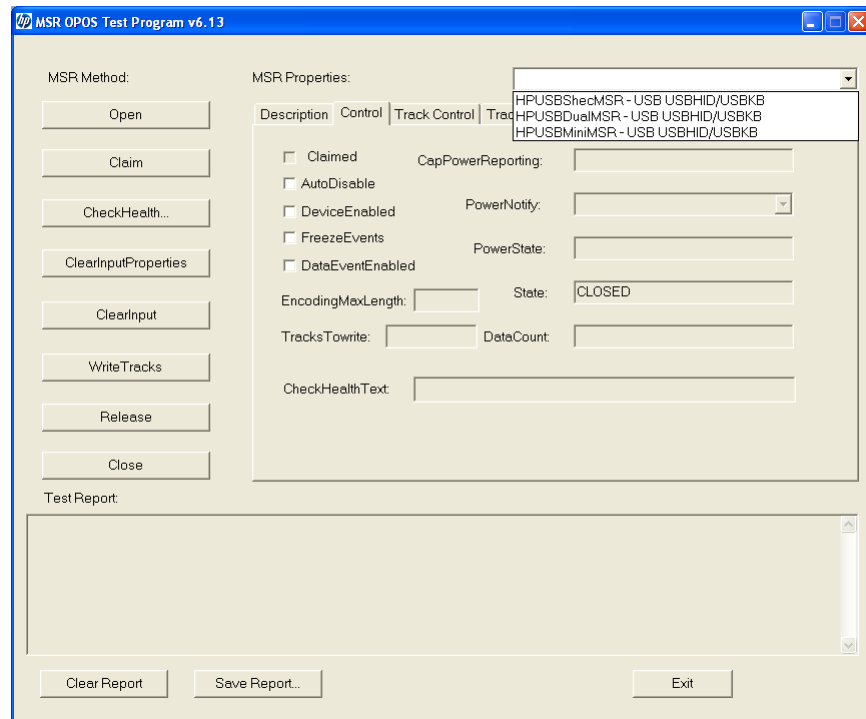
MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

1. 以下のパスのどちらかにある[MSR OPOS Test Program] (MSR OPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP MSR I-Series OPOS\MSR OPOS Test Program.exe
  - C:\xxxxx\Point of Sale\MSR (USB)\MSR OPOS Test Program\HP MSR OPOS Test Program.exe
2. ドロップダウン メニューからテストの対象となるMSR OPOS論理名を選択します。
3. [Open] (開く) ボタンをクリックします。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。
4. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。
5. [Device enabled] (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。
6. クレジットカードをスワイプします。
7. MSR OPOSテスト アプリケーションを終了するには、[Release] (リリース) →[Close] (閉じる) →[Exit] (終了) の順にボタンをクリックします。

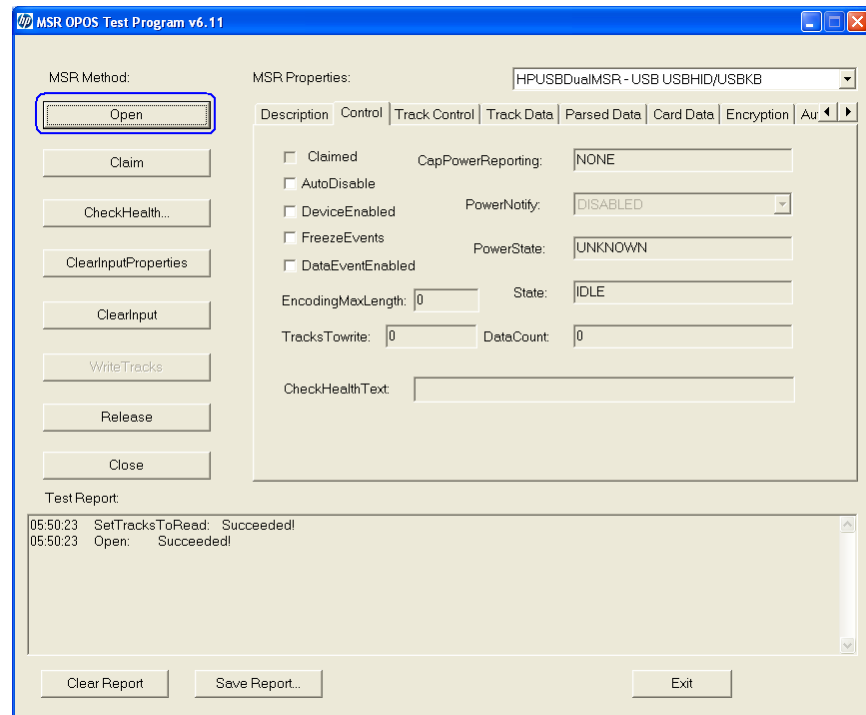
#### 詳しい手順

1. 以下のパスのどちらかにあるMSR OPOS Test Programを開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP MSR I-Series OPOS\MSR OPOS Test Program.exe
  - C:\xxxxx\Point of Sale\MSR (USB)\MSR OPOS Test Program\HP MSR OPOS Test Program.exe

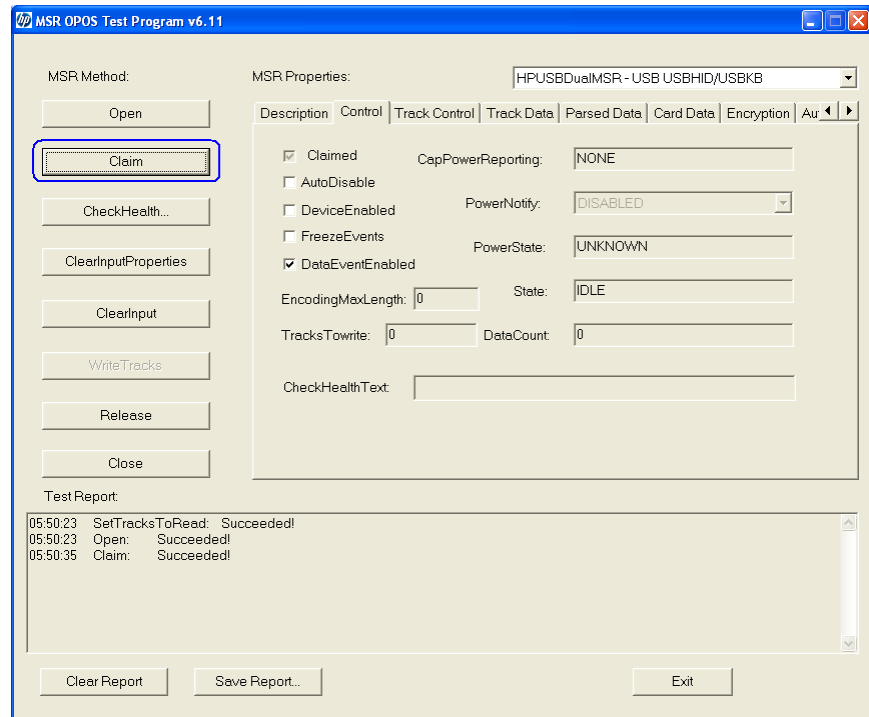
2. ドロップダウンメニューからテストの対象となるMSR OPOS論理名を選択します。



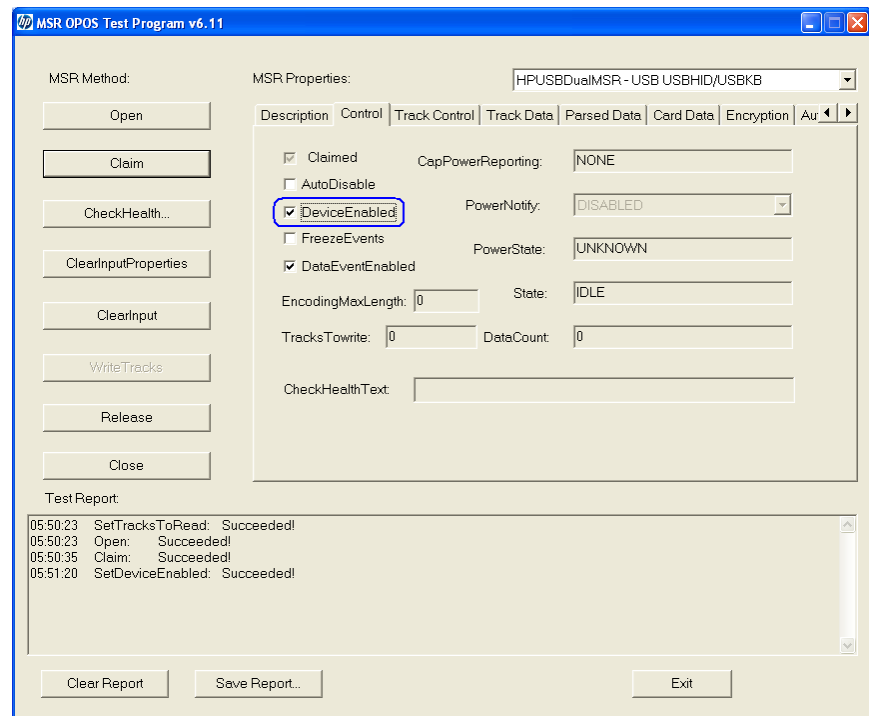
3. [Open]ボタンをクリックします。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。



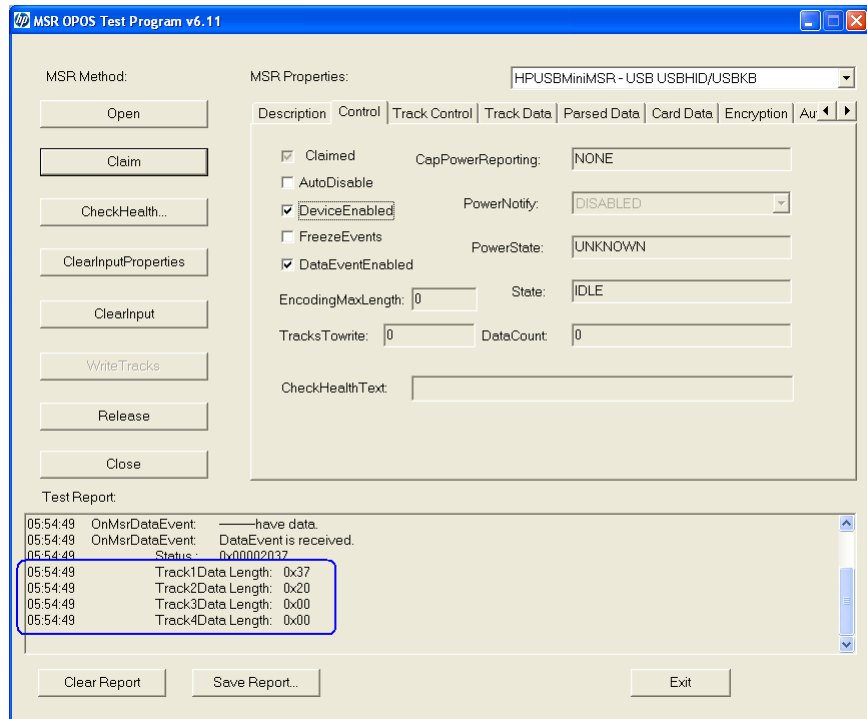
4. [Claim]ボタンをクリックします。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。



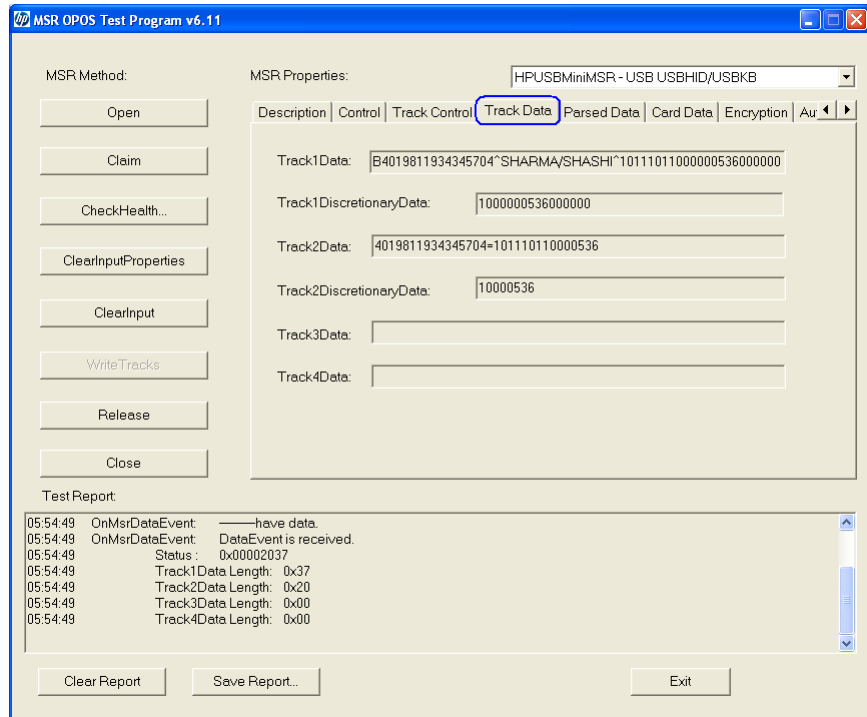
5. [Device enabled]チェック ボックスにチェックを入れます。正常な場合は、[OPOS\_SUCCESS]というメッセージが表示されます。

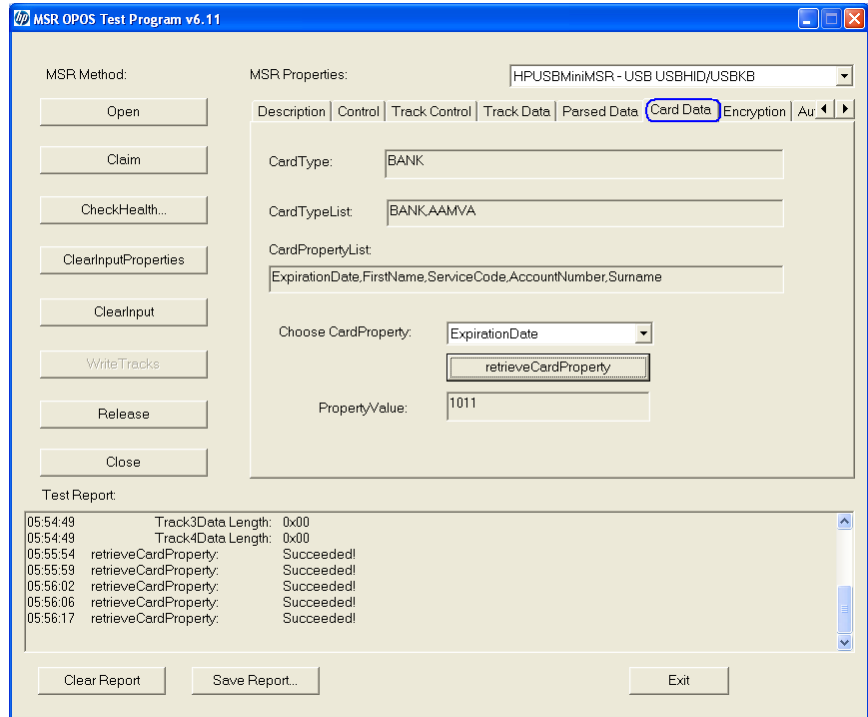
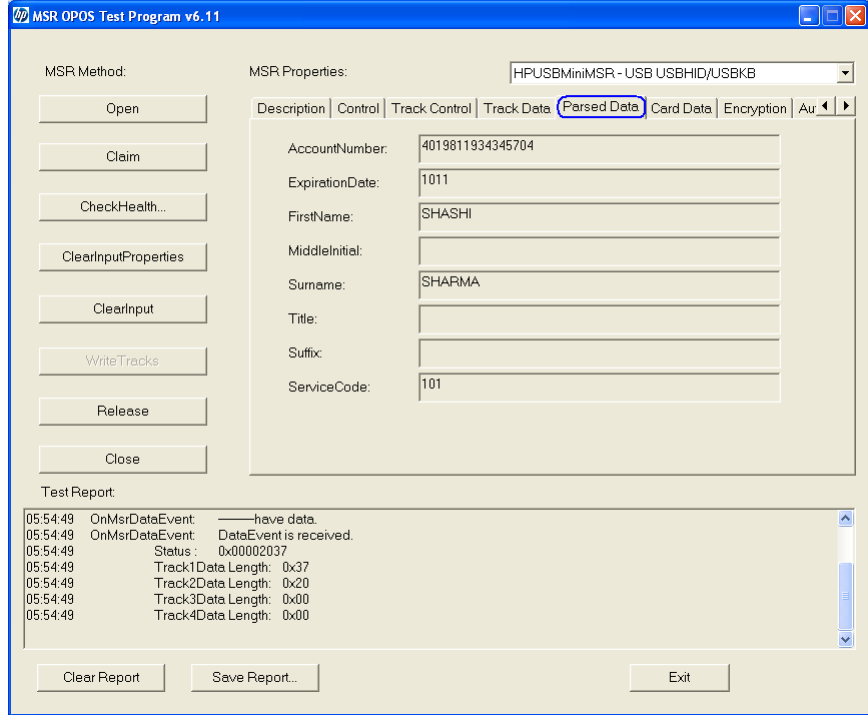


6. クレジットカードをスワイプします。

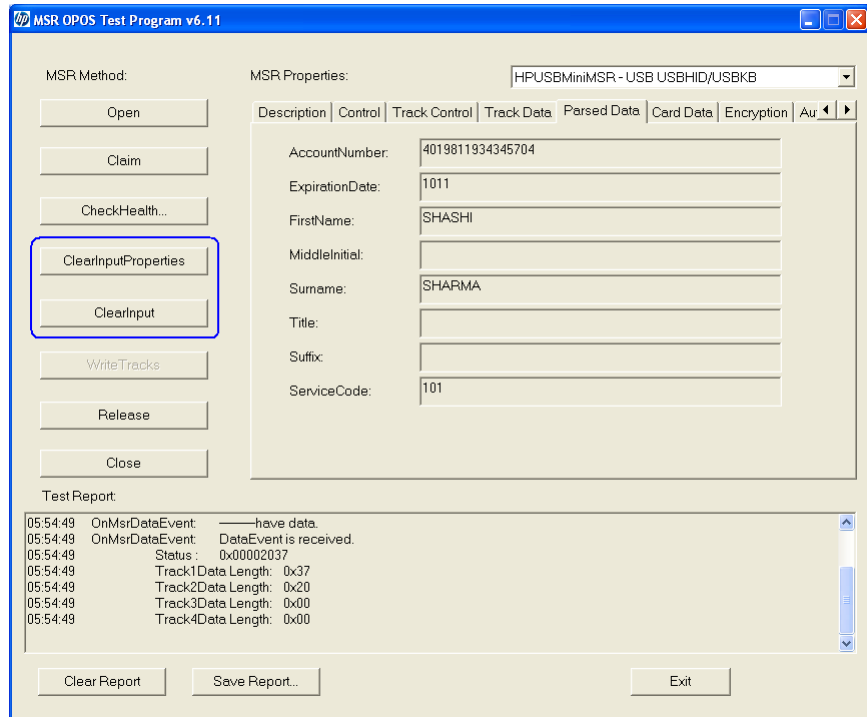


[Track Data] (データ追跡) タブをクリックし、読み取られたデータを確認します。

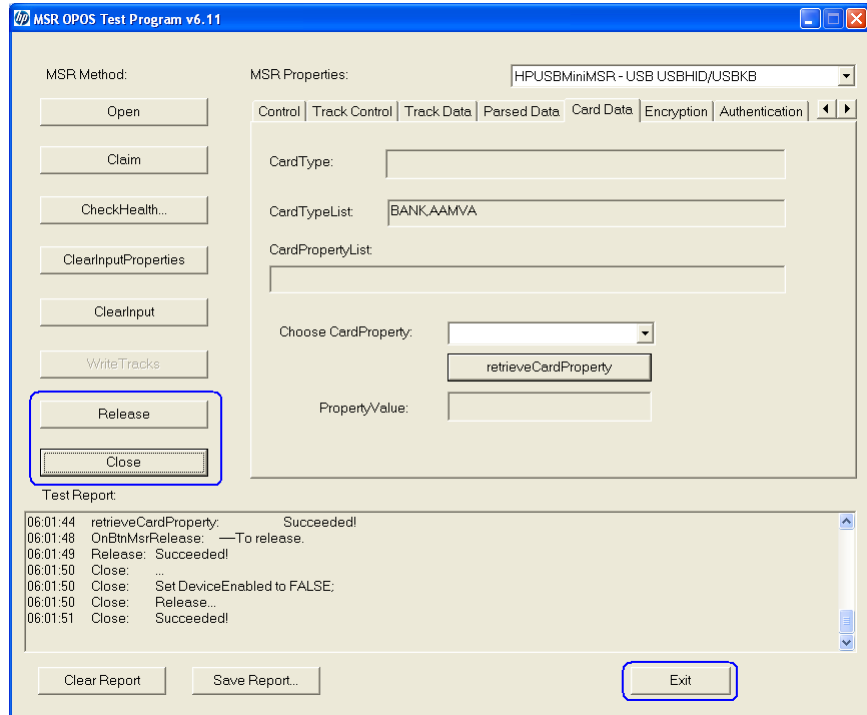




別のカードのスイープをテストする場合、[ClearInputProperties]および[ClearInput]ボタンをクリックしてテスト アプリケーションに表示されているすべてのデータを削除することを推奨します。



- MSR OPOSテスト アプリケーションを終了するには、[Release]→[Close]→[Exit]の順にボタンをクリックします。



## 6.7.7 MSR用JPOSドライバー

JPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

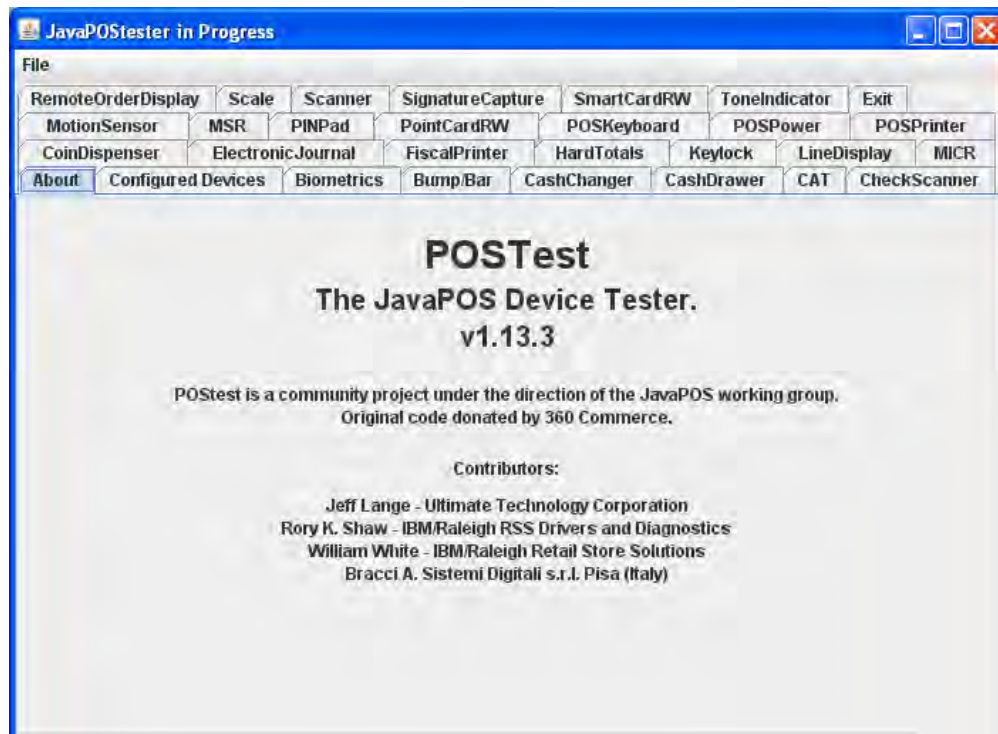
スタンドアロン パッケージまたは本体にインストールされているOPOSドライバーのどちらかを使用して、[MSR Keyboard Base Driver] (MSRキーボード ベース ドライバー) を本体にインストールする必要があります。

MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

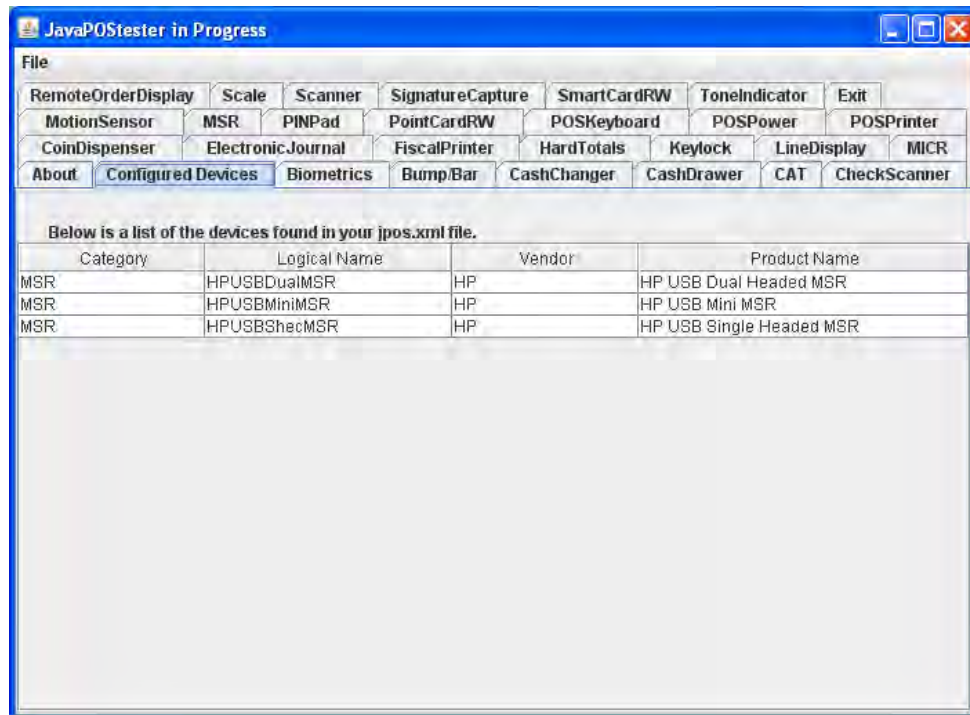
1. 以下のパスのどれかにある**[JavaPOStester]** (JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP MSR I-Series JPOS\POStest\POStest.bat.
  - C:\xxxxx\Point of Sale\MSR (USB)\MSR JPOS\JPOS\POStest\POStest.bat.
2. [Configured Device] (設定済みデバイス) タブをクリックして、デバイス名を取得します。
3. [MSR]タブをクリックします。
4. MSRの論理名を入力します (注: この項目は大文字と小文字が区別されます)。
5. [Open] (開く) ボタンをクリックします。MSRからピーブ音が数回鳴ります。
6. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。MSRからピーブ音が数回鳴ります。
7. [Data event enabled] (データ イベント有効) および[Device enabled] (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. クレジット カードをスワイプし、フィールドにテキストが表示されていることを確認します。カードの種類によっては、一部のトラック フィールドに情報が表示されないこともあります。
9. [Release] (リリース) ボタンをクリックします。
10. [Close] (閉じる) →[Exit] (終了) の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。

### 詳しい手順

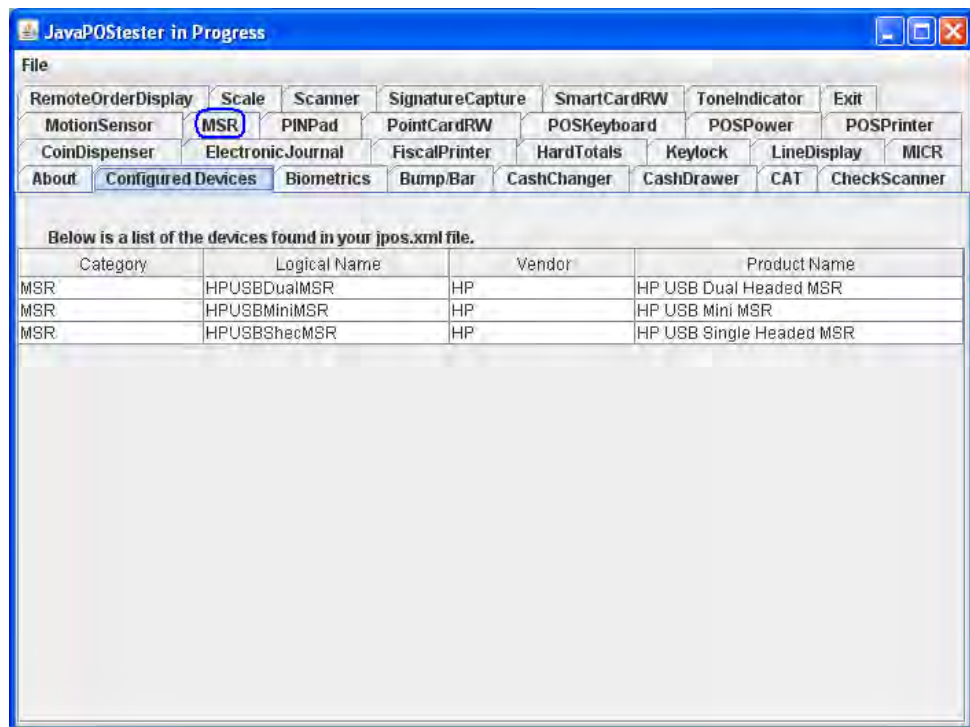
1. 以下のパスのどれかにある**[JavaPOStester]** (JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP MSR I-Series JPOS\POStest\POStest.bat.
  - C:\xxxxx\Point of Sale\MSR (USB)\MSR JPOS\JPOS\POStest\POStest.bat.



2. [Configured Device]タブをクリックして、デバイス名を取得します。

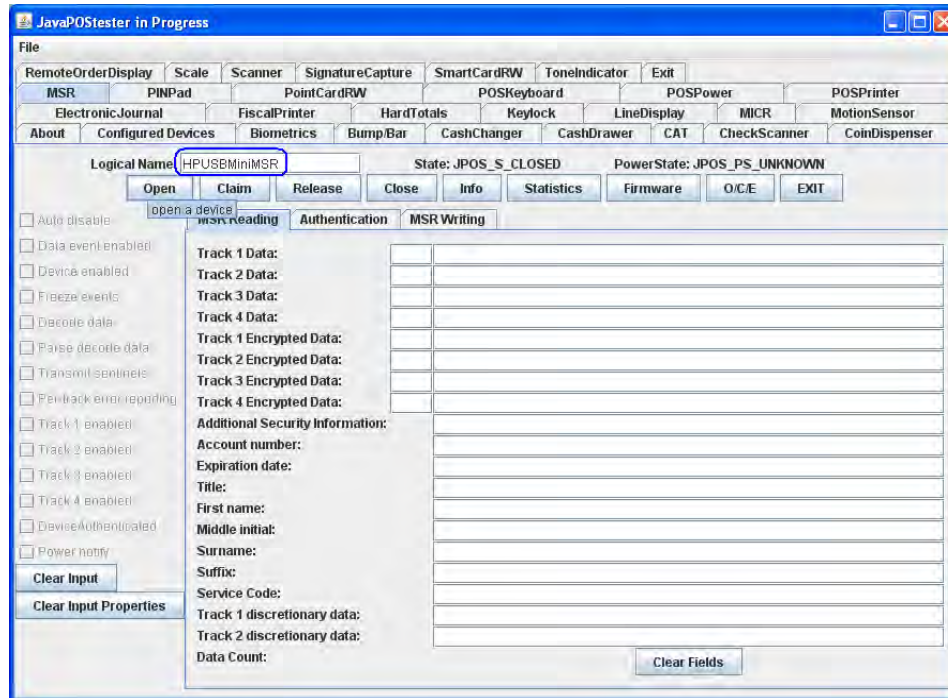


3. [MSR]タブをクリックします。

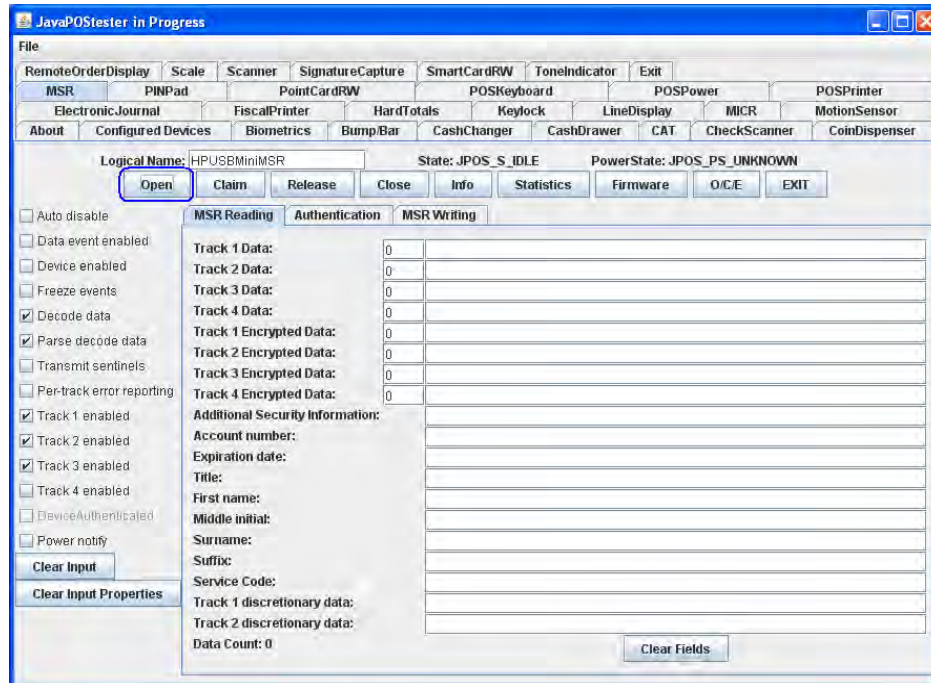




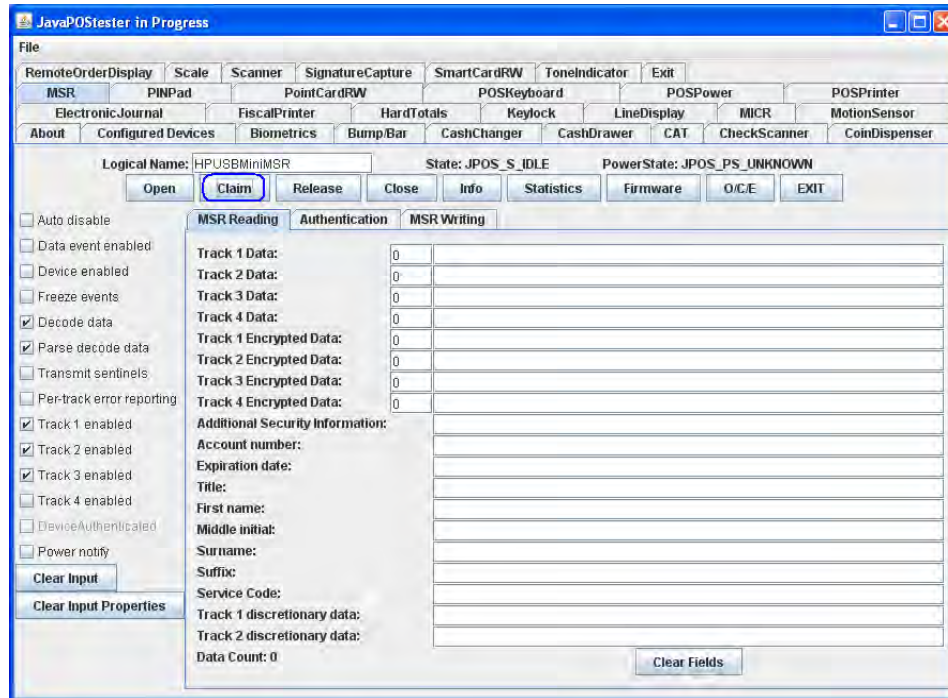
4. MSRの論理名を入力します（注：この項目は大文字と小文字が区別されます）。



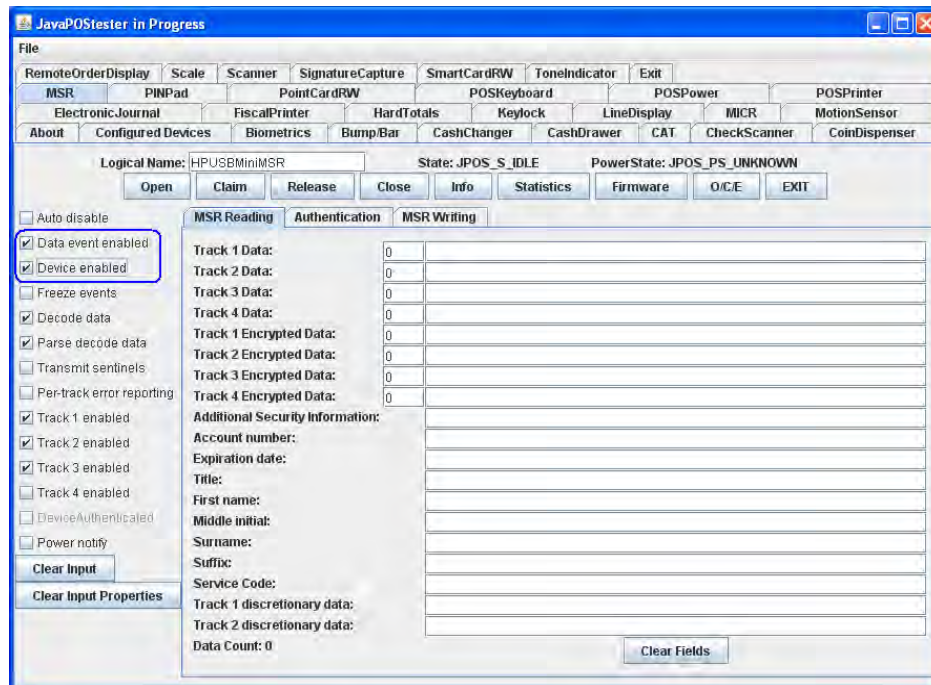
5. [Open]ボタンをクリックします。MSRからビープ音が数回鳴ります。



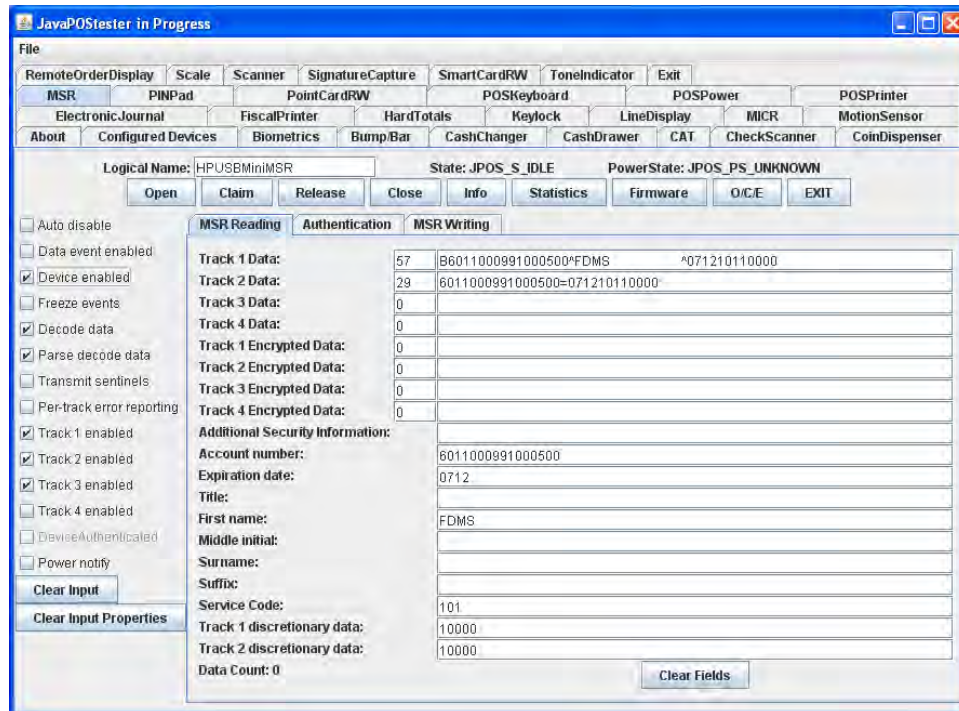
6. [Claim]ボタンをクリックします。MSRからピープ音が数回鳴ります。



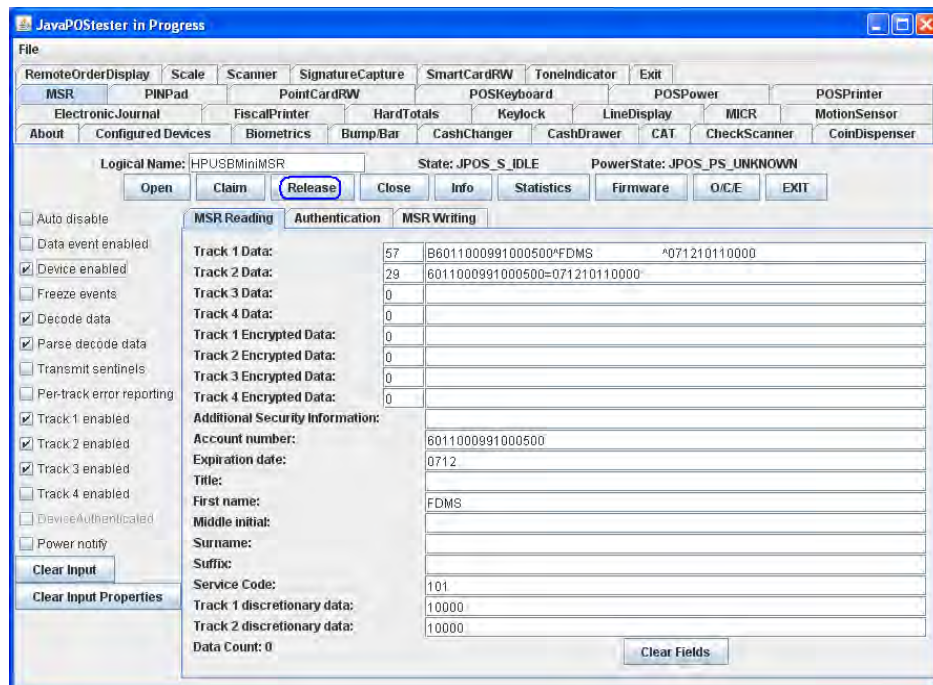
7. [Data event enabled]および[Device enabled]チェックボックスにチェックを入れます。



8. クレジット カードをスワイプし、フィールドにテキストが表示されていることを確認します。カードの種類によっては、一部のトラックフィールドに情報が表示されないこともあります。

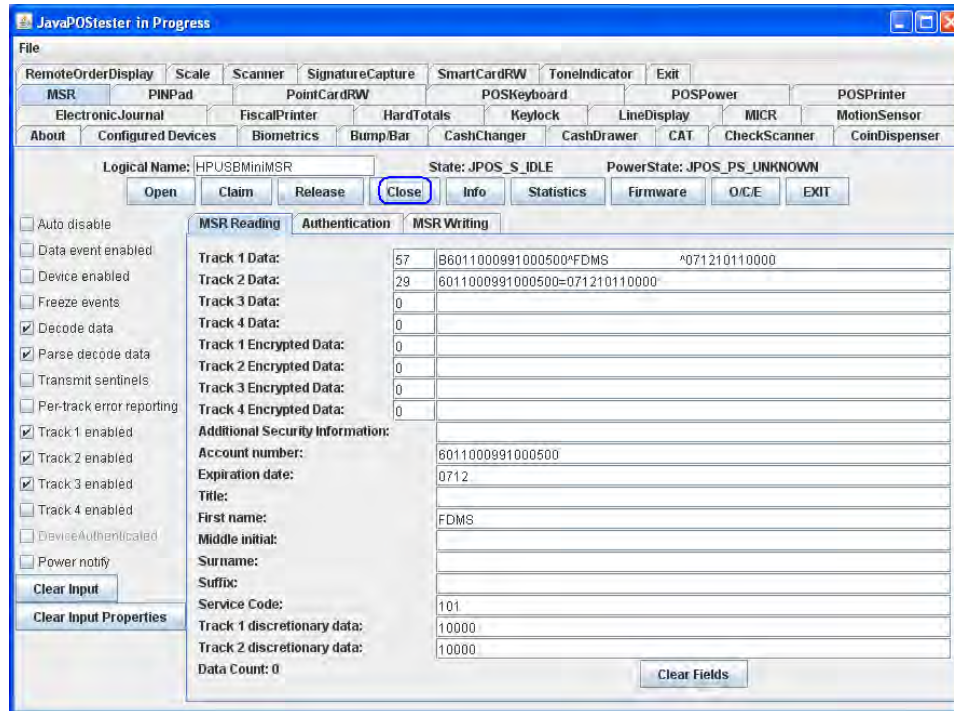


9. [Release]ボタンをクリックします。





10. [Close]→[Exit]の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。



## 6.8 HPバーコードスキャナー（レーザー1D）

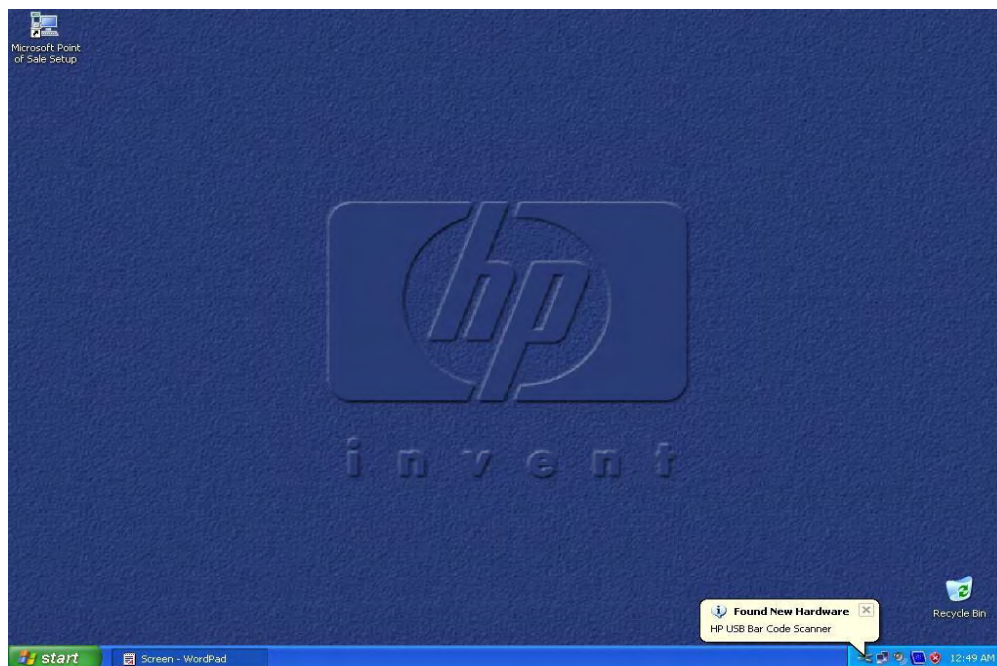


### 6.8.1 接続

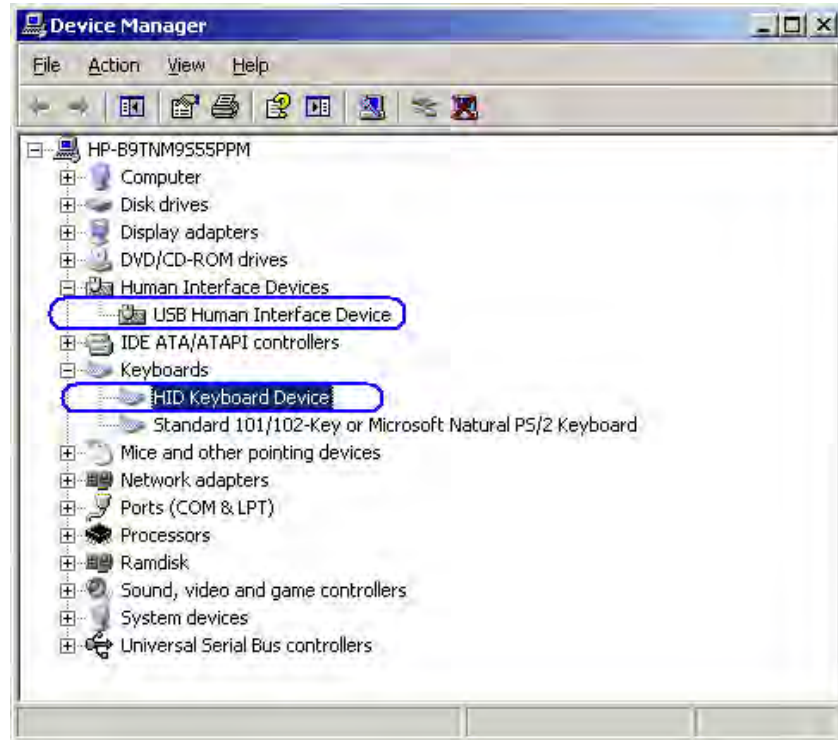
バーコード スキャナーは、空いているどのUSBポートにも接続できます。バーコード スキャナーを5Vの電源供給機能付きUSBポートに接続することもできます。ただし、この場合はUSBポートの電源供給機能が使用されません。

### 6.8.2 バーコードスキャナー用のWindowsドライバー

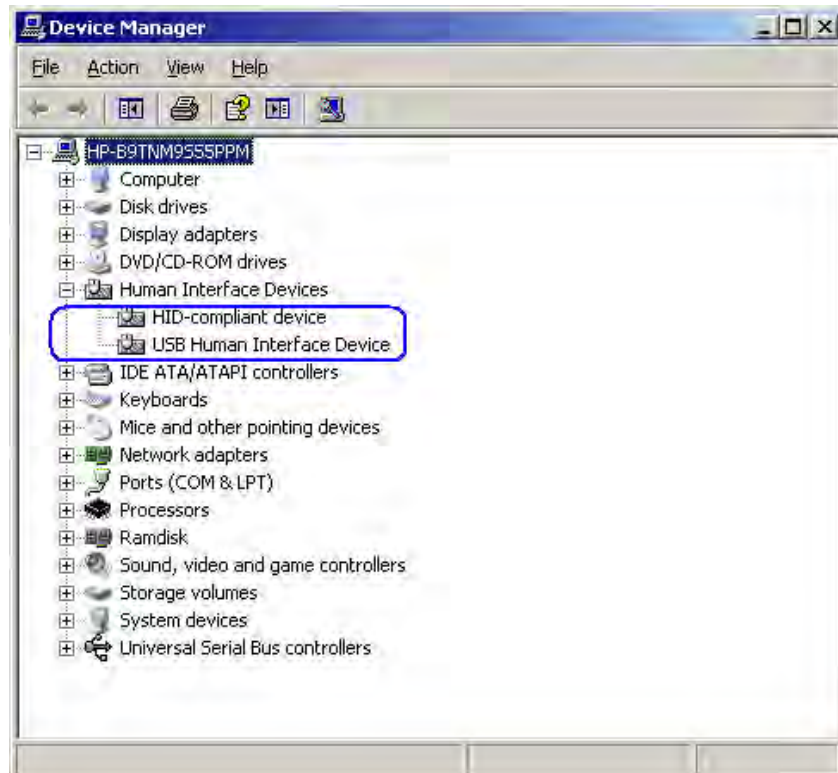
HP POSスキャナーでは、Windowsオペレーティング システムのネイティブ ドライバーが使用されます。ドライバーのインストール時にWindowsの新しいハードウェア ウィザードが表示された場合は、ユーザーはハードウェア ウィザードのGUIで表示される初期設定を受け入れる必要があります（最初の画面で[いいえ]のオプションを選択することもできます）。これによって、ネイティブ ドライバーが読み込まれます。詳しくは、[「ネイティブ ドライバーの場所を確認するメッセージが表示された場合（新しいハードウェアウィザード）」](#) セクションを参照してください。



以下の図に、HP USBバーコード スキャナー（初期設定モード）用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。



以下の図に、OPOSモードのHP USBバーコード スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。



### 6.8.3 バーコード スキャナー用のOPOSドライバー

ヒューマン インターフェイス デバイス (HID) キーボード エミュレーション モード (工場出荷時の設定モード) でデバイスを使用する場合、このデバイスにOPOSドライバーは必要ありません。

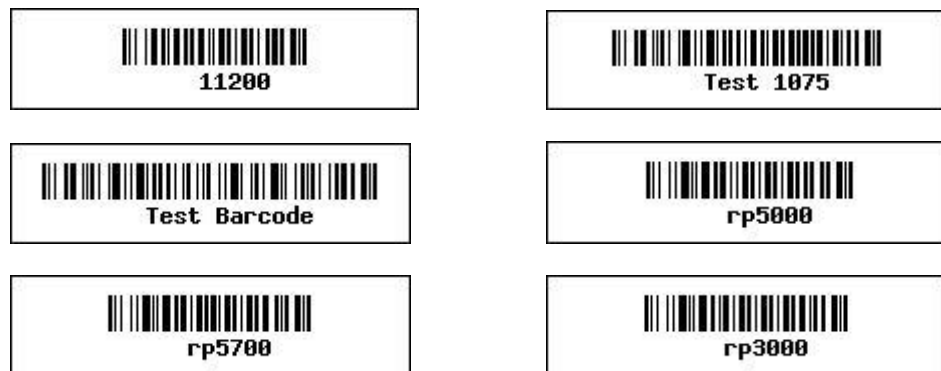
POSアプリケーションでOPOSドライバーが必要な場合、バーコード用のOPOSドライバーは[HP.COM](http://HP.COM)から入手できます。HPの工場出荷時のイメージには、ドライバーがすでにインストールされています。

### 6.8.4 バーコード スキャナーのテスト

#### 6.8.4.1 非OPOSでのバーコード スキャナーのテスト

スキャナーの工場出荷時の設定モードは非OPOSモードです。非OPOSモードのスキャナーをテストするには、スキャナーを初期設定のモードにしたまま、Microsoftの[メモ帳]などのアプリケーションを開き、スキャナーでバーコードをスキャンします。

バーコードの付いた商品が手元にない場合は、以下のバーコードの1つを使用してテストできます。



#### 6.8.4.2 OPOSでのバーコード スキャナーのテスト

バーコード スキャナーをOPOSモード (IBMハンドヘルドUSBモード) にする必要があります。スキャナーの現在のモードがわからない場合は、[メモ帳]などのアプリケーションを開き、バーコードをスキャンしてみます。スキャナーがOPOSモードの場合は、バーコードをスキャンしても[メモ帳]には何も表示されません。[メモ帳]に文字列が表示された場合は、スキャナーはHIDキーボードエミュレーションモードです。

スキャナーをOPOSモードにするには、以下のバーコードをスキャンする必要があります。



IBMハンドヘルドUSB

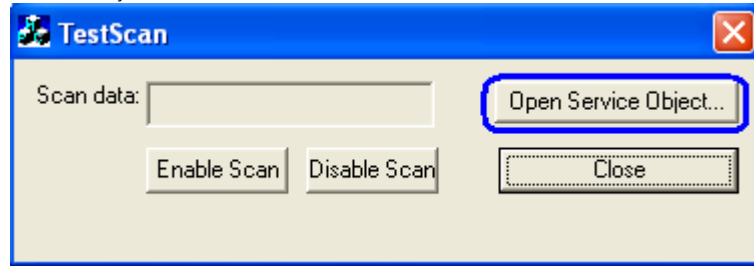
バーコード スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. Windowsのスタート メニューから、バーコード スキャナー用のOPOSテスト ユーティリティを開きます。
2. [Open Service Object] (サービスオブジェクトを開く) をクリックします。
3. サービス オブジェクト名として「HP\_USBSCANNER」が表示されたことを確認してから、[OK]をクリックします。
4. [Enable Scan] (スキャンを有効にする) をクリックします。
5. バーコードをスキャンします。

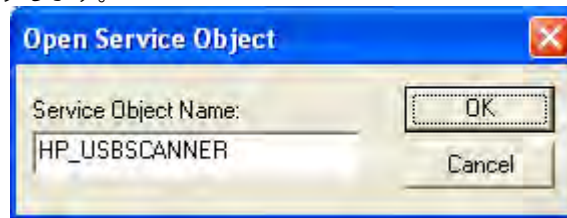
6. [Disable Scan] (スキャンを無効にする) をクリックして、OPOSテストユーティリティでのスキャンを停止します。
7. [Close] (閉じる) をクリックして、テストアプリケーションを閉じます。

#### 詳しい手順

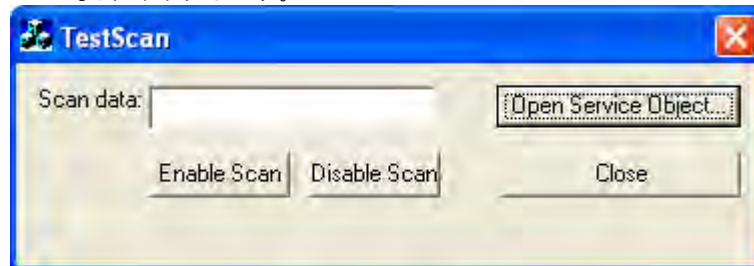
1. Windowsスタートメニューで[HP USB Barcode Scanner] (HP USBバーコードスキャナー) または[HP Point of Sale Information] (HP Point of Sale情報) メニューから、バーコードスキャナー用のOPOSテストユーティリティを開きます。
2. [Open Service Object]をクリックします。



3. サービスオブジェクト名として「HP\_USBSCANNER」が表示されたことを確認してから、[OK]をクリックします。



4. [Enable Scan]をクリックします。



5. バーコードをスキャンします。
6. [Disable Scan]をクリックして、OPOSテストユーティリティでのスキャンを停止します。
7. [Close]をクリックして、テストアプリケーションを閉じます。



## 6.8.5 バーコード スキャナー用のJPOSドライバー

JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx\Point of Sale\Barcode Scanner\Barcode Scanner JPOS) に含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

スキャナーでJPOSドライバーを使用するには、スキャナーを「IBMハンドヘルドUSB」 OPOSモードにする必要があります。スキャナーをこのモードにするには、以下のバーコードをスキャンします。



IBMハンドヘルドUSB

**注：** テスト ユーティリティが開くと、HIDScanWin32.DLLがJAVAの作業ディレクトリ「C:\Program Files\Java\xxxx\bin」にコピーされます。JAVAディレクトリは、たとえば「C:\Program Files\Java\jre1.6.0\_01\bin」です。「jre1.6.0\_01」は、本体にインストールされているバージョンを表します。

バーコード スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。JPOSテストユーティリティを起動します。

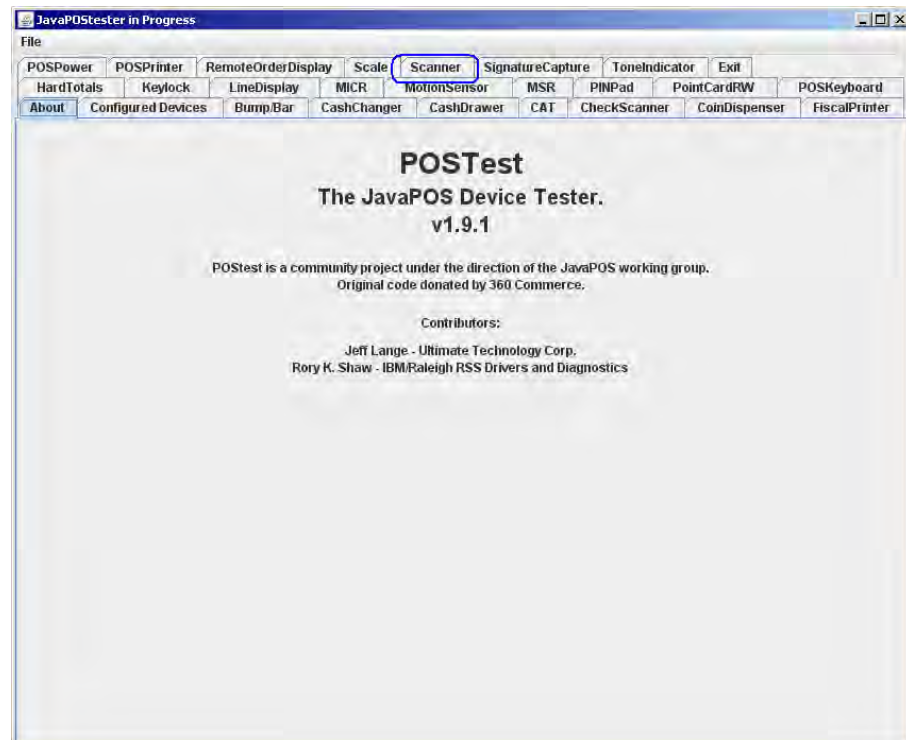
1. スタートメニューのリンクを使用して、JPOSテストユーティリティを起動します。
2. [Scanner] (スキャナー) タブをクリックします。
3. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
4. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。[Claim]ボタンをクリックした後、[Claimed] (要求済み) チェックボックスにチェックが入っていることを確認します。
5. [Device enabled] (デバイス有効) チェックボックスにチェックを入れます。
6. [Auto Data Event Enable] (自動データ イベント有効) チェックボックスにチェックを入れます。
7. [Data event enabled] (データ イベント有効) チェックボックスにチェックを入れます。
8. [Decode data] (データの読み取り) チェックボックスにチェックを入れます。
9. バーコードをスキャンします。
10. [Release] (リリース) または[Close] (閉じる) をクリックして、JPOSテスト ユーティリティを終了します。

## 詳しい手順

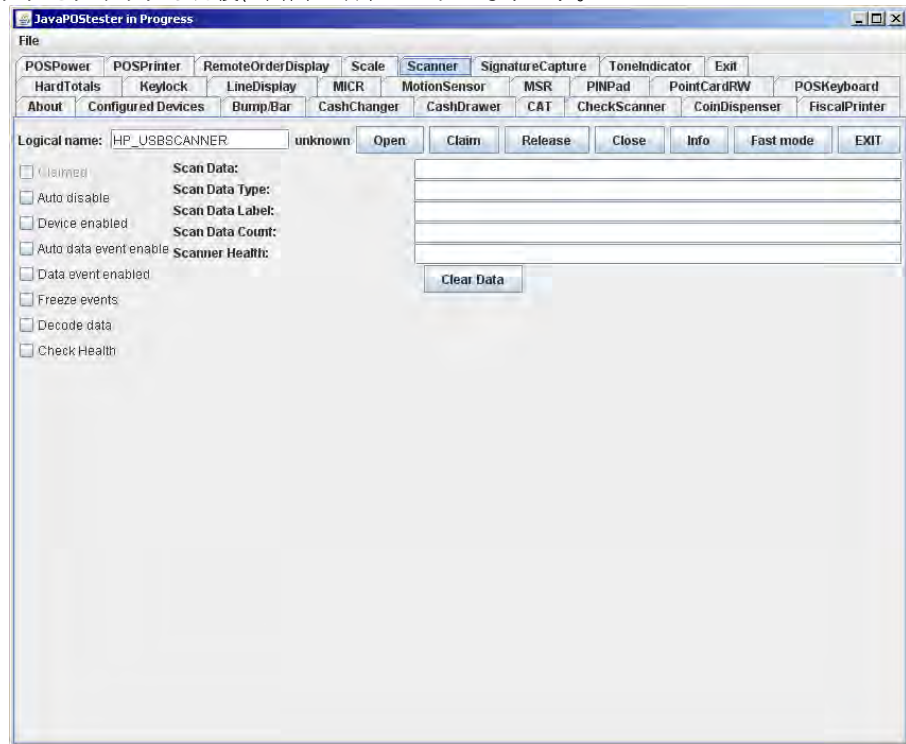
1. スタートメニューのリンクを使用するか、バーコードスキャナーのJPOSフォルダー（C:\xxxxx\Point of Sale\Barcode Scanner\Barcode Scanner JPOS フォルダー）にあるPOSTEST.BATファイルを開いて、JPOSテストユーティリティを起動します。数秒後、JPOSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



2. [Scanner]タブをクリックします。



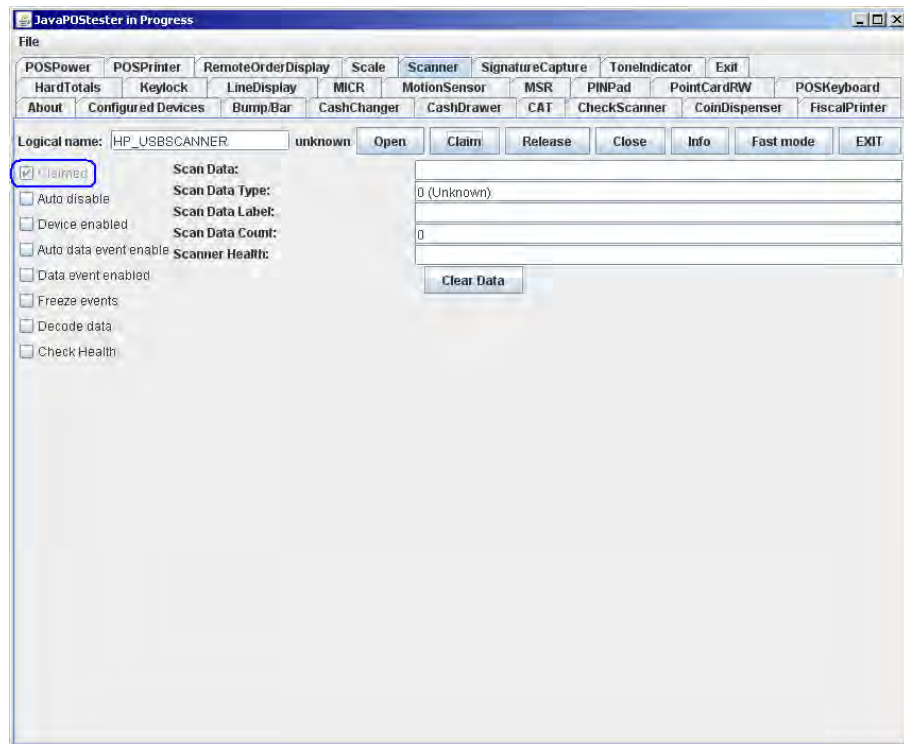
[Scanner]タブをクリックした後、画面は以下のようになります。



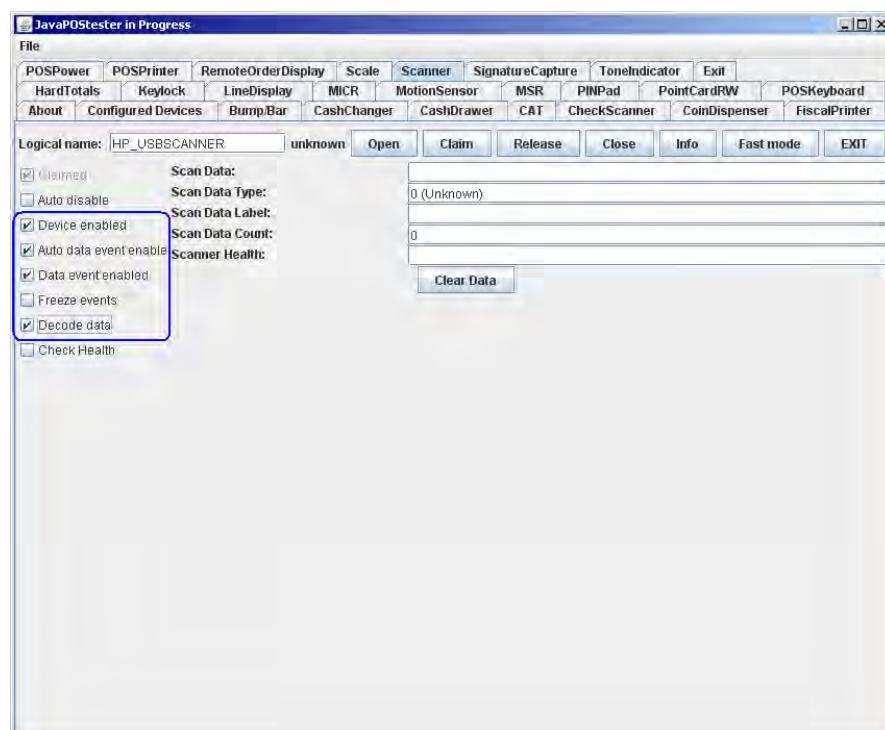
デバイスの論理名は「HP\_USBSCANNER」です。[Configured Device]タブをクリックすると、テストユーティリティで使用されるデバイスの名前が表示されます。

3. [Open]ボタンをクリックします。

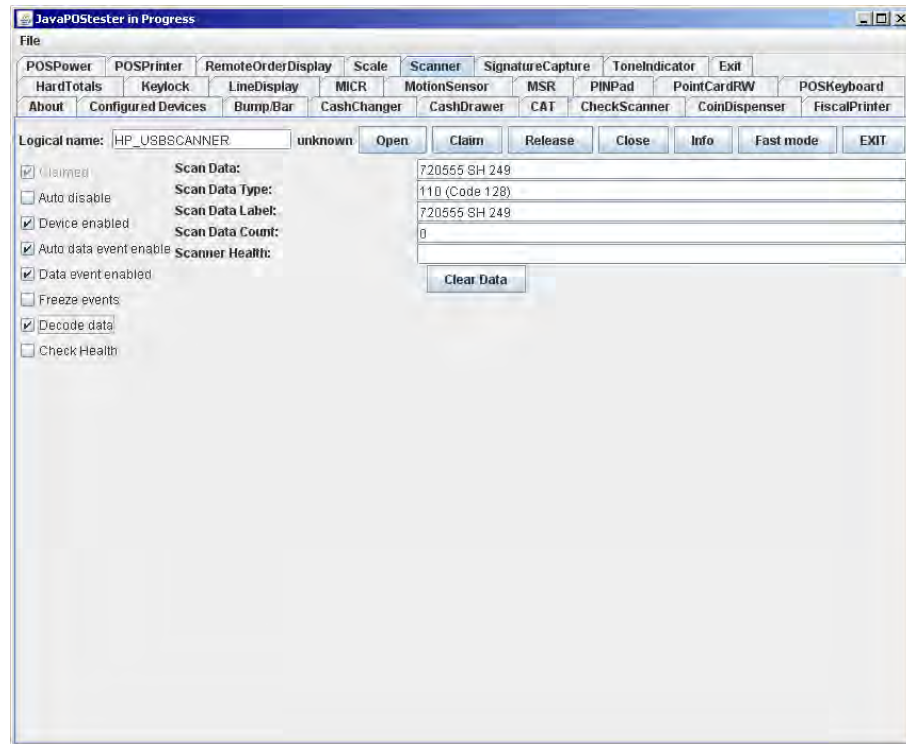
- [Claim]ボタンをクリックします。[Claimed]チェック ボックスにチェックが入っていることを確認します。



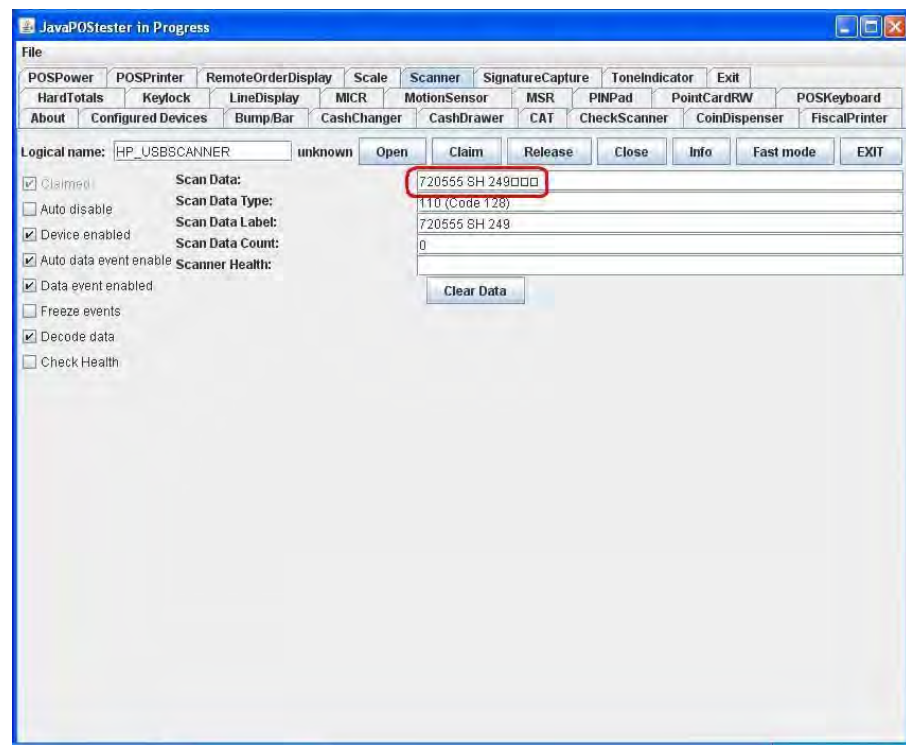
- [Device enabled]チェック ボックスにチェックを入れます。
- [Auto Data Event Enable]チェック ボックスにチェックを入れます。
- [Data event enabled]チェック ボックスにチェックを入れます。
- [Decode data]チェック ボックスにチェックを入れます。



9. バーコードをスキャンします。



インストールされているフォントによっては、[Scan Data] (スキャン データ) の行末にブロック文字が表示される場合がありますが、これは問題ありません。たとえば、以下のようになります。



10. [Release]または[Close]をクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。

## 6.9 HPバーコード スキャナーHシリーズ

ここでは、以下のバーコード スキャナーについて説明します。

- HP Engage Go Mobile Systemバーコード スキャナー
- HP Engage One 2Dバーコード スキャナー
- HP Engage One W 2Dバーコード スキャナー



HP Engage Go Mobile System  
バーコード スキャナー



HP Engage One 2D  
バーコード スキャナー



HP Engage One W 2D  
バーコード スキャナー

### 6.9.1 接続

バーコード スキャナーは、電源供給機能付きUSBポートを含む、空いているどのUSBポートにも接続できます。電源供給機能付きUSBポートを使用する場合、電源供給機能は使用されません。

### 6.9.2 インターフェイス

バーコード スキャナーでは以下のインターフェイスがサポートされています。

- USB COM
- USB複合デバイス（初期設定）
- USB HID POS

### 6.9.3 設定

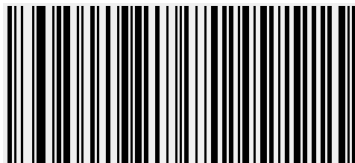
インターフェイスなどのバーコード スキャナーの構成設定を変更するには、以下の3つの方法を利用できます。

- このドキュメントに記載されている共通の設定バーコード。
- [HP.COM](http://HP.COM)から入手できるプログラミングリファレンスガイド
- HP EZConfig ([HP.COM](http://HP.COM)からダウンロードするSoftpaqを通じてのみ利用可能)

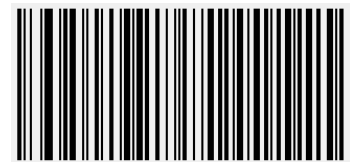
共通の設定バーコード：



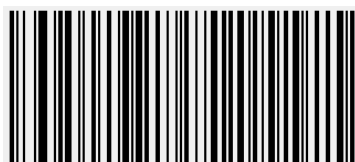
初期設定



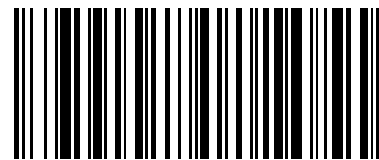
USB COM



USB HID POS



USB複合デバイス



ソフトウェア改訂の表示



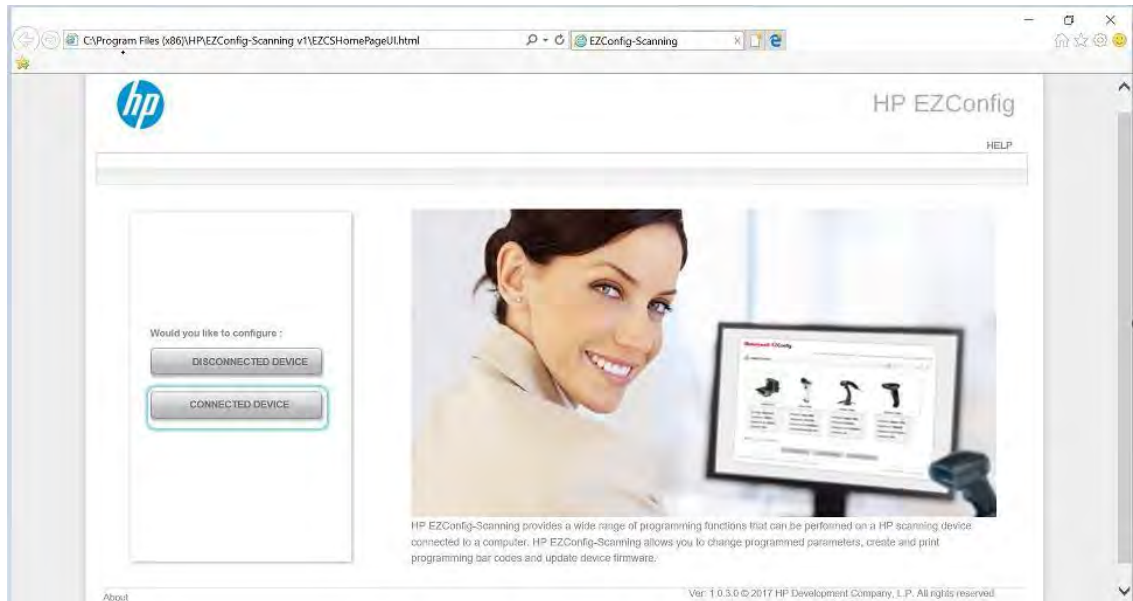
プレゼンテーションモード



手動トリガーモード

## HP EZConfig :

- **[CONNECTED DEVICE]** (接続済みデバイス) ボタンをクリックしてデバイスの設定を開始します。





#### 6.9.4 Windowsドライバー

USB複合デバイスおよびUSB HID POSインターフェイスの場合、Windowsオペレーティングシステムドライバーが使用されます。USB COMインターフェイスの場合、HPバーコード スキャナーHシリーズUSB COMドライバーが必要です。これはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

デバイス	インターフェイス	デバイスマネージャー
HP Engage Go Mobile System バーコード スキャナー	USB COM	ポート (COMおよびLPT) HPバーコード スキャナーN660X (COMx)
	USB複合デバイス (初期設定)	キーボード HIDキーボード デバイスPOSバーコード スキャナー POS HIDバーコード スキャナー
	USB HID POS	POSバーコード スキャナー POS HIDバーコード スキャナー
HP Engage One 2D バーコード スキャナー  HP Engage One W 2D バーコード スキャナー	USB COM	ポート (COMおよびLPT) HPバーコード スキャナーN3680 (COMx)
	USB複合デバイス (初期設定)	キーボード HIDキーボード デバイスPOSバーコード スキャナー POS HIDバーコード スキャナー
	USB HID POS	POSバーコード スキャナー POS HIDバーコード スキャナー

#### 6.9.5 OPOS

HPバーコード スキャナーHシリーズOPOSはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。OPOSは、USB COMまたはUSB HID POSインターフェイスと一緒にのみ使用できます。

#### 6.9.6 JPOS

HPバーコード スキャナーHシリーズJPOSはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。JPOSは、USB COMまたはUSB HID POSインターフェイスと一緒にのみ使用できます。

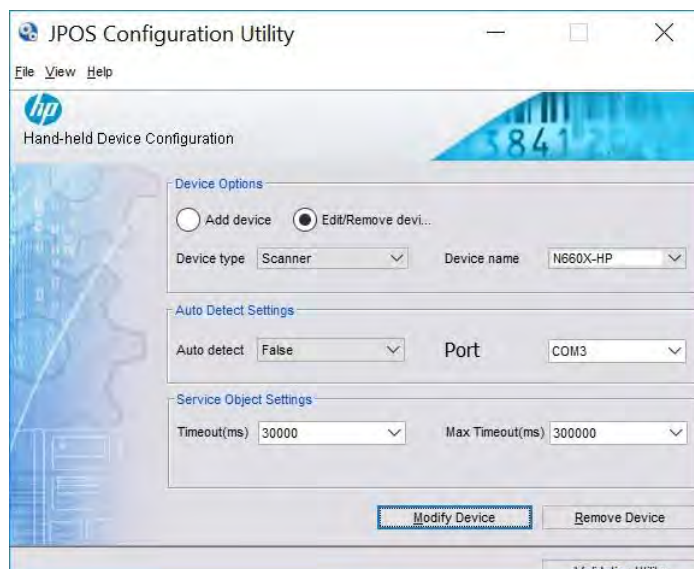
## 6.9.7 バーコードスキャナーのテスト

### 6.9.7.1 前提条件

- USB COMインターフェイスで複数のHシリーズバーコードスキャナーを使用した設定
  1. **[OPOS Configuration Utility]** (OPOS設定ユーティリティ) または**[JPOS Configuration Utility]** (JPOS設定ユーティリティ) を開きます。
    - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series OPOS\OPOS Configuration Utility.exe



- C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series JPOS\JPOS Configuration Utility.exe



2. **[Edit/Remove device]** (◆デバイスの編集/削除◆) を選択します。
3. **[Device type]** (◆デバイスの種類◆) ドロップダウンメニューをクリックして、**[Scanner]** (◆スキャナー◆) を選択します。
4. Hシリーズバーコードスキャナーごとに以下の操作を行います。
  - **[Device name]** (◆デバイス名◆) ドロップダウンメニューをクリックして、バーコードスキャナーを選択します。

- **[Auto detect]** (◆自動検出◆) ドロップダウン メニューをクリックして、**[False]** (◆いいえ◆) を選択します。
- **[Port]** (コネクタ) ドロップダウン メニューをクリックして、バーコード スキャナー用のCOMコネクタを選択します。
- **[Modify Device]** (デバイスの変更) ボタンをクリックします。

### 6.9.7.2 非OPOSまたは非JPOSでのテスト

Microsoftの[メモ帳]を開き、バーコードをスキャンします。[メモ帳]のウィンドウにデータが表示されます。何も表示されない場合、インターフェイスがUSB複合デバイスに設定されていることを確認します。

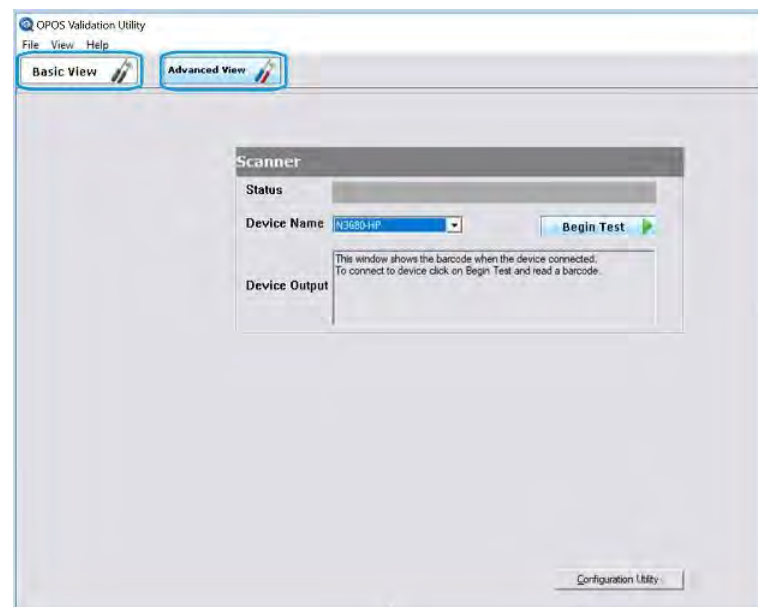
### 6.9.7.3 OPOSでのテスト

#### 手順

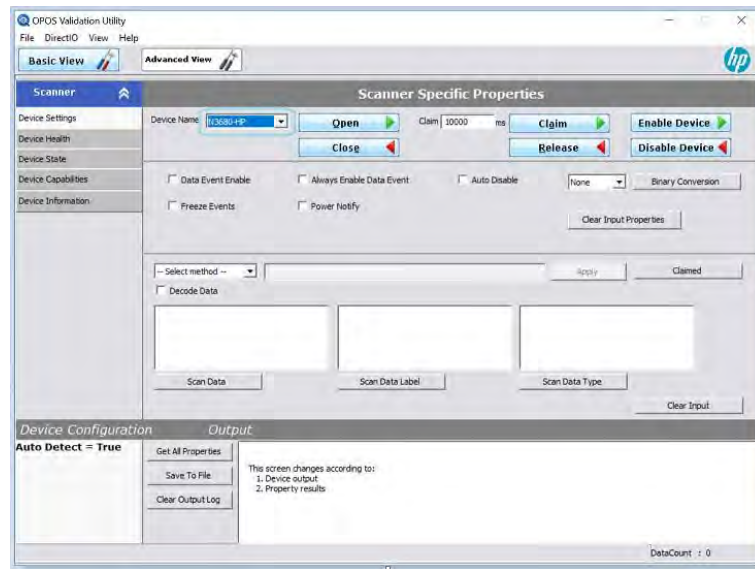
1. **[OPOS Validation Utility]** (OPOS検証ユーティリティ) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series OPOS\OPOS Validation Utility.exe
2. **[Advanced View]** (詳細ビュー) ボタンをクリックします。
3. お使いのデバイスの**[Device Name]** (デバイス名) (N3680-HPなど) を選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Enable Device]** (デバイスを有効にする) ボタンをクリックします。
7. **[Always Enable Data Event]** (データ イベントを常に有効にする) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. **[Decode data]** (データの読み取り) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. バーコードをスキャンします。**[Scan Data]** (スキャンデータ) が表示されます。
10. テストが完了した後、**[Disable Device]** (デバイスを無効にする) ボタンをクリックします。
11. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
12. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
13. **[OPOS Validation Utility]**を終了します。

#### 詳しい手順

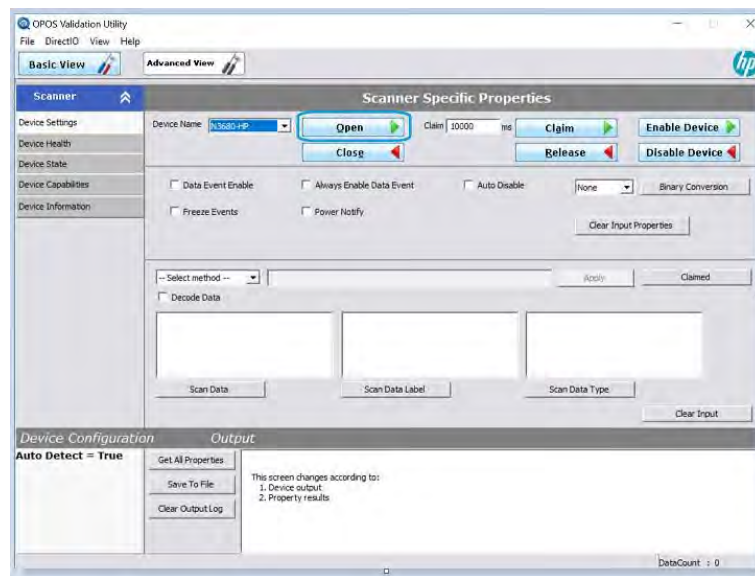
1. **[OPOS Validation Utility]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series OPOS\OPOS Validation Utility.exe
2. **[Advanced View]**ボタンをクリックします。



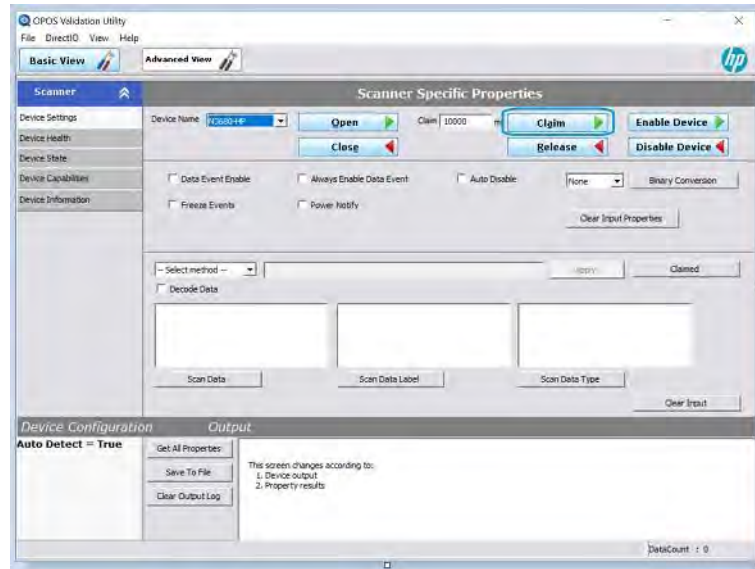
3. お使いのデバイスの[Device Name] (N3680-HPなど) を選択します。



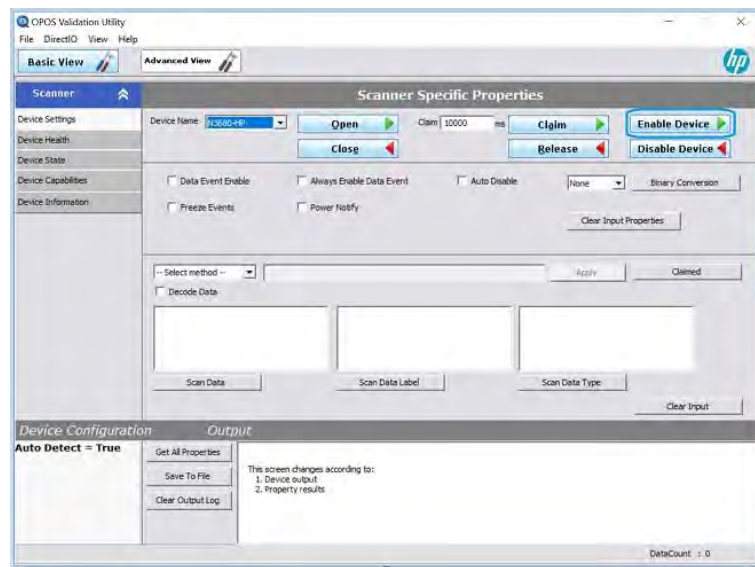
4. [Open]ボタンをクリックします。



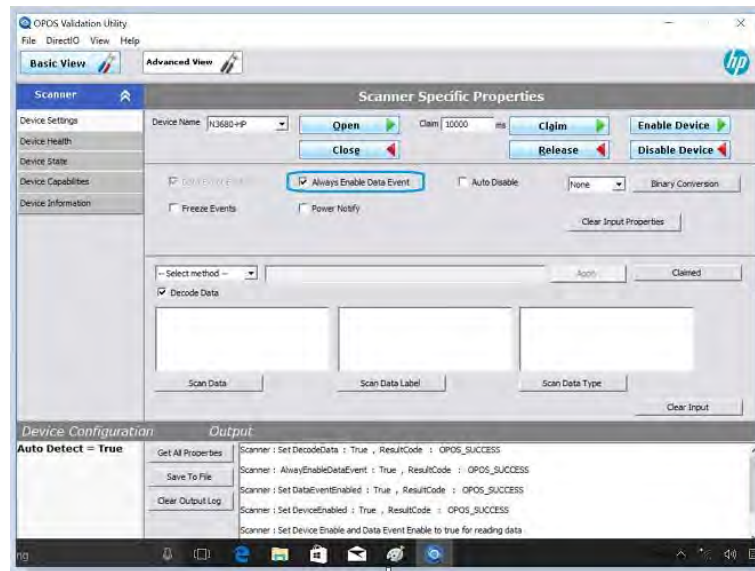
5. [Claim]ボタンをクリックします。



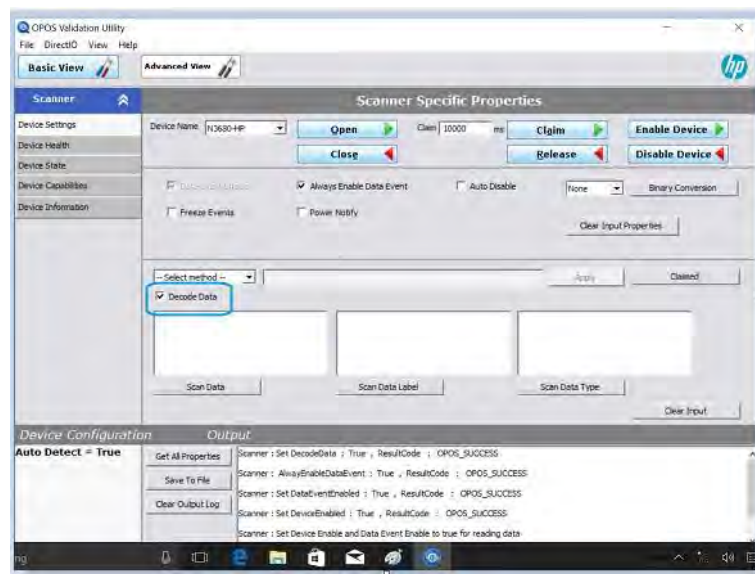
6. [Enable Device]ボタンをクリックします。



7. [Always Enable Data Event]チェックボックスにチェックを入れます。

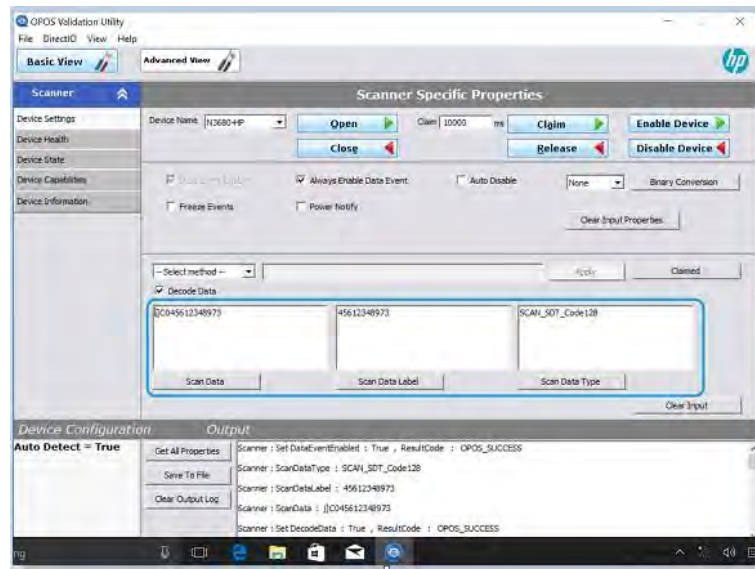


8. [Decode data]チェックボックスにチェックを入れます。

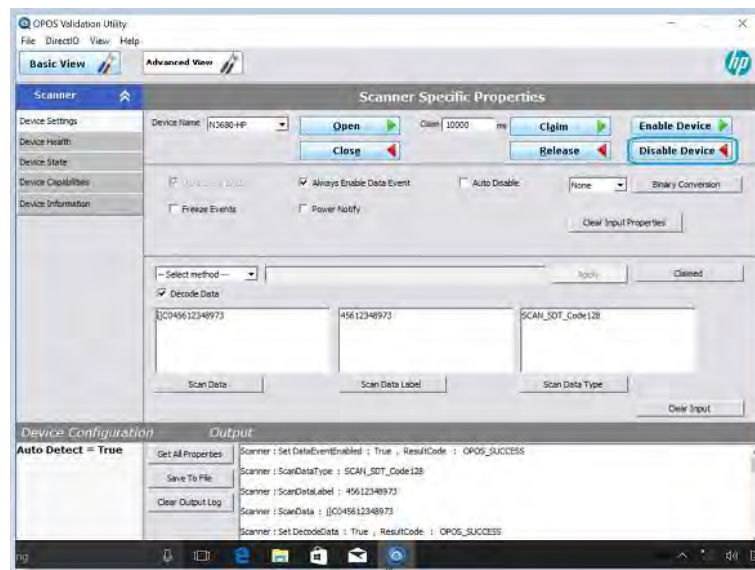




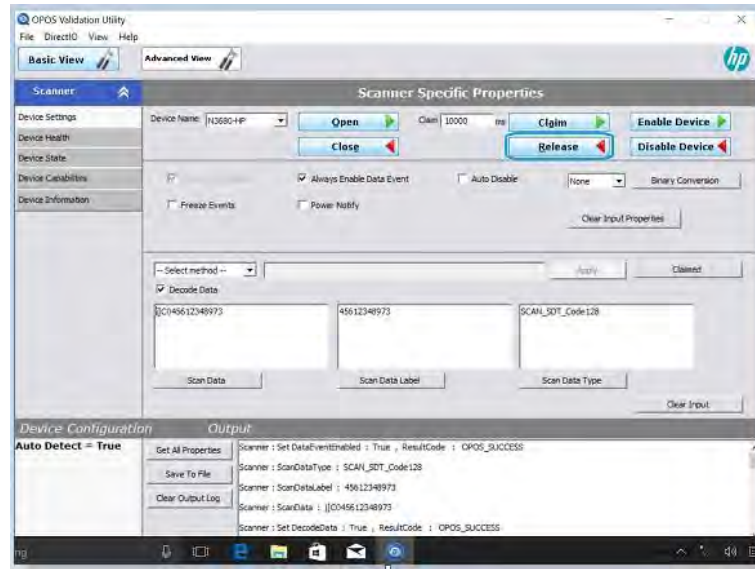
9. バーコードをスキャンします。[Scan Data]が表示されます。



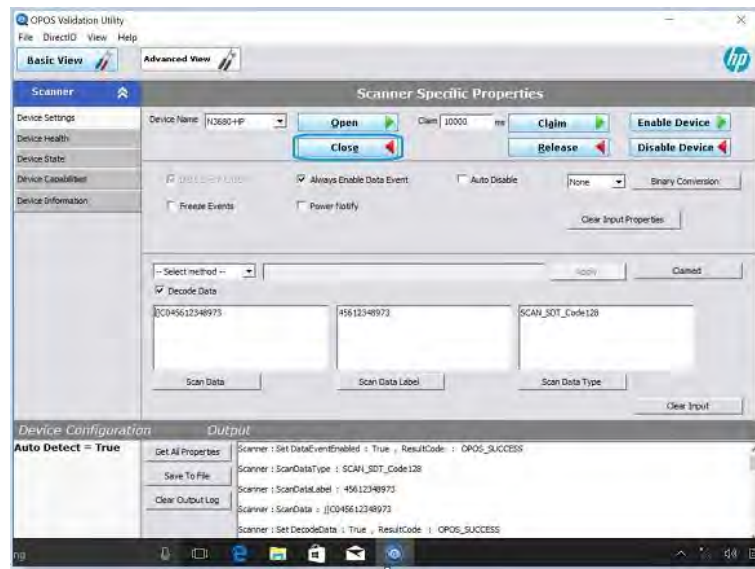
10. テストが完了した後、[Disable Device]ボタンをクリックします。



11. [Release]ボタンをクリックします。



12. [Close]ボタンをクリックします。



13. [OPOS Validation Utility]を終了します。



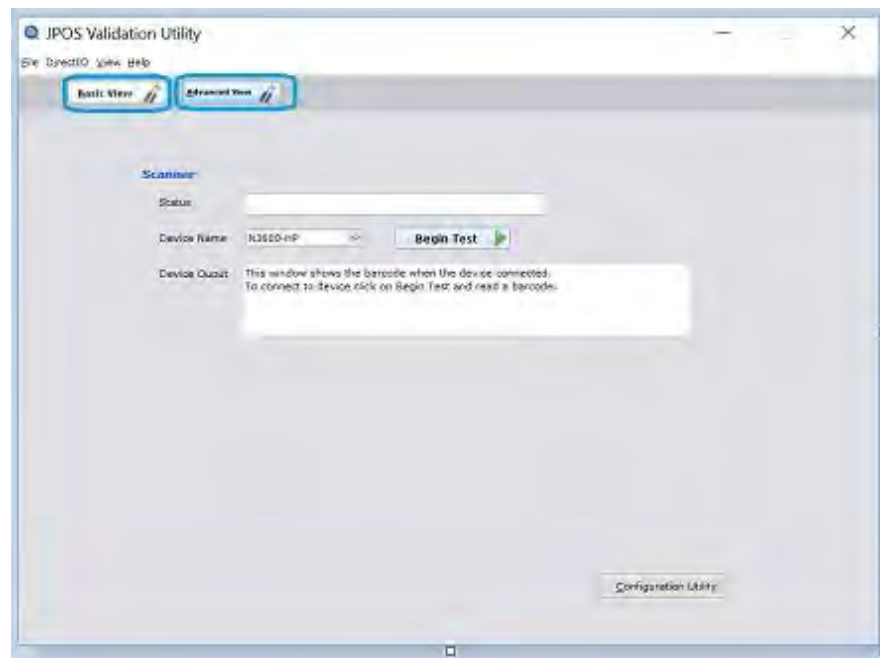
#### 6.9.7.4 JPOSでのテスト

##### 手順

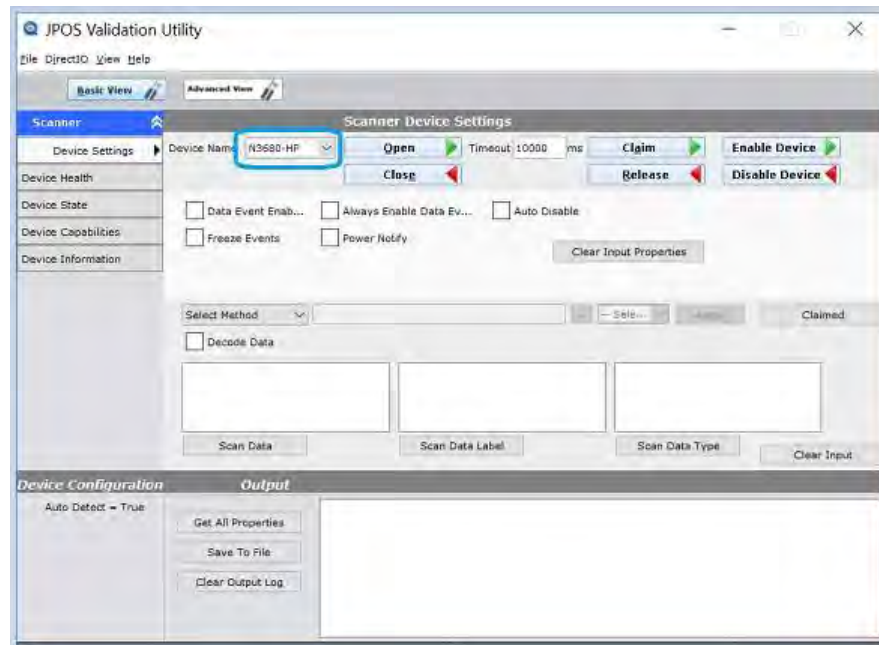
1. **[JPOS Validation Utility]** (JPOS検証ユーティリティ) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series JPOS\JPOS Validation Utility.exe
2. **[Advanced View]** (詳細ビュー) ボタンをクリックします。
3. お使いのデバイスの**[Device Name]** (デバイス名) (N3680-HPなど) を選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Enable Device]** (デバイスを有効にする) ボタンをクリックします。
7. **[Always Enable Data Event]** (データ イベントを常に有効にする) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. **[Decode data]** (データの読み取り) チェック ボックスにチェックを入れます。
9. バーコードをスキャンします。 **[Scan Data]** (スキャンデータ) が表示されます。
10. テストが完了した後、 **[Disable Device]** (デバイスを無効にする) ボタンをクリックします。
11. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
12. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
13. **[JPOS Validation Utility]**を終了します。

##### 詳しい手順

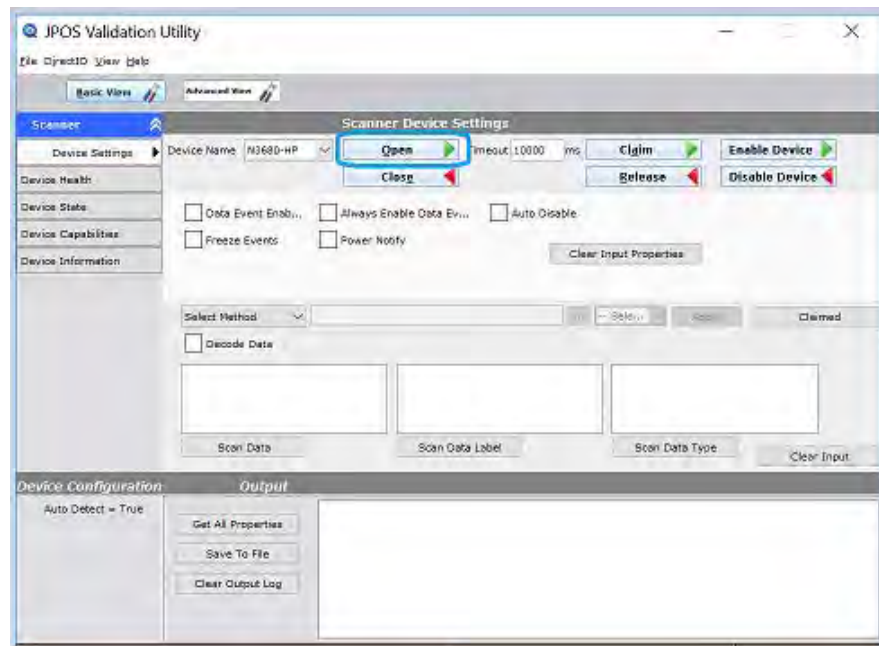
1. **[JPOS Validation Utility]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Barcode Scanner H-Series JPOS\JPOS Validation Utility.exe
2. **[Advanced View]**ボタンをクリックします。



3. お使いのデバイスの[Device Name] (N3680-HPなど) を選択します。



4. [Open]ボタンをクリックします。



5. [Claim]ボタンをクリックします。



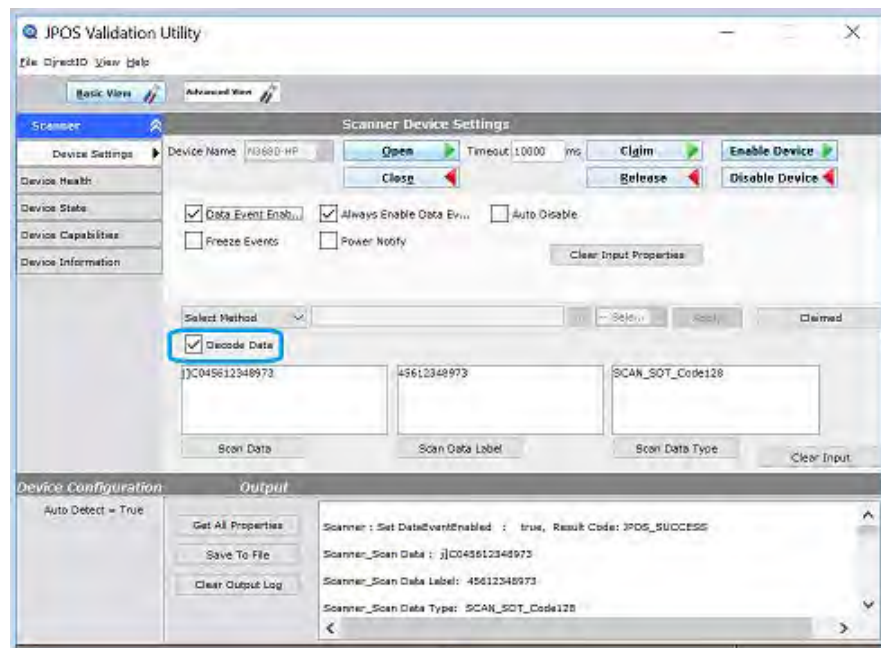
6. [Enable Device]ボタンをクリックします。



7. [Always Enable Data Event]チェックボックスにチェックを入れます。



8. [Decode data]チェックボックスにチェックを入れます。



9. バーコードをスキャンします。[Scan Data]が表示されます。



10. テストが完了した後、[Disable Device]ボタンをクリックします。

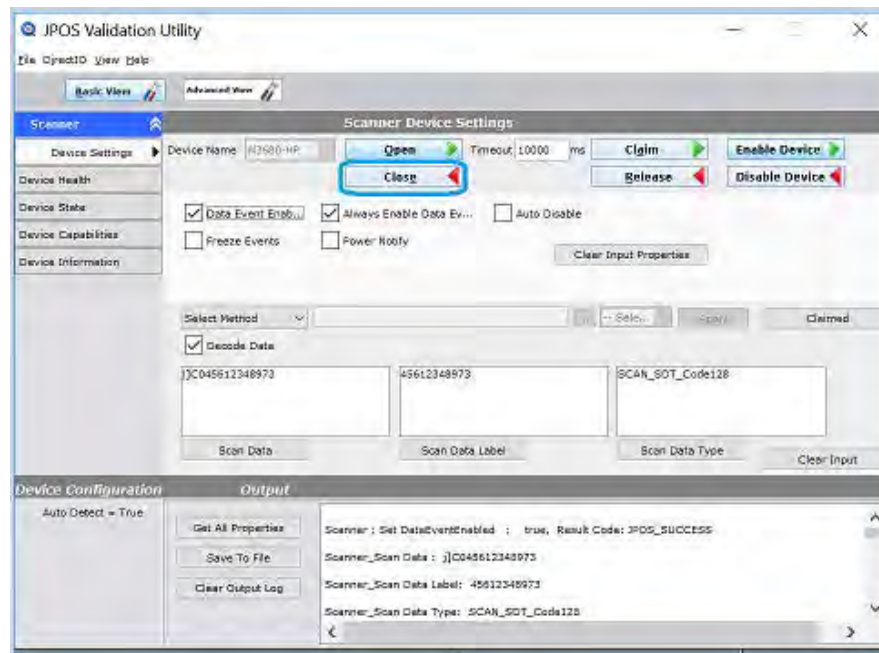




11. [Release]ボタンをクリックします。



12. [Close]ボタンをクリックします。



13. [JPOS Validation Utility]を終了します。

## 6.10 HPバーコード スキャナーHシリーズ

ここでは、以下のバーコード スキャナーについて説明します。



HP RP9内蔵バーコード  
スキャナー：サイド



HP RP9内蔵バーコード スキャナー： HPリテール インテグレートッド  
ボトム



HPレーザー バーコード  
スキャナー



HPワイヤレスバーコード  
スキャナー



HP Value 2Dワイヤレス  
スキャナー



HPリニア バーコード  
スキャナー



HPリニアバーコード  
スキャナーII



HPプレゼンテーション  
バーコード スキャナー



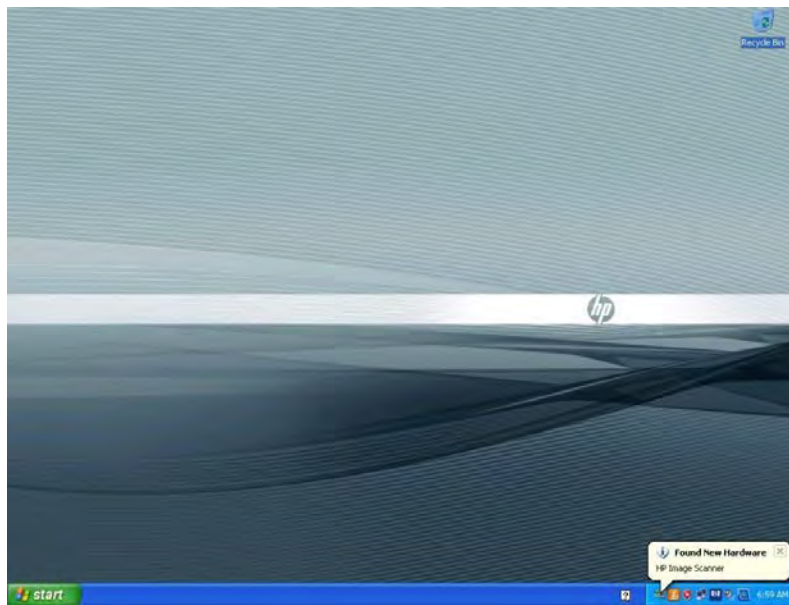
HPキオスク スキャナー

## 6.10.1 接続

バーコード スキャナーは、電源供給機能付きUSBポートを含む、空いているどのUSBポートにも接続できます。電源供給機能付きUSBポートを使用する場合、電源供給機能は使用されません。

## 6.10.2 Windowsドライバー

HPイメージング スキャナー、リニア スキャナー、プレゼンテーション スキャナーでは、USB HID-KBD モードでWindowsオペレーティング システム用のネイティブ ドライバーが使用されます。ドライバーのインストール時にWindowsの新しいハードウェア ウィザードが表示された場合は、ユーザーはハードウェア ウィザードのGUIで表示される初期設定を受け入れる必要があります（最初の画面で[いいえ]のオプションを選択することもできます）。これによって、ネイティブ ドライバーが読み込まれます。詳しくは、「[ネイティブ ドライバーの場所を確認するメッセージが表示された場合（新しいハードウェア ウィザード）](#)」のセクションを参照してください。

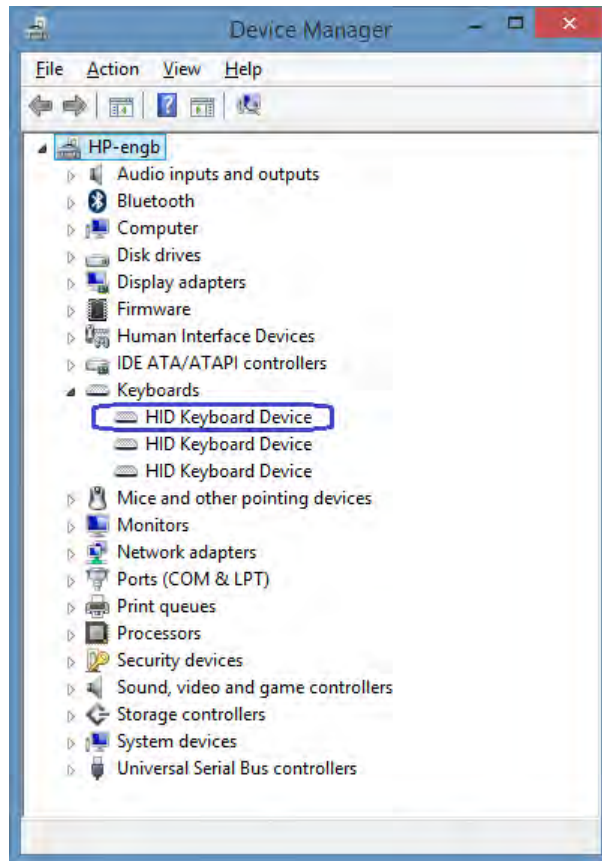


以下の図に、USB HID-KBD（初期設定）モードでHPイメージング スキャナー、リニア スキャナー、プレゼンテーション スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイス マネージャー]の画面を示します。

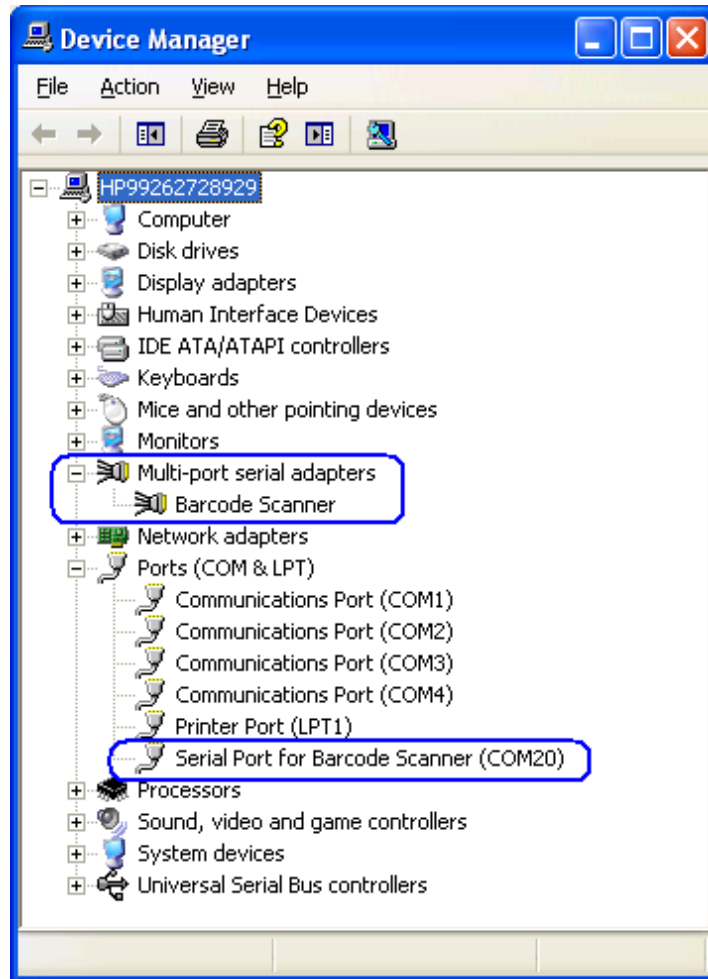




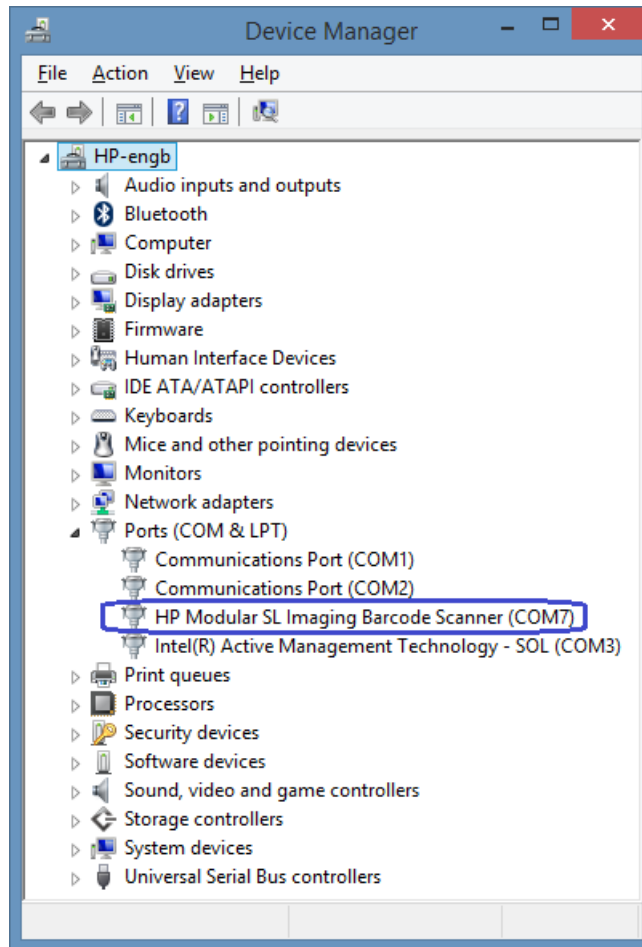
以下の図に、USB HID-KBDモードでHP RP9内蔵バーコード スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイス マネージャー]の画面を示します。



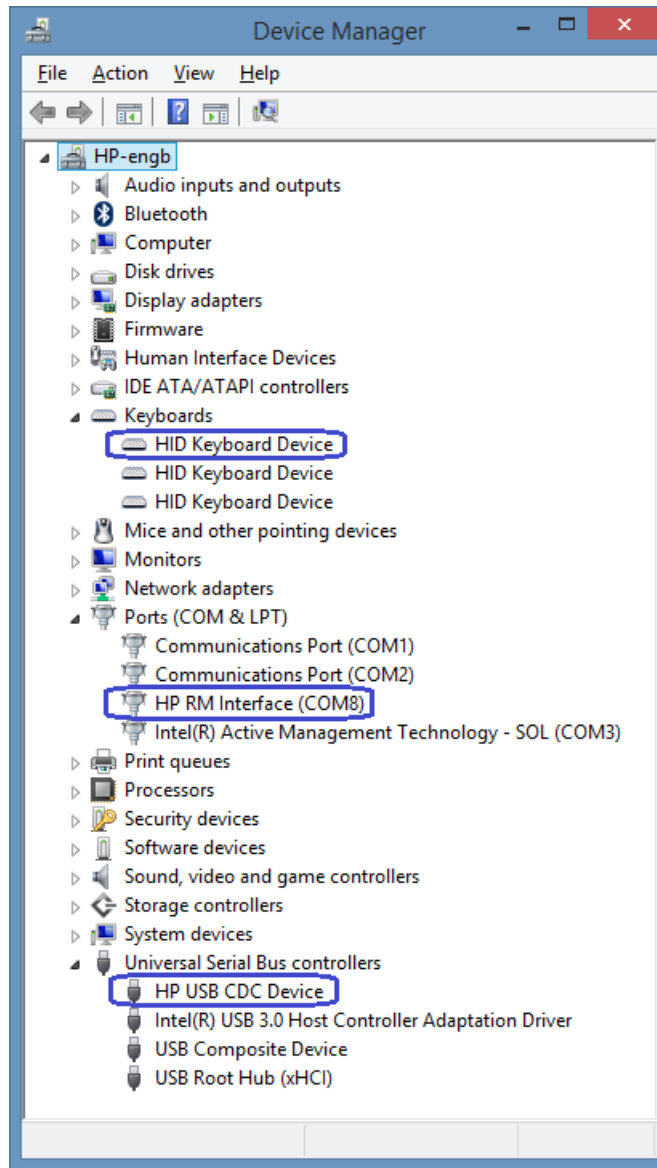
以下の図に、USB-COMモード（OPOS）のときにHPイメージング スキャナー、リニア スキャナー、プレゼンテーション スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイス マネージャー]の画面を示します。



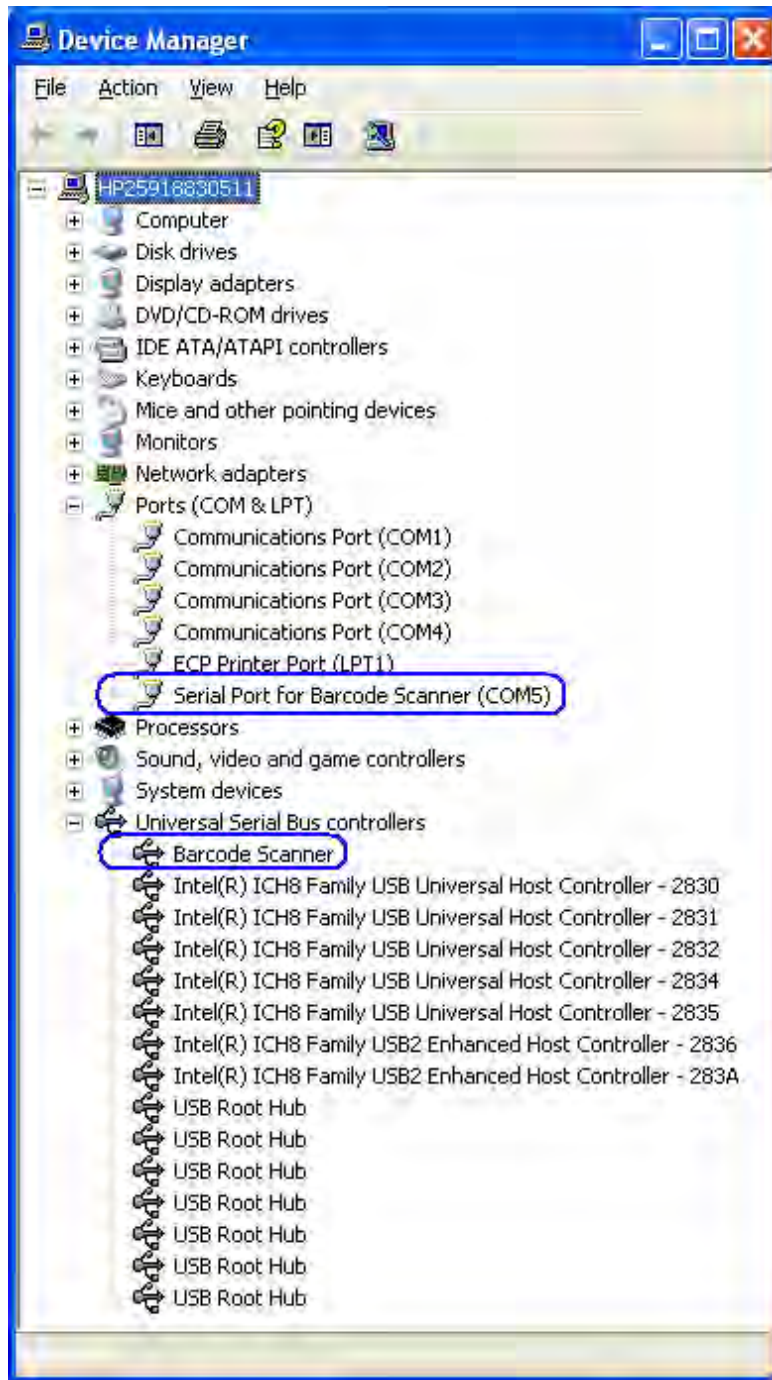
以下の図に、USB-COMモード（OPOS）でHP RP9内蔵バーコード スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。



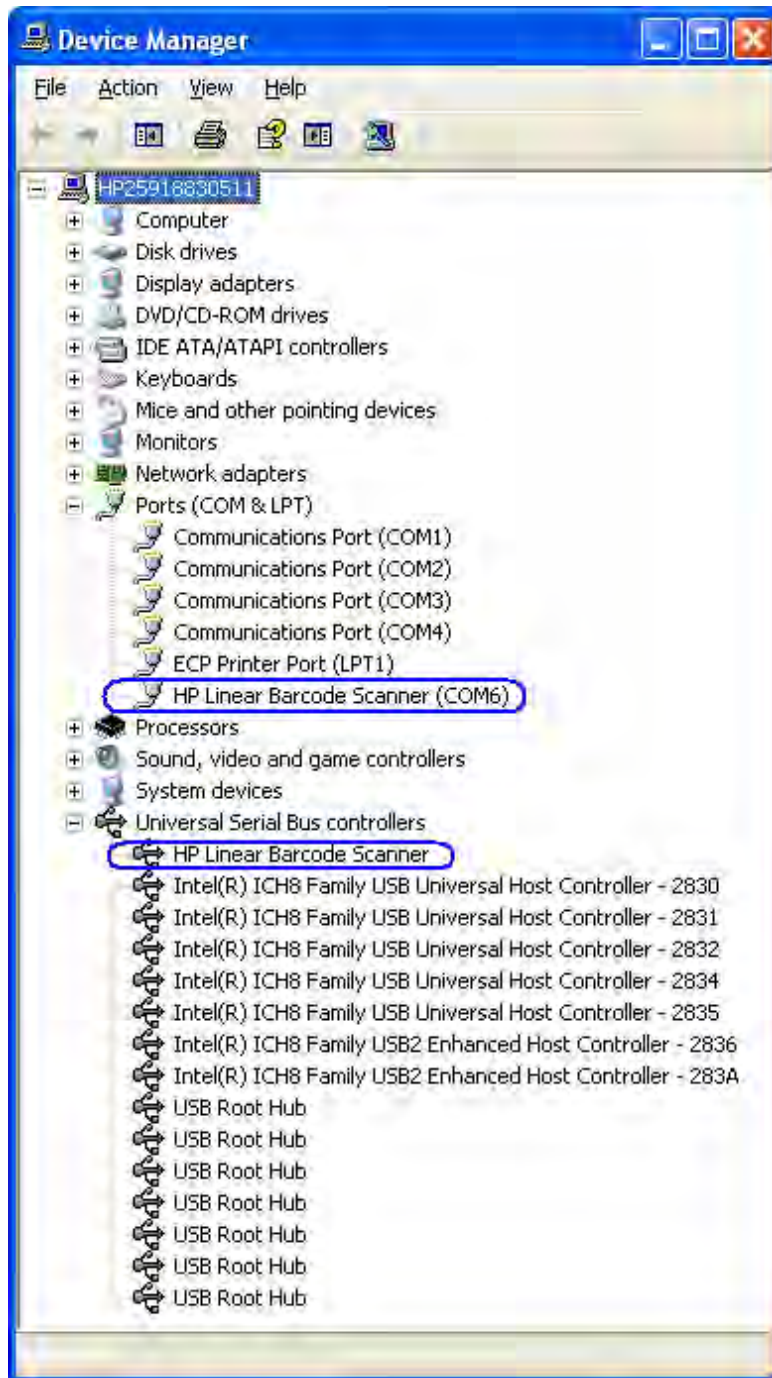
以下の図に、USB複合デバイス（初期設定）モードでHP RP9内蔵バーコード スキャナー用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイス マネージャー]の画面を示します。



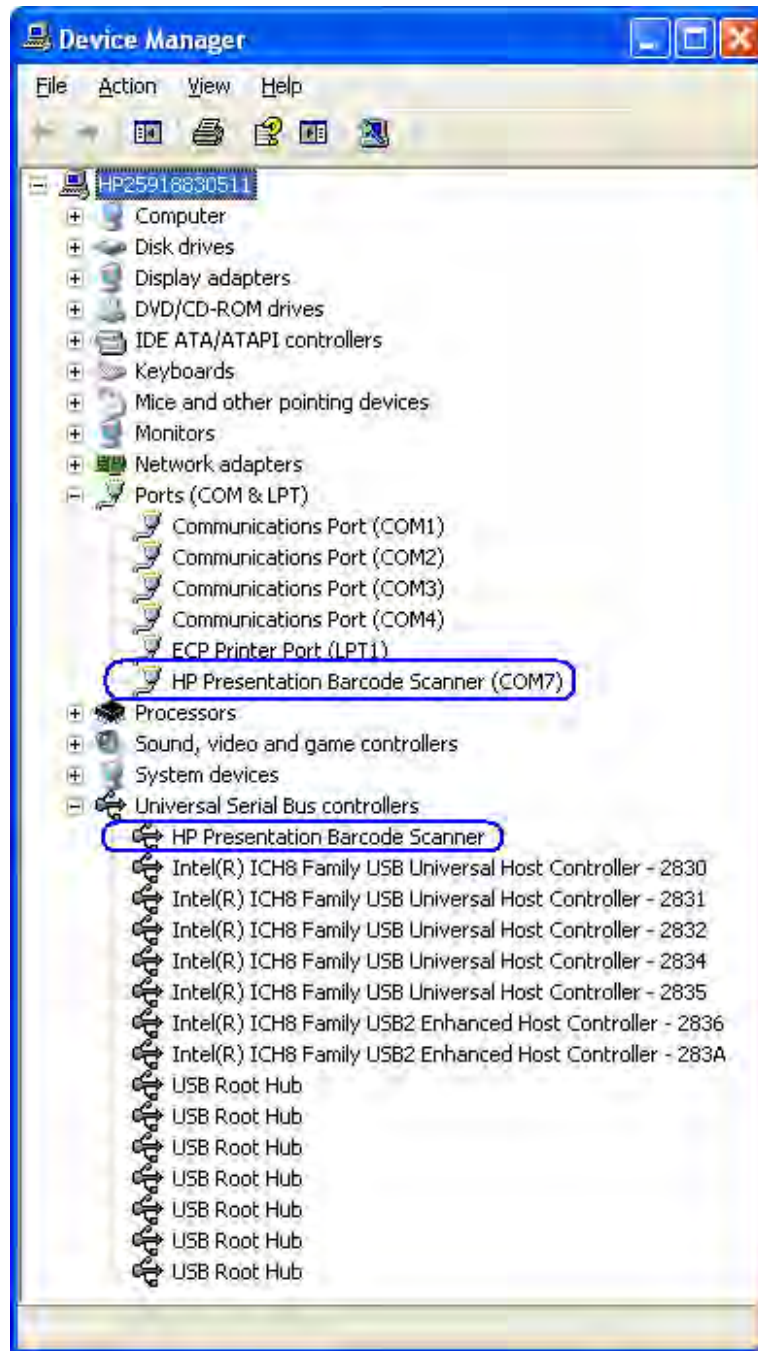
ドライバー3.13.xx.xxがインストールされた2Dイメージングバーコードスキャナー



ドライバー3.13.xx.xxがインストールされたHPリニアバーコード スキャナー



ドライバー3.13.xx.xxがインストールされたHPプレゼンテーション スキャナー



**注：** Windows XP Professional、WePOS、POSReadyでは、バージョン3.0.1.32の場合、スキャナー用の仮想COMコネクタにCOM20が割り当てられます。バージョン3.12.0.32以降では、仮想COMコネクタはCOM20に固定されるわけではなく、システムで次に利用可能なCOMコネクタが割り当てられます。Windows Vista/Windows 7では、仮想COMコネクタにシステムで次に利用可能なCOMコネクタが割り当てられます。イメージングバーコード スキャナー用の仮想COMコネクタの割り当ては、スキャナーCOMコネクタのプロパティを参照して変更できます。

USB-COMドライバー バージョン3.13.xx.xx以降では、[デバイス マネージャー]のスキャナーに[マルチ ポート シリアルアダプター]が表示されず、[デバイス マネージャー]のUSBセクションに表示されます。



### 6.10.3 OPOS

ヒューマン インターフェイス デバイス (HID) キーボード エミュレーション モードでデバイスを使用する場合、このデバイスにOPOSドライバーは必要ありません。

デバイスがUSB-COMモード (OPOS) の場合、Windowsデバイス ドライバーが必要です。スキャナーをサポートする必要なデバイス ドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

### 6.10.4 JPOS

JPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

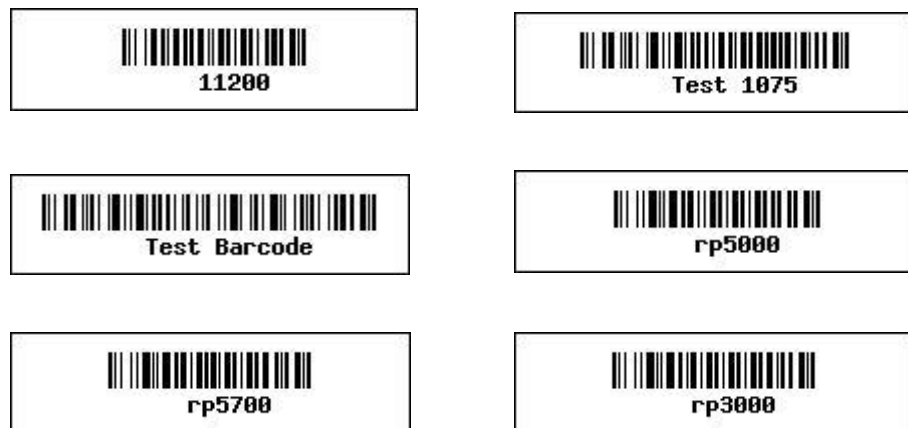
スキャナーでJPOSドライバーを使用するには、スキャナーをUSB-COMモードにする必要があります。

### 6.10.5 バーコード スキャナーのテスト

#### 6.10.5.1 非OPOSまたは非JPOSでのテスト

スキャナーの工場出荷時の設定モードは非OPOSモードです。非OPOSモードのスキャナーをテストするには、スキャナーを初期設定のモードにしたまま、Microsoftの[メモ帳]などのアプリケーションを開き、スキャナーでバーコードをスキャンします。

バーコードの付いた商品が手元にない場合は、以下のバーコードの1つを使用してテストできます。



#### 6.10.5.2 OPOSでのテスト

スキャナーをUSB-COMモード (OPOS) にする必要があります。スキャナーの現在のモードがわからない場合は、[メモ帳]などのアプリケーションを開き、バーコードをスキャンしてみます。スキャナーがOPOSモードの場合は、バーコードをスキャンしても[メモ帳]には何も表示されません。[メモ帳]に文字列が表示された場合は、スキャナーはUSB HIDキーボード エミュレーションモードまたはUSB複合デバイスモードです。

スキャナーでOPOSドライバーを使用するには、スキャナーをUSB-COMモード (OPOS) にする必要があります。設定用のすべてバーコードは、[HP.COM](http://HP.COM)から入手できるプログラミング ガイドに記載されています。

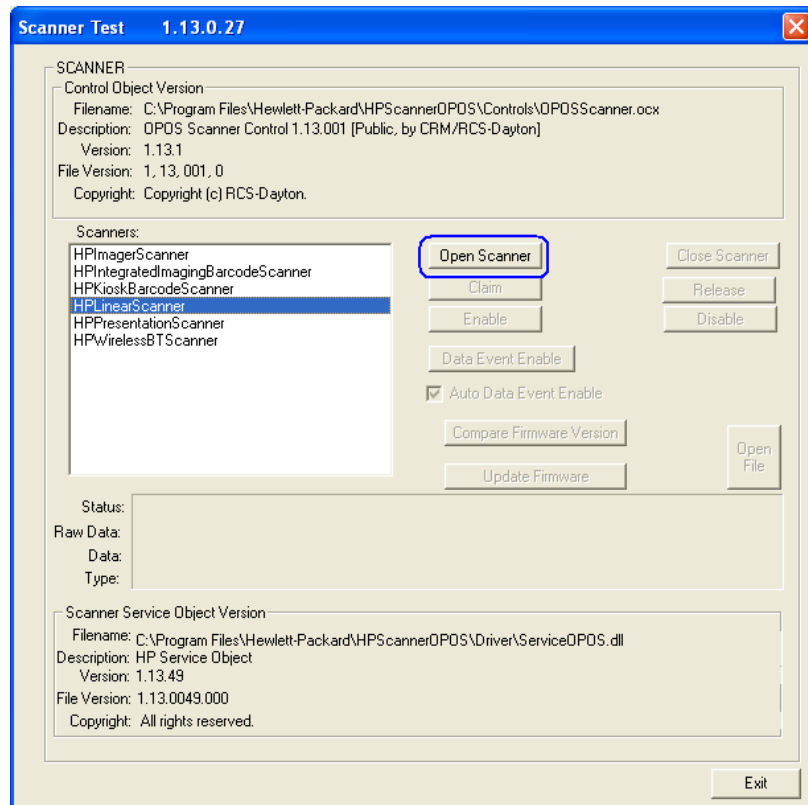


スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

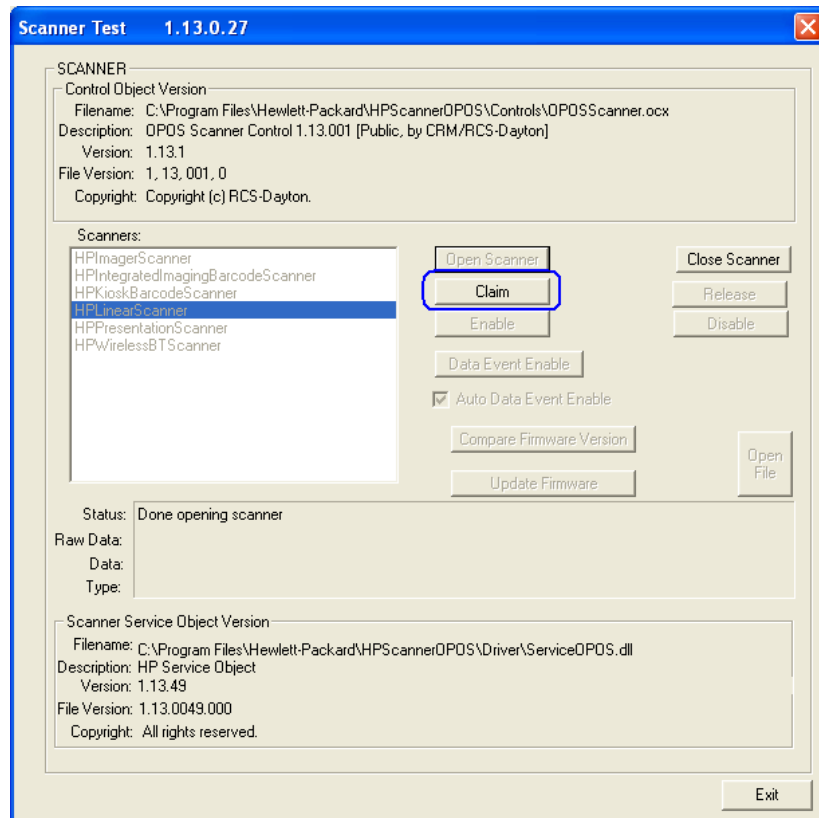
1. **[Scanner Test]** (スキャナー テスト) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HPScannerOPOS\ScannerTest.exe.
2. **[Scanners]** (スキャナー) ボックスでスキャナーを選択します。
3. **[Open Scanner]** (スキャナーを開く) ボタンをクリックします。
4. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. **[Data Event Enable]** (データ イベント有効) ボタンをクリックするか、**[Auto Data Event Enable]** (自動データ イベント有効) を選択して、ステータスを**[Ready to scan a label]** (ラベルのスキャン準備完了) にします。
7. バーコードをスキャンします。
8. スキャンが完了した後、**[Disable]** (無効にする) ボタンをクリックします。  
**注:** イメージング スキャナーが無効になると、スキャナーのランプが点滅し、スキャナーが無効になったことを示します。OPOSアプリケーションの起動時にイメージングスキャナーをOPOS (USB COM) モードで使用するようにOPOSアプリケーションを設定すると、スキャナーが有効になります。アプリケーションを終了すると、イメージングスキャナーが無効になります (スキャナーのランプが点滅します)。
9. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
10. **[Close Scanner]** (スキャナーを閉じる) ボタンをクリックします。
11. **[Scanner Test]**を終了します。

### 詳しい手順

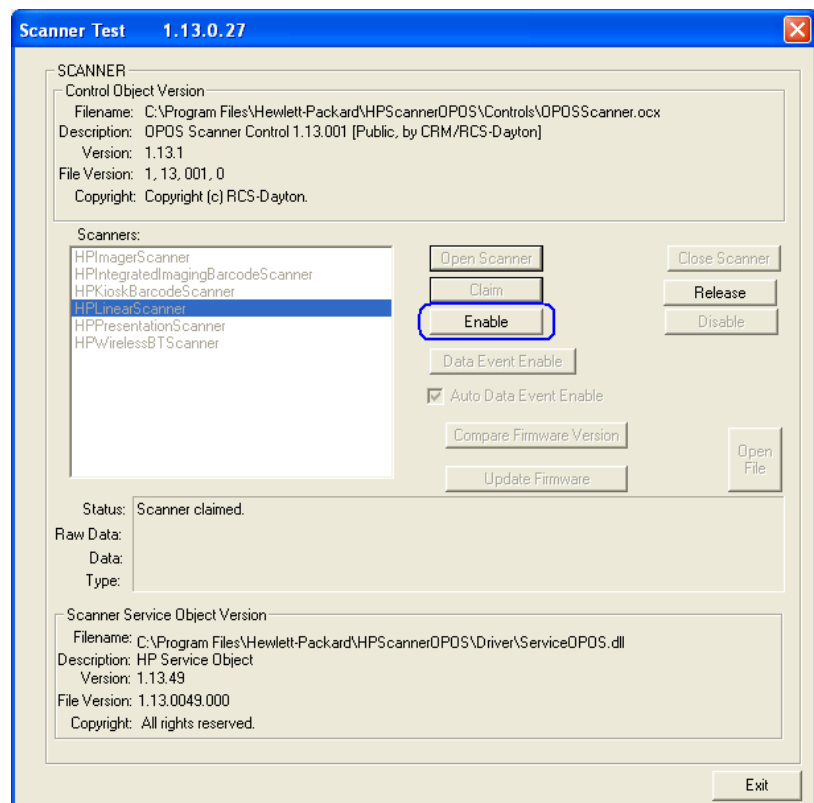
1. **[Scanner Test]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HPScannerOPOS\ScannerTest.exe.
2. **[Scanners]**ボックスで**[Scanner]**を選択します。
3. **[Open Scanner]**ボタンをクリックします。



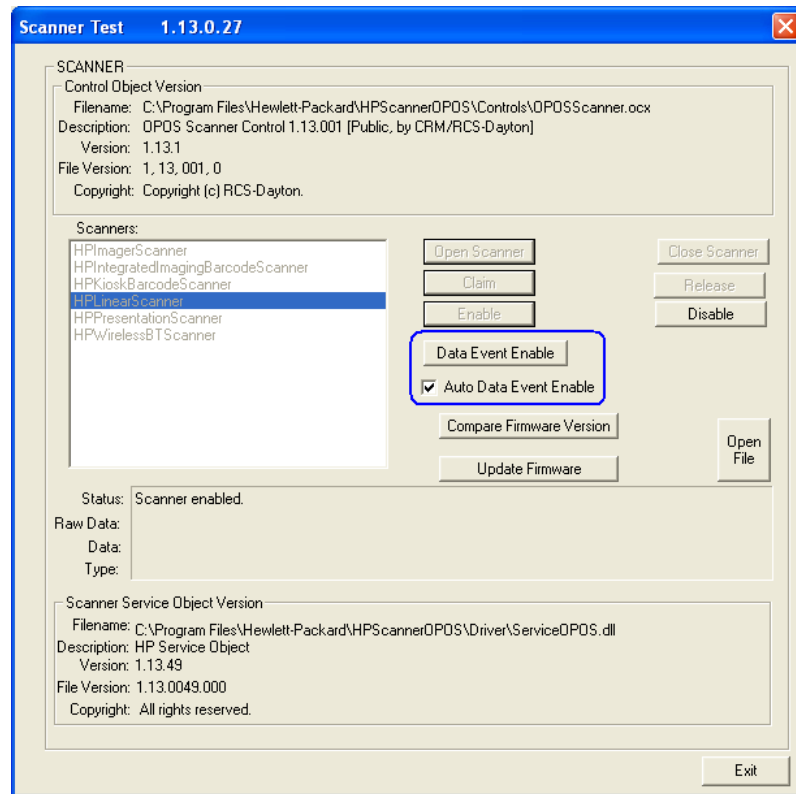
4. [Claim]ボタンをクリックします。



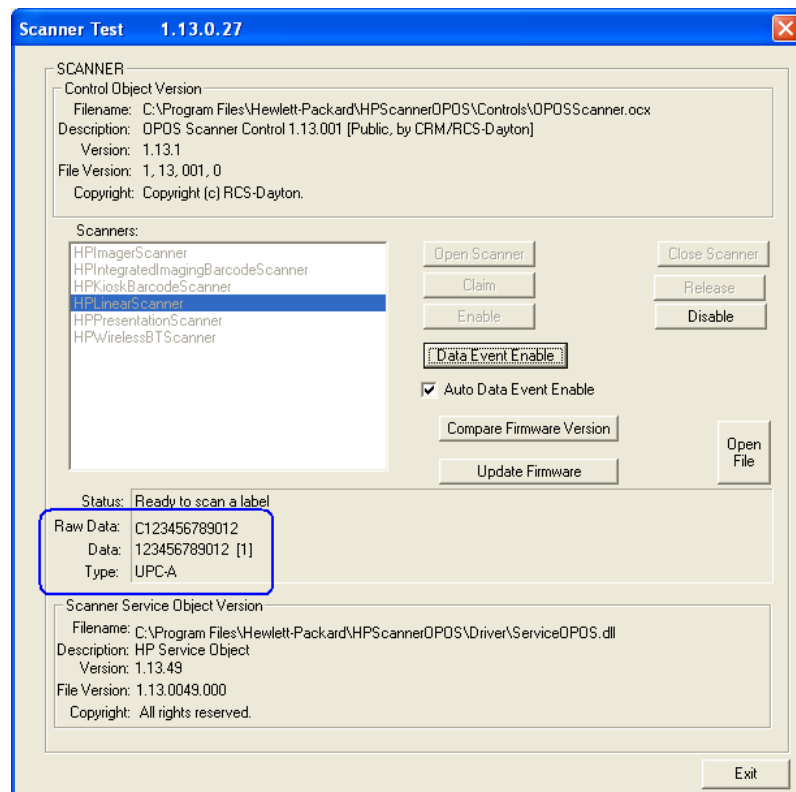
5. [Enable]ボタンをクリックします。



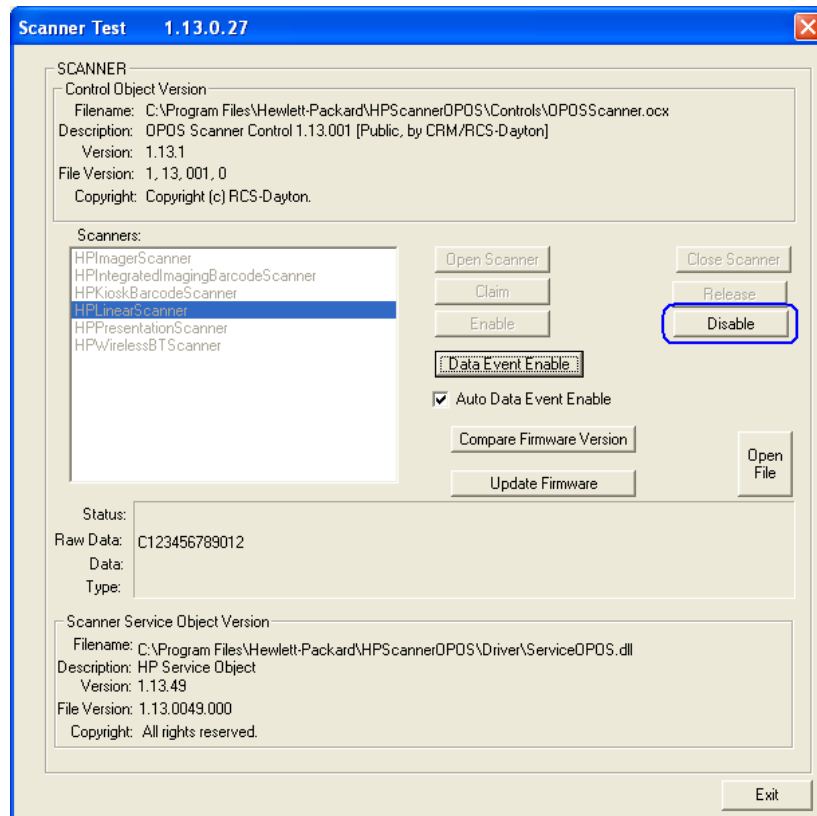
6. [Data Event Enable]ボタンをクリックするか、[Auto Data Event Enable]を選択して、ステータスを[Ready to scan a label]にします。



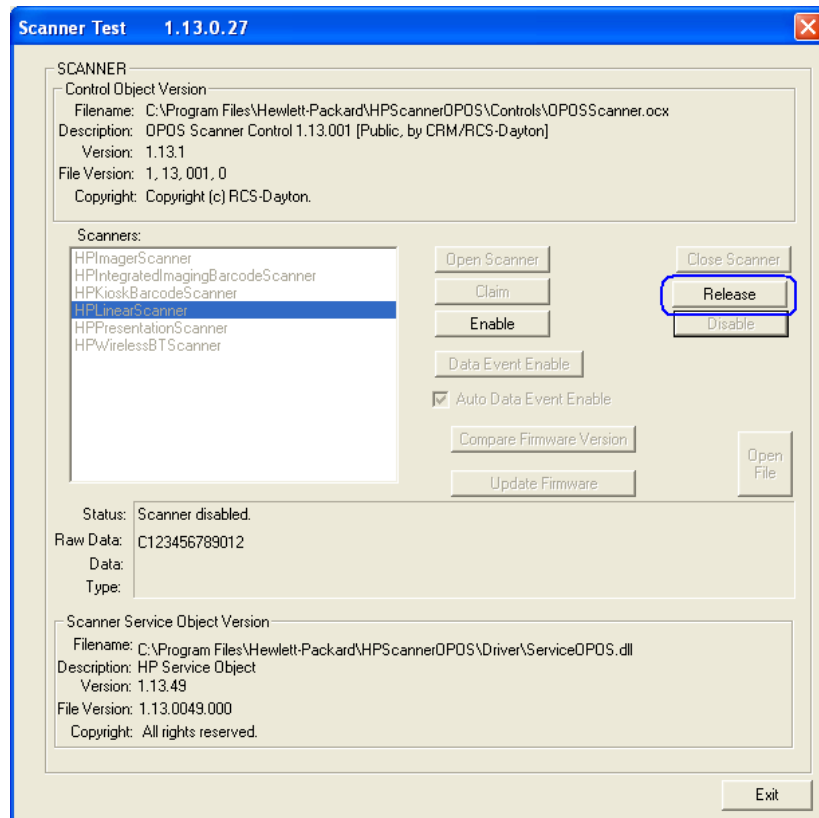
7. バーコードをスキャンすると、データがダイアログボックスに表示されます。



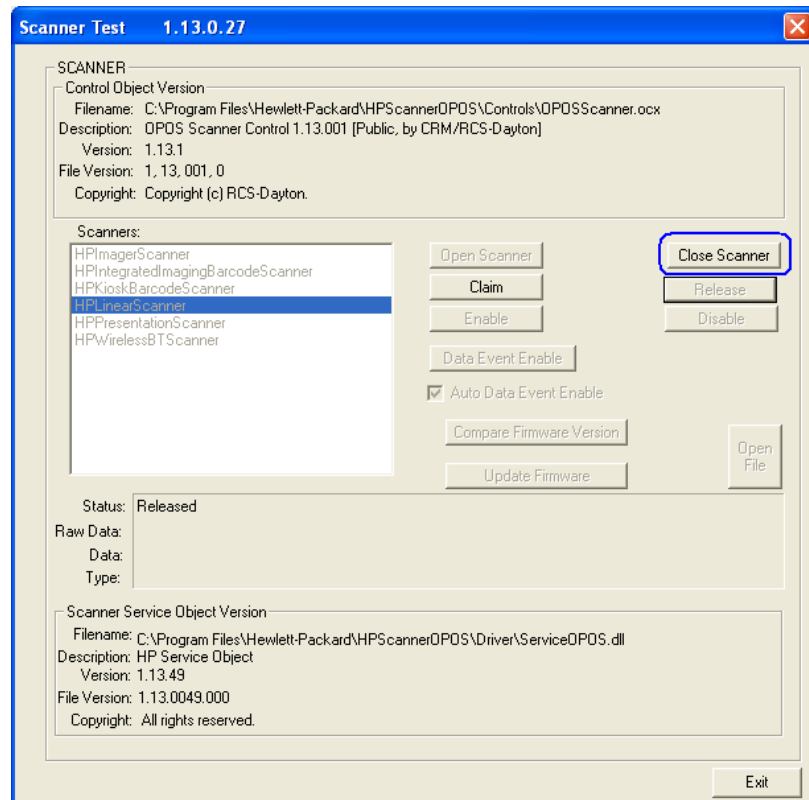
8. スキャンが完了した後、[Disable]（無効にする）ボタンをクリックします。
- 注：** イメージング スキャナーが無効になると、スキャナーのランプが点滅し、スキャナーが無効になったことを示します。OPOSアプリケーションの起動時にイメージングスキャナーをOPOS（USB COM）モードで使用するようにOPOSアプリケーションを設定すると、スキャナーが有効になります。アプリケーションを終了すると、イメージングスキャナーが無効になります（スキャナーのランプが点滅します）。



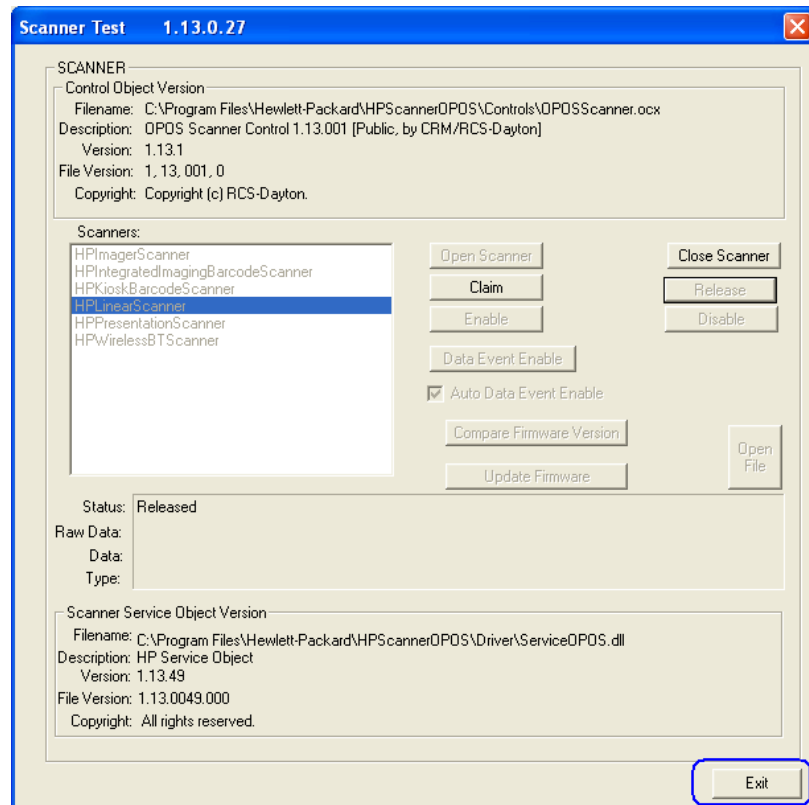
9. [Release]ボタンをクリックします。



10. [Close Scanner]ボタンをクリックします。



11. [Scanner Test]を終了します。



### 6.10.5.3 JPOSでのテスト

イメージング バーコード スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

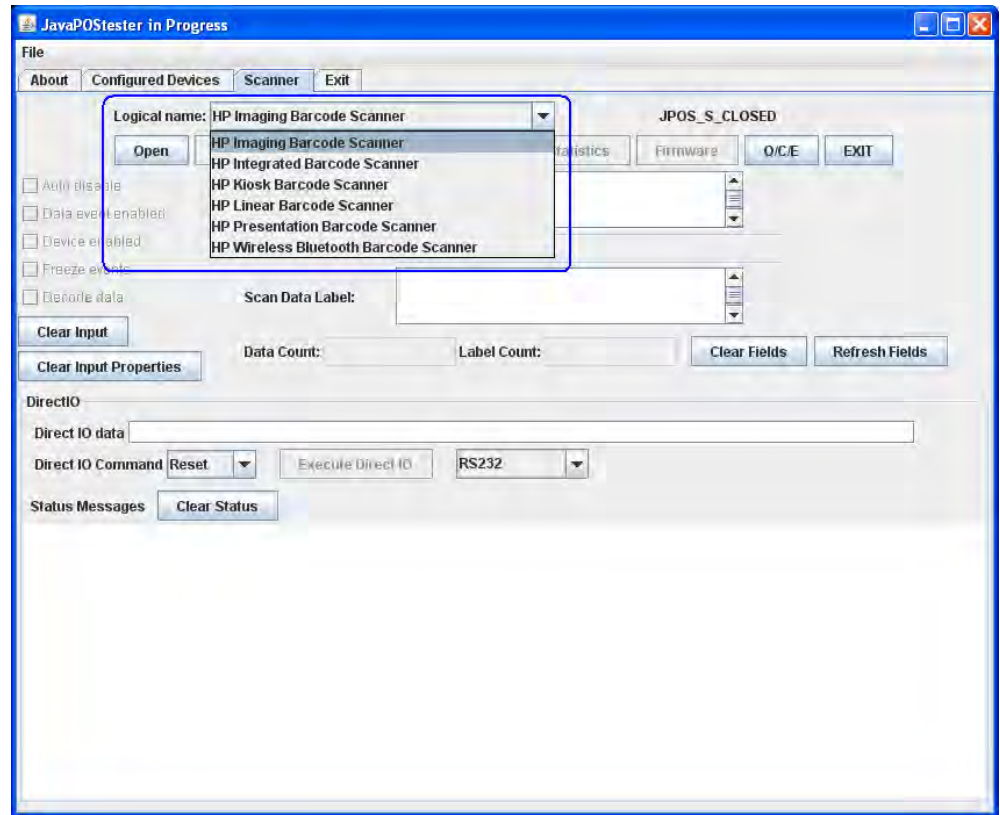
1. **[JavaPOStester]** (JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (LED\_Imager)\Img\_LED JPOS\HPJPOSImagingScanner.bat.
2. **[Scanner]** (スキャナー) タブをクリックします。
3. ドロップダウン メニューから適切なデバイスを選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。イメージング スキャナーが開くと、**[Data event enabled]** (データ イベント有効) ボックスにチェック マークが付けられます。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. **[Device enabled]** (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。
7. **[Decode data]** (データの読み取り) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. バーコードをスキャンすると、データが**[Scan Data]** (スキャン データ) ボックスおよび**[Scan Data Label]** (スキャン データ ラベル) ボックスに表示されます。
9. スキャンが完了した後、**[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
10. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
11. **[Exit]** (終了) をクリックしてテスト アプリケーションを閉じます。

#### 詳しい手順

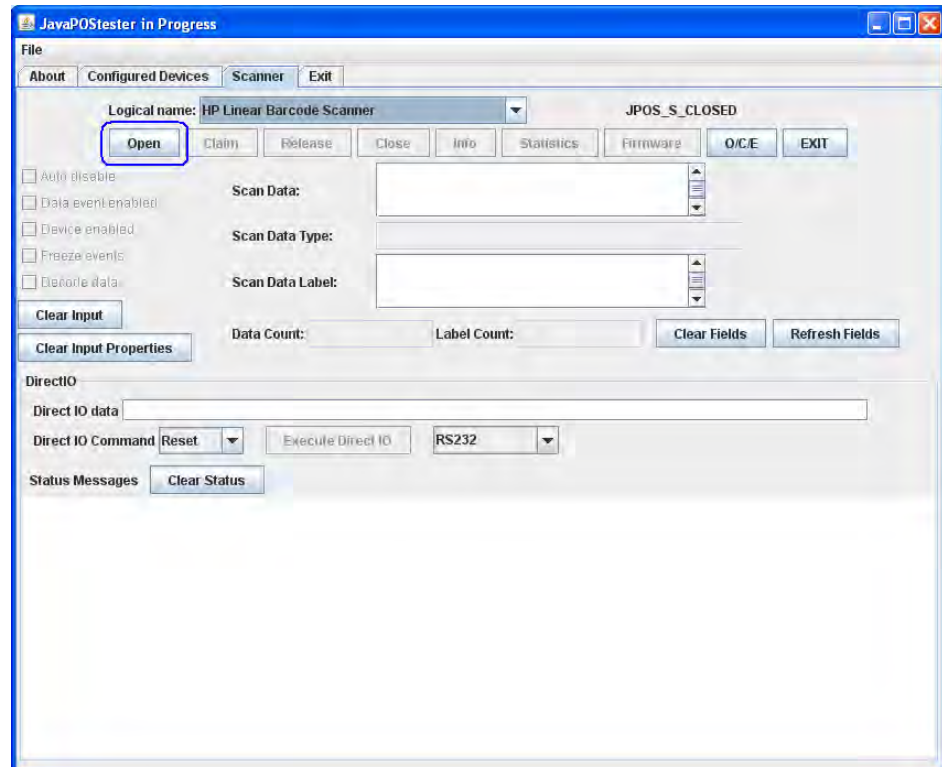
1. **[JavaPOStester]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (LED\_Imager)\Img\_LED JPOS\HPJPOSImagingScanner.bat.
2. **[Scanner]**タブをクリックします。



3. ドロップダウンメニューから適切なデバイスを選択します。

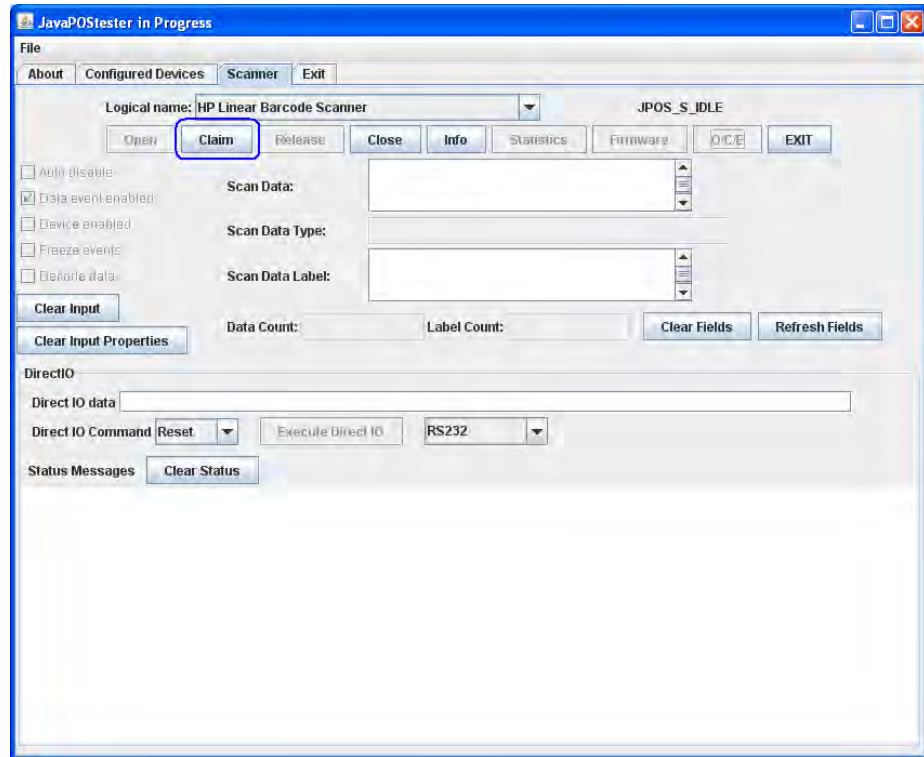


4. [Open]ボタンをクリックします。イメージング スキャナーが開くと、[Data event enabled]ボックスにチェックマークが付けられます。



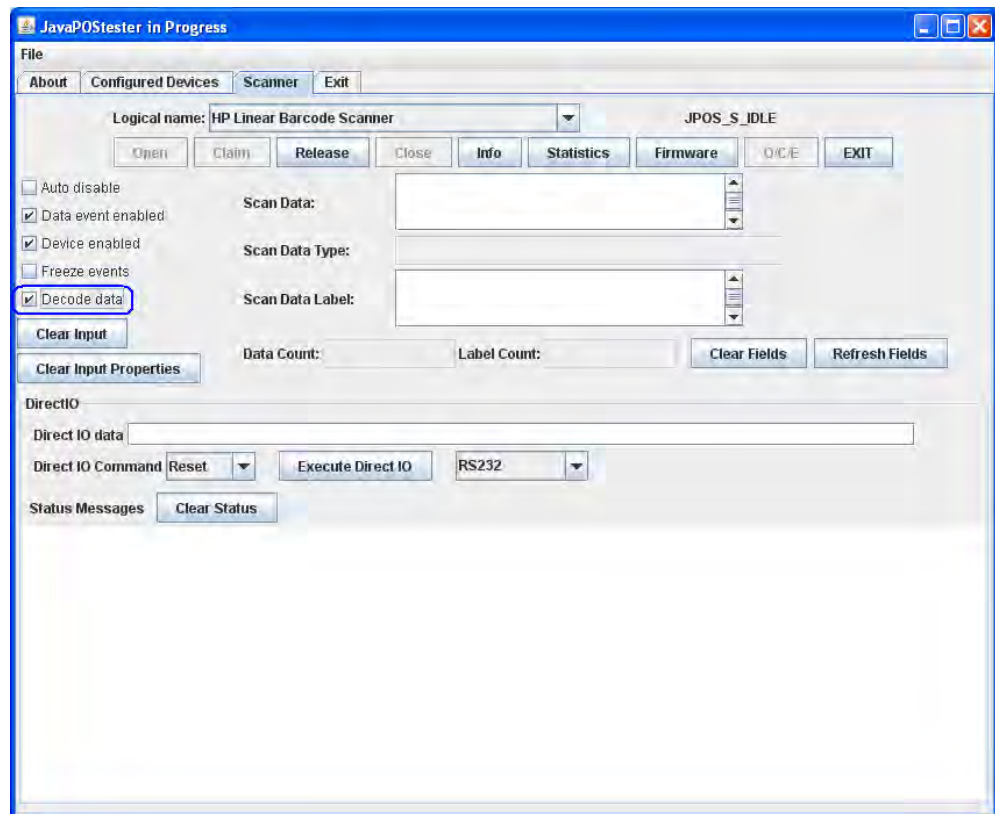


5. [Claim]ボタンをクリックします。

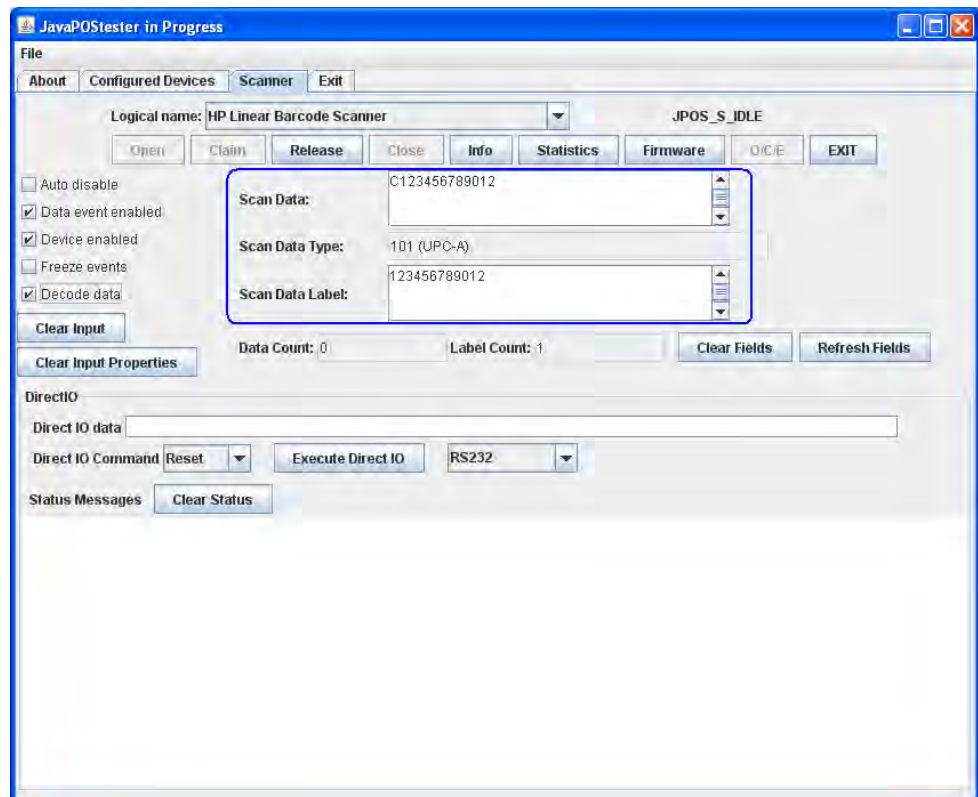


6. [Device enabled]チェックボックスにチェックを入れます。

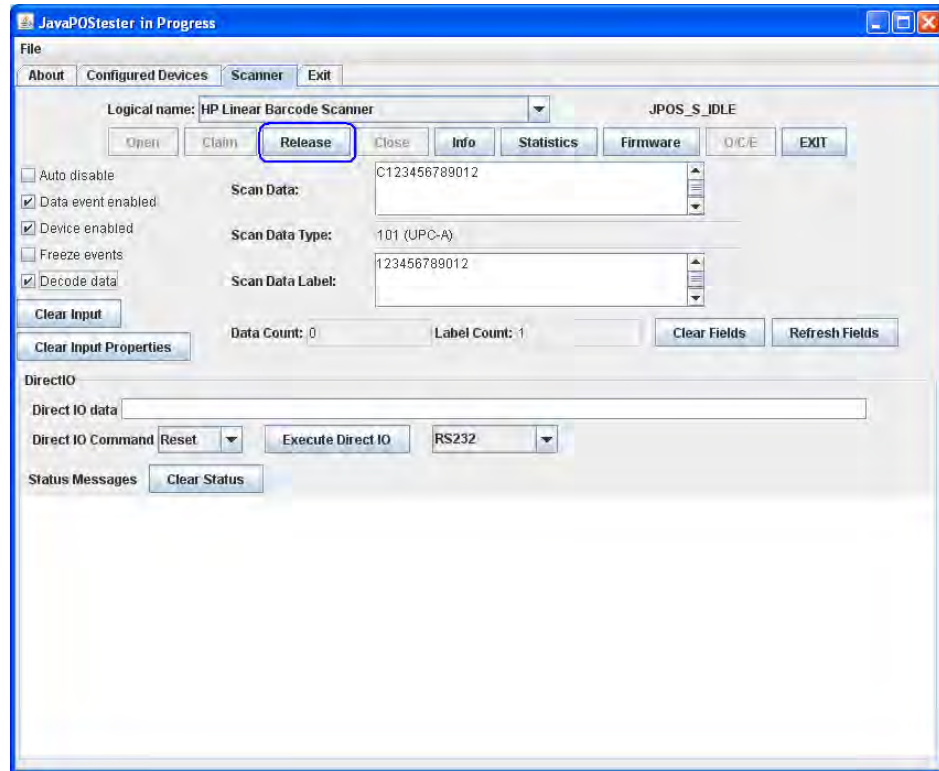
7. [Decode data]チェックボックスにチェックを入れます。



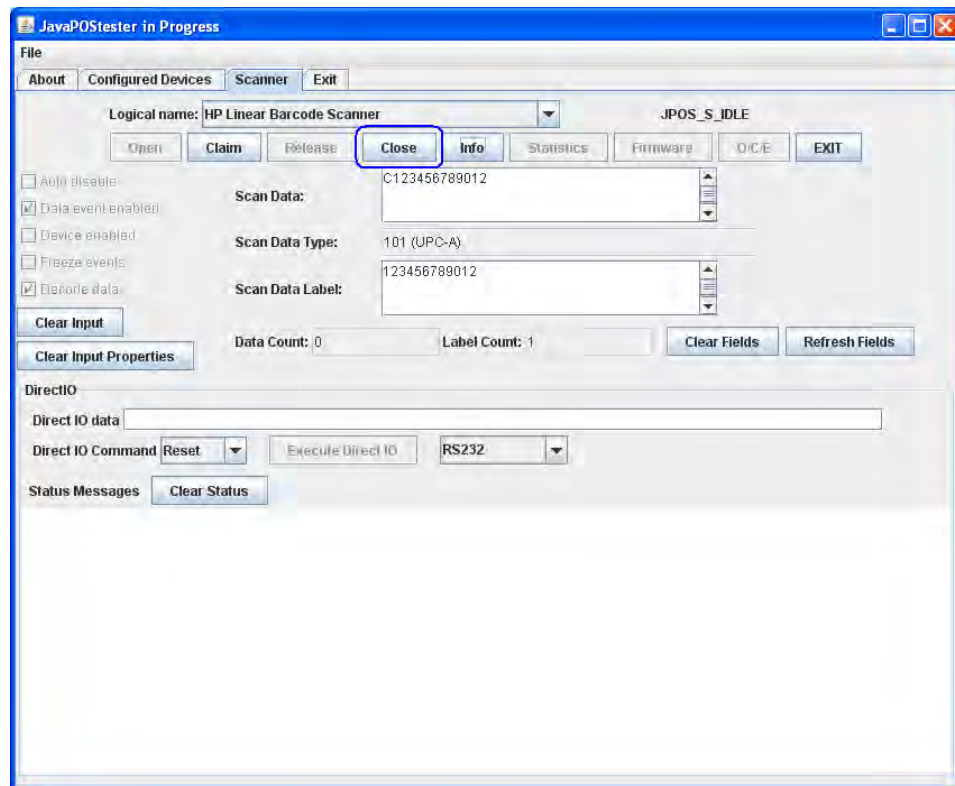
8. バーコードをスキャンすると、データが[Scan Data]ボックスおよび[Scan Data Label]ボックスに表示されます。



9. スキャンが完了した後、[Release]ボタンをクリックします。



10. [Close]ボタンをクリックします。



11. [Exit]をクリックしてテストアプリケーションを閉じます。

## 6.10.6 イメージキャプチャのテスト

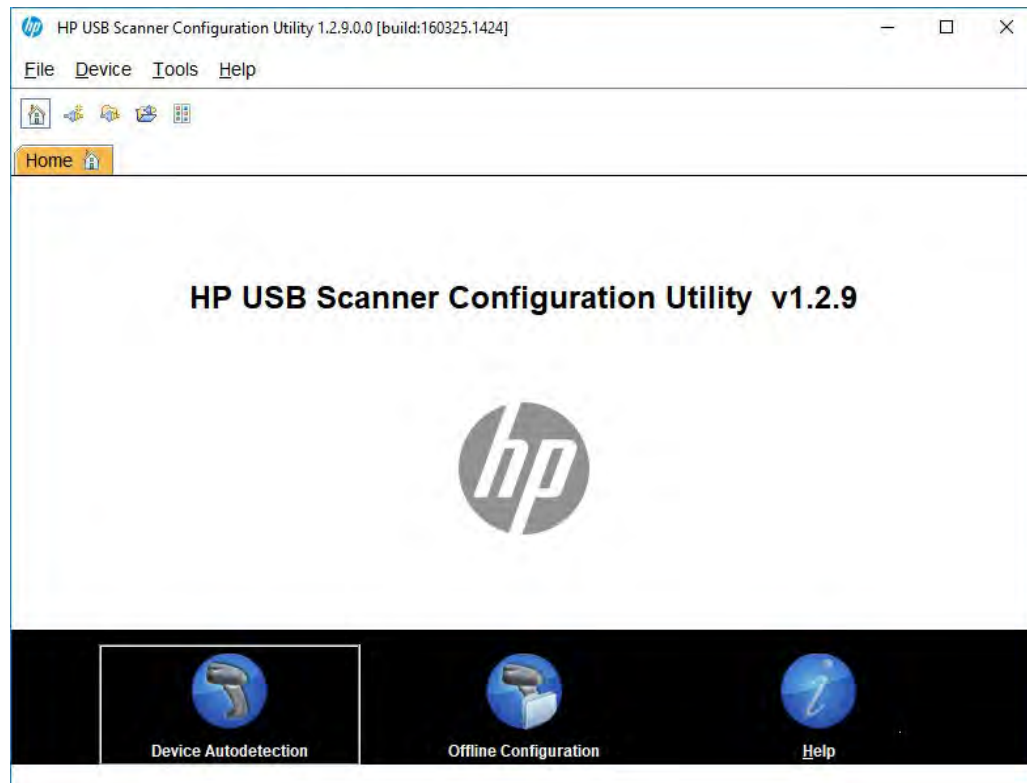
イメージキャプチャ機能をサポートするバーコードスキャナーは、USB-COMインターフェイスにする必要があります。インターフェイスの設定に使用されるバーコードは、[HP.COM](http://HP.COM)から入手できるプログラミングガイドに記載されていますが、以下の手順でもUSB-COMインターフェイスバーコードが提供されます。

バーコードスキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

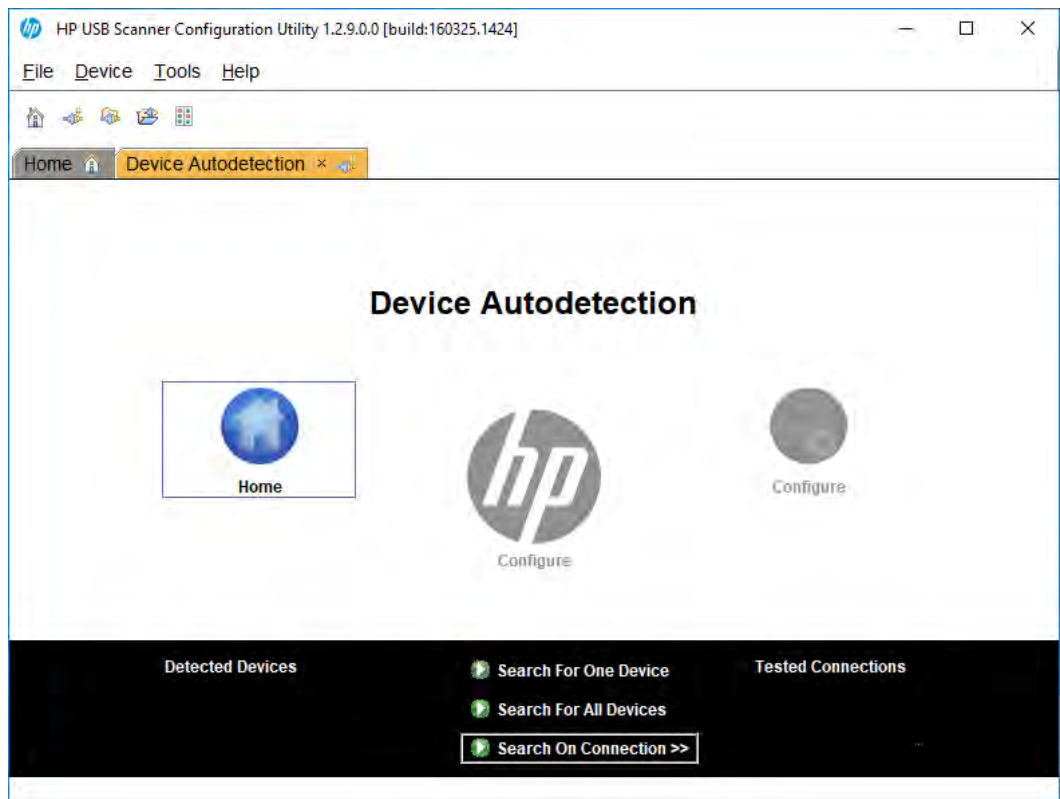
1. **[HP USB Scanner Configuration Utility]** (HP USBスキャナー設定ユーティリティ) をインストールします。これは[HP.COM](http://HP.COM)から入手できます。
2. **[HP USB Scanner Configuration Utility]**を開きます。
3. **[Device Autodetection]** (デバイスの自動検出) オプションをクリックします。
4. **[Search On Connection]** (接続時に検索) オプションをクリックします。
5. バーコードスキャナーがUSB-COMインターフェイスでない場合は、提供されたバーコードをスキャンします。
6. バーコードスキャナーが接続されているCOMコネクタを選択して、[OK]ボタンをクリックします。
7. 検出されたバーコードスキャナーをクリックします。デバイス値が読み取られます。
8. **[View Image]** (画像) ボタン (眼鏡のアイコン) をクリックします。このオプションを選択すると、一部のモデルでのみビープ音が鳴ります。
9. **[Capture on Trigger]** (トリガー時にキャプチャ) オプションをクリックします。
10. バーコードスキャナーを項目に合わせ、トリガーを押して画像をキャプチャします。

### 詳しい手順

1. **[HP USB Scanner Configuration Utility]**をインストールします。これは[HP.COM](http://HP.COM)から入手できます。
2. **[HP USB Scanner Configuration Utility]**を開きます。
3. **[Device Autodetection]**オプションをクリックします。



4. [Search On Connection]オプションをクリックします。



5. バーコード スキャナーがUSB-COMインターフェイスでない場合は、提供されたバーコードをスキャンします。
6. バーコード スキャナーが接続されているCOMコネクタを選択して、[OK]ボタンをクリックします。

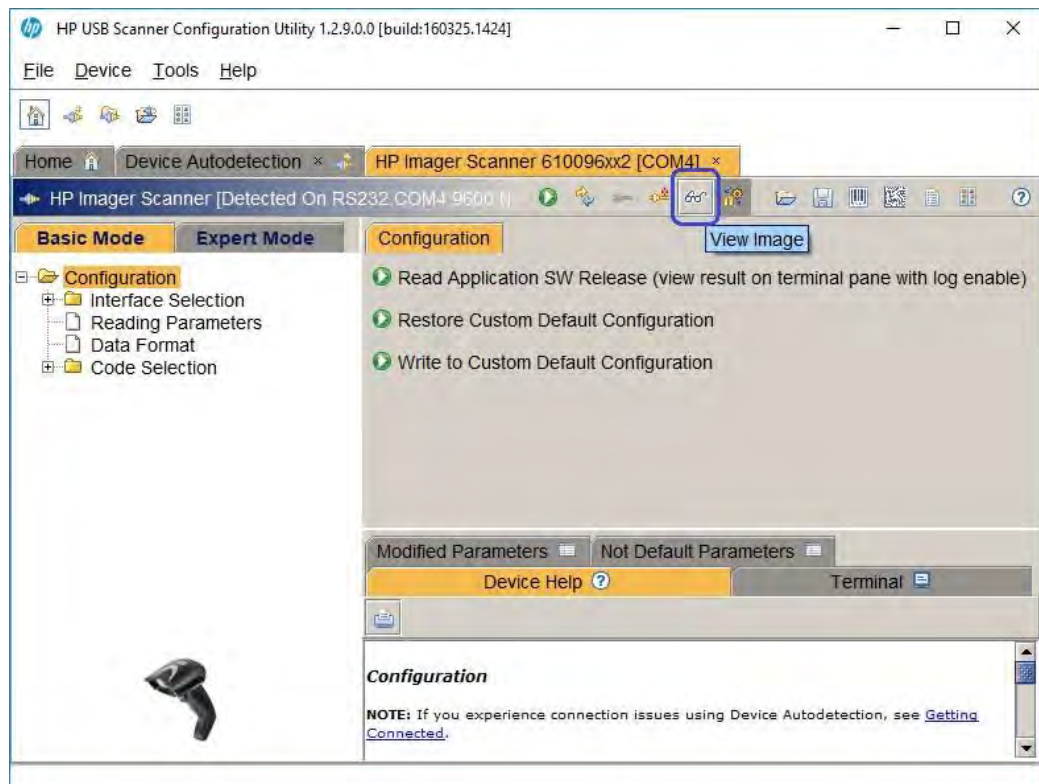




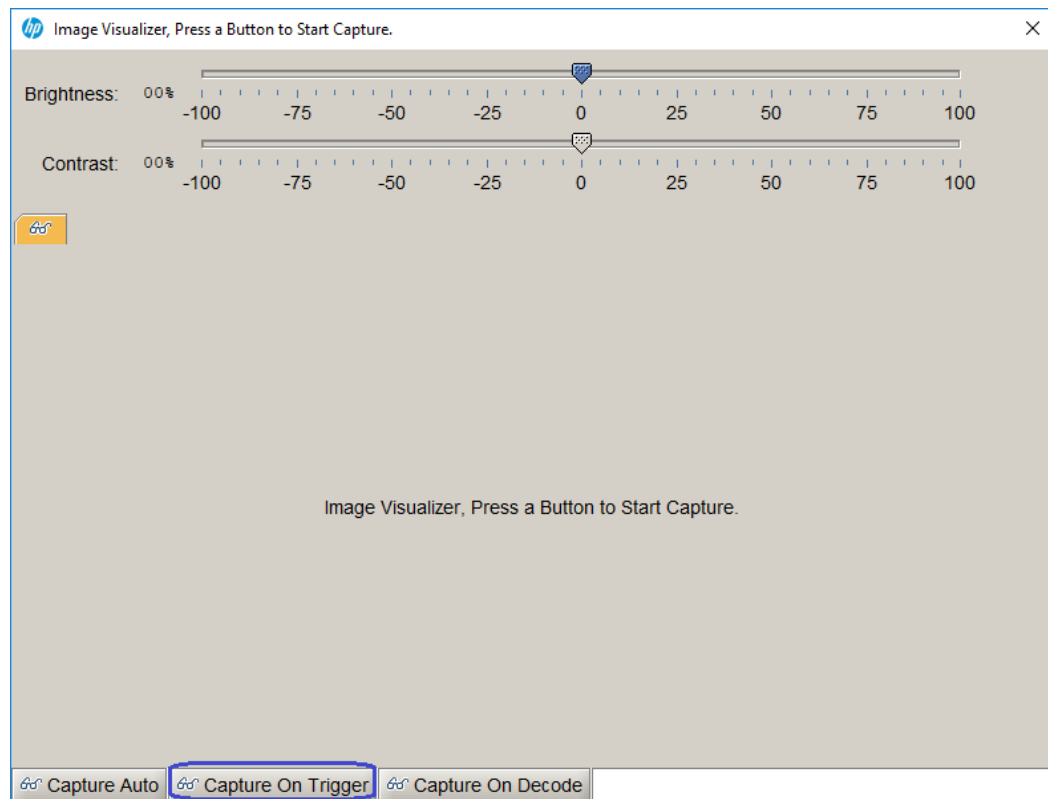
7. 検出されたバーコードスキャナーをクリックします。デバイス値が読み取られます。



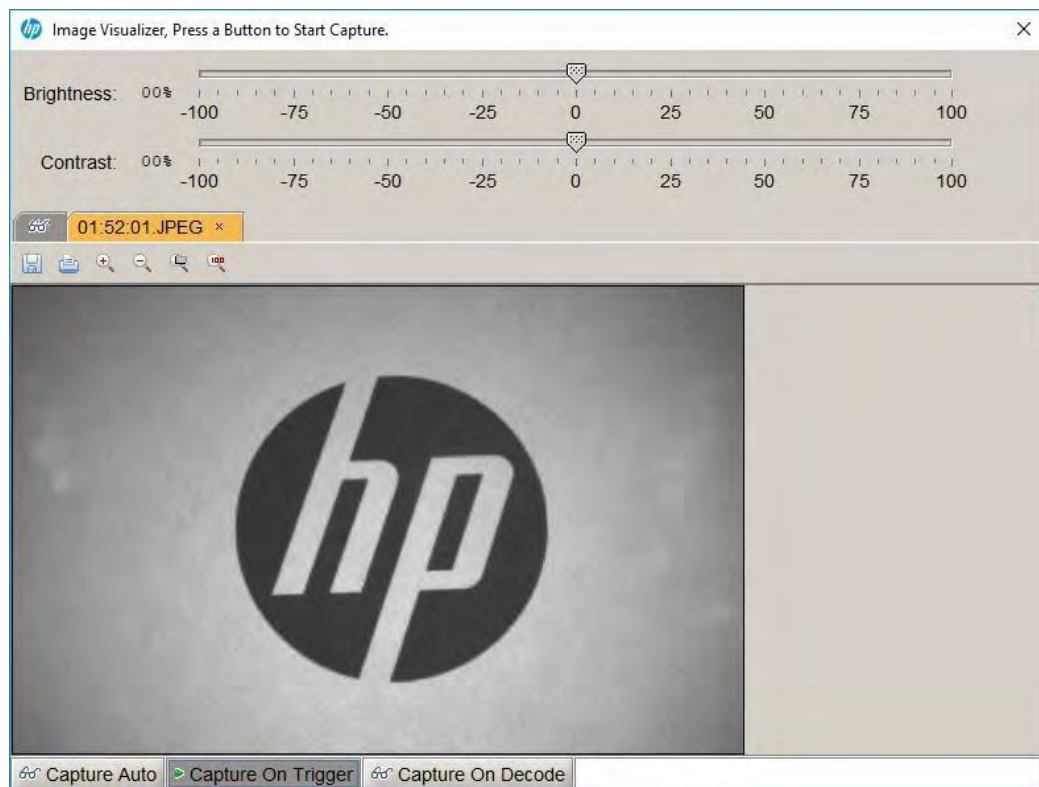
8. [View Image]ボタン（眼鏡のアイコン）をクリックします。このオプションを選択すると、一部のモデルでのみビープ音が鳴ります。



9. [Capture on Trigger]オプションをクリックします。



10. バーコード スキャナーを項目に合わせ、トリガーを押して画像をキャプチャします。



## 6.11 HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナー



### 6.11.1 接続

バーコードスキャナーは、サポートされるタブレットをHP ElitePadリテールジャケットに設置することによって接続されます。

- HP ElitePad 900タブレット
- HP ElitePad 1000タブレット

### 6.11.2 動作モード

HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナーによってサポートされる動作モードを、Windowsデバイス マネージャーの項目と一緒に以下に示します。スキャナーは初期設定ではUSB HIDキーボード モードで出荷されていますが、スキャナー ファームウェア バージョン3.06.068以降ではファームウェア更新をサポートするためにUSB複合デバイス（USB HIDキーボードとHID-POSを組み合わせたもの）として再定義されました。必要な場合は、HPの工場出荷時のイメージまたは[HP.COM](http://HP.COM)から入手できる『HP Retail Jacket for Elitepad Barcode Scanner Programming Reference Guide』（HP Elitepadリテールジャケットバーコードスキャナー プログラミング リファレンス ガイド）に含まれている「HP Retail Jacket Scanner OPOS\_NonOPOS Barcodes.pdf」ファイルを使用して、環境に合わせてスキャナー モードを変更してください。

#### HID-POS（スキャナーファームウェアバージョン3.06.068以降でのみ使用可能）:

POS Barcode Scanner¥POS HID Barcode scanner

- ハードウェアID : HID¥VID\_03F0&PID\_5539

#### USB COM :

ユニバーサルシリアルバスコントローラー¥HP USB Mobile Barcode Scanner - COM

- ハードウェアID : USB¥VID\_03F0&PID\_2C39



### USB HIDキーボード（初期設定）:

スキャナーファームウェアバージョン3.06.068以降:

キーボード¥HIDキーボードデバイス

- ハードウェアID: HID¥VID\_03F0&PID\_5739

POS Barcode Scanner¥POS HID Barcode scanner

- ハードウェアID: HID¥VID\_03F0&PID\_5739

Universal Serial Bus controllers¥USB Composite Device

- ハードウェアID: USB¥VID\_03F0&PID\_5739

スキャナーファームウェアバージョン3.06.068以前:

キーボード¥HIDキーボードデバイス

- ハードウェアID: HID¥VID\_03F0&PID\_2A39

## 6.11.3 ドライバー

スキャナーの各動作モードに必要なドライバーを以下の表に示します。すべてのドライバーはHPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

動作モード	Windowsドライバー	OPOSまたはJPOSドライバー
HID-POS	なし（ネイティブ）	オプション
USB COM	必須	必須
USB HIDキーボード（初期設定）	なし（ネイティブ）	該当なし

OPOSおよびJPOSドライバーは初期設定でUSB COMモードに設定されてます。スキャナーの動作モードをUSB COMとHID-POSの間で切り替えるとき、OPOSおよびJPOSドライバーを対応するように再設定する必要があります。

OPOSの再構成は、C:\Program Files folder>¥HP¥HP Mobile Scanner OPOS¥Scanner OPOS Configuration UtilityにあるHPスキャナーOPOS設定ユーティリティ（OPOSドライバーの一部として含まれてインストールされる）を実行するか、OPOSドライバー自体をアンインストールして再インストールすることによって実行できます。HPスキャナーOPOS設定ユーティリティを開いてデバイス タイプ（HPMobileScannerなど）を選択すると、現在のスキャナー動作モードが[Communication Type]（通信タイプ）の下に選択表示されます。

JPOSの再構成は、C:\xxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\Mobile Retail Jacket Scanner JPOS\JposScanner内のjpos.xmlを編集することによって実行できます。ポートの値はUSB COMモードの場合は「COM」、HID-POSモードの場合は「HID」に設定する必要があります。

#### 6.11.4 スキャナーのテスト

テスト目的で使用できるサンプルのバーコードを以下に示します。



これはPDF417です

#### 6.11.4.1 HID-POSモードでのスキャナーのテスト

HPから利用できるHID-POSテスト アプリは現在ありません。

#### 6.11.4.2 USB HIDキーボードモードでのスキャナーのテスト

このモードでスキャナーをテストするには、Microsoftの[メモ帳]などのテキスト エディターを開き、バーコードをスキャンし、テキストが入力されるかどうかを確認します。

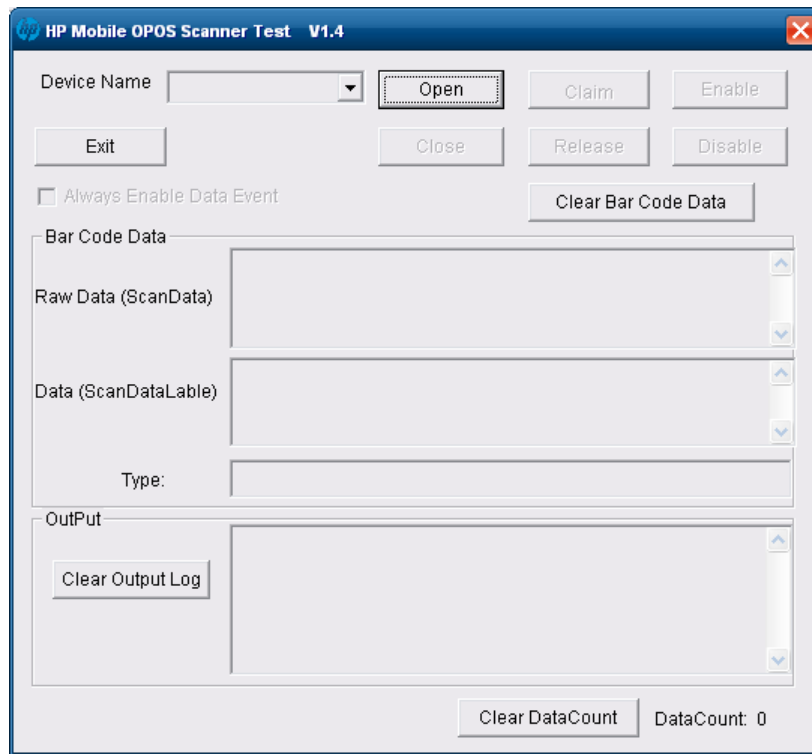
#### 6.11.4.3 OPOSによるUSB COMモードでのスキャナーのテスト

スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

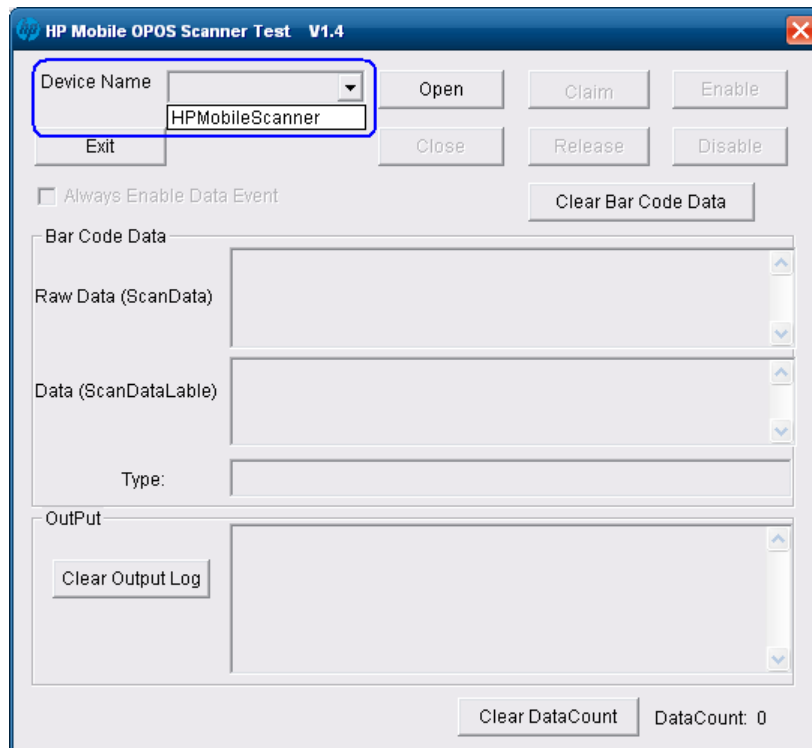
1. **[HP Mobile OPOS Scanner Test]** (HPモバイルOPOSスキャナー テスト) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\Mobile OPOS Test Utilityフォルダー
2. ドロップダウン ボックスから適切なスキャナー デバイスを選択します。
3. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
4. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
5. **[Enable]** (有効にする) ボタンをクリックします。
6. バーコードをスキャンすると、データがダイアログ ボックスに表示されます。
7. スキャンが完了した後、**[Disable]** (無効にする) ボタンをクリックします。
8. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
9. **[Close Scanner]** (スキャナーを閉じる) ボタンをクリックします。
10. アプリケーションを終了します。

## 詳しい手順

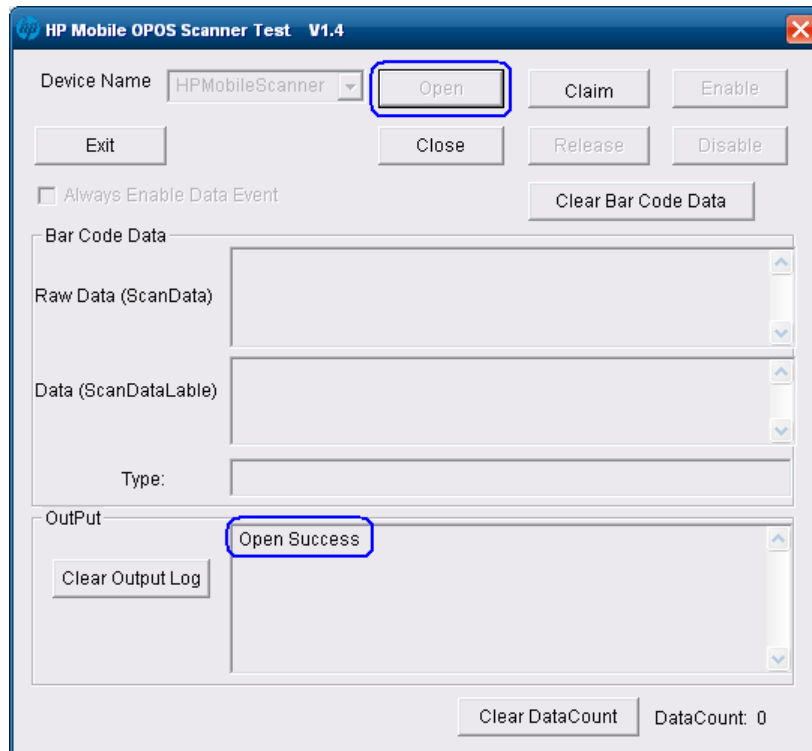
1. [HP Mobile OPOS Scanner Test]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\Mobile OPOS Test Utilityフォルダー



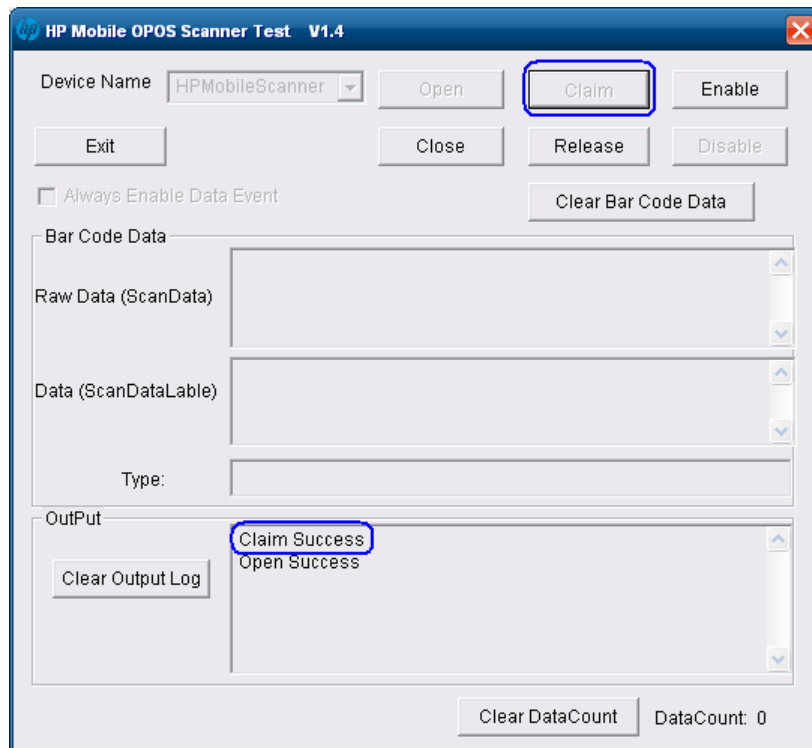
2. ドロップダウン ボックスから適切なスキャナー デバイスを選択します。



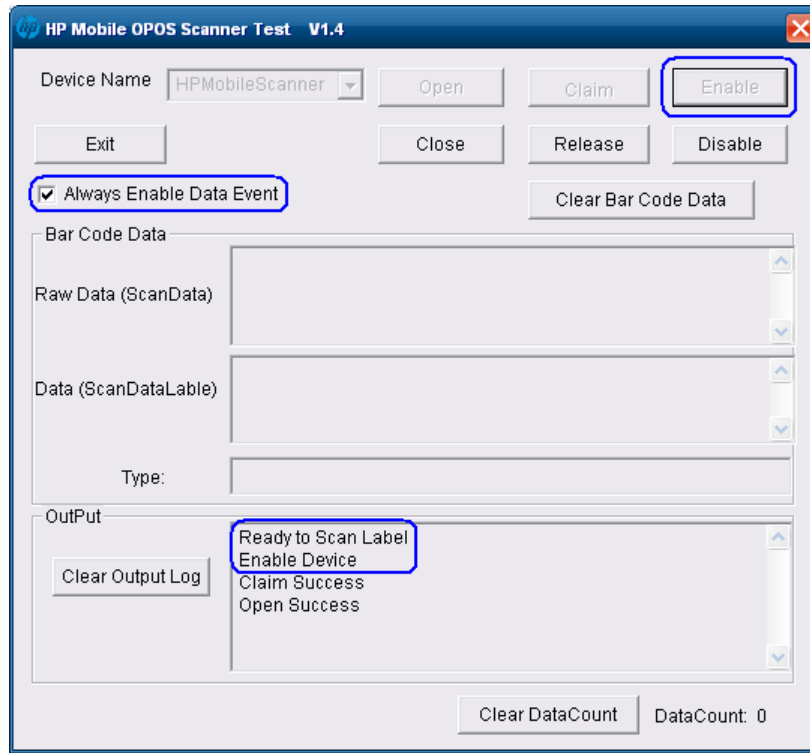
3. [Open]ボタンをクリックします。[Output]（出力）セクションには、[Open Success]（開く：成功）と表示されます。



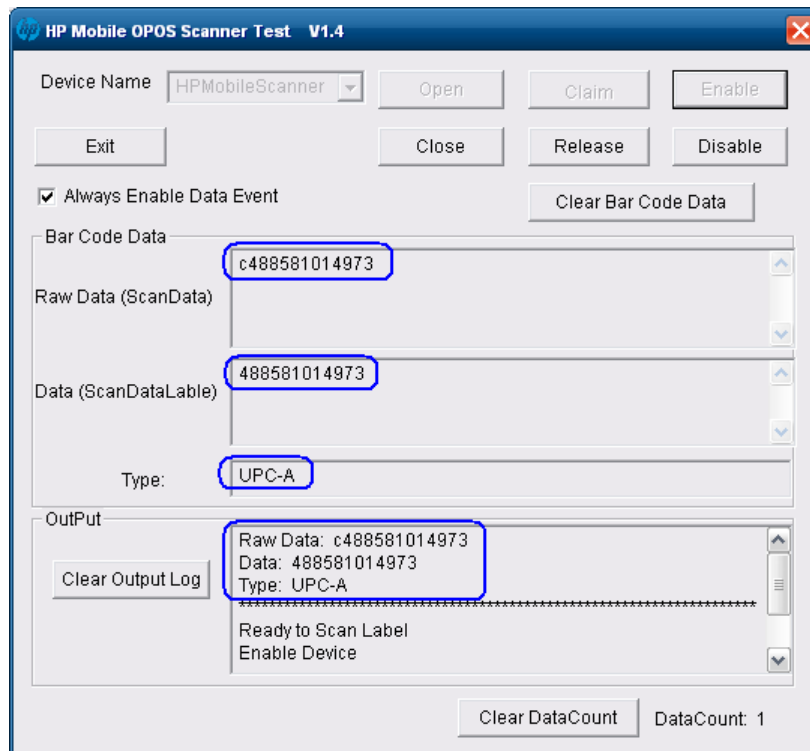
4. [Claim]ボタンをクリックします。[Output]セクションには、[Claim Success]（要求:成功）と表示されます。



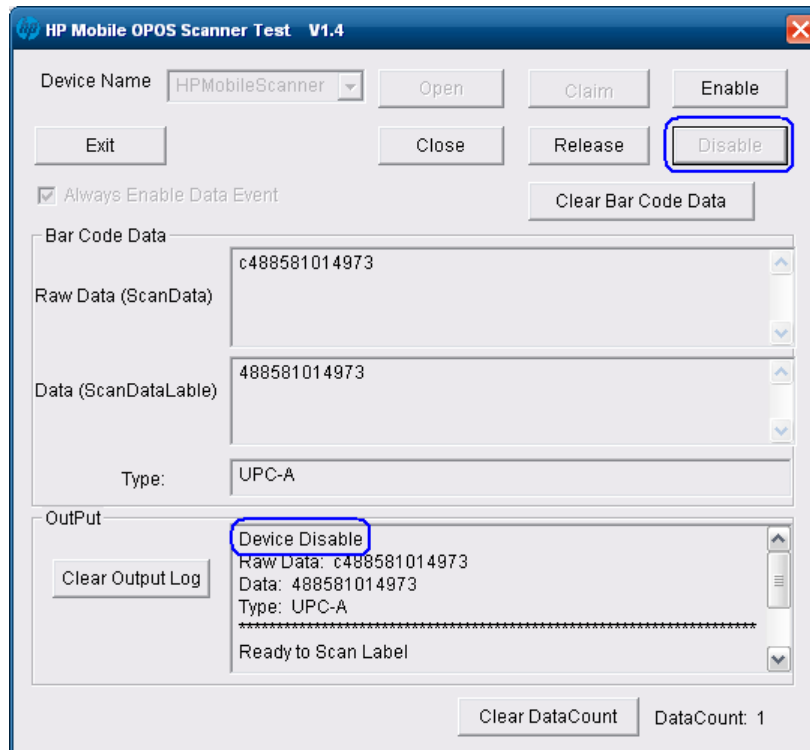
5. [Enable]ボタンをクリックします。  
[Always Enable Data Event] (データ イベントを常に有効にする) のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。



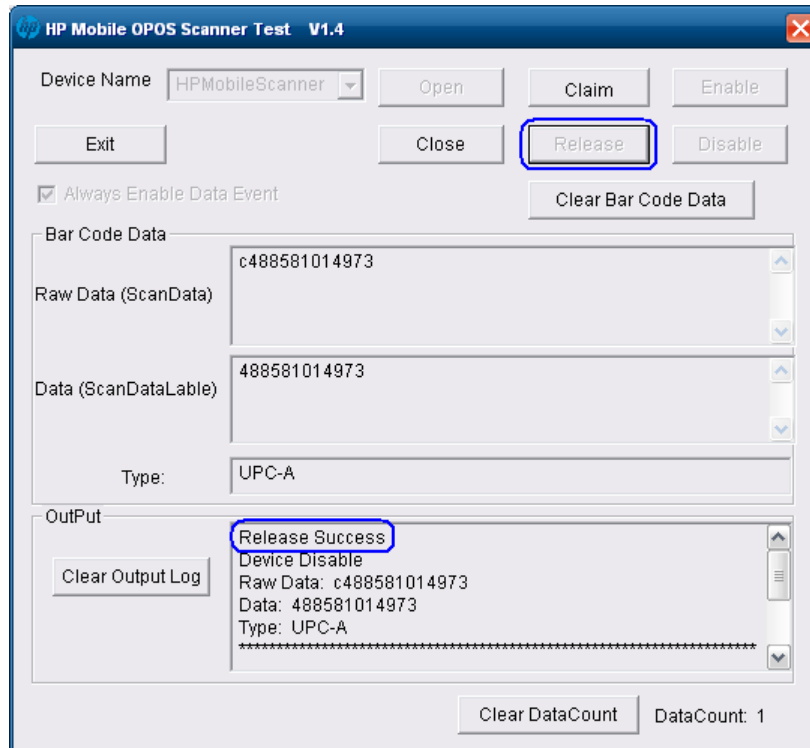
6. バーコードをスキャンすると、データがダイアログボックスに表示されます。



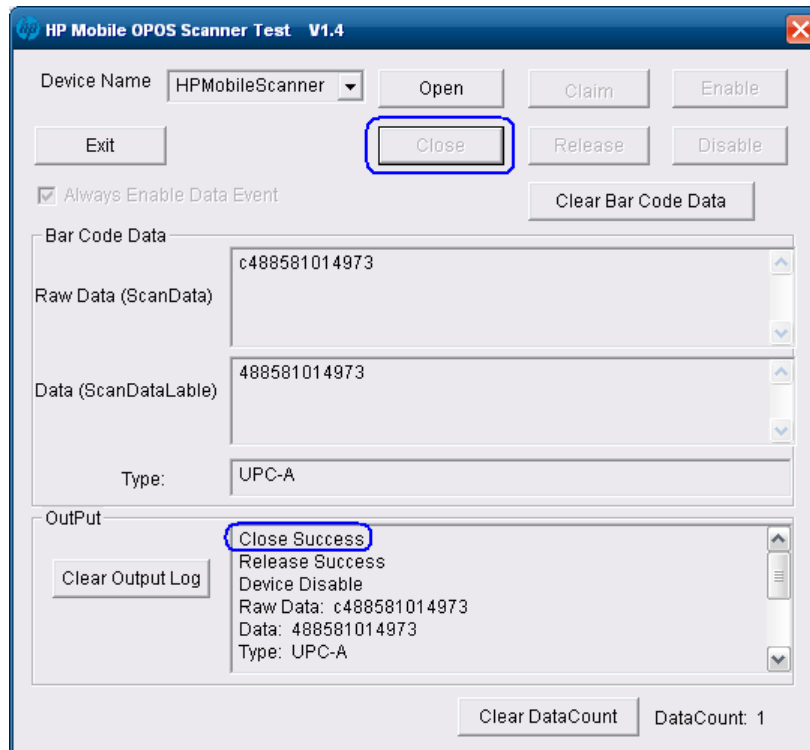
7. スキャンが完了した後、[Disable]ボタンをクリックします。



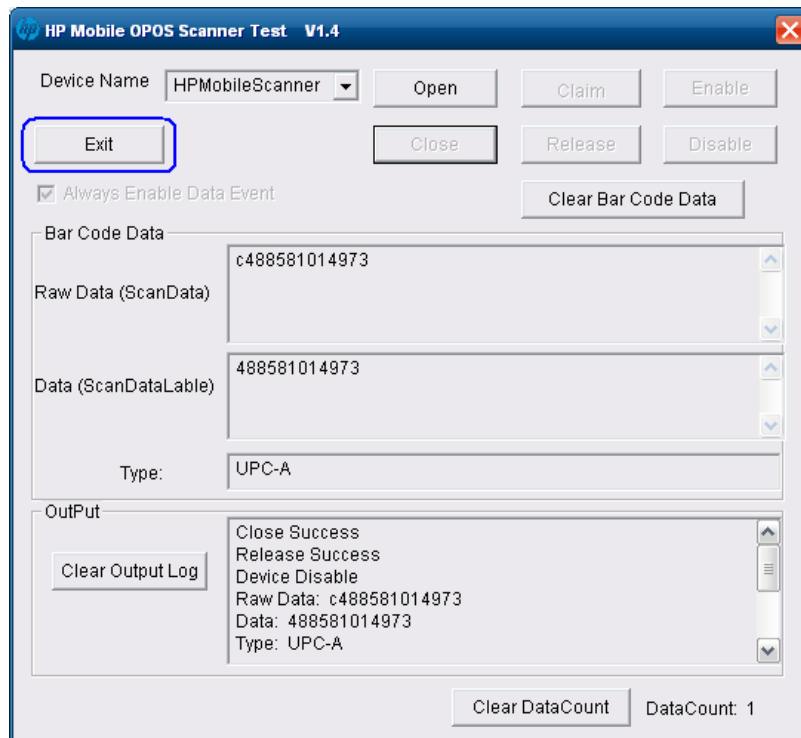
8. [Release]ボタンをクリックします。



9. [Close Scanner]ボタンをクリックします。



10. アプリケーションを終了します。





#### 6.11.4.4 JPOSによるUSB COMモードでのスキャナーのテスト

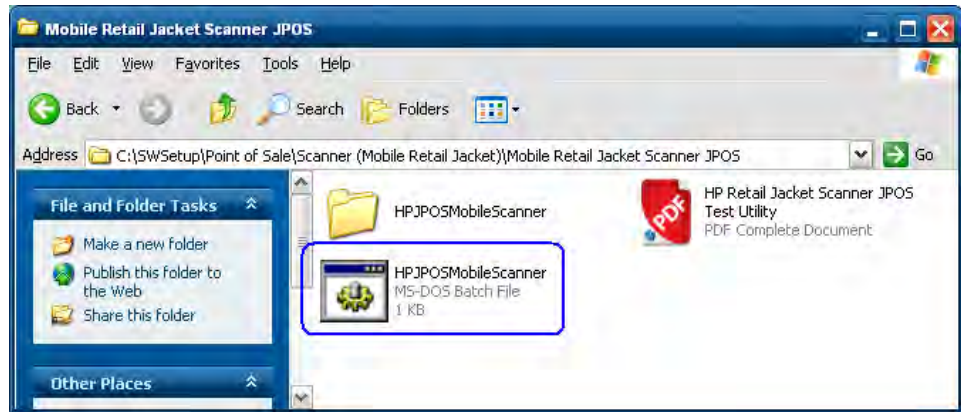
JPOSドライバーは「C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\ Mobile Retail Jacket Scanner JPOS」フォルダーにあります。

スキャナーをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. **[JavaPOSTester]** (JavaPOSテストプログラム) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\ Mobile Retail Jacket Scanner JPOS\HPJPOSMobileScanner.bat.
2. **[Scanner]** (スキャナー) タブをクリックします。
3. ドロップダウンメニューから適切なデバイスを選択します。
4. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
5. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
6. バーコードをスキャンすると、データが**[Scan Data]** (スキャン データ) ボックスおよび**[Scan Data Label]** (スキャン データ ラベル) ボックスに表示されます。

#### 詳しい手順

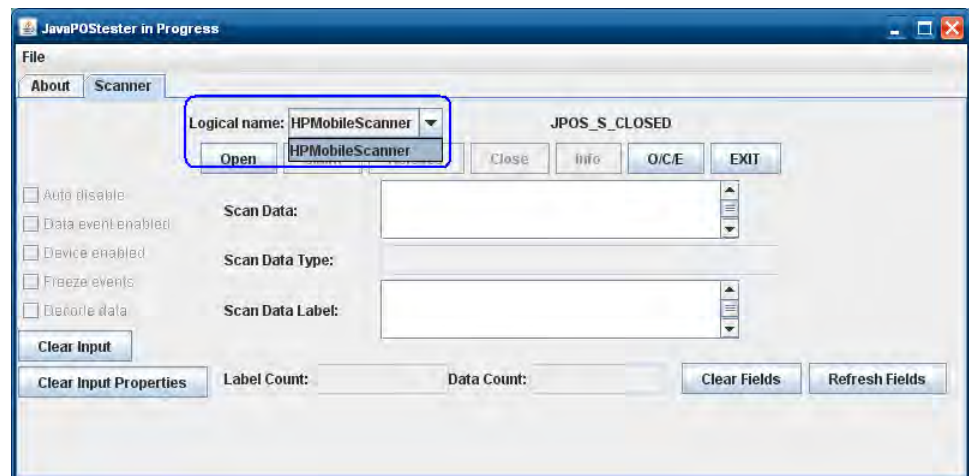
1. **[JavaPOSTester]**を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Scanner (Mobile Retail Jacket)\ Mobile Retail Jacket Scanner JPOS\HPJPOSMobileScanner.bat.



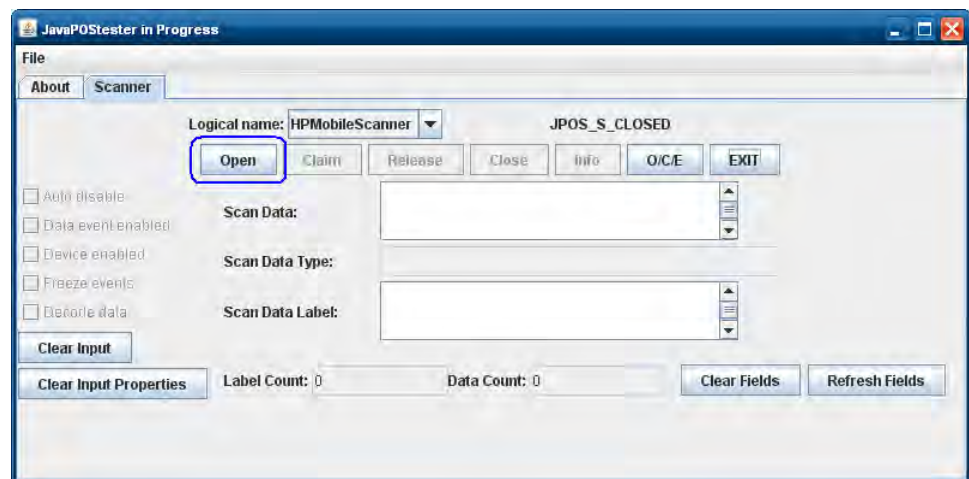
2. [Scanner]タブをクリックします。



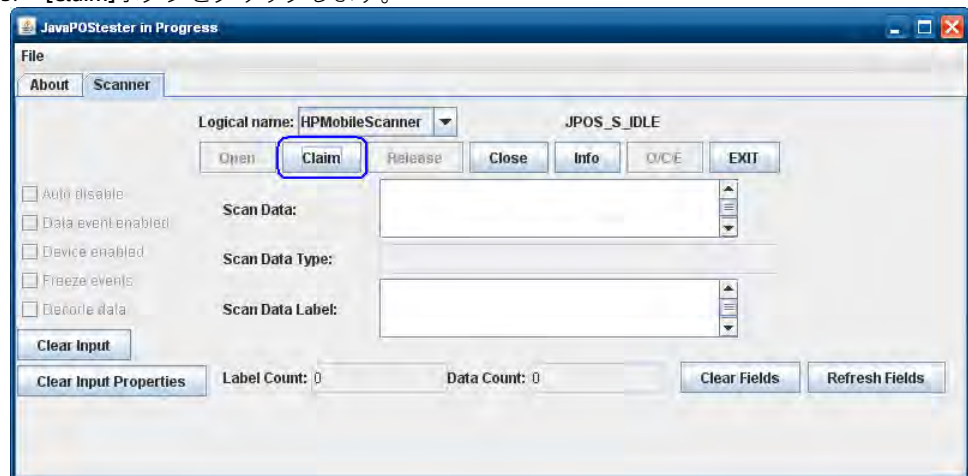
3. ドロップダウンメニューから適切なデバイスを選択します。



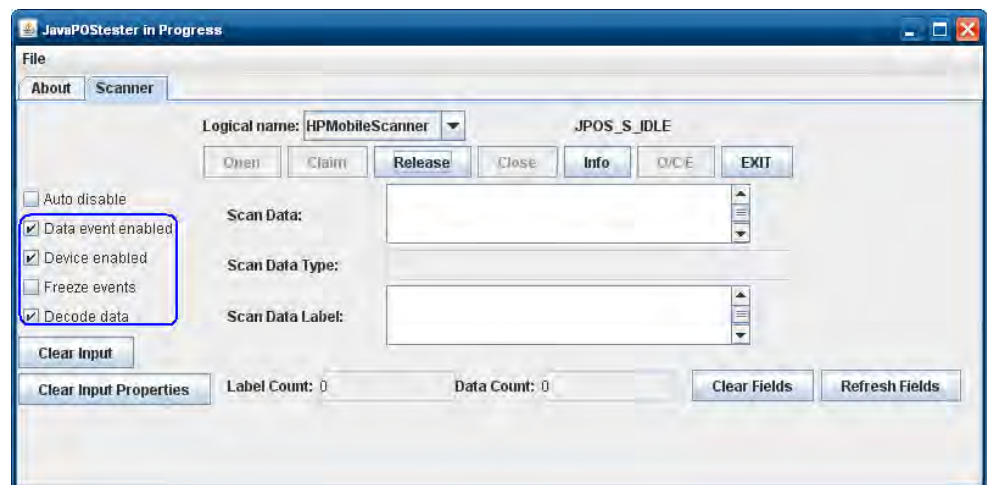
4. [Open]ボタンをクリックします。



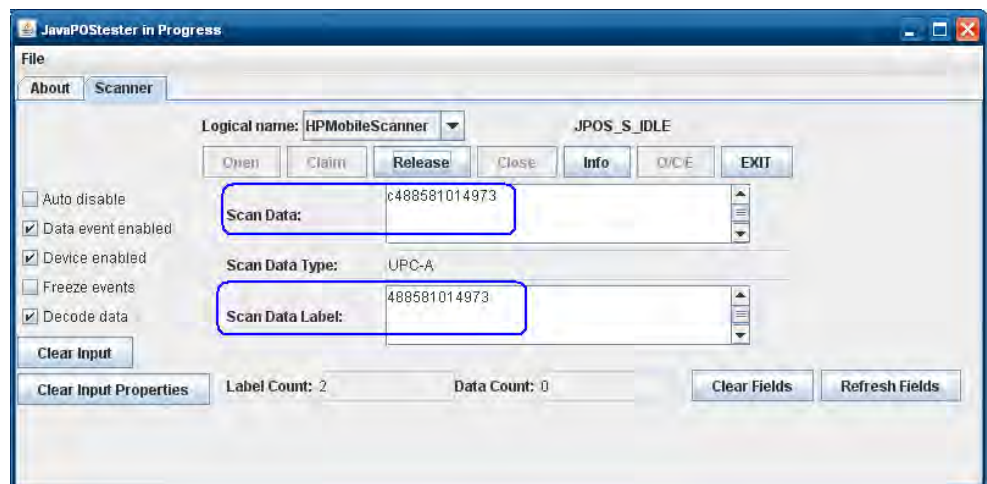
5. [Claim]ボタンをクリックします。



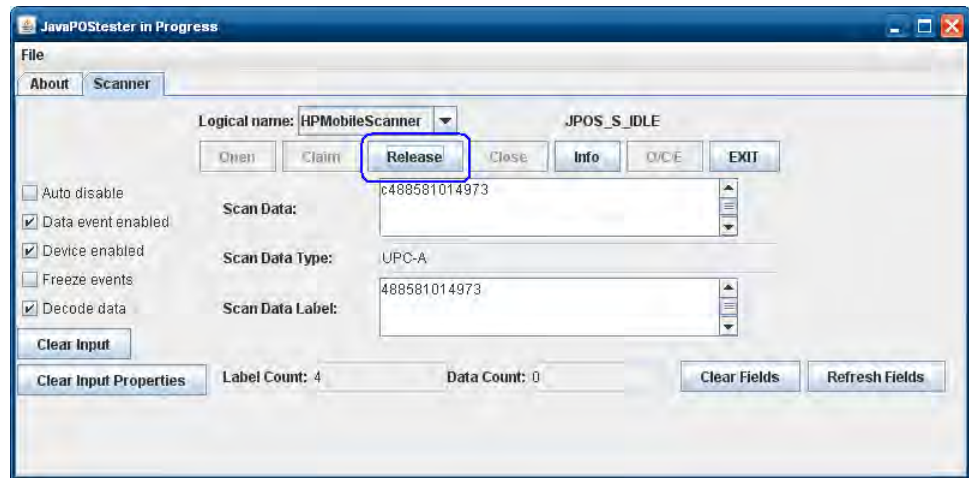
[Claim]ボタンをクリックして2~3秒経つと、[Data event enabled]（データ イベント有効）、[Device enabled]（デバイス有効）、[Decode data]（データの読み取り）ボックスの横にチェックマークが表示されます。



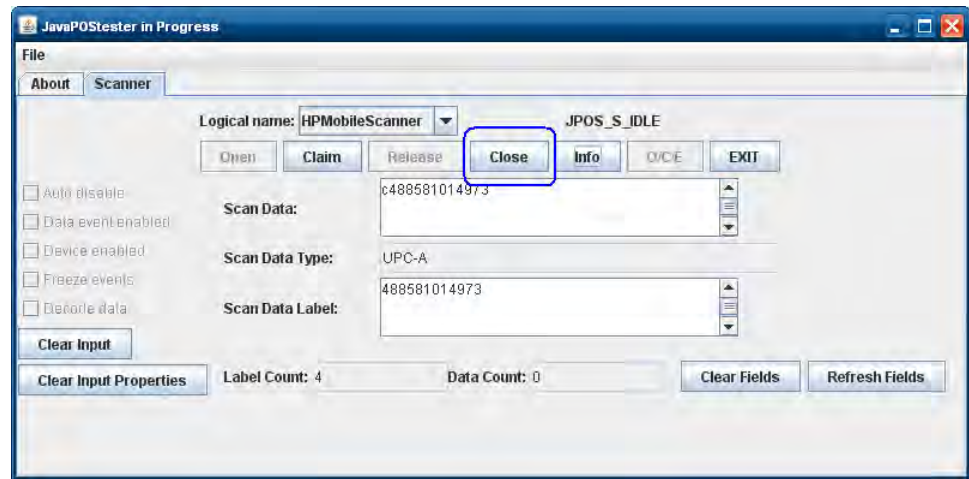
6. バーコードをスキャンすると、データが[Scan Data]ボックスおよび[Scan Data Label]ボックスに表示されます。



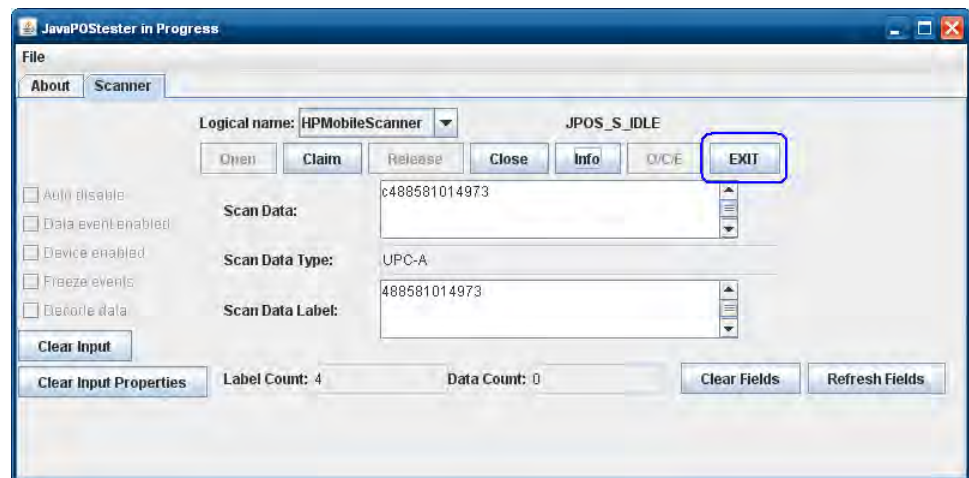
7. スキャンが完了した後、[Release] (リリース) ボタンをクリックします。



8. [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。



9. [Exit] (終了) をクリックしてテスト アプリケーションを閉じます。





## 6.12 HP POSキーボード



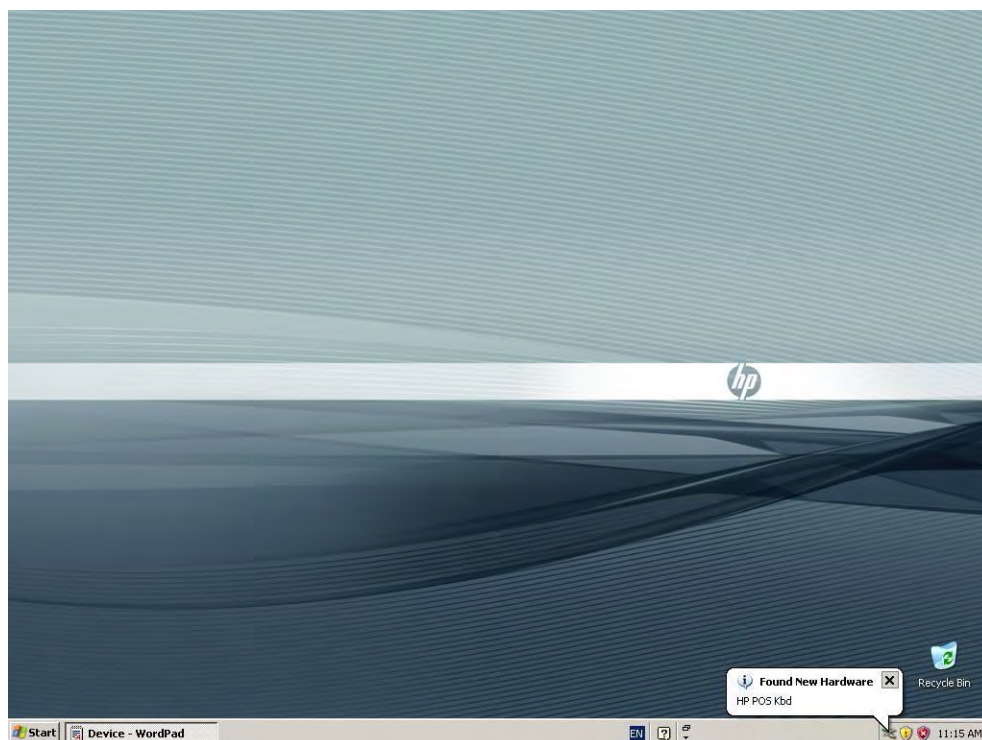
### 6.12.1 接続

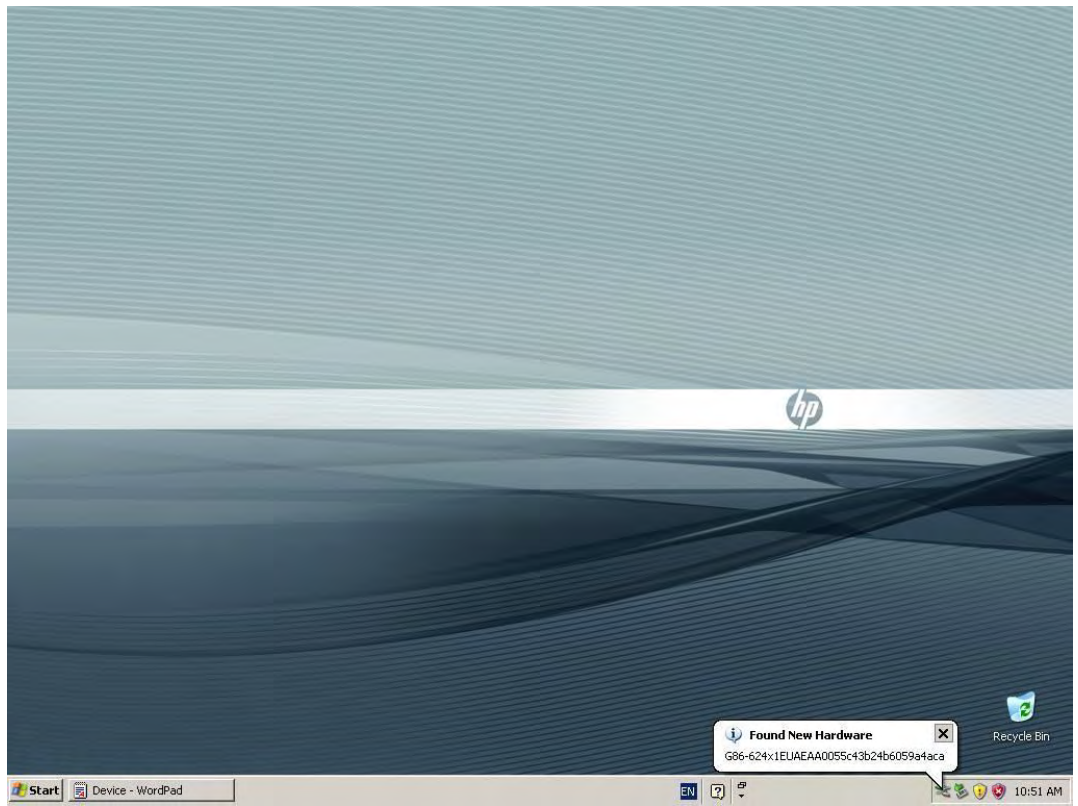
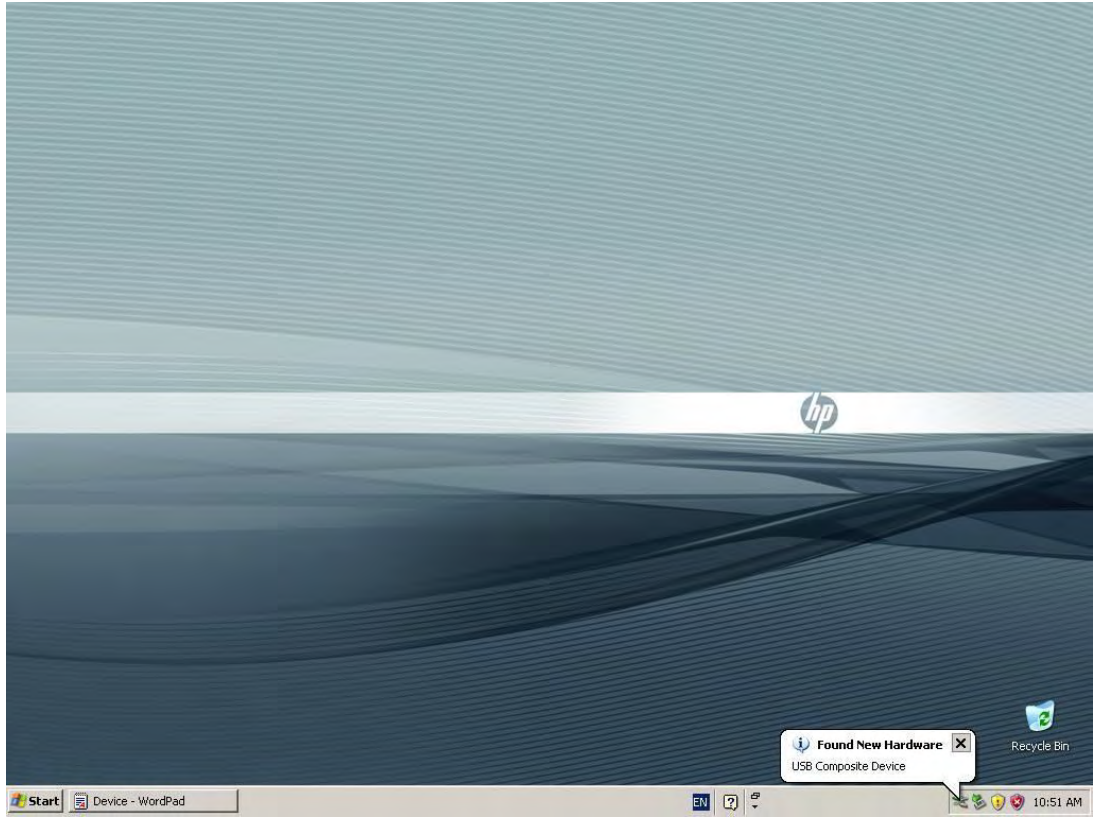
HP POSキーボードは、電源供給機能付きUSBポートを含め、空いているどのUSBポートにも接続できます。電源供給機能付きUSBポートを使用する場合、電源供給機能は使用されません。

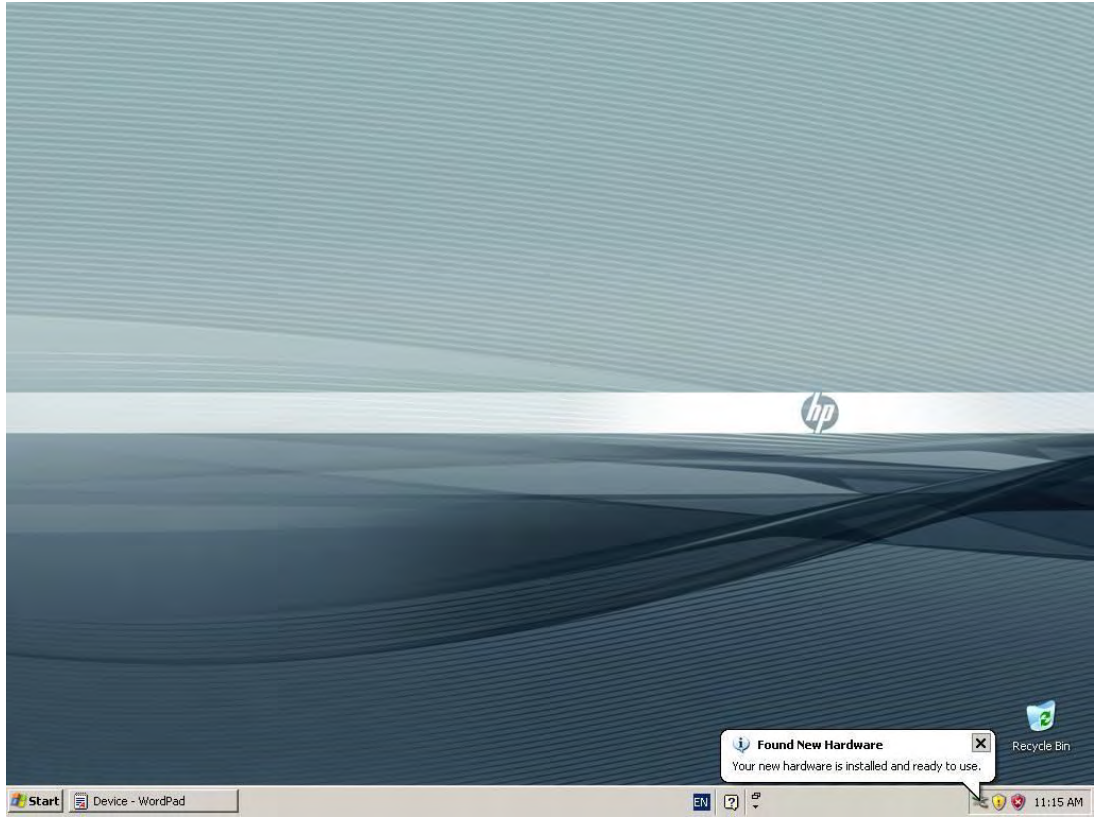
### 6.12.2 Windowsドライバー

HP POSキーボードでは、Windowsオペレーティング システムのネイティブ ドライバーが使用されます。Windowsによってキーボードおよびタッチパッド用の複数のドライバーが読み込まれます。ドライバーのインストール時にWindowsの新しいハードウェア ウィザードが表示された場合は、ユーザーはハードウェア ウィザードのGUIで表示される初期設定を受け入れる必要があります（最初の画面で[いいえ]のオプションを選択することもできます）。これによって、ネイティブ ドライバーが読み込まれます。詳しくは、「[ネイティブ ドライバーの場所を確認するメッセージが表示された場合（新しいハードウェア ウィザード）](#)」のセクションを参照してください。ドライバーのインストールを求めるメッセージが表示された場合は、Windows HIDドライバーを読み込むために新しいハードウェア ウィザードを5~6回実行する必要があります。

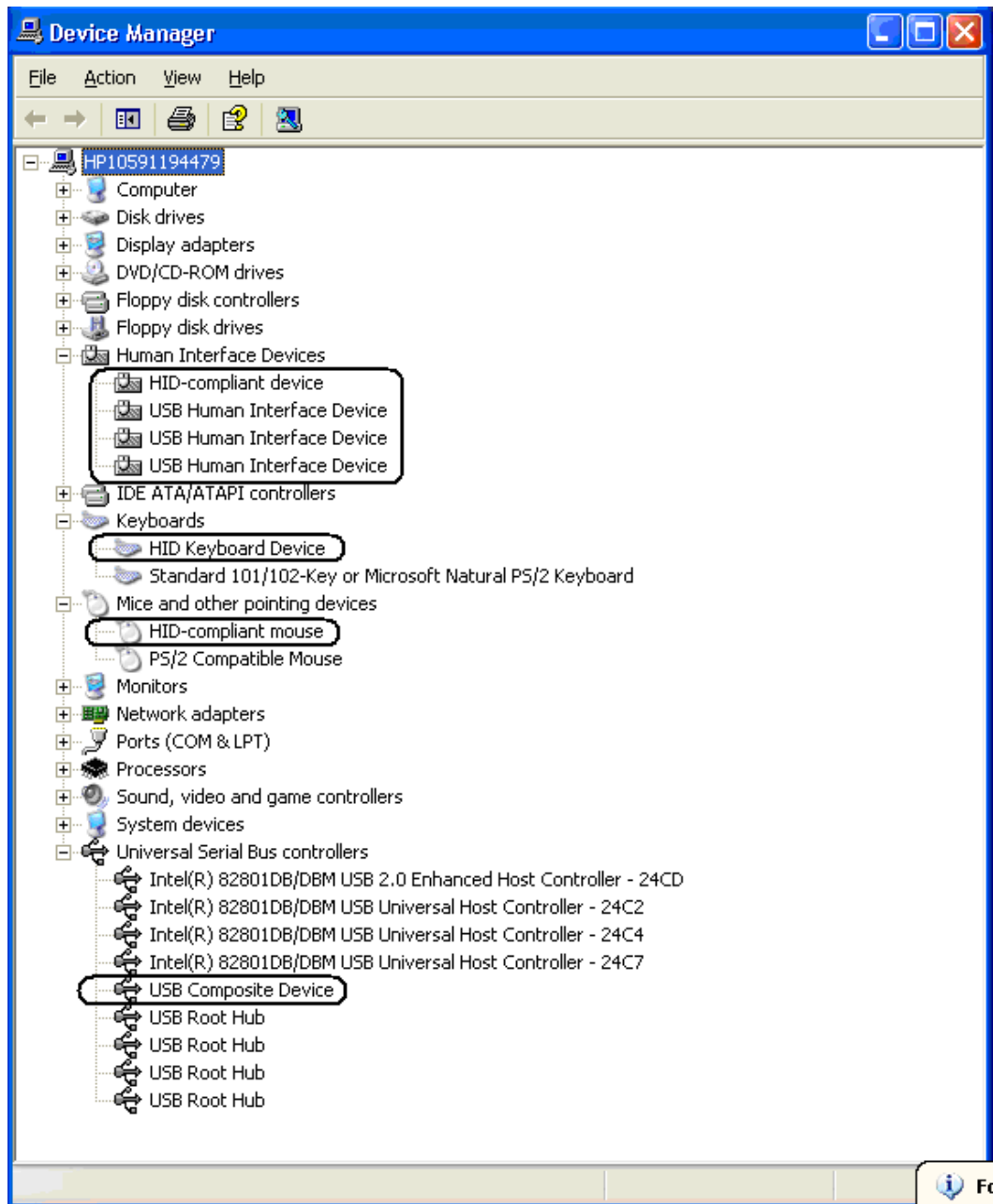
Windowsがこのデバイス用のドライバーをインストールするときに表示されるダイアログ ボックスを、いくつか以下に示します。







以下の図に、HP POSキーボード用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。



### 6.12.3 OPOS

キーボードにOPOSドライバーは必要ありません。

### 6.12.4 JPOS

キーボードにJPOSドライバーは必要ありません。

### 6.12.5 POSキーボードのテスト

[メモ帳]を開き、キーボードから入力した文字が[メモ帳]に表示されることを確認します。



## 6.13 磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボード



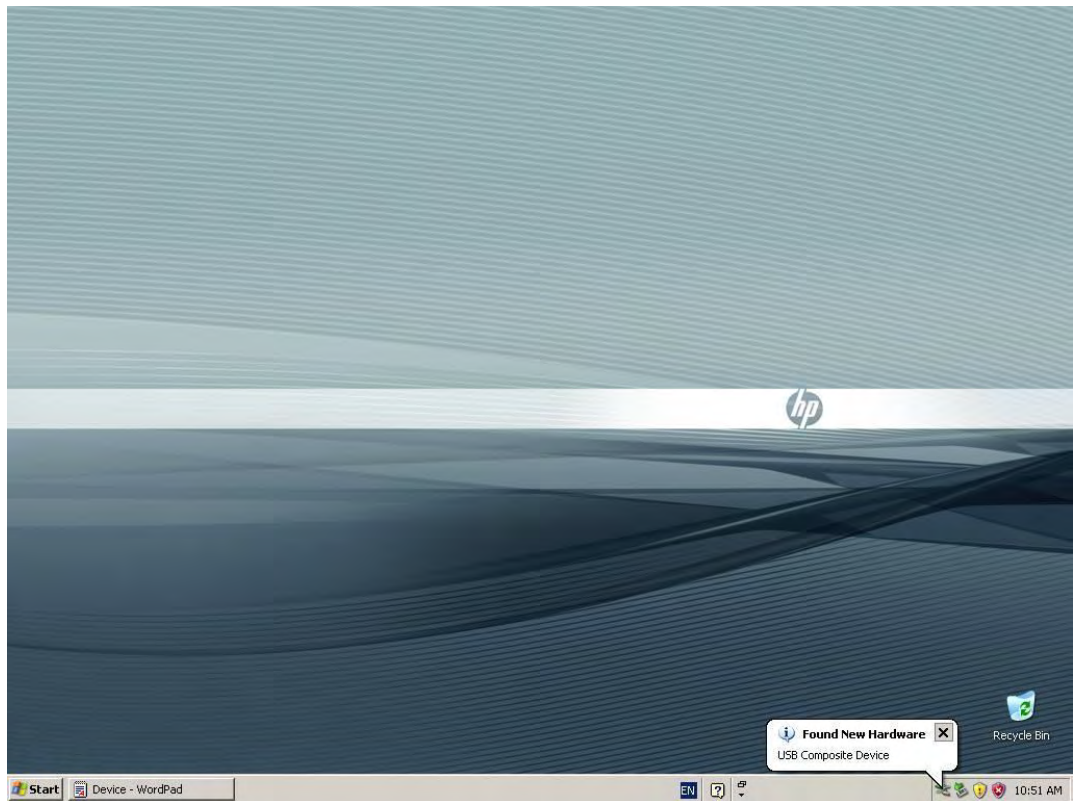
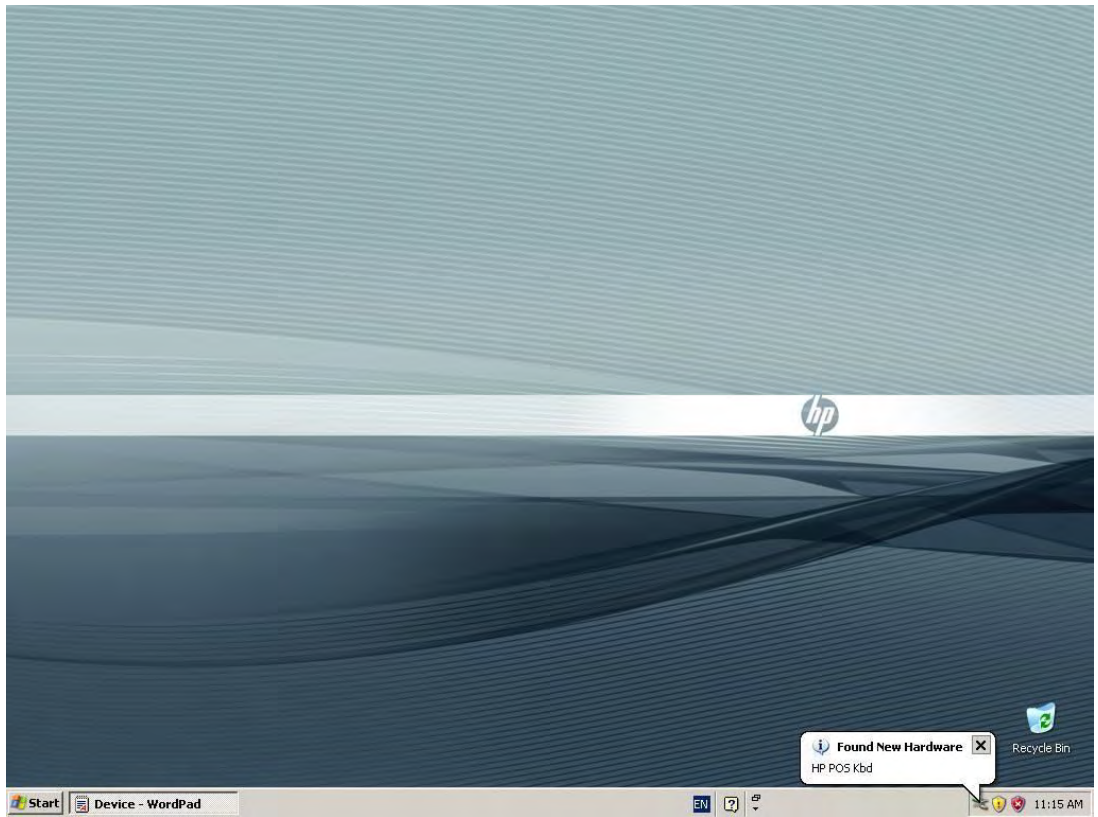
### 6.13.1 接続

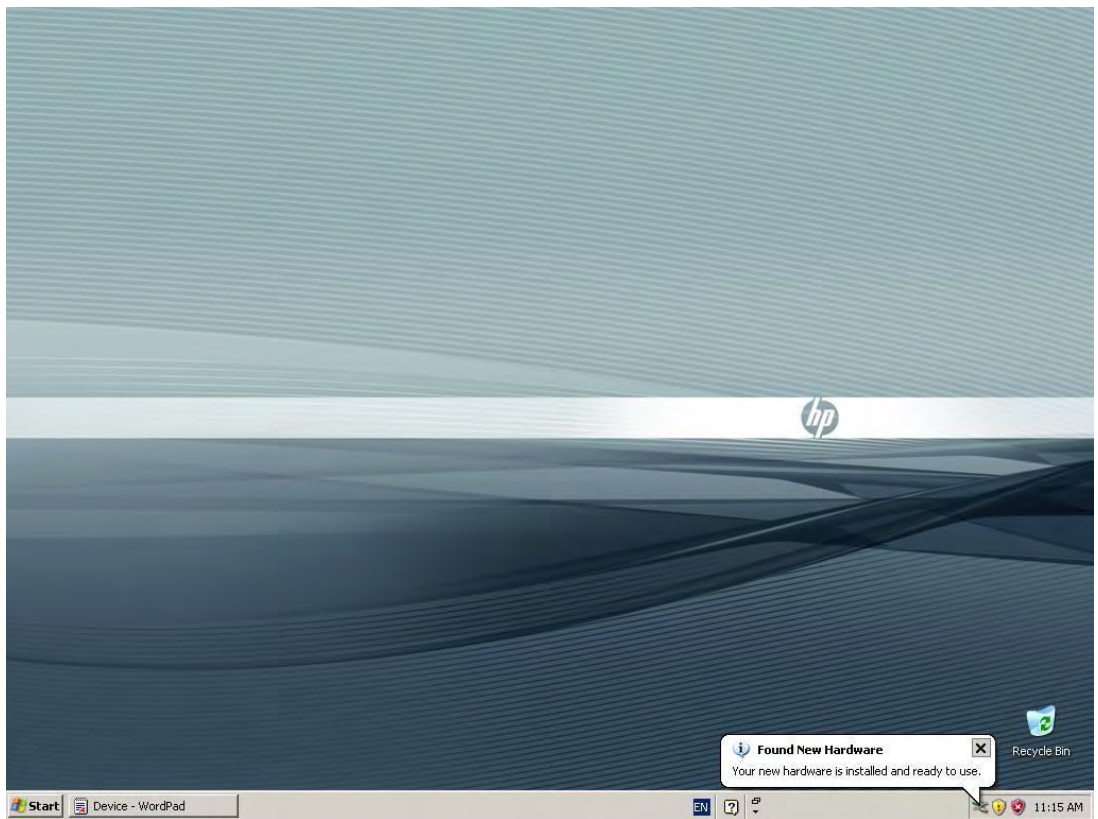
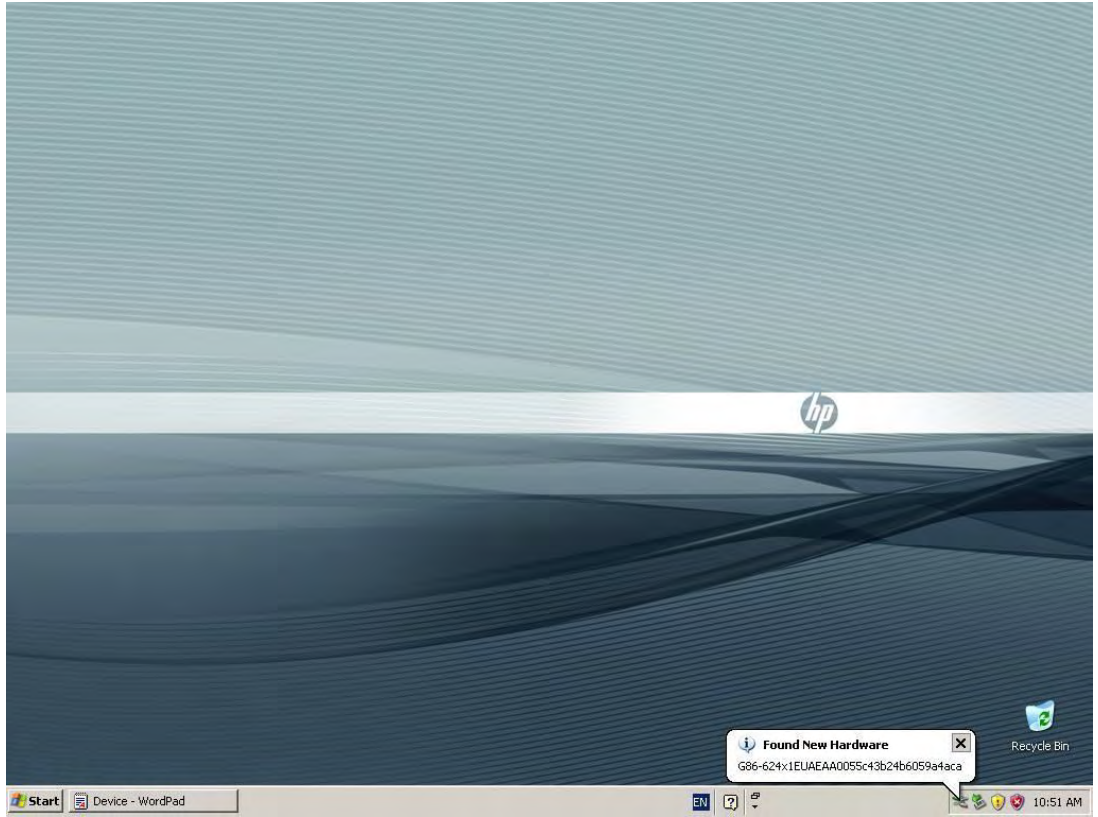
磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボードは、電源供給機能付きUSBポートを含め、空いているどのUSBポートにも接続できます。電源供給機能付きUSBポートを使用する場合、電源供給機能は使用されません。

### 6.13.2 Windowsドライバー

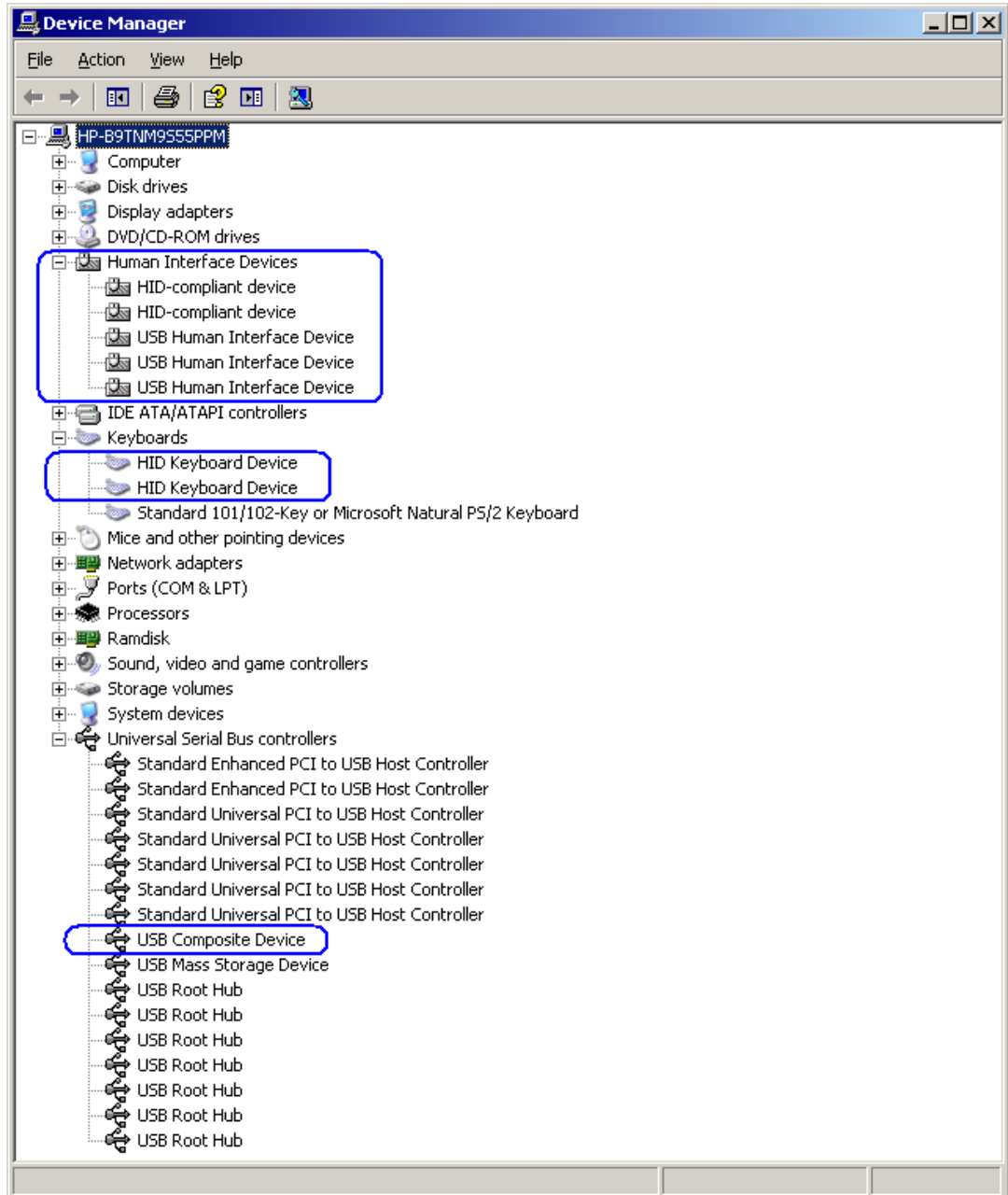
磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボードでは、Windowsオペレーティングシステムのネイティブドライバーが使用されます。Windowsによってキーボードおよびタッチパッド用の複数のドライバーが読み込まれます。ドライバーのインストール時にWindowsの新しいハードウェアウィザードが表示された場合は、ユーザーはハードウェアウィザードのGUIで表示される初期設定を受け入れる必要があります（最初の画面で[いいえ]のオプションを選択することもできます）。これによって、ネイティブドライバーが読み込まれます。詳しくは、「[ネイティブドライバーの場所を確認するメッセージが表示された場合（新しいハードウェアウィザード）](#)」セクションを参照してください。ドライバーのインストールを求めるメッセージが表示された場合は、Windows HIDドライバーを読み込むために新しいハードウェアウィザードを5～6回実行する必要があることがあります。

Windowsがこのデバイス用のドライバーをインストールするときに表示されるダイアログボックスを、いくつか以下に示します。



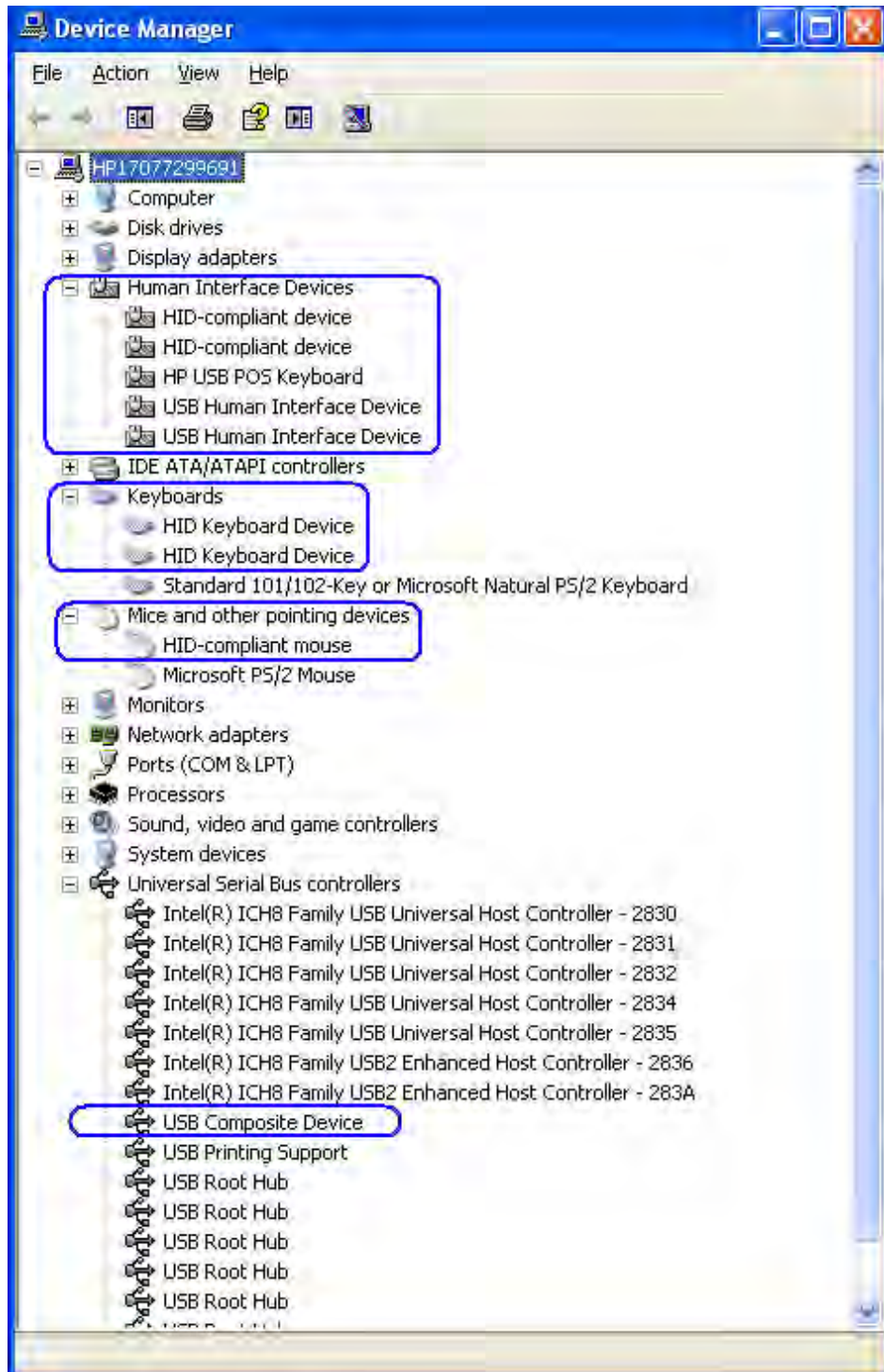


以下の図に、磁気ストライプ リーダー付きHP USB POSキーボード用にすべてのドライバーが読み込まれた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。





以下の図に、磁気ストライプ リーダー付きHP USB POSキーボード用にすべてのドライバーおよびキーボード設定ソフトウェアがインストールされた後の[デバイスマネージャー]の画面を示します。



### 6.13.3 MSR用のOPOS/JPOSの有効化

磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボードでMSR用のOPOS/JPOSドライバーを使用するには、このオプションを有効にする必要があります。

#### MSR用のOPOS/JPOSの有効化

MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

1. HP POSキーボード設定ユーティリティパッケージをインストールします。EXEを実行し、ユーティリティのインストールが完了した後、本体を再起動する必要があります。

**注：** HP工場出荷時のイメージでは、HP POSキーボード設定ユーティリティがすでにインストールされているため、手順1を省略して手順2に進むことができます。設定ユーティリティが本体にすでにインストールされていて、セットアップが開始された場合、インストールされているバージョンを変更、修正、または削除してからインストールを中止し、手順2に進むよう求めるメッセージが表示されます。

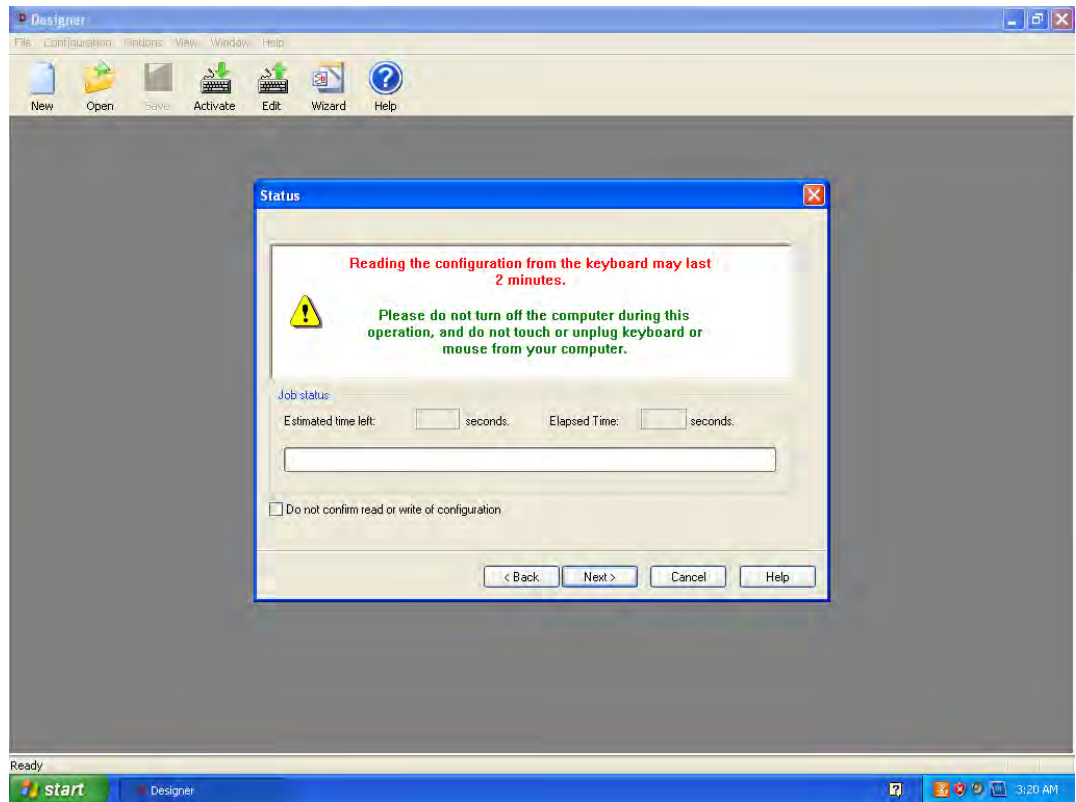
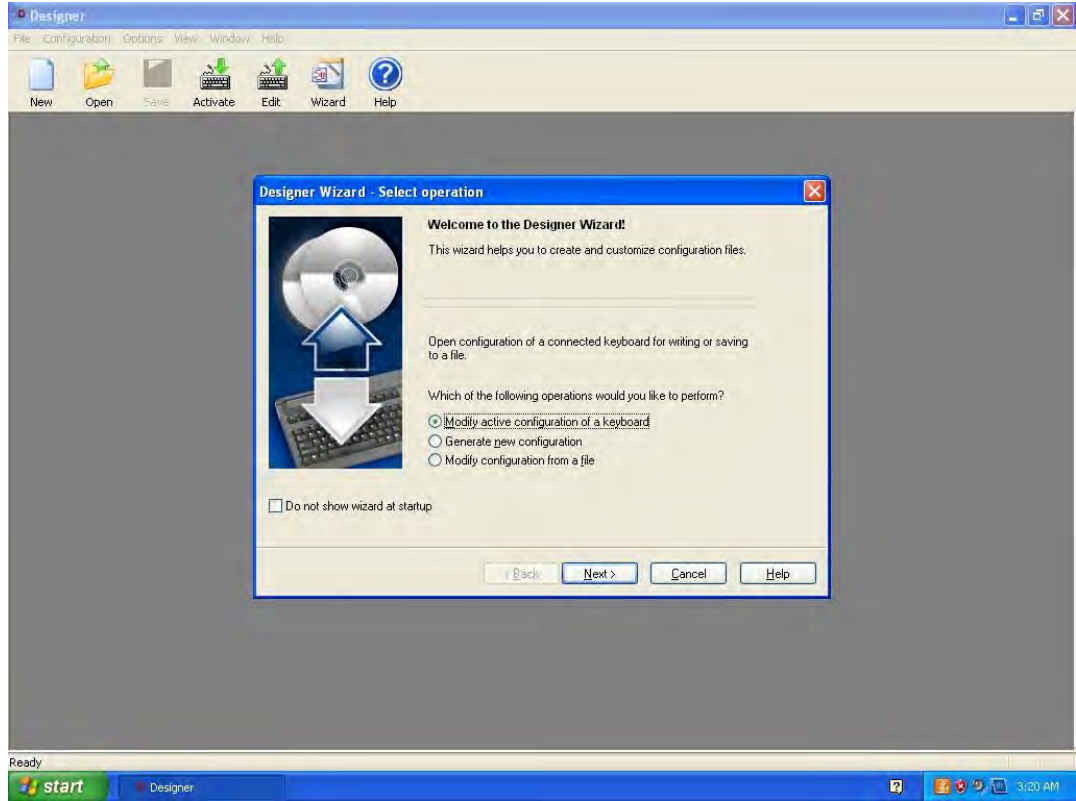
2. 本体の再起動が完了し、Windowsのデスクトップが表示されたら、[HP POS Keyboard] (HP POSキーボード) フォルダーにある[Designer] (デザイナー) プログラムを開きます。
3. [Designer]が開いたら、その初期設定を受け入れます。
4. アプリケーションで設定が読み取られ、GUIにキーボードレイアウトが表示されたら、MSRのアイコンをクリックします。
5. [Enable OPOS/JavaPOS settings] (OPOS/JavaPOS設定を有効にする) をクリックします。
6. アプリケーションを閉じます。キーボードの設定を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes] (はい) をクリックします。

#### MSR用のOPOS/JPOSの有効化の詳しい手順

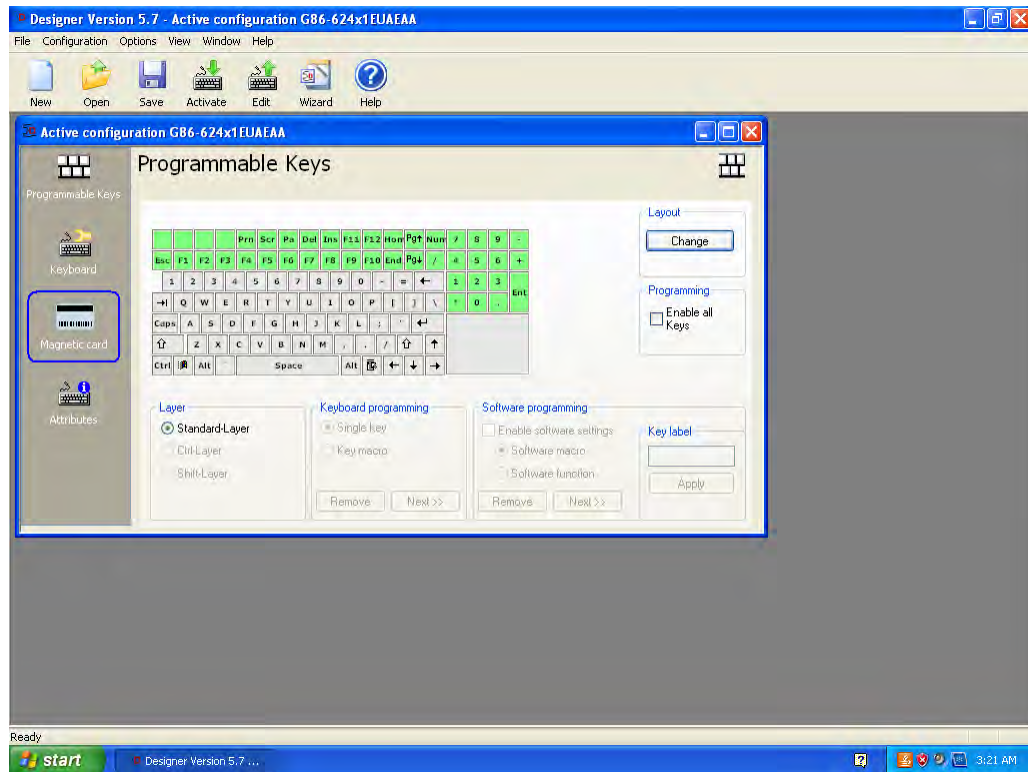
1. HP POSキーボード設定ユーティリティパッケージをインストールします。EXEを実行し、ユーティリティのインストールが完了した後、本体を再起動する必要があります。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージ (C:¥xxxxx¥Point of Sale¥Keyboard with MSR¥Configuration Utility) にすでに含まれており、HP.COMから入手することもできます。

**注：** HP工場出荷時のイメージでは、HP POSキーボード設定ユーティリティがすでにインストールされているため、手順1を省略して手順2に進むことができます。設定ユーティリティが本体にすでにインストールされていて、セットアップが開始された場合、インストールされているバージョンを変更、修正、または削除してからインストールを中止し、手順2に進むよう求めるメッセージが表示されます。

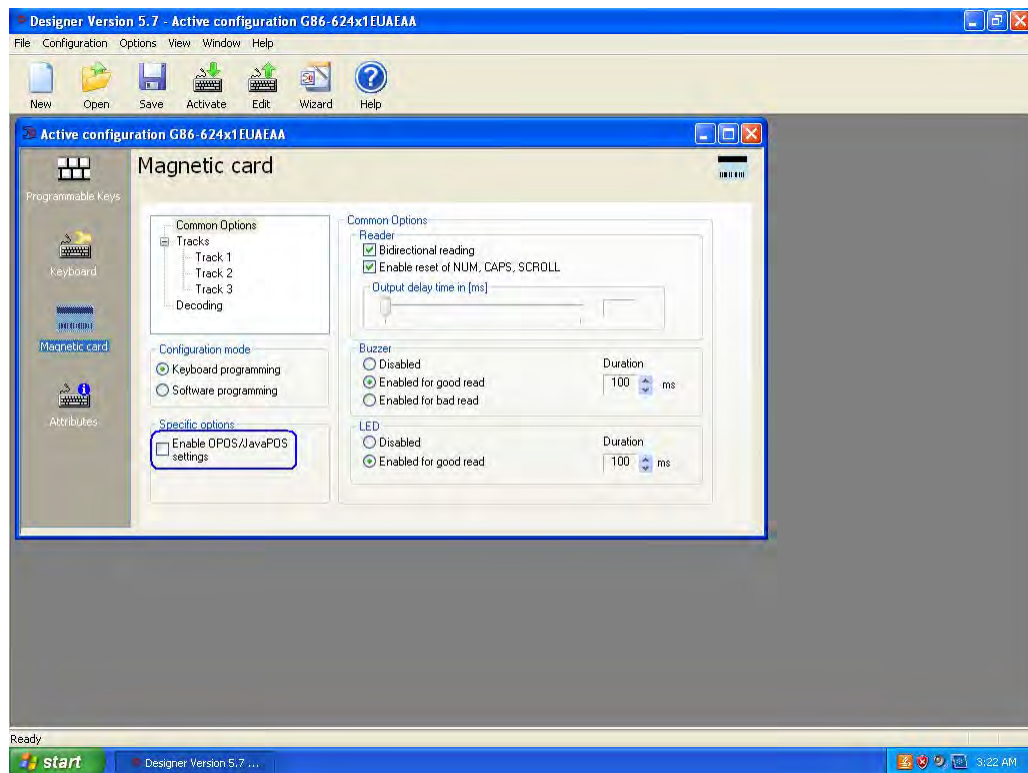
2. 本体の再起動が完了し、Windowsのデスクトップが表示されたら、[HP POS Keyboard]フォルダーにある[Designer]プログラムを開きます。
3. [Designer]が開いたら、その初期設定を受け入れます。以下のような画面が表示されます。



4. アプリケーションで設定が読み取られ、GUIにキーボード レイアウトが表示されたら、MSRのアイコンをクリックします。

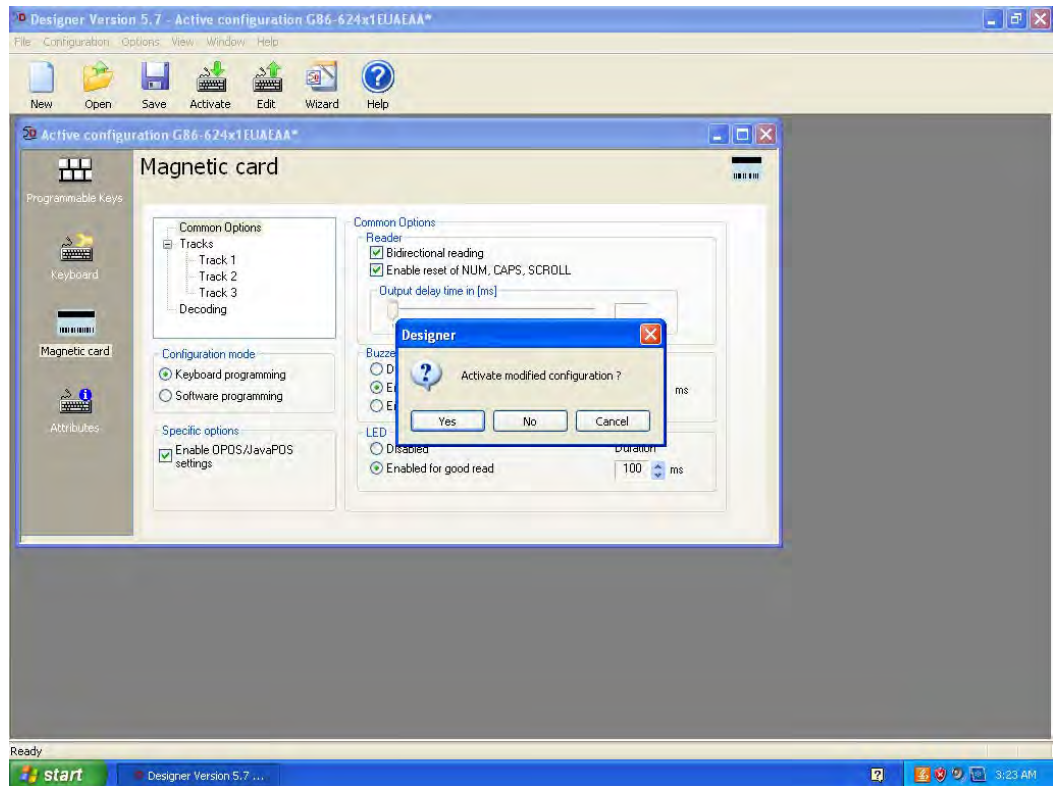
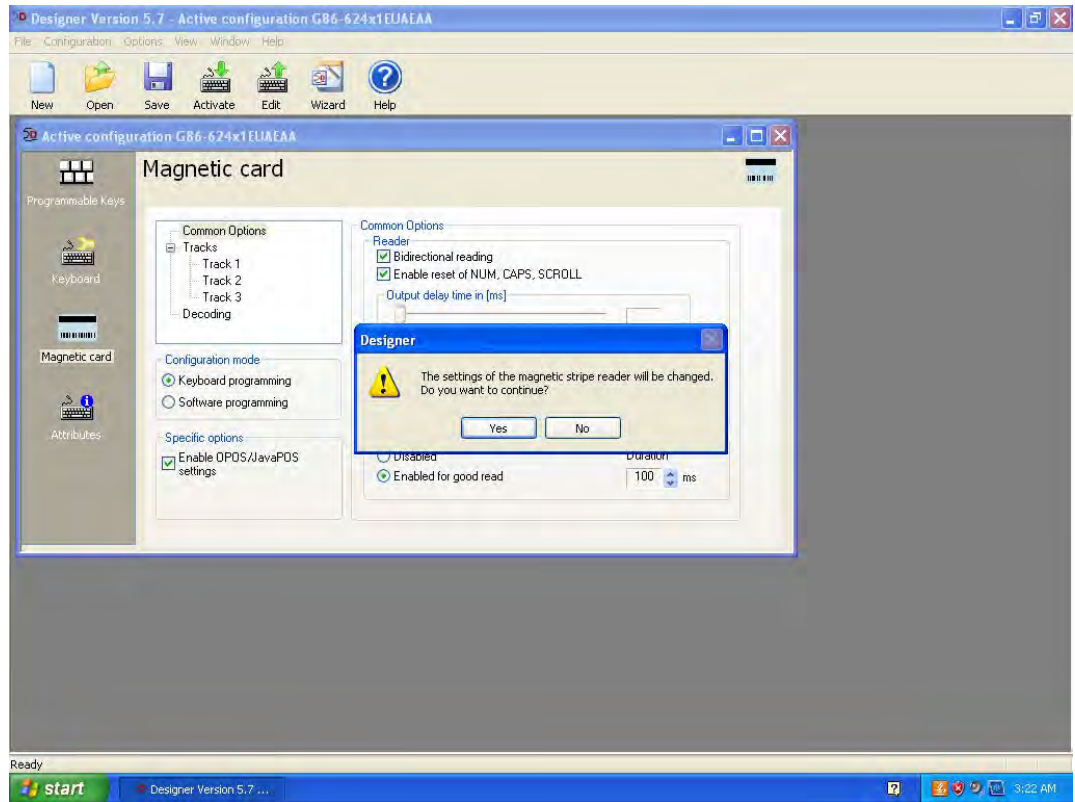


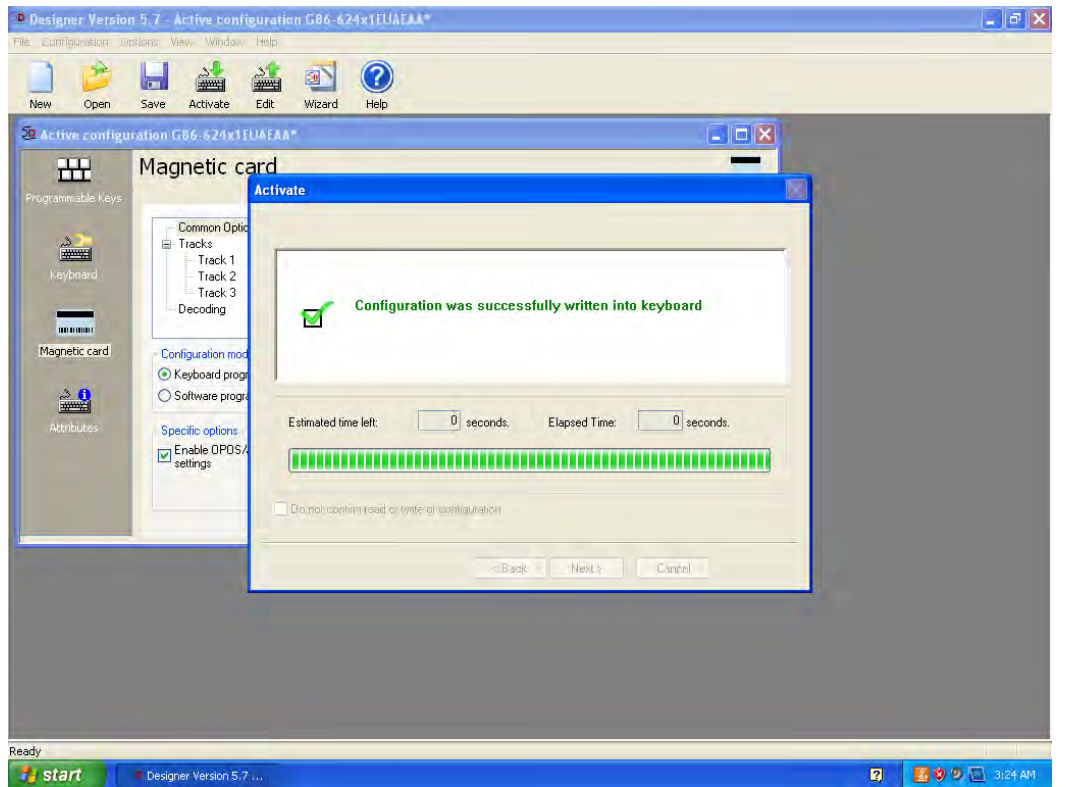
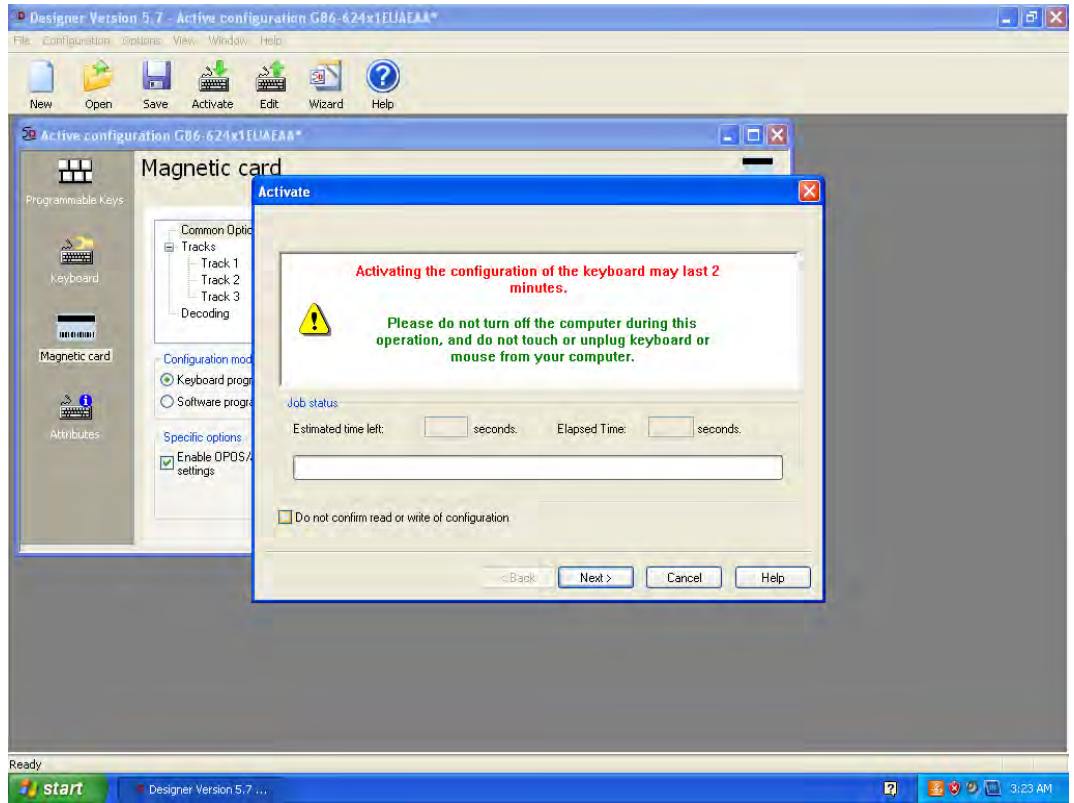
5. [Enable OPOS/JavaPOS settings]をクリックします。





6. アプリケーションを閉じます。キーボードの設定を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[Yes]をクリックします。





## 6.13.4 OPOS

### 6.13.4.1 キーボード

キーボードにOPOSドライバーは必要ありません。

### 6.13.4.2 MSR

OPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージにすでに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

## 6.13.5 JPOS

### 6.13.5.1 キーボード

キーボードにJPOSドライバーは必要ありません。

### 6.13.5.2 MSR

JPOSドライバーは、HPの工場出荷時のイメージにすでに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

## 6.13.6 磁気ストライプリーダー付きPOSキーボードのテスト

### 6.13.6.1 キーボード

[メモ帳]を開き、キーボードから入力した文字が[メモ帳]に表示されることを確認します。

### 6.13.6.2 MSR OPOS

MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

1. [OPOS MagneticStripeReader Demo] (OPOS磁気ストライプリーダー デモ) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\OPOS Test Utility\oposmagnet.exe.
2. デバイス名を選択します。MSR搭載HP POSキーボードのMSRの場合は[HPKBMSR]を選択する必要があります。
3. [Begin] (開始) をクリックして、カードをスワイプします。カードをスワイプした後、テスト アプレットにデータが表示されていることを確認します。
4. [End] (終了) ボタンをクリックして、テスト アプリケーションを終了します。

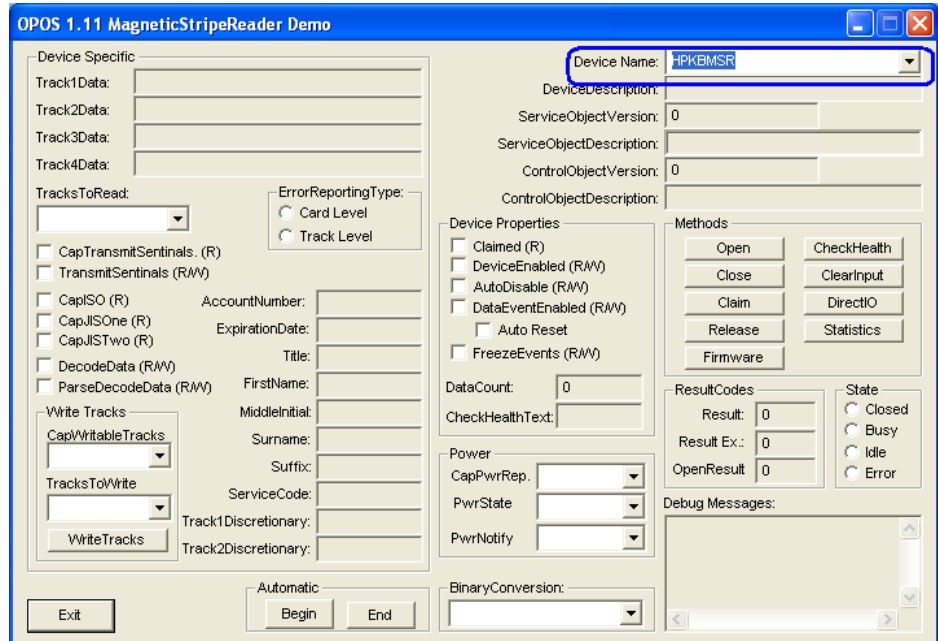
または

1. [OPOS MagneticStripeReader Demo]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\OPOS Test Utility\oposmagnet.exe.
2. デバイス名を選択します。MSR搭載HP POSキーボードのMSRの場合は[HPKBMSR]を選択する必要があります。
3. [Open] (開く) をクリックします。
4. [Claim] (要求) をクリックします。
5. [DataEventEnabled (R/W)] (データ イベント有効 (R/W)) および[DeviceEnabled (R/W)] (デバイス有効 (R/W)) を選択します。
6. クレジット カードをスワイプし、テスト アプレットにデータが表示されていることを確認します。
7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - [Release] (リリース) ボタンをクリックします。
  - [Close] (閉じる) ボタンをクリックします。
  - [Exit] (終了) ボタンをクリックします。

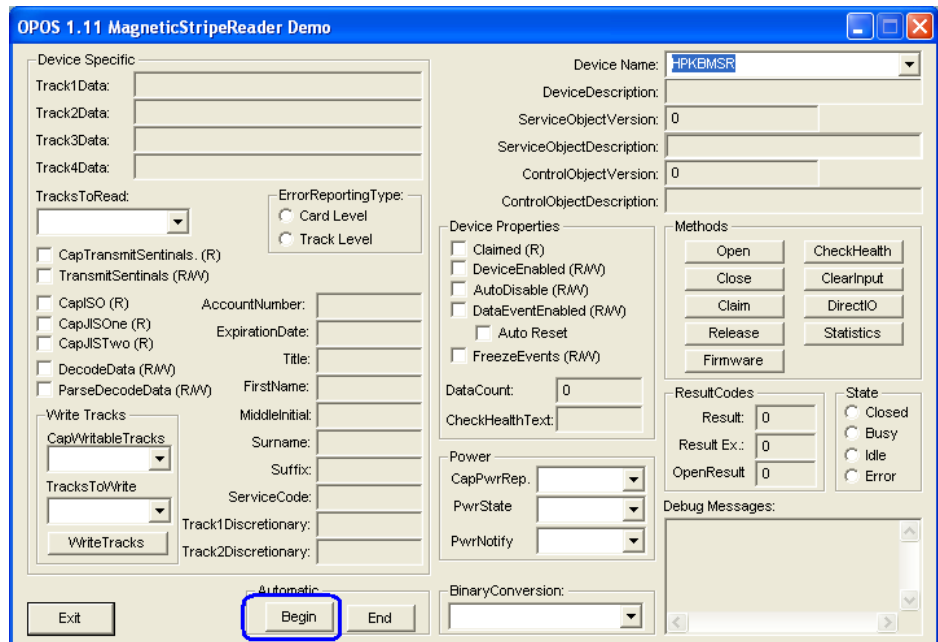
### 詳しい手順

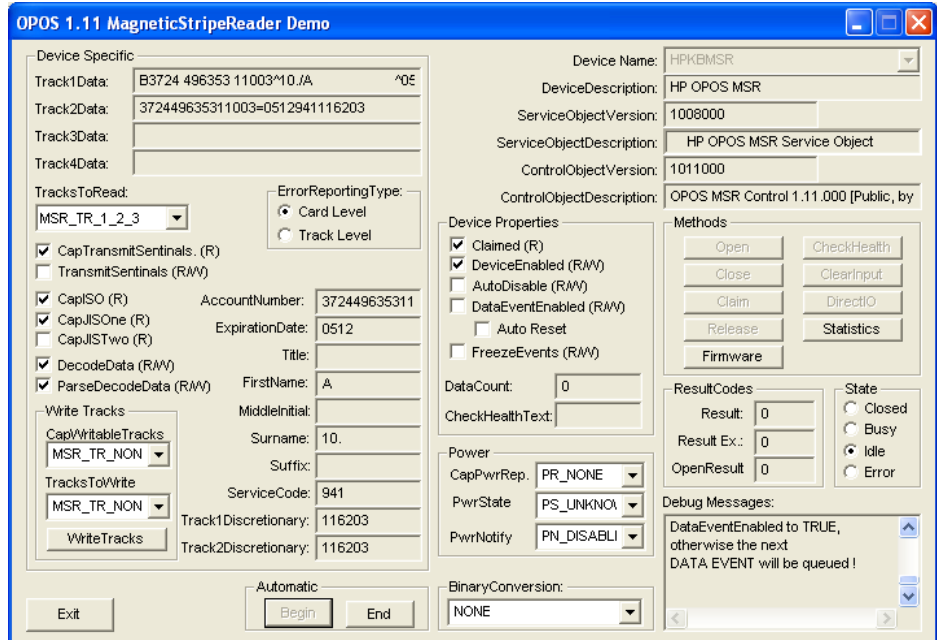
1. [OPOS MagneticStripeReader Demo]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\OPOS Test Utility\oposmagnet.exe.

2. デバイス名を選択します。磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボードのMSRの場合は[HPKBMSR]を選択する必要があります。

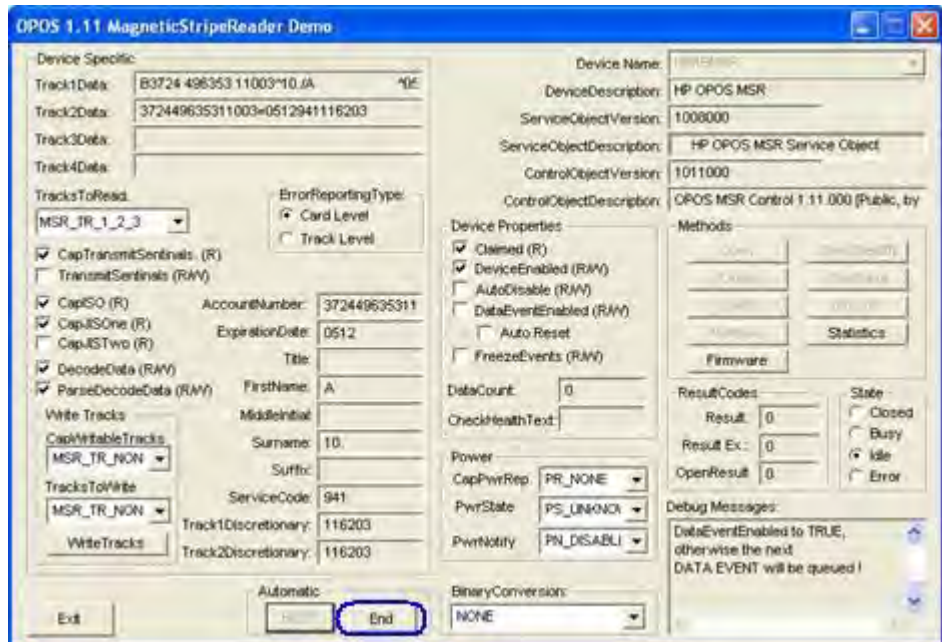


3. [Begin]をクリックして、カードをスワイプします。カードをスワイプした後、テストアプレットにデータが表示されていることを確認します。





4. [End]ボタンをクリックして、テストアプリケーションを終了します。

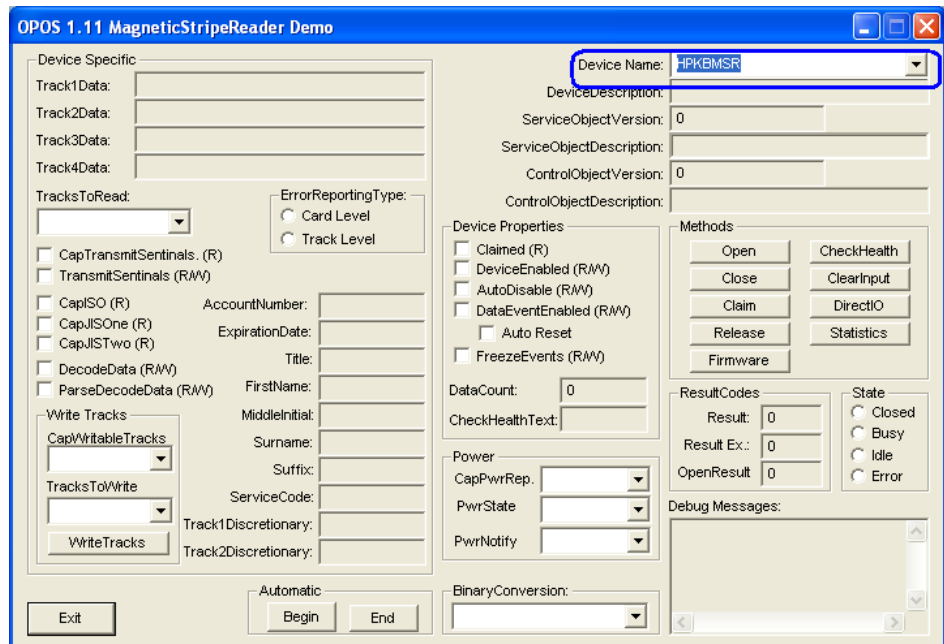


「自動」の方法を使用したくない場合は、以下の操作を行って、OPOSテスト アプレットを使用したテストを手動で実行できます。

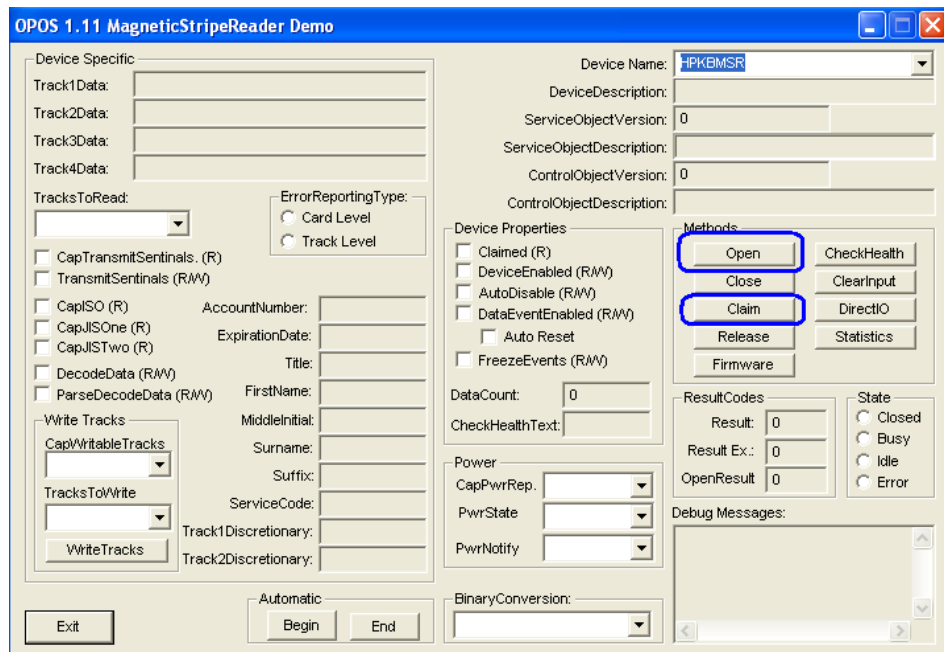
1. [OPOS MagneticStripeReader Demo]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\OPOS Test Utility\lopismagnet.exe.



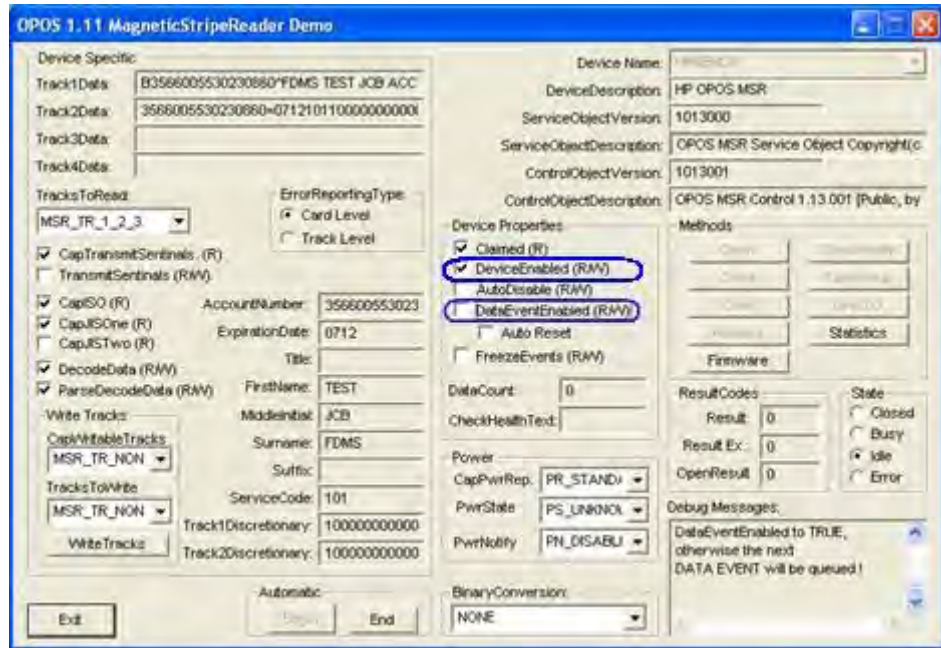
2. デバイス名を選択します。磁気ストライプリーダー付きHP USB POSキーボードのMSRの場合は[HPKBMSR]を選択する必要があります。



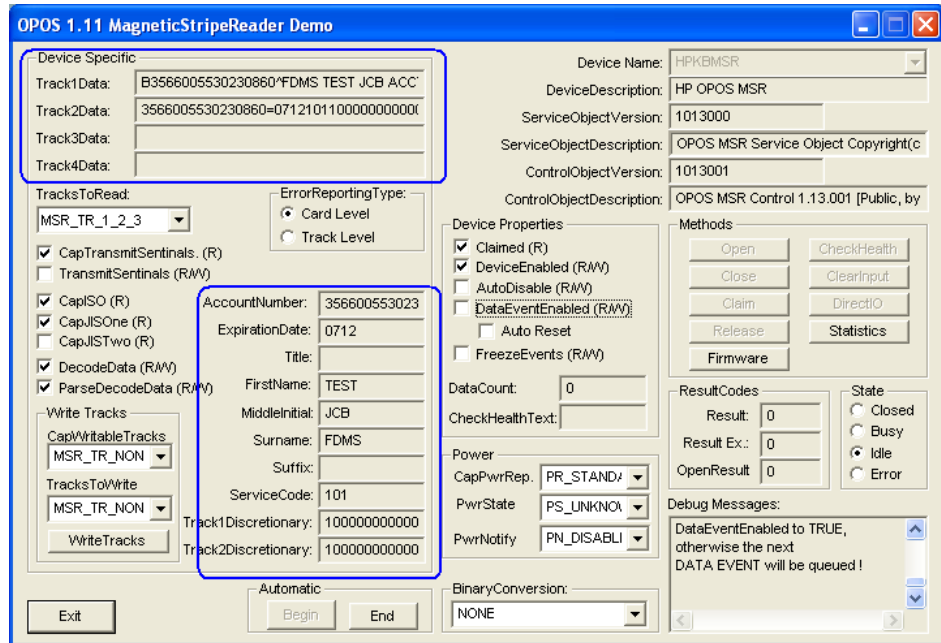
3. [Open]をクリックします。
4. [Claim]をクリックします。



5. [DataEventEnabled (R/W)]および[DeviceEnabled (R/W)]を選択します。

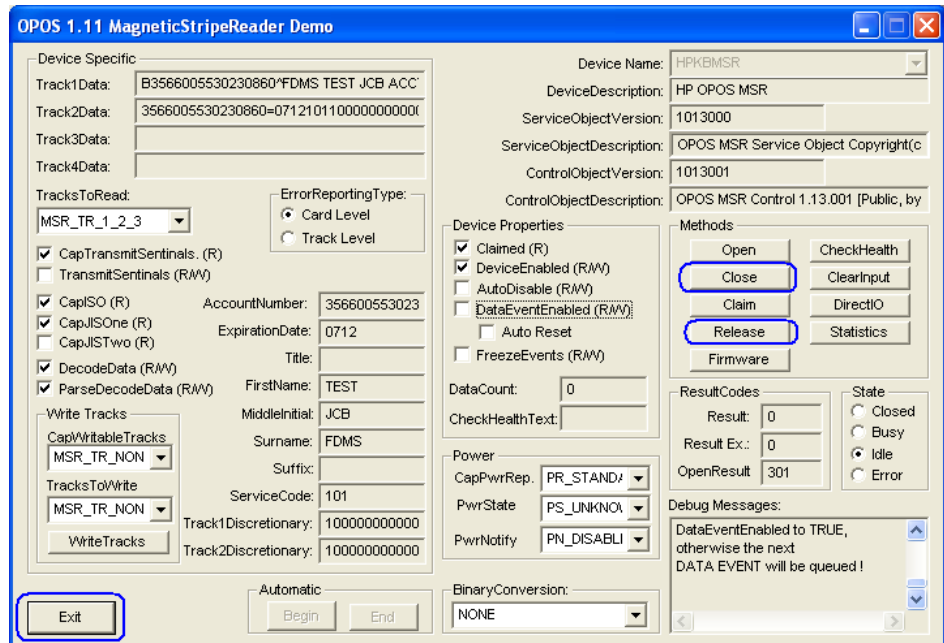


6. クレジットカードをスワイプし、テストアプレットにデータが表示されていることを確認します。





7. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
- [Release]ボタンをクリックします。
  - [Close]ボタンをクリックします。
  - [Exit]ボタンをクリックします。



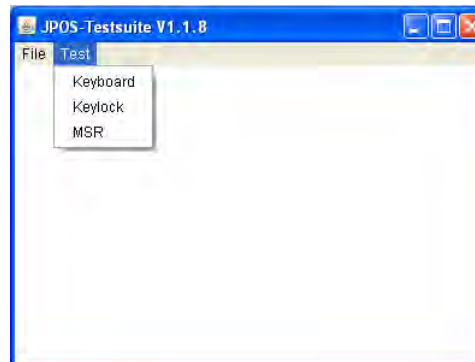
### 6.13.6.3 MSR JPOS

MSRをテストする手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

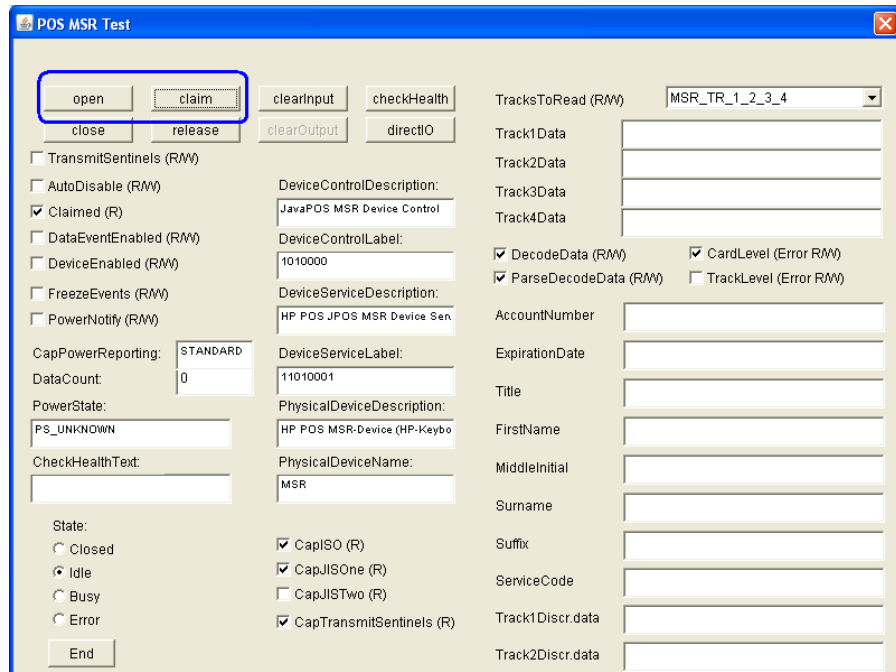
1. [JPOS-Testsuite] (JPOS : テストスイート) を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\JPOS Test Utility\TestSuite.bat
2. [Test] (テスト) ドロップダウン ボックスから[MSR]を選択します。
3. [Open] (開く) をクリックします。
4. [Claim] (要求) をクリックします。
5. [DataEventEnabled (R/W)] (データ イベント有効 (R/W)) をクリックします。
6. [DeviceEnabled (R/W)] (デバイス有効 (R/W)) をクリックします。
7. カードをスワイプします。
8. [Release] (リリース) → [Close] (閉じる) → [Exit] (終了) ボタンを選択して、アプリケーションを終了します。

#### 詳しい手順

1. [JPOS-Testsuite]を開きます。
  - C:\xxxxx\Point of Sale\Keyboard with MSR\JPOS Test Utility\TestSuite.bat
2. [Test]ドロップダウン ボックスから[MSR]を選択します。



3. [Open]をクリックします。
4. [Claim]をクリックします。



5. [DataEventEnabled (R/W)]をクリックします。
6. [DeviceEnabled (R/W)]をクリックします。

The screenshot shows the 'POS MSR Test' application window. The 'DeviceEnabled (R/W)' checkbox is highlighted with a blue box. The interface includes various control buttons, checkboxes for device settings, and a table for card data.

Track	Data
Track1Data	
Track2Data	
Track3Data	
Track4Data	

7. カードをスワイプします。テスト アプレットにカードのデータが表示されていることを確認します。

The screenshot shows the 'POS MSR Test' application window with card data displayed. The 'Track1Data' and 'Track2Data' fields are highlighted with blue boxes.

Track	Data
Track1Data	83724 496353 11003*10 JA *0512
Track2Data	372449635311003=0512941116203
Track3Data	
Track4Data	

別のカードをテストする場合は、[DataEventEnabled (R/W)]ボックスにチェックを入れてスワイプします。

8. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Release]ボタンをクリックします。
  - b. [Close]ボタンをクリックします。
  - c. [Exit]ボタンをクリックします。

## 6.14 HP ap5000 VFD (真空蛍光ディスプレイ)



### 6.14.1 接続

HP ap5000 SystemのVFDは、シリアル インターフェイスを通じて接続されます。HP工場出荷時は、初期設定の場所としてCOM2に接続されています。HP ap5000 VFDは、ap5000本体のCOM2またはCOM1に接続できます。COM3では**使用できません**。

VFDを工場出荷時の初期設定の場所に戻す場合は、BIOS設定を参照してCOM2の5Vを有効にし、COM1の5Vを無効にしてください

	ap5000 VFD
コネクタ	COM2 (初期設定) またはCOM1
ボーレート	38400
データピット	8
パリティ	なし
ストップピット	1
フロー制御	なし

### 6.14.2 HP ap5000 VFD用のWindowsドライバー

Windowsオペレーティング システムではシリアル ポートCOM1/COM2がサポートされているため、追加のドライバーをインストールする必要はありません。

### 6.14.3 HP ap5000 VFD用のOPOSドライバー

OPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx¥Point of Sale¥VFD HP ap5000¥ap5000 VFD OPOS) にすでに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

### 6.14.4 HP ap5000 VFDのテスト

#### 6.14.4.1 非OPOSモードでのHP ap5000 VFDのテスト

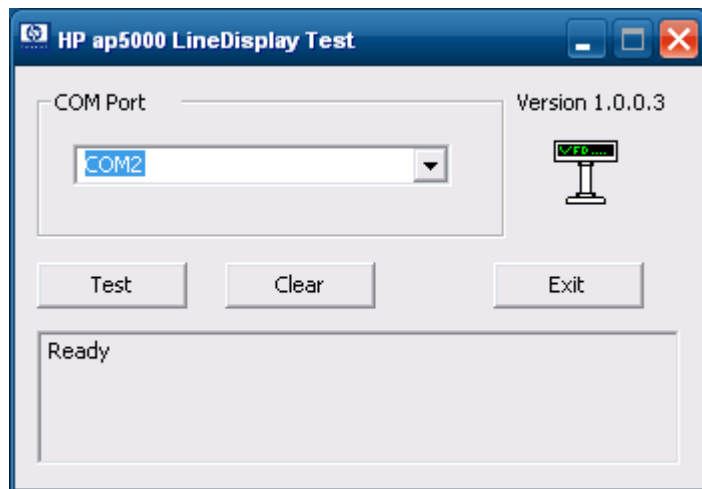
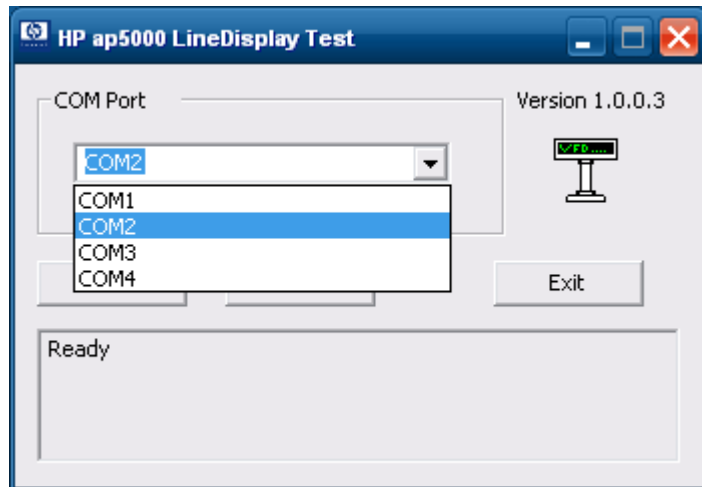
ap5000 VFDをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. Windowsのスタート メニューから、Windowsテスト ユーティリティを起動します。
2. ドロップダウン ボックスからCOMコネクタを選択するか、初期設定のオプションのままにします。HP工場出荷時の初期設定では、ap5000 VFDはCOM2に接続されています。
3. ステータス ボックスに[Ready] (準備完了) と表示されたら、[Test] (テスト) ボタンをクリックします。

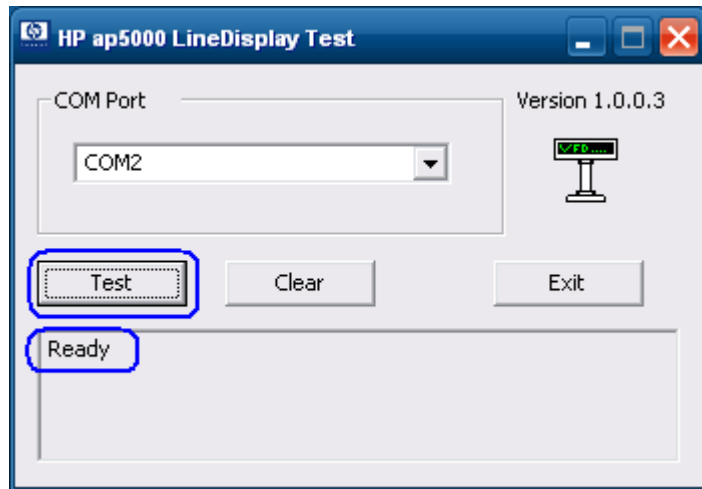
4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。
  - a. [Exit] (終了) をクリックして、テスト アプレットを閉じます。

#### 詳しい手順

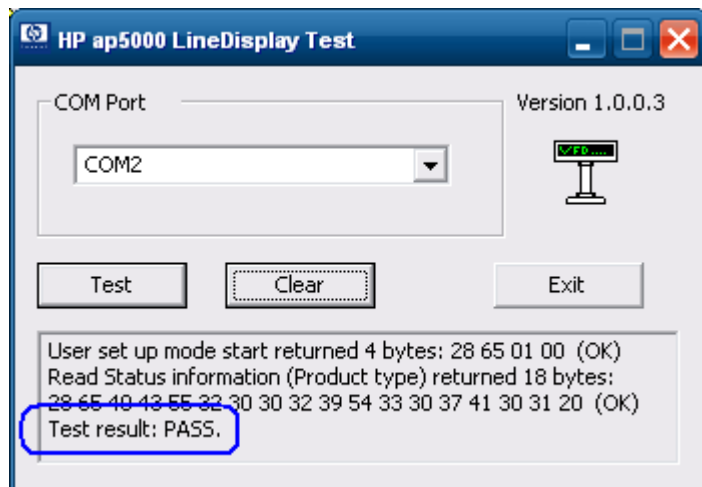
1. Windowsのスタートメニューから、Windowsテストユーティリティを起動します。
2. ドロップダウンボックスからCOMコネクタを選択するか、初期設定のオプションのままにします。HP工場出荷時の初期設定では、ap5000 VFDはCOM2に接続されています。



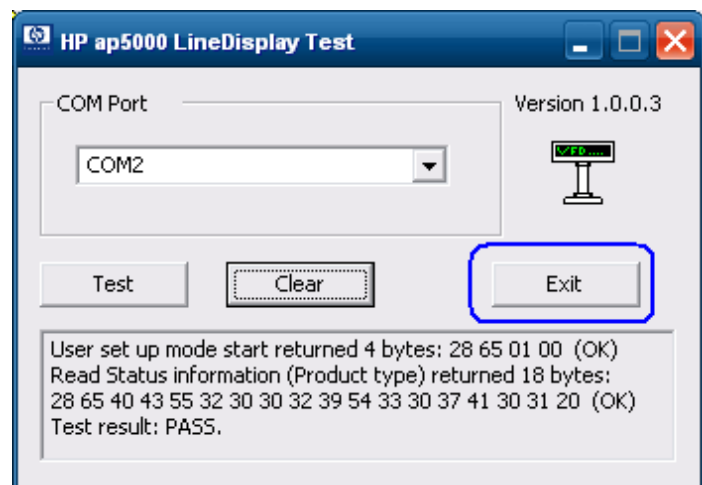
3. ステータスボックスに[Ready]と表示されたら、[Test]ボタンをクリックします。



テストが完了し、成功すると、VFDに[Test OK] (テストOK) と表示され、テストユーティリティにステータス情報およびテスト結果が表示されます。



4. 以下の操作を行って、アプリケーションを終了します。  
a. [Exit]をクリックして、テストアプレットを閉じます。



#### 6.14.4.2 OPOSモードでのHP ap5000 VFDのテスト

ap5000 VFDをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. OPOSテストユーティリティを起動します。
2. [Clear Text] (テキストの消去) をクリックして、ポールディスプレイに表示されているテキストを消去します。ポールディスプレイにテストメッセージを表示させるために、テキストボックスにメッセージを入力するか、初期設定のメッセージ「Display this text」(このテキストを表示) のままにして[Display Text] (テキストの表示) をクリックします。
3. 以下の操作を行って、テストメッセージを点滅させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. [Blink] (点滅) ボックスにチェックを入れます。
  - c. [Display Text] ボタンをクリックします。
4. 以下の操作を行って、テストメッセージを反転させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. [Reverse] (反転) ボックスにチェックを入れます。
  - c. [Display Text] ボタンをクリックします。
5. 以下の操作を行って、別の行または列にテストメッセージを表示させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. ドロップダウンメニューから、メッセージを表示する列および行を選択します。
  - c. [Display Text At] (位置を指定してテキストを表示) ボタンをクリックします。
6. 以下の操作を行って、メッセージをスクロールさせます (テスト1)。
  - a. [Scrolling Text Test #1] (テキストのスクロール テスト1) ボタンをクリックします。ポールにメッセージがスクロール表示され、VFD下部の行に「Scrolling」(スクロール) というメッセージが表示されます。
7. 以下の操作を行って、メッセージをスクロールさせます (テスト2)。
  - a. [Scrolling Text Test #2] (テキストのスクロール テスト2) ボタンをクリックします。ポールにメッセージがスクロール表示され、VFD下部の行に「Longer scroll message (37 characters)」(長いスクロールメッセージ (37文字)) というメッセージが表示されます。
8. 以下の操作を行って、テストメッセージの各文字を遅延させて表示します。
  - a. 遅延時間の値を変更します (変更したい場合)。
  - b. [set CharacterDelayTime] (文字の遅延時間の設定) ボタンをクリックします。
  - c. テキストメッセージを入力し、[Display Text] ボタンをクリックします。
9. [Exit] (終了) ボタンをクリックするか、テスト アプレットの右上隅にある[X]をクリックして、OPOSテスト アプレットを終了します。

#### 詳しい手順

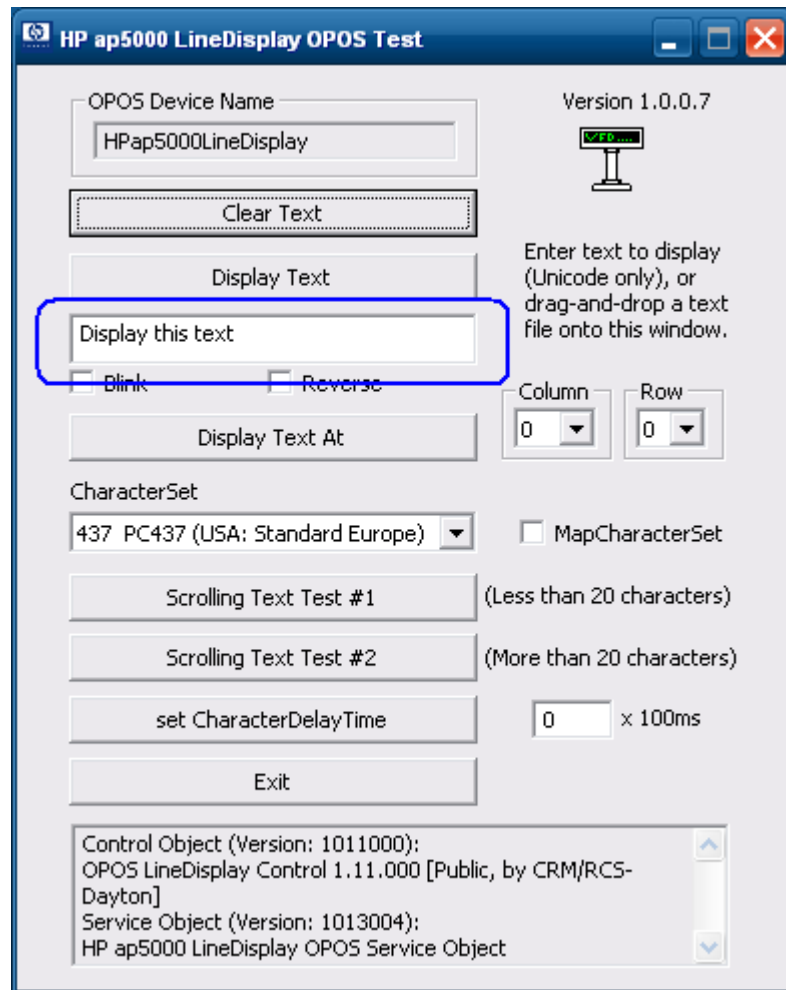
1. OPOSテストユーティリティをスタートメニューから起動します。「C:\xxxxx\Point of Sale\VFD HP ap5000\ap5000 VFD OPOS Test Program」フォルダーから起動することもできます。

HPポールディスプレイのOPOSテストアプレットがポールディスプレイと正常に通信を確立すると、ポールに以下のメッセージが表示されます。

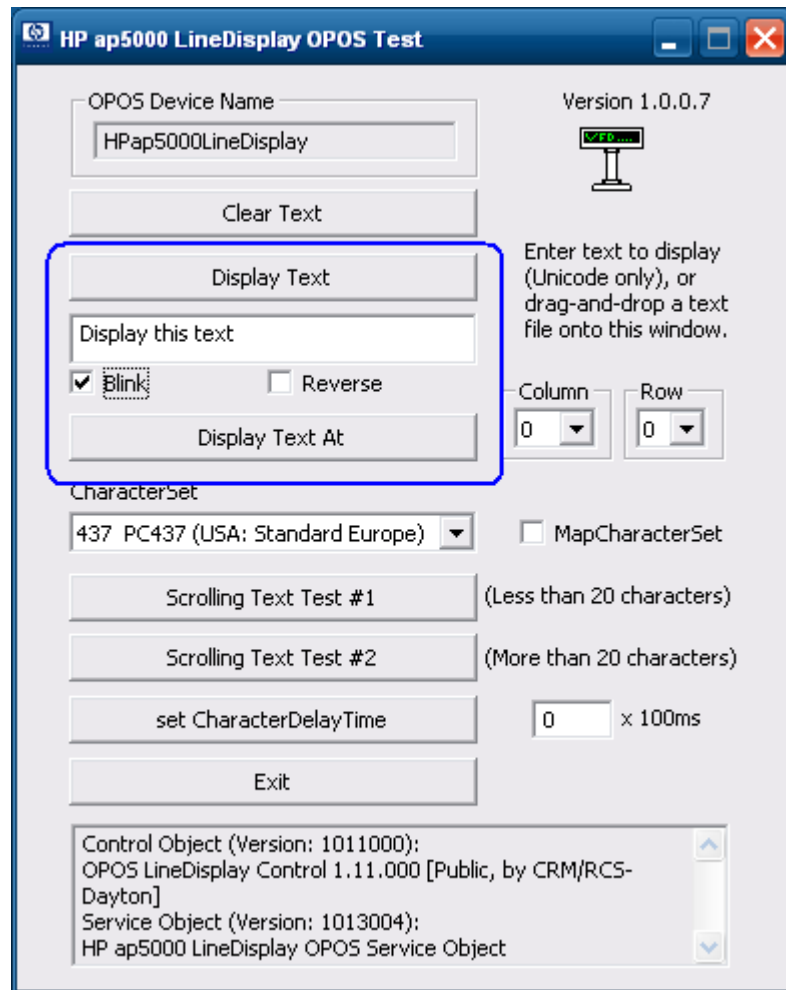
HPap5000LineDisplay  
OPOS Test OK



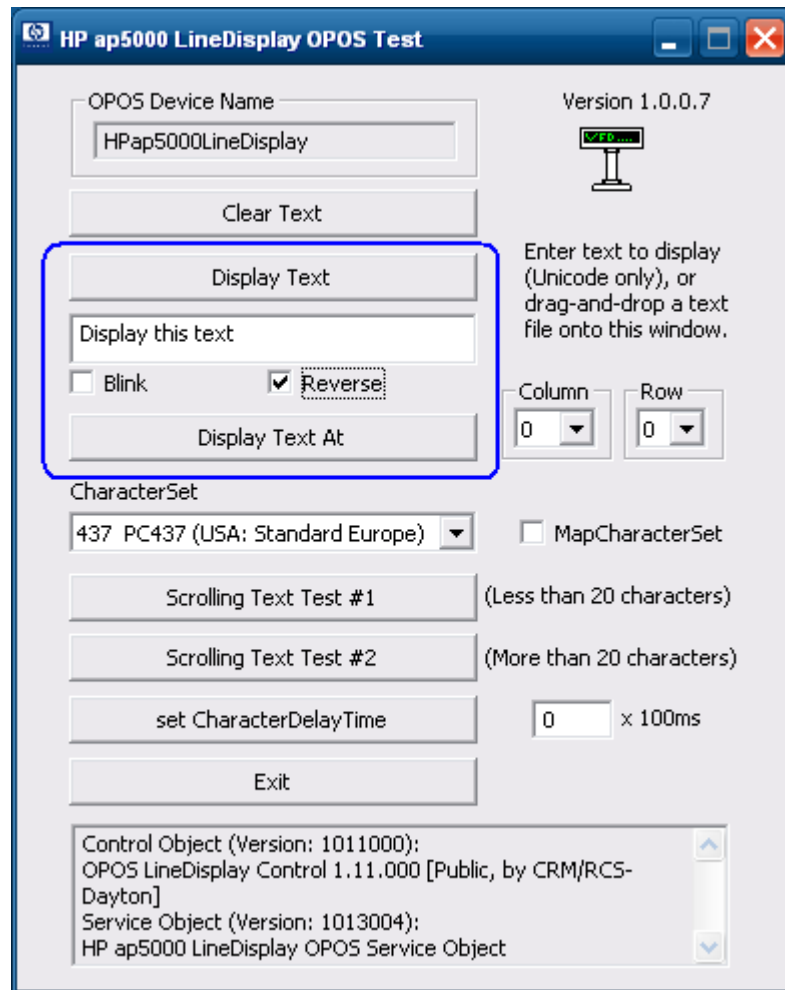
2. [Clear Text]をクリックして、ポール ディスプレイに表示されているテキストを消去します。ポール ディスプレイにテスト メッセージを表示させるために、テキスト ボックスにメッセージを入力するか、初期設定のメッセージ「Display this text」のままにして[Display Text]をクリックします。



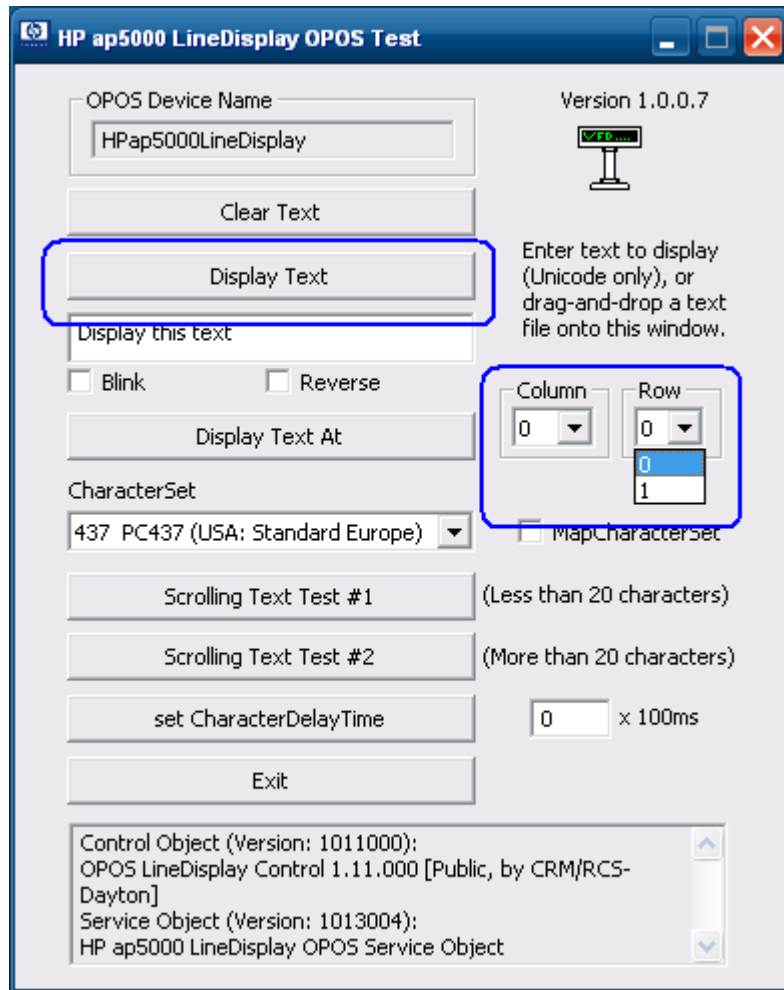
3. 以下の操作を行って、テストメッセージを点滅させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. [Blink]ボックスにチェックを入れます。
  - c. [Display Text]ボタンをクリックします。



4. 以下の操作を行って、テストメッセージを反転させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. [Reverse]ボックスにチェックを入れます。
  - c. [Display Text]ボタンをクリックします。

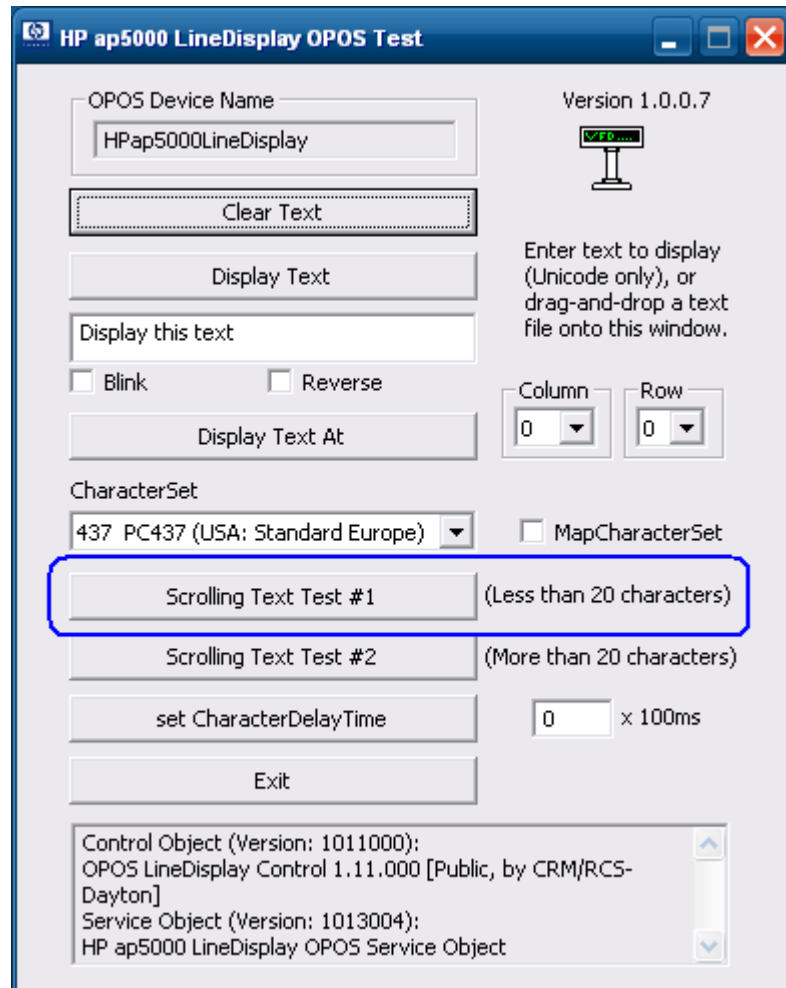


5. 以下の操作を行って、別の行または列にテストメッセージを表示させます。
  - a. テストメッセージを入力します。
  - b. ドロップダウンメニューから、メッセージを表示する列および行を選択します。
  - c. [Display Text At]ボタンをクリックします。

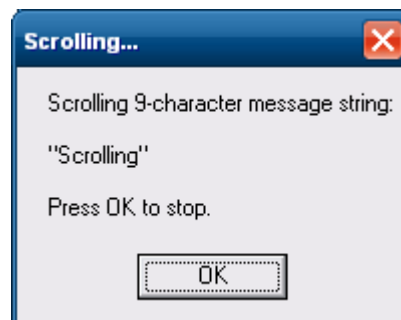


注：列のドロップダウン ボックスには0～20のオプションが表示されます。これはOPOSの仕様に基づいた数です。

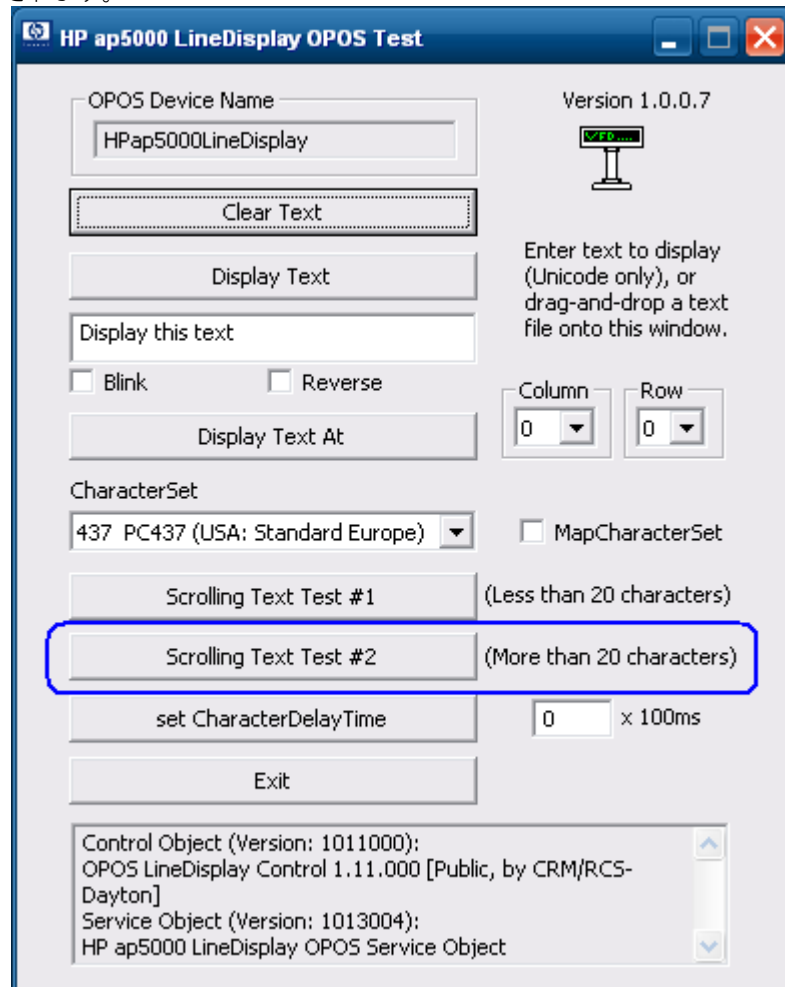
6. 以下の操作を行って、メッセージをスクロールさせます (テスト1)。
- [Scrolling Text Test #1]ボタンをクリックします。ポールにメッセージがスクロール表示され、VFD下部の行に「Scrolling」というメッセージが表示されます。



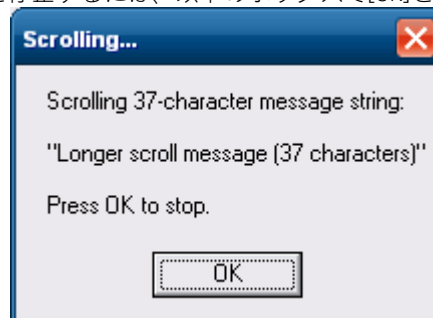
メッセージのスクロールを停止するには、以下のボックスで[OK]をクリックします。



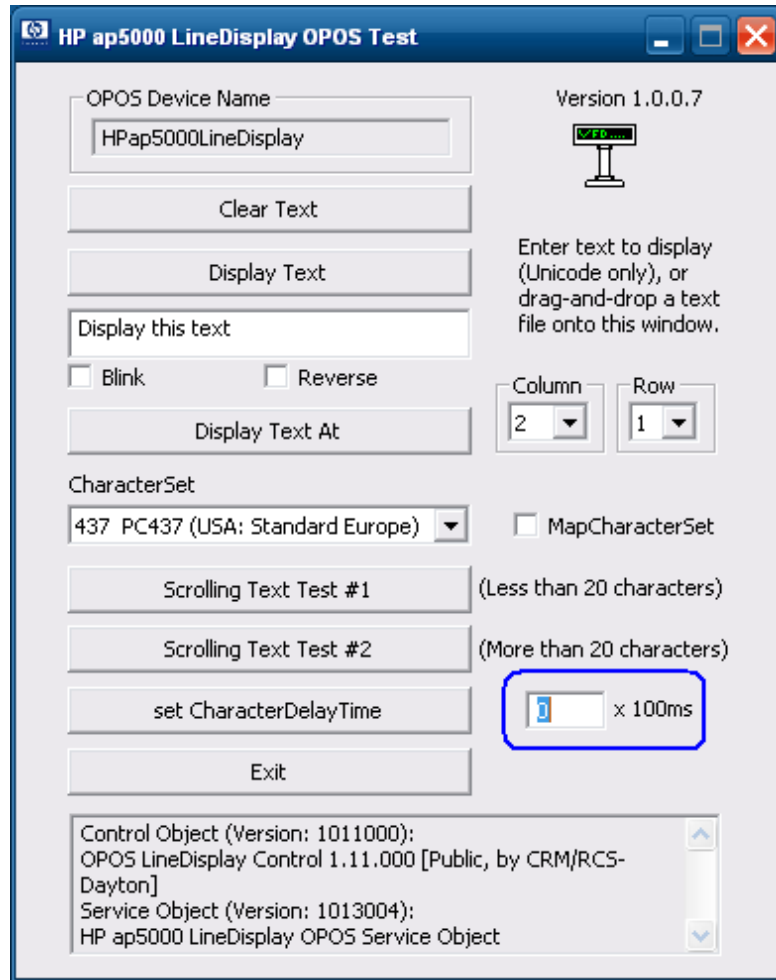
7. 以下の操作を行って、メッセージをスクロールさせます (テスト2)。
  - a. [Scrolling Text Test #2]ボタンをクリックします。ポールにメッセージがスクロール表示され、VFD下部の行に「Longer scroll message (37 characters)」というメッセージが表示されます。



メッセージのスクロールを停止するには、以下のボックスで[OK]をクリックします。

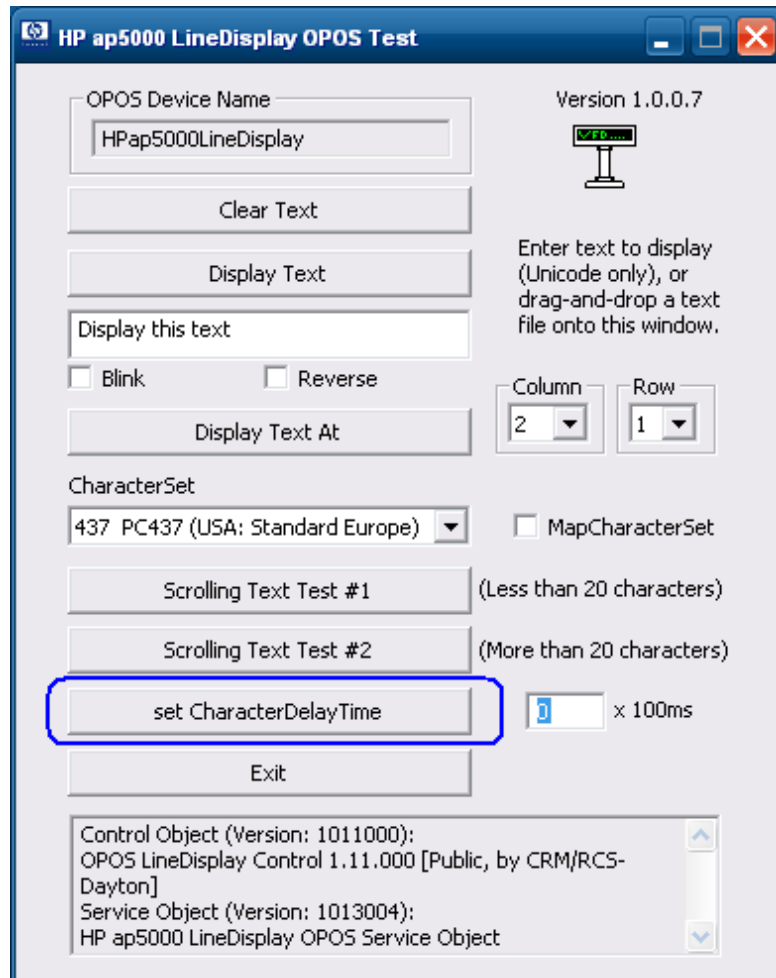


8. 以下の操作を行って、テストメッセージの各文字を遅延させて表示します。  
a. 遅延時間の値を変更します（変更したい場合）。

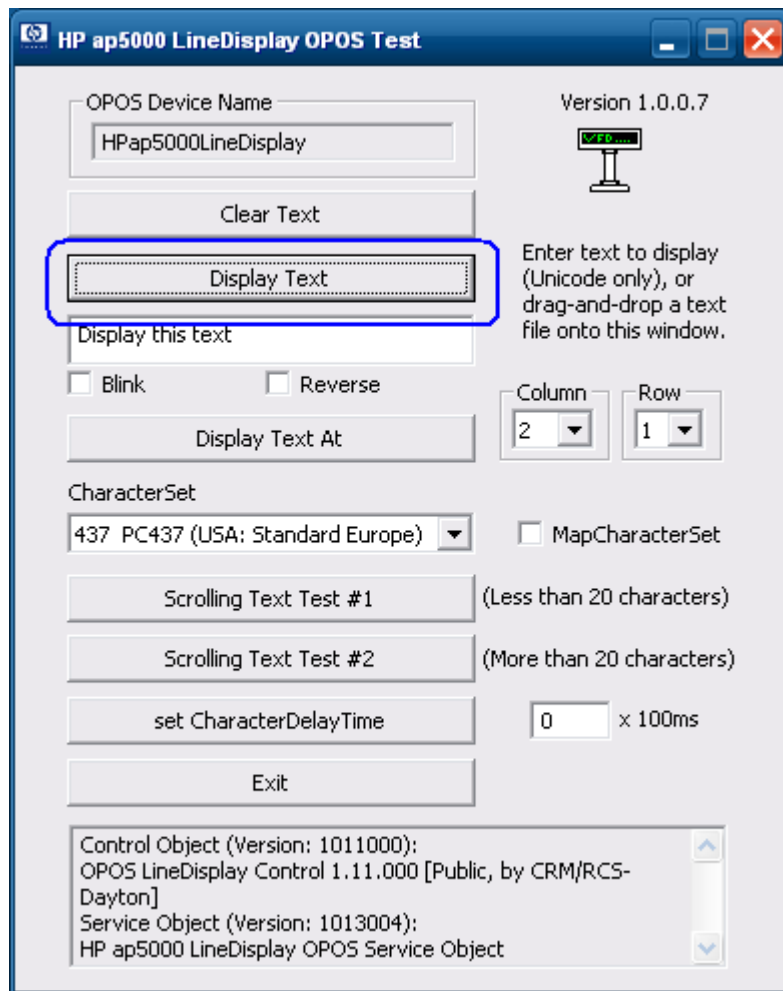




- b. [set CharacterDelayTime]ボタンをクリックします。



- c. テキストメッセージを入力し、[Display Text]ボタンをクリックします。



9. [Exit]ボタンをクリックするか、テスト アプレットの右上隅にある[X]をクリックして、OPOSテスト アプレットを終了します。

## 6.14.5 HP ap5000 VFD用のJPOSドライバー

JPOSドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx\Point of Sale\VFD HP ap5000\ap5000 VFD JPOS) にすでに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

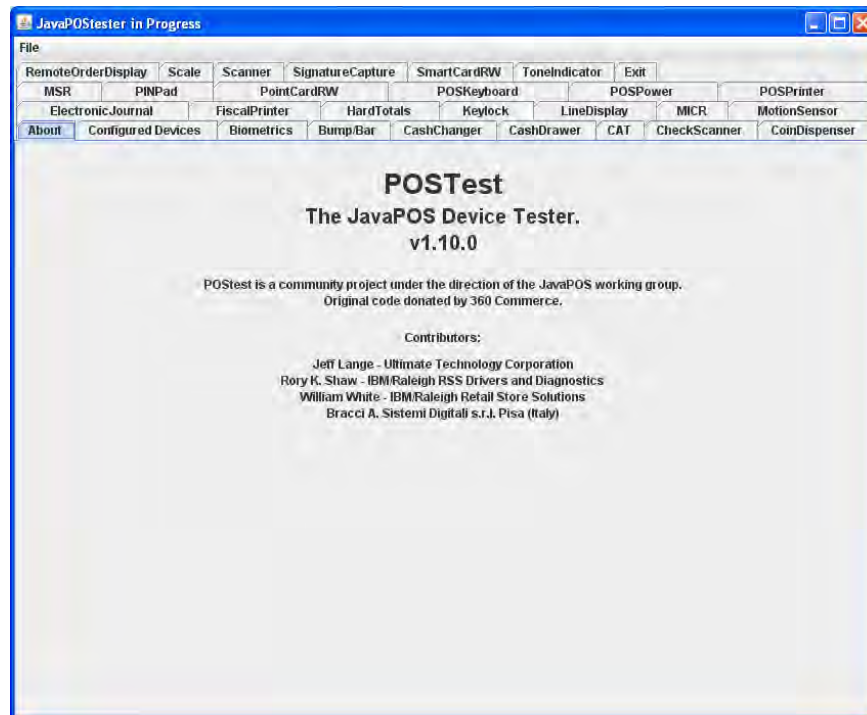
ap5000 VFDをテストする手順の概要を以下に示してから、詳しい手順を説明します。

1. スタートメニューのリンクを使用して、JPOSテストユーティリティを起動します。
2. [LineDisplay] (ラインディスプレイ) タブをクリックします。
3. [Logical name] (論理名) ボックスに表示される「defaultLineDisplay」を「HPap5000LineDisplay」に変更します。
4. [Open] (開く) ボタンをクリックします。
5. [Claim] (要求) ボタンをクリックします。
6. [Device enabled] (デバイス有効) チェックボックスにチェックを入れます。
7. [Clear Text] (テキストの消去) ボタンをクリックします。
8. [Send to line display] (ラインディスプレイに送信) ボックスにテストメッセージを入力し、[Display Text] (テキストの表示) をクリックします。
9. [Release] (リリース) →[Close] (閉じる) →[Exit] (終了) の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。

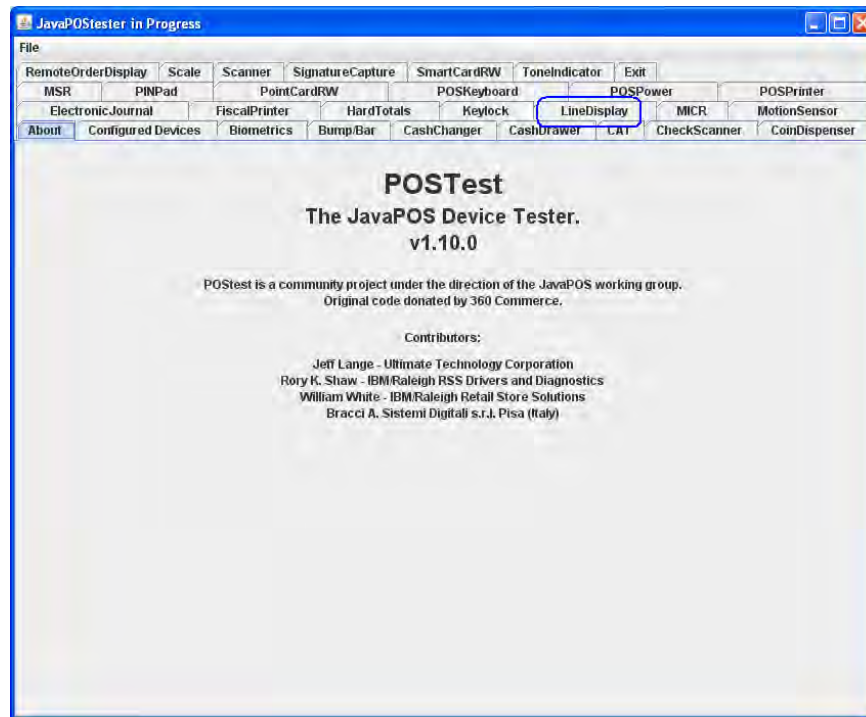
### 詳しい手順

1. スタートメニューのリンクを使用するか、ap5000 VFD JPOSフォルダー内のJPOSフォルダーにあるPOSTEST.BATファイルを開いて、JPOSテストユーティリティを起動します。

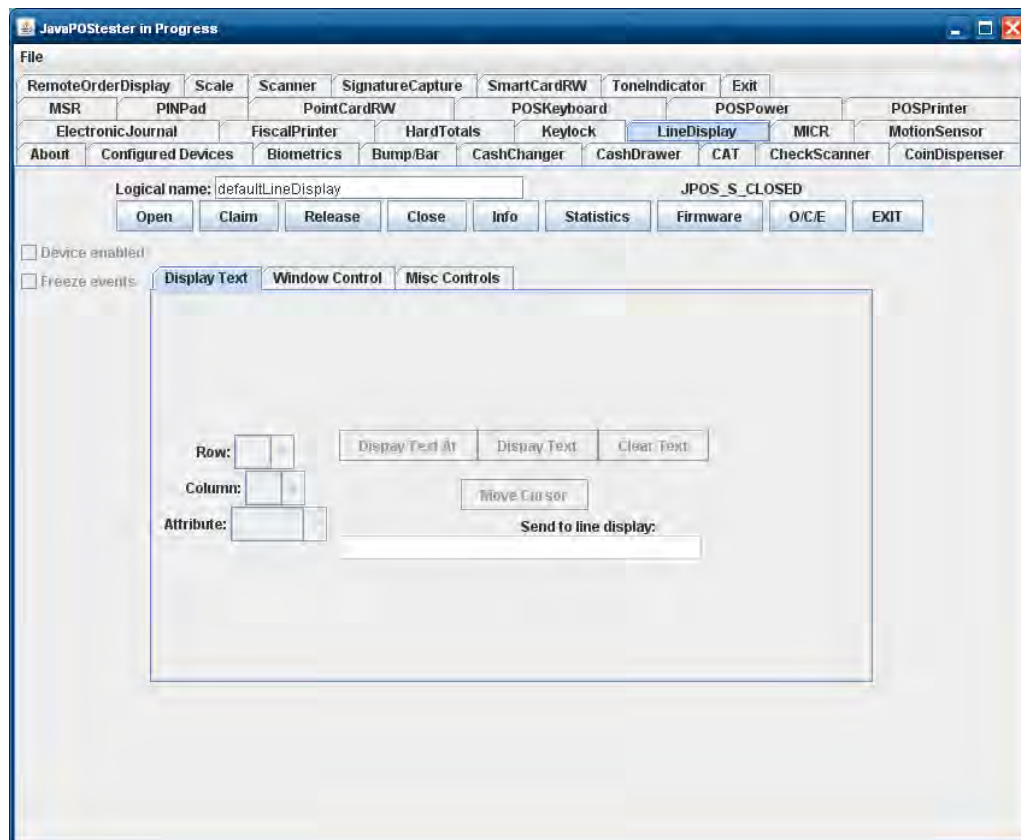
数秒後、JPOSテストユーティリティのGUIが以下のように表示されます。



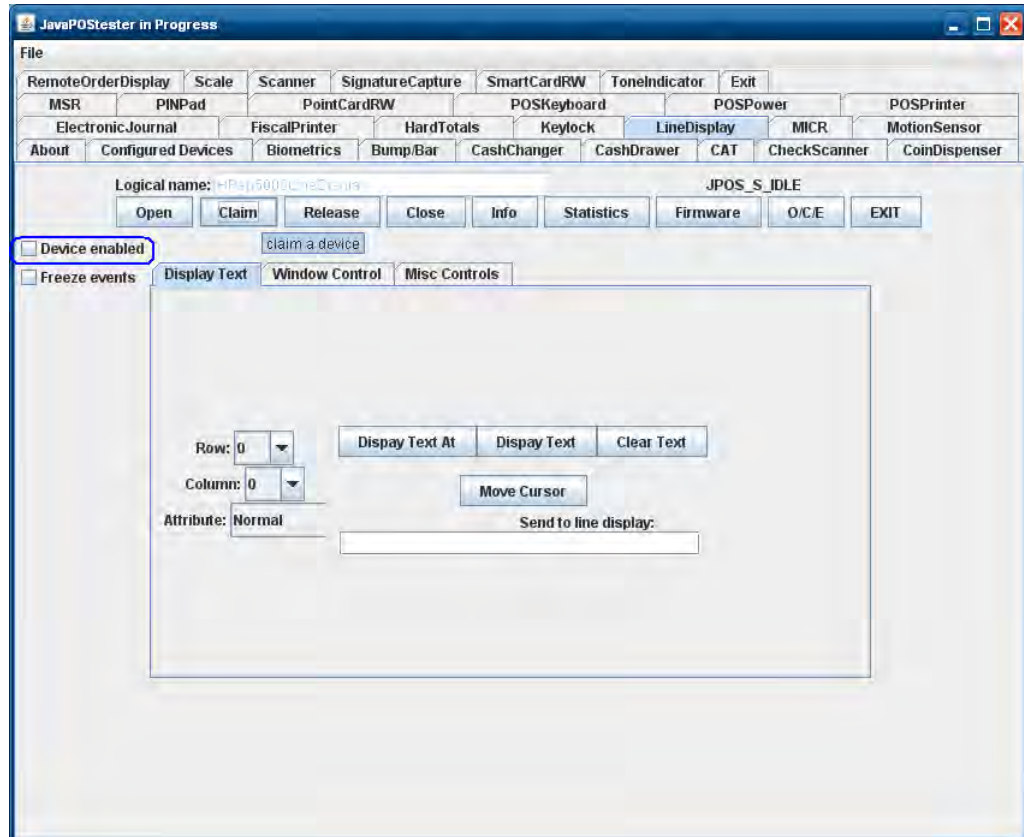
2. [LineDisplay]タブをクリックします。



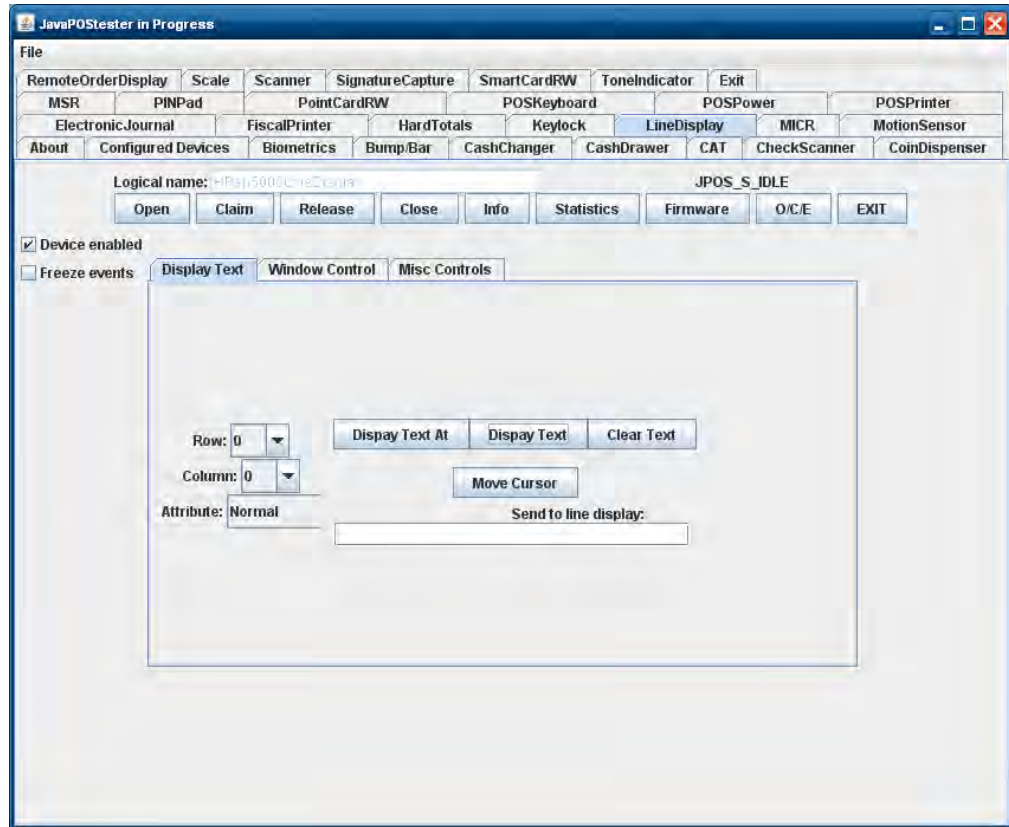
[LineDisplay]タブをクリックした後、画面は以下のようになります。



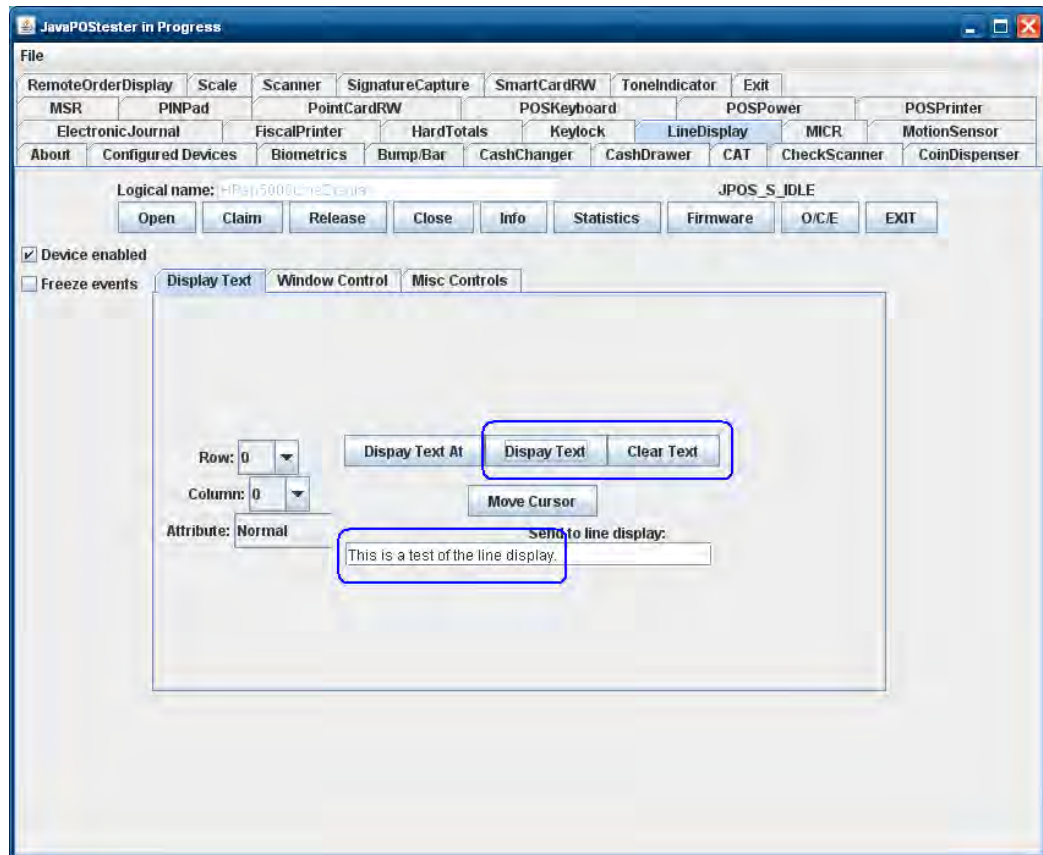
3. デバイスの論理名は「HPap5000LineDisplay」です。[Logical name]ボックスに表示される「defaultLineDisplay」を「HPap5000LineDisplay」に変更します。[Configured Device]（設定済みデバイス）タブをクリックすると、テスト ユーティリティで使用されるデバイスの名前が表示されます。
4. [Open]ボタンをクリックします。
5. [Claim]ボタンをクリックします。[Claim]ボタンをクリックすると、[Device enabled]が選択可能になります。



6. [Device enabled]チェックボックスにチェックを入れます。



7. [Clear Text]ボタンをクリックします。
8. [Send to line display]ボックスにテストメッセージを入力し、[Display Text]をクリックします。



注： JPOSテストユーティリティでは、[Info]（情報）ボタンをクリックすると、例外が発生します。この例外エラーは無視しても問題ありません。JPOSでのポールディスプレイの機能はすべて適切に動作します。

9. [Release]→[Close]→[Exit]の順にクリックして、JPOSテストユーティリティを終了します。



## 6.14.6 電源投入時メッセージを変更するユーティリティ

HP ap5000の電源を入れると、アプリケーションでポール ディスプレイを制御できるようになるまでの間、ディスプレイに以下のメッセージがスクロール表示されます。2行のメッセージがスクロールします。ディスプレイに表示される初期設定のメッセージを以下に示します。

HP ap5000 All-in-One Point of Sale System  
... Thank You and Have a Nice Day ...

電源投入時メッセージを変更したい場合は、[HP ap5000 LineDisplay Startup Message] (HP ap5000ラインディスプレイ起動メッセージ) プログラムを実行することによって変更できます。このプログラムは、『HP Point of Sale System Software and Documentation CD』(HP POSシステム ソフトウェアおよびドキュメンテーションCD) に収録されています。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージに含まれていません。

この操作では、ポールディスプレイにスクロール表示されるメッセージのみが変更されます。POSアプリケーションが起動した後は、ポールディスプレイに表示される内容はPOSアプリケーションによって制御されます。

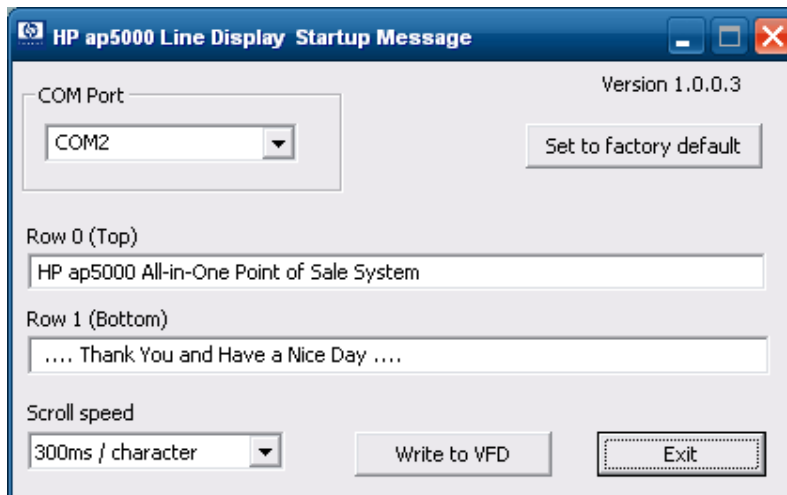
### 6.14.6.1 初期設定の電源投入時メッセージを変更するユーティリティ

電源投入時メッセージを変更するユーティリティでの手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

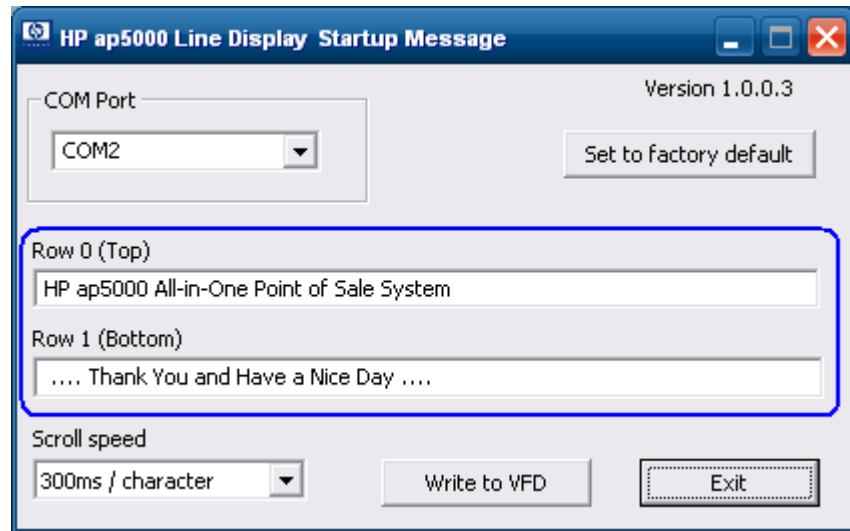
- 『HP Point of Sale System Software and Documentation CD』(HP POSシステム ソフトウェアおよびドキュメンテーションCD) に収録されている[HP ap5000 LineDisplay Startup Message] (HP ap5000ラインディスプレイ起動メッセージ) アプリケーションを起動します。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージに含まれていません。
- ap5000 VFDが接続されているCOMコネクタがユーティリティによって検出されない場合は、適切なCOMコネクタを選択します (工場出荷時の初期設定はCOM2です)。
- VFDに表示するメッセージを入力します。
- ドロップダウン ボックスから、メッセージのスクロール速度を選択します。
- [Write to VFD] (VFDに書き込み) をクリックして、ポールで表示するメッセージを保存します。
- [Exit] (終了) をクリックしてアプリケーションを終了します。

#### 詳しい手順

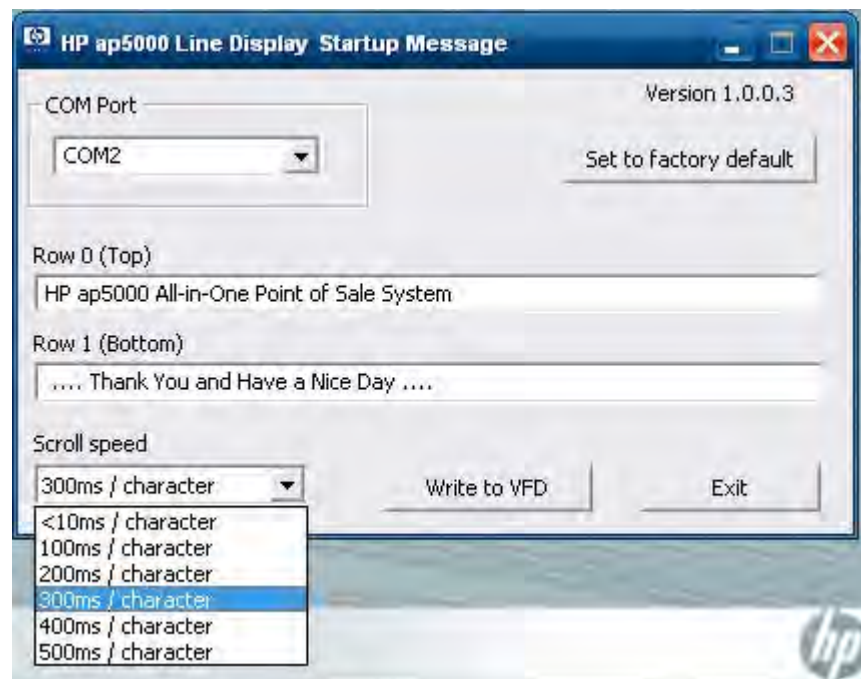
- 『HP Point of Sale System Software and Documentation CD』に収録されている[HP ap5000 LineDisplay Startup Message]アプリケーションを起動します。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージに含まれていません。
- ap5000 VFDが接続されているCOMコネクタがユーティリティによって検出されない場合は、適切なCOMコネクタを選択します (工場出荷時の初期設定はCOM2です)。



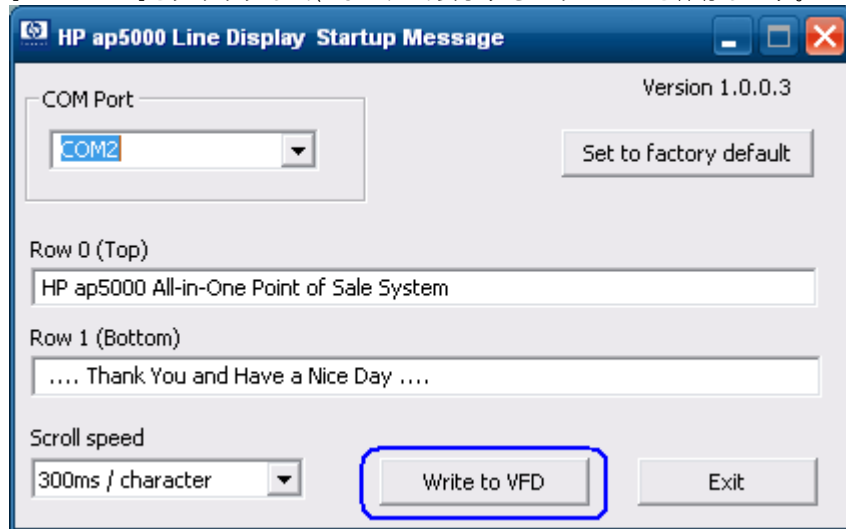
3. VFDに表示するメッセージを入力します。



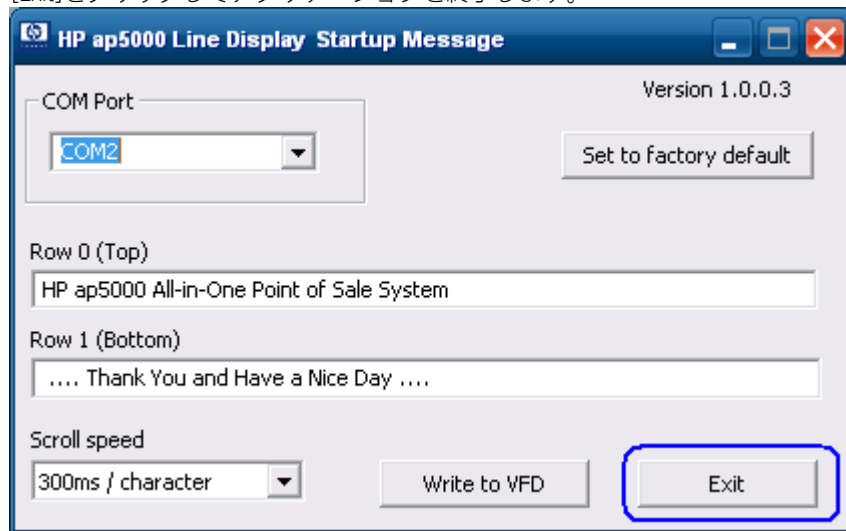
4. ドロップダウン ボックスから、メッセージのスクロール速度を選択します。



5. [Write to VFD]をクリックして、ボールで表示するメッセージを保存します。



6. [Exit]をクリックしてアプリケーションを終了します。



#### 6.14.6.2 初期設定のVFD電源投入時メッセージの有効化

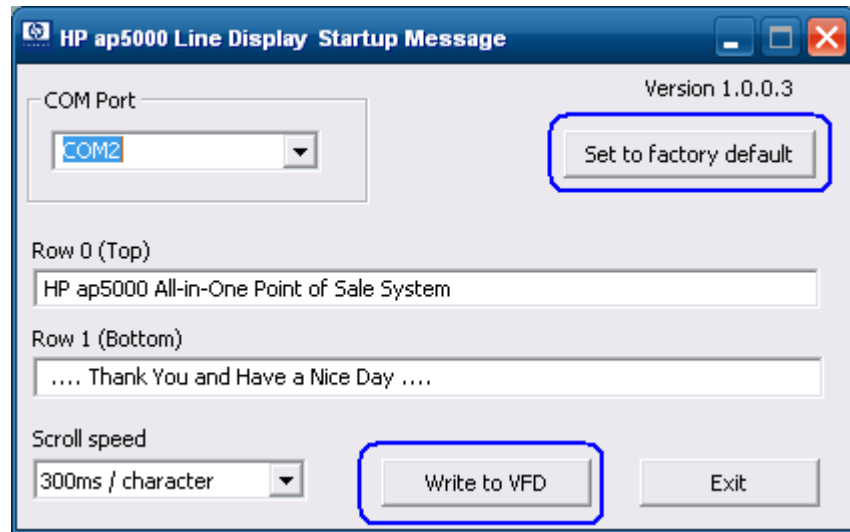
電源投入時メッセージを変更するユーティリティでの手順の概要を以下に示してから、次に詳しい手順を説明します。

1. 『HP Point of Sale System Software and Documentation CD』（HP POSシステム ソフトウェアおよびドキュメンテーションCD）に収録されている[HP ap5000 LineDisplay Startup Message]（HP ap5000ラインディスプレイ起動メッセージ）アプリケーションを起動します。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージに含まれていません。
2. ユーティリティが開始されると、GUIにHP工場出荷時の初期設定のメッセージが表示されます。[Write to VFD]（VFDに書き込み）をクリックするか、[Set to factory default]（工場出荷時の初期設定に戻す）ボタンをクリックします。
3. [Exit]（終了）をクリックしてアプリケーションを終了します。

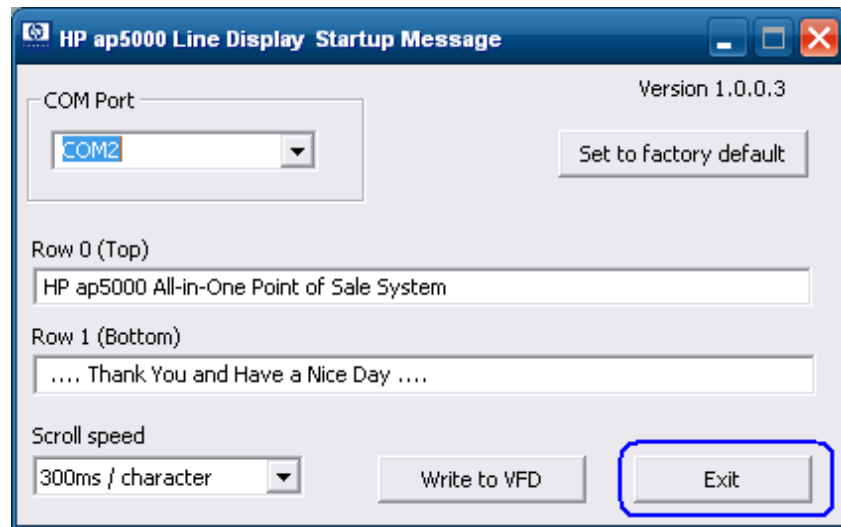
#### 詳しい手順

1. 『HP Point of Sale System Software and Documentation CD』に収録されている[HP ap5000 LineDisplay Startup Message]アプリケーションを起動します。このユーティリティはHPの工場出荷時のイメージに含まれていません。

- ユーティリティが開始されると、GUIにHP工場出荷時の初期設定のメッセージが表示されます。[Write to VFD]をクリックするか、[Set to factory default]ボタンをクリックします。



- [Exit]をクリックしてアプリケーションを終了します。



## 6.14.7 HP ap5000 VFDのBIOS電源設定

HP ap5000 VFDに必要な5ボルトの電源は、シリアルポート（ピン9）から供給されます。

ap5000 VFDが工場出荷時のまま本体のCOM2に接続されていて、Windowsオペレーティングシステムがインストールされている場合、COM2の5ボルトはネイティブで有効になります。VFDをCOM2からCOM1に変更する必要がある場合は、以下の手順に沿ってCOM1の5ボルトを有効にする必要があります。さらに、COM2の5ボルトを無効にすることをおすすめします。

これによって、将来、定格が5ボルトでないシリアルデバイスをCOM2に接続した場合にデバイスが故障する可能性を回避できます。

HP ap5000本体でCOM1の電圧を有効にする方法は2つあります。1つは、[HP Computer Setup]でシリアルポートの電圧を有効にする方法です。もう1つは、Windowsでグラフィカルユーティリティを使用して設定を変更する方法です。

### 6.14.7.1 [HP Computer Setup]による方法

- POSTスクリーンでF10キーを押して、[HP Computer Setup]を起動します。電源投入時およびパスワードオプションが有効になっている場合は、パスワードを入力して続行します。
- 右矢印キーを押して、[Advanced]（詳細設定）オプションを強調表示します。
- 下矢印キーを押して、[SuperIO Configuration]（Super IO設定）オプションを強調表示し、[Enter]キーを押します。
- 下矢印キーを押して電源設定を変更するシリアルポートを表示し、[Enter]キーを押します。
- メニューが表示されたら、コネクタに適用する設定を選択します。[Standard Mode]（標準モード）は、シリアルポートで電源を使用しないことを示します。

**注：** ap5000 VFDは、COM3には接続できません。COM1またはCOM2でのみ使用できます。

### 6.14.7.2 Windowsグラフィカルユーティリティによる方法

Windowsのグラフィカルユーティリティを使用するには、BIOSパスワード（電源投入時またはセットアップ）をすべて無効にする必要があります。また、管理者権限が必要です。

**注：** ap5000VFDは、COM3には**接続できません**。COM1またはCOM2でのみ使用できます。

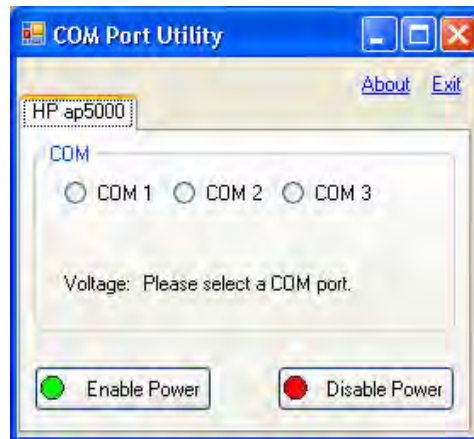
Windowsのグラフィカルユーティリティを使用してCOMコネクタを設定する手順の概要を以下に示します。

1. 開いているアプリケーションやドキュメントがある場合は、それらをすべて閉じます。
2. 周辺機器製品の購入後に導入できるオプションキットに付属の『HP POS Software and Documentation CD』（HP POSソフトウェアおよびドキュメンテーションCD）に収録されている[HP Com Port Utility.EXE]を開きます。
3. 変更するCOMコネクタを選択します。
4. COMコネクタに設定するオプションを選択します（[Enable Power]（電源を有効にする）または[Disable Power]（電源を無効にする））。
5. COMコネクタの設定を変更したら、Windowsオペレーティングシステムを再起動してBIOSの変更を有効にします。

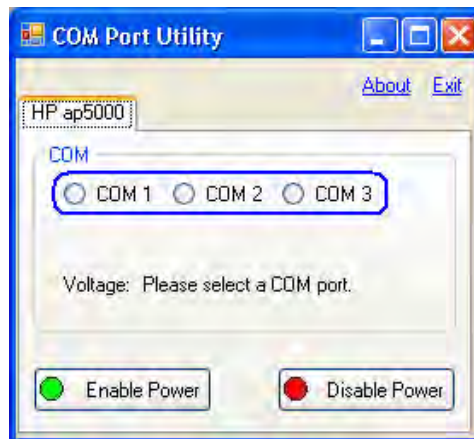
#### 詳しい手順

1. 開いているアプリケーションやドキュメントがある場合は、それらをすべて閉じます。

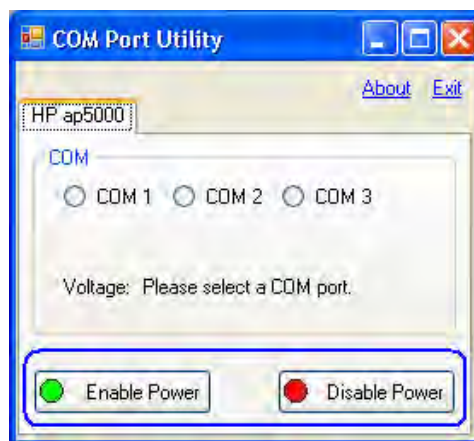
2. 周辺機器製品の購入後に導入できるオプション キットに付属の『HP POS Software and Documentation CD』（HP POSソフトウェアおよびドキュメンテーションCD）に収録されている[HP Com Port Utility.EXE]を開きます。ユーティリティが開始されると、以下のGUIが表示されます。



3. 変更するCOMコネクタを選択します。



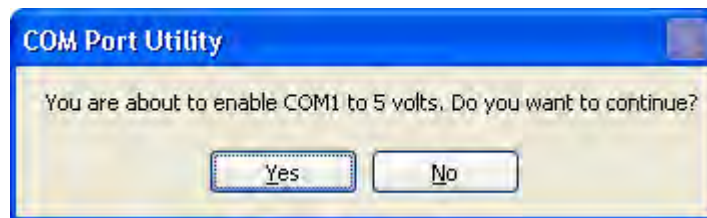
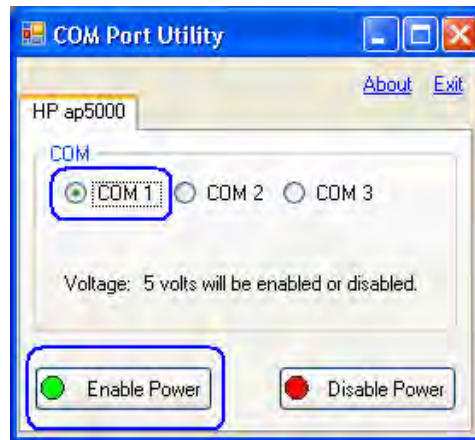
4. COMコネクタに関する2つのオプションのどちらかを選択します（[Enable Power]または[Disable Power]）。



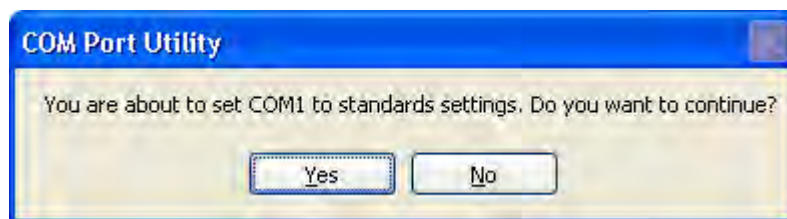
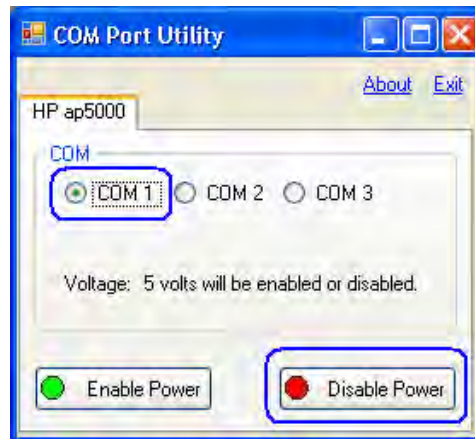
COM1またはCOM2で電源を有効にすると、5Vが有効になります。COM3で電源を有効にすると、12Vが有効になります。

[Enable Power]を選択すると、操作を確認するウィンドウが表示されます。

COM1を有効にしたときに表示される確認画面の例を以下に示します。



[Disable Power]オプションをクリックすると、以下の確認画面が表示されます。



5. COMコネクタの設定を変更したら、Windowsオペレーティングシステムを再起動してBIOSの変更を有効にします。

**注：** ap5000 VFDは、COM3には接続できません。COM1またはCOM2でのみ使用できます。



## 6.15 HPライン ディスプレイTシリーズ



### 6.15.1 接続

HPライン ディスプレイは、5 VのUSBポートを含む、空いているどのUSBポートにも接続できます。5 VのUSBポートに接続した場合、ポートの電源供給機能は使用されません。

### 6.15.2 Windowsドライバー

HPライン ディスプレイTシリーズのドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。\* 古いデバイスをサポートするためには、Softpaqをインストールする必要があります。

HPライン ディスプレイがシステムに接続されると、デバイスのエントリが[デバイス マネージャー]の[ポート (COMおよびLPT)]セクションにCOM番号とともに表示されます。

HP LM920ディスプレイ (COM番号)  
HP 2x20 CFDディスプレイ : TD620 (COM番号)  
HP LCM220ディスプレイ (COM番号)  
HP LCM960ディスプレイ (COM番号)  
HP LD220ディスプレイ (COM番号)  
HP LD960ディスプレイ (COM番号)  
HP LM940ディスプレイ (COM番号)

HP VFDディスプレイ (COM番号) \*  
HP USB-シリアル通信ポート (COM番号) \*

## 6.15.3 設定ユーティリティ

HPライン ディスプレイTシリーズの設定ユーティリティは、各種設定を構成するために使用され、[HP.COM](http://HP.COM)からのみ入手できます。

### 6.15.3.1 初期設定の電源投入時メッセージの変更

初期設定の電源投入時メッセージは設定可能であり、ライン ディスプレイの電源が入り、POSアプリケーションで制御できるようになるまでのアイドル状態の間、表示されます。

#### 手順

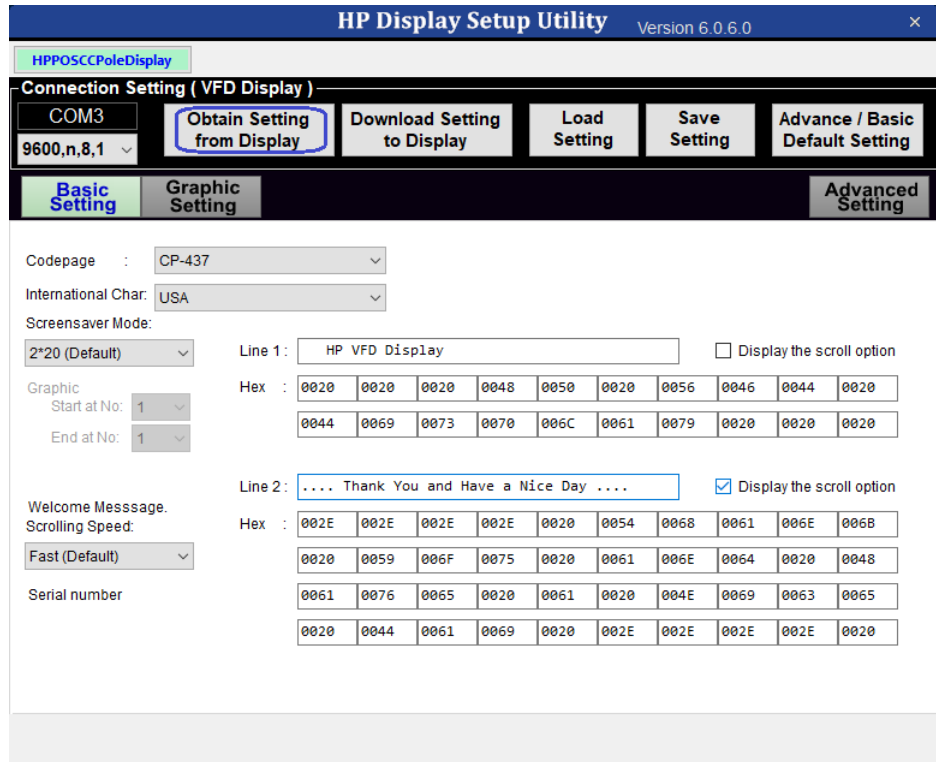
1. **[HP Display Setup Utility]** (HPディスプレイ セットアップユーティリティ) を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP Display Setup Utility.exe
2. ライン ディスプレイが自動的に検出されます。
3. **[Obtain Setting from Display]** (ディスプレイから設定を取得) ボタンをクリックします。
4. 電源投入時に表示される**[Line 1]** (1行目) および**[Line 2]** (2行目) のメッセージを編集します。
5. **[Download Setting to Display]** (ディスプレイに設定をダウンロード) ボタンをクリックして、ラインディスプレイに設定を保存します。
6. **[HP Display Setup Utility]**を終了します。

#### 詳しい手順

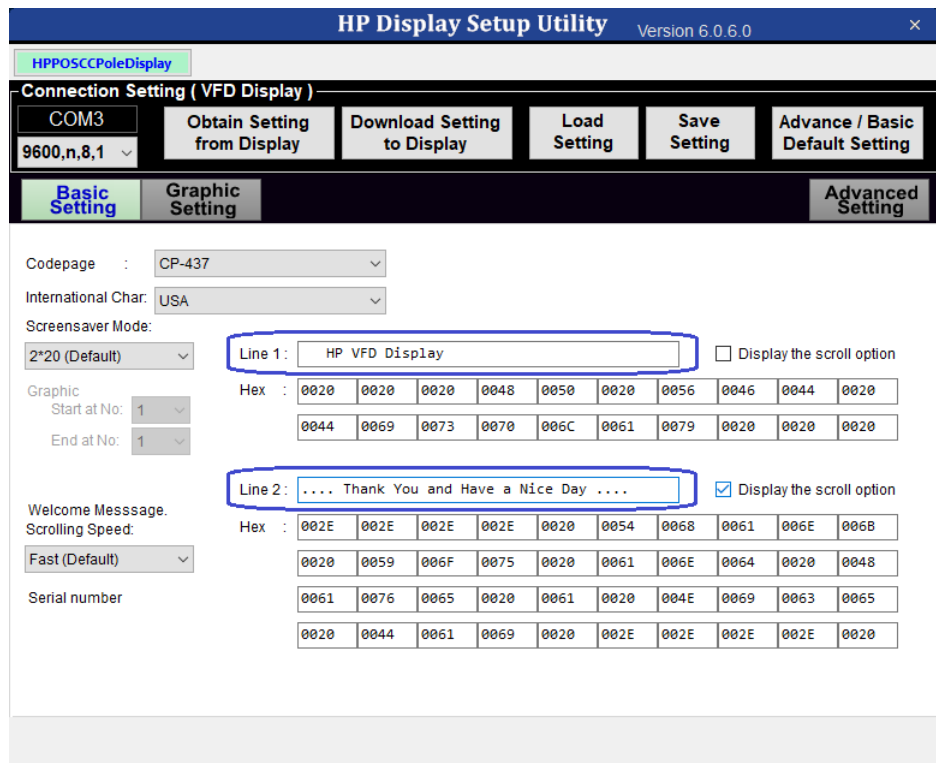
1. **[HP Display Setup Utility]**を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP Display Setup Utility.exe
2. ライン ディスプレイが自動的に検出されます。

Line 1: HP VFD Display										<input type="checkbox"/>	Display the scroll option
0020	0020	0020	0048	0050	0020	0056	0046	0044	0020		
0044	0069	0073	0070	006C	0061	0079	0020	0020	0020		
Line 2: ... Thank You and Have a Nice Day ...										<input checked="" type="checkbox"/>	Display the scroll option
002E	002E	002E	002E	0020	0054	0068	0061	006E	006B		
0020	0059	006F	0075	0020	0061	006E	0064	0020	0048		
0061	0076	0065	0020	0061	0020	004E	0069	0063	0065		
0020	0044	0061	0069	0020	002E	002E	002E	002E	0020		

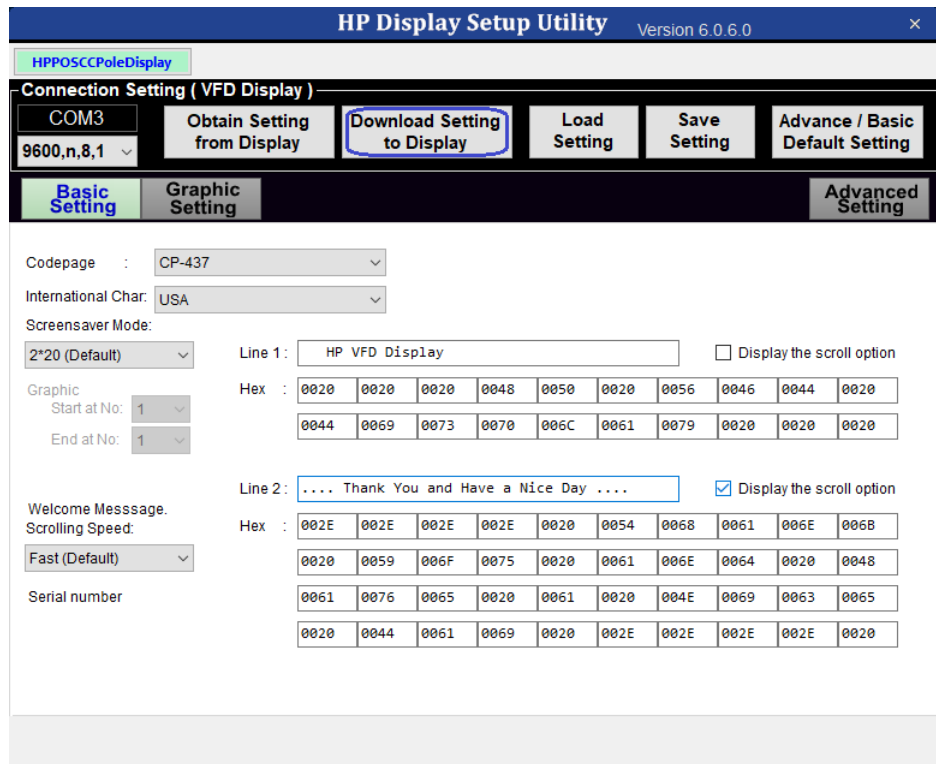
3. [Obtain Setting from Display]ボタンをクリックします。ライン ディスプレイがブランクになり、[Device Information Successfully Retrieved.] (◆デバイス情報が正常に取得されました。◆) というメッセージが表示されます。



4. 電源投入時に表示される[Line 1]および[Line 2]のメッセージを編集します。



5. [Download Setting to Display]ボタンをクリックして、ライン ディスプレイに設定を保存します。ライン ディスプレイが再初期化され、[Device information successfully downloaded.] (◆デバイス情報が正常にダウンロードされました。◆) というメッセージが表示されます。



6. [HP Display Setup Utility]を終了します。

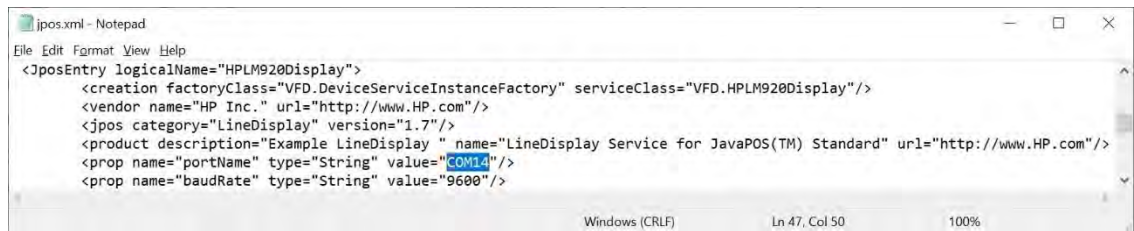
## 6.15.4 OPOS

HPライン ディスプレイTシリーズのOPOSは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://www.hp.com)から入手することもできます。

## 6.15.5 JPOS

HPライン ディスプレイTシリーズのJPOSは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://www.hp.com)から入手することもできます。

(C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Line Display T-Series JPOSにある) jpos.xmlに含まれているラインディスプレイ用の[portName]のCOM値の設定を、[デバイス マネージャー]と一致するように更新して保存する必要があります。



```
jpos.xml - Notepad
File Edit Format View Help
<JposEntry logicalName="HPLM920Display">
  <creation factoryClass="VFD.DeviceServiceInstanceFactory" serviceClass="VFD.HPLM920Display"/>
  <vendor name="HP Inc." url="http://www.HP.com"/>
  <jpos category="LineDisplay" version="1.7"/>
  <product description="Example LineDisplay " name="LineDisplay Service for JavaPOS(TM) Standard" url="http://www.HP.com"/>
  <prop name="portName" type="String" value="COM14"/>
  <prop name="baudRate" type="String" value="9600"/>
Windows (CRLF) Ln 47, Col 50 100%
```

## 6.15.6 ラインディスプレイのテスト

### 6.15.6.1 非OPOSまたは非JPOSでのテスト

Windows (OPOS/JPOS以外の環境) でライン ディスプレイをテストするユーティリティには、HPポール ディスプレイ テストおよびHP VFDユーティリティの2つが用意されています。どちらのユーティリティも、[HP.COM](http://www.hp.com)のHPライン ディスプレイTシリーズ ツールのSoftpaqからのみ入手できます。

#### 6.15.6.1.1 HPポールディスプレイテスト

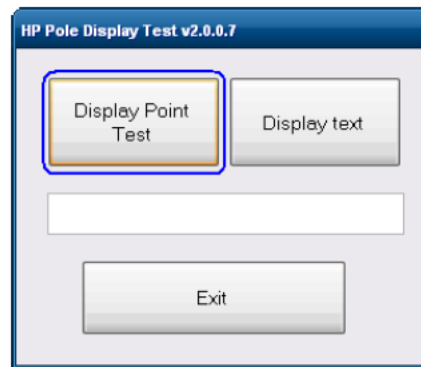
##### 手順

1. **[HP Pole Display Test]** (HPポールディスプレイ テスト) を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP Pole Display Test\HP Pole Display Test.exe
2. **[Display Point Test]** (ポイント テストの表示) ボタンをクリックします。ライン ディスプレイでクイック テストが実行され、完了すると[Finish...] (終了しました...) と表示されます。
3. テキスト ボックスにテキストを入力して、**[Display text]** (テキストの表示) ボタンをクリックします。テキストがラインディスプレイに表示されます。
4. **[HP Pole Display Test]**を終了します。

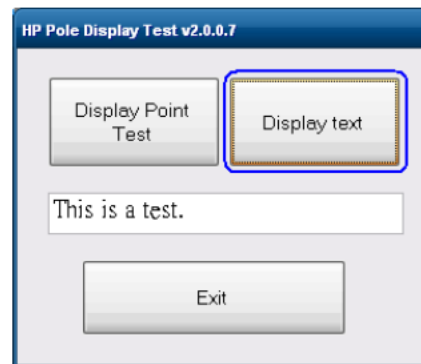
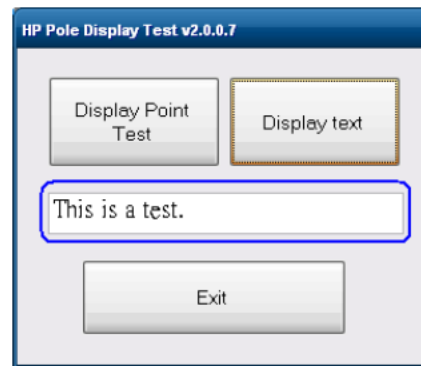
##### 詳しい手順

1. [HP Pole Display Test]を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP Pole Display Test\HP Pole Display Test.exe

2. **[Display Point Test]**ボタンをクリックします。ライン ディスプレイでクイック テストが実行され、完了すると**[Finish…]**と表示されます。



3. テキスト ボックスにテキストを入力して、**[Display text]**ボタンをクリックします。テキストがラインディスプレイに表示されます。



4. **[HP Pole Display Test]**を終了します。

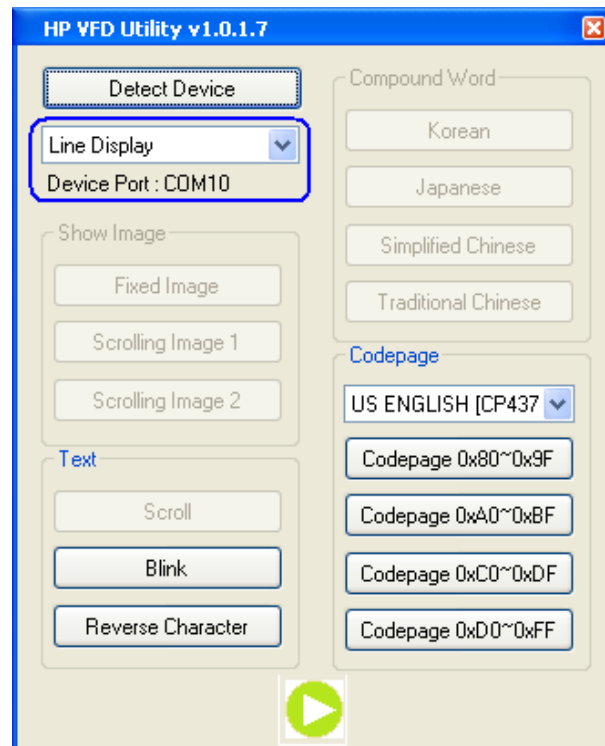
#### 6.15.6.1.2 HP VFDユーティリティ

##### 手順

1. **[HP VFD Utility]** (HP VFDユーティリティ) を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP VFD Utility\HP VFD Utility.exe.
2. ラインディスプレイが自動的に検出されます。
3. 特定の項目をテストする場合は、どれかのボタンをクリックします。すべてのボタン/テストを繰り返す場合は、緑色の**[Play]** (再生) ボタンをクリックします。
4. **[HP VFD Utility]**を終了します。

##### 詳しい手順

1. **[HP VFD Utility]**を開きます。
  - C:\SWSetup\SPxxxx\HP VFD Utility\HP VFD Utility.exe.
2. ラインディスプレイが自動的に検出されます。

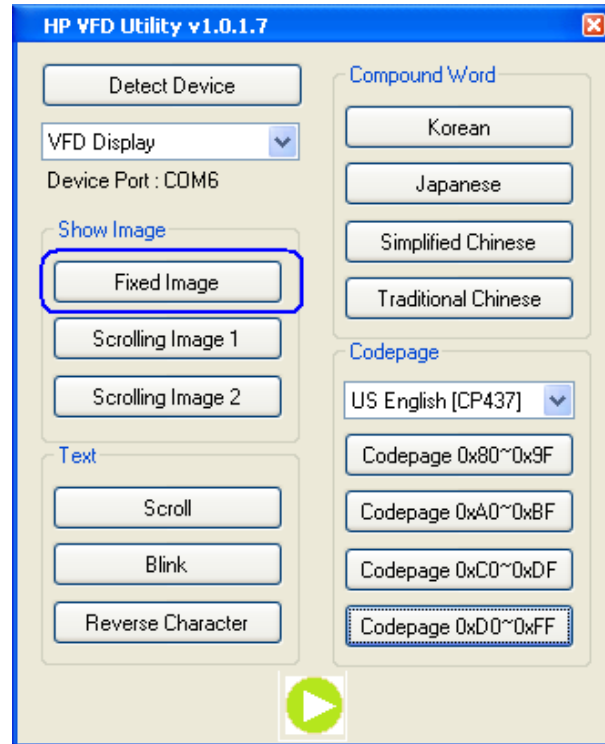


注： そのデバイスでサポートされていない機能は、グレー表示されます。

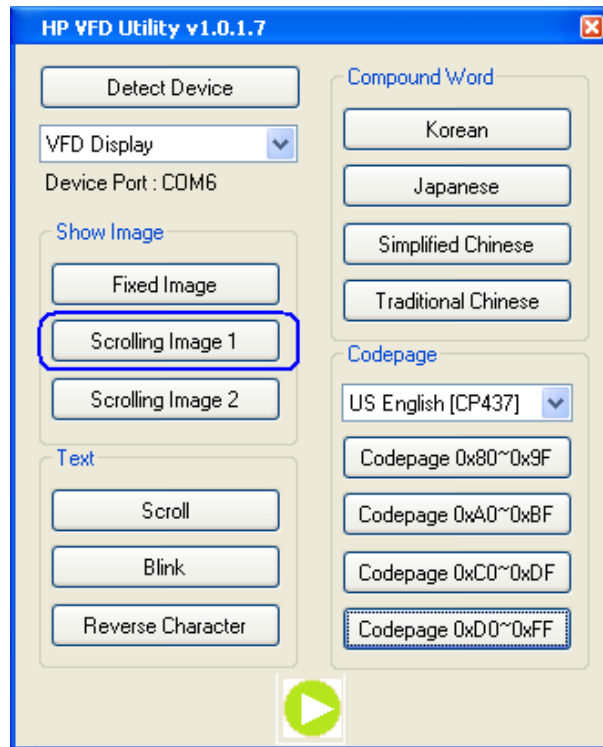


3. 特定の項目をテストする場合は、いずれかのボタンをクリックします。各テストの機能を以下で説明します。

- Fixed Image (固定イメージ) → デバイ스에 이미지 (以下に示す図形と同様のイメージ) が表示されます。



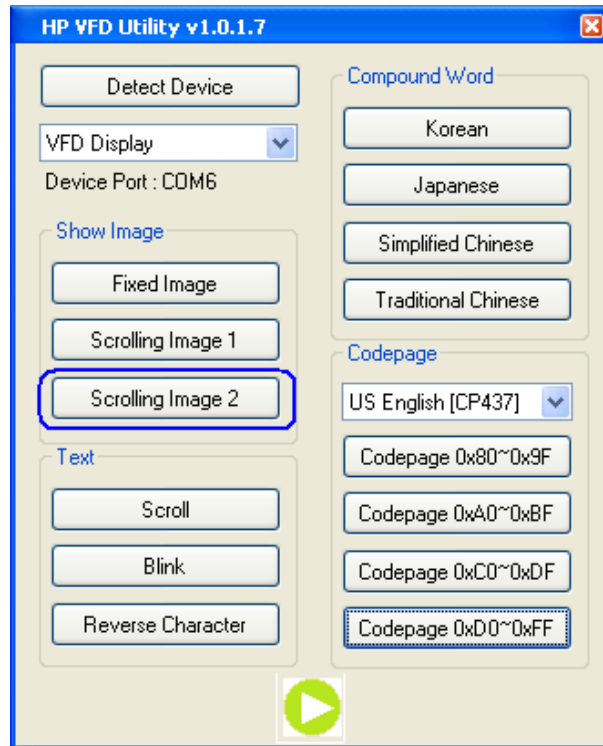
- Scrolling Image 1 (スクロール イメージ1) → デバイスにイメージ (以下に示す図形と同様のイメージ) がスクロール表示されます。



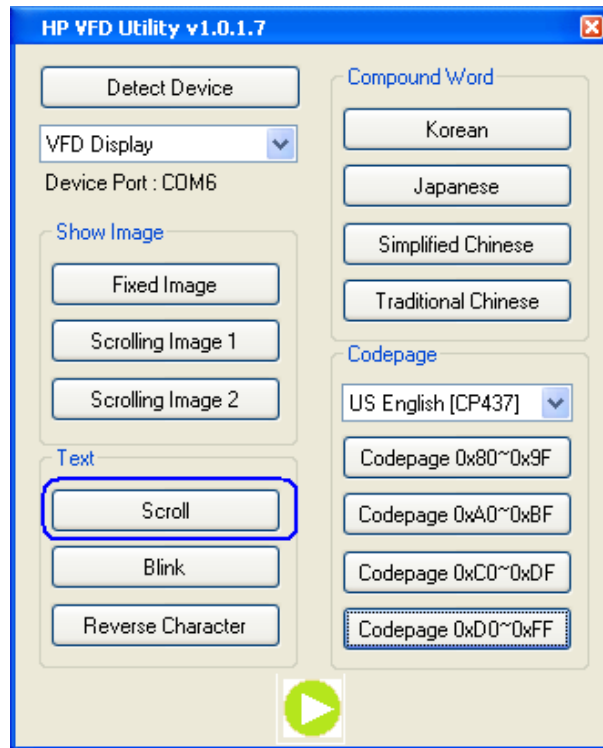
- **Scrolling Image 2 (スクロール イメージ2)** → デバイスに2つの異なるイメージ (以下に示すものと同様のイメージ) が交互にスクロール表示されます。



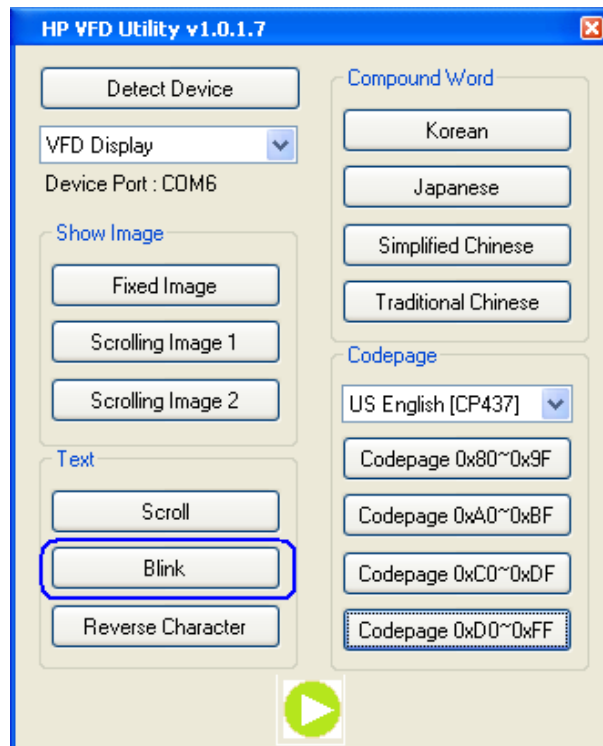
*Enjoy your Shopping Here!*



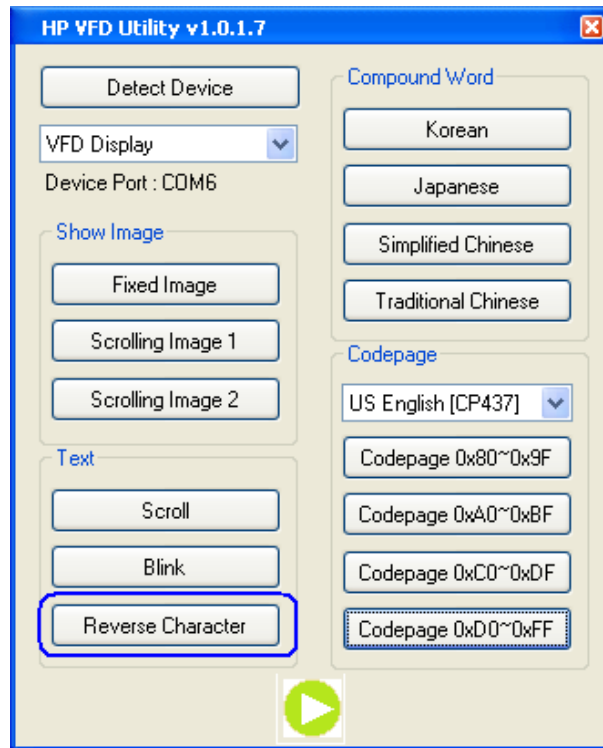
- Scroll (スクロール) → デバイスに1234567890がスクロール表示されます。



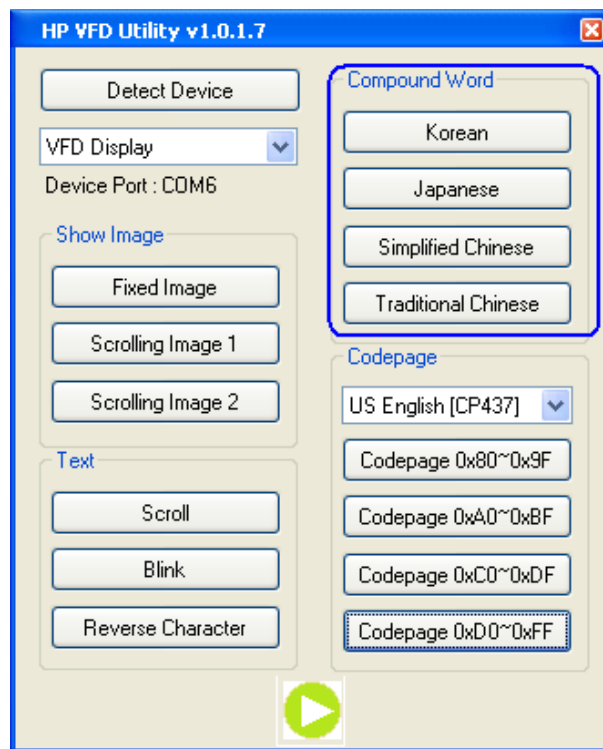
- Blink (点滅) → デバイスにABCDEFGHJIJが点滅して表示されます。



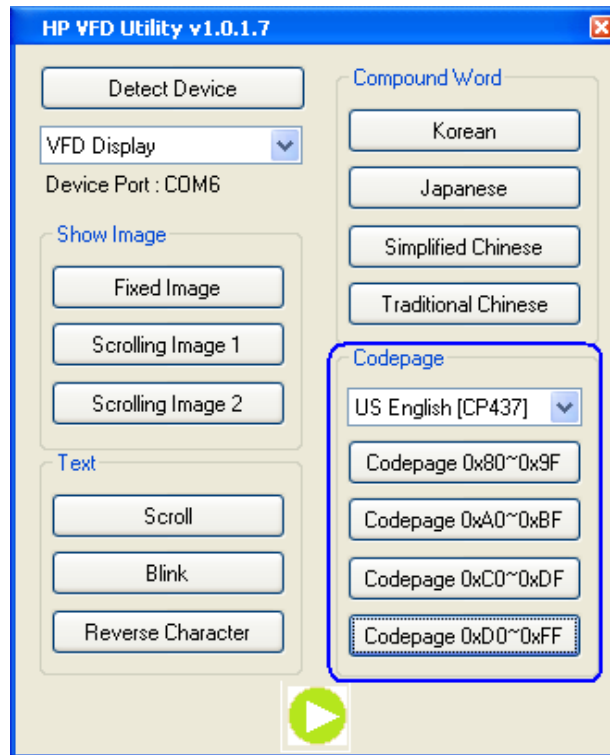
- Reverse Character (反転文字) → デバイスにabcdefghijが照明を反転して表示されます。



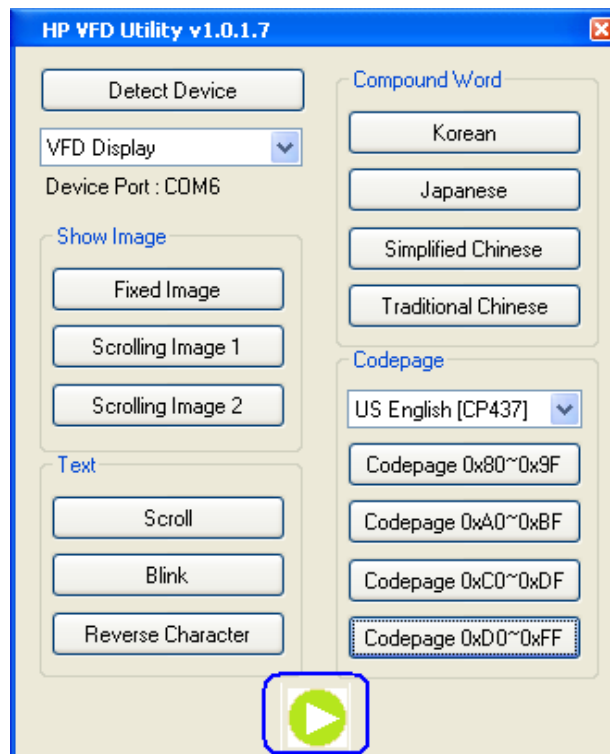
- Compound Word (複合語) → デバイスの1行目に「ようこそ」のメッセージがボタンの言語 (複合語) で表示され、2行目に英語で表示されます。



- **Code page (コードページ)** → ドロップダウンメニューからコードページ(言語)を選択し、各コードページボタンを押すと、各種文字がデバイスに表示されます。



- **Play (再生)** → 緑色の[Play]を押すと、すべてのテスト(選択したコードページを含む)が自動的に実行されます。



4. [HP VFD Utility]を終了します。

## 6.15.6.2 OPOSでのテスト

### 手順

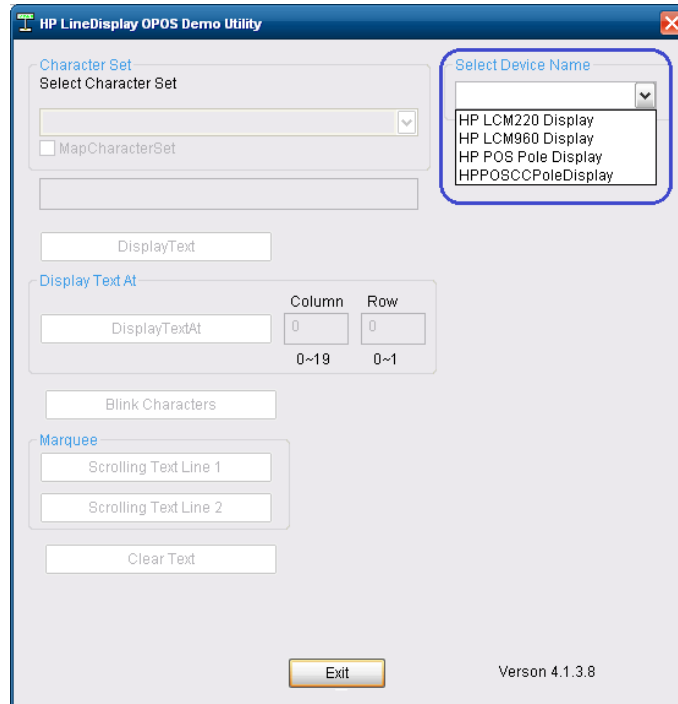
1. **[HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility]** (HPライン ディスプレイTシリーズのOPOSデモユーティリティ) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Line Display T-Series OPOS\OPOS\HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility.exe
2. **[Select Device Name]** (◆デバイス名の選択◆) ドロップダウンメニューからデバイスを選択します。
3. **[Clear Text]** (テキストの消去) ボタンをクリックして、デバイスに表示されているすべてのテキストを消去します。
4. テキスト ボックスにテキストを入力します。
5. **[DisplayText]** (テキストの表示) ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。

使用可能なその他のテキスト

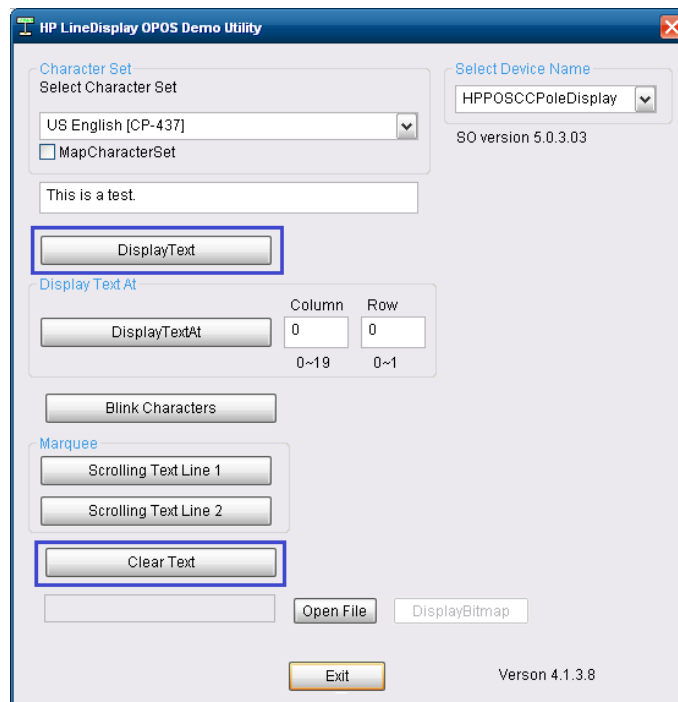
- 特定の列と行にテキストを表示させるテスト
    - a. **[Column]** (◆列◆) および**[Row]** (◆行◆) ボックスに値を指定します。
    - b. **[DisplayTextAt]** (位置を指定してテキストを表示) ボタンをクリックします。指定した位置にテキストが表示されます。
  - 点滅テスト
    - a. **[Blink Characters]** (文字の点滅) ボタンをクリックします。[!!! Blinking !!!] (!!!点滅中!!!) が点滅して表示されます。
  - スクロールテスト
    - a. **[Marquee Text Line 1]** (◆marqueeテキストの1行目◆) または**[Marquee Text Line 2]** (◆marqueeテキストの2行目◆) ボタンをクリックします。テキストが指定された行でスクロールされます。
  - 異なる文字セットでテキストを表示させるテスト
    - a. **[Clear Text]** ボタンをクリックして、デバイスに表示されているすべてのテキストを消去します。
    - b. ドロップダウンメニューから文字セットを選択します。
    - c. **[MapCharacterSet]** (文字セットのマッピング) チェックボックスにチェックを入れます。
    - d. テキスト ボックスにテキストを入力します。
    - e. **[DisplayText]** ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。
6. **[HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility]** を終了します。

## 詳しい手順

1. **[HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility]**を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Line Display T-Series OPOS\OPOS\HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility.exe
2. **[Select Device Name]**ドロップダウンメニューからデバイスを選択します。



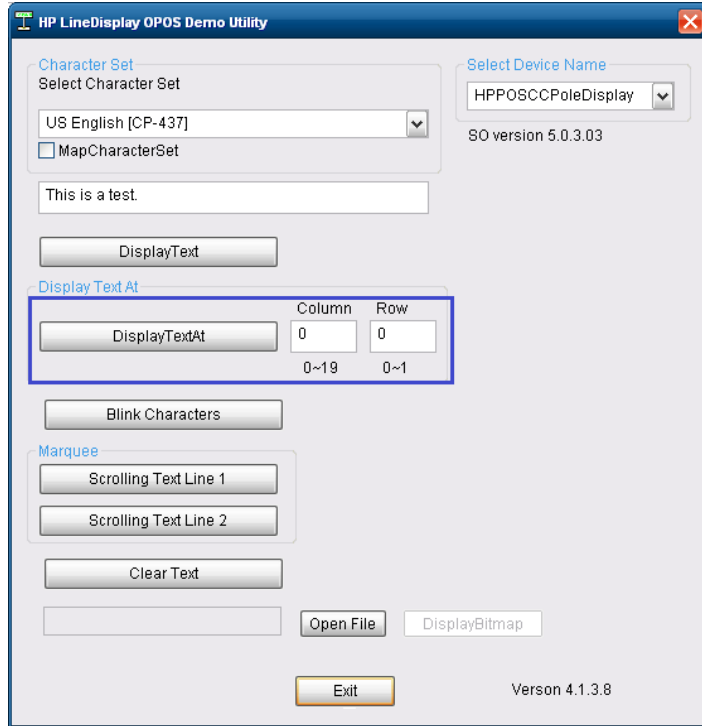
3. **[Clear Text]**ボタンをクリックして、デバイスに表示されているすべてのテキストを消去します。
4. テキストボックスにテキストを入力します。
5. **[DisplayText]**ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。





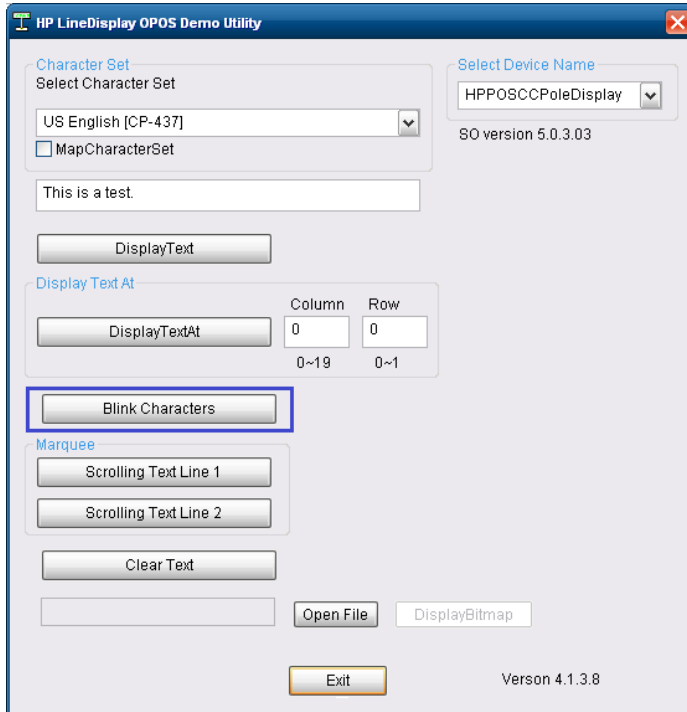
使用可能なその他のテキスト

- 特定の列と行にテキストを表示させるテスト
  - a. **[Column]**および**[Row]**ボックスに値を指定します。
  - b. **[DisplayTextAt]**ボタンをクリックします。指定した位置にテキストが表示されます。

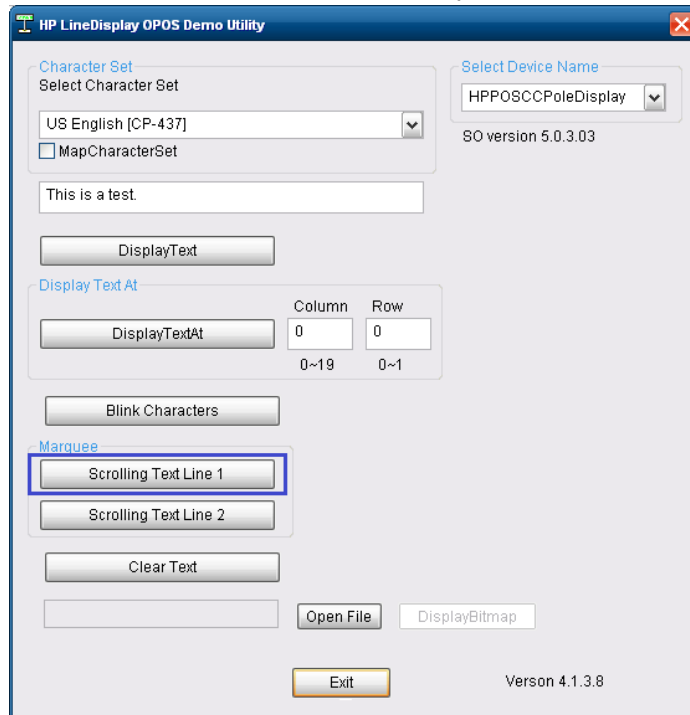


- 点滅テスト

- a. **[Blink Characters]**ボタンをクリックします。[!!! Blinking !!!]が点滅して表示されます。



- スクロールテスト
  - a. **[Marquee Text Line 1]**または[Marquee Text Line 2]ボタンをクリックします。テキストが指定された行でスクロールされます。



- 異なる文字セットでテキストを表示させるテスト
  - [Clear Text]**ボタンをクリックして、デバイスに表示されているすべてのテキストを消去します。
  - ドロップダウンメニューから**文字セット**を選択します。
  - [MapCharacterSet]**チェックボックスにチェックを入れます。
  - テキストボックスにテキストを入力します。
  - [DisplayText]**ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。



- [HP Line Display T-Series OPOS Demo Utility]**を終了します。

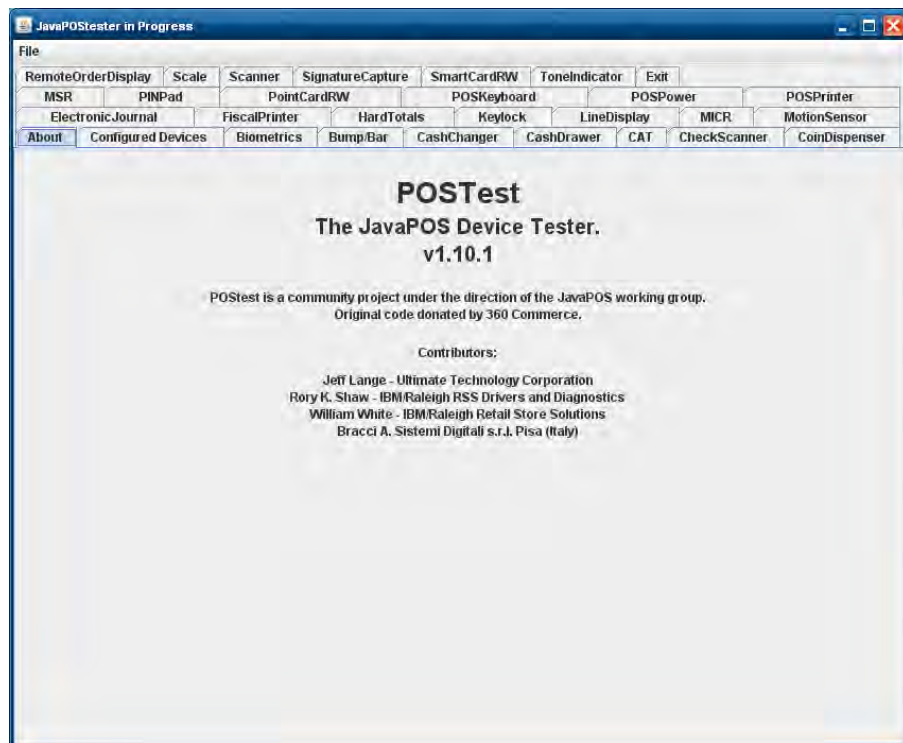
### 6.15.6.3 JPOSでのテスト

#### 手順

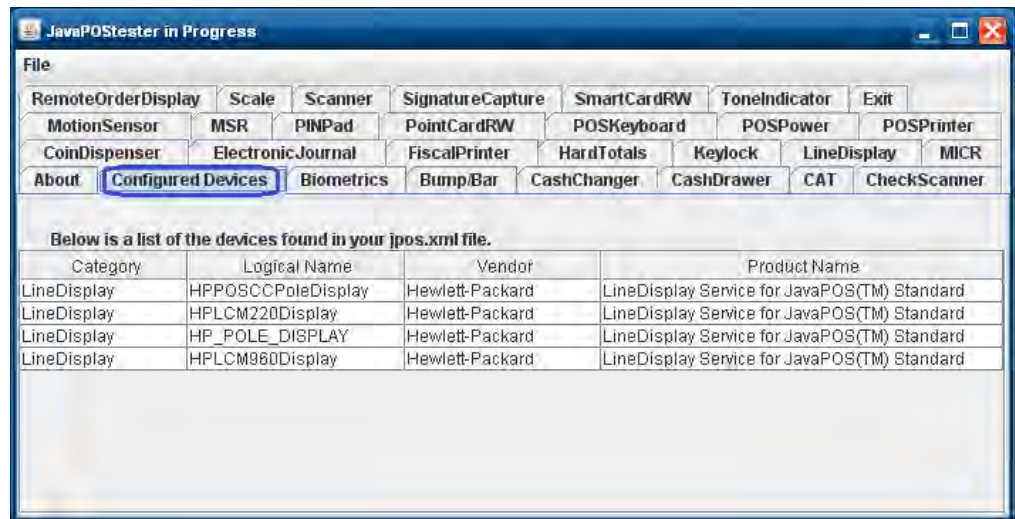
1. **[JavaPOSTester]** (JavaPOSテスト プログラム) を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Line Display T-Series JPOS\POStest.bat.
2. **[Configured Devices]** (設定済みデバイス) タブをクリックして、ライン ディスプレイの**[Logical Name]** (論理名) をコピーするか書き留めます。
3. **[LineDisplay]** (ラインディスプレイ) タブをクリックします。
4. **[Logical name]** (論理名) フィールドにラインディスプレイの論理名を入力します。
5. **[Open]** (開く) ボタンをクリックします。
6. **[Claim]** (要求) ボタンをクリックします。
7. **[Device enabled]** (デバイス有効) チェック ボックスにチェックを入れます。
8. **[Clear Text]** (テキストの消去) ボタンをクリックします。
9. **[Send to line display]** (ラインディスプレイに送信) フィールドにテキストを入力します。
10. **[Display Text]** (テキストの表示) ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。
11. **[Device enabled]** チェック ボックスのチェックを外します。
12. **[Release]** (リリース) ボタンをクリックします。
13. **[Close]** (閉じる) ボタンをクリックします。
14. **[JavaPOSTester]** を終了します。

#### 詳しい手順

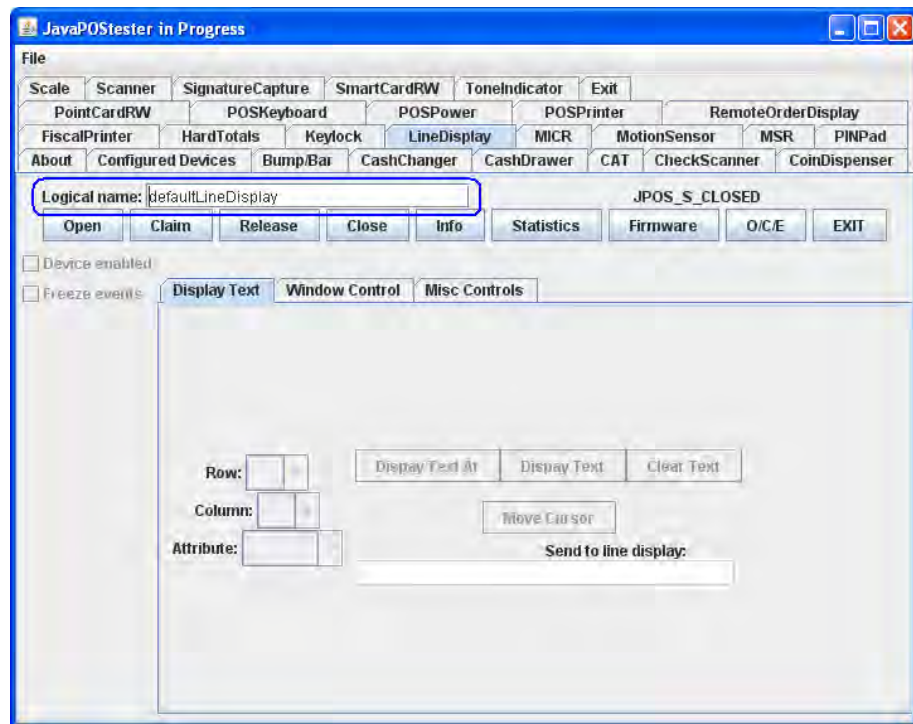
1. **[JavaPOSTester]** を開きます。
  - C:\<Program Filesディレクトリ>\HP\HP Line Display T-Series JPOS\POStest.bat.



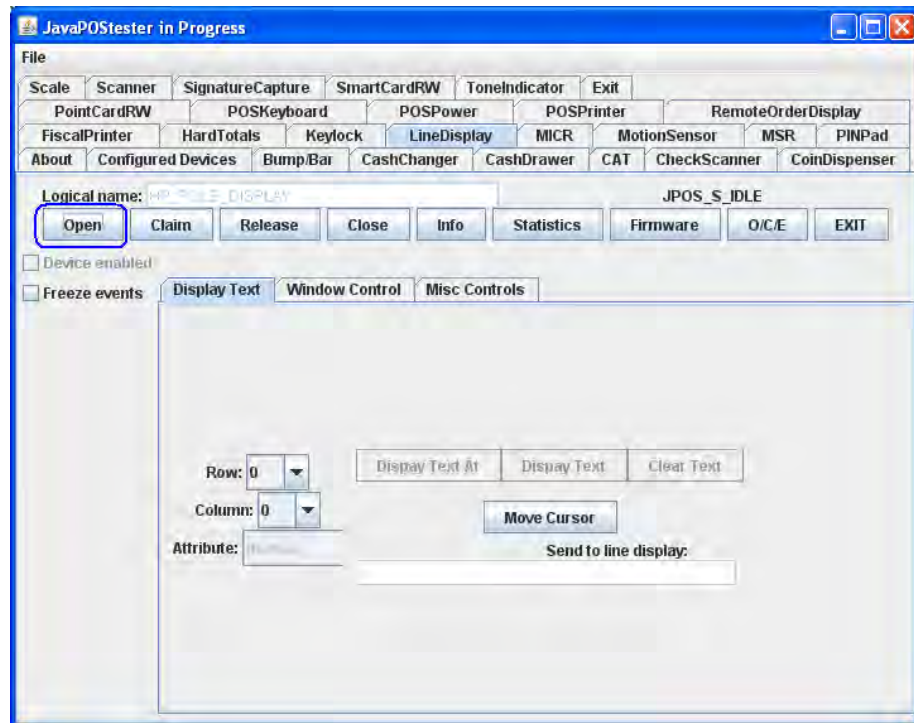
2. [Configured Devices]タブをクリックして、ラインディスプレイの[Logical Name]をコピーするか書き留めます。



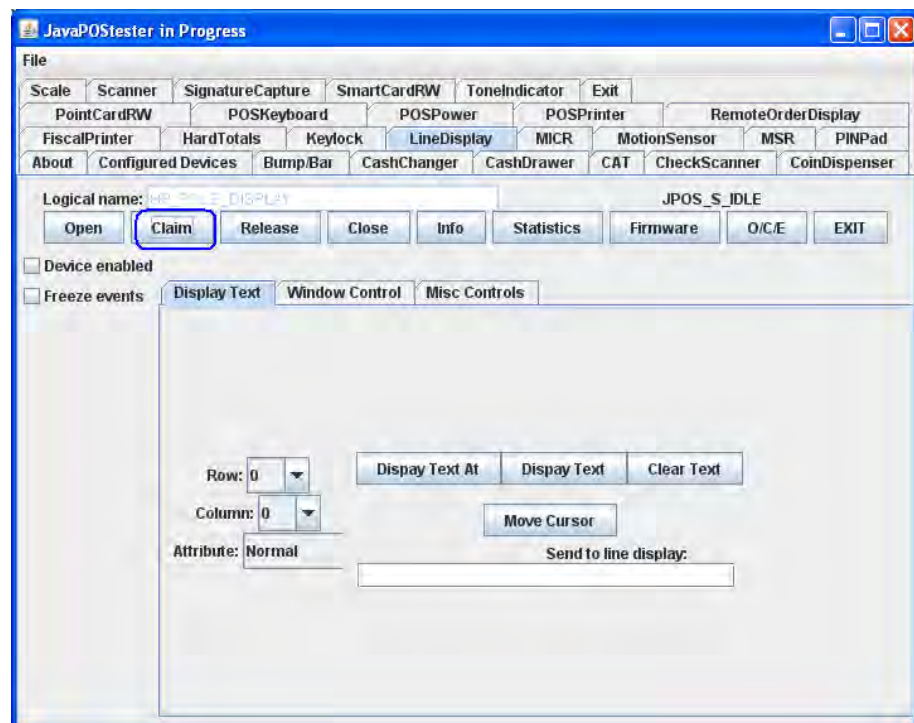
3. [LineDisplay]タブをクリックします。
4. [Logical name]フィールドにラインディスプレイの論理名を入力します。



5. [Open]ボタンをクリックします。

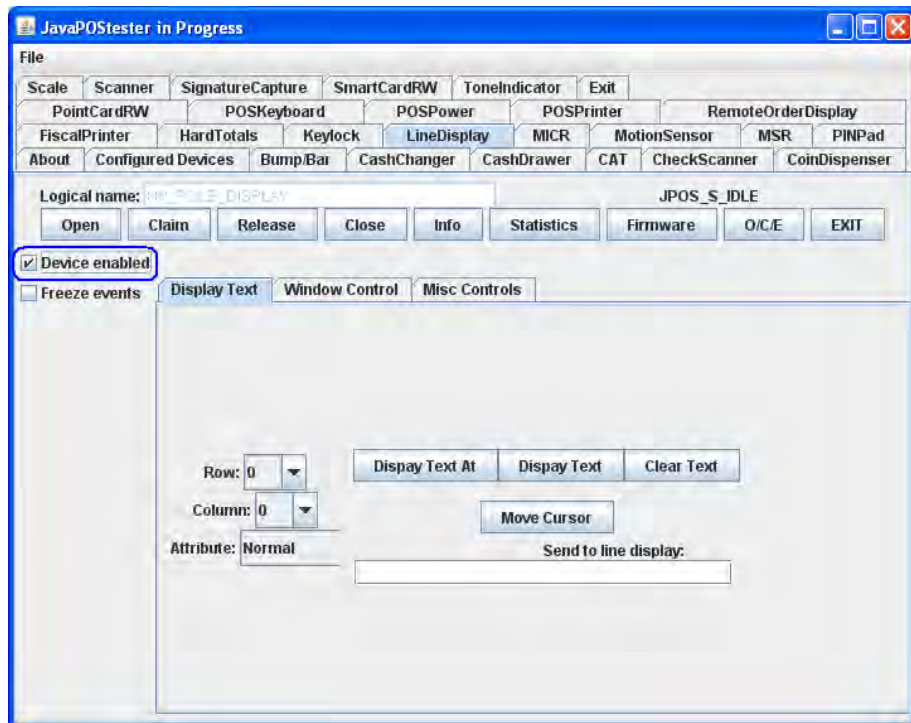


6. [Claim]ボタンをクリックします。

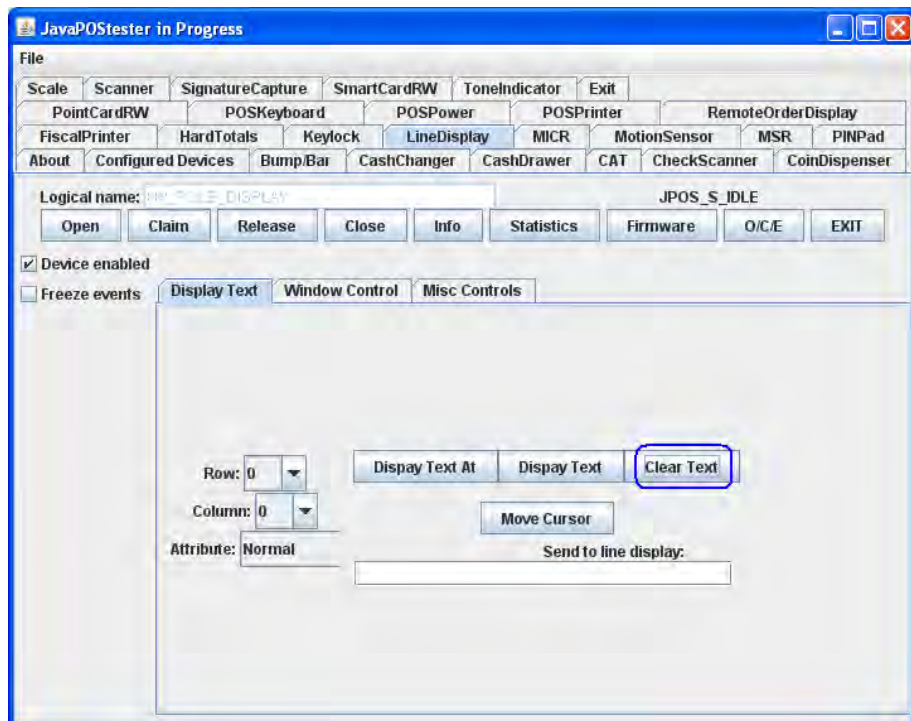




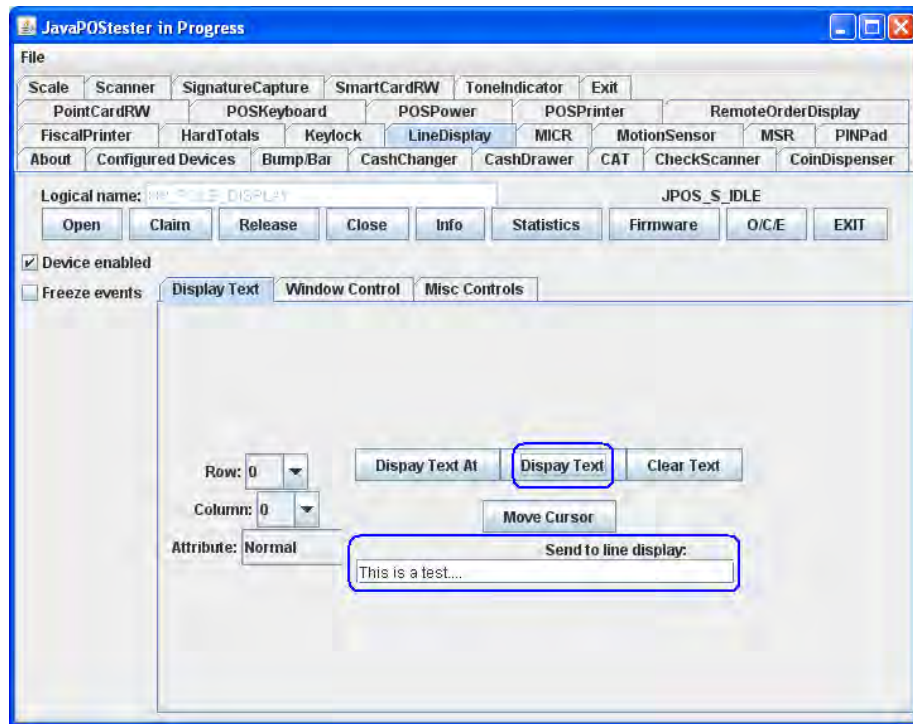
7. [Device enabled]チェックボックスにチェックを入れます。



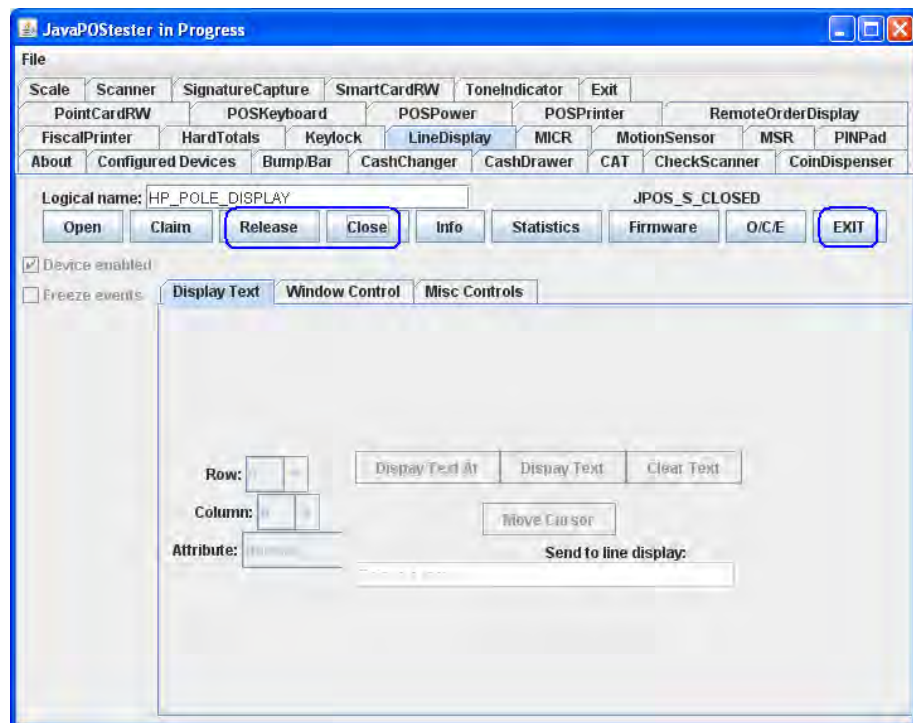
8. [Clear Text]ボタンをクリックします。



9. [Send to line display]フィールドにテキストを入力します。
10. [Display Text]ボタンをクリックします。テキストがデバイスに表示されます。



11. [Device enabled]チェックボックスのチェックを外します。
12. [Release]ボタンをクリックします。
13. [Close]ボタンをクリックします。



14. [JavaPOSTester]を終了します。



## 6.16 HP指紋リーダー



### 6.16.1 接続

指紋リーダーは、特定のデバイスの指定された、空いているどのUSBポートにも接続できます。

### 6.16.2 Windowsドライバー

HP指紋リーダーのドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

HP指紋リーダーがシステムに接続されると、デバイスのエントリが[デバイス マネージャー]の[生体認証デバイス]セクションに表示されます。

HP Retail Fingerprint Reader-By DigitalPersona (WBF)  
TouchChip Fingerprint Coprocessor (WBF advanced mode)

### 6.16.3 OPOSドライバー/JPOSドライバー/SDKキット

SDKキットの手配については、HPのサポート窓口までお問い合わせください。

推奨される清掃方法：

セロテープの粘着側をウィンドウに貼り付けてからはがします。必要に応じて、軽アンモニア系ガラス クリーナーで湿らせた布（紙ではない）でウィンドウをやさしく拭いて、曇りを取り除きます。

以下の方法は、絶対に行わないでください。

- リーダー ウィンドウを紙で清掃する
- ガラスクリーナーを直接リーダー ウィンドウに注ぐ
- アルコール系クリーナーを使用する
- リーダーを液体に浸す

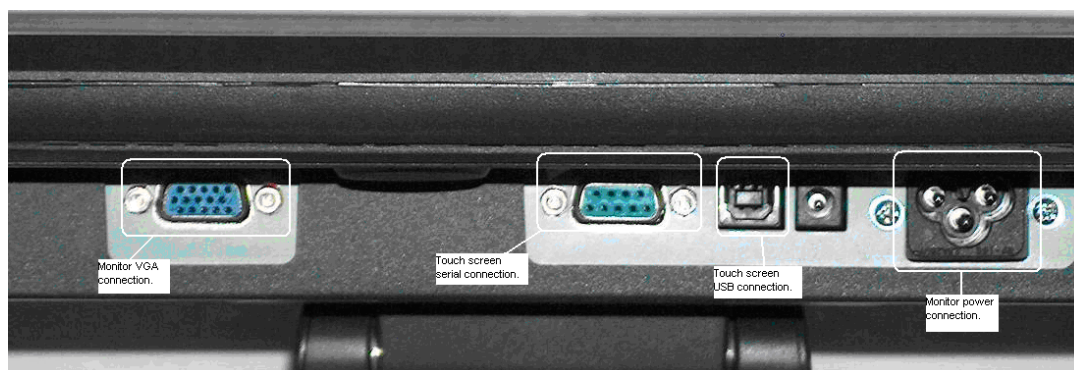
## 7 HPタッチ スクリーン

### 7.1 HP L5006tm

#### 7.1.1 接続

HP L5006tmタッチ スクリーン モニターでは、本体背面との間に3つの接続が必要です。1番目の接続は本体背面のVGAコネクタへの接続で、2番目の接続はUSBポートまたはシリアル ポートを使用したタッチ スクリーンへの接続で、3番目の接続はモニターへの電源用の接続です。USB接続では、本体背面の空いているUSBポートの1つに接続します。シリアル接続を選択した場合は、本体背面のどのシリアル ポートにモニターのタッチ スクリーン コネクタを接続したかを覚えておいてください。この情報は後で必要になります。

HP L5006tmモニター下部のモニター接続の図：



#### 7.1.2 Windowsドライバー

HPタッチ スクリーン用のドライバーは、[HP.COM](http://HP.COM)から取得できます。

**注：** タッチ スクリーンのインストールプロセスは、管理者権限で実行する必要があります。

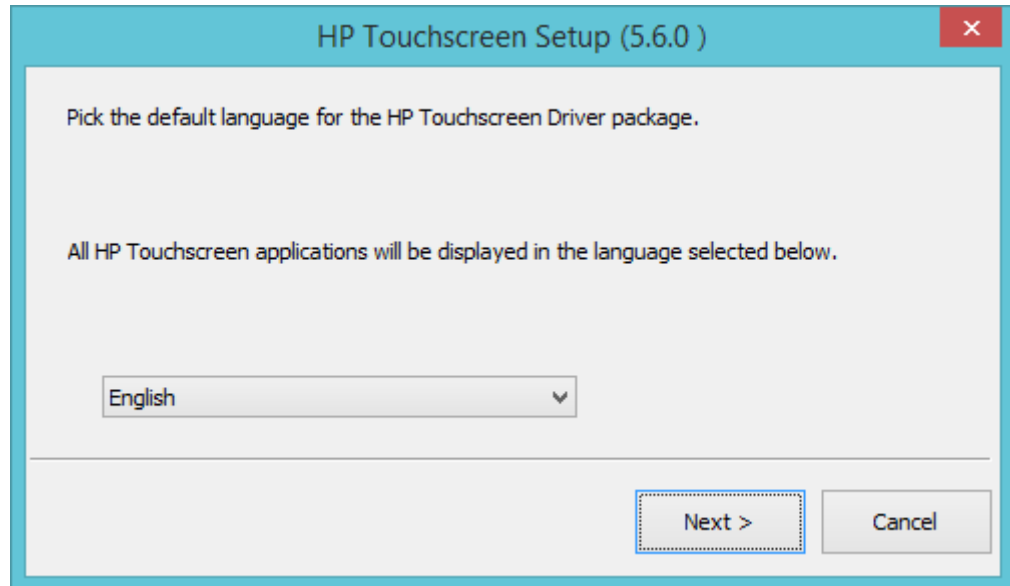
タッチ スクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

1. タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。
2. 言語を選択します。
3. タッチ スクリーンに使用するインターフェイスを選択します。
4. ドライバーがインストールされたら、タッチ スクリーン モニターを調整するオプションを選択し、画面の説明に沿って操作します。

L5006tm/L5009tm/L5015tmのタッチ スクリーンでは、ドライバーのインストール後にオペレーティングシステムを再起動してください。

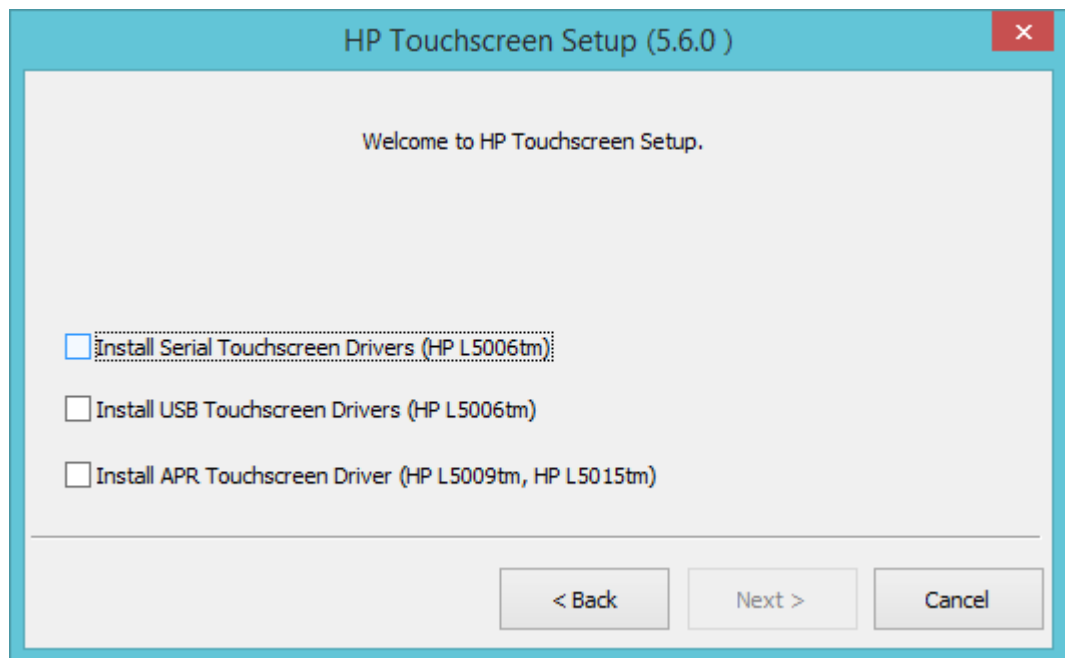
## インストールの詳しい手順

1. タッチスクリーンのインストーラーを起動して言語を選択します。



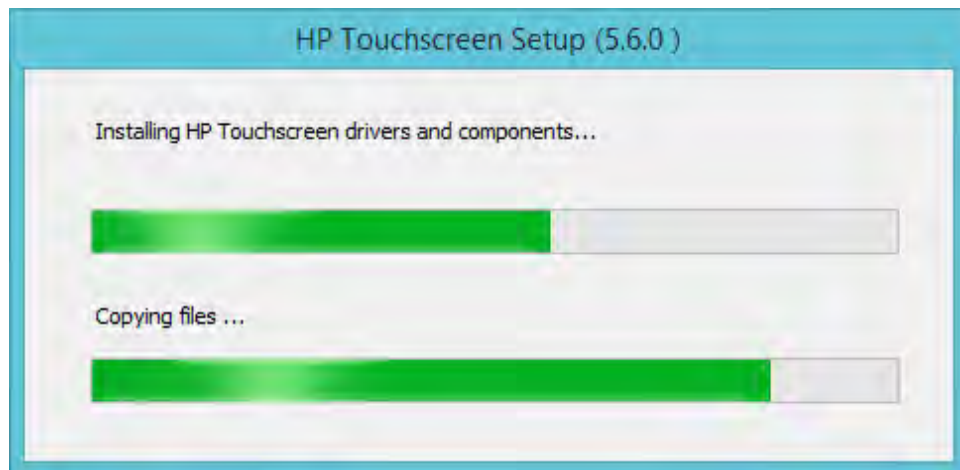
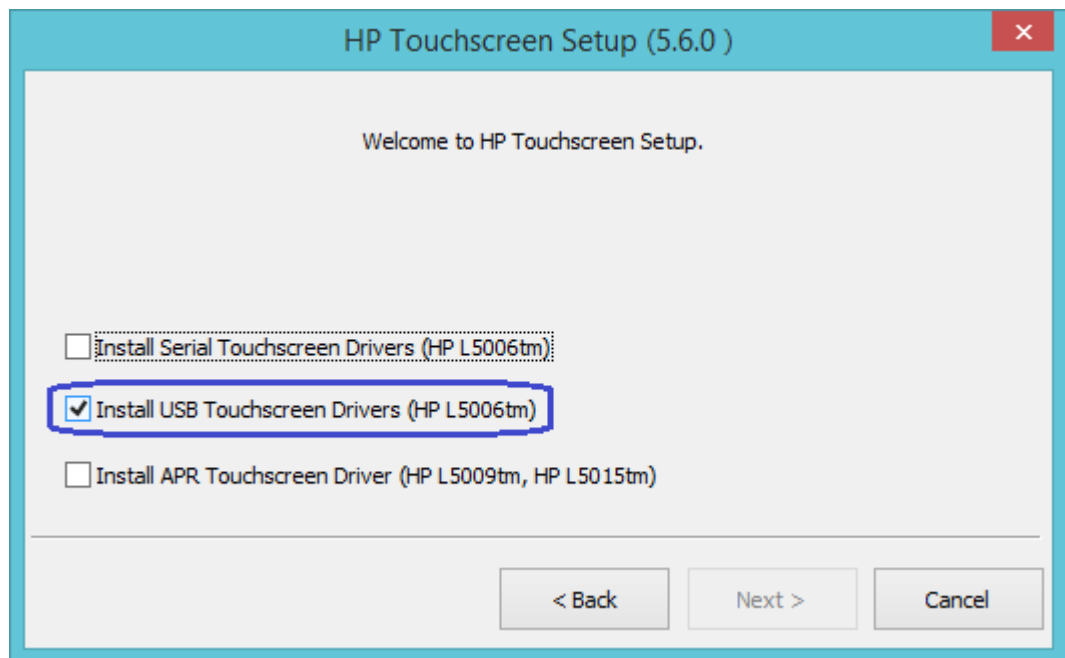
[Default] (初期設定) を選択すると、オペレーティングシステムで使用されている言語が使用されます。

2. 適切なモデルおよびインターフェイスを選択します。

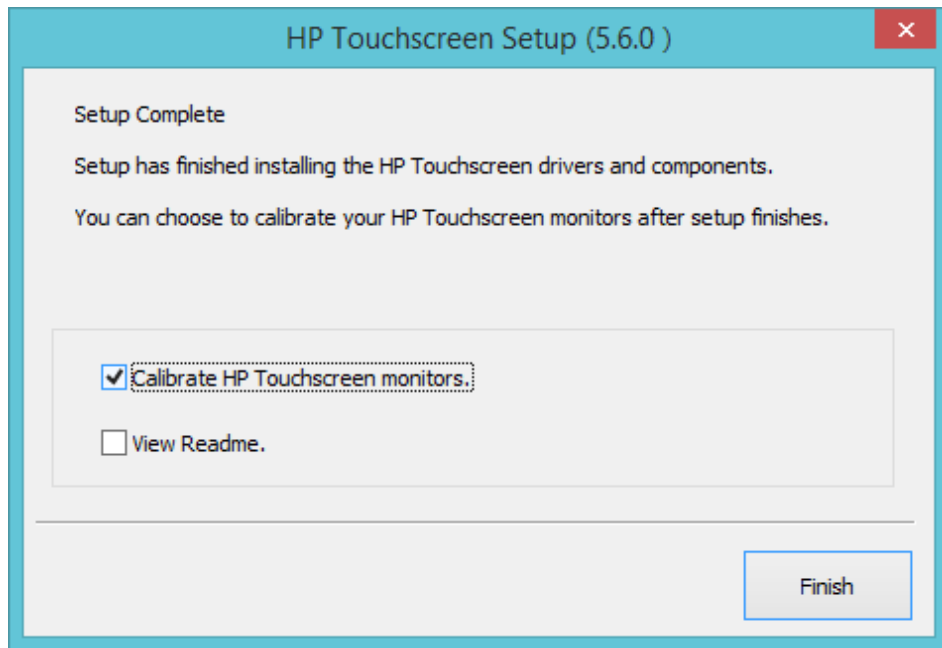


## USB接続

USBドライバーを選択した場合は、インストール パッケージによってUSBポートからモニターが検索されます。

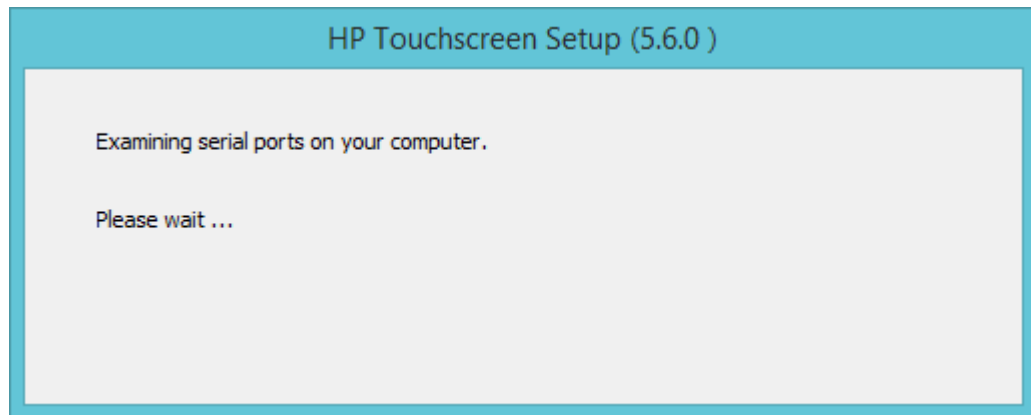
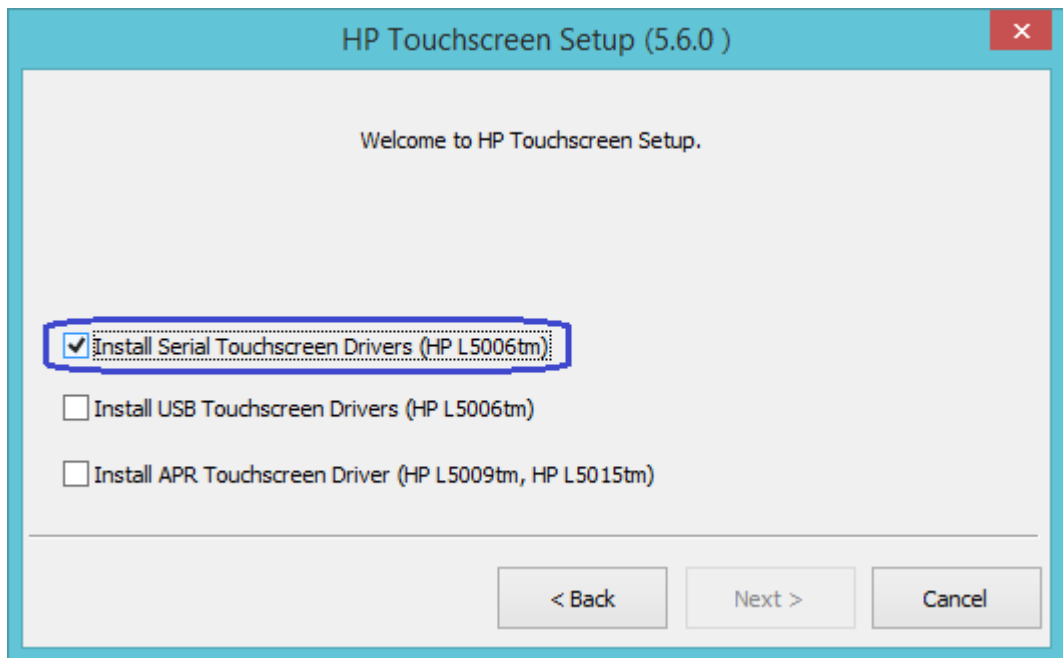


3. ドライバーがインストールされたら、タッチ スクリーン モニターを調整するオプションを選択し、画面の説明に沿って操作します。

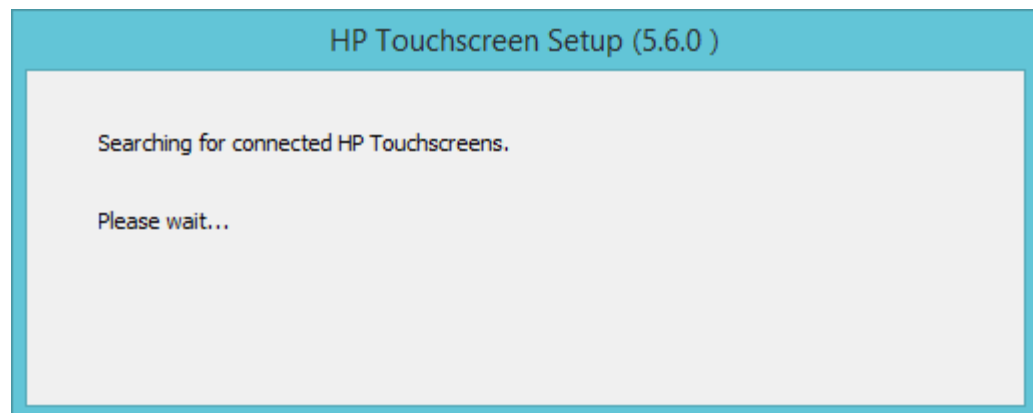
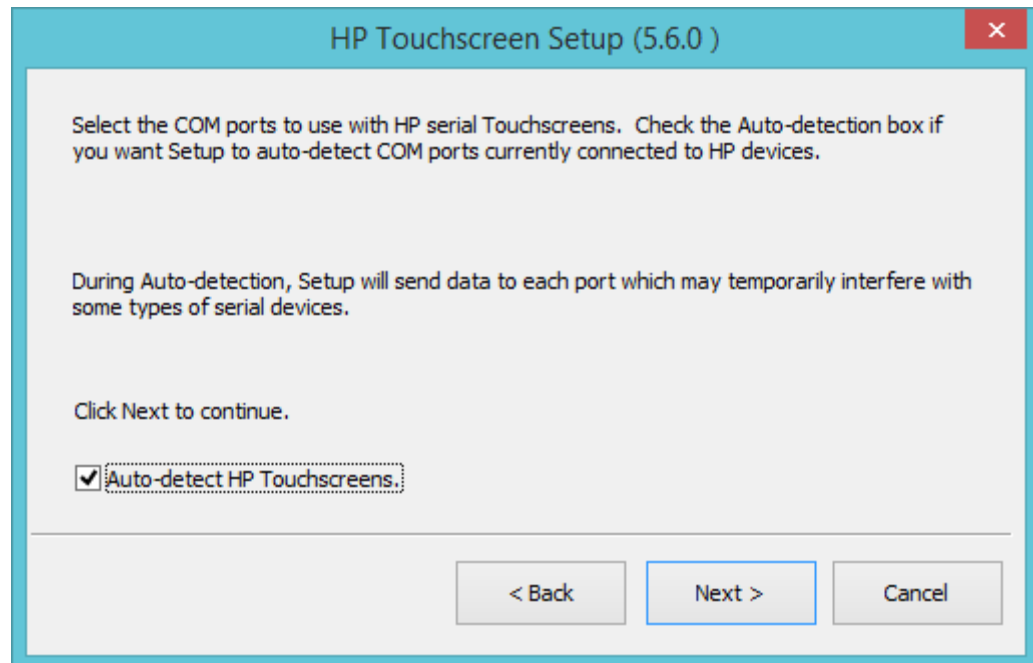


## シリアル接続

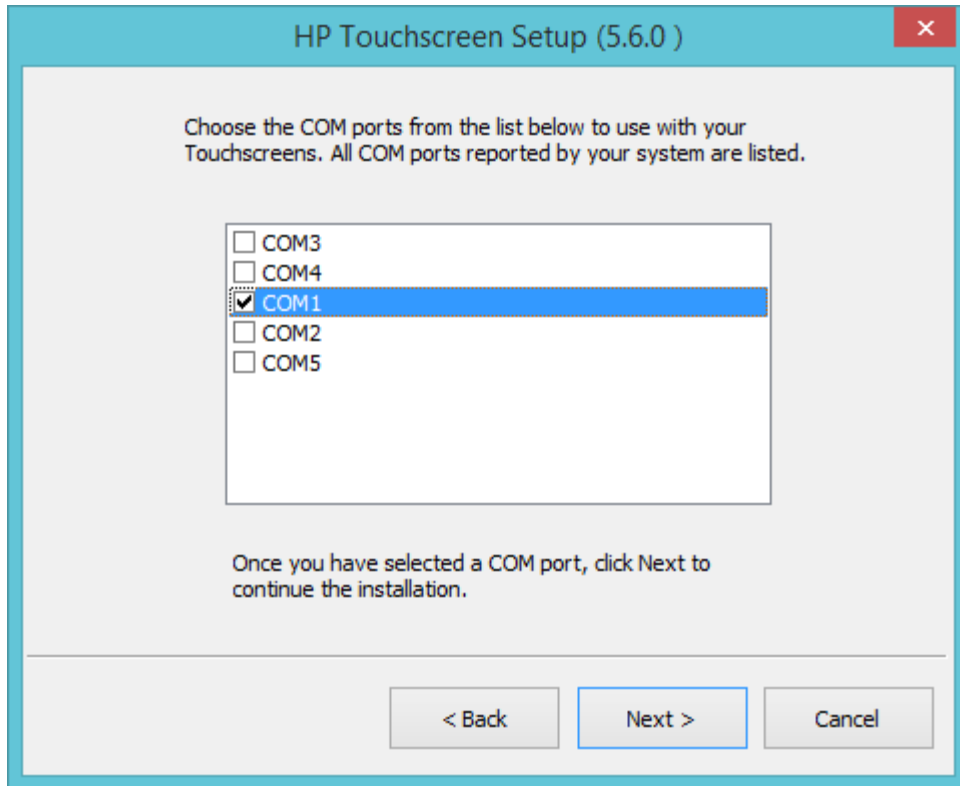
シリアルタッチ スクリーン ドライバーを選択した場合は、インストールパッケージによってモニターが接続されているCOMコネクタの自動検出を試すことができます。



以下のボックスが表示されたら、[Auto-detect HP Touchscreens] (HPタッチ スクリーンを自動検出する) チェックボックスにチェックが入っていることを確認します。

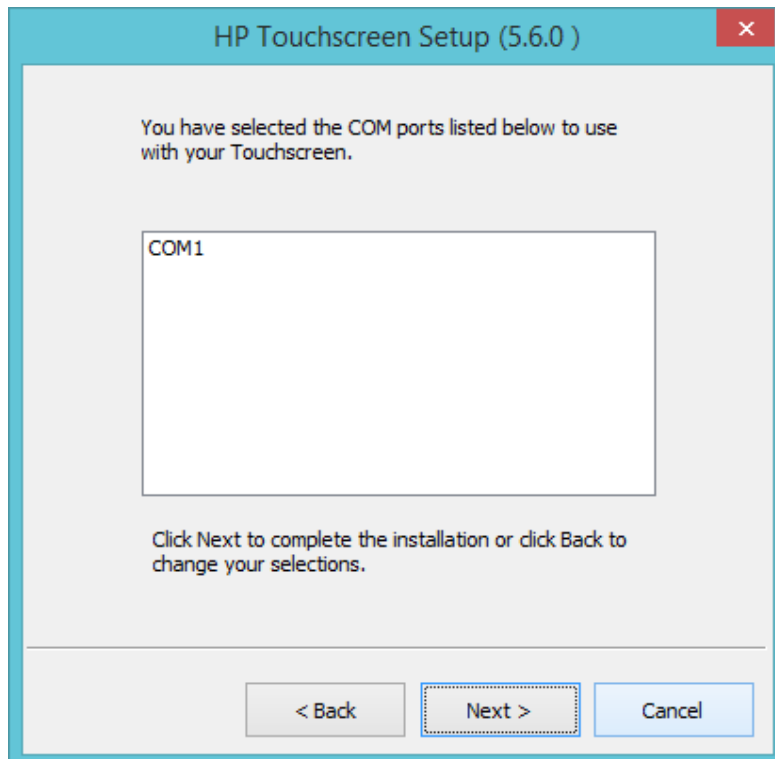


以下の画面では、本体で見つかったCOMコネクタが表示されています。選択されているCOMコネクタが、ユーティリティによってタッチ スクリーン モニターに検出されたコネクタです。

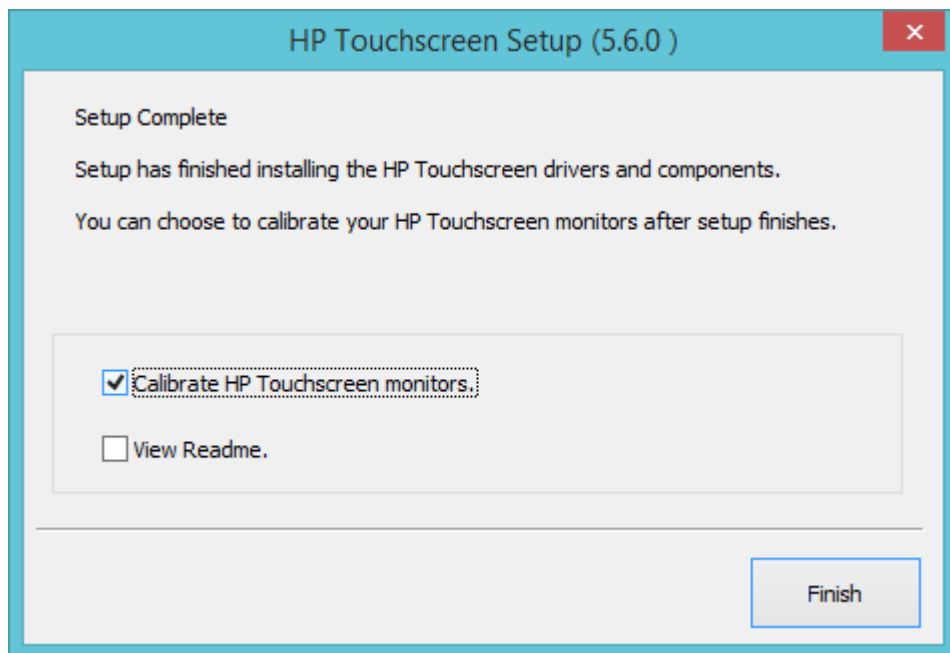
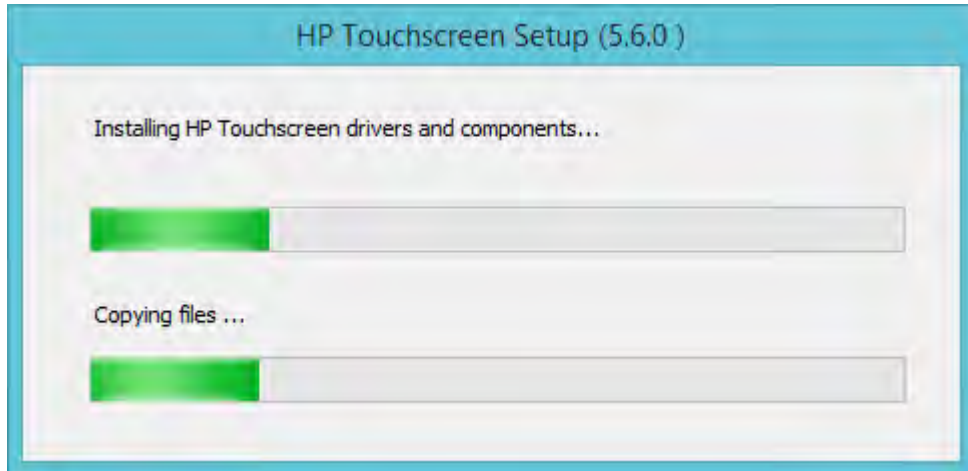


**注：** 本体に表示されるCOMコネクタは上記の画面キャプチャと異なる場合があります。

ドライバーをインストールする前に、COMコネクタの確認を求めるメッセージが表示されます。

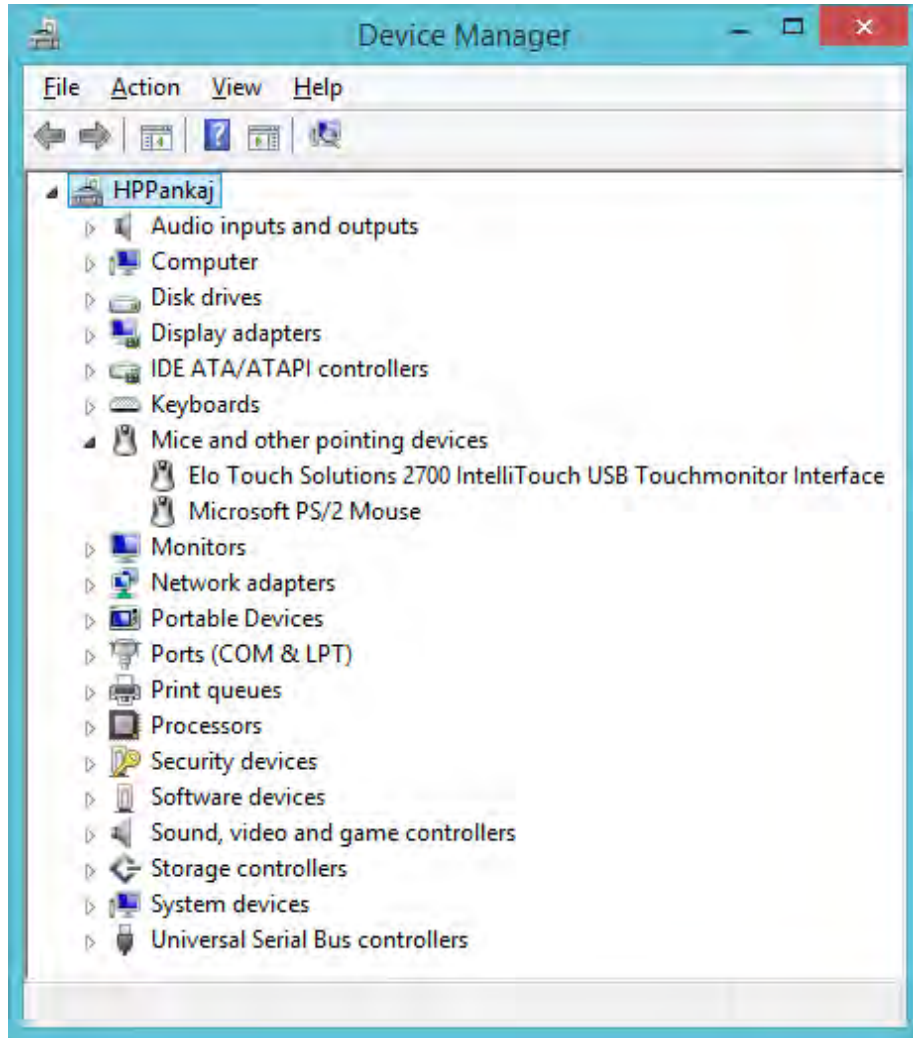




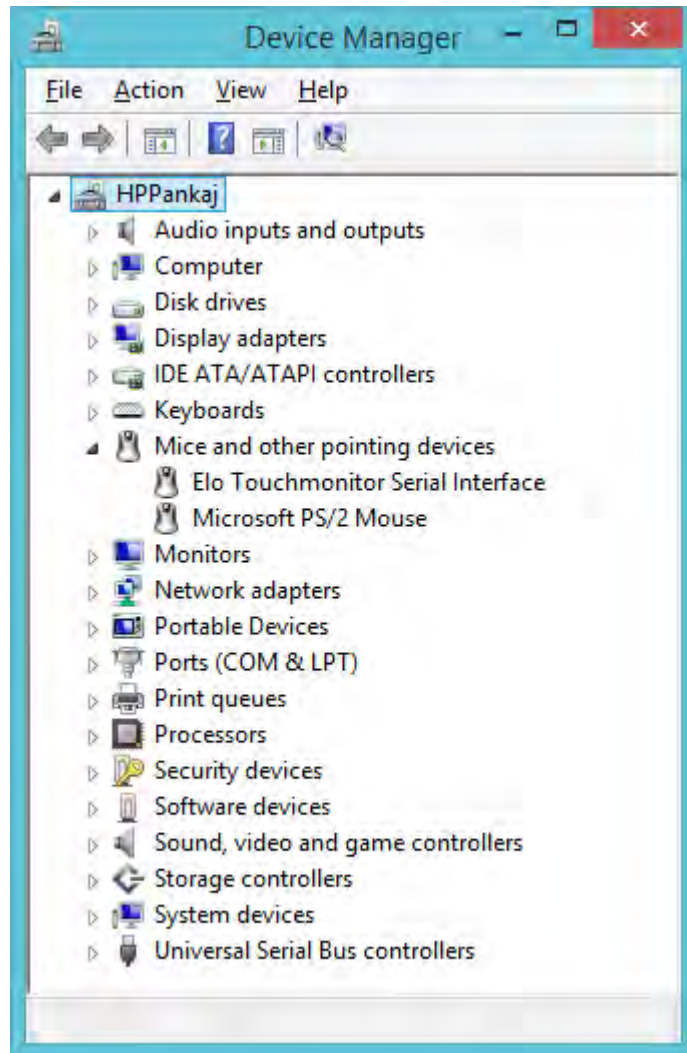


ドライバーのインストール後、再起動することを強くおすすめします。オペレーティング システムを再起動してください。

以下の図に、USBケーブルでタッチ スクリーンを本体に接続したときのWindowsの[デバイス マネージャー]の画面を示します。タッチ スクリーン用のデバイス ドライバーがWindowsに読み込まれると、[デバイス マネージャー]の[ヒューマン インターフェイス デバイス]および[マウスとそのほかのポインティング デバイス]セクションに、エントリが図のように追加されます。



以下の図に、COMコネクタでタッチ スクリーンを本体に接続したときのWindowsの[デバイス マネージャー]の画面を示します。タッチ スクリーン用のデバイス ドライバーがWindowsに読み込まれると、[デバイス マネージャー]の[マウスとそのほかのポインティング デバイス]セクションに、エントリが図のように追加されます。



タッチ スクリーン用のデバイス ドライバーがWindowsに読み込まれた後、システム トレイに[Elo]アイコンが表示されるようになります。

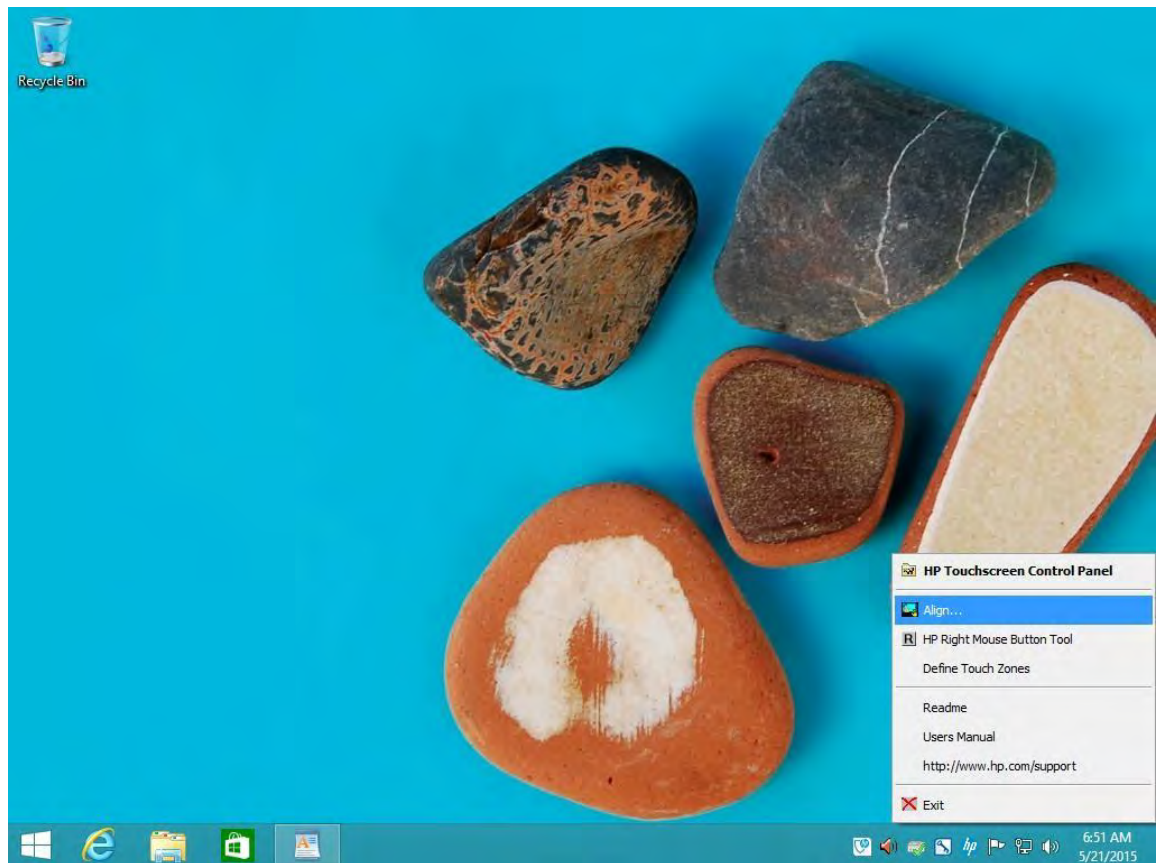


### 7.1.3 タッチスクリーンの補正

タッチスクリーンをはじめて使用するときは、タッチスクリーンの画面補正プログラムを実行する必要があります。

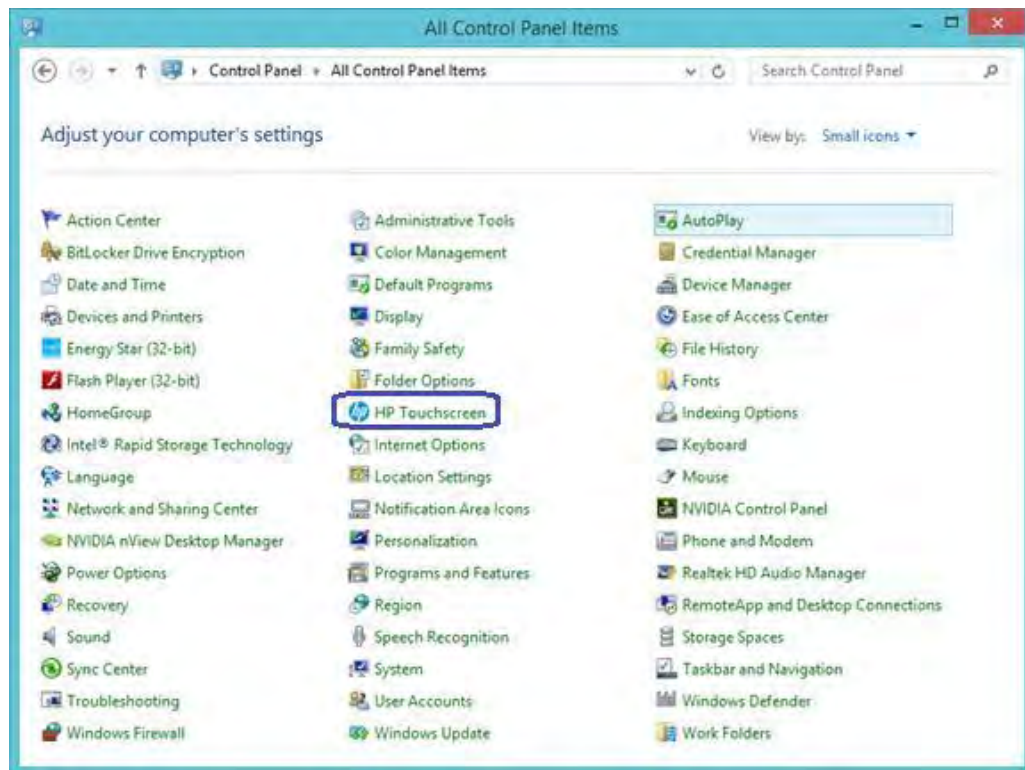
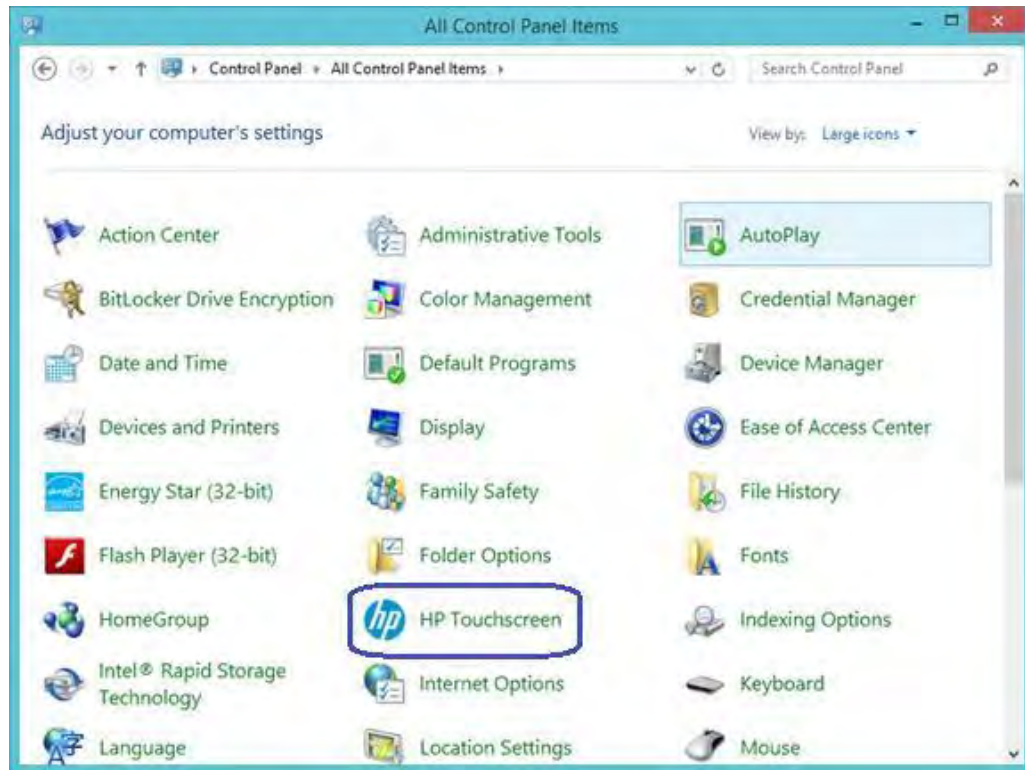
タッチスクリーンの画面補正プログラムを起動する方法はいくつかあります。システムトレイまたは[コントロールパネル]の[Elo]アイコンからプログラムにアクセスできます。

方法1：システムトレイの[Elo]アイコンをクリックし、[Align ...]（補正...）オプションを選択します。

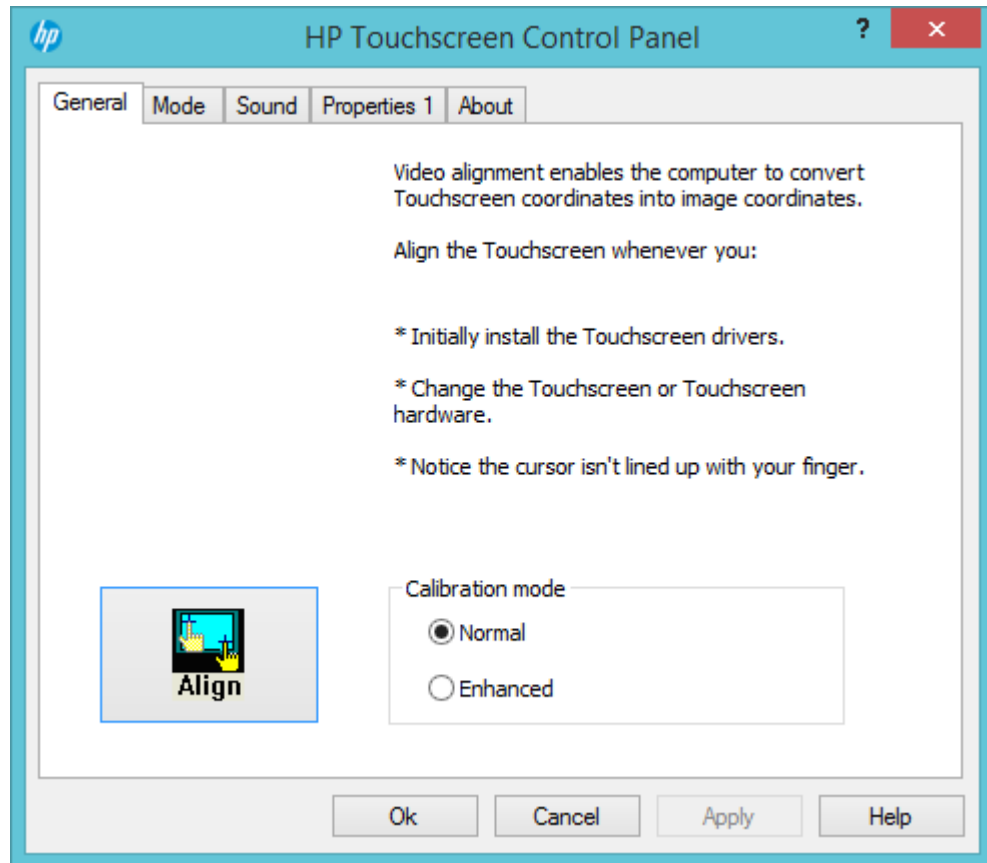


注：ここで紹介するスクリーンキャプチャは一例です。メニューの表示はドライバーのバージョンにより異なる場合があります。

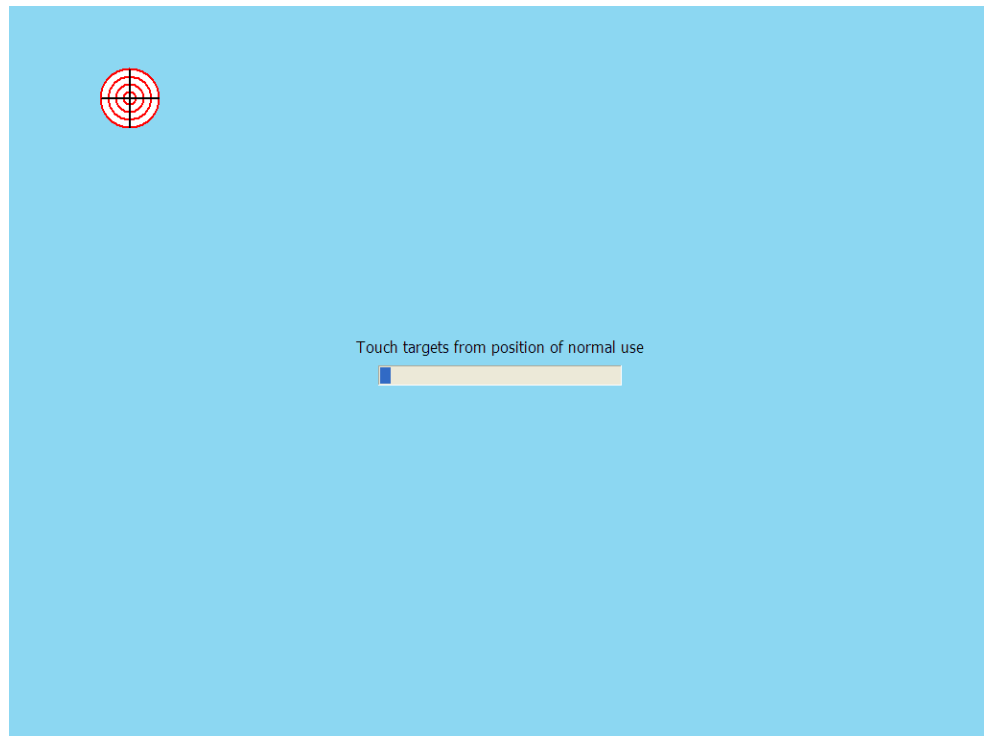
方法2 : [コントロール パネル]をクラシック表示または大きいアイコン/小さいアイコン表示に切り替えて、[HP Touchscreen] (HPタッチ スクリーン) オプションを表示します。



[Align] (補正) オプションを選択し、画面の説明に沿ってタッチ スクリーンを補正します。

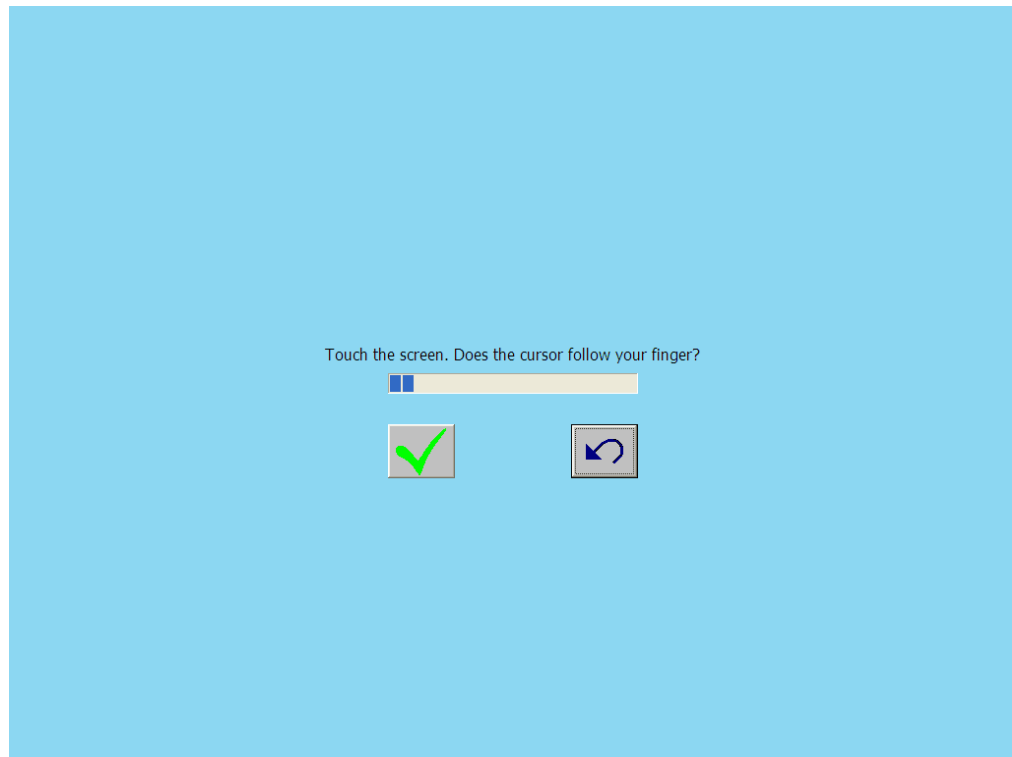


タッチ スクリーンの補正では、タッチする3つのターゲットが以下のように表示されます。





4番目に表示される画面では、実行した補正内容が受け付けられます。



#### 7.1.4 タッチ スクリーン用のOPOSドライバー

タッチ スクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

#### 7.1.5 タッチ スクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウス カーソルが表示されることを確認します。

#### 7.1.6 タッチ スクリーン用のJPOSドライバー

タッチ スクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。

## 7.2 HP L5009tm/HP L5015tm

### 7.2.1 接続

HP L5009tm/HP L5015tmタッチ スクリーン モニターでは、本体背面との間に3つの接続が必要です。1番目の接続は本体背面のVGAコネクタへの接続で、2番目の接続はUSBポートを使用したタッチ スクリーンへの接続で、3番目の接続はモニターへの電源用の接続です。USB接続では、本体背面の空いているUSBポートの1つに接続します。

HP L5009tmモニター下部のモニター接続の図



HP L5015tmモニター下部のモニター接続の図



注： HP L5009tm/HP L5015tmでは、タッチ スクリーン用のシリアル接続はありません。USBのみです。

### 7.2.2 タッチ スクリーン用のWindowsドライバー

HPタッチ スクリーン用のドライバーは、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトまたはHPの工場出荷時のイメージから取得できます。

注： HP L5009tm/HP L5015tmモニターのタッチ スクリーンのUSBケーブルを接続すると、Windowsの[新しいハードウェアの検出ウィザード]が表示される場合があります。画面で[キャンセル]オプションを選択してください。以下に説明する手順の中で、本体にドライバーをインストールします。

タッチ スクリーンのインストールプロセスは、管理者権限で実行する必要があります。

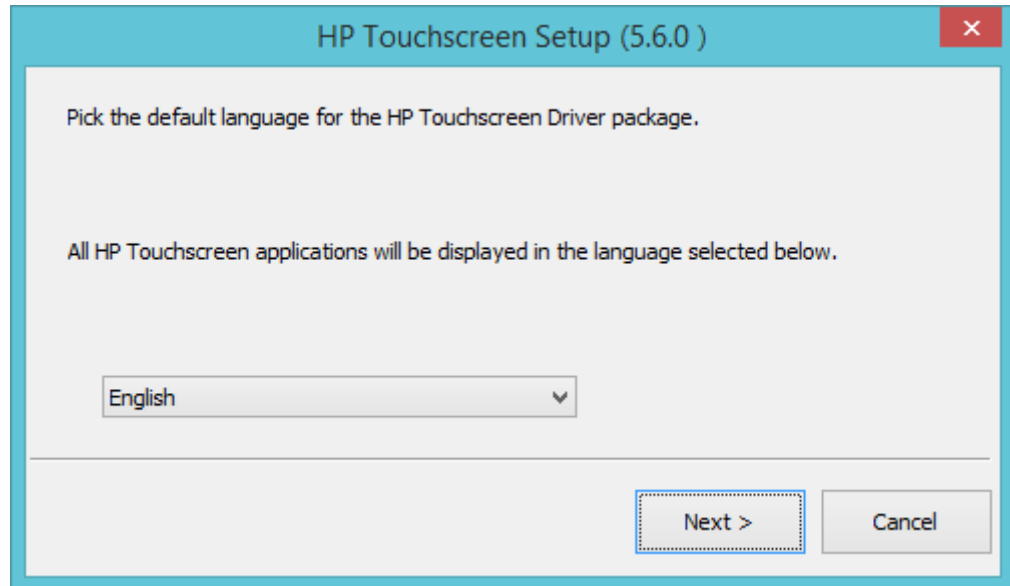
タッチ スクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

1. タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。
2. 言語を選択します。
3. タッチ スクリーンに使用するインターフェイスを選択します。
4. 使用許諾契約に同意します。
5. モニターのタッチ スクリーン部分を本体に接続しているかどうかによって、2つの異なる動作が行われます。



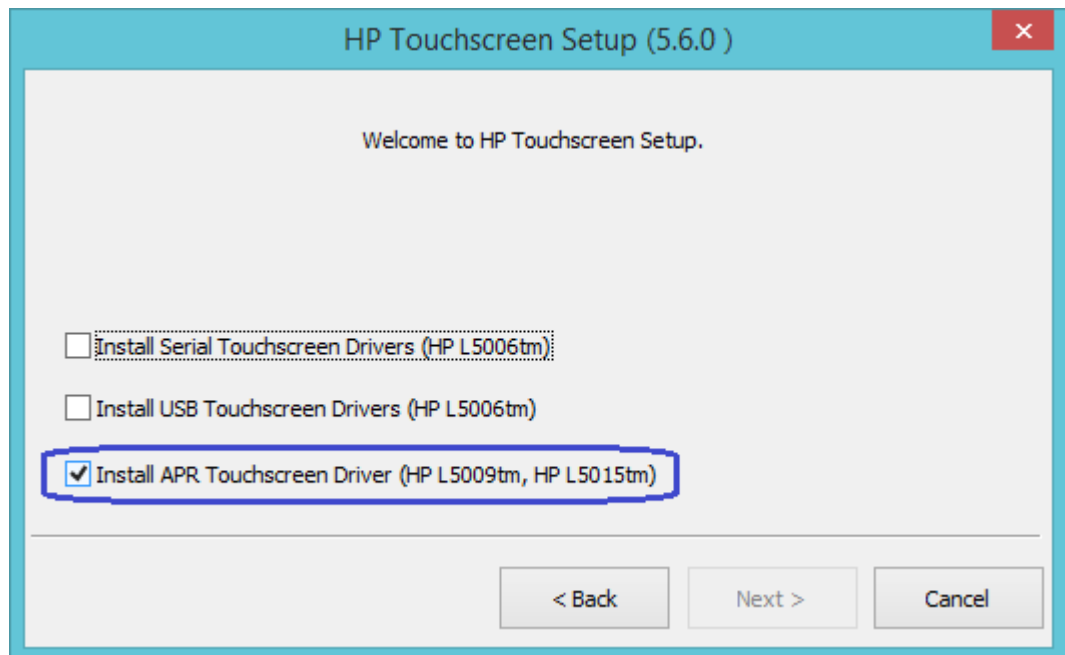
## 詳しい手順

1. タッチスクリーンのインストーラーを起動して言語を選択します。

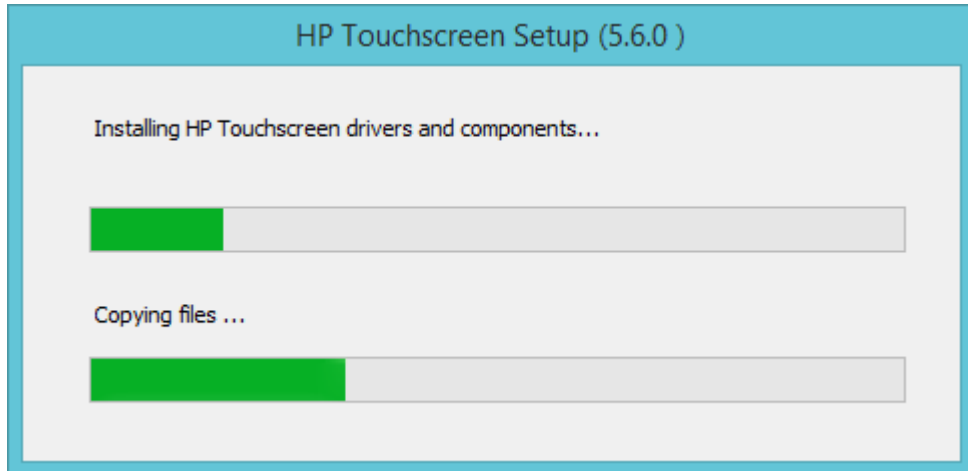


[Default] (初期設定) を選択すると、オペレーティングシステムで使用されている言語が使用されます。

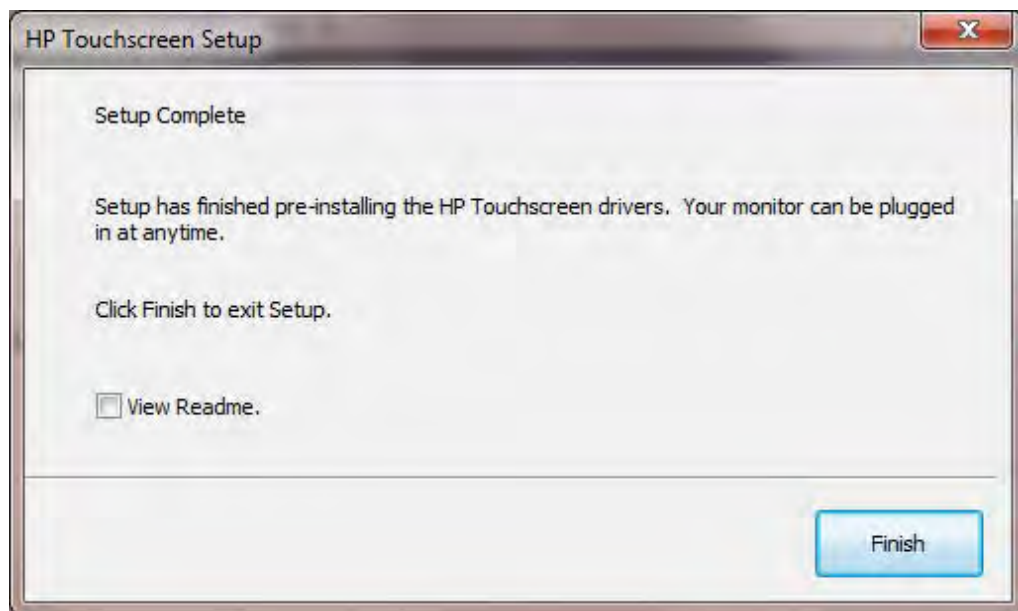
2. [Install APR Touchscreen Driver] (APRタッチスクリーンドライバーのインストール) オプションを選択して[Next] (次へ) ボタンをクリックします。



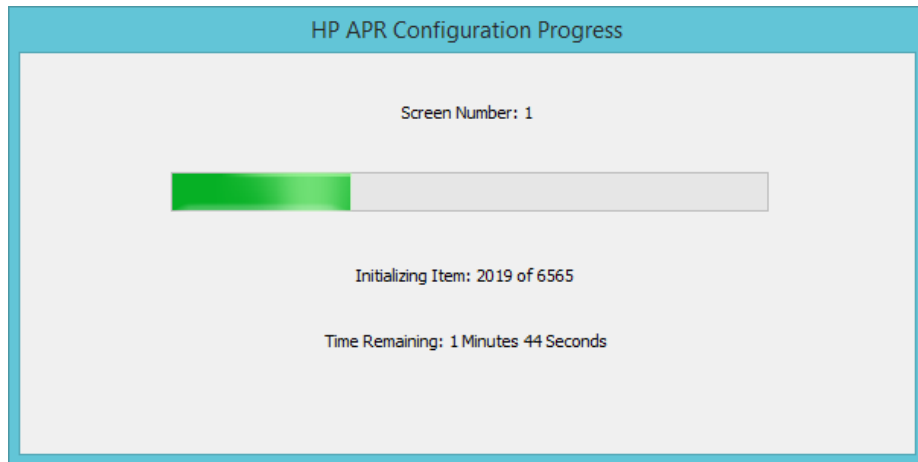
注： [Serial Touchscreen Drivers] (シリアルタッチスクリーンドライバー) オプションは、HP L5009tm/HP L5015tmの場合は表示されません。



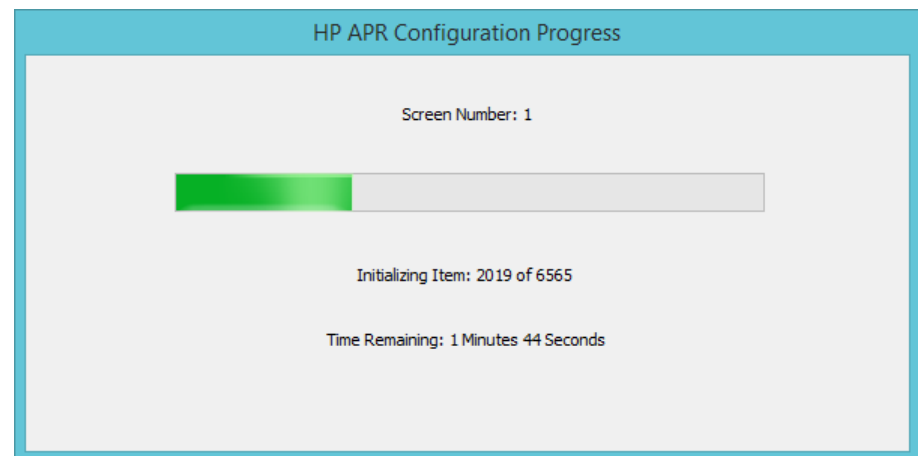
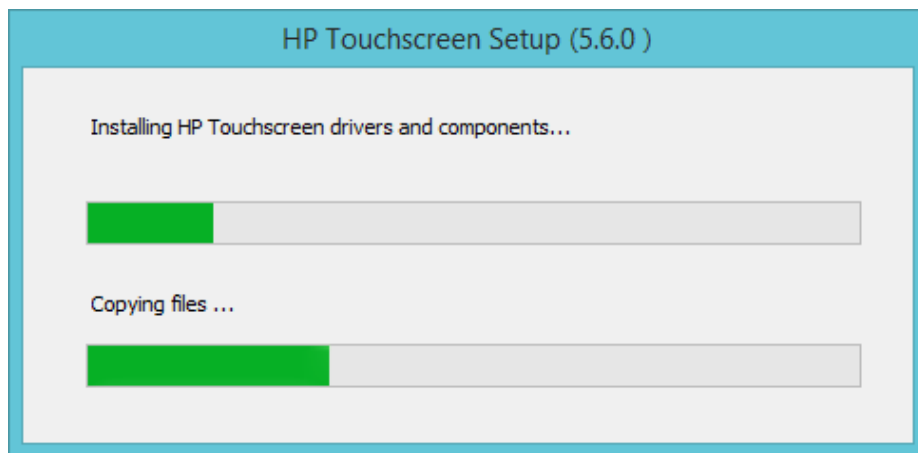
3. タッチ スクリーンのUSBケーブルを本体に接続しているかどうかによって、以下の動作のどれかが行われます。
  - a. HP L5009tm/HP L5015HPモニターのタッチ スクリーンのUSBケーブルを本体に**接続していない**場合は、ドライバーのインストール後に以下に示すようなインストール処理完了のメッセージが表示され、Readmeファイルを確認できます。



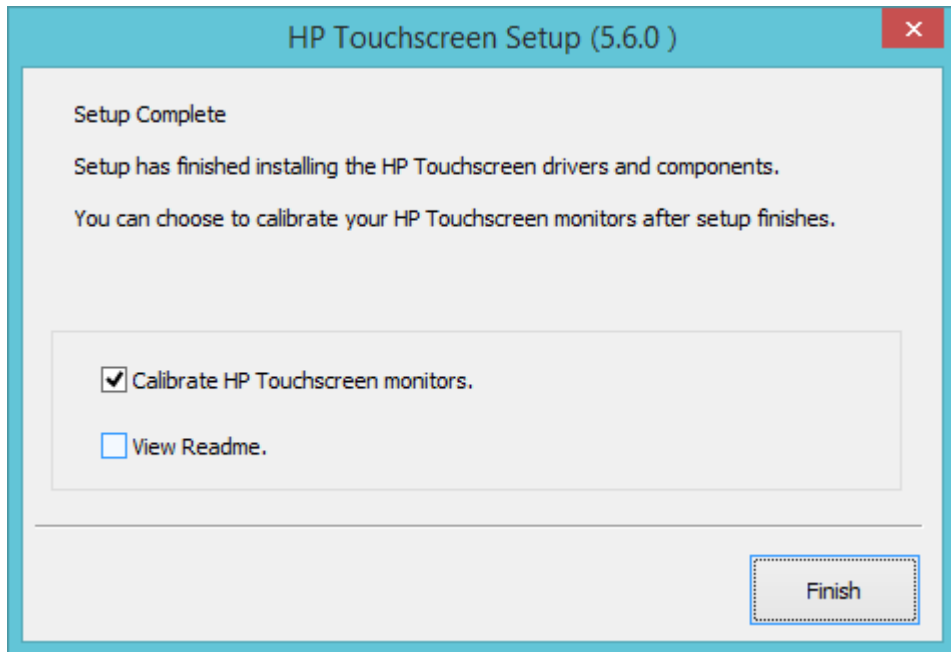
HP L5009tm/HP L5015tmモニターのタッチ スクリーンを接続すると、APR設定処理が開始され、ファイルがハードディスクドライブにコピーされます（この処理には数分かかります）。



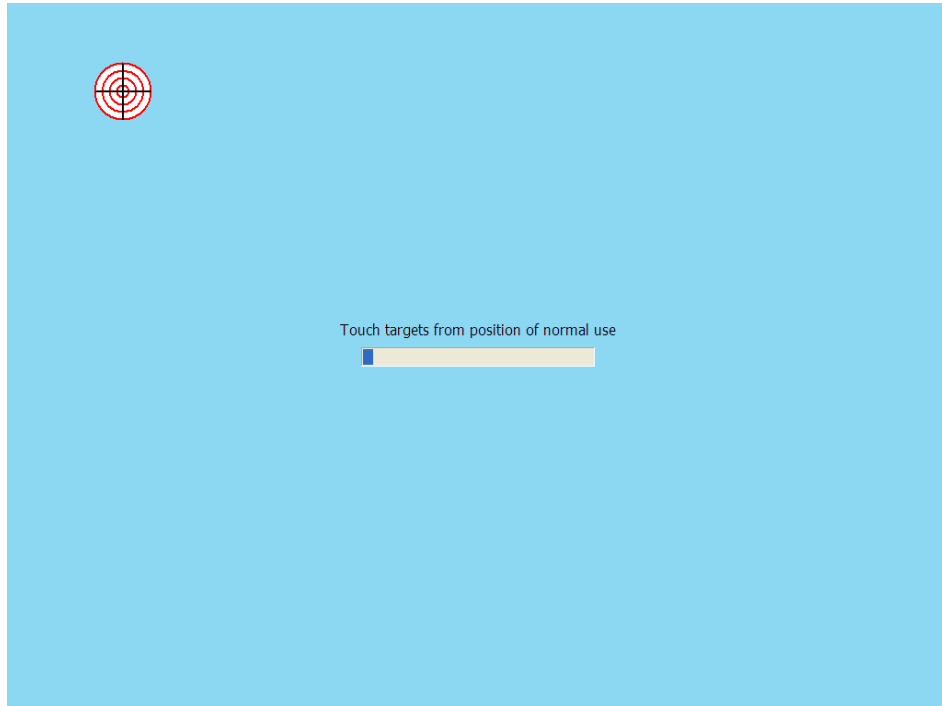
- b. HP L5009tm/HP L5015tmモニターのタッチ スクリーン（USBケーブル）を本体に接続している場合は、使用許諾契約に同意すると、ドライバーのインストール処理が開始され、以下のような画面が表示されます。



[Calibrate HP Touchscreen monitors] (HPタッチ スクリーン モニターを調整する) オプションを選択して[Finish] (終了) ボタンをクリックします。

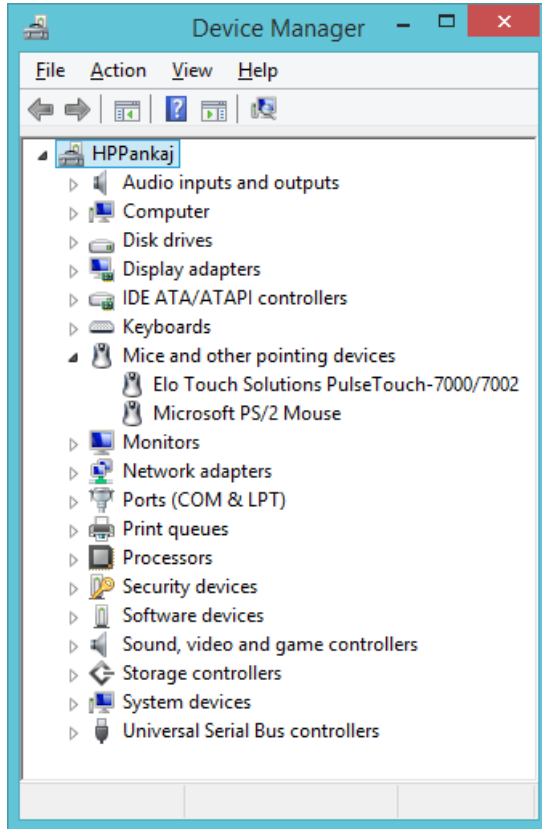


HP L5009tm/HP L5015tmの調整オプションでは、1つのポイントを使用して調整を行います。この調整中には、以下のような画面が表示されます。

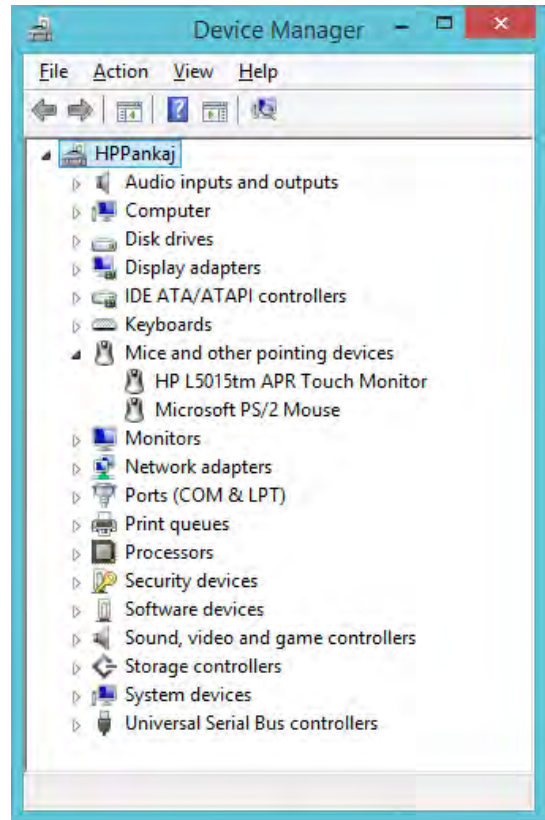


以下の図に、HP L5009tmおよびHP L5015tmのドライバーがインストールされ、USBケーブルでタッチスクリーンを本体に接続したときのWindowsの[デバイス マネージャー]の画面を示します。タッチスクリーン用のデバイスドライバーがWindowsに読み込まれた後、[デバイス マネージャー]の[ヒューマン インターフェイス デバイス]および[マウスとそのほかのポインティングデバイス]セクションに、エントリが図のように追加されます。

HP 5009tmを本体に接続した状態



HP 5015tmを本体に接続した状態



タッチスクリーン用のデバイスドライバーがWindowsに読み込まれた後、システムトレイにHPのアイコンが表示されるようになります。

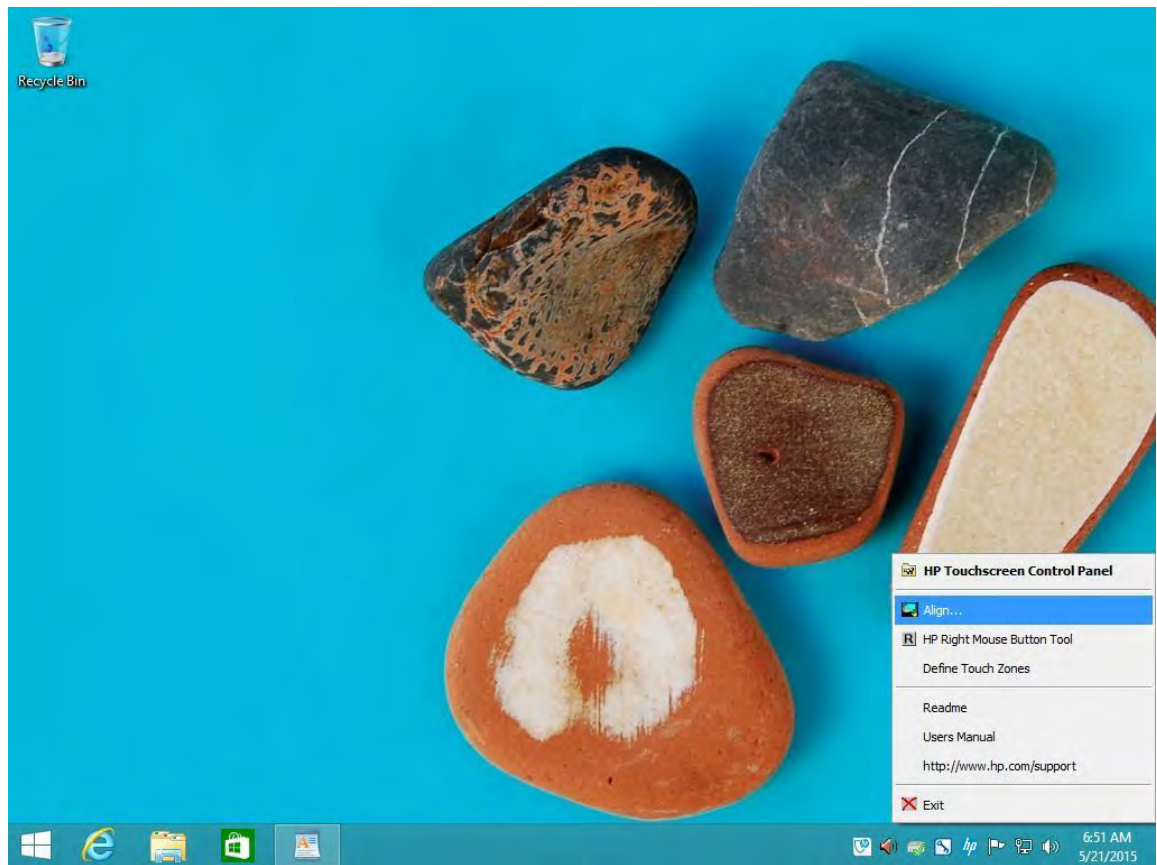


### 7.2.3 タッチスクリーンの補正

タッチスクリーンをはじめて使用するときは、タッチスクリーンの画面補正プログラムを実行する必要があります。

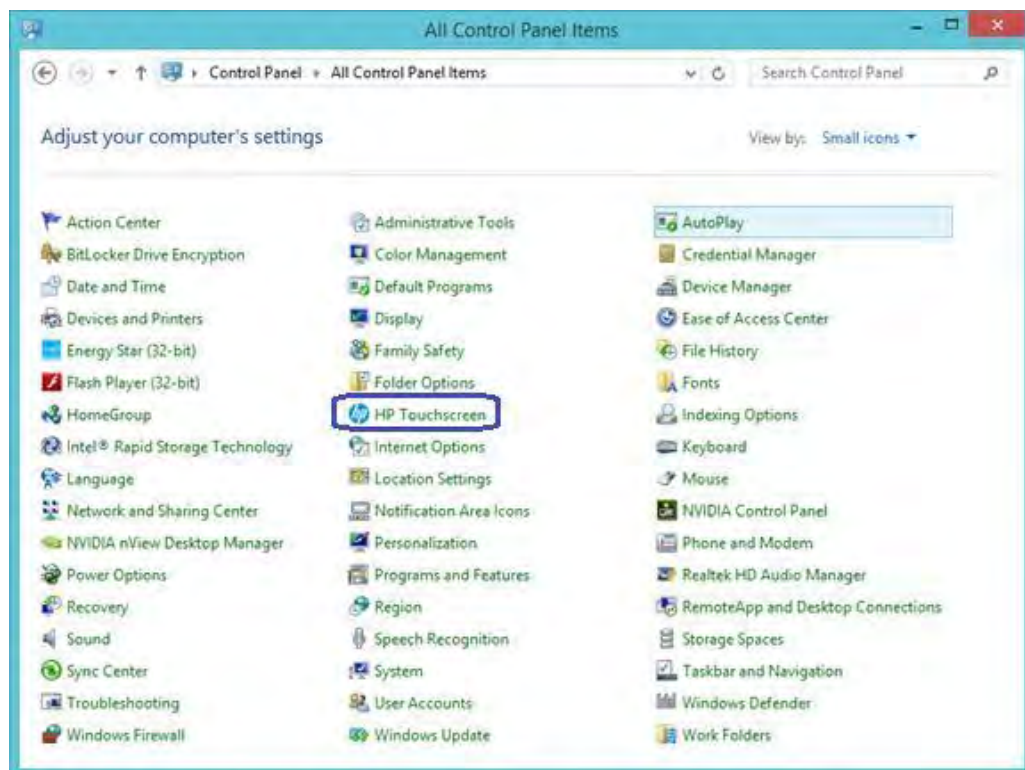
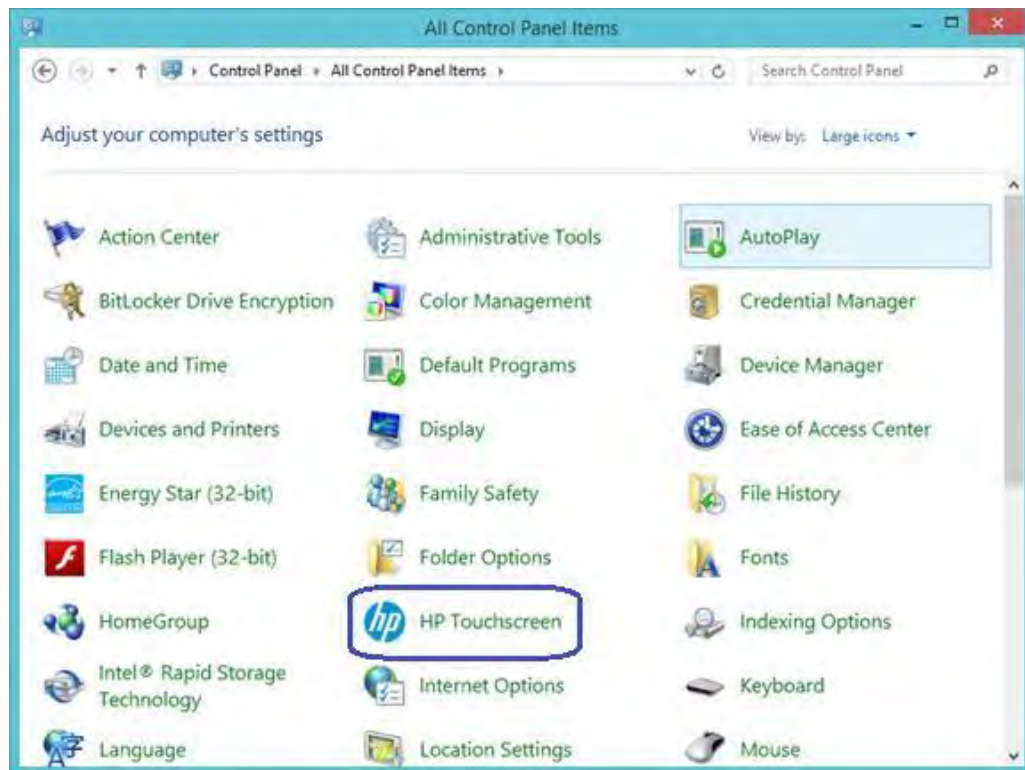
タッチスクリーンの画面補正プログラムを起動する方法はいくつかあります。システムトレイまたは[コントロールパネル]のHPのアイコンからプログラムにアクセスできます。

方法1：システムトレイのHPのアイコンをクリックし、[Align ...]（補正...）オプションを選択します。



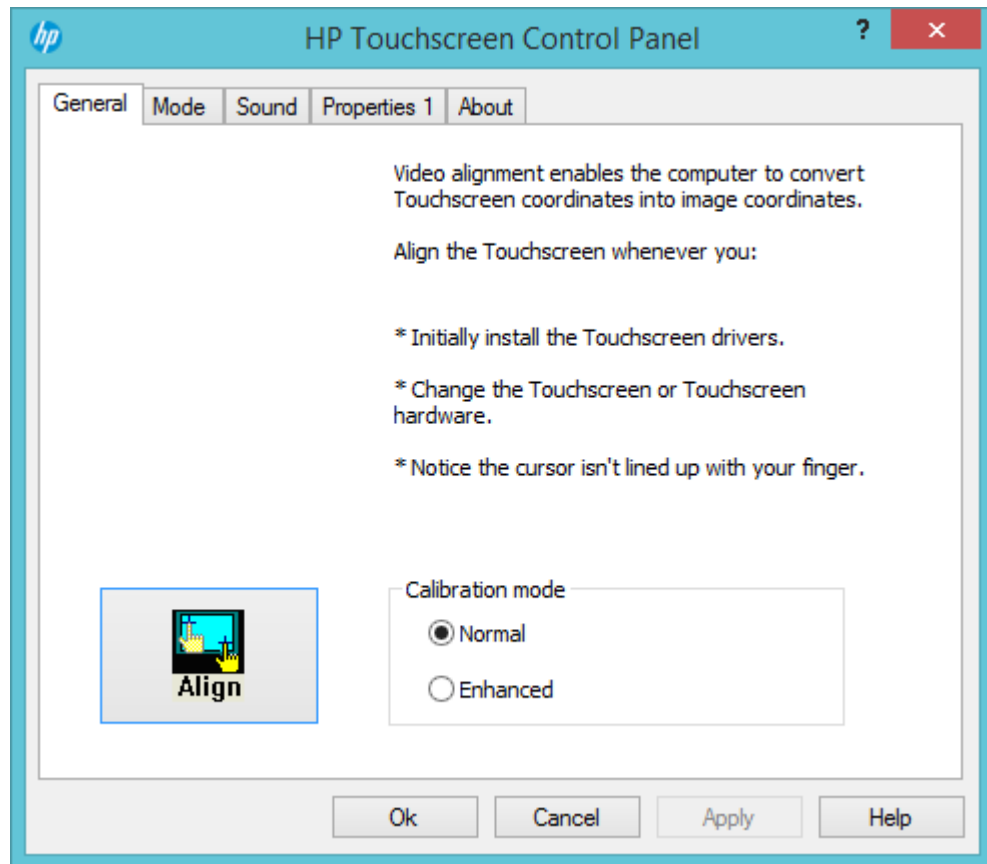
注：ここで紹介するスクリーンキャプチャは一例です。メニューの表示はドライバーのバージョンにより異なる場合があります。

方法2：[コントロール パネル]をクラシック表示または大きいアイコン/小さいアイコン表示に切り替えて、[HP Touchscreen]（HPタッチ スクリーン）オプションを表示します。

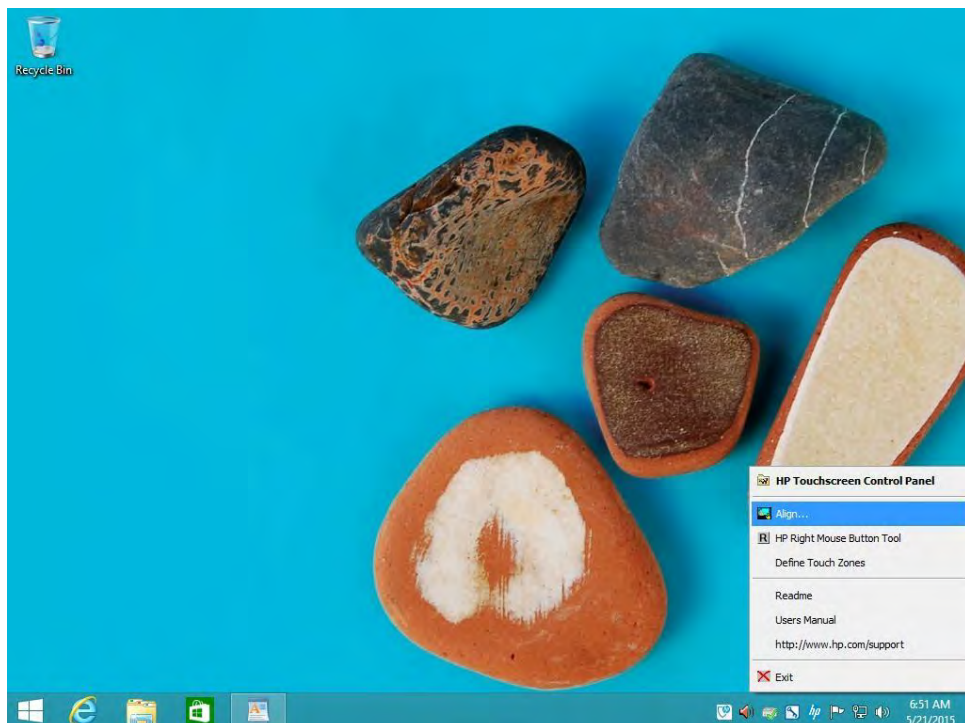




[Align] (補正) オプションを選択し、画面の説明に沿ってタッチ スクリーンを補正します。

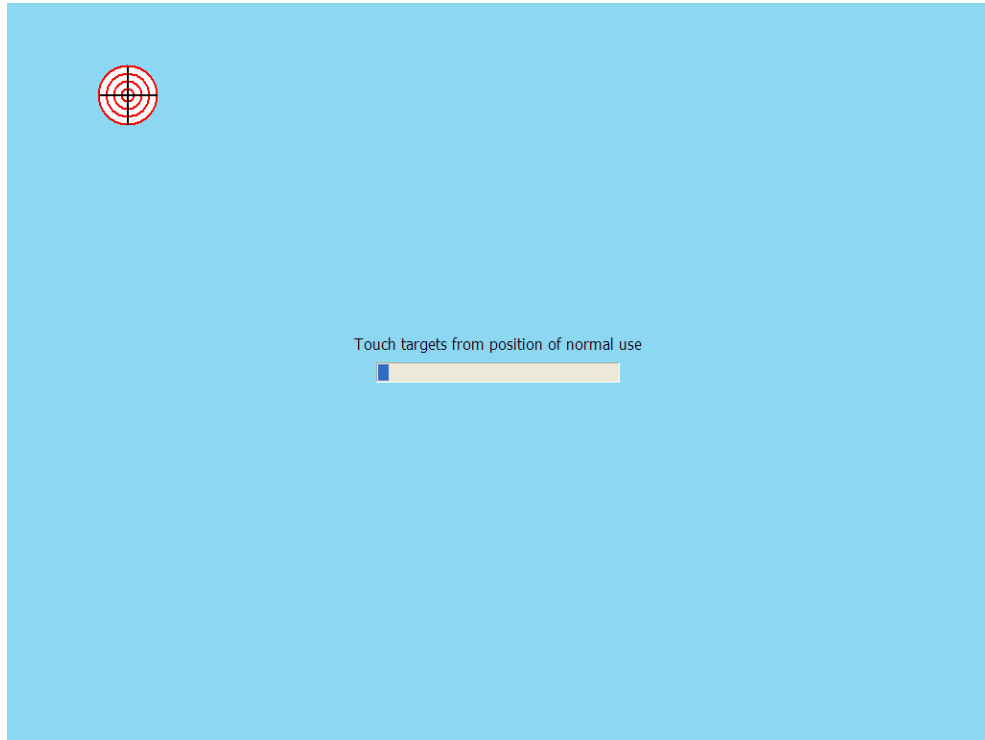


または





タッチスクリーンの補正では、タッチする1つのターゲットが以下のように表示されます。



#### 7.2.4 タッチスクリーン用のOPOSドライバー

タッチスクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

#### 7.2.5 タッチスクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウスカーソルが表示されることを確認します。

#### 7.2.6 タッチスクリーン用のJPOSドライバー

タッチスクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。

## 7.3 HP ap5000タッチ スクリーン



### 7.3.1 接続

HP ap5000 Systemに搭載されたタッチ スクリーンは、PS/2インターフェイスを通じてシステム内部で接続されます。このデバイスについてユーザーが接続を行う必要はありません。

### 7.3.2 タッチ スクリーン用のWindowsドライバー

HP ap5000タッチ スクリーンドライバーはHPの工場出荷時のイメージ (C:\xxxxx\ap5000 Touch Drivers) にすでに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

**注：** Microsoft Windows Vistaでは、タッチ スクリーンのインストール プロセスは、管理者権限で実行する必要があります。

タッチ スクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

1. このセクションの最初に説明した場所からタッチ スクリーンのインストーラーを起動します。

**注：** ap5000本体にMicrosoft Windowsイメージがインストールされている場合は、ap5000のタッチ スクリーン用のドライバーがイメージにプリインストールされています。

2. 画面に表示されるメッセージに沿って操作します。
3. ドライバーがインストールされたら、タッチ スクリーン モニターを調整するオプションを選択し、画面の説明に沿って操作します。

#### インストールの詳しい手順

1. このセクションの最初に説明した場所からタッチ スクリーンのインストーラーを起動します。

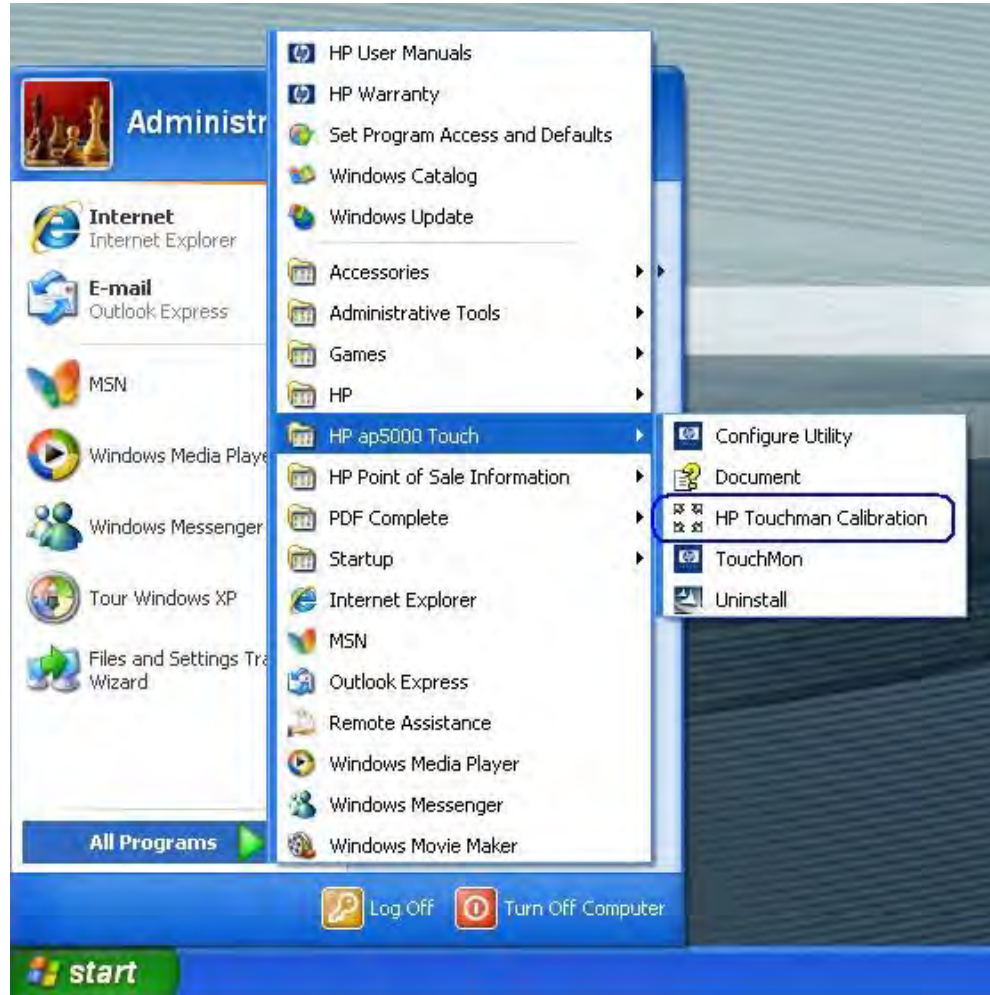
**注：** ap5000本体にMicrosoft Windowsイメージがインストールされている場合は、ap5000のタッチ スクリーン用のドライバーがイメージにプリインストールされています。

ドライバーをインストールするには、管理者権限を持っている必要があります。

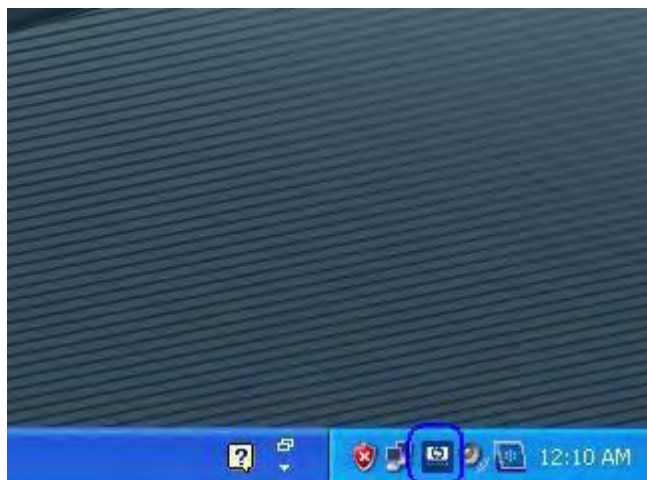
2. 画面に表示されるメッセージに沿って操作します。

3. ドライバーがインストールされたら、スタート メニューまたはシステム トレイから調整オプションを開いて、タッチ スクリーン モニターを調整するオプションを選択し、画面の説明に沿って操作します。

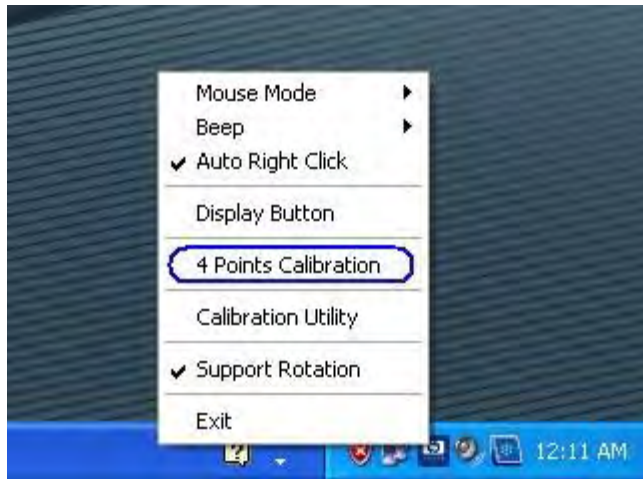
スタート メニューの調整オプション



システムトレイ メニューの調整オプション



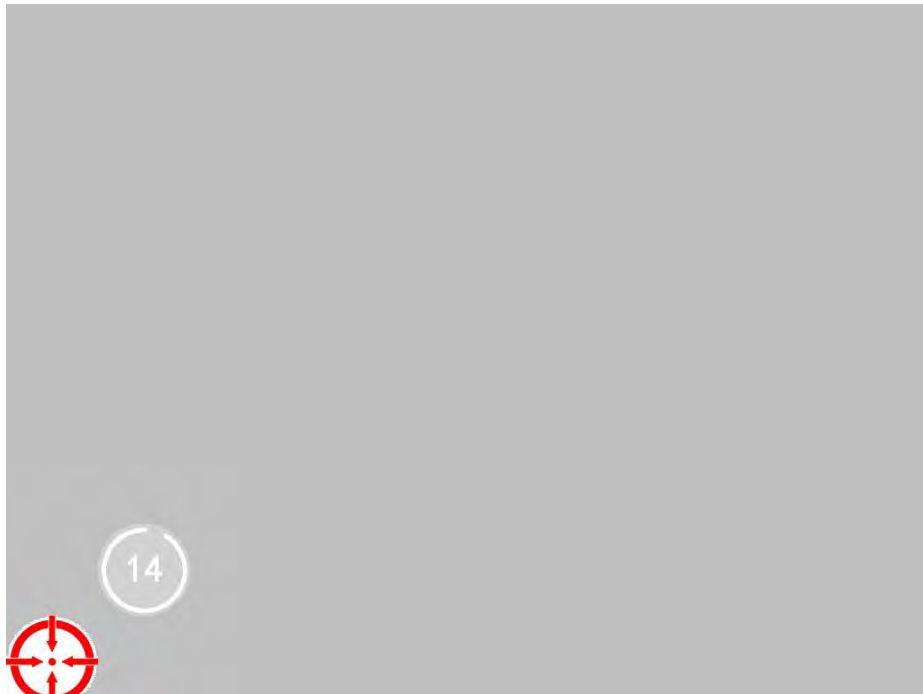
タッチスクリーンオプションを右クリックし、  
[4 Points Calibration] (4ポイント調整) を選択します



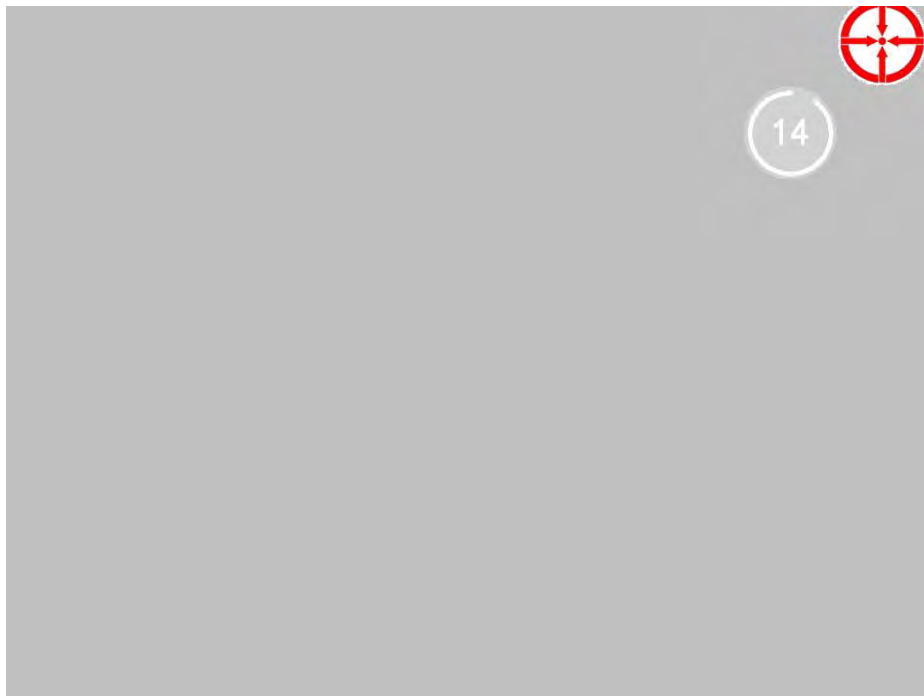
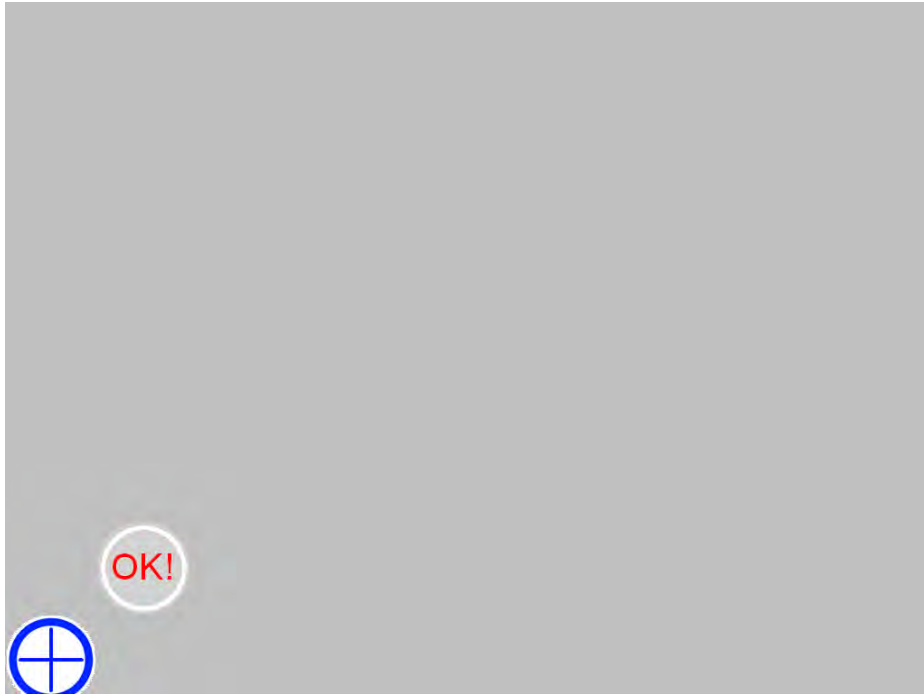
HP ap5000の調整オプションでは、4つのボタンを使用して調整を行います。この調整では、画面の四隅に1つずつボタンが表示されます。

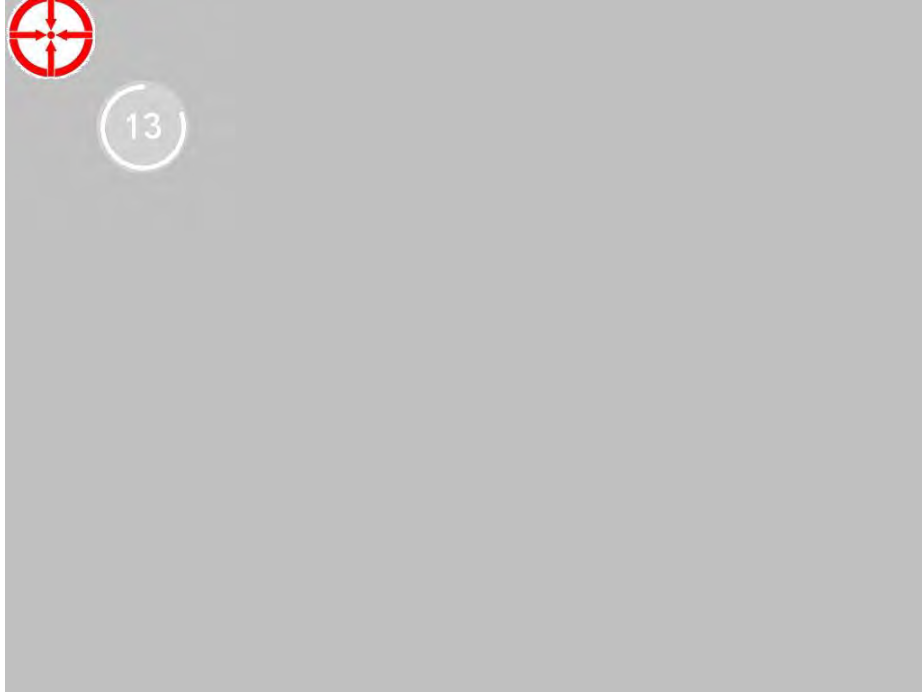
**注：** ディスプレイに赤い円が表示されたら、「OK!」と表示されるまで、赤い円を押し続けます。

調整プロセス中は、以下の画面が表示されます。

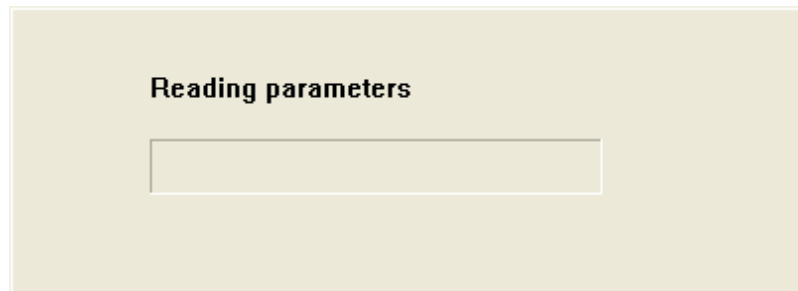


調整ポイントが正しく受け付けられると、「OK!」と表示されます。

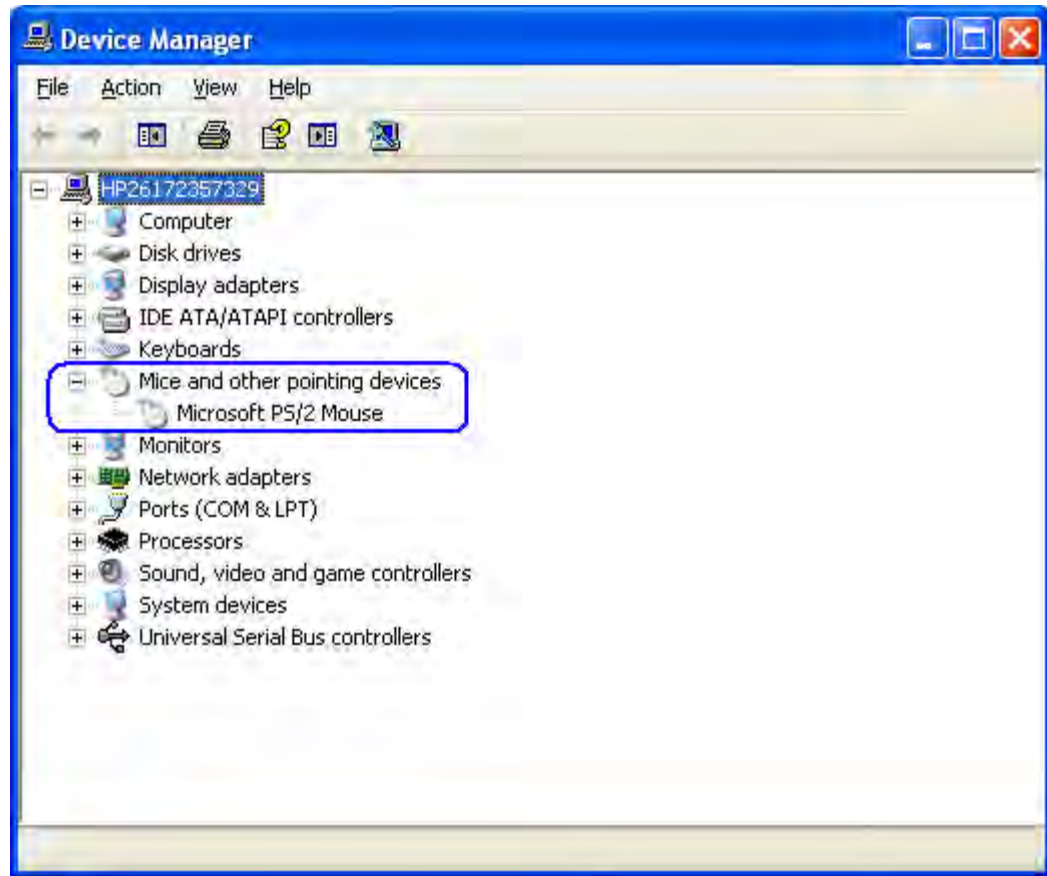




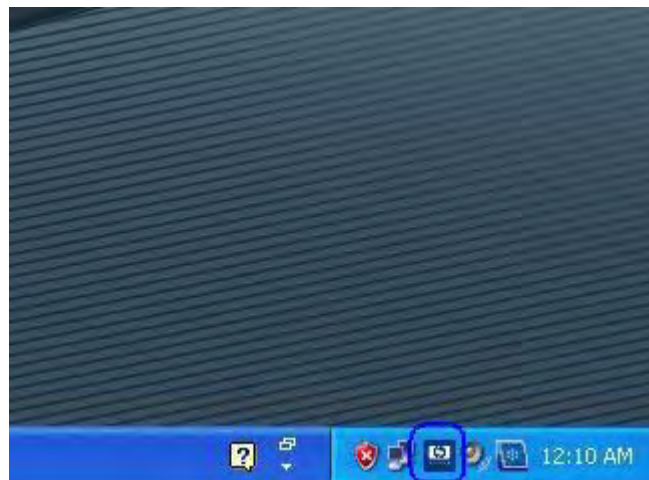
4つすべてのポイントが正しく調整されると、調整パラメーターの読み取りおよび書き込みの画面がいくつか表示されます。以下の画面は表示される読み取りの画面の画面キャプチャです。



以下の図に、HP ap5000ドライバーがインストールされた後のWindowsの[デバイス マネージャー]の画面を示します。



タッチ スクリーン用のデバイス ドライバーがWindowsに読み込まれた後、システム トレイにHPのアイコンが表示されるようになります。



### 7.3.3 ap5000タッチ スクリーン用のOPOSドライバー

タッチ スクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

### 7.3.4 タッチ スクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウス カーソルが表示されることを確認します。

### 7.3.5 ap5000タッチ スクリーン用のJPOSドライバー

タッチ スクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。



## 7.4 HP RP7 15インチ抵抗膜式AFD (Associate Facing Display)



MSR/指紋オプションを搭載し、画面を低い位置にした状態のものです。

### 7.4.1 接続

15インチの抵抗膜式AFD (Associate Facing Display) はベース ユニットの一部分であることから、ユーザーが外部ケーブルの接続を行う必要はありません。

### 7.4.2 タッチ スクリーン用のWindowsドライバー

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティングシステムの場合、タッチ スクリーンはオペレーティングシステムによって自動的に認識されます。

Microsoft POSReady 2009オペレーティング システムについては、HPタッチ スクリーンのドライバーはHPの工場出荷時のイメージにすでにインストールされており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

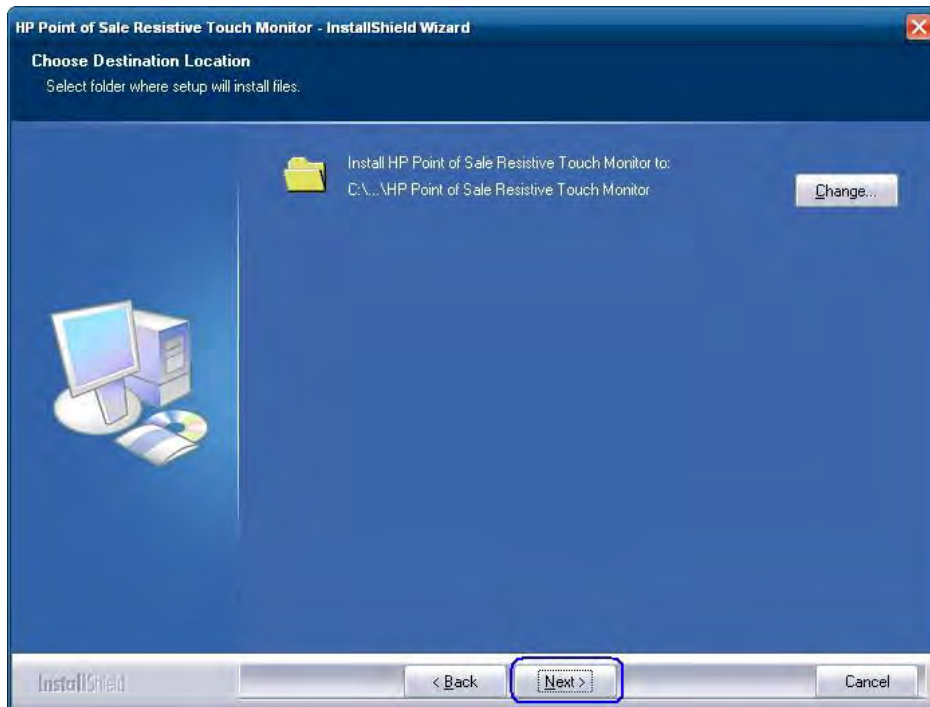
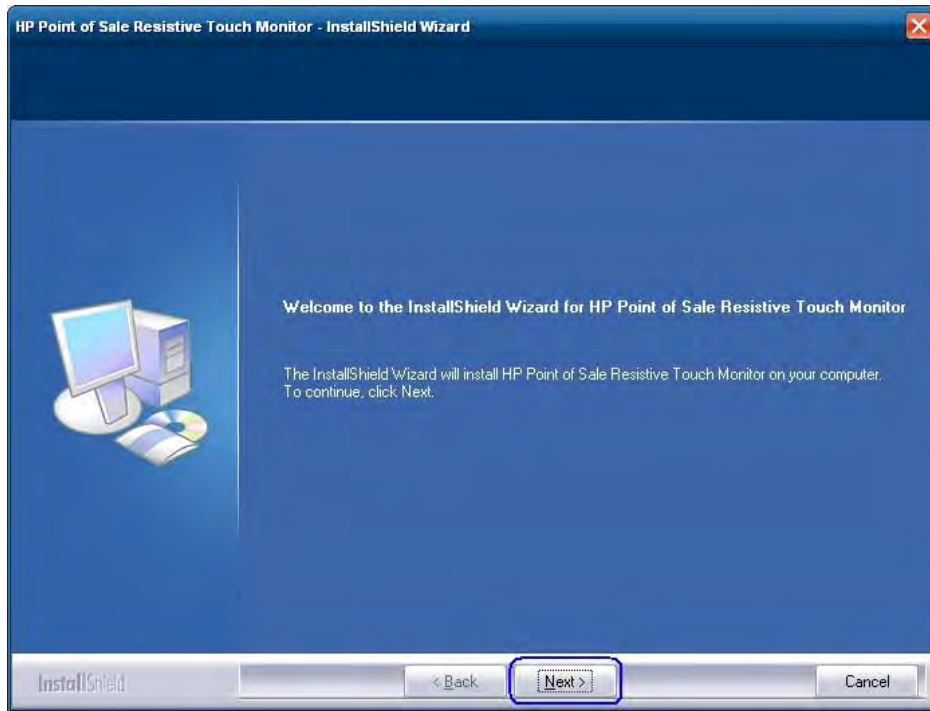
ドライバーの取得後、タッチ スクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

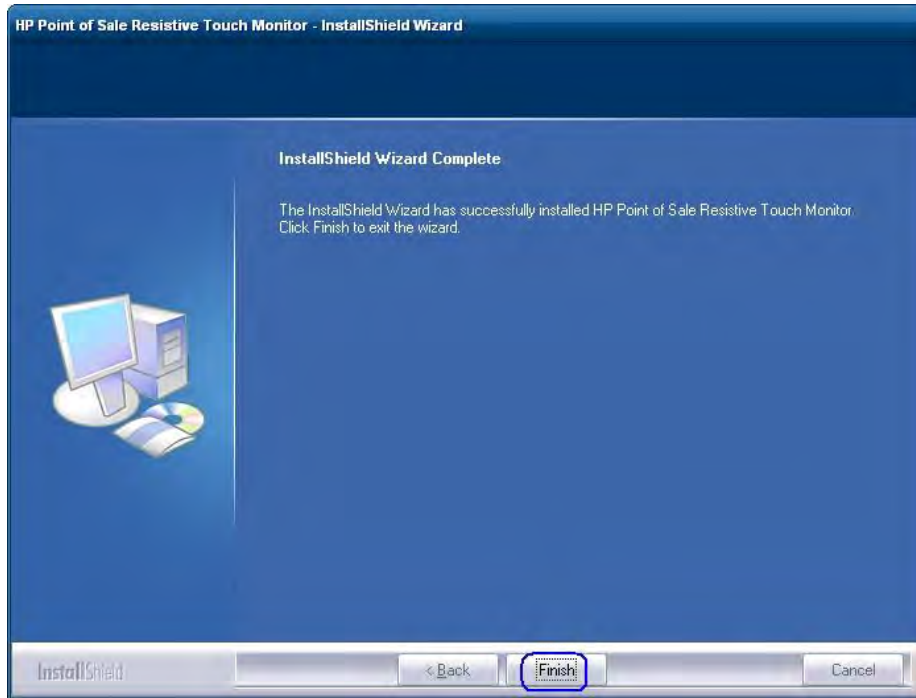
1. SETUP.EXEファイルをクリックして、タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。  
注： HP RP7 15インチの抵抗膜式モデルの場合、タッチ ドライバーは工場出荷時にインストールされます。
2. ドライバーをインストールするためのインストール処理が完了するまで、表示される初期設定のメッセージを受け入れます。
3. インストールが完了したら、[はい]を選択してオペレーティング システムを再起動し質問を再開するか、他の項目のインストールが完了した時点で手動で再開します。
4. 調整ユーティリティを実行します。

#### 詳しい手順

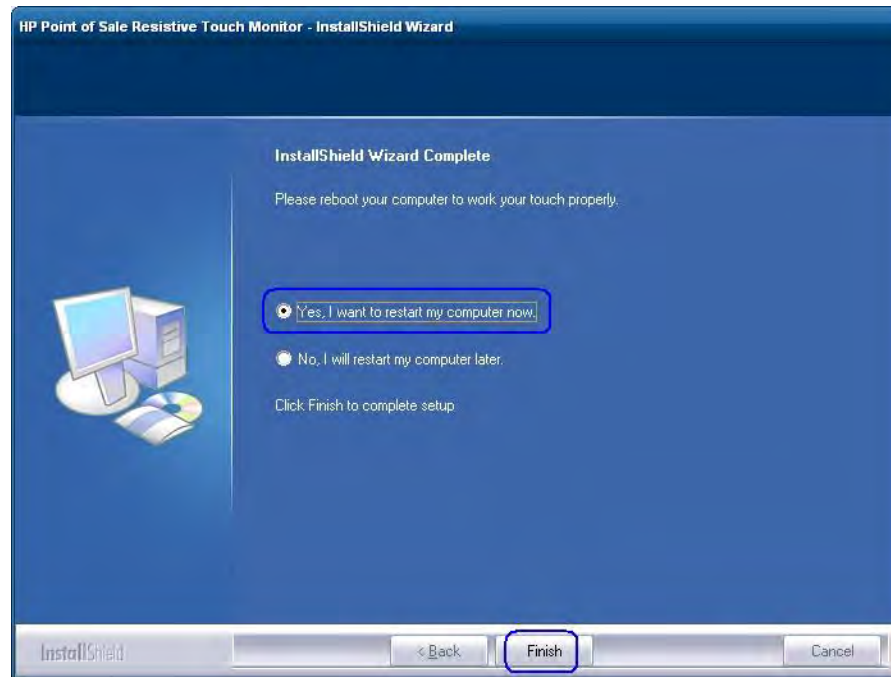
1. 「HP Resistive TouchScreen Driver.exe」 ファイルをクリックして、タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。  
注： HP RP7 15インチの抵抗膜式モデルの場合、タッチ ドライバーは工場出荷時にインストールされます。

2. ドライバーをインストールするためのインストール処理が完了するまで、表示される初期設定のメッセージを受け入れます。インストールプロセス中に表示される画面を以下にいくつか示します。





3. インストールが完了したら、[はい]を選択してオペレーティング システムを再起動し質問を再開するか、他の項目のインストールが完了した時点で手動で再開します。



4. 「タッチ スクリーンの調整」セクションに記載されているとおりに、調整ユーティリティを起動します。

### 7.4.3 タッチスクリーンの調整

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティングシステムの場合は、以下の操作を行います。

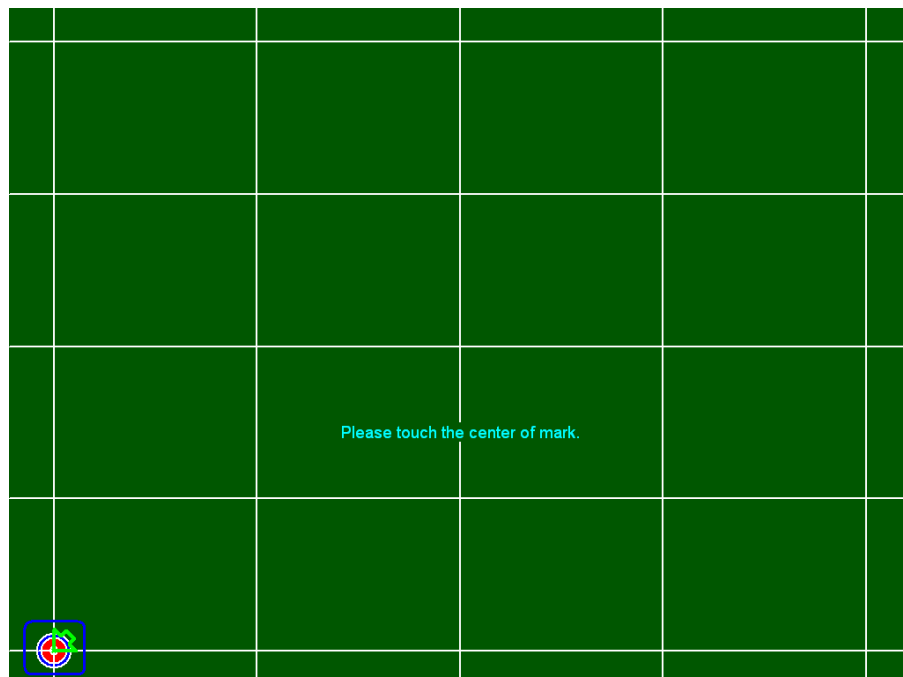
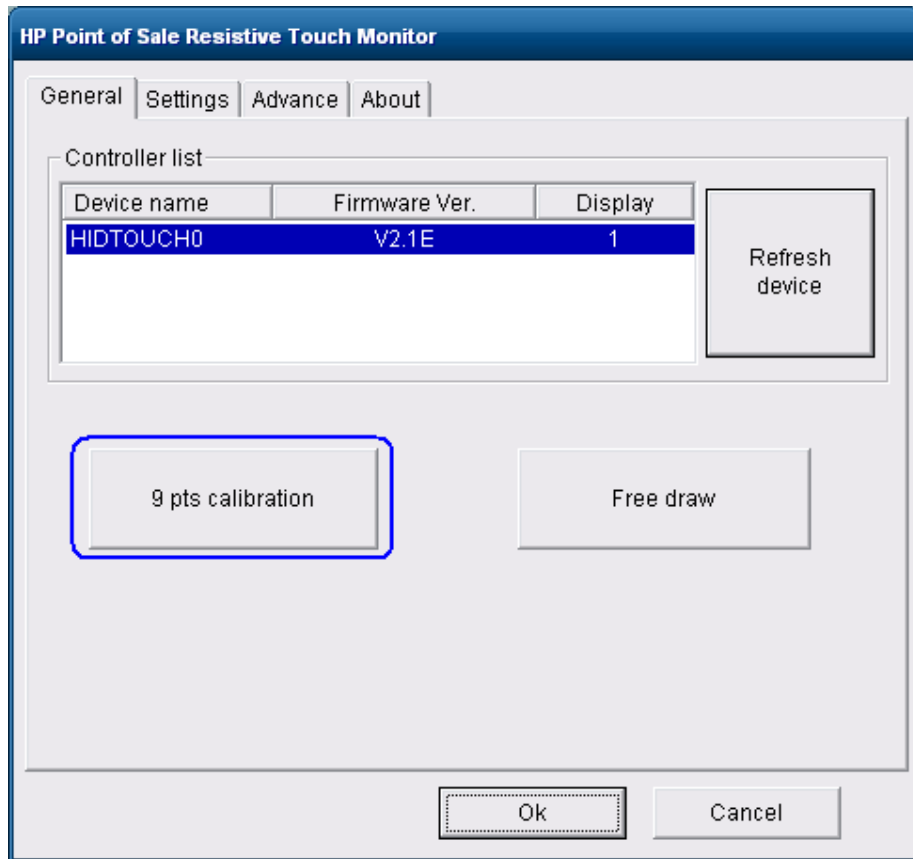
1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [コントロールパネル]をクリックします。
3. 検索ボックスに、「タブレットPC設定」と入力し（かぎ括弧を付けない）、結果の一覧から[タブレットPC設定]を選択します。
4. [画面]タブで、[ディスプレイ オプション]の下にある[調整]を選択します。  
**注：** 画面をはじめて調整する場合は、16個の基準点が使用されます。調整オプションを再度選択した場合、使用される基準点は4つのみとなります。再度16点調整を実行するには、[Tablet PC Properties] (タブレットPCのプロパティ) ウィンドウで[Reset] (リセット) ボタンを押します。
5. 画面の指示に従い、[はい]をクリックして調整の設定を保存します。

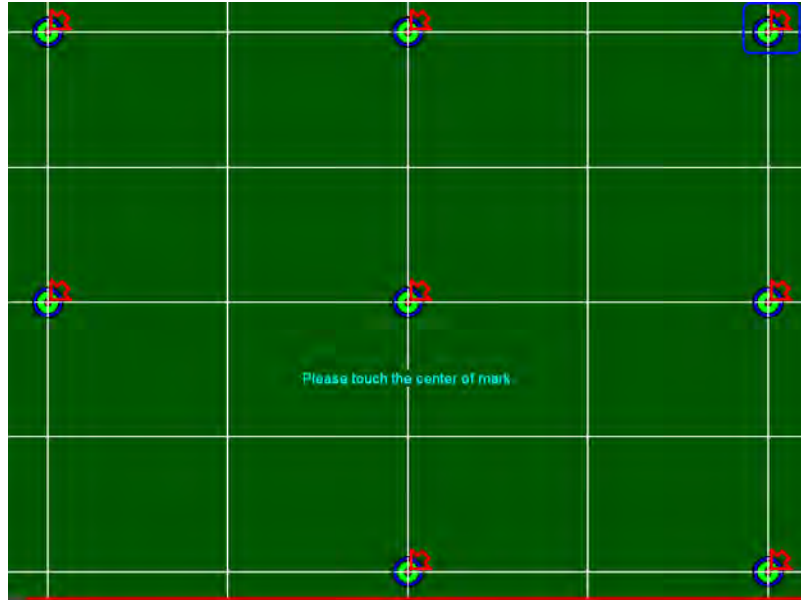
POSReady 2009オペレーティングシステムの場合は、以下の操作を行います。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [HP Point of Sale Resistive Touch Monitor] (HP POS抵抗膜式タッチ モニター) フォルダを開きます。
3. [Touch Tool] (タッチ ツール) アイコンを選択します。



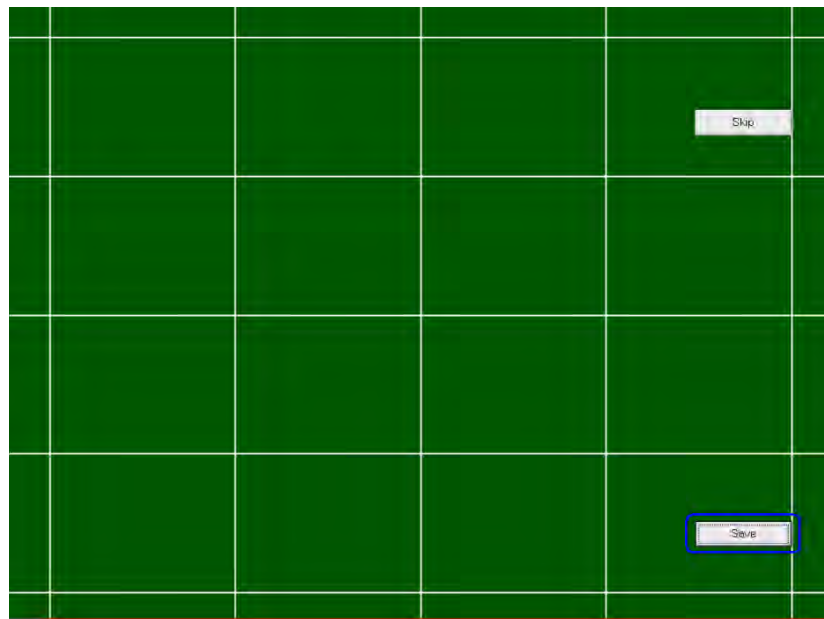
4. 9ポイント調整のオプションを選択したら、画面に表示されるメッセージに従いタッチ モニターを調整します。次のターゲットが表示されるまで、表示されるターゲット ボタンを押します。以下のスクリーン ショットは、処理中に表示される調整画面を示します（「x」は、調整処理中に表示される別の8つのタッチ ポイントを表します）。





注： ターゲットは1度に1つずつ表示されます。上記のスクリーン ショットは、9ポイントの調整ターゲットが表示される場所を表します。

5. 調整の設定を保存します。



#### 7.4.4 タッチ スクリーン用のOPOSドライバー

タッチ スクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

#### 7.4.5 タッチ スクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウス カーソルが表示されることを確認します。

#### 7.4.6 タッチ スクリーン用のJPOSドライバー

タッチ スクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。

## 7.5 HP RP7 15/17インチ静電容量式AFD (Associate Facing Display)



MSRオプションを搭載し、画面を低い位置にした状態のものです。

### 7.5.1 接続

15/17インチの静電容量式 (PCap) AFD (Associate Facing Display) はベース ユニットの一部分であることから、ユーザーが外部ケーブルの接続を行う必要はありません。

### 7.5.2 タッチ スクリーン用のWindowsドライバー

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティング システムの場合、タッチ スクリーンはオペレーティング システムによって自動的に認識されます。

Microsoft POSReady 2009オペレーティング システムについては、HPタッチ スクリーンのドライバーはHPの工場出荷時のイメージにすでにインストールされており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

ドライバーの取得後、タッチ スクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

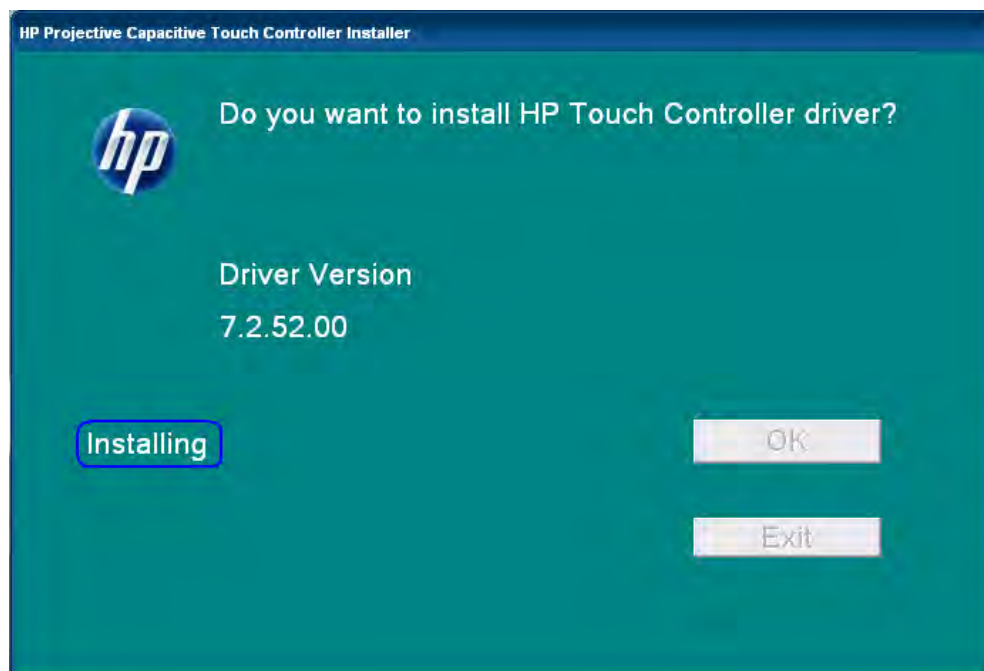
1. SETUP.EXEファイルをクリックして、タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。  
注： HP RP7 15/17インチの静電容量式モデルの場合、タッチ ドライバーは工場出荷時にインストールされます。
2. [OK]をクリックして、インストールプロセスを開始します。
3. インストールが完了したら、[Yes] (はい) を選択してオペレーティング システムを再起動し質問を再開します。[No] (いいえ) を選択した場合、ドライバーが正常にインストールされたことを示す画面が表示されます。他の項目のインストールが完了したら、手動で再起動します。

#### Windows XP/POSReady 2009のインストールの詳しい手順

1. SETUP.EXEファイルをクリックして、タッチ スクリーンのインストーラーを起動します。  
注： HP RP7 15/17インチの静電容量式モデルの場合、タッチ ドライバーは工場出荷時にインストールされます。

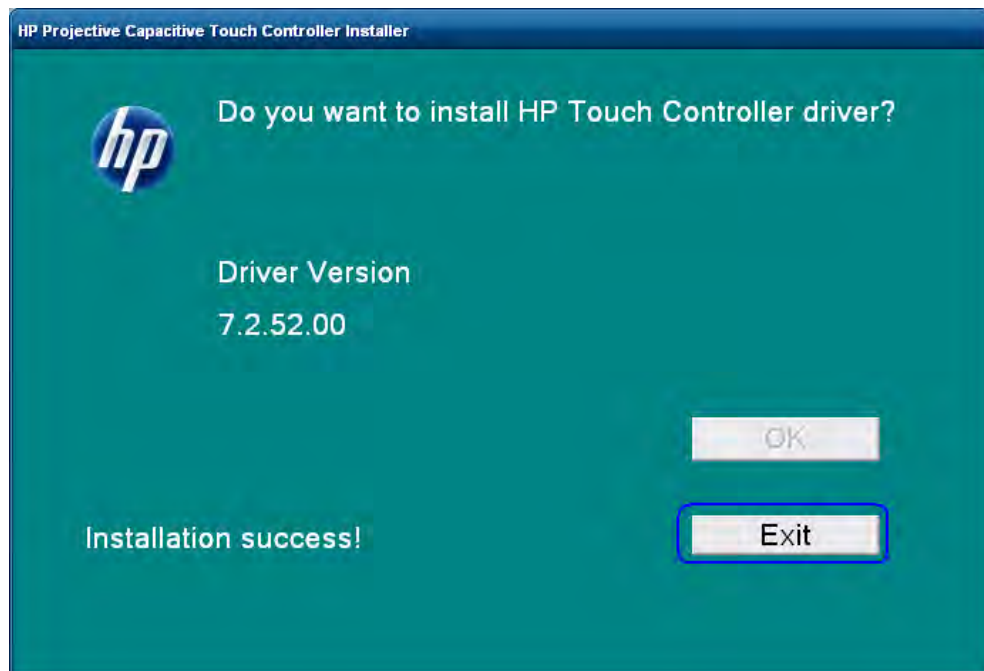
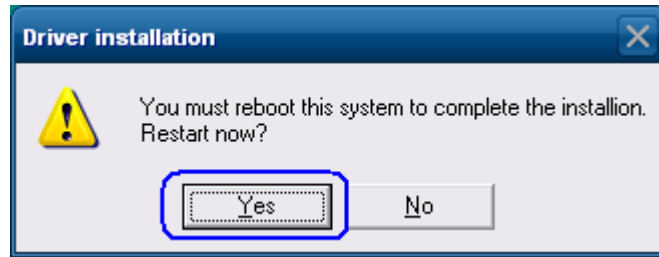


2. [OK]をクリックして、インストールプロセスを開始します。





3. インストールが完了したら、[Yes]を選択してオペレーティング システムを再起動し質問を再開します。[No]を選択した場合、ドライバーが正常にインストールされたことを示す画面が表示されます。他の項目のインストールが完了したら、手動で再起動します。



### 7.5.3 タッチスクリーンの調整

Microsoft POSReady 2009およびWindows XP Professionalオペレーティングシステムでは、静電容量式テクノロジーを採用していることから、調整は必要ありません。そのため、HP RP7 15/17インチの静電容量式タッチ用の調整ユーティリティはありません。

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティングシステムの場合、調整ユーティリティを開く手順を以下に示します。**ただし**、HP RP7 15/17インチの静電容量式タッチでは、起動する必要はありません。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [コントロールパネル]をクリックします。
3. 検索ボックスに、「タブレットPC設定」と入力し（かぎ括弧を付けない）、結果の一覧から[タブレットPC設定]を選択します。
4. [画面]タブで、[ディスプレイ オプション]の下にある[調整]を選択します。

**注：**画面をはじめて調整する場合は、16個の基準点が使用されます。調整オプションを再度選択した場合、使用される基準点は4つのみとなります。再度16点調整を実行するには、[Tablet PC Properties] (タブレットPCのプロパティ) ウィンドウで[Reset] (リセット) ボタンを押します。

5. 画面の指示に従い、[はい]をクリックして調整の設定を保存します。

### 7.5.4 POSReady 2009またはWindows XPでのデュアル モニター設定のタッチ機能

このセクションでは、Microsoft POSReady 2009およびMicrosoft Windows XPオペレーティングシステム用のタッチ ドライバーについて説明します。

デュアル タッチのPCAPモニター設定では、両方のモニターでタッチ機能を有効にするために、7.5.52.00以降のバージョンのドライバーをインストールする必要があります。ドライバーは、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから入手できます。ドライバーを入手した後、デュアル タッチPCAP設定でドライバーをインストールするプロセスを以下に示します。

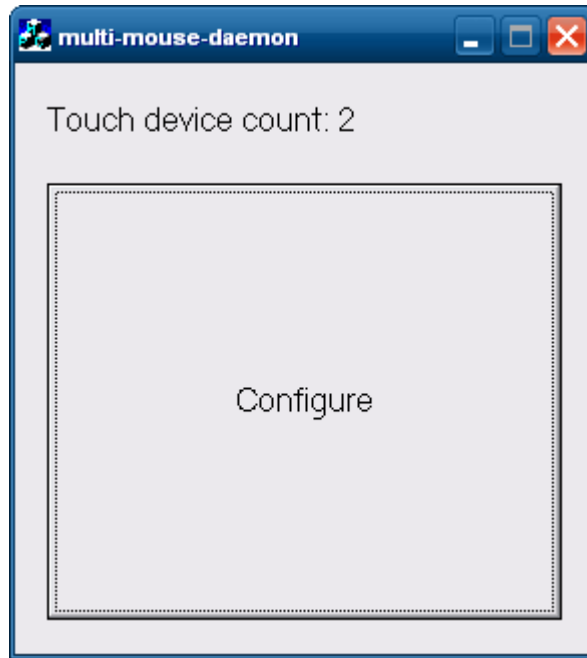
1. PCAPタッチ ドライバーをダウンロードしたフォルダーを参照し、展開します。
2. 「/dual」パラメーターを指定してSETUP.EXEユーティリティを開き（つまり、「SETUP.EXE /dual」と入力する）、画面に表示されるメッセージに従います。
3. ドライバーがインストールされて本体が再起動されたら、タッチ ドライバーに対するタッチ モニターを識別する必要があります。システム トレイで、[Multi-mouse-daemon] (マルチ-マウス-デーモン) アイコンをダブルクリックして、タッチ モニターの設定を開きます。このユーティリティは、「/dual」パラメーターを指定したため、システムトレイにインストールされています。



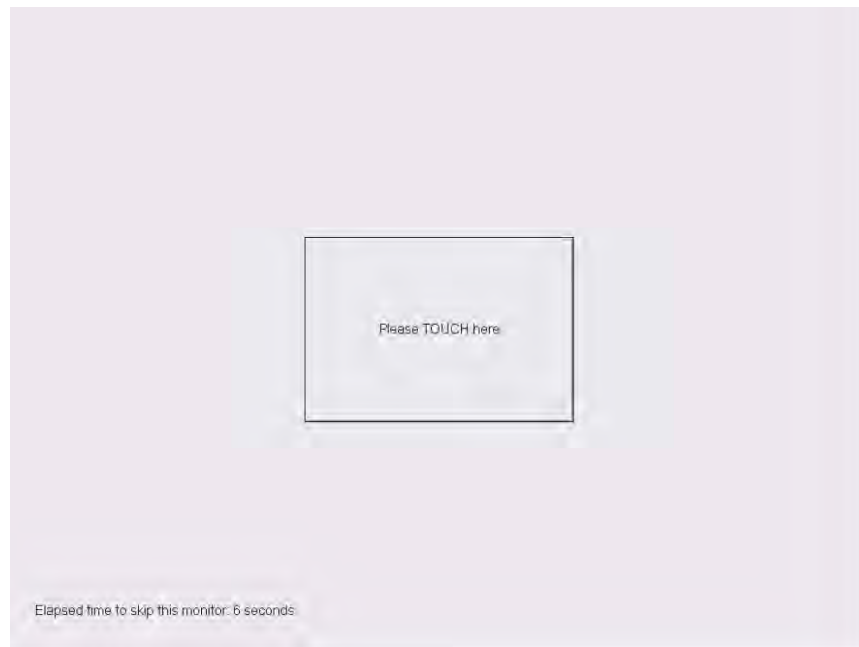
システムトレイ内の  
[Multi-mouse-daemon]アイコン

4. [Multi-mouse-daemon]ユーティリティが開いたら、画面に表示されるメッセージに従います。表示される画面を以下に示します。

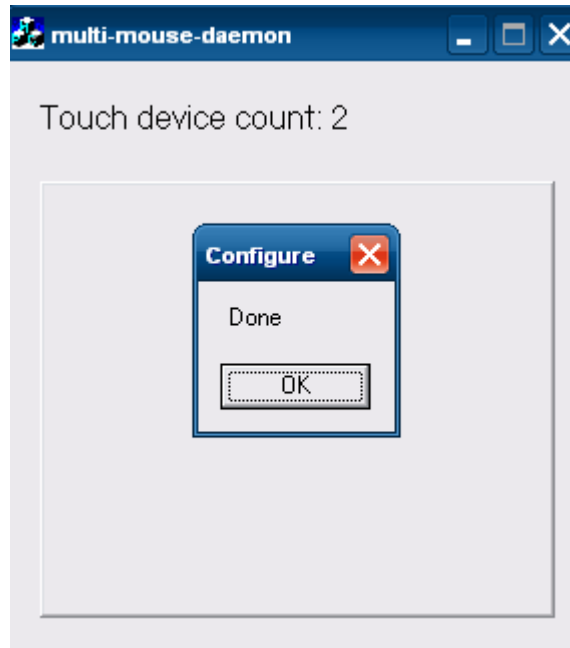
ユーティリティが開くと、初期画面が表示されます。



プライマリ モニターで[Configure]（設定）ボタンを押すと、ボックスにタッチすることを求める画面が表示されます。プライマリ モニターのボックスにタッチすると、セカンダリ モニターに同様の画面が表示されます。表示されるボックスは、以下のようになります。



セカンダリ モニターにタッチしたり、タイムアウトが発生したりすると、処理が完了したことを知らせるメッセージが表示されます。



[OK]ボタンをクリックするかボタンを押して、処理を完了します。

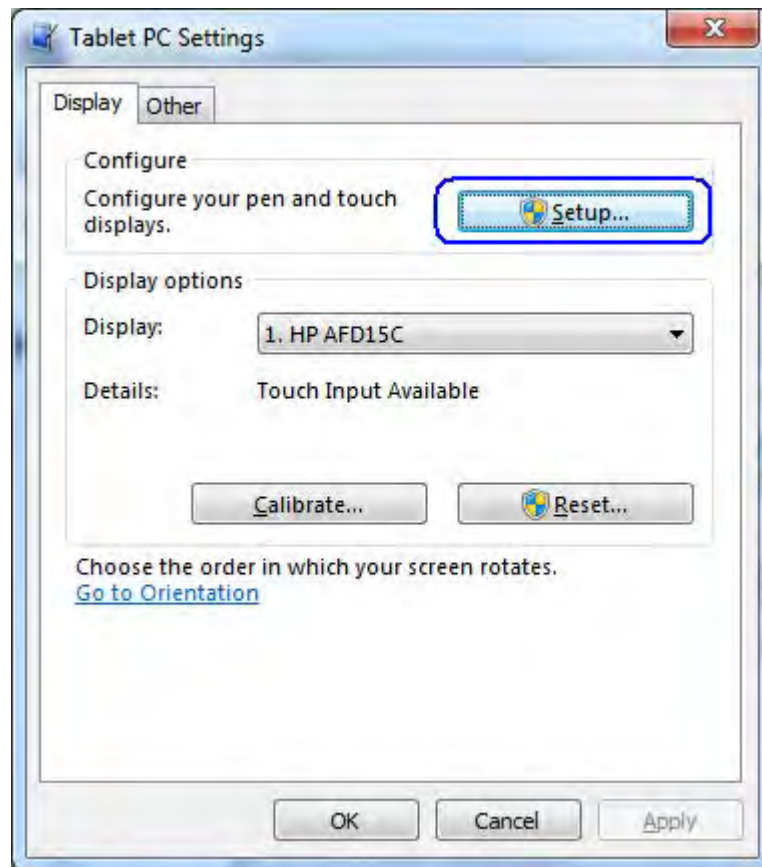
**注：** [Multi-mouse-daemon]の情報は、オペレーティング システムの再起動時も保存されます。ドライバーを再インストールしたり、別のPCAPモニターを本体にインストールする場合、適切なモニター情報を取得するためにユーティリティを再実行する必要があります。

### 7.5.5 POSReady 7またはWindows 7でのデュアル モニター設定のタッチ機能

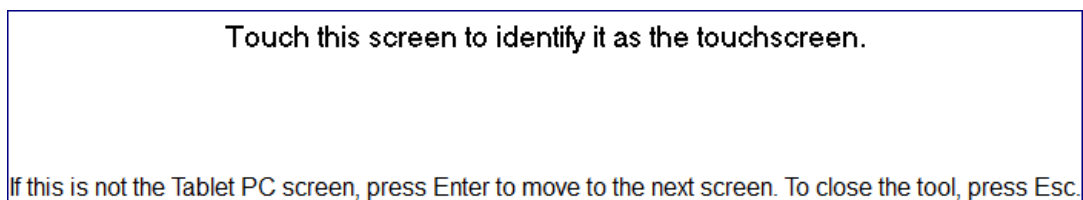
Windows 7（32ビットおよび64ビット）およびPOSReady 7（32ビットおよび64ビット）オペレーティングシステムの場合、タッチ モニターを正しく識別する手順を以下に示します。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [コントロールパネル]をクリックします。
3. 検索ボックスに、「タブレットPC設定」と入力し（かぎ括弧を付けない）、結果の一覧から[タブレットPC設定]を選択します。

4. [画面]タブで、[構成]の下にある[セットアップ]ボタンをクリックします。



5. 画面に表示されるメッセージに沿って操作します。以下は、画面に表示されるメッセージの例です。



#### 7.5.6 タッチスクリーン用のOPOSドライバー

タッチスクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

#### 7.5.7 タッチスクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウスカーソルが表示されることを確認します。

#### 7.5.8 タッチスクリーン用のJPOSドライバー

タッチスクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。

### 7.5.9 オンスクリーンディスプレイ (OSD) の無効化/有効化

オンスクリーン ディスプレイ (OSD) 機能をロックしたりロック解除したりできます。モニターは、OSD メニューのロックが解除された状態で出荷されます。

OSDメニューをロックしてOSDコントロールを無効にするには、以下の操作を行います。

- OSDアイコンがあるところを指でタップすると、アイコンが点灯してアクティブになります。
- OSDがロックされたことを示すメッセージが表示されるまで、[Menu] (メニュー) アイコンを10秒ほど押し続けます。

OSDメニューをロック解除してOSDコントロールを有効にするには、以下の操作を行います。

- OSDアイコンがあるところを指でタップすると、アイコンが点灯してアクティブになります。
- OSDがロック解除されたことを示すメッセージが表示されるまで、[Menu]アイコンを10秒ほど押し続けます。

## 7.6 タッチスクリーン : HP L6015tm/L6017tm 静電容量式 (PCap)



### 7.6.1 接続

接続情報については、モニターに付属の説明書をご覧ください。

### 7.6.2 タッチスクリーン用のWindowsドライバー

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティングシステムの場合、タッチスクリーンはオペレーティングシステムによって自動的に認識されます。

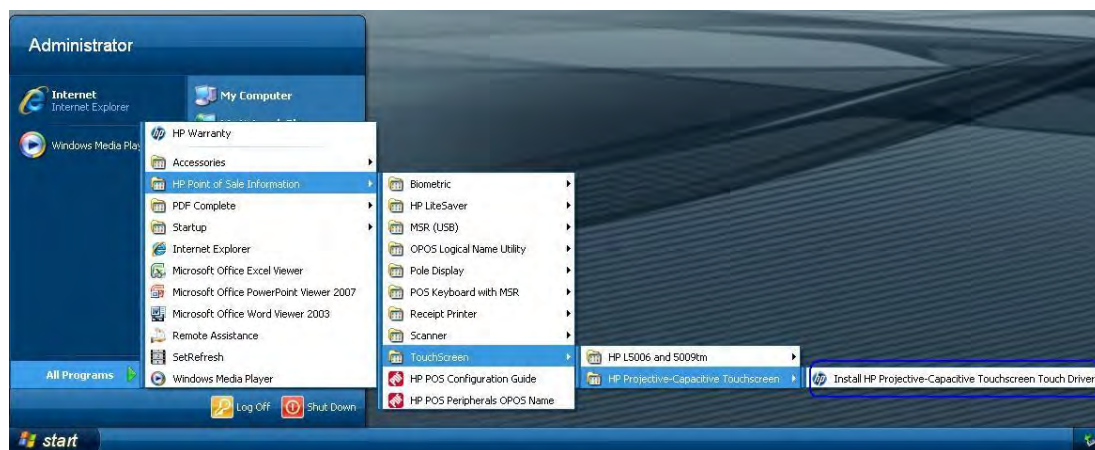
Microsoft POSReady 2009オペレーティングシステムについては、HPタッチスクリーンのドライバーはHPの工場出荷時のイメージにすでにインストールされており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

タッチスクリーン用のドライバーおよびアプレットをインストールする手順の概要を以下に示します。

1. スタートメニューの「Touchscreen」フォルダーから、SETUP.EXEファイルをクリックして、タッチスクリーンのインストーラーを起動します。
2. [OK]をクリックして、インストールプロセスを開始します。
3. インストールが完了したら、[Yes] (はい) を選択してオペレーティングシステムを再起動し質問を再開します。[No] (いいえ) を選択した場合、ドライバーが正常にインストールされたことを示す画面が表示されます。他の項目のインストールが完了したら、手動で再起動します。

#### 詳しい手順

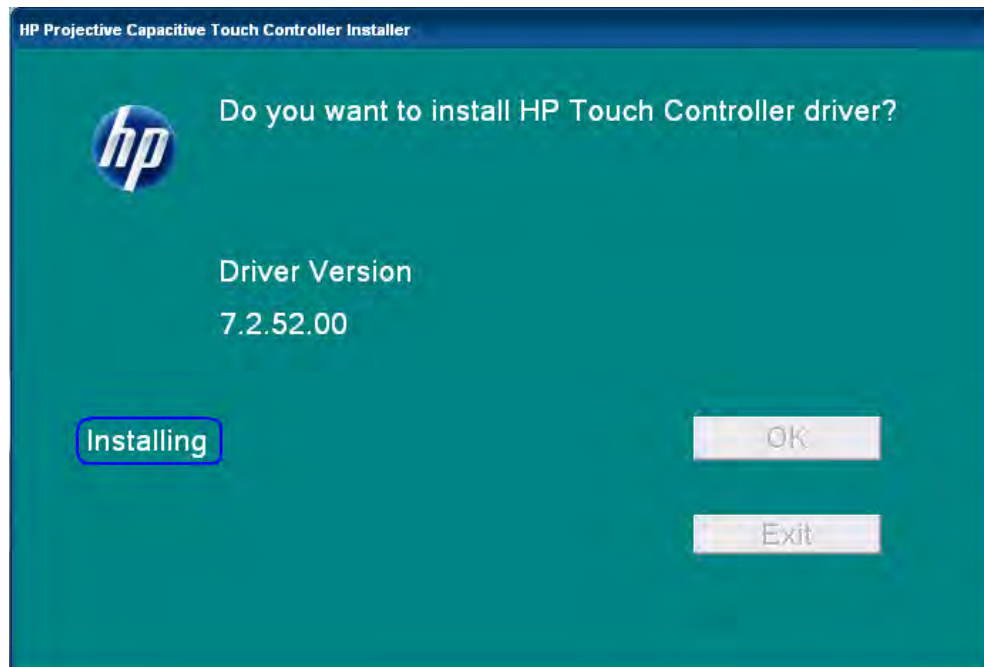
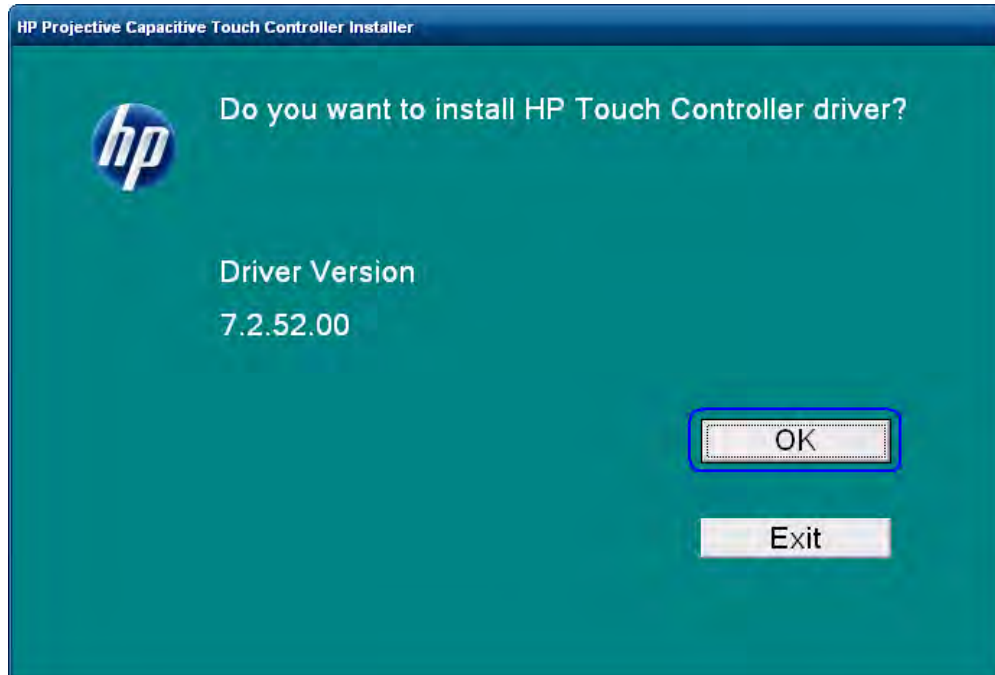
1. スタートメニューの「Touchscreen」フォルダーから、SETUP.EXEファイルをクリックして、タッチスクリーンのインストーラーを起動します。



または

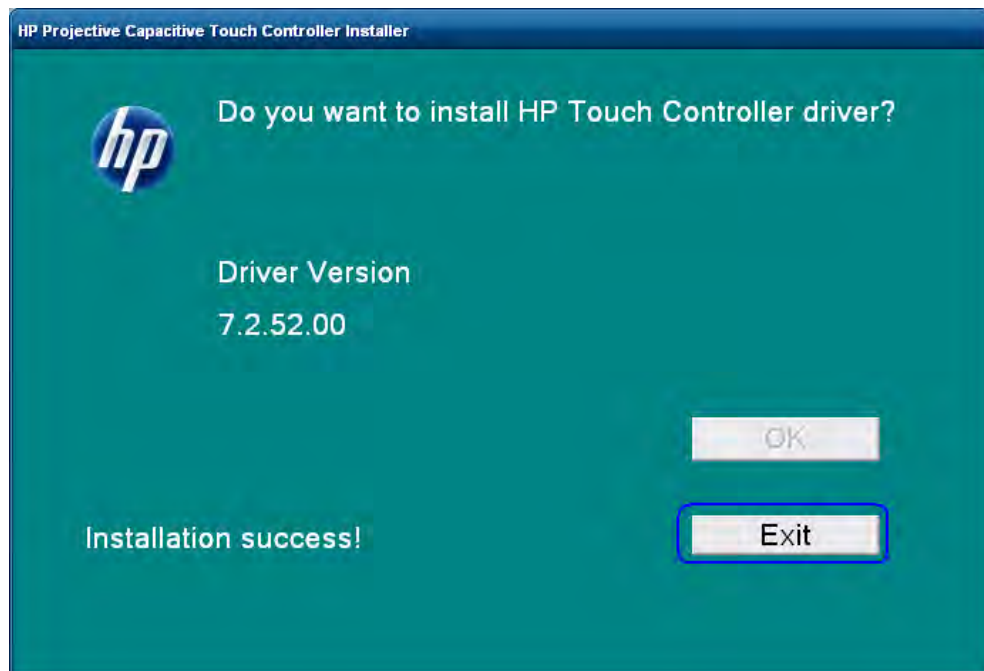
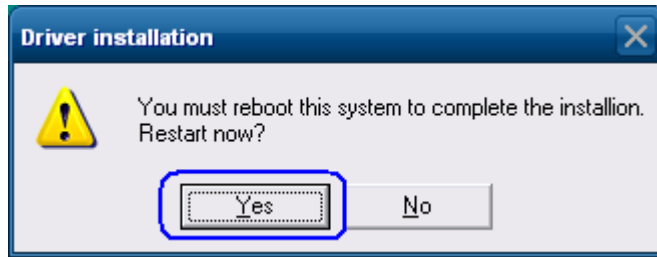
インストールパッケージは、HPイメージの「C:\xxxxx\Point of Sale\HP Projective-Capacitive Touchscreen」から  
見つけることもできます。

2. [OK]をクリックして、インストールプロセスを開始します。





3. インストールが完了したら、[Yes]を選択してオペレーティング システムを再起動し質問を再開します。[No]を選択した場合、ドライバーが正常にインストールされたことを示す画面が表示されます。他の項目のインストールが完了したら、手動で再起動します。



### 7.6.3 タッチスクリーンの調整

Microsoft POSReady 2009およびWindows XP Professionalオペレーティング システムでは、静電容量式テクノロジーを採用していることから、調整は必要ありません。そのため、HP RP7 15/17インチの静電容量式タッチ用の調整ユーティリティはありません。

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティング システムの場合、調整ユーティリティを開く手順を以下に示します。**ただし**、HP RP7 15/17インチの静電容量式タッチでは、起動する必要はありません。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [コントロールパネル]をクリックします。
3. 検索ボックスに、「タブレットPC設定」と入力し（かぎ括弧を付けない）、結果の一覧から[タブレットPC設定]を選択します。
4. [画面]タブで、[ディスプレイ オプション]の下にある[調整]を選択します。  
**注：** 画面をはじめて調整する場合は、16個の基準点が使用されます。調整オプションを再度選択した場合、使用される基準点は4つのみとなります。再度16点調整を実行するには、[Tablet PC Properties] (タブレットPCのプロパティ) ウィンドウで[Reset] (リセット) ボタンを押します。
5. 画面の指示に従い、[はい]をクリックして調整の設定を保存します。

## 7.6.4 POSReady 2009またはWindows XPでのデュアル モニター設定のタッチ機能

このセクションでは、Microsoft POSReady 2009およびMicrosoft Windows XPオペレーティング システム用のタッチ ドライバーについて説明します。

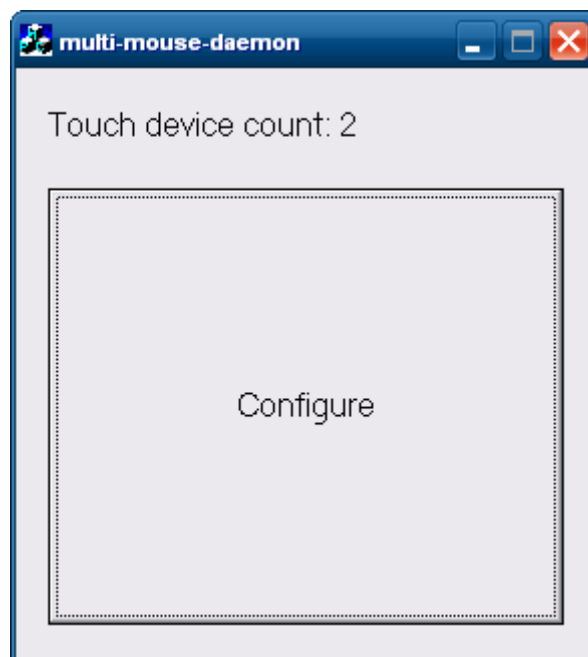
デュアル タッチのPCAPモニター設定では、両方のモニターでタッチ機能を有効にするために、7.5.52.00以降のバージョンのドライバーをインストールする必要があります。ドライバーは、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから入手できます。ドライバーを入手した後、デュアル タッチPCAP設定でドライバーをインストールするプロセスを以下に示します。

1. PCAPタッチ ドライバーをダウンロードしたフォルダーを参照し、展開します。
2. 「/dual」 パラメーターを指定してSETUP.EXEユーティリティを開き（つまり、「SETUP.EXE /dual」と入力する）、画面に表示されるメッセージに従います。
3. ドライバーがインストールされて本体が再起動されたら、タッチ ドライバーに対するタッチ モニターを識別する必要があります。システム トレイで、[Multi-mouse-daemon]（マルチ-マウス-デーモン）アイコンをダブルクリックして、タッチ モニターの設定を開きます。このユーティリティは、「/dual」 パラメーターを指定したため、システムトレイにインストールされています。

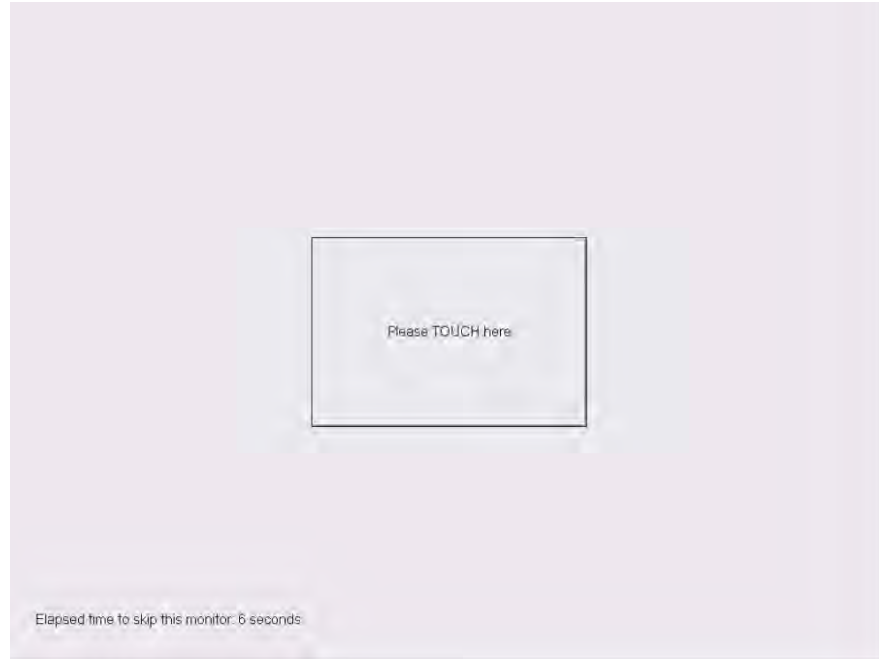


システムトレイ内の  
[Multi-mouse-daemon]アイコン

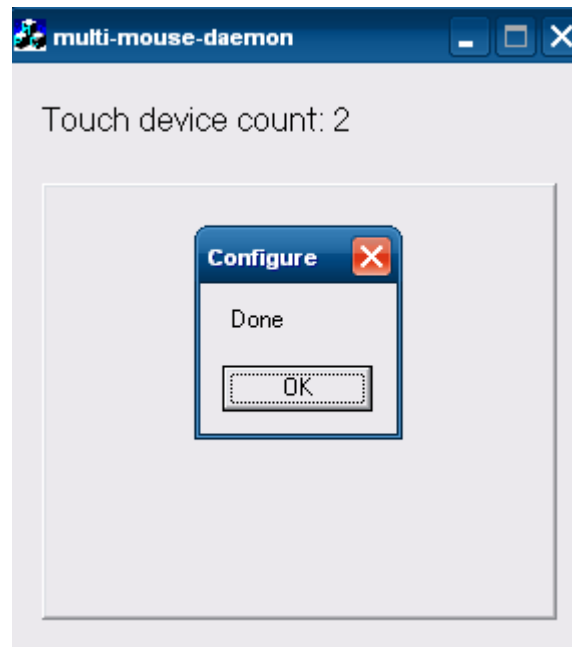
4. [Multi-mouse-daemon]ユーティリティが開いたら、画面に表示されるメッセージに従います。表示される画面を以下に示します。  
ユーティリティが開くと、初期画面が表示されます。



プライマリ モニターで[Configure]（設定）ボタンを押すと、ボックスにタッチすることを求める画面が表示されます。プライマリ モニターのボックスにタッチすると、セカンダリ モニターに同様の画面が表示されます。表示されるボックスは、以下のようになります。



セカンダリ モニターにタッチしたり、タイムアウトが発生したりすると、処理が完了したことを知らせるメッセージが表示されます。



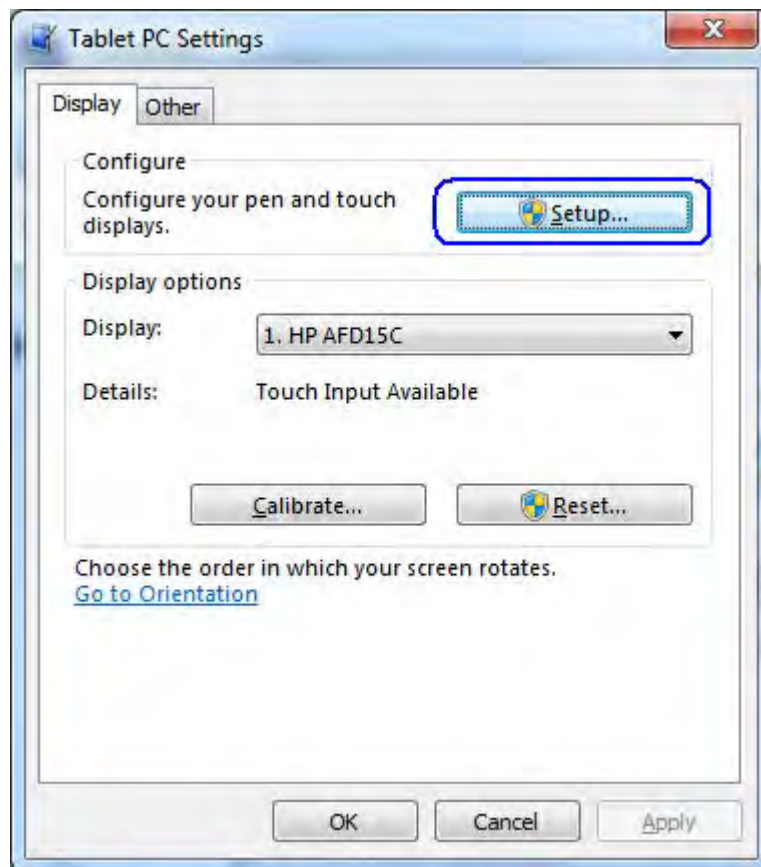
[OK]ボタンをクリックするかボタンを押して、処理を完了します。

**注：** [Multi-mouse-daemon]の情報は、オペレーティング システムの再起動時も保存されます。ドライバーを再インストールしたり、別のPCAPモニターを本体にインストールする場合、適切なモニター情報を取得するためにユーティリティを再実行する必要があります。

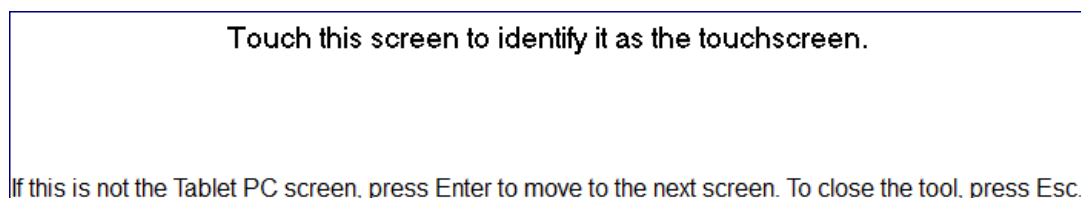
### 7.6.5 POSReady 7またはWindows 7でのデュアル モニター設定のタッチ機能

Windows 7 (32ビットおよび64ビット) およびPOSReady 7 (32ビットおよび64ビット) オペレーティングシステムの場合、タッチ モニターを正しく識別する手順を以下に示します。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. [コントロールパネル]をクリックします。
3. 検索ボックスに、「タブレットPC設定」と入力し（かぎ括弧を付けない）、結果の一覧から[タブレットPC設定]を選択します。
4. [画面]タブで、[構成]の下にある[セットアップ]ボタンをクリックします。



5. 画面に表示されるメッセージに沿って操作します。以下は、画面に表示されるメッセージの例です。



### 7.6.6 タッチ スクリーン用のOPOSドライバー

タッチ スクリーンにOPOSドライバーは必要ありません。

### 7.6.7 タッチ スクリーンのテスト

モニター画面のいくつかの場所にタッチしてみて、その場所にマウス カーソルが表示されることを確認します。

### 7.6.8 タッチスクリーン用のJPOSドライバー

タッチスクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。

### 7.6.9 オンスクリーンディスプレイ (OSD) の無効化/有効化

オンスクリーンディスプレイ (OSD) 機能をロックしたりロック解除したりできます。モニターは、OSDメニューのロックが解除された状態で出荷されます。

OSDメニューをロックしてOSDコントロールを無効にするには、以下の操作を行います。

- OSDアイコンがあるところを指でタップすると、アイコンが点灯してアクティブになります。
- OSDがロックされたことを示すメッセージが表示されるまで、[Menu] (メニュー) アイコンを10秒ほど押し続けます。

OSDメニューをロック解除してOSDコントロールを有効にするには、以下の操作を行います。

- OSDアイコンがあるところを指でタップすると、アイコンが点灯してアクティブになります。
- OSDがロック解除されたことを示すメッセージが表示されるまで、[Menu] アイコンを10秒ほど押し続けます。

### 7.6.10 電源ボタンの無効化/有効化

電源ボタンをロックしたりロック解除したりできます。モニターは、電源ボタンのロックが解除された状態で出荷されます。

電源ボタンのメニューをロックするには、以下の操作を行います。

- 電源ボタンがロックされたことを示すメッセージが表示されるまで、電源ボタンを10秒ほど押し続けます。

電源ボタンのメニューをロック解除するには、以下の操作を行います。

- 電源ボタンがロック解除されたことを示すメッセージが表示されるまで、電源ボタンを10秒ほど押し続けます。

### 8.1 HP ap5000 10インチ ディスプレイ



#### 8.1.1 接続

HP ap5000 10インチ ディスプレイは、VFDの代わりにap5000本体の背面に取り付けることができます。ap5000 10インチ ディスプレイは、本体のI/OパネルにあるVGAコネクタを通じて接続します。

#### 8.1.2 HP ap5000 10インチ ディスプレイ用のWindowsドライバー

追加のドライバーは必要ありません。ap5000内蔵（タッチ スクリーン）ビデオ用に使用されるIntelビデオドライバーは、10インチ ディスプレイを動作させるために必要なドライバーです。

#### 8.1.3 HP ap5000 10インチ ディスプレイ用のOPPOSドライバー

タッチ スクリーンにOPPOSドライバーは必要ありません。

#### 8.1.4 HP ap5000 10インチ ディスプレイのテスト

2台目のモニターがWindowsオペレーティング システムで有効になると、10インチ ディスプレイにビデオが表示されます。

#### 8.1.5 HP ap5000 10インチ ディスプレイ用のJPOSドライバー

タッチ スクリーンにJPOSドライバーは必要ありません。



### 9.1.1 接続

HP 7インチCFDは、どのUSBポートにも接続可能です。HP Integrated 7インチCFDは、適切なマウント用ソケットを備えた本体およびモニターに接続するように設計されています（RP2、RP7、RP9、HP 6015tm、HP 6017tmなど）。

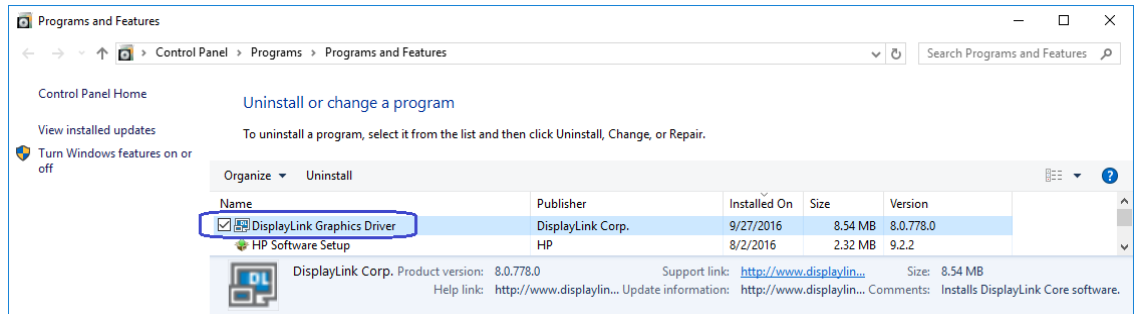
HP 7インチCFDは、単一の解像度1024 × 600をサポートします。HP 7インチCFDのその他のすべてのディスプレイ オプションは、使用されるオペレーティング システム（OS）およびDisplayLinkドライバーのバージョンによって、コントロール パネルまたはDisplayLinkシステム トレイ アイコンのどちらかで設定できます。このデバイスはモニターとしてアプリケーションに表示されますが、ビデオ ドライバー（Intel Videoアプレットなど）によって制御されません。

### 9.1.2 Windowsドライバー

HP DisplayLinkドライバーは、HPの工場出荷時のイメージに含まれており、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

HP DisplayLinkドライバーがインストールされている場合、[プログラムと機能]に以下のように表示されます。

Windows 10以降の場合：



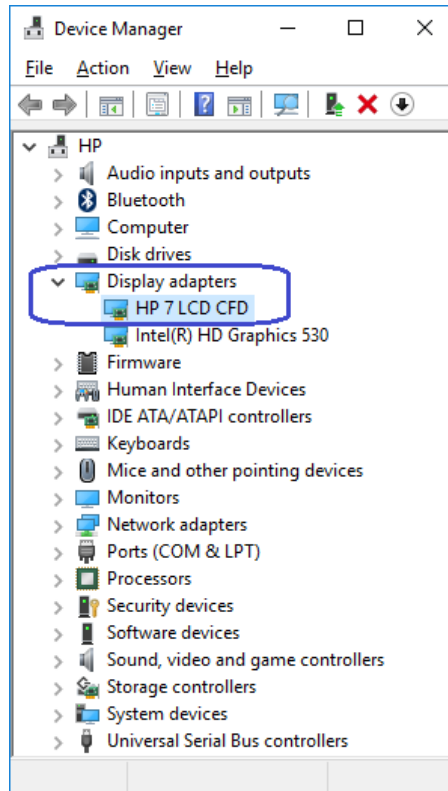
Windows 8.1以前の場合：



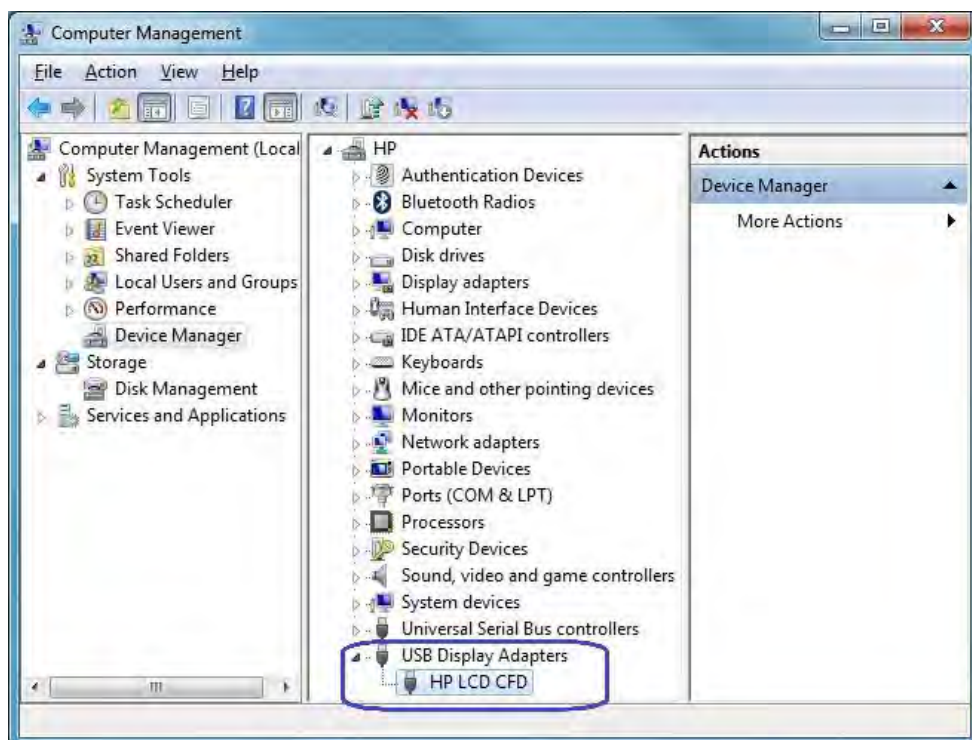


HP DisplayLinkドライバーがインストールされており、HP 7インチCFDがシステムに接続されている場合、[デバイス マネージャー]に以下のように表示されます。

Windows 10以降の場合：



Windows 8.1以前の場合：



### 9.1.3 OPOS

OPOSドライバーは必要ありません。

### 9.1.4 JPOS

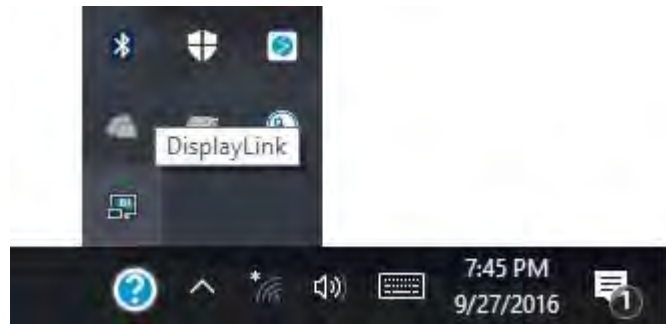
JPOSドライバーは必要ありません。

### 9.1.5 HP 7インチCFDディスプレイのテスト

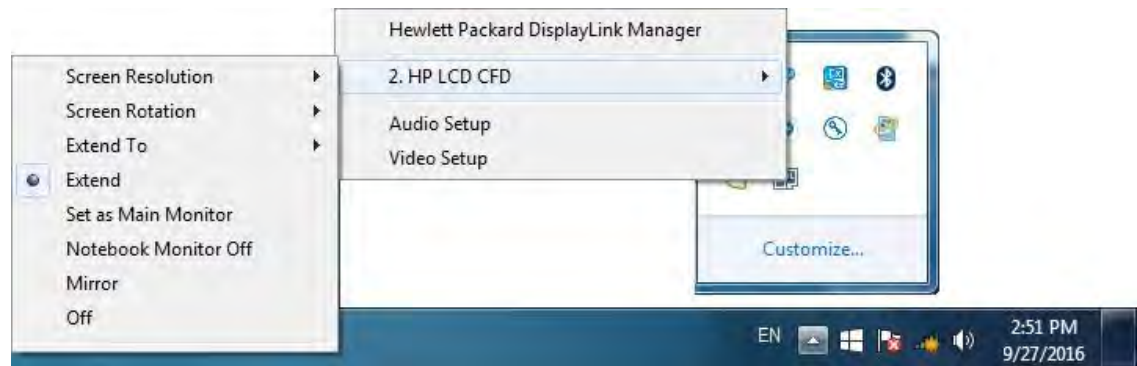
2台目のモニターがWindowsオペレーティングシステムで有効になると、HP 7インチCFDディスプレイにビデオが表示されます。

### 9.1.6 HP 7 CFDのオプション

HP DisplayLinkドライバーがインストールされている場合、DisplayLinkアイコンがシステムトレイに表示されます。



このアイコンをクリックすると、選択可能な設定オプションが表示されます。インストールされているオペレーティングシステム(OS)によっては、アイコンによって以下に示すようなメニューが表示される代わりにOSの表示プロパティが直接開く場合もあります。



**注：** 上記の画面は一例です。お手元のHP LCD CFDは、接続されているビデオモニター数とアクティブになっているかどうかにより、異なる番号が表示される場合があります。

## Q & A

### 9.2 全般

質問： HP周辺機器のOPOS名がわかりません。

回答： 「[HP POS周辺機器のOPOS名](#)」 セクションでOPOS名を確認してください。

質問： 最新のドライバーはどこで入手できますか。

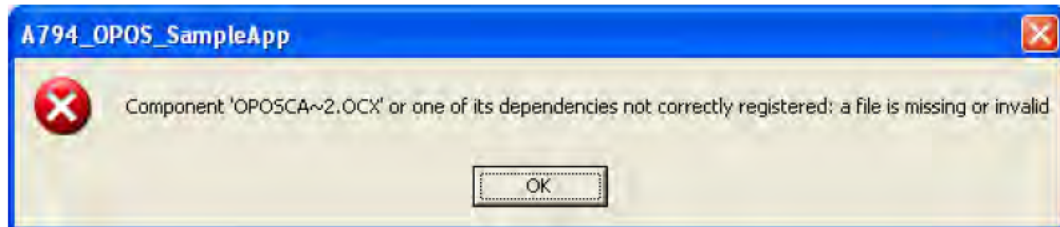
回答： 最新のドライバーは[HP.COM](#)のWebサイトにあります。

### 9.3 HPキャッシュドロアー

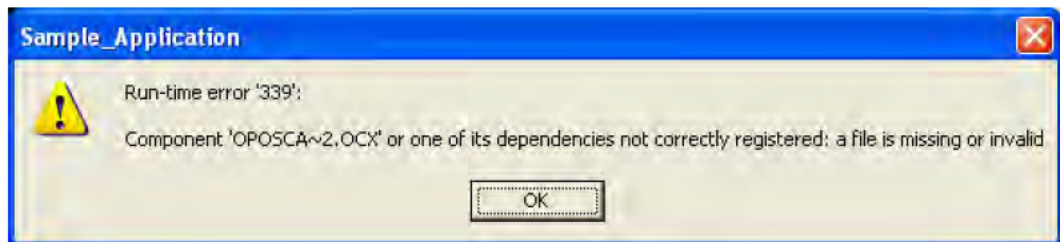
**質問：** サンプル アプリケーションを実行すると、依存関係が正しく登録されていないことを示すメッセージが表示されます。この問題を解消するにはどうすればよいですか。

**回答：** キャッシュ ドロアーのサンプル アプリケーションを実行したときに以下の画面が表示される場合は、CCO ドライバーまたはOPOSドライバーがインストールおよび登録されていないことを示しています。CCO ドライバーをインストールし、プリンターのOPOSパッケージをインストールしてください。インストールが完了したら、Windowsを再起動してください。

キャッシュドロアーのサンプルアプリケーションで表示されるエラーメッセージ：



プリンターのサンプルアプリケーションでキャッシュドロアーのオプションをクリックしたときに表示されるエラーメッセージ



**質問：** デュアルキャッシュドロアー構成で両方のキャッシュドロアーが同時に開きます。これはなぜですか。

**回答：** これは、両方のキャッシュドロアーに同じキャッシュドロアー ケーブルが接続されていることが原因です。デュアルキャッシュドロアー構成では、2台目のキャッシュドロアーに異なる種類のキャッシュドロアーケーブルを接続する必要があります。

**質問：** キャッシュドロアーを開けるためのASCIIコードは何ですか。

**回答：** キャッシュドロアーを開けるためのASCIIコードは、以下のとおりです。

キャッシュドロアー-1	キャッシュドロアー-2
27 112 0 8 8	27 112 1 8 8

### 9.4 HP USBキャッシュドロアー

**質問：** デュアルキャッシュドロアー環境でJPOSドライバーバージョン1.13.3を使用しているとき、以前はキャッシュドロアー-1だったものが以前はUSB1でしたが現在はUSB0と表示されます。これはなぜですか。

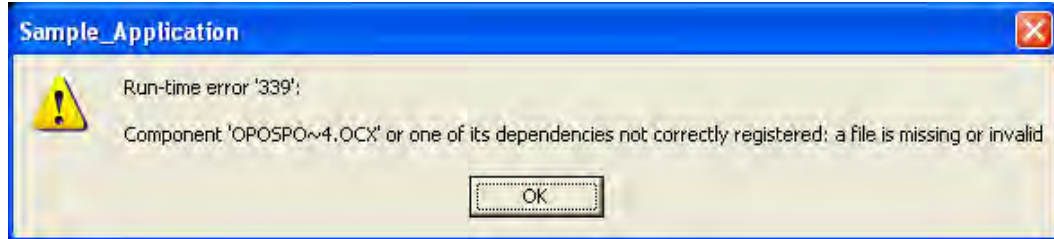
**回答：** 1.13.3以前のJPOSドライバーでは、最初のドロアーの定義で間違ってキャッシュドロアー-USB1を使用していました。JPOSドライバーバージョン1.13.3では、最初のキャッシュドロアーに対してUSB0を使用するように修正されました。「C:\¥HP」フォルダーにアクセスしてJPOS XMLファイルを手動で編集して、最初のキャッシュドロアーになるキャッシュドロアーを定義できます（キャッシュドロアーの下部にあるHID番号が必要になります）。

## 9.5 HPレシートプリンター

**質問：** サンプル アプリケーションを実行すると、依存関係が正しく登録されていないことを示すメッセージが表示されます。この問題を解消するにはどうすればよいですか。

**回答：** キャッシュ ドロアーのサンプル アプリケーションを実行したときに以下の画面が表示される場合は、CCO ドライバーまたはOPOSドライバーがインストールおよび登録されていないことを示しています。CCO ドライバーをインストールし、プリンターのOPOSパッケージをインストールしてください。インストールが完了したら、Windowsを再起動してください。

プリンターのサンプル アプリケーションでプリンターのオプションをクリックしたときに表示されるエラーメッセージ



**質問：** A794プリンターでネイティブ モードとプリンター クラス モードを切り替えるには、どのバージョンのファームウェアが必要ですか。

**回答：** A794プリンターには、3.48以降のファームウェアが必要です。プリンターのファームウェアが3.48よりも前の場合は、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトで提供されているSoftpaqを使用してファームウェアを更新できます。

**質問：** プリンターでネイティブ モードとプリンター クラス モードを切り替えることはできますか。

**回答：** はい、プリンターでネイティブ モードとプリンター クラス モードを切り替えることができます。[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから、プリンター クラス モードとネイティブ モードを切り替えるオプションが含まれるファームウェアのSoftpaqを入手できます。

**質問：** プリンターがネイティブまたはプリンター クラスのどちらのモードであるかを調べるには、どうすればよいですか。

**回答：** この情報を得るための方法は2つあります。

- 1... プリンター カバーを閉じた状態で給紙ボタンを押したままにして、プリンターの診断フォームを印刷します。印刷されたフォームの「COMM.INTERFACE」(COMMインターフェイス) セクションで、「USB DRIVER TYPE」(USBドライバーの種類) が「NATIVE」(ネイティブ) または「PRINTER CLASS」(プリンタークラス) のどちらになっているかを確認します。
- 2... Windowsの[デバイス マネージャー]でUSBのセクションを調べます。[HP USB Receipt Printer] (HP USBレシート プリンター) と表示されている場合は、プリンターはネイティブ モードです。[USB PRINTING SUPPORT] (USB印刷サポート) と表示されている場合は、プリンターはプリンタークラスモードです。

**質問：** 更新されたJavaをWebサイトからダウンロードしたら、JPOSテスト ユーティリティが開かなくなりました。

**回答：** バッチ ファイルでは、Javaランタイム フォルダーの場所が設定されています。更新されたJavaフォルダーを反映するようにバッチファイル内の場所を変更する必要があります。

**質問：** Windowsミニドライバのセットアップで[USB001]（仮想USBポート）のオプションが表示されないのはなぜですか。

**回答：** このポートを表示するには、プリンターが本体に接続されていて、さらにプリンターがプリンター クラスモードである必要があります。

**質問：** キャッシュドロアーを開けるためのASCIIコードは何ですか。

**回答：** キャッシュドロアーを開けるためのASCIIコードは、以下のとおりです。

キャッシュドロアー-1	キャッシュドロアー-2
27 112 0 8 8	27 112 1 8 8

キャッシュドロアーのコマンドに関する詳しい情報を以下に示します。

### Generate pulse to open cash drawer

<b>ASCII</b>	ESC p	n p1 p2
<b>Hexadecimal</b>	1B 70	n p1 p2
<b>Decimal</b>	27 112	n p1 p2
<b>Value of n:</b>	00, 48 (Decimal) = Drawer 1; 01, 49 (Decimal) = Drawer 2	
<b>Value of p1:</b>	0-255	
<b>Value of p2:</b>	0-255	

**質問：** 用紙をカット（ナイフカット）するためのASCIIコードは何ですか。

**回答：** 用紙をカット（ナイフカット）するためのASCIIコードは、以下のとおりです。

### Perform full knife cut

<b>ASCII</b>	EM	ESC i
<b>Hexadecimal</b>	19	1B 69
<b>Decimal</b>	25	27 105

### Perform partial knife cut

<b>ASCII</b>	SUB	ESC m
<b>Hexadecimal</b>	1A	1B 6D
<b>Decimal</b>	26	27 109

部分ナイフカットでは、用紙の左端が5 mm (0.20インチ) 残ります。

**質問：** シリアルプリンターのボーレート設定値を取得するにはどうすればよいですか。

**回答：** 以下の手順を実行して、ボーレート情報が含まれる診断結果を印刷してください。

- プリンターカバーを開く。
- 用紙を少し引き出す。
- プリンターの給紙ボタンを押し続ける。
- プリンターカバーを閉じる。
- 診断用紙が印刷されたら、給紙ボタンを放す。診断結果の中央付近にプリンターのボーレートが記載されます。診断結果の例を以下に示します。

```
xxx A799 - Diagnostics Form xxx
ReceiptWare Enabled

Model number      : A799-C40W-HN00
Serial number     : K083100426

Root Firmware
.....
.....
.....
.....
.....

Comm. Interface
RX Buffer Size    : 4096
Interface type    : RS232/USB
Parameters
Baud Rate        : 115200
Data Bits        : 8
Stop Bit         : 1
Parity           : NONE
Flow Control     : DTR/DSR
Reception Errors : Ignore
USB Driver Type  : Printer Class
USB Packet w/Error : Reject
```

**質問：** HPハイブリッドプリンター用のリボンを購入したいのですが、リボン番号は何ですか。

**回答：** HPハイブリッドプリンター用のリボン番号は、以下のとおりです。

- A152-0041パープル
- A152-0042ブラック

**質問：** Windows 8.1にWindowsミニドライバーをインストールして以降、レシート上での印刷が小さくなりました。以前のオペレーティングシステムでは、このようなことは起こりませんでした。

**回答：** この問題を解消するには、お手元のWindows 8.1イメージにMicrosoft KB2911106がインストールされているかどうか確かめる必要があります。

**質問：** A799IIプリンターでシリアル接続した場合、印刷出力時に文字化けが発生します。

**回答：** COMコネクタ用Windowsのボーレート設定を確認してください。Windowsミニドライバーのボーレートがプリンターのボーレートとなります。



**質問：** A799IIプリンターではWindowsデバイス マネージャーで黄色い注意マークがあるCognitive TPGA795というメッセージが現れますが、OPOS/JPOSでは問題なく動作しています。この黄色い注意マークを消す方法を教えてください。

**回答：** Windowsミニドライバにあるi386フォルダを選択します。正しいi386フォルダを取得するには、お使いのオペレーティングシステムに応じて、32ビットまたは64ビットのフォルダを選択する必要があります。

**質問：** Ethernet接続をサポートするにはどのバージョンのOPOSドライバーが必要ですか。

**回答：** A799II Ethernetプリンター モデルでは、OPOSドライバー バージョン1.13.3.8以降が必要です。

**質問：** Ethernet接続をサポートするにはどのバージョンのJPOSドライバーが必要ですか。

**回答：** A799II Ethernetプリンター モデルでは、OPOSドライバー バージョン1.13.0.3以降が必要です。

**質問：** A799II EthernetプリンターでOPOSテスト ユーティリティを使用しているとき、通電中に本体をドッキングおよびドッキング解除するとロックされます。印刷またはプリンターの要求を試行すると、エラー メッセージが表示されます。

**回答：** A799II Ethernetプリンターはコンピューターに直接接続されておらず、デバイスが存在するかどうかをWindowsから認識できないため、通電中のドッキングおよびドッキング解除はサポートされていません。Ethernetプリンターを使用するときは、レシートを印刷する前にネットワーク プリンターに対して[Open]（開く）および[Claim]（要求）の操作を行い、レシートの印刷後にプリンターに対して[Close]（閉じる）の操作を行うことをおすすめします。



## 9.6 HP USBバーコード スキャナー

**質問：** バーコード スキャナーの設定がわからなくなりました。スキャナーを工場出荷時の設定に戻すにはどうすればよいですか。

**回答：** 以下のバーコードをスキャンすることによって、スキャナーを工場出荷時の設定に戻すことができます。



すべて初期設定値に設定

**質問：** 商品をスキャンした後で[Enter]キーを押さないと、スキャンした内容をアプリケーションに読み込めません。

**回答：** 商品のスキャン後にキャリッジ リターンも転送されるようにスキャンの動作を変更できます。スキャナーの動作を変更するには、以下のバーコードを表示されている順にスキャンしてください。



スキャンオプション



<データ><サフィックス>



入力

**質問：** 使用しているアプリケーションでは、商品のスキャン後にタブが必要になります。

**回答：** 商品のスキャン後にタブも転送されるようにスキャンの動作を変更できます。スキャナーの動作を変更するには、以下のバーコードを表示されている順にスキャンしてください。

Scan Options



<Data><Suffix>



Enter



Scan Suffix



7



0



0



9



**質問：** 使用しているスキャナー用アプリケーションでOPPOSドライバーを使用する必要があります。どこで入手できますか。

**回答：** スキャナー用のOPPOSドライバーは、HP Webサイトの該当製品のソフトウェアおよびドライバー セクションから入手できます。以下の適切なバーコードをスキャンすることによって、スキャナーをHIDデバイス（初期設定）からIBMハンドヘルドUSBデバイスに変更する必要があります。



HIDキーボードエミュレーション



IBM/ハンドヘルドUSB

**質問：** 使用している環境でスキャナーの音量が大きすぎます。スキャナーの音量を下げるにはどうすればよいですか。

**回答：** スキャナーの音量には小/中（初期設定）/大の3つの設定があります。以下のバーコードの1つをスキャンして、スキャナーの音量を設定してください。



小



中（初期設定）



大

**質問：** [メモ帳]に入力した内容をスキャンすると、英語ではない意味のない文字列が表示されます。

**回答：** バーコード スキャナーのUSB国別キーボードの種類を変更する必要があります。以下のバーコードの1つをスキャンして国を変更してください。



\* North American Standard USB Keyboard



German Windows



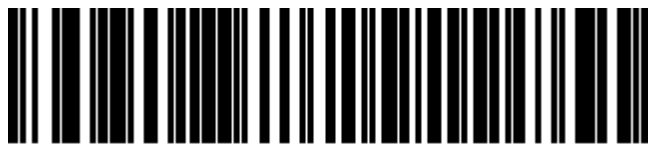
**French Windows**



**French Canadian Windows 2000/XP**



**Spanish Windows**



**Italian Windows**



**Swedish Windows**



**UK English Windows**



Japanese Windows (ASCII)



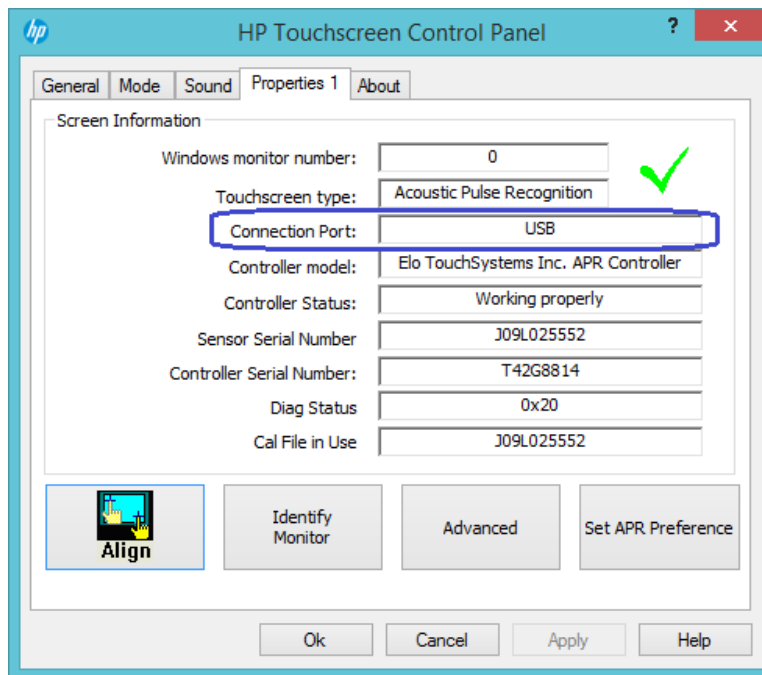
Portuguese-Brazilian Windows

## 9.7 HPタッチ スクリーン (HP L5006tm/HP L5009tm/HP L5015tm)

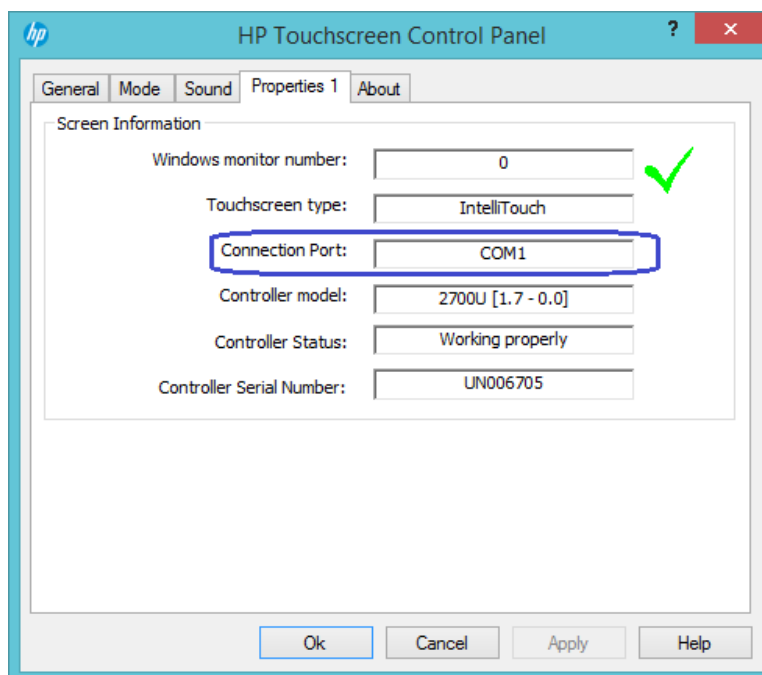
**質問：** 他の人がHPタッチ スクリーンを接続しました。タッチ スクリーンがどのコネクタに接続されているかを調べるにはどうすればよいですか。

**回答：** タッチ スクリーンのプロパティに、USBとシリアルどちらのインターフェイスを使用しているかが表示されます。COMコネクタを使用している場合は、モニターが接続されているCOMコネクタも表示されます。

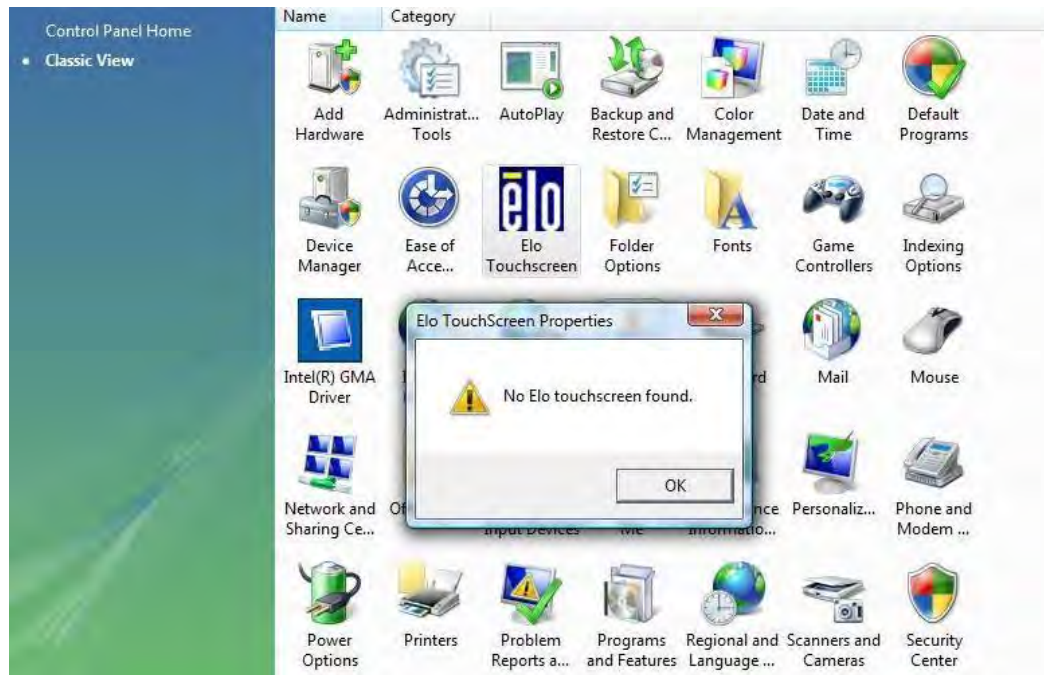
タッチ スクリーンがUSBポートに接続されている場合：



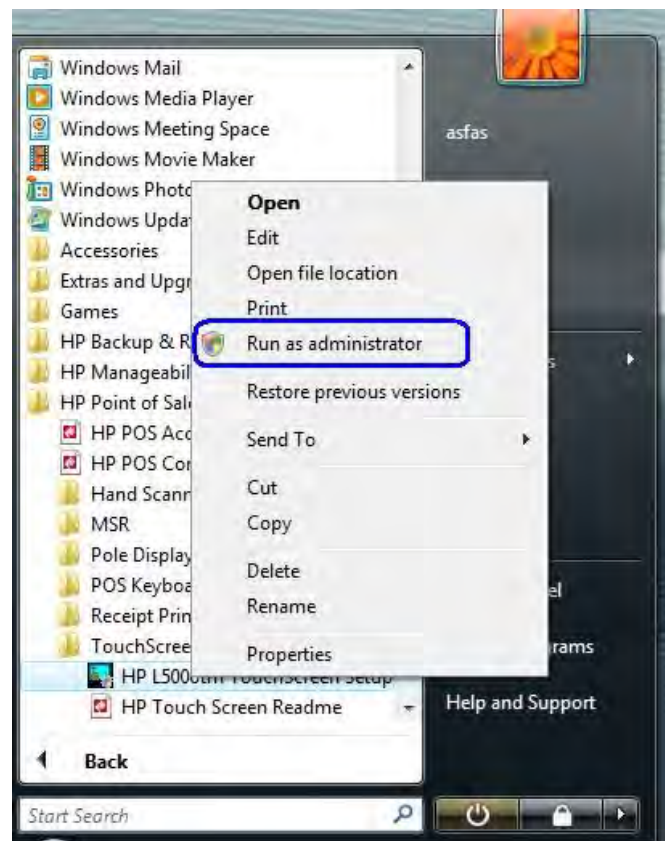
タッチ スクリーンがCOM1のシリアルポートに接続されている場合：



**質問：** Microsoft Windows Vistaの[コントロールパネル] (クラシック表示) で[Elo]アイコンをクリックすると、タッチ スクリーンが本体に接続されているのに[No Elo touchscreen found] (Eloタッチ スクリーンが見つかりません) というメッセージが表示されます。



**回答：** 管理者権限でスタート メニューからインストール プログラムを再実行してください。インストール オプションを右クリックし、[管理者として実行]を選択します。



**質問：** モニターの横に手を置くときに、モニターの電源を切ったままにするか、オン スクリーン表示（OSD）を呼び出し続けなければなりません。これを防ぐ方法がありますか。

**回答：** はい。以下の手順を実行することで、モニターの各ボタンをロックできます。

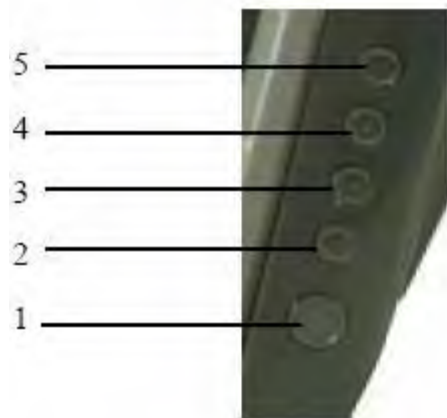
**HP L5006tm :**

**OSDロック/ロック解除**

1. ウィンドウに[OSD Unlock]（OSDアンロック）と表示されるまで、メニュー ボタンと下矢印ボタンを同時に押します。そのままさらに[OSD Lock]（OSDロック）と表示されるまで、ボタンを押し続けます。
2. 電源ボタンのロックを解除するには、[OSD Unlock]（OSDロック解除）と表示されるまで上記の手順を繰り返します。

**電源のロック/ロック解除**

1. ウィンドウに[Power Unlock]（電源ロック解除）と表示されるまで、メニュー ボタンと下矢印ボタンを同時に押します。そのままさらに[Power Lock]（電源ロック）と表示されるまで、ボタンを押し続けます。
2. 電源ボタンのロックを解除するには、[Power Unlock]（電源ロック解除）と表示されるまで上記の手順を繰り返します。



**モニターのフロントパネルの各部**

1. -電源：モニターの電源のオン/オフが切り替わります。
2. -選択：OSDメニューから調整項目を選択します。3-調整項目の値を下げます。
3. -調整項目の値を上げます。
4. -メニュー/終了：OSDメニューを表示または終了します

**HP L5015tm :**

**OSDロック/ロック解除**

1. OSDをロックするには、「メニュー」および「上げる」ボタンを2秒程度押し続けます。
2. OSDのロックを解除するには、「メニュー」および「上げる」ボタンを2秒程度押し続けます。
3. OSDロックが有効になると、メニュー、上げる、下げる、または選択キーを押してもシステムでは何も起こりません。

**電源のロック/ロック解除**

1. ウィンドウに[Power Unlock]（電源ロック解除）と表示されるまで、メニュー ボタンと下矢印ボタンを同時に押します。そのままさらに[Power Lock]（電源ロック）と表示されるまで、ボタンを押し続けます。
2. 電源ボタンのロックを解除するには、[Power Unlock]（電源ロック解除）と表示されるまで上記の手順を繰り返します。



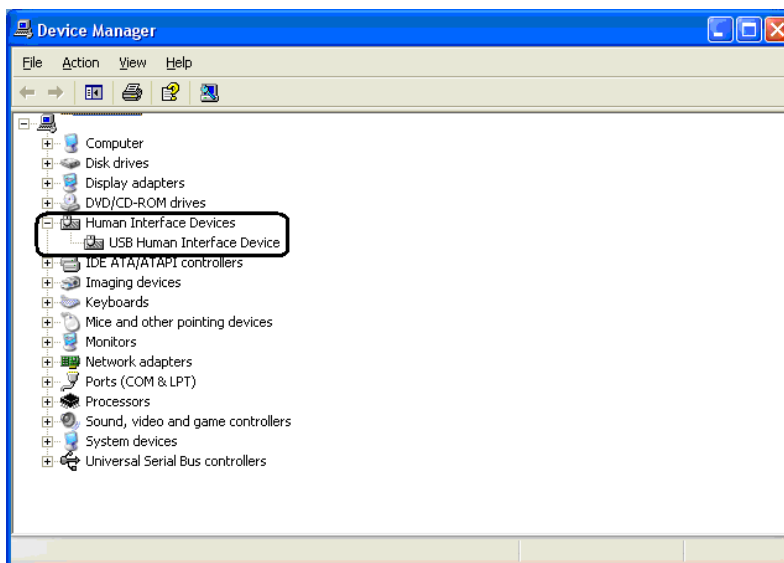
## 9.8 HP MSR

**質問：** MSRが現在どのモードに設定されているかを調べるにはどうすればよいですか。

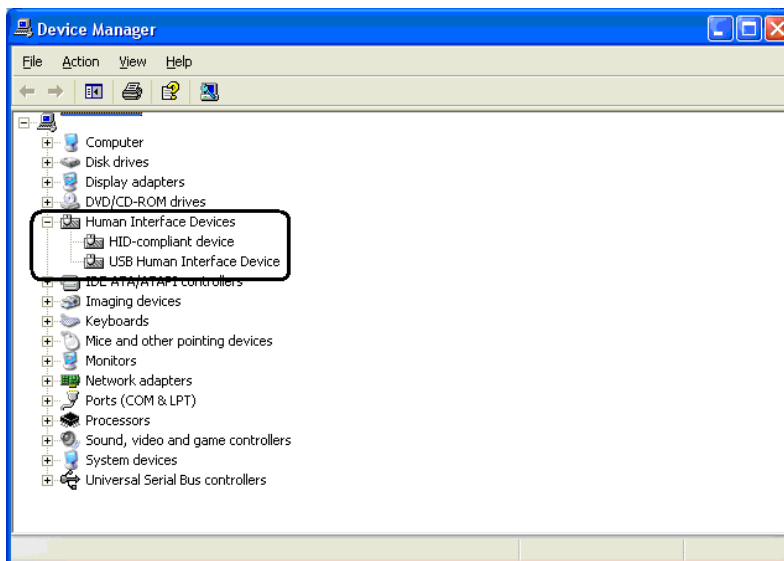
**回答：** MSRの現在の設定モードを調べる方法は2つあります。

1. 設定ユーティリティを使用して、このガイドの「[MSRのモードを切り替えるためのユーティリティ](#)」セクションで説明されている手順に沿って操作します。
2. Windowsの[デバイス マネージャー]で、このデバイス用にMicrosoft Windowsで読み込まれたドライバーを確認します。

MSRがUSB HID-KBモード（工場出荷時の設定モード）の場合は、MSR用に1つのドライバーが読み込まれます。\*



MSRがUSB HIDモードの場合は、MSR用に2つのドライバーが読み込まれます。\*



\* 他のUSBデバイスを取り付けている場合は、読み込み済みのHIDデバイスが[デバイス マネージャー]に3つ以上表示されることがあります。

**質問：** MSRでUSB HIDモードとUSB HID-KBモードを切り替えることはできますか。

**回答：** はい、MSRで2つのモードを切り替えることができます。モードを切り替えるには、[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから入手できるMSR設定ユーティリティを使用するか、スタンドアロンのMSR HIDユーティリティを使用します。スタンドアロン ユーティリティは、HPの工場出荷時のイメージに含まれています。また、[HP.COM](http://HP.COM)から入手することもできます。

**質問：** デュアル ヘッドMSR用の読み取りヘッドを無効にしたいのですが、エラーメッセージが表示されます。なぜ読み取りヘッドを無効にできないのですか。



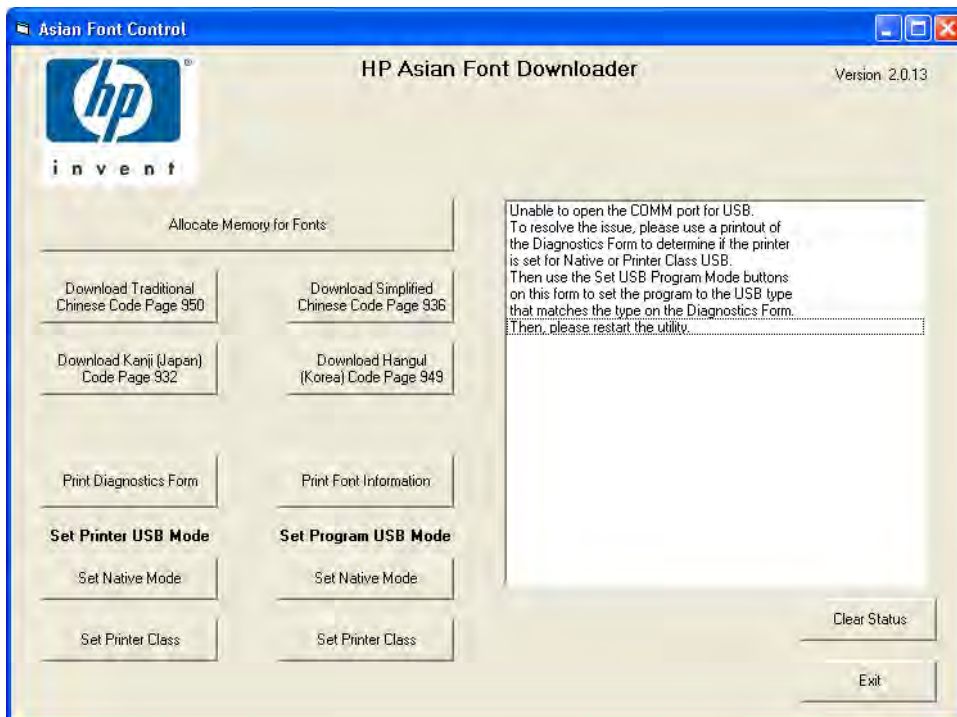
**回答：** 本体に接続されているMSRは、読み取りヘッドを無効にする機能をサポートしていません。「-002」以降のデュアルヘッドMSRには読み取りヘッドを無効にする機能がありますが、「-001」にはこの機能はありません。

**質問：** シングルヘッドMSRの読み取りヘッドを無効にできますか。

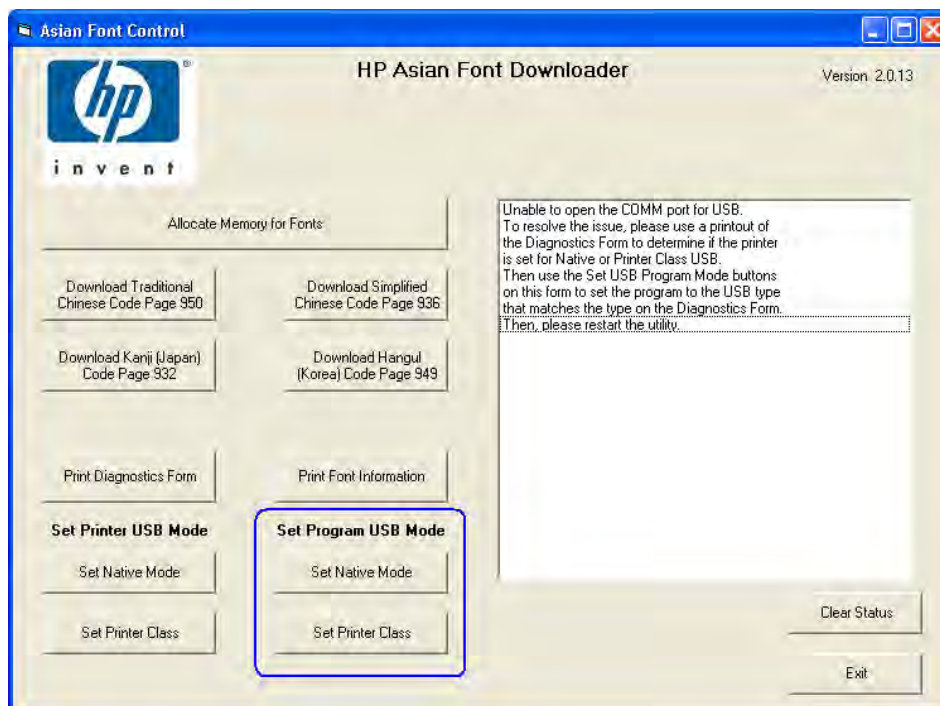
**回答：** いいえ、シングルヘッドMSRの読み取りヘッドを無効にする機能はサポートされていません。

## 9.9 HP Font Loader (HPフォントローダー)

質問： フォント ダウンローダー ユーティリティを開くと、エラー メッセージが表示されます。この問題を解消するにはどうすればよいですか。



回答： プリンターが設定されているモードと、ユーティリティが現在設定されているモードが異なります。[Set Program USB Mode] (プログラムUSBモードの設定) で、プリンターが現在設定されているモードを選択してから、ユーティリティを再起動してください。



**質問：** プリンターにフォントがダウンロードされた後、プリンターのランプが点滅します。

**回答：** ランプを点灯状態に戻すには、ユーティリティの[Print Sample/Diagnostics]（サンプル/診断の印刷）ボタンを選択するか、プリンターをリセットします。

## 9.10 HP rp3000のオプティカルドア

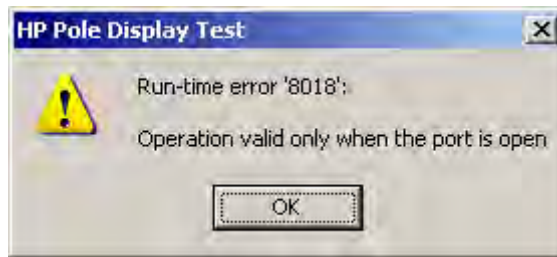
**質問：** オプティカルドアユーティリティのサービスを開始および停止するにはどうすればよいですか。

**回答：** イメージにインストールされたサービスを停止および開始するには、管理者権限が必要です。以下の構文を使用してください。

- 有効にするための構文「ODDDoorCoverMonitor.exe - install」
- サービスを無効にするための構文「sc stop HPODDDoorCoverMonitor.exe」
  - HPODDCoverMonitorサービスを有効または無効のどちらにする場合でも、操作を実行するにはサービスを再起動する必要があります。

## 9.11 HPポールディスプレイ

質問： 非OPOSテストユーティリティを実行すると、実行時エラーメッセージが表示されます。



回答： このエラーは、ユーティリティとポールディスプレイが通信できない場合に発生します。ポールディスプレイで以下の点を確認してください。

- ポールディスプレイが本体に接続されている。
- Windowsの[デバイスマネージャー]でポールディスプレイ用のドライバーがインストールされている。
- ポールディスプレイの電源スイッチが入っている。

## 9.12 [HP OPOS Logical Device Name] (HP OPOS論理デバイス名) ユーティリティ

質問： ユーティリティを開いたときに、OPOSドライバーが検出されなかったことを示すメッセージが表示されます。この問題を解消するにはどうすればよいですか。



回答： POSアプリケーションでOPOSドライバーが使用されているかどうかを確認してください。アプリケーションでOPOSドライバーが使用されている場合、HP製周辺機器のOPOSドライバーは[HP.COM](http://HP.COM)のWebサイトから入手できます。

### 9.13 HP ap5000 VFD

質問： VFDを接続するための初期設定のコネクタはどれですか。

回答： 工場から出荷されるap5000 VFDは、シリアルポート2（COM2）に接続されて出荷されます。

質問： VFDはCOM2以外のCOMコネクタでも使用できますか。

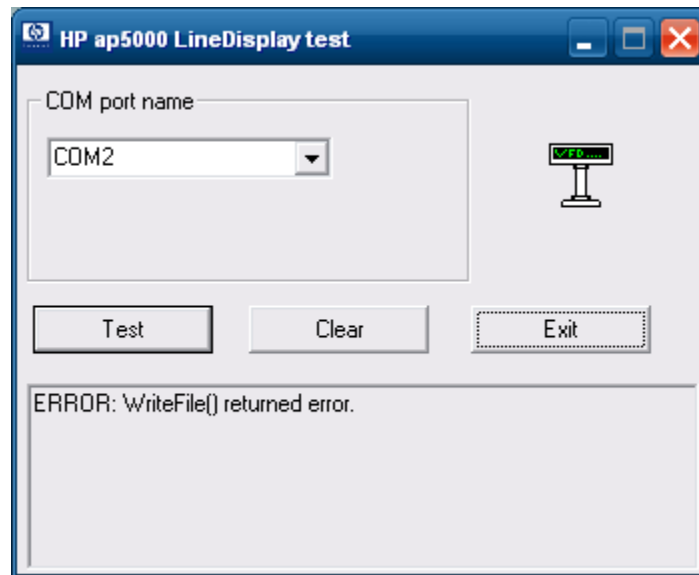
回答： はい。VFDはCOM1でもCOM2でも使用できます。ただし、電源条件のため、COM3に接続することはできません。

質問： VFDはエミュレーションモードをサポートしていますか。

回答： サポートされているエミュレーションモードはありませんが、Epsonエミュレーションモードで使用されているものと同じESCコマンドが多く使用されています。

### 9.14 HP ap5000 VFD (非OPOS)

質問： [Test]（テスト）ボタンを選択すると、「WriteFile」のエラーが表示されます。このエラーを解消するにはどうすればよいですか。



回答： このエラーは、本体に接続されたap5000 VFDをユーティリティが検出できないことを示します。以下の点を確認してください。

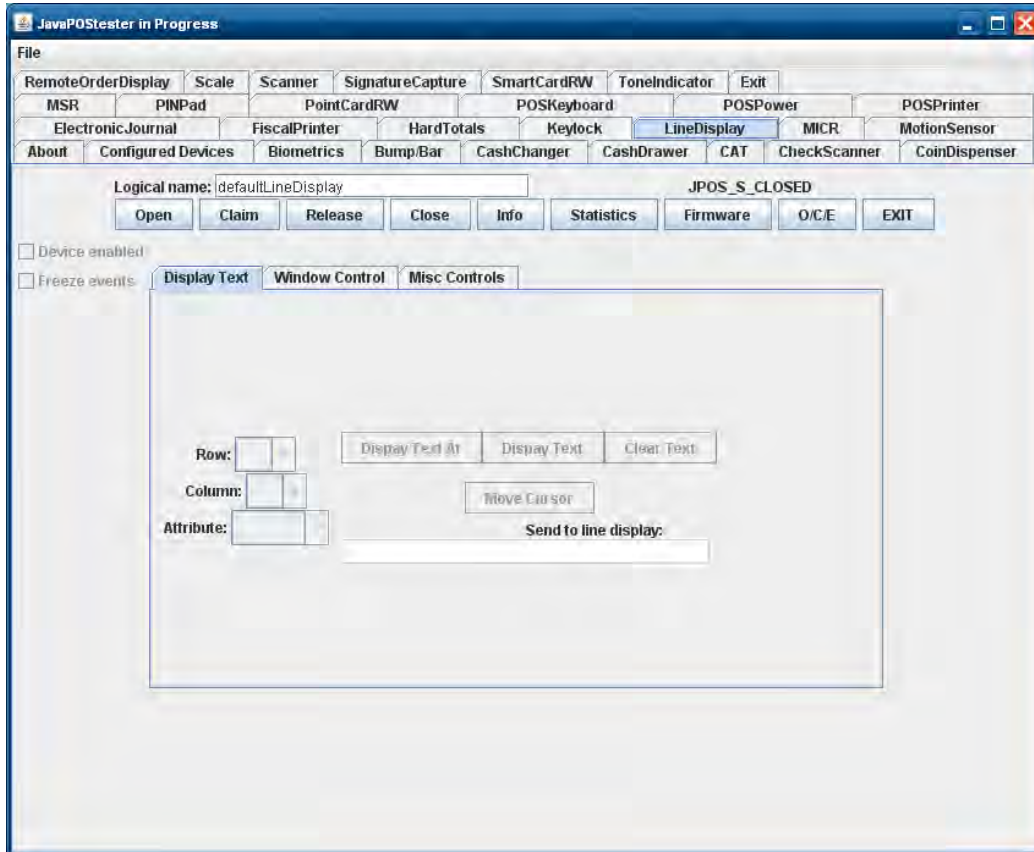
1. ap5000 VFDが本体に接続されている。
2. ap5000 VFDがCOM1またはCOM2に接続されている。



- BIOSで、VFDが接続されているコネクタ（COM1またはCOM2）の電源が[Standard Mode]（標準モード）ではなく[5V]に設定されている。シリアルポートの電源を有効にする方法について詳しくは、「[HP ap5000 VFDのBIOS電源設定](#)」セクションを参照してください。

## 9.15 HP ap5000 VFD (JPOS)

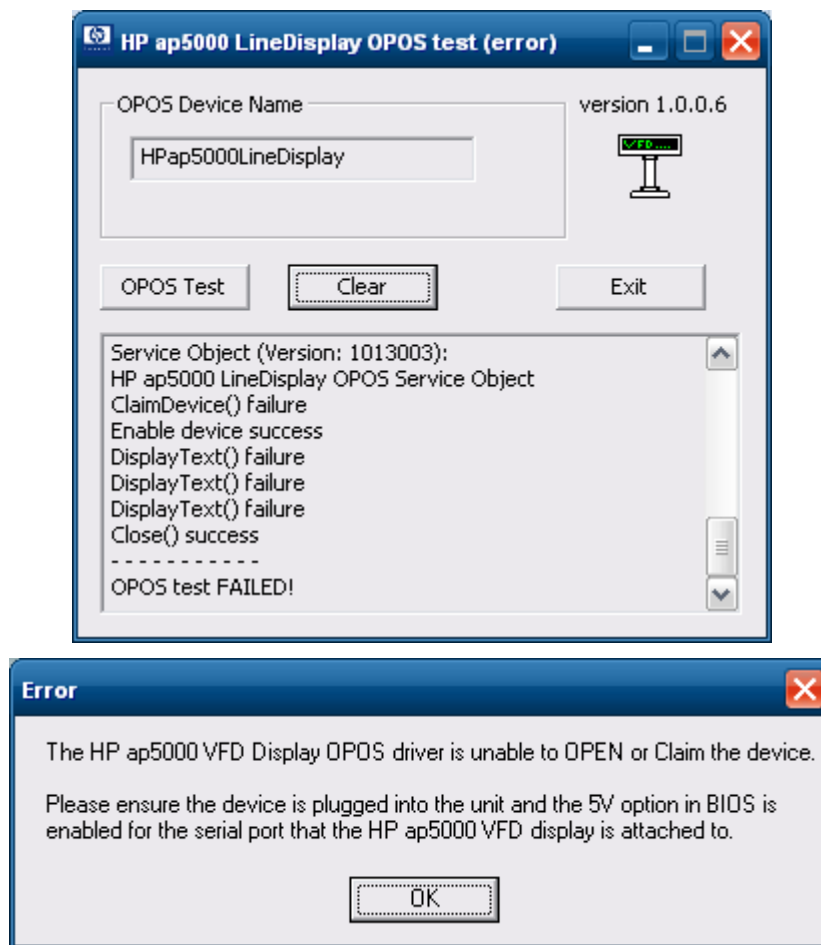
**質問：** JPOSテストユーティリティで、表示された初期設定名を使用して[Open]（開く）ボタンをクリックすると、失敗のメッセージが表示されます。このエラーを解消するにはどうすればよいですか。



**回答：** デバイスの論理名は「HPap5000LineDisplay」です。[Logical name]（論理名）ボックスに表示される「defaultLineDisplay」を「HPap5000LineDisplay」に変更します。[Configured Device]（設定済みデバイス）タブをクリックすると、テストユーティリティで 사용되는デバイスの名前が表示されます。

## 9.16 HP ap5000 VFD (OPOS)

**質問：** OPOSテスト ユーティリティを開くと、[FAILED] (失敗) を示すエラーが表示されます。このエラーを解消するにはどうすればよいですか。



**回答：** このエラーは、本体に接続されたap5000 VFDをユーティリティが検出できないことを示します。以下の点を確認してください。

1. ap5000 VFDが本体に接続されている。
2. ap5000 VFDがCOM1またはCOM2に接続されている。
3. BIOSで、VFDが接続されているコネクタ (COM1またはCOM2) の電源が[Standard Mode] (標準モード) ではなく[5V]に設定されている。シリアルポートの電源を有効にする方法について詳しくは、「[HP ap5000 VFDのBIOS電源設定](#)」セクションを参照してください。

**質問：** VFDの制御用にOPOSを使用するPOSアプリケーションを終了するときに、VFDに何も表示されません。カスタマイズした電源投入時メッセージがVFDに表示されるようにしたいのですが、できるでしょうか。

**回答：** 終了時のOPOSドライバーの初期設定の動作は、画面をクリアすることです。POSアプリケーションの終了時に電源投入時メッセージを表示させるには、レジストリ キーの値をポール ディスプレイ用に変更する必要があります。変更が必要なレジストリ キーの値は「HKLM¥Software¥OLEforRetail¥ServiceOPOS¥LineDisplay ¥HPap5000LineDisplay」です。

## 9.17 HP ap5000 MSR

**質問：** MSRを接続するのはどのコネクタでしょうか。

**回答：** 工場から出荷されるap5000 MSRは、COM4で出荷されます。

**質問：** [メモ帳]を開いてカードをスワイプしても、[メモ帳]に何も表示されません。なぜでしょう。

**回答：** ap5000 MSRはシリアルポートに接続されており、USB HIDキーボード (Wedge) デバイスではありません。  
[メモ帳]にデータを表示させるには、シリアルポートからデータを読み込み、キーボードを通じて送信するサードパーティユーティリティを使用しなければならない場合があります。Windows XP/WePOS/POSReadyの場合は、有効化できるシリアルキーオプションがあり、Windows Vista/Windows 7の場合は、サードパーティユーティリティを使用しなければなりません。  
ご使用のPOSアプリケーションが、シリアルキーオプションやサードパーティアプリケーションよりも好ましいシリアルMSRをサポートしているかご確認ください。

**質問：** 使用しているアプリケーションでは、トラック2の後にキャリッジリターンが必要です。トラック2の後にキャリッジリターンを追加するにはどうしたらよいですか。

**回答：** トラック2でキャリッジリターンを有効にするには、ap5000のMSR設定ユーティリティを使用できます。  
ap5000のMSR設定ユーティリティは、[HP.COM](http://HP.COM)または『HP Point of Sale Driver and Documentation CD』（HP Point of SaleドライバーおよびドキュメンテーションCD）から取得できます。

## 9.18 HP ap5000 MSR (JPOS/OPOS)

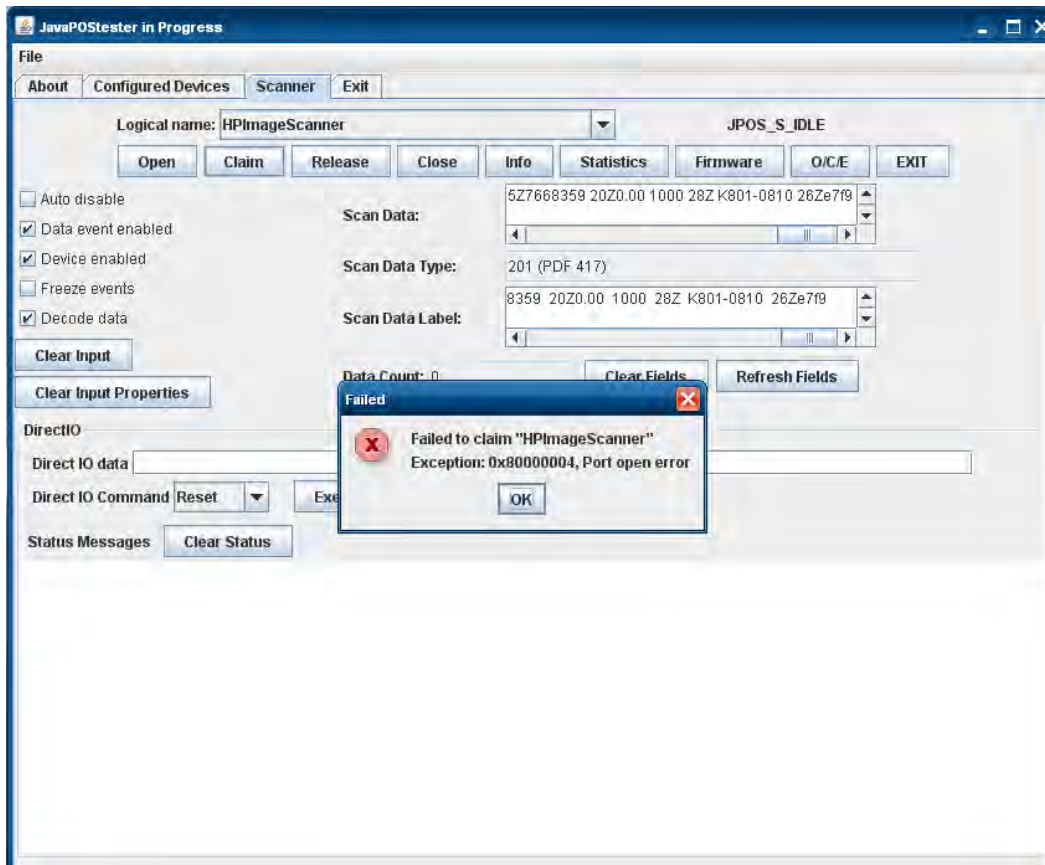
**質問：** Windowsの場合と異なり、MSR用のOPOS/JPOSを使用する場合にデバイス名以外は設定が不要なのはなぜですか。

**回答：**

- OPOSの場合、ドライバーがMSRに対する設定を認識し、適切なプロトコルで通信します。
- JPOSの場合、HPから提供される設定ファイルに、適切なプロトコル設定がすでに入っています。

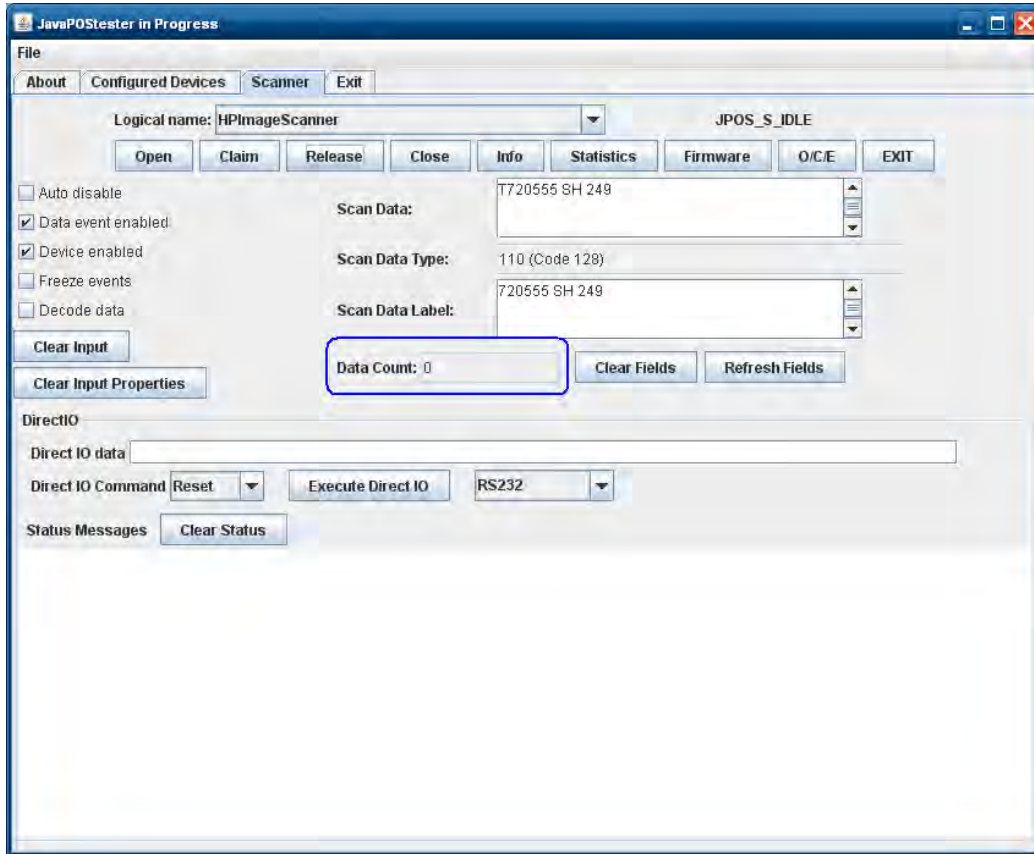
## 9.19 イメージング スキャナー : JPOS

質問 : JPOSユーティリティでHPイメージング スキャナーの要求をすると、要求が失敗したとのメッセージが表示されます。どのような原因が考えられるでしょうか。



回答 : このメッセージは、デバイスが解放された後、再度デバイスの要求を試みた場合に表示されます。デバイスを終了してから、再度デバイスを開いて要求する必要があります (詳しくは、[イメージング スキャナーのJPOS](#)のセクションを参照してください)。

質問： HPイメージング バーコード スキャナー用のJPOSテスト ユーティリティでは、何回スキャンしても[Data Count] (データカウント) が常にゼロ (0) となります。なぜでしょうか。



回答： JPOSユーティリティでは、イメージング スキャナー用のOPOSユーティリティの場合と異なり、JPOSユーティリティのセッション中にスキャンされたバーコードの数を記録するために[Data Count]フィールドを使用しません。

## 9.20 HPイメージングバーコードスキャナー

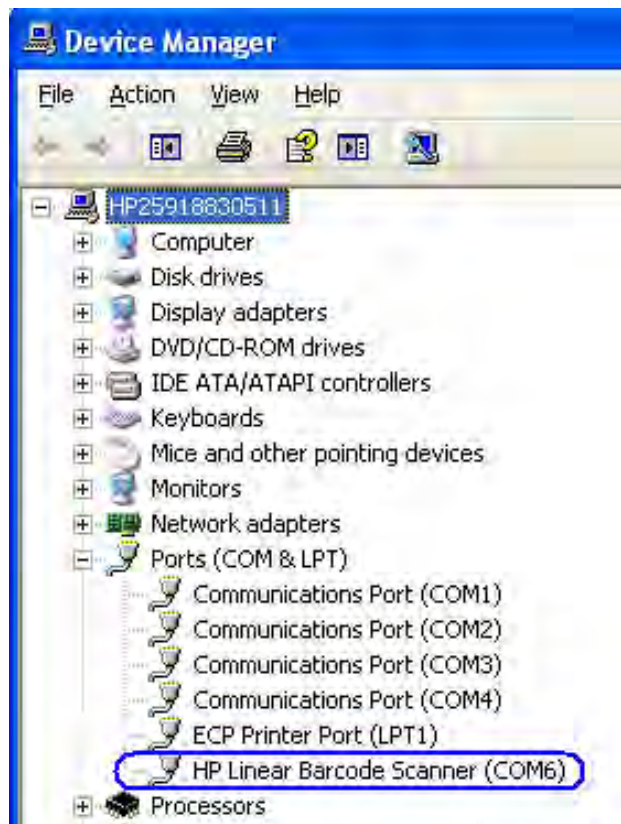
**質問：** [メモ帳]に入力した内容をスキャンすると、英語ではない意味のない文字列が表示されます。

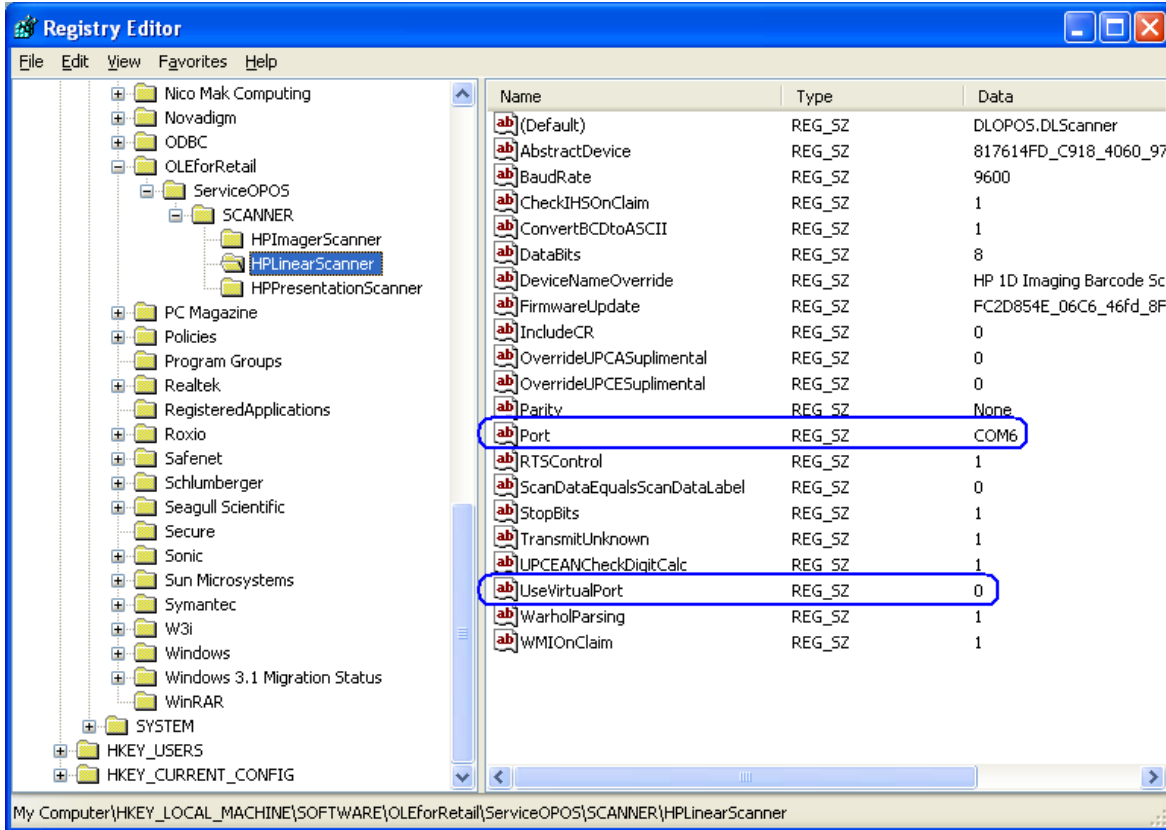
**回答：** イメージングバーコードスキャナーでは、「カントリーモード」を変更する必要があります。カントリーモードバーコードは、スキャナーのプログラミングガイドに記載されています。または、ユーティリティを使用し、これを設定ユーティリティの[Interface selection] (インターフェイス選択)にある[USB Keyboard parameter] (USBキーボードパラメーター)でスキャナー用に変更できます。

## 9.21 複数のHPバーコードスキャナー

**質問：** 複数のHPスキャナー (HPイメージングスキャナー/HPリニアスキャナー/HPプレゼンテーションスキャナー)を本体に取り付けたとき、OPOSテストユーティリティが1台のスキャナーしかテストしません。複数のスキャナー (HPイメージングスキャナー/HPリニアスキャナー/HPプレゼンテーションスキャナー)をOPOSにより本体で機能させるには、どうすればよいですか。

**回答：** OPOSドライバーを無効にして、スキャナーを検索するときに仮想コネクタを使用しないようにする必要があります。この機能が無効になると、OPOSドライバーはスキャナーに割り当てられたCOMコネクタを使用し、COMコネクタの設定をWindowsの[デバイスマネージャー]から取得できます。別のスキャナー (HPイメージングスキャナー/HPリニアスキャナー/HPプレゼンテーションスキャナー)用にこれらの設定を変更します。以下に、レジストリ内の変更を示します (スキャナーはCOM6に接続)。





## 9.22 HP指紋リーダー

**質問：**リーダーの正常な動作を保つには、清掃が必要なのでしょうか。

**回答：**推奨される清掃方法：

セロテープの粘着側をウィンドウに貼り付けてからはがします。必要に応じて、軽アンモニア系ガラスクリーナーで湿らせた布（紙ではない）でウィンドウをやさしく拭いて、曇りを取り除きます。

**以下の方法は、絶対に行わないでください。**

- リーダーウィンドウを紙で清掃する
- ガラスクリーナーを直接リーダーウィンドウに注ぐ
- アルコール系クリーナーを使用する
- リーダーを液体に浸す



## 9.23 HP RP7/RP3モニター

**質問：** RP7やRP3の本体のモニターが静電容量式または抵抗膜式のどちらのモニターであるかを調べるには、どうしたらよいですか。

**回答：** 静電容量式ディスプレイには、本体前面に同一平面ガラスを採用しています。一方、抵抗膜式ディスプレイには、タッチ部に外枠が付いています。



静電容量式



抵抗膜式

**質問：** Windows XPまたはPOSReady 2009環境で、デュアル静電容量式ディスプレイのセットアップで使用していますが、画面にタッチしたときに、2番目のモニターへのタッチがプライマリモニターに表示されます。

**回答：** [Multi-mouse-daemon] (マルチ-マウス-デーモン) ユーティリティを実行して、タッチ スクリーン用ドライバーにモニター情報を提供する必要があります。[Multi-mouse-daemon] (マルチ-マウス-デーモン) は、7.5.52.00以降のドライバー バージョンに含まれ、「/dual」パラメーターを指定してインストールする必要があります。

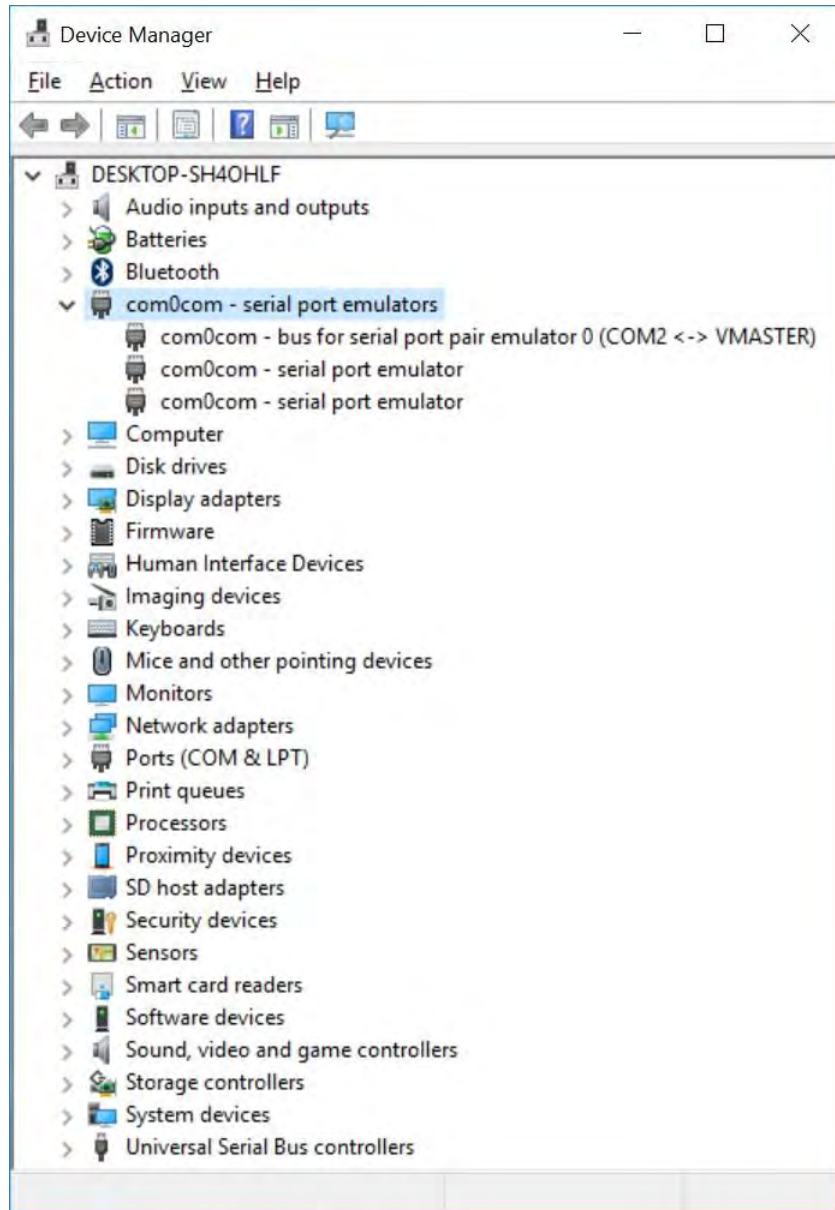
**質問：** Windows 7またはPOSReady 7環境で、デュアル静電容量式ディスプレイのセットアップで使用していますが、ある画面にタッチするとマウスカーソルが他の画面に現れます。

**回答：** Windows 7またはPOSReady 7環境は、プライマリおよびセカンダリのタッチ モニター用に設定する必要があります。「POSReady 7またはWindows 7でのデュアル モニター設定のタッチ機能」のセクションを参照してください。

## 9.24 HP ElitePadリテールジャケットバーコードスキャナー

**質問：** OPOS/JPOSがUSB-COMモードの場合、スキャナーが割り当てられているCOMコネクタを調べるには、どうしたらよいですか。

**回答：** Windowsの[デバイス マネージャー]を開き、[com0com - serial port emulators] (com0com - シリアルポートエミュレーター) デバイスを開き、割り当てられているCOMコネクタを確認します。



**注：** 上記のスクリーン キャプチャでは、スキャナーがCOM2として割り当てられていますが、お手元のシステムセットアップでは異なることがあります。

**質問：** JPOSで、[Open]（開く）ボタンをクリックしても何も表示されません。この問題を解消するにはどうすればよいですか。

**回答：** 方法はスキャナーの動作モードによって異なります。

- 1) HID-POSモードが使用されている場合は、以下の操作を行います。
  - i. jpos.xmlの「port」の値が「HID」に設定されていることを確認します。
- 2) USB COMモードが使用されている場合は、以下の操作を行います。
  - i. COMコネクタのドライバーがインストールされていることを確認します。
  - ii. jpos.xmlの「port」の値が「COM」に設定されていることを確認します。
  - iii. jpos.xmlの「portno」の値が、Windowsの[デバイス マネージャー]のCOMの番号と同じ値に設定されていることを確認します。



```
jpos - Notepad
File Edit Format View Help
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE JposEntries PUBLIC "-//JavaPOS//DTD//EN"
                                "jpos/res/jc1.dtd">

<JposEntries>

  <JposEntry logicalName="HPMobileScanner">
    <creation factoryClass="com.jpos.scanner.ScannerSvcInstanceFactory" serviceClass="com.jpos.scanner.ScannerSvc"/>
    <vendor name="HPScanner" url=""/>
    <jpos category="Scanner" version="1.13"/>
    <product description="Serial/USB Scanner" name="HPMobileScanner" url=""/>

    <!--
      -->
      <prop name="port" value="HID"/>
    <!-- The interface of Scanner, "HID" is HID POS Mode -->
    <prop name="port" value="COM"/>
    <prop name="portno" value="2"/>
    <!--See Scanner type define on the top-->
    <prop name="ScannerType" value="3"/>
    <!--Enable/disable the suffix code, default=0, close the suffix code-->
    <prop name="Suffix" value="0"/>
  </JposEntry>
</JposEntries>
```

## 9.25 HP 7インチCFD

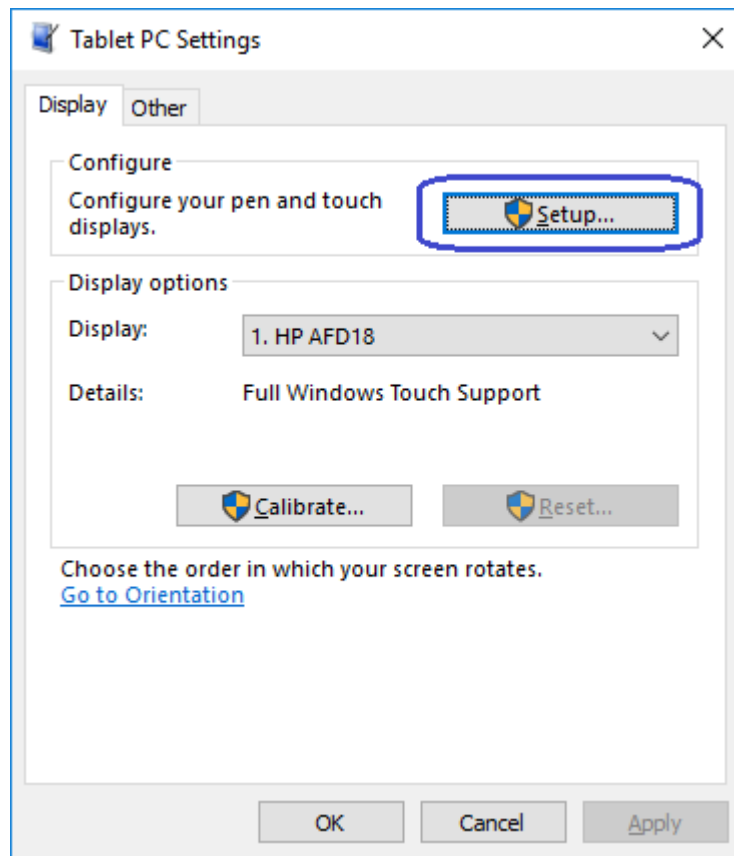
質問： このモニターのプロセッサ解像度を教えてください。

回答： HP 7インチCFDの固定ビデオ解像度は、1024 × 600です。

質問： システムにデュアルタッチ スクリーンが搭載されています。HP 7インチCFDを接続して2番目のモニターをタッチしても、応答がありません。

回答： 本体にHP 7インチCFDを接続する前に、複数のタッチ モニターを登録する必要があります。Windowsで複数のタッチ モニターを登録する手順を以下に示します。

1. [スタート]ボタンをクリックします。
2. 検索ボックスに「タブレットPC設定」と入力し、結果の一覧からこのオプションを選択します。
  - i. 古いオペレーティング システム (OS) では、この検索を[コントロール パネル]から実行することが必要な場合もあります。
3. [画面]タブで、[構成]の下にある[セットアップ]ボタンをクリックします。



4. 画面に表示されるメッセージに沿って操作します。

